

令和元事業年度 業務実績報告書

第17期（平成31年4月1日から令和2年3月31日まで）

令和2年7月

独立行政法人日本芸術文化振興会

目 次

令和元事業年度業務実績報告書

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	
1 文化芸術活動に対する援助	1
2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演	15
(1) 伝統芸能の公開	25
(2) 現代舞台芸術の公演	74
(3) 青少年等を対象とした公演	86
(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等	95
(5) 快適な観劇環境の形成	110
(6) 広報・営業活動の充実	126
(7) 劇場施設の使用効率の向上等	146
(8) 日本博の運営・実施	149
3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修	154
(1) 伝統芸能の伝承者の養成	160
(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修	175
4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	182
(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	187
(2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	203
II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	211
III 予算、収支計画及び資金計画	219
IV その他業務運営に関する重要事項	233

令和元事業年度評価報告書

はじめに

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	
1 文化芸術活動に対する援助	1
2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演	
<1> 伝統芸能の公開	2
<2> 現代舞台芸術の公演	6
<3> 日本博の運営・実施	10
3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修	
<1> 伝統芸能の伝承者の養成	11
<2> 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修	12
4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	
<1> 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	13
<2> 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	14
II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	14
III 予算、収支計画及び資金計画	15
IV その他業務運営に関する重要事項	16
独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会委員名簿	18
独立行政法人日本芸術文化振興会評議員会規則	19
独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会要項	20

令和元事業年度業務実績報告書

第17期（平成31年4月1日から令和2年3月31日まで）

令和2年7月

独立行政法人日本芸術文化振興会

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の 質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 文化芸術活動に対する援助

1 文化芸術活動に対する援助	p.1
(1) 助成金の交付	p.5
(2) 助成に関する情報等の収集及び提供	p.12
(3) 基金の管理運用	p.13

1 文化芸術活動に対する援助

《中期計画の概要》

1 文化芸術活動に対する援助

(1) 助成金の交付

ア 次に掲げる活動に対する助成金の交付

- ① 芸術家及び芸術に関する団体が行う芸術の創造又は普及を図るための活動
- ② 文化施設において行う活動又は文化財を保存・活用する活動で地域の文化の振興を目的とするもの
- ③ 文化に関する団体が行う公演及び展示、文化財である工芸技術の伝承者の養成、文化財の保存のための伝統的な技術又は技能の伝承者の養成その他の文化の振興又は普及を図るための活動

イ 助成金交付事務の効率化等

- ① 審査方法等選考に関する基準の策定及び事前公表
- ② 助成の成果等に対する評価等を踏まえた客観性・透明性の高い審査
- ③ 助成対象活動の実施状況の調査
- ④ 助成対象分野の現状等の調査
- ⑤ 地方公共団体との連携協力の推進
- ⑥ 情報通信技術等を活用した申請手続き等の合理化

ウ 資金運用収入予測を踏まえ、芸術文化振興基金及び同基金を原資とした助成事業の将来構想の検討

エ アーツカウンシルとしての機能強化及び地域版アーツカウンシル・文化庁等との連携推進

オ 助成事業によって得られた成果等の活用に関する検討

(2) 助成に関する情報等の収集及び提供

文化芸術活動への支援に関する情報収集、提供

(3) 芸術文化振興基金の安全かつ安定した管理運用

《年度計画の概要》

1 文化芸術活動に対する援助

(1) 助成金の交付

ア 次に掲げる活動に対する助成金の交付

- ① 芸術家及び芸術に関する団体が行う芸術の創造又は普及を図るための活動
- ② 文化施設において行う活動又は文化財を保存・活用する活動で地域の文化の振興を目的とするもの
- ③ 文化に関する団体が行う公演及び展示、文化財である工芸技術の伝承者の養成、文化財の保存のための伝統的な技術又は技能の伝承者の養成その他の文化の振興又は普及を図るための活動

イ 助成金交付事務の効率化等

- ① 審査基準の策定及び事前公表
- ② 専門委員・専門調査員、PD・PO による助成の成果等に対する調査・事後評価・次年度の審査への活用
- ③ 職員・PD・PO による助成対象活動の実施状況等の調査及び意見交換の実施
会計調査:90 件以上(団体数) 公演等調査:540 件以上(助成対象件数)
- ④ PD・PO の体制強化及び調査研究の実施
- ⑤ 地域の文化振興等の活動に関する地方公共団体との連携協力
- ⑥ 手続の合理化のためのシステム更改に向けた設計・構築作業

ウ 基金及び基金助成事業の将来の在り方の検討

エ 文化庁連携による PD・PO を活用した審査・評価の仕組みの検討及び地域版アーツカウンシル等との連携

オ 助成事業成果等の振興会の他事業への活用

(2) 助成に関する情報等の収集及び提供

ア 文化芸術活動への支援に関する情報収集、提供

イ 振興会の助成事業に関するホームページ上の情報の充実、事例集の作成・配布・ホームページ掲載

ウ 募集情報のホームページへの掲載、ポスター配布等

エ 応募相談会の開催

応募相談会実施件数:300 件以上(団体数)

(3) 芸術文化振興基金の管理運用

《中期目標の指標・関連指標》

1-1 効果的な助成が行われたか。 (評議員会の評価を踏まえ判断)	
1-2 助成金の交付状況	P. 5 に掲載
1-3 公演等調査件数 (前中期目標期間実績の維持)	671 件 (H25-29 実績平均 : 488.4 件)
1-4 会計調査件数 (前中期目標期間実績の維持)	96 件 (H25-29 実績平均 : 96.4 件)
1-5 プログラムディレクター・プログラムオフィサーと芸術団体等との意見交換会及び応募相談会の実施件数 (前中期目標期間実績以上)	意見交換会 : 125 件 (H28-29 実績平均 : 136.5 件) 応募相談会 : 381 件 (H28-29 実績平均 : 270.0 件)
1-6 文化芸術活動に対する援助について、目標に従い業務を実施しているか (評議員会の評価を踏まえ判断)	
1-A 芸術文化振興基金の運用状況や資金の受入状況	P. 13 に掲載

自己評定	B
<p>自己評定の根拠</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての数値目標を達成。 ・舞台芸術創造活動活性化事業について、芸術団体が将来を見据えた戦略的な活動計画を立て、運営基盤の強化が図られるよう、入場料収入や寄付金収入等多様な収入の増加努力を促す仕組みを導入した3年間の活動を継続して助成する複数年計画支援を創設したほか、新たな団体の参入を促すため、公演事業支援においては、実績要件の緩和や法人設立から期間の短い団体のみが応募可能なステップアップ枠の創設を行うなど、文化庁の要請を踏まえて事業を大幅に見直し、令和2年度概算要求において増額が認められたことから、助成金額は前年度比42百万円増となった。 ・舞台芸術創造活動活性化事業の事後評価について、PDCAの円滑な循環に資する、より効果的な評価の実現と業務の効率化の観点から、評価方法の見直しを行い、5月に開催した4ジャンルの専門委員会において新たな評価方法が承認された。新たな評価方法に従い、6月にかけて各専門委員会で書面評価・合議評価を行った。 ・今年度初めて、劇場・音楽堂等機能強化推進事業の評価を行った。劇場・音楽堂等機能強化総合推進事業においては「中間評価」を行い、地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業及び共同制作支援事業においては「事後評価」を行った。評価は、専門委員、PD・POが公演等調査(活動調査、ヒアリング調査)を行い作成した公演等調査報告書、取得したエビデンス、劇場等から提出された自己点検(成果)報告書及び実績報告書に基づき行うこととし、その評価の方法及び評価基準については、7月に開催した文化施設公演活動等専門委員会において承認された。その後、8月にかけて同専門委員会第一分科会で書面評価、合議審査を行った。中間評価では、評価コメントが作成され、5年間継続して助成することが適当か継続の可否について評価を行った。「事業評価」については、評価コメントを作成するとともに、採択審査時の評点を基礎として増減を行い評点の評価を行った。 ・今年度初めて、国際芸術交流支援事業について日本国内で実施する活動に限り、平成31年度助成対象事業分から新たに公演等調査を実施した。 ・文化芸術推進基本計画(平成30年3月閣議決定)を踏まえ、全国に所在するアーツカウンシル機能(専門家による助言、審査、評価、調査研究等に関する機能)を有する組織と振興会が相互の連携強化を図ることを目的に、7月5日にレクチャー室で第1回ネットワークミーティングを開催し、「アーツカウンシル・ネットワーク」を設置した。 ・「オーストラリアの文化芸術活動に対する助成システム等に関する実態調査」において、令和元年12月に現地調査を実施した後、現地調査のヒアリング内容や提供資料について分析を行うとともに、随時、ヒアリング団体にメールにて追加調査を行い、得られた調査結果の整理を進めた。また、「フランスにおける映画振興に対する助成システム等に関する実態調査」について、令和2年2月に特定非営利活動法人映像産業振興機構と委託契約締結後、初回打合せにて本調査の事業計画を確認するとともに、文献資料の分析に着手した。 ・令和2年2月26日に政府より新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、大規模イベントの中止、延期又は規模縮小等の要請があったことを受け、2月26日から3月31日までの間に実施または実施予定であった助成対象団体に対し、3月6日に振興会助成事業に係る対応方針の通知を発出し、活動の令和2年度への延期を認めるよう配慮したほか、中止した活動については、中止決定時まで必要経費やキャンセル料等を助成対象として助成を行うなど、助成対象団体の負担軽減に努めた。
<p>数値目標の達成状況 実績/目標(達成率)</p>	<p>会計調査の実施状況：96件/90件以上(106.7%) 公演等調査の実施状況：671件/540件以上(124.3%) 応募相談会実施件数：381件/団体数300件以上(127.0%)</p>

<p>主要な業務実績</p>	<p>(1) 助成金の交付 基金による助成金：交付件数 599 件、助成金交付額 952,081 千円 補助金による助成金：交付件数 598 件、助成金交付額 6,578,295 千円</p> <p>(2) 助成に関する情報等の収集及び提供 31 年度アクセス件数：256,513 件（うち芸術文化振興基金 HP234,497 件、劇場・音楽堂等機能強化推進事業 HP：22,116 件）</p> <p>(3) 芸術文化振興基金の安全かつ安定した管理運用 基金運用益：1,107,637 千円（利回り 1.59%） 芸術文化振興基金への寄附：7 件、600,540,000 円 （30 年度実績 14 件、600,488,889 円、51,111 円の増）</p>
<p>課題と対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 基金運用収入の将来見込みを踏まえ、補助金による助成事業との役割分担にも留意しつつ、効果的かつ効率的な支援の方策を含めた基金及び基金助成事業の将来の在り方について検討し、令和 2 年度中に方針を固め、令和 4 年度分から新制度による芸術文化振興基金助成対象活動を募集できるよう準備を進める。 • 国際芸術交流支援事業について、公演等調査の結果を踏まえ、初めての評価を行い、その結果を次年度の助成対象活動の採択のための審査等に活用する。 • 地域におけるアーツカウンシル機能を有する組織との連携を推進するための「アーツカウンシル・ネットワーク」や「情報プラットフォーム」を活用し、機関相互の情報交換やノウハウ等を共有するとともに、人的交流について検討する。 • 海外における公的助成システムの実態調査を行うなど、文化芸術に対する支援策等をより有効に機能させる上で必要となる調査研究を引き続き実施する。

(1) 助成金の交付

ア 助成金の交付

① 令和元年度助成金の交付実績

(a) 基金による助成金

助成対象分野		応募件数 (件)	採択件数 (件)	助成金交付予定額 (千円)	交付件数 (件)	助成金交付額 (千円)
芸術創造普及活動	現代舞台芸術創造普及活動	506	261	515,682	256	499,338
	音楽	101	55	159,950	54	154,245
	舞踊	81	36	60,864	36	60,495
	演劇	324	170	294,868	166	284,598
	伝統芸能の公開活動	58	26	48,938	26	48,418
	美術の創造普及活動	11	6	9,750	6	9,750
	多分野共同等芸術創造活動	38	16	17,339	14	15,383
小計		613	309	591,709	302	572,889
創映像活動芸術	国内映画祭等の活動	63	39	74,942	38	73,010
	国内映画祭等	44	23	51,880	22	49,964
	日本映画上映活動	19	16	23,062	16	23,046
	小計	63	39	74,942	38	73,010
地域文化振興活動	地域文化施設公演・展示活動	280	144	211,504	140	201,431
	文化会館	130	72	93,736	70	88,253
	美術館等展示	132	72	117,768	70	113,178
	歴史的集落・町並み、 文化的景観保存活用活動	4	4	4,053	4	3,981
	民俗文化財の保存活用活動	31	23	22,653	23	21,353
	小計	297	171	238,210	167	226,765
普及文化振興活動	アマチュア等の文化団体活動	161	87	72,737	83	65,393
	伝統工芸技術・文化財保存技術の保存伝承等活動	19	9	14,522	9	14,024
	小計	180	96	87,259	92	79,417
合計		1,226	615	992,120	599	952,081

(b) 補助金による助成金

助成対象分野		応募件数 (件)	採択件数 (件)	助成金交付予定額 (千円)	交付件数 (件)	助成金交付額 (千円)
活動活性化事業	音楽	146	107	1,791,347	107	1,776,427
	舞踊	48	35	598,357	35	574,206
	演劇	141	84	670,082	84	664,368
	伝統芸能	32	29	84,008	25	79,677
	大衆芸能	11	10	118,556	10	117,320
	小計	378	265	3,262,350	261	3,211,998
事業	海外公演	57	26	384,130	26	375,243
	国際共同制作公演(海外公演)	8	3	23,010	3	20,234
	国際共同制作公演(国内公演)	6	3	33,774	3	33,477
	国際フェスティバル	8	4	158,813	4	158,813
	小計	79	36	599,727	36	587,767
機能強化推進事業	劇場・音楽堂等機能強化 総合支援事業	16	16	832,657	16	819,673
	地域の中核劇場・音楽堂等 活性化事業	268	204	1,264,603	204	1,200,917
	共同制作支援事業	2	2	108,426	2	108,394
	劇場・音楽堂等間 ネットワーク強化事業	62	44	301,027	43	272,595
	小計	348	266	2,506,713	265	2,401,579

への支援 映画製作	劇映画	66	22	313,000	20	285,370
	記録映画	29	14	69,000	13	67,200
	アニメーション映画	8	3	22,400	3	24,380
	小計	103	39	404,400	36	376,950
合計		908	606	6,773,190	598	6,578,295

② 令和2年度助成対象活動の採択に係る審査の状況

(a) 審査の実施

運営委員会、4部会及び14専門委員会において、以下のとおり審査を行った。

《審査の経過》

9月27日	第51回運営委員会 令和2年度の助成対象活動募集案内の内容等を了承。
11月1日～11日	令和2年度助成事業 応募受付期間（映画関連は11月15日～21日）
12月上旬～中旬	専門委員会 書面及び合議審査に先立ち、審査の方法等について審議・決定。
12月下旬～2月上旬	各専門委員による応募活動1件ごとの書面審査。
1月24日	第52回運営委員会 応募状況についての報告、助成金の分野別配分予算案について決定。
1月下旬～3月上旬	専門委員会 書面審査の結果を踏まえた合議審査を行い、助成対象活動を選定。
3月上旬～中旬	部会 助成対象活動及び助成金交付予定額を審議。
3月25日	第53回運営委員会 ※持ち回り審議 助成対象活動及び助成金交付予定額を決定し、理事長に答申。

■運営委員会

第51回：9月27日、第52回：1月24日、第53回：3月25日（持ち回り審議完了、同日答申）

■舞台芸術・美術等部会（2回開催・1月、3月）

- ・音楽専門委員会（2回開催・12月、2月）
- ・舞踊専門委員会（2回開催・12月、2月）
- ・演劇専門委員会（3回開催・12月、2月（第1分科会1回、第2分科会1回））
- ・伝統芸能・大衆芸能専門委員会（2回開催・12月、2月）
- ・美術専門委員会（2回開催・12月、2月）
- ・多分野共同等専門委員会（2回開催・12月、2月）

■映像芸術部会（3回開催・8月、1月、3月）

- ・劇映画専門委員会（3回開催・8月、12月、2月）
- ・記録映画専門委員会（3回開催・8月、12月、2月）
- ・アニメーション映画専門委員会（3回開催・8月、12月、2月）
- ・映画祭等専門委員会（3回開催・8月、12月、2月）

■地域文化活動部会（2回開催・12月、3月）

- ・文化施設公演活動等専門委員会（3回開催・12月、2月（第2分科会1回）、3月（第1分科会1回））
- ・文化施設展示活動専門委員会（2回開催・12月、2月）
- ・文化団体活動専門委員会（2回開催・11月、2月）

■文化財部会（1回開催・3月）

- ・文化財保存活用専門委員会（2回開催・11月、2月）

③ 令和2年度助成対象活動及び助成金交付予定額等の公表

- ・令和2年度の基金及び補助金による助成対象活動及び助成金交付予定額等について、審査に当たった委員の氏名及び審査の方法等と併せ、ホームページ等において令和2年3月31日付けで公表。助成対象分野別の応募件数、採択件数及び助成金交付予定額については以下のとおり。

(a) 基金による助成金

助成対象分野		応募件数(件)	採択件数(件)	助成金交付 予定額 (千円)
芸術創造普及活動	現代舞台芸術創造普及活動	456	263	518,598
	音楽	(96)	(57)	(160,637)
	舞踊	(66)	(34)	(60,403)
	演劇	(294)	(172)	(297,558)
	伝統芸能の公開活動	49	28	49,052
	美術の創造普及活動	29	7	11,655
	多分野共同等芸術創造活動	41	16	18,243
小計		575	314	597,548
創映像芸術活動	国内映画祭等の活動		27	54,325
	国内映画祭等	28	20	50,030
	日本映画上映活動	9	7	4,295
小計		37	27	54,325
地域興活動化	地域文化施設公演・展示活動	256	150	227,409
	文化会館	(138)	(89)	(108,949)
	美術館等展示	(118)	(61)	(118,460)
	歴史的集落・町並み、文化的景観保存活用活動	9	7	5,878
	民俗文化財の保存活用活動	21	17	11,571
小計		286	174	244,858
団体振興文化普及活動	アマチュア等の文化団体活動	160	84	77,227
	伝統工芸技術・文化財保存技術の保存伝承等活動	13	9	14,594
	小計	173	93	91,821
合計		1,071	608	988,552

※国内映画祭等の活動には、第2回募集分は含まれていない。

(b) 補助金による助成金

助成対象分野		応募件数(件)	採択件数(件)	助成金 交付予定額 (千円)
舞台芸術創造活動 活性化事業	複数年計画支援	47	21	1,590,666
	公演事業支援 [一般枠]	367	181	1,656,139
	公演事業支援 [ステップアップ枠]	18	10	59,028
	小計	432	212	3,305,833
国際芸術交流 支援事業	海外公演	43	22	330,728
	国際共同制作公演(海外公演)	3	1	19,047
	国際共同制作公演(国内公演)	12	7	40,919
	国際フェスティバル	7	5	227,169
	小計	65	35	617,863
劇場・音楽堂等 機能強化 推進事業	劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業	16	16	788,261
	地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	262	174	1,203,635
	共同制作支援事業	2	2	102,508
	劇場・音楽堂等間ネットワーク強化事業	48	31	252,635
	小計	328	223	2,347,039
映画製作 への支援	劇映画	36	9	124,000
	記録映画	10	6	31,500
	アニメーション映画	6	4	27,300
	小計	52	19	182,800
合計		877	489	6,453,535

※映画製作への支援には、第2回募集分は含まれていない。

イ 助成金交付事務の効率化等

①審査基準の策定及び事前公表

- ・ 応募受付(11/1～11、11/15～21)に先駆け、募集案内をホームページに掲載するとともに審査基準の公表を行った。

②専門委員・専門調査員、PD・POによる助成の成果等に対する調査・事後評価・次年度の審査への活用

■舞台芸術創造活動活性化事業

- ・ 舞台芸術創造活動活性化事業の事後評価について、PDCA の円滑な循環に資する、より効果的な評価の実現と業務の効率化の観点から、評価方法の見直しを行い、5月に開催した4ジャンルの専門委員会において新たな評価方法が承認された。新たな評価方法に従い、6月にかけて各専門委員会で書面評価・合議評価を行った。
- ・ 平成31年度事業分の全助成対象活動について、専門委員、専門調査員、PD・PO及び文化芸術活動調査員により、公演等調査を行った。

■国際芸術交流支援事業

- ・ 国際芸術交流支援事業については、日本国内で実施する活動に限り、平成31年度助成対象事業分から新たに公演等調査を実施した。
- ・ 平成30年度中に部会で決定した事後評価の方針に則り、評価において使用する書式等、具体的な実施方法を定め、初の評価に向けて準備を進めた。

■劇場・音楽堂等機能強化推進事業

- ・ 今年度初めて、劇場・音楽堂等機能強化推進事業の評価を行った。劇場・音楽堂等機能強化総合推進事業においては「中間評価」を行い、地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業及び共同制作支援事業においては「事後評価」を行った。評価は、専門委員、PD・POが公演等調査(活動調査、ヒアリング調査)を行い作成した公演等調査報告書、取得したエビデンス、劇場等から提出された自己点検(成果)報告書及び実績報告書に基づき行うこととし、その評価の方法及び評価基準については、7月に開催した文化施設公演活動等専門委員会において承認された。その後、8月にかけて同専門委員会第一分科会で書面評価、合議審査を行った。中間評価では、評価コメントが作成され、5年間継続して助成することが適当か継続の可否について評価を行った。「事業評価」については、評価コメントを作成するとともに、採択審査時の評点を基礎として増減を行い評点の評価を行った。
- ・ 平成31年度事業分の助成対象活動については、専門委員、PD・POにより公演等調査を行った。公演等調査は劇場・音楽堂等機能強化総合推進事業及び、共同制作支援事業については全助成対象活動、地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業については抽出された20施設において実施した。

《「舞台芸術創造活動活性化事業」事後評価の経過》

5月上旬～中旬	専門委員会 事後評価の方法及び評価基準等について審議・決定。 PD・POが評価コメント素案を作成。
5月中旬～6月中旬	各専門委員による評価コメントの素案等により書面評価を実施。
5月下旬～6月下旬	専門委員会 評価コメントの素案を基に合議により評価を実施。
7月18日	舞台芸術・美術等部会 各専門委員会の評価の結果について審議・決定。
9月27日	第51回運営委員会 事後評価の結果を報告。

《「劇場・音楽堂等機能強化推進事業」評価の経過》

6月中旬～7月中旬	PD・POおよび事務方が評価コメント素案を作成。
7月2日	平成31年度第3回専門委員会 評価の方法及び評価基準等について審議・決定。
7月5日～26日	各専門委員が評価コメント素案、評点により書面評価を実施

8月5日	平成31年度第4回専門委員会 評価コメント素案、評点を基に合議により評価を実施。
8月27日	平成31年度第3回地域文化活動部会 各専門委員会の評価の結果について審議・決定。
9月27日	第51回運営委員会 評価の結果を報告

③職員・PD・POによる助成対象活動の実施状況等の調査及び意見交換の実施

- ・助成金に係る会計処理が適切であったかどうかを確認するため基金部事務職員による会計調査を実施。

区分		実績	不採択その他の活動の調査含む	年度計画	達成率
会計調査	団体数	96件	96件	90件以上	106.7%
	助成対象活動数	237活動	—	—	—

- ・助成対象活動について、専門委員、専門調査員、PD・PO及び文化芸術活動調査員による公演等調査を実施。「舞台芸術創造活動活性化事業」については31年度の全助成対象活動について調査を、「国際芸術交流支援事業」については、国内で開催される事業に限り、実施。
「劇場・音楽堂等機能強化推進事業」については、助成対象活動を視察して個々の活動状況を確認する「活動調査」と、劇場・音楽堂等の担当者へ聞き取りを行い、その実態と成果の確認を行う「ヒアリング調査」を実施。

区分		実績	不採択その他の活動の調査含む	年度計画	達成率
公演等調査	助成対象件数	671件	—	540件以上	124.3%
	延べ調査回数	1,399回	—	—	—
	(内訳)				
	舞台芸術創造活動活性化事業				
	助成対象件数	408件	408件	—	—
	延べ調査回数	1,024回	—	—	—
	劇場・音楽堂等機能強化推進事業				
	助成対象件数	67件	—	—	—
	活動調査	123回	—	—	—
	ヒアリング調査	20回	—	—	—
	国際芸術交流支援事業				
	助成対象件数	8件	—	—	—
	活動調査	30回	—	—	—
	基金による助成(創造普及149、地域文化39)				
助成対象件数	188件	188件	—	—	
延べ調査回数	202回	—	—	—	

- ・舞台芸術創造活動活性化事業について、7/17の舞台芸術・美術等部会で評価を決定し、7/25～9/24まで、意見交換会(事後評価の伝達、意見交換、助言)を実施した。対象団体126件、実施件数126件。

		音楽	舞踊	演劇	伝統芸能	大衆芸能	計
意見交換	団体数	41件	17件	45件	14件	8件	125件
	助成対象活動数	111件	35件	90件	29件	12件	277件

- ・劇場・音楽堂等機能強化推進事業について、8/27の地域文化活動部会で評価を決定し、9/5～9/25まで、意見交換会(評価の伝達、意見交換、助言)を実施した。対象団体28件。

事業別	評価の種別	団体数	助成対象活動数 (事業数)
劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業	中間評価	12* ¹	12 (201)
地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	事後評価	13	34 (150)
共同制作支援事業	事後評価	3	3 (3)
計		28	49 (354)

*1 「総合支援」の評価に関しては、助成団体 16 団体のうち、5 年採択の 12 団体について中間評価を実施し、3 年採択の 4 団体については、今回、評価を実施しない(令和 2 年度に最終年度評価を実施する予定)。

④PD・PO の体制強化及び調査研究

(a) PD・PO の体制強化

- 平成 31 年 4 月 1 日付で、音楽 P01 名、伝統芸能・大衆芸能 P01 名を採用。4 月末で音楽 P01 名及び伝統芸能・大衆芸能 PD1 名が任期満了により退任。伝統芸能・大衆芸能 P01 名が 5 月 1 日付で PD に昇任。
- 令和 2 年 3 月末日現在、PD・PO の配置は以下のとおり。

分野	PD	PO	計
音楽	1	7	8
舞踊	1	4	5
演劇	1	7	8
伝統芸能・大衆芸能	1	5	6
調査研究	1	-	1
(劇場・音楽堂等担当 ※ ¹)	(4)	(13)	(17)
メディア芸術 ※ ²	-	2	2
計	5	25	30

※¹ 劇場・音楽堂等担当は、各分野担当と兼務

※² メディア芸術担当は令和 2 年 3 月末日までの時限的配

(b) 調査研究

調査研究分野では、年度当初に、次の取り組むべき課題を設定した。

- ・ 振興会の助成事業における効果の検証
- ・ 振興会の助成事業における評価方法の確立
- ・ 諸外国の文化芸術活動に対する助成システム等の実態把握

その課題に基づき、以下の調査研究を実施・企画した。

■運営費交付金による調査研究

- ・ 舞台芸術創造活動活性化事業について、実績報告書等から得られた定量データの分析に加え、要望書の記載内容、助成対象団体の受賞歴、Web などのメディアからの評価、定性データ等を読み込み、それぞれから成果を検証した。
- ・ 助成対象団体において外部からの評価指標となる受賞歴について、継続的かつ体系的に収集するため、4 分野の PD・PO からの意見をもとに、賞・コンクールのリストを作成した上で、作業を進めた。
- ・ 「文化芸術活動への波及効果に関する調査研究」にて得られた、助成による効果の検証手法を参考に、文化施設・芸術団体アンケート調査結果を整理・分析し、報告書を取りまとめた。
- ・ 令和 2 年度に行う調査研究テーマとして、参考となる国内・海外の関連文献や事例、ならびに近接領域の評価手法の調査、及び振興会の各助成事業における、定量・定性の両側面から成果検証を行うためのデータベース整備の 2 つのテーマを企画した。

■寄附金による調査研究

- ・ 「オーストラリアの文化芸術活動に対する助成システム等に関する実態調査」において、令和元年 12 月に現地調査を実施した後、現地調査のヒアリング内容や提供資料について分析を行うとともに、随時、ヒアリング団体にメールにて追加調査を行い、得られた調査結果の整理を進めた。
- ・ 「フランスにおける映画振興に対する助成システム等に関する実態調査」について、令和 2 年 2 月に特

定非営利活動法人映像産業振興機構と委託契約締結後、初回打合せにて本調査の事業計画を確認するとともに、文献資料の分析に着手した。

- ・衆議院第一議員会館において開催された「文化芸術推進議員連盟勉強会」に参加(11月27日)。「イギリスの芸術助成と専門機関について」をテーマに、清水理事が振興会助成事業の概要を、また石田 PD が英国助成システムに関する調査研究の概要を説明した。
- ・令和 2 年度に行う調査研究テーマとして、諸外国の文化芸術活動に対する助成システム等の調査におけるカナダを対象とした実態調査、及びアーツカウンシル・イングランドにおける「10 年戦略」の翻訳・分析の 2 つのテーマを企画した。

⑤地域の文化振興等の活動に関する地方公共団体との連携協力

- ・振興会からの「令和 2 年度芸術文化振興基金助成金の取りまとめについて(依頼)」に基づき、都道府県・指定都市担当者向けの説明会を実施した(7/26、場所：伝統芸能情報館 3 階、レクチャー室)。

⑥手続の合理化のためのシステム更改に向けた設計・構築作業

- ・令和 2 年秋に実施予定の令和 3 年度助成対象活動募集からの稼働を目的に、申込者からの電子申請を可能とするサービスの新規導入ならびに現システムの改修に関する調達準備を行った。

⑦その他

- ・令和 2 年 2 月 26 日に政府より新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため大規模イベントの中止、延期又は規模縮小等の要請があったことを受け、2 月 26 日から 3 月 31 日までの間に実施または実施予定であった助成対象団体に対し、3 月 6 日に振興会助成事業に係る対応方針の通知を发出し、活動の令和 2 年度への延期を認めるよう配慮したほか、中止した活動については、中止決定時まで必要経費やキャンセル料等を助成対象として助成を行うなど、助成対象団体の負担軽減に努めた。

ウ 基金及び基金助成事業の将来の在り方の検討

- ・舞台芸術創造活動活性化事業について、芸術団体が将来を見据えた戦略的な活動計画を立て、運営基盤の強化が図られるよう、入場料収入や寄付金収入等多様な収入の増加努力を促す仕組みを導入した 3 年間の活動を継続して助成する複数年計画支援を創設したほか、新たな団体の参入を促すため、公演事業支援においては、実績要件の緩和や法人設立から期間の短い団体のみが応募可能なステップアップ枠の創設を行うなど、文化庁の要請を踏まえて事業を大幅に見直し、令和 2 年度概算要求において増額が認められたことから、助成金額は前年度比 42 百万円増となった。
- ・基金助成事業については、低金利の影響による運用益の減少により、段階的に助成額が減少していくことが想定されることから、舞台芸術創造活動活性化事業や文化庁の助成事業等との役割分担等を整理し、令和 4 年度募集分から、助成対象とする活動区分の見直しや、より効果的かつ効率的に助成を行える在り方を検討する旨、文化庁と打合せを実施した。

エ 文化庁連携による PD・PO を活用した審査・評価の仕組みの検討及び地域版アーツカウンシル等との連携

■地域版アーツカウンシル等との連携推進

- ・文化芸術推進基本計画(平成 30 年 3 月閣議決定)を踏まえ、全国に所在するアーツカウンシル機能(専門家による助言、審査、評価、調査研究等に関する機能)を有する組織と日本芸術文化振興会が相互の連携強化を図ることを目的に、7 月 5 日にレクチャー室で第 1 回ネットワークミーティングを開催し、「アーツカウンシル・ネットワーク」を設置した。
- ・ネットワークミーティングは 10 月 11 日に新潟市で第 2 回、2 月 10 日に横浜市で第 3 回と継続し、年度中計 3 回開催した。また 11 月 25 日に都内にて、ミーティングを補完する目的で第 1 回フリーディスカッションを開催した。
- ・アーツカウンシル・ネットワーク加盟団体間の情報共有を図る目的で、情報プラットフォームの構築について準備を進めた。

■舞台芸術創造活動活性化事業

- ・舞台芸術創造活動活性化事業の事後評価について、PDCA の円滑な循環に資する、より効果的な評価の実現と業務の効率化の観点から、評価方法の見直しを行い、5 月に開催した 4 ジャンルの専門委員会に

において新たな評価方法が承認された。新たな評価方法に従い、6月にかけて各専門委員会で書面評価・合議評価を行った。

- ・平成31年度事業分の全助成対象活動について、専門委員、専門調査員、PD・PO及び文化芸術活動調査員により、公演等調査を行った。

■国際芸術交流支援事業

- ・国際芸術交流支援事業については、日本国内で実施する活動に限り、平成31年度助成対象事業分から新たに公演等調査を実施した。
- ・平成30年度中に部会で決定した事後評価の方針に則り、評価において使用する書式等、具体的な実施方法を定め、初の評価に向けて準備を進めた。

■劇場・音楽堂等機能強化推進事業

- ・今年度初めて、劇場・音楽堂等機能強化推進事業の評価を行った。劇場・音楽堂等機能強化総合推進事業においては「中間評価」を行い、地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業及び共同制作支援事業においては「事後評価」を行った。評価は、専門委員、PD・POが公演等調査(活動調査、ヒアリング調査)を行い作成した公演等調査報告書、取得したエビデンス、劇場等から提出された自己点検(成果)報告書及び実績報告書に基づき行うこととし、その評価の方法及び評価基準については、7月に開催した文化施設公演活動等専門委員会において承認された。その後、8月にかけて同専門委員会第一分科会で書面評価、合議審査を行った。中間評価では、評価コメントが作成され、5年間継続して助成することが適当か継続の可否について評価を行った。「事業評価」については、評価コメントを作成するとともに、採択審査時の評点を基礎として増減を行い評点の評価を行った。
- ・平成31年度事業分の助成対象活動については、専門委員、PD・POにより公演等調査を行った。公演等調査は劇場・音楽堂等機能強化総合推進事業及び、共同制作支援事業については全助成対象活動、地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業については抽出された20施設において実施した。

オ 助成事業成果等の振興会の他事業への活用

- ・助成対象団体から実績報告の際に届く公演プログラムについて、伝統芸能関連で保存期間が満了したものを資料担当部署に送付し、活用することとした。
- ・関西地域の芸術文化振興基金助成対象団体と国立文楽劇場とが相互に連携して情報発信を強化することが可能となるよう、引き続き基金部が仲介者として協力を行った。

(2) 助成に関する情報等の収集及び提供

ア 文化芸術活動への支援に関する情報収集、提供

- ・官民の文化芸術活動への支援に関する情報を引き続き収集し、最新のデータに更新した。

イ 振興会の助成事業に関するホームページ上の情報の充実、事例集の作成・配布・掲載

①ホームページ上の情報の充実

- ・基金事業関連 HP のアクセス件数 令和元年度 256,513件(うち芸術文化振興基金 HP234,397件、劇場・音楽堂等機能強化推進事業 HP:22,116件)
- ・令和2年度助成事業の募集開始前に、平成30年度の助成事業を紹介する事例集を作成し、PDF版を振興会ホームページに掲載。
- ・助成事業の内容等が分かりやすく伝わるよう、ホームページの記述内容について随時見直しを実施。

②事例集の作成・配布・掲載

- ・令和2年度助成事業の募集開始前に、平成30年度の助成事業を紹介する事例集を作成し、PDF版を振興会ホームページに掲載。
- ・「日本芸術文化振興会ニュース」に基金の概要、助成対象活動の募集の案内及び助成対象活動の事例等、広く助成事業に関する情報を掲載した(毎月)。

ウ 募集情報のホームページへの掲載、ポスター配布等

①募集情報のホームページへの掲載

- ・振興会ホームページに募集に関する特設サイトを作成、9月27日に募集案内をホームページに掲載す

るとともに審査基準の公表を実施。

- ・ 募集に関する特設サイトへリンクするバナーを、10月1日から約1ヶ月間、振興会外の5つのWebサイト(げきびあ、ぶらあぼ、カンフェティ、コリッチ舞台芸術、東京アートビート)に設置。
- ・ 令和2年度助成対象活動の募集に関する専用ページ(ランディングページ)を設置するとともに、募集案内や助成金交付要望書の書式等をダウンロードできるように掲載した。

②ポスター配布等

- ・ 広報用ポスター(4,650枚) チラシ(18,000枚)、地域力×文化力パンフレット(100,000枚)を配布。
- ・ 令和2年度助成対象活動の募集に関するチラシ及びポスターを都道府県、政令指定都市、地域文化施設(文化会館、美術館、博物館等)等3,240か所に送付し、広報協力を依頼。
- ・ 地域の文化振興等の活動に対する助成について、関係団体の会報やメールマガジンにおいて募集に関する広報を行うとともに、都道府県、政令指定都市及びその他の市町村にも募集案内を送付。
- ・ 基金の概要を紹介したパンフレットを配布した。
- ・ 芸術文化振興基金賛助会員制度に関するリーフレットを配布した。
- ・ 文化芸術活動に対する助成システムの機能強化に関するリーフレットを配布した。
- ・ 「日本芸術文化振興会ニュース」に基金の概要、助成対象活動の募集の案内及び助成対象活動の事例等、広く助成事業に関する情報を掲載した(毎月)。

エ 応募相談会等の開催

- ・ 11月1日より令和2年度助成対象活動の募集を開始するにあたり、10月1日から31日まで振興会事務室並びに全国各地にて、応募に関する個別の相談を受けた。また、令和2年度募集から制度の見直しを行った「舞台芸術創造活動活性化事業」については、東京と京都で応募説明会を各1回実施した。なお、当初の年度計画においては、応募相談会を大阪で開催する予定であったが、文化庁京都移転への振興会の参画事項として、応募相談会を京都で開催した。

《応募説明会》

- ・ 10/1 伝統芸能情報館3階レクチャー室(参加団体:86件) [東京]
- ・ 10/2 キャンパスプラザ京都5階演習室(参加団体:25件) [京都]

《応募相談会》

- ・ 10/1~31 振興会内事務室(参加団体:242件) [東京]
- ・ 10/2 キャンパスプラザ京都5階演習室(参加団体:65件) [京都]
- ・ 10/3 広島市東区民文化センター 中会議室(参加団体:7件) [広島] 【新規】
- ・ 10/7 アクロス福岡セミナー室1(参加団体:12件) [福岡]
- ・ 10/8 愛知県産業労働センター ウィンクあいち1008(参加団体:14件) [愛知]
- ・ 10/11 仙都会館 会議室4F(参加団体:2件) [仙台] 【新規】

※10月11日に新潟市で開催した第2回ネットワークミーティングにおいて、出席した日本各地のアーツカウンシル機能を有する組織に対し、令和2年度の、芸術文化振興基金「地域の文化振興等の活動」について説明を行った。

実績	年度計画	達成率
381件	300件以上(団体数)	127%

- ・ 具体的な申請書の作成方法や活動の実施に向けた留意点等に関し、採択後の手続を円滑に進めるための「事務手続個別相談会」を5月に 京都(6件)、7月に東京(33件)で実施した。

(3) 基金の管理運用

ア 基金の管理運用

運用益 1,107,637千円(利回り1.59%)

- ・ 基金の管理運用については、安全性に留意するとともに安定した収益の確保によって継続的な助成が可能となるよう、資金内容及び経済情勢の正確な把握に努めた。
- ・ 芸術文化振興基金運用計画に基づき、金融商品・運用先等の検討を行うことにより、低金利下においても必要とする運用益が得られるよう、リスクとリターンを考慮しながら引き続き効率的な管理運用に努めた。

イ 資金の受入拡充

① 寄附先への感謝状の贈呈並びにHP等での広報

- ・ 芸術文化振興基金への寄附：7件、600,540,000円
(30年度実績 14件、600,488,889円、51,111円の増)
- ・ 承諾を得た寄附者(団体)については、寄附者(団体)名をHPで広報するなどの顕彰により、寄附金の増額に向けて取り組んだ。

②「芸術文化振興基金賛助会制度」「社会貢献信託制度」による寄附受入

- ・ 「芸術文化振興基金賛助会員制度」の周知を図るとともに、寄附受入に向け広報活動を行った。

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

自己評定	B
<p>自己評定の根拠</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歌舞伎、文楽、舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等、大衆芸能、能楽、組踊等沖縄伝統芸能の6分野の入場者数達成率平均は100.3%。(台風接近及び新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止した公演を勘案) ・オペラ、バレエ、現代舞踊、演劇の4分野の入場者数達成率平均は107.2%。(台風接近及び新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止した公演を勘案) ・快適な観劇環境の形成、広報・営業活動の充実といった点では演目に応じ、様々な工夫を凝らした。 ・国立演芸場は開場40周年、国立文楽劇場は開場35周年、国立劇場おきなわは組踊上演300周年の節目を迎え、記念公演に相応しい企画等を実施した。 ・日本博事業の運営・実施・プロモーション業務は、振興会にとって全く前例のない試みだった。本年はこの事業を本格的に始動させるため、事務局を組織内に新設し、多くの事業実施団体、他の国立文化施設、民間団体、企業等とも連携して推進する、主催・共催型プロジェクトの実施、参画プロジェクトの認証、日本博全体の国内外への幅広い広報など、具体化していなかった多くの事業について労力を費やしながらも、大きな問題もなく無事、日本博事務局の運営等を円滑に実現させることができたことは、質的に顕著な成果を挙げていると考えられるため。
<p>数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）</p>	<p>公演数、公演回数、公演日数、入場者数(年度計画 別表1、2記載) 《公演実績》表 参照</p>
<p>主要な業務実績</p>	<p>〈1〉 伝統芸能分野 〈2〉 現代舞台芸術分野 〈3〉 日本博の運営・実施 各表参照</p>
<p>課題と対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入場者数が目標を下回った公演については、演目や出演者に関する情報を観客によりアピールする工夫をはじめ、それぞれの公演の特色や魅力をより多角的に紹介するなど、今後も広報宣伝等の効果的な施策を検討していきたい。企画立案時より内容や時期等の計画・検討を綿密に行い、より魅力ある番組作りに努めるとともに、動画を利用するなど効果的な広報宣伝・営業活動ができるよう、担当部署が連携し、工夫を重ねていく。 ・特に歌舞伎分野では、歌舞伎鑑賞教室を含め、公演中止となった3月歌舞伎公演を除いて、目標入場者数を大きく下回った結果、公演収支の悪化を招いた。全体としては、例年に比べ演目や出演俳優等の決定の遅れにより、早めの営業活動や宣伝活動が行えなかったことが大きな要因であった。少しでも早い制作進行と進捗状況の的確な把握に努め、宣伝、営業との綿密な連携を図る。 ・近隣施設や地域、学校関係者等との連携を図るなど、新たな観客を増やすための方策に積極的に取り組んでいきたい。 ・現代舞台芸術の上演機会の少ない公演の営業計画については、さらなる予測値の精度向上や周知活動の強化に努めたい。 ・「日本博」の実施について、今後も充実を図りたい。

〈1〉 伝統芸能分野

<p>自己評定</p>	<p>B</p>
<p>自己評定の根拠</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・台風19号接近のため、歌舞伎公演2回、演芸場中席公演2回、国立名人会1公演、能楽堂普及公演1公演が中止、また、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、歌舞伎1公演、大衆芸能6公演、能楽5公演、組踊等沖縄伝統芸能2公演が中止となったが、それ以外の公演については、概ね計画通り公演を実施した。 ・青少年を対象にした多種多様な鑑賞教室を実施、さらに親子・外国人向けの入門企画を引き続き実施した。 ・快適な観劇環境の形成、広報・営業活動の充実といった点では演目に応じ、様々な工夫を凝らした。 ・劇場施設の使用効率を向上させるため、積極的な情報提供を行い、施設の活用に努めた。 ・国立演芸場が開場40周年に当たることから、4月から10月までの全自主公演を会場40周年記念公演として、演芸愛好者のみならず広く一般の方々に国立演芸場の公演をアピールした。 ・国立文楽劇場開場35周年記念として、各公演を記念公演に相応しい企画と構成で実施した。 ・2019年は、組踊が上演されてから300周年の節目を迎える年にあたるため、様々な視点から組踊をはじめ琉球芸能の魅力にせまり、組踊上演300周年の機運を高め、普及・発信に努める公演を制作した。 ・計画通り新作組踊の上演、上演機会が少ない優れた組踊及び沖縄芝居の上演、アジア・太平洋地域の芸能公演等、国立劇場ならではの多彩な公演を継続的に実施した。日本博主催・共催事業として、5公演を実施した。 ・各地の文化施設における歌舞伎鑑賞教室の共催公演や、日本博オープニングセレモニーに際して、制作・舞台技術担当職員を派遣し、制作協力・技術提供を行った。
<p>数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）</p>	<p>公演数、公演回数、公演日数、入場者数(年度計画 別表1記載) 《公演実績》表 参照</p>
<p>主要な業務実績</p>	<p>(1) 伝統芸能の公開 ア 主催公演の実施 ①歌舞伎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物語の流れを分かりやすく構成した通し狂言の上演(10月、11月、1月)と長らく上演が途絶えていた作品の復活(12月「蝙蝠の安さん」、1月)。 ・当代の継承者の優れた演技(11月、12月「近江源氏先陣館一盛綱陣屋一」)や次世代の俳優を積極的に登用した配役(10月、1月)による、芸の継承の実現。 ・日本博主催・共催事業として、本館の歌舞伎公演では初めての幕見席を試験的に導入。(11月) ・社会人・外国人をはじめ初心者が気軽に歌舞伎を鑑賞できる機会を設けるため、開演時間を19:00に設定し、展示コーナー・フォトスポットの設置、特別プログラムの作成・販売、記念品の無料進呈やアフタートーク等、公演を盛り上げる事業を実施。(12月「Chaplin KABUKI NIGHT」) ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、公演中止になった3月歌舞伎公演につき、映像配信のため、無観客で上演し、当初予定されていた公演記録映像の収録を実施し、同映像を期間限定・無料で配信。 ・歌舞伎公演では初めての体験型ワークショップを試験的に実施。(6月鑑賞教室) ・外国人を対象とした「Discover KABUKI」の2日3回公演(6月鑑賞教室)や多言語ポータブル字幕機の試験的導入(10月)等、多言語対応の拡充に向けた試みを実施。 <p>②文楽</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上演機会が少ない段や場面を積極的に取り上げ、物語をより分かりやすくするとともに、技芸の継承に努めた。

本館 5 月通し狂言「妹背山婦女庭訓」大序 大内の段
本館 9 月「艷容女舞衣」道行霜夜の千日
文楽劇場4月「仮名手本忠臣蔵」桃井館力弥使者の段
「近頃河原の達引」四条河原の段
文楽劇場夏休み「国言詢音頭」五人伐の段
文楽劇場1月「明烏六花曙」山名屋の段

- ・文楽劇場では開場35周年記念企画として4月、夏休み、11月の3公演連続での「仮名手本忠臣蔵」の全段上演を実施。
- ・初春公演(文楽劇場)、2月公演(本館)において、竹本津駒太夫が、六代目竹本鋳太夫を襲名。
- ・外国人を対象とした公演「Discover BUNRAKU」を本館及び文楽劇場にて実施。
- ・演目にちなみ企業との協力や他ジャンルとのコラボレーションに積極的に取り組み宣伝効果を向上

③舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等

- ・本館では、独自の歴史と魅力を有する「京舞井上流」を特集するものとして、祇園甲部の芸妓・舞妓の引越し公演と言える規模で21年ぶりに開催した舞踊公演、三味線の歴史の流れや奏法等を実演解説で紹介し、古典の名曲と委嘱初演の現代曲の上演という特色ある構成の公演や、東海道をテーマに浮世絵と邦楽の両者をお楽しみいただいた「浮世絵の音風景」等の邦楽公演、大陸からの伝来という視点から復元楽器も取り上げて雅楽の重層的な魅力に焦点を当てた雅楽公演、芸能史的にも貴重な萬福寺の梵唄を上演した声明公演、新天皇陛下が御即位され、令和時代に福が溢れるよう「祝福芸」を特集した民俗芸能公演、アーツカウンシル東京との共催によりコンテンポラリー・ダンスの新作も含めて国内外の舞踊(ダンス)の魅力を紹介した特別企画公演等、企画性の高い公演を実施した。
- ・文楽劇場9月民俗芸能公演では開場35周年記念企画として「ふるさとの人形芝居」を行い、全国より選りすぐった5団体を紹介する公演を行った。

④大衆芸能

- ・全体で目標を上回る入場者数を達成(達成度101.8%)
- ・国立演芸場ならではの公演を実施するとともに、国立演芸場が開場40周年に当たることから、4月から10月までの全自主公演を会場40周年記念公演として、演芸愛好者のみならず広く一般の方々に国立演芸場の公演をアピールした。
- ・文楽劇場の上方演芸特選会では開場35周年記念企画として、上方演芸4団体との協力により、周年企画トーク「文楽寄席あつめ」を上演。
- ・2月浪曲名人会、3月上方演芸特選会が新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止。

⑤能楽

- ・充実した企画内容と効果的な観客勧誘によって、開催したすべての公演において目標入場者数を達成し、極めて高い入場率を達成した。
- ・国立劇場おきなわ12月企画公演「能」において国立劇場おきなわと連携協力態勢を整え、国立能楽堂11月公演で上演された「羽衣」「放下僧」といった組踊と同じ題材を扱った演目を含む能楽公演の制作協力を行った。地方への国立能楽堂の成果の波及と能楽の普及に大きく貢献した。
- ・国立能楽堂の委嘱作品である新作狂言「鮎」を全国各地の能楽堂、公共劇場で再演した。
- ・能楽鑑賞教室で全席を完売し、鑑賞者育成に大きく貢献した。
- ・「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」を継続実施した。

⑥組踊等沖縄伝統芸能

- ・新作の初演(組踊「花よ、とこしえに」組踊「春時雨」、喜劇「鐘入鬼女其ノ後ノ漸〜続・執心鐘入〜」)、再演(「花の幻」)。

- ・上演機会が少ない優れた演目の上演（「忠臣身替の巻」「伏山敵討」）。
- ・創作舞踊等の再演（創作舞踊「働き者・山の美童」「かくり涙」「あや愛しや」「新加那よ」「若水」「十五夜」「綾結び」）。
- ・組踊上演 300 周年を記念して、12 月までの組踊関連公演を「組踊上演 300 周年記念事業実行委員会共催事業」として実施。
- ・日本博主催・共催事業として、研究公演「御冠船踊と組踊『執心鐘入』」、「御冠船踊と組踊『銘苺子』」、「はじめての組踊～Discover KUMIODORI～『執心鐘入』」、企画公演「能『翁』『羽衣』」「能『放下僧』『石橋』」、琉球舞踊公演「春夏秋冬を舞う」、企画公演「新作組踊『春時雨』」を実施。

イ 演目の拡充

- ・歌舞伎においては、国立劇場が過去に復活した通し狂言の台本、演出の見直し(10月)や、名場面の分かりやすい鑑賞のために通し狂言として構成した台本の作成(11月)、復活上演に向けた台本の補綴(12月「蝙蝠の安さん」、1月)により、レパートリーの定着や拡充を実現。
- ・国立劇場歌舞伎脚本募集における今後の応募作品の充実を図るため、執筆の心構えや創作の過程を紹介する説明会を初めて実施。
- ・文楽劇場では開場 35 周年記念公演である 3 公演に亘っての「仮名手本忠臣蔵」通し上演や、夏休み文楽特別公演において、以下のように演目の拡充に努めた。「仮名手本忠臣蔵」の 4 月公演では、1 日で通し上演する場合には上演時間の都合等で割愛される二段目「桃井館力弥使者」を開場以来初めて上演、11 月公演では、十段目「天河屋」を 102 年振りに原作通りに復曲して開場以来初となる上演、また十一段目で文楽では初めての「引揚」と「焼香」両方続けての上演。夏休み公演では、新作文楽「かみなり太鼓」を新たな演出で 5 年振りに再上演。
- ・国立劇場おきなわでは、創作舞踊等の再演、初演(新作組踊の初演(「花よ、とこしえに」「春時雨」「花の幻」、創作舞踊「働き者・山の美童」「かくり涙」「あや愛しや」「新加那よ」「若水」「十五夜」「綾結び」、新作芝居「喜劇『鐘入鬼女其ノ後ノ嘶～続・執心鐘入～』」)を実施。

(3) 青少年等を対象とした公演

- ・社会人・親子等を対象とした公演・入門企画を計画通り実施。
- ・外国人を対象とした公演・入門企画を計画通り実施。
- ・歌舞伎公演では初めての体験型ワークショップを外国人向けに試験的に実施(本館 6 月「Discover KABUKI」)。

(4) 伝統芸能の公開の実施に際しての留意事項

- ・共催、受託などによる公演等を 22 公演実施。
- ・全国各地の文化施設等における公演を 4 公演実施。
- ・国際文化交流公演等を 9 公演実施。

(5) 快適な観劇環境の形成

- ・観客用設備の適切な維持管理・改善を実施。
- ・四季を感じられるロビー飾り等を実施。
- ・公演に所縁の深い地域との連携によるイベントの実施や特設売店等の設置。
- ・公演内容に直結した特別バックステージツアーの実施(本館 10 月歌舞伎)、フォトスポット・小道具体験コーナーの設置やアフタートークの開催(本館 7 月鑑賞教室)等、舞台鑑賞以外でも歌舞伎に触れられる機会を提供。
- ・外国人利用者への対応として、劇場内外の案内表示の整備、外国語によるチラシ・リーフレット等の作成及び字幕表示等の多言語対応を実施。
- ・快適な観劇環境を促進するためのマナーチラシ(日本語・英語)をロビーに配架。

(6) 広報・営業活動の充実

- ・各公演の特設サイトを作成し、インターネットを積極的に利用して公演の PR を実施。

	<ul style="list-style-type: none"> ・Twitter、Instagramに加え、TripAdvisor に写真を掲載するなど、SNS を利用した広報活動を実施。 ・公演周知等において、旅行代理店・ホテル・日本学生支援機構・外部団体との連携を一層強化。 ・団体観劇を促進するため、過去に利用した団体への公演情報提供や公演内容に応じた営業活動を実施。 ・大学等を対象とする会員制度「国立劇場キャンパスメンバーズ」のサービスを提供。 ・国立劇場での舞踊公演を中心に、実演家、研究者、評論家等が多彩な視点から舞踊(ダンス)について語る対談「舞踊を語る」を振興会 HP で掲載開始。 ・文楽公演において、芸員のインタビュー動画や、公演記録映像を活用したダイジェスト版動画を HP に公開。 ・文楽劇場独自のコンテンツである「文楽かんげき日誌」を継続して実施。 <p>(7) 劇場施設の使用効率の向上等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設利用に関する情報を、HP・パンフレット・専門誌等で随時発信。 ・サービス向上のため、利用者へのアンケートや他劇場調査を実施。
<p>課題と対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入場者数が目標を下回った公演については、演目や出演者に関する情報を観客によりアピールする工夫をはじめ、それぞれの公演の特色や魅力をより多角的に紹介するなど、今後も広報宣伝等の効果的な施策を検討していきたい。企画立案時より内容や時期等の計画・検討を綿密に行い、より魅力ある番組作りに努めるとともに、動画を利用するなど効果的な広報宣伝・営業活動ができるよう、担当部署が連携し、工夫を重ねていく。 ・特に歌舞伎分野では、歌舞伎鑑賞教室を含め、公演中止となった3月歌舞伎公演を除いて、目標入場者数を大きく下回った結果、公演収支の悪化を招いた。全体としては、例年に比べ演目や出演俳優等の決定の遅れにより、早めの営業活動や宣伝活動が行えなかったことが大きな要因であった。個別に見ると、歌舞伎鑑賞教室においては、4月から5月にかけての10連休により行事計画を変更した学校団体の観劇中止等の影響も大きかった。12月歌舞伎公演では世界初のチャップリン映画の歌舞伎化のため、海外との著作権処理交渉に時間を要し、早期に宣伝・営業活動を進めることができなかった。発表後はその高い話題性からテレビ番組で取り上げられるなど従来に比べ露出度が高く、企画性をもたせたChaplin KABUKI Night公演は健闘したが、遅れを挽回できなかった。1月歌舞伎公演においても、特に鶴屋南北特有の複雑なストーリー展開を持つ台本を、この作品の面白みを活かしながら今回の出演陣に合わせて書き換える補綴作業に時間を要したため、公演制作が遅れ、結果として俳優のスケジュール撮影が行なえず、効果的な宣伝活動を行うことができなかった。以上を踏まえ、制作においては、10月以降歌舞伎公演が連続し複数の公演制作スケジュールが重なるため、歌舞伎興行全体の進行に制約される面があるとはいえ、少しでも早い制作進行と進捗状況の的確な把握に努め、宣伝、営業との綿密な連携を図る。宣伝においては、既存の宣伝活動の見直しを進めるとともに、演目決定の遅れ等が予想される場合には、代替となる宣伝方法の準備を機動的に行う。営業においては、引続き新たな観客層開拓のための効果的な販売方法の検討、演目決定の遅れ等がある場合の柔軟な対応に努める。 ・近隣施設や地域、学校関係者等との連携を図るなど、新たな観客を増やすための方策に積極的に取り組んでいきたい。

〈2〉 現代舞台芸術分野

自己評定	B
<p>自己評定の根拠</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・台風19号接近のため、オペラ1回、演劇2回が中止、また、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、オペラ1公演、バレエ2回、現代舞踊1公演、が中止となったが、それ以外の公演については、概ね計画通り公演を実施した。 ・分野毎の入場者数については全ての分野で目標値を上回った。(中止公演を除いた比較。なおバレエと演劇は当初の計画に対しても達成) ・いずれの公演も高い水準で上演され、外部専門家、評論家及び観客の高い評価を得た。 ・東京文化会館と初めて共同制作を行う2年に渡る国際プロジェクト「オペラ夏の祭典2019-20 Japan*Tokyo*World」の第一弾として「トゥーランドット」を上演した。びわ湖ホール及び札幌芸術劇場hitaruとも協力して計11回公演を実施、全国で19,559人が鑑賞した。 ・オペラ公演における英語字幕設置を本格的に導入、公演プログラムにも英文ページを増やしてインバウンド対策を更に推進した。 ・オペラ公演では「蝶々夫人」タイトルロールのほか、「トゥーランドット」「ドン・ジョヴァンニ」「椿姫」「セビリアの理髪師」などで日本人歌手が主役級の重要な役を務め活躍した。 ・新国立劇場バレエ団ならではの幅広いレパートリーを示す多彩な公演を高水準で上演した。テクニクのみならず高い表現力を要する「ロメオとジュリエット」「マノン」も観客を惹きつけ、外部専門家等から高い評価を受けてバレエ団プリンシパルが各種賞を受賞した。 ・バレエ「くるみ割り人形」は、積極的な営業活動によりクリスマスの時期に観るバレエの定番として認知が高まり、歴代2位の入場者数(15,336人)を記録した。 ・こどものためのバレエ劇場「白鳥の湖」は現代舞踊「NINJA」と組み合わせて「こども劇場セット」とし、大人と子供が共に楽しめる作品として強力に周知した。親子での観劇など初心者を多数獲得し、観客層の拡大に資した。 ・森山開次による大人も子供も一緒に楽しめるダンス作品第二弾として「NINJA」を上演した。好調な販売状況により追加公演を実現。また本公演終了後、全国公演で7カ所10回公演を行い多くの観客を得た。(合計19回5,871人) ・公演直前で中止となった「DANCE to the Future 2020」は一部作品をYouTubeからライブ・ストリーミング配信した。 ・演劇ジャンルでは新国立劇場初登場となる日本の劇作家による書き下ろし新作や、海外の優れた戯曲の日本初演、古典作品の新訳上演など多彩な演目を高い水準で上演した。「1001」「タージマハルの衛兵」では追加公演を実施、多数の入場者を記録した。 ・昨年度スタートした、長期的に作品を育てる「こつこつプロジェクトーディベロップメントー」に加え、若手劇作家を育てる「英国ロイヤルコート劇場×新国立劇場 劇作家ワークショップ」を開始した。 ・エアウィーヴ社との共同開発によるクッションを全劇場の椅子に設置し、長時間の観劇に伴う腰痛等の緩和に役立てた。 ・演劇公演「かもめ」「タージマハルの衛兵」で視覚・聴覚障害者向けの観劇サポートを今年度も実施したほか、小劇場前のサンクンガーデンに視覚障害者用点字ブロックを敷設するなど設備面でもバリアフリー化を進めた。 ・外国人利用者からの要望に応え、英語版 Web ボックスオフィスでのオペラパレス公演の座席選択ができるようにした。 ・観客参加型の避難訓練「第4回避難体験オペラコンサート」を小劇場にて開催した。 ・ホームページとSNS(Facebook、Twitter、Instagram)を連動させ、動画も活用して積極的に情報を発信した。 ・各分野で講座等イベントを開催して公演周知に努めた。終了後は概要やダイ

	<p>ジェスト映像をホームページに掲出し継続的な広報を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本政府観光局主催のインバウンドの大規模商談会「VISIT JAPAN トラベル & MICE マーケット 2019」に参加し誘致にも努めた。
数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）	<p>公演数、公演回数、公演日数、入場者数(年度計画 別表2記載) 《公演実績》表 参照</p>
主な業務実績	<p>(2) 現代舞台芸術の公演</p> <p>①オペラ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施したオペラ公演(10 公演 47 回)全体で目標入場者数を達成(達成率 103.3%)。 ・「蝶々夫人」「トゥーランドット」で90%以上の入場率。 ・「トゥーランドット」を東京文化会館と共同制作、びわ湖ホール及び札幌芸術劇場 hitaru でも上演。 ・5 作品(ダブル・ビルを含む)を新制作し、レパートリーを充実。 ・2019/2020 シーズン(10 月)より全オペラ公演で英語字幕を設置、インバウンド対策を更に推進。 ・日本人歌手が重要な役で活躍。 <p>②バレエ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バレエ公演全体で目標入場者数を達成(達成率 103.7%、中止した公演を除くと 107.5%)。 ・「くるみ割り人形」は入場率 95.1%。 ・新国立劇場バレエ団がテクニク・表現力の両面で高い評価を受けてバレエ団プリンシパルが各種賞を受賞。 ・こどものためのバレエ劇場「白鳥の湖」は現代舞踊公演と組み合わせ「こども劇場セット」として販売し、観客層を拡大。 <p>③現代舞踊</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施した現代舞踊公演(2 公演)それぞれで目標入場者数を達成(合計の達成率 118.2%)。 ・森山開次による大人も子供も楽しめる作品の第二弾として「NINJA」を新制作、全国公演も実施(7カ所 10 公演)。 ・公演直前で中止となった新国立劇場バレエ団「DANCE to the Future 2020」の一部をライブ・ストリーミング配信。 <p>④演劇</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演劇公演全体で目標入場者数を達成(達成率 111.0%、中止した公演を除くと 112.3%)。 ・「かもめ」「1001」「オレステイア」で90%以上の入場率を達成。 ・新作上演 2 作品、海外の優れた戯曲の日本初演 3 作品、新訳上演 2 作品。 ・複数年かけて舞台づくりに取り組む「こつこつプロジェクト」を継続して実施。 ・新たな試みとして英国ロイヤルコート劇場と協力しての「劇作家ワークショップ」を開催。 <p>(3) 青少年等を対象とした公演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に青少年を対象とした公演等を計画通り 3 公演実施、目標入場者数を達成。 <p>(4) 現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共催、受託などによる公演等を 5 公演実施。 ・全国各地の文化施設等における公演を 18 公演実施。 ・国際文化交流公演等を 1 公演実施。 ・海外劇場等との交流を 8 件実施。 <p>(5) 快適な観劇環境の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長時間の観劇に伴う腰痛等を緩和するクッションを全劇場の椅子に設置。 ・演劇公演で視覚・聴覚障害者向けに観劇サポートを実施。 ・小劇場前に点字ブロックを敷設。

	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人利用者用チケットサイトで座席選択機能の提供を開始。 ・観客参加型の避難訓練「第4回避難体験オペラコンサート」を小劇場で実施。 <p>(6) 広報・営業活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページとSNS (Facebook、Twitter、Instagram) を連動させ、動画も活用して積極的に情報発信。 ・講座等イベントを開催して公演周知に努め、終了後は概要やダイジェスト映像をホームページに掲出。 ・日本政府観光局主催のインバウンドの大規模商談会に参加。 <p>(7) 劇場施設の使用効率の向上等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設利用に関する情報を、HP・パンフレット・専門誌等で随時発信。
課題と対応	<ul style="list-style-type: none"> ・上演機会の少ない公演の営業計画については、さらなる予測値の精度向上や周知活動の強化に努めたい。

〈3〉日本博の運営・実施

自己評定	A
自己評定の根拠	<ul style="list-style-type: none"> 日本博事業の運営・実施・プロモーション業務は、振興会にとって全く前例のない試みだった。本年はこの事業を本格的に始動させるため、事務局を組織内に新設し、多くの事業実施団体、他の国立文化施設、民間団体、企業等とも連携して推進する、主催・共催型プロジェクトの実施、参画プロジェクトの認証、日本博全体の国内外への幅広い広報など、具体化していなかった多くの事業について労力を費やししながらも、日本博の運営等を円滑に実現させることができたことは、質的に顕著な成果を挙げていると考えられるため。
数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）	数値目標なし
主要な業務実績	<ul style="list-style-type: none"> 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、日本の文化芸術の魅力を体現する様々な展覧会、舞台公演、芸術祭、文化イベント等を全国で展開する大型文化催事「日本博」の本格的な開催に向け、2019年4月「日本博事務局」を新設し運営を行った。 日本博主催・共催型プロジェクトとして公募を一次提案から三次提案まで受け付け、合計69件採択した。また、多くの文化施設、オリパラ組織委員会、地方自治体、民間団体、企業などの関係機関と連携・協力するとともに関係機関間をコーディネートしつつ、全て円滑に実施した。あわせて、日常的に多くの関係機関からの相談に応じた。 主催・共催型プロジェクト69件、参画プロジェクト289件、公募助成型プロジェクト（文化庁が運営）172件について、公式サイトを活用、公式SNSを新規開設し、国内外に幅広く情報を発信した。 「日本博」を広報するため、日本博事業の採択・認証団体より画像や映像を提供していただき、キービジュアル・PR動画を作成した。それらを活用し、交通機関（駅、空港、電車等）8箇所への公告、7カ所への動画掲出、新聞や雑誌とのタイアップ7件などの広報を行った。 3月14日に「日本博」公式サイトをリニューアルし、検索機能の強化、多言語対応ページ（英語、フランス語、韓国語、中国語繁体字、中国語簡体字）を追加した。 日本博の概要と全事業を掲載したパンフレット（外国人向けコンセプトブック・主なラインナップ・事業紹介リーフレット（3回更新）等）を作成し、全国へ配布した。 日本博の本格始動に向けて、3/14「日本博オープニングセレモニー」を成功させるため、振興会内関係部署、民間団体、企業等とともに企画・実施に取り組んだが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、オープニングセレモニーは中止とし、記念公演のみ当日収録し、後日改めてテレビ等で発信することとなった。本セレモニーを軸に、広報による2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた更なる機運醸成や日本文化の発信を図るため、テレビ・新聞・雑誌・交通広告・ネット上の公告を通じた発信に取り組んだ。 5つの伝統芸能（歌舞伎、文楽、能楽、雅楽、組踊）を一堂に会する、特別展「体感！日本の伝統芸能－歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界－」を、文化庁、宮内庁、東京国立博物館、文化財活用センター、読売新聞社ほか協賛会社、および振興会各館との連携により実施した。なお、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため開館日は延期とした。 JNTOと連携協力し、①JNTOの訪日外国人向けの情報発信プラットフォーム②JNTO多言語ウェブマガジンサイト③JNTOの有するデータを活用した効率的なバナー配信を行い、インバウンドに訴求することを図った。 文化庁が主催する会議である、文化庁「日本博」企画委員会や「日本博」審査・評価委員会、「日本博」に関する文化庁及び国立文化施設等関係者連絡会の開催準備や運営等に精力的に協力した。 国立劇場が位置する皇居周辺の各機関と連携協力し、「日本博」の各種イベン

	<p>トを掲載した『皇居周辺・日本橋エリアアートマップ』を四半期毎に作成、関係各所に配布した。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 2020年度を中心として幅広く展開される日本博事業の効果検証について、文化庁、内閣官房、オリパラ組織委員会と連携し開始した。 • 日本博の戦略的プロモーションに関する方針について、海外情報発信を行う有識者やJ N T O (日本政府観光局)に意見を伺い、日本博の国内外に対する戦略的プロモーションに関する方針の検討・策定を行った。
課題と対応	<ul style="list-style-type: none"> • 「日本博」の実施体制について今後も充実を図りたい。

(1) 伝統芸能の公開	p.25
ア 主催公演の実施	p.26
①歌舞伎	p.28
②文楽	p.32
③舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等	p.36
舞踊	p.39
邦楽	p.40
雅楽	p.41
声明	p.42
民俗芸能	p.43
特別企画	p.43
④大衆芸能	p.45
定席公演(上席・中席)	p.48
若手新人公演(花形演芸会)	p.50
新春国立名人会／国立名人会	p.52
特別企画公演	p.53
浪曲名人会／浪曲錬声会／上方演芸特選会	p.54
⑤能楽	p.56
定例公演	p.59
普及公演	p.60
企画公演、鑑賞教室	p.62
⑥組踊等沖縄伝統芸能	p.65
イ 演目の拡充	p.71

2 - (1) 伝統芸能の公開

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(1) 伝統芸能の公開

つとめて伝承のままの姿で伝統芸能の公開を行い、その適切な保存と振興を図る

- ア 歌舞伎公演：筋の展開が理解しやすい「通し狂言」での上演、上演の途絶えた優れた演目・場面の復活、新作等の上演、解説を付した公演等の実施
- イ 文楽公演：「通し狂言」や見せ場を中心に複数演目を並べる「見取り狂言」等の様々な形態での上演、上演の途絶えた優れた演目・場面の復活、新作の上演、解説を付した公演等の実施
- ウ 舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等公演：質の高い技芸の公開、芸能の特性を踏まえた企画性の高い公演等の実施
- エ 大衆芸能公演：寄席を中心に受け継がれてきた伝統的な大衆芸能の公演、多彩な出演者による企画性の高い公演等の実施
- オ 能楽公演：伝統的な能狂言の演目と各流の演者を、能楽全体を見渡す視点に立って組み合わせた公演、上演の途絶えた優れた演目の復曲、新作の上演、解説を付した公演、企画性の高い公演等の実施
- カ 組踊等沖縄伝統芸能公演：上演の途絶えた優れた演目の復曲、新作の上演、解説を付した公演、本土の芸能やアジア・太平洋地域の芸能も取り上げる企画性の高い公演等の実施

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(1) 伝統芸能の公開

- ア 伝統芸能の保存と振興を図るため、中期計画の方針に従い、別表 1 のとおり主催公演を実施
- イ 演目の拡充
 - ①歌舞伎：復活等の上演に際して「国立劇場文芸研究会」において補綴、台本を作成。新作脚本募集について、新たな試みとして募集説明会を実施し、2020 年度に行う募集の充実を図る
 - ②文楽：新作の上演に向けて上演台本作成作業を実施、上演が途絶えていた場面の復活・上演
 - ③舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等：新作委嘱作品の上演、正倉院に残存する古代楽器を復元・復曲した雅楽曲の再演
 - ④大衆芸能：「漫才・コント」の新作脚本募集、選考及び表彰、過去の入選作品も含め上演に向けた準備作業
 - ⑤能楽：現行曲の台本演出を大幅に見直す作品を新たに制作、他の能楽堂等で上演された新作・復曲作品の再演
 - ⑥組踊等沖縄伝統芸能：組踊上演 300 周年の取組の一環として、書き下ろしの新作組踊を制作、御冠船踊として誕生した舞踊演目と組踊を当時の演出様式に検証を加え実験的に上演、上演機会が少ない優れた演目、古典の様式を踏まえた新作組踊の再演

《中期目標の指標・関連指標》

2-1 各公演における入場者数 (達成目標は年度計画で公演毎に設定する)	《公演実績》表 参照
2-2 歌舞伎、文楽、オペラ等の分野毎の入場者数 (達成目標は年度計画で分野毎に設定する)	《公演実績》表 参照
2-3 伝統芸能の公開の公演数 (前中期目標期間実績の維持)	169 公演 (H25-29 実績平均：183.8 公演)
2-6 伝統芸能の公開について、目標に従い業務を実施しているか (評議員会の評価を踏まえ判断)	

ア 主催公演の実施

《公演実績(伝統芸能分野総計)》(新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除く)

分野名	公演数	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
	劇場							
歌舞伎	6 公演	実績	189 回	140 日	181,797 人	63.6%	285,930 席	88.4%
	本館大小劇場	計画	187 回	142 日	205,700 人	72.4%	284,240 席	
文楽	10 公演	実績	372 回	176 日	185,241 人	76.2%	242,972 席	106.3%
	本館小劇場、文楽劇場	計画	372 回	176 日	174,270 人	71.6%	243,439 席	
舞踊・邦楽・雅楽・ 声明・民俗芸能等	21 公演	実績	31 回	25 日	20,268 人	82.0%	24,732 席	116.8%
	本館大小劇場、文楽劇場	計画	30 回	24 日	17,360 人	71.8%	24,164 席	
舞踊	4 公演	実績	9 回	5 日	6,986 人	85.8%	8,138 席	121.1%
	本館大小劇場、文楽劇場	計画	9 回	5 日	5,770 人	70.9%	8,138 席	
邦楽	5 公演	実績	7 回	7 日	3,023 人	70.8%	4,271 席	103.9%
	本館小劇場、文楽劇場	計画	6 回	6 日	2,910 人	78.6%	3,703 席	
雅楽	1 公演	実績	1 回	1 日	543 人	92.0%	590 席	135.8%
	本館小劇場	計画	1 回	1 回	400 人	67.8%	590 席	
声明	2 公演	実績	2 回	2 日	2,525 人	78.4%	3,220 席	99.4%
	本館大劇場	計画	2 回	2 日	2,540 人	78.9%	3,220 席	
民俗芸能	3 公演	実績	5 回	4 日	2,812 人	85.8%	3,276 席	137.8%
	本館小劇場、文楽劇場	計画	5 回	4 日	2,040 人	62.3%	3,276 席	
特別企画	6 公演	実績	7 回	6 日	4,379 人	83.6%	5,237 席	118.4%
	本館大小劇場、文楽劇場	計画	7 回	6 日	3,700 人	70.7%	5,237 席	
大衆芸能	57 公演	実績	281 回	259 日	53,411 人	65.8%	81,198 席	111.7%
	演芸場、文楽劇場、 文楽劇場小ホール	計画	284 回	262 日	47,822 人	58.2%	82,098 席	
能楽	47 公演	実績	60 回	55 日	37,440 人	99.5%	37,620 席	108.1%
	能楽堂	計画	61 回	56 日	34,650 人	90.6%	38,247 席	
小計	141 公演	実績	933 回	655 日	478,157 人	71.1%	672,452 席	
		計画	934 回	660 日	479,802 人	71.4%	672,188 席	
組踊等 沖縄伝統芸能	28 公演	実績	35 回	32 日	15,009 人	74.3%	20,189 席	105.0%
	国立劇場おきなわ 大小劇場	計画	35 回	32 日	14,290 人	70.2%	20,350 席	
総合計	169 公演	実績	968 回	687 日	493,166 人	71.2%	692,641 席	
		計画	969 回	692 日	494,092 人	71.3%	692,538 席	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※2月26日の総理大臣からの要請に基づき、文部科学大臣から所管する文化・スポーツ関係独立行政法人に主催事業の自粛(中止)要請が直接行われたことから、要請後の公演計画によることとする。

※台風19号接近のため、右記の公演を中止。10月歌舞伎公演(10/12、13)、10月中席公演(10/12、13)、第434回国立名人会(10/12)、能楽普及公演(10/12)。

(A)中止分を計画から除いた場合の計画入場者数、(B)入場者数の対計画達成率はそれぞれ下記の通りとなる。

歌舞伎(A)204,340人(B)89.0%、大衆芸能(A)47,352人(B)112.8%、能楽(A)34,040人(B)110.0%、組踊等沖縄伝統芸能(A)14,290人(B)105.0%

伝統芸能分野総計(A)491,652人(B)100.3%

《公演実績(伝統芸能分野総計)》(年度当初の公演計画)

分野名	公演数	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
	劇場							
歌舞伎	6 公演	実績	189 回	140 日	181,797 人	63.6%	285,930 席	84.6%
	本館大小劇場	計画	213 回	165 日	214,800 人	72.5%	296,246 席	
文楽	10 公演	実績	372 回	176 日	185,241 人	76.2%	242,972 席	106.3%
	本館小劇場、文楽劇場	計画	372 回	176 日	174,270 人	71.6%	243,439 席	
舞踊・邦楽・雅楽・ 声明・民俗芸能等	21 公演	実績	31 回	25 日	20,268 人	82.0%	24,732 席	116.8%
	本館大小劇場、文楽劇場	計画	30 回	24 日	17,360 人	71.8%	24,164 席	
舞踊	4 公演	実績	9 回	5 日	6,986 人	85.8%	8,138 席	121.1%
	本館大小劇場、文楽劇場	計画	9 回	5 日	5,770 人	70.9%	8,138 席	
邦楽	5 公演	実績	7 回	7 日	3,023 人	70.8%	4,271 席	103.9%
	本館小劇場、文楽劇場	計画	6 回	6 日	2,910 人	78.6%	3,703 席	
雅楽	1 公演	実績	1 回	1 日	543 人	92.0%	590 席	135.8%
	本館小劇場	計画	1 回	1 回	400 人	67.8%	590 席	
声明	2 公演	実績	2 回	2 日	2,525 人	78.4%	3,220 席	99.4%
	本館大劇場	計画	2 回	2 日	2,540 人	78.9%	3,220 席	
民俗芸能	3 公演	実績	5 回	4 日	2,812 人	85.8%	3,276 席	137.8%
	本館小劇場、文楽劇場	計画	5 回	4 日	2,040 人	62.3%	3,276 席	
特別企画	6 公演	実績	7 回	6 日	4,379 人	83.6%	5,237 席	118.4%
	本館大小劇場、文楽劇場	計画	7 回	6 日	3,700 人	70.7%	5,237 席	
大衆芸能	57 公演	実績	281 回	259 日	53,411 人	65.8%	81,198 席	101.9%
	演芸場、文楽劇場、 文楽劇場小ホール	計画	313 回	289 日	52,420 人	57.8%	90,687 席	
能楽	47 公演	実績	60 回	55 日	37,440 人	99.5%	37,620 席	98.0%
	能楽堂	計画	67 回	62 日	38,190 人	90.9%	42,009 席	
小計	141 公演	実績	933 回	655 日	478,157 人	71.1%	672,452 席	
		計画	995 回	716 日	497,040 人	71.4%	696,545 席	
組踊等 沖縄伝統芸能	28 公演	実績	35 回	32 日	15,009 人	74.3%	20,189 席	100.5%
	国立劇場おきなわ 大小劇場	計画	37 回	34 日	14,934 人	70.4%	21,218 席	
総合計	169 公演	実績	968 回	687 日	493,166 人	71.2%	692,641 席	
		計画	1,032 回	750 日	511,974 人	71.3%	717,763 席	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

① 歌舞伎

《制作方針》

10月から3月の公演については、これまでの上演方針に則した「通し狂言」の上演を基本とし、上演の稀な場面や作品の復活を企図する。また、過去に復活した演目を見直して再演することにより演目の定着を目指す。

6、7月には解説を付した公演を行う。

6月に、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に伴う文化プログラムの実施に向け、外国人旅行者等に訴求力のある公演を制作する。

配役の工夫により、歌舞伎俳優にとっての芸の継承にも配慮する。

以上により、歌舞伎の保存と振興を図る。

○

10月歌舞伎公演は、国立劇場で復活した通し狂言を次世代に継承するとともに、レパートリーの充実を図るため、今年で没後190年を迎える四世鶴屋南北の出世作で、国立劇場が昭和47年(1972)に通し狂言として復活した「天竺徳兵衛韓嘶」を、20年ぶりの通し上演で取り上げる。11月歌舞伎公演は、養父・初代中村吉右衛門や実父・初代松本白鸚が手掛けた作品を継承して高い評価を得てきた中村吉右衛門を座頭に迎え、初代白鸚が演じて好評を博した時代浄瑠璃の屈指の大曲「嬢景清八嶋日記」、通称「日向嶋」を取り上げ、「孤高勇士嬢景清一日向嶋」と題した通し狂言として台本を補綴し、芸の伝承を図る。12月歌舞伎公演は、襲名後初出演となる松本白鸚と松本幸四郎を迎え、重厚な時代物の傑作として名高い義太夫狂言「近江源氏先陣館一盛綱陣屋一」と、“喜劇王”チャールズ・チャップリンの生誕130年に因み、チャップリンの映画「街の灯」を題材にした異色作「蝙蝠の安さん」を見取り形式で上演し、芸の継承とレパートリーの拡充を目指すとともに、社会人向けの公演実施を企画する。初春歌舞伎公演は、復活狂言の上演に意欲的な尾上菊五郎を座頭と監修に迎え、四世鶴屋南北の「御国入曾我中村」を原作に台本を補綴し、両花道の使用を始め演出も工夫し、正月に相応しい華やかで娯楽性豊かな通し狂言「菊一座令和仇討」を上演する。3月歌舞伎公演は、昨年に引き続き小劇場での実施を計画し、義太夫狂言の名作「義経千本桜」を3プログラムに分けて、通し狂言として上演する企画で、計画より公演回数を大幅に増やし、46回公演の予定だったが、新型コロナウイルス感染症対策に係わる政府の要請を受け、感染症の拡大防止のため公演中止となった。

青少年等を対象とした公演として歌舞伎鑑賞教室を実施し、解説を付して上演することにより、歌舞伎の普及振興、芸の継承を図る。6月は、女方の演技や立廻り、廻り舞台を巧みに利用した演出など、歌舞伎の特色を多く備えた、義太夫狂言の名作「神霊矢口渡」を上演する。同公演期間中には、「Discover KABUKI—外国人のための歌舞伎鑑賞教室—」を3回実施するとともに、その翌日から「Multilingual Week」と題して、多言語の音声同時解説を有料で提供する。また、歌舞伎公演では初の試みとして、体験型ワークショップを2回(日本人向けと外国人向け)実施する。

7月は、限取の化粧や華やかな扮装、様々な見得を含めた演技など、短い上演時間の中で歌舞伎の様式美を楽しめる「菅原伝授手習鑑一車引」と狂言の「棒縛」を原作とした松羽目物の舞踊劇「棒しばり」を取り上げ、歌舞伎の多様な魅力を提供する。

(a) 公演実績(新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除く)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
10月歌舞伎公演 通し狂言「天竺徳兵衛韓噺」	本館 大劇場	10月2日(水) ～10月26日(土)	実績	23回	23日	15,936人	45.6%	34,960	93.7%
			計画	25回	25日	17,000人	44.7%	38,000	
11月歌舞伎公演 通し狂言「孤高勇士嬢景清—日向嶋—」	本館 大劇場	11月2日(土) ～11月25日(月)	実績	24回	24日	16,520人	45.3%	36,480	78.7%
			計画	24回	24日	21,000人	57.6%	36,480	
12月歌舞伎公演 「近江源氏先陣館—盛綱陣屋—」、「蝙蝠の安さん」	本館 大劇場	12月4日(水) ～12月26日(木)	実績	27回	23日	21,747人	53.0%	41,040	94.6%
			計画	23回	23日	23,000人	65.8%	34,960	
初春歌舞伎公演 通し狂言「菊一座令和仇討」	本館 大劇場	1月3日(金) ～1月27日(月)	実績	25回	25日	23,351人	63.7%	36,650	86.8%
			計画	25回	25日	26,900人	70.8%	38,000	
3月歌舞伎公演 通し狂言「義経千本桜」 ※公演中止	本館 小劇場	3月3日(火) ～3月26日(木)	実績						
			計画						
歌舞伎公演【小 計】 4 公演 (計画:5 公演)			実績	99回	95日	77,554人	52.0%	149,130	88.2%
			計画	97回	97日	87,900人	59.6%	147,440	
6月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」、 「神霊矢口渡」	本館 大劇場	6月2日(日) ～6月24日(月)	実績	46回	23日	49,447人	70.7%	69,920	89.9%
			計画	46回	23日	55,000人	78.7%	69,920	
7月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」、 「菅原伝授手習鑑 —車引—」 「棒しばり」	本館 大劇場	7月3日(水) ～7月24日(水)	実績	44回	22日	54,796人	81.9%	66,880	87.3%
			計画	44回	22日	62,800人	93.9%	66,880	
歌舞伎鑑賞教室【小 計】 2 公演 (計画:2 公演)			実績	90回	45日	104,243人	76.2%	136,800	88.5%
			計画	90回	45日	117,800人	86.1%	136,800	
歌舞伎【合 計】 6 公演 (計画:7 公演)			実績	189回	140日	181,797人	63.6%	285,930	88.4%
			計画	187回	142日	205,700人	72.4%	284,240	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(a) 公演実績(年度当初の公演計画)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
10月歌舞伎公演 通し狂言「天竺徳兵衛韓噺」	本館 大劇場	10月2日(水) ～10月26日(土)	実績	23回	23日	15,936人	45.6%	34,960	93.7%
			計画	25回	25日	17,000人	44.7%	38,000	
11月歌舞伎公演 通し狂言「孤高勇士嬢景清—日向嶋—」	本館 大劇場	11月2日(土) ～11月25日(月)	実績	24回	24日	16,520人	45.3%	36,480	78.7%
			計画	24回	24日	21,000人	57.6%	36,480	
12月歌舞伎公演 「近江源氏先陣館—盛綱陣屋—」、「蝙蝠の安さん」	本館 大劇場	12月4日(水) ～12月26日(木)	実績	27回	23日	21,747人	53.0%	41,040	94.6%
			計画	23回	23日	23,000人	65.8%	34,960	
初春歌舞伎公演 通し狂言「菊一座令和仇討」	本館 大劇場	1月3日(金) ～1月27日(月)	実績	25回	25日	23,351人	63.7%	36,650	86.8%
			計画	25回	25日	26,900人	70.8%	38,000	
3月歌舞伎公演 通し狂言「義経千本桜」 ※公演中止	本館 小劇場	3月3日(火) ～3月26日(木)	実績						
			計画	26回	23日	9,100人	75.8%	12,006	

歌舞伎公演【小 計】 4 公演 (計画:5 公演)			実績	99 回	95 日	77,554 人	52.0%	149,130	80.0%
			計画	123 回	120 日	97,000 人	60.8%	159,446	
6 月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」、 「神霊矢口渡」	本館 大劇場	6 月 2 日(日)	実績	46 回	23 日	49,447 人	70.7%	69,920	89.9%
		～6 月 24 日(月)	計画	46 回	23 日	55,000 人	78.7%	69,920	
7 月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」、 「菅原伝授手習鑑 一車引 —」 「棒しばり」	本館 大劇場	7 月 3 日(水)	実績	44 回	22 日	54,796 人	81.9%	66,880	87.3%
		～7 月 24 日(水)	計画	44 回	22 日	62,800 人	93.9%	66,880	
歌舞伎鑑賞教室【小 計】 2 公演 (計画:2 公演)			実績	90 回	45 日	104,243 人	76.2%	136,800	88.5%
			計画	90 回	45 日	117,800 人	86.1%	136,800	
歌舞伎【合 計】 6 公演 (計画:7 公演)			実績	189 回	140 日	181,797 人	63.6%	285,930	84.6%
			計画	213 回	165 日	214,800 人	72.5%	296,246	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b) 外部専門家等の意見

- ・公演専門委員会 6/13 に第 1 回を開催、3/25 に予定していた第 2 回は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、書面開催とした。

(c) アンケート調査

配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
6,937 人	4,942 人	4,323 人	4,266 人	71.2%	98.7%
《Discover KABUKI のみのアンケート調査結果》 ※()内は外国人のみの数値					
2,510 人	1,890 人	1,628 人 (1,109 人)	1,599 人 (1,089 人)	75.3%	98.2% (98.2%)

※全 6 公演で、計 9 回実施。うち 3 回を「Discover KABUKI」で実施した。

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・外部専門家の意見では、各公演とも内容にそれぞれ工夫が感じられ、レベルの高い舞台が多かったとの評価を得た。
- ・10 月歌舞伎公演「天竺徳兵衛韓嘶」では、台本、演出を整理して、全体のテンポアップを実現した。また、作品の魅力を伝える通し上演や、初役の中村芝翫の演技とともに、若手俳優陣の挑戦が評価され、国立劇場で復活した通し狂言の次世代への継承と、レパートリーの充実に寄与することができた。公演期間中、台詞を英語・中国語・韓国語で表示する多言語ポータブル字幕機の有料貸出しや、歌舞伎の概要説明・演目解説・あらすじを 1 冊にまとめた上記 3ヶ国語による解説書の無料配布を実施し、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けて歌舞伎公演における多言語対応を充実させた。
- ・11 月歌舞伎公演「孤高勇士嬢景清一日向嶋」では、物語のクライマックス「日向嶋」を中心に据えた通し上演によって、主人公・悪七兵衛景清の人物像を際立たせてドラマに深みを与え、国立劇場ならではの意義ある公演と評価された。中村吉右衛門を中心とする俳優陣の的確な演技や、全体の作曲・補曲も担当した竹本葵太夫(同月人間国宝に認定)を始め竹本の充実した演奏も、劇評・新聞評で高い評価を得た。
- ・12 月歌舞伎公演では、松本白鸚が「近江源氏先陣館—盛綱陣屋—」の主人公・佐々木盛綱を勤め、祖父・初代中村吉右衛門から父・初代松本白鸚を經由して継承した演出を通して、複雑な心理描写を分かりやすく表現して優れた境地を見せたと評価された。また、周囲の俳優陣の好演も舞台成果の充実に貢献した。一方、「蝙蝠の安さん」では、世界初の舞台化としてチャップリン家の公認を受け、昭和 6 年(1931)初演の脚色台本を補綴し、舞台転換や音楽にも工夫を凝らし、テンポの良い舞台にまとめ上げた。主人公を勤めた松本幸四郎の巧みな人物造形も評価された。また、「蝙蝠の安さん」のみを上演する「Chaplin KABUKI NIGHT」を 19:00 開演で 5 回実施し、ロビーでの資料展示や特別プログ

ラムの販売、特設フォトスポットの設置等により、公演を盛り上げた。

- ・初春歌舞伎公演「菊一座令和仇討」は、登場人物や物語の重要なアイテムを整理するとともに、謀反を企む巨悪を始め新たなキャラクターを設定し、主家の重宝詮議と仇討の物語が展開するという構成で台本を補綴し、上演時間を約3時間30分(休憩を含む)に収め、内容が分かりやすいとの評価を得た。原作の趣向を随所に活かした演出も、劇評で高く評価され、両花道の使用は、初春興行に相応しい華やかな雰囲気を生み、舞台効果を高めた。また、題名の「菊一座」が示す通りのチームワークの良さや適材適所の配役が舞台を盛り上げ、SNSや新聞評で評価された。
- ・3月歌舞伎公演は、新型コロナウイルス感染症対策に係わる政府の要請を受け、感染症の拡大防止のため、公演中止となったが、映像配信のため、無観客で上演し、予定していた公演記録映像の収録を実施し、同映像を一部編集した上、YouTube 国立劇場チャンネルにおける期間限定(4/6~30)の無料配信を実施した。外部専門家の意見や新聞記事で、画期的な事業であると高く評価された。
- ・「Discover KABUKI—外国人のための歌舞伎鑑賞教室—」では、昨年引き続き日・英・中・韓・スペイン語・フランス語の6言語による多言語対応を実施した。「Multilingual Week」を含め、外国人が気軽に歌舞伎を鑑賞できる機会を増やした。歌舞伎公演では初の試みとして体験型ワークショップを日本人向け(6月鑑賞教室)・外国人向け(6月「Discover KABUKI」)に分けて試験的に実施し、俳優の演技や音楽の演奏等を体験させたが、100%の満足度を得た。今回は参加費無料で実施したが、今後の有料化に向けた内容の充実を図る。

【特記事項】

- ・令和元年度(第74回)文化庁芸術祭主催公演(10月)
- ・令和元年度(第74回)文化庁芸術祭協賛公演(11月)
- ・beyond2020 プログラム認証事業(全公演)
- ・「日本博」主催・共催型プロジェクト(11月、6月「Discover KABUKI」)
- ・「日本博」参画プロジェクト(10月、12月、初春、6月・7月鑑賞教室)
- ・台詞を英語・中国語・韓国語で表示する多言語ポータブル字幕機の有料貸出しと、歌舞伎の概要説明・演目解説・あらすじを1冊にまとめた上記3ヶ国語による解説書の無料配布による多言語対応の拡充。(10月)
- ・文楽と歌舞伎で同一作品を上演するという国立劇場ならではの特色を活かし、9月文楽公演「嬢景清八嶋日記」と11月歌舞伎公演「孤高勇士嬢景清一日向嶋」が連携し、「日向嶋」ダブル観劇キャンペーンを展開。
- ・日本博主催・共催プロジェクトとして、国立劇場では初めて幕見席を販売。(11月)
- ・ウズベキスタンのバフティヨル・サイフラエフ文化大臣とアクバロフ文化省部長が11月歌舞伎を観劇。(11/22)
- ・12月「Chaplin KABUKI NIGHT」協賛：読売新聞社。
- ・チャールズ・チャップリンの四男であるユージーン氏が12月歌舞伎公演を観劇し、終演後に松本幸四郎と対面。(12/11)
- ・字幕表示装置により、演奏に合わせて詞章を表示し、鑑賞の助けとした(6月・7月鑑賞教室)。
- ・国立劇場の歌舞伎公演では初めての体験型ワークショップを、日本人向けと外国人向けで実施。(6月鑑賞教室)
- ・外国人を対象にした入門公演「Discover KABUKI—外国人のための歌舞伎鑑賞教室—」の2日3回公演と「Multilingual Week」(6/19~24)の実施。
- ・3月歌舞伎公演は、新型コロナウイルス感染症対策に係わる政府の要請を受け、感染症の拡大防止のため公演中止となったが、映像配信のため、無観客で上演し、当初予定されていた公演記録映像の収録を実施し、同映像を期間限定・無料配信。政府主催「東日本大震災九周年追悼式」も中止。

② 文 楽

《制作方針》

文楽の保存と振興のため、「通し狂言」「見取り狂言」等の様々な形態により上演する。

それらの公演の中で、上演頻度が少ない演目や場面を積極的に取り上げ、文楽技芸員にとり、次世代への技芸の継承やレパートリー拡充に繋がるように努める。

また、解説を付した鑑賞教室を継続して実施する。初心者や低年齢層にも鑑賞しやすく、文楽の魅力に触れることができるような新作の上演にも取り組む。併せて、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の文化プログラムの実施に向け、外国人旅行者等に訴求力のある公演を制作する。

○

本館5月公演では、国立文楽劇場の開場35周年記念として、また令和最初の文楽公演として、皇族や公家の世界を描く王代物の傑作『妹背山婦女庭訓』を取り上げ、東京では15年ぶりの通し狂言として上演する。今回は物語の発端に当たる大序「大内の段」を98年ぶりに復活し、物語全体の構造を把握しやすくする。9月公演は、第一部に近松門左衛門の最高傑作の誉れが高い『心中天網島』を、第二部に源平争乱を描いた時代物『嬢景清八嶋日記』と世話物の傑作『艶容女舞衣』を上演する。特に中堅クラスの太夫に初役で重要な段を担わせるなど、技芸の伝承をにらんだ配役とする。また、『嬢景清八嶋日記』は、11月に上演を控えた歌舞伎公演『孤高勇士嬢景清』のもとになる作品であり、文楽と歌舞伎の両方で作品を鑑賞できる国立劇場ならではの上演となる。12月公演は従来どおり、普及振興のための文楽鑑賞教室公演と中堅若手の技芸向上を目的とした若手公演とする。12月鑑賞教室公演は学生の団体鑑賞のための昼公演ばかりでなく、社会人を対象とした社会人のための文楽鑑賞教室を夜公演で2回、外国人向けの「Discover BUNRAKU」公演を2回上演する。2月公演は三部制とし、第一部を時代物の代表作「菅原伝授手習鑑」、第二部を世話物の名作「新版歌祭文」と竹本津駒太夫改め六代目竹本綴太夫襲名披露狂言として「傾城反魂香」、第三部は「傾城恋飛脚」「鳴響安宅新関」の公演とする。

文楽劇場では、開場35周年記念企画として4月、夏休み、11月の3公演連続しての「仮名手本忠臣蔵」の全段上演を行う。4月公演では、1日で通し上演する場合には上演時間の都合等で割愛される二段目「桃井館力弥使者の段」、11月公演では、102年ぶりに原作通り復曲される十段目「天河屋の段」、十一段目「花水橋引揚の段」と「光明寺焼香の段」の連続しての上演など、見どころの多い企画とする。ほかに4月公演第二部では平成27年5月東京公演で復活した立ち廻りの場面を文楽劇場では初めて上演する「祇園祭礼信仰記」、当時起こった刃傷事件と親孝行な猿廻しを脚色した「近頃河原の達引」と、華やかな時代物と情感あふれる世話物という対照的な演目を併せて上演し、文楽の様々な魅力を伝える。夏休み文楽特別公演は、好評の三部制を令和元年度も継続し、それぞれ親子劇場、名作劇場、サマーレイトショーと銘打ち、親子、文楽ファン、社会人を観客ターゲットとする公演を行う。親子劇場では新作文楽「かみなり太鼓」の新たな舞台演出を加えた再演、名作劇場では35周年記念企画「仮名手本忠臣蔵」の五段目から七段目まで、レイトショーでは文楽では珍しい本水を使った「国言詢音頭」を上演する。11月公演第一部では、近松門左衛門作の人気狂言「心中天網島」を上演して集客を図り、第二部では「仮名手本忠臣蔵」の完結編を上演する。初春公演は、第一部で六代目竹本綴太夫襲名披露狂言「傾城反魂香」を中心とした演目、第二部では「女忠臣蔵」と称される「加賀見山旧錦絵」と落語の題材にもなった吉原遊女の情話を描いた「明烏六花曙」を上演する。6月には、若年層を対象とした文楽鑑賞教室、一般向けの「社会人のための文楽鑑賞教室」、外国人向けの「Discover BUNRAKU」を実施し、社会人、外国人向け公演については案内役を起用した分かりやすい解説を付け、文楽の一層の普及振興に努める。

(a) 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
5月文楽公演 「妹背山婦女庭訓」	本館 小劇場	5月11日(土) ～5月27日(月)	実績	34回	17日	17,592人	97.1%	18,122	110.6%
			計画	34回	17日	15,900人	87.7%	18,122	
9月文楽公演 「心中天網島」/「嬢景清八嶋日記」 「艶容女舞衣」	本館 小劇場	9月7日(土) ～9月23日(月)	実績	34回	17日	17,096人	89.8%	19,040	100.6%
			計画	34回	17日	17,000人	89.3%	19,040	
12月文楽公演 「一谷嫩軍記」	本館 小劇場	12月3日(火) ～12月15日(日)	実績	13回	13日	6,764人	92.9%	7,280	99.9%
			計画	13回	13日	6,770人	93.0%	7,280	

2月文楽公演 「菅原伝授手習鑑」／「新版歌祭文」 「傾城反魂香」／「傾城恋飛脚」 「鳴響安宅新開」	本館 小劇場	2月8日(土) ～2月24日(月)	実績	51回	17日	21,471人	75.2%	28,560	100.3%
			計画	51回	17日	21,400人	74.9%	28,560	
文楽(本館)【小計】 4公演 (計画:4公演)			実績	132回	64日	62,923人	86.2%	73,002	103.0%
			計画	132回	64日	61,070人	83.7%	73,002	
12月文楽鑑賞教室 解説「文楽の魅力」 「伊達娘恋緋鹿子」 「平家女護島」	本館 小劇場	12月3日(火) ～12月15日(日)	実績	25回	13日	13,517人	97.8%	13,825	105.6%
			計画	25回	13日	12,800人	96.4%	13,272	
文楽鑑賞教室(本館)【小計】 1公演 (計画:1公演)			実績	25回	13日	13,517人	97.8%	13,825	105.6%
			計画	25回	13日	12,800人	96.4%	13,272	
文楽(本館)【合計】 5公演 (計画:5公演)			実績	157回	77日	76,440人	88.0%	86,827	103.5%
			計画	157回	77日	73,870人	85.6%	86,274	
4月文楽公演 「仮名手本忠臣蔵(大序～四段目)」 「祇園祭礼信仰記」 「近頃河原の達引」	文楽 劇場	4月6日(土) ～4月29日(月・祝)	実績	46回	23日	22,075人	65.6%	33,626	110.4%
			計画	46回	23日	20,000人	59.5%	33,626	
夏休み文楽特別公演 「日高川入相花王」 解説「文楽ってなあに？」 「仮名手本忠臣蔵(五段目～七段目)」 「国言詢音頭」	文楽 劇場	7月20日(土) ～8月5日(月)	実績	51回	17日	24,661人	68.0%	36,261	116.3%
			計画	51回	17日	21,200人	56.9%	37,281	
11月文楽公演 「心中天網島」 「仮名手本忠臣蔵(八段目～十一段目)」	文楽 劇場	11月2日(土) ～11月24日(日)	実績	44回	22日	25,263人	78.5%	32,164	131.6%
			計画	44回	22日	19,200人	59.7%	32,164	
初春文楽公演 「七福神宝の入船」 「傾城反魂香」 「曲輪文章」 「加賀見山旧錦絵」 「明烏六花曙」	文楽 劇場	1月3日(金) ～1月26日(日)	実績	46回	23日	19,991人	59.5%	33,626	93.0%
			計画	46回	23日	21,500人	63.9%	33,626	
文楽(文楽劇場)公演【小計】 4公演 (計画:4公演)			実績	187回	85日	91,990人	67.8%	135,677	112.3%
			計画	187回	85日	81,900人	59.9%	136,697	
6月文楽鑑賞教室、 「五条橋」、 解説「文楽へようこそ」、 「菅原伝授手習鑑」	文楽 劇場	6月7日(金) ～6月20日(木)	実績	28回	14日	16,811人	82.1%	20,468	90.9%
			計画	28回	14日	18,500人	90.4%	20,468	
文楽(文楽劇場)鑑賞教室【小計】 1公演 (計画:1公演)			実績	28回	14日	16,811人	82.1%	20,468	90.9%
			計画	28回	14日	18,500人	90.4%	20,468	
文楽(文楽劇場)【合計】 5公演 (計画:5公演)			実績	215回	99日	108,801人	69.7%	156,145	108.4%
			計画	215回	99日	100,400人	63.9%	157,165	
文楽【総合計】 10公演 (計画:10公演)			実績	372回	176日	185,241人	76.2%	242,972	106.3%
			計画	372回	176日	174,270人	71.6%	243,439	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b) 外部専門家等の意見

- ・公演専門委員会を本館・文楽劇場で各2回開催(6月21日、本館2回目(3月)は書類開催/5月27日、3月6日)。

(c) アンケート調査

《本館》

配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
2,059 人	1,460 人	1,261 人	1,257 人	70.9%	99.7%
《Discover BUNRAKU(東京公演)のみのアンケート調査結果》 ※()内は外国人のみの数値					
876 人	617 人	509 人 (264 人)	508 人 (264 人)	70.4%	99.8% (100%)

※5月公演、9月公演、12月、2月公演の4公演で計5回実施。うち2回を「Discover BUNRAKU－外国人のための文楽鑑賞教室－」で実施。

《文楽劇場》

配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
3,026 人	2,021 人	1,939 人	1,908 人	66.8%	98.4%
《Discover BUNRAKU(大阪公演)のみのアンケート調査結果》 ※()内は外国人のみの数値					
538 人	465 人	430 人 (174 人)	422 人 (171 人)	86.4%	98.1% (98.3%)

※4月公演、夏休み文楽特別公演、11月公演、初春公演、6月鑑賞教室の5公演で計6回実施。うち1回を「Discover BUNRAKU－BUNRAKU for Beginners－」で実施。

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・制作方針に従い、通しでの上演、上演機会の少ない優れた場面の復活等を実施した。
- ・本館5月公演は、人形浄瑠璃文楽座の総力を結集した通し狂言の上演となり、好評を呼び、目標を大きく上回る入場者数を記録した。また、98年振りの復活となった「大序」の上演は、複雑な物語の構造を把握しやすくするとともに、出演した若手技芸員が技量の進展を示す場ともなった。初演通りの順序での上演は高く評価された。
- ・本館9月文楽公演「心中天網島」は、好評で、目標入場者数に達することができた。『心中天網島』北新地河庄の段、『嬢景清八嶋日記』日向嶋の段で、至難とされる段に中堅の太夫を初役で挑戦させ、一定の評価を得た。
- ・12月文楽公演では、若手の研鑽にふさわしい演目「一谷嫩軍記」を、ベテランの三味線と若手の太夫による組み合わせで、人形はダブルキャストの多用といった配役の工夫を凝らした成果があり、中堅・若手技芸員の技芸向上に寄与した。
- ・2月文楽公演では、三部制とし、第一部を時代物の代表作「菅原伝授手習鑑」、第二部を世話物の名作「新版歌祭文」と竹本津駒太夫改め六代目竹本鍛太夫襲名披露狂言として「傾城反魂香」、第三部は「傾城恋飛脚」と「鳴響安宅新関」を上演した。時代物、世話物両方の名作を取りそろえたコンパクトな組立てで、観劇歴の浅い観客層が気軽に楽しめるよう誘引力の向上を狙った。また夜公演のため例年集客力の弱い第3部では、明快なストーリーの「鳴響安宅新関」を上演することで、公演全体で襲名披露を寿ぎかつ新規観客層の獲得を目指した。
- ・本館12月文楽鑑賞教室公演での外国人向けの公演「Discover BUNRAKU」は、2日間2回実施した。イヤホンガイドも日本語、英語、中国語、韓国語、スペイン語、フランス語の6か国語を用意した。併せて解説では観客の視点から文楽という芸能の構造、演目の紹介を細やかに解説し、文楽に馴染みのない外国人に対して解りやすく鑑賞してもらうよう努めた。
- ・文楽劇場では、開場35周年記念企画として4月、夏休み、11月の3公演連続しての「仮名手本忠臣蔵」の全段上演を行った。4月公演では、1日で通し上演する場合には上演時間の都合等で割愛される二段目「桃井館力弥使者の段」を上演した。
- ・文楽劇場夏休み文楽特別公演の「親子劇場」に関して、昨年に引き続き、文楽座若手技芸員及びボランティアの「文楽応援団」の協力を得て体験ワークショップを実施した。1階資料展示室内に設けた模擬舞台及び床で、第一部開演前の時間帯に来場した子供たちが日替わりで文楽の三業を体験した。
- ・文楽劇場11月公演第二部「仮名手本忠臣蔵」では、野澤錦糸により十段目「天河屋の段」が復曲され、102年ぶりに原作どおりの口・奥の形式で上演したほか、十一段目は鶴澤清介の補曲により、通常はどちらかだけを上演する「花水橋引揚の段」と「光明寺焼香の段」の二つの段を、初めて続けて上演することが出来た。

- ・ 文楽劇場 6 月公演では、若年層を対象とした文楽鑑賞教室、一般向けの「社会人のための文楽鑑賞教室」、外国人向けの「Discover BUNRAKU」を実施し、社会人、外国人向け公演については案内役を起用した分かりやすい解説を付け、文楽の一層の普及振興に努めた。

【特記事項】

- ・ 「日本博」主催・共催型プロジェクト(文楽劇場 6 月、本館 12 月「Discover BUNRAKU」公演)
- ・ 「日本博」参画プロジェクト(文楽劇場 4 月・夏休み・11 月の 3 公演に亘る「仮名手本忠臣蔵」の通し上演、本館 5 月、9 月、12 月(鑑賞教室含む)、2 月公演)
- ・ 令和元年度(第 74 回)文化庁芸術祭主催公演(文楽劇場 11 月公演)
- ・ 関西元気文化圏共催事業(文楽劇場の全公演)
- ・ beyond2020 プログラム認証事業(全公演)
- ・ 各公演とも、字幕表示装置により義太夫の詞章を表示した。
- ・ 国立文楽劇場開場 35 周年記念(文楽劇場の全公演、本館 5 月公演)
- ・ 上演機会の少ない場面の上演等(文楽劇場 4 月文楽公演「仮名手本忠臣蔵」(桃井館力弥使者：国立文楽劇場では初めての上演)、1 月「明烏六花曙」(24 年振りの上演))

③ 舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等

(a) 公演実績

区分名	公演数 劇場	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
舞踊	4 公演	実績	9 回	5 日	6,986 人	85.8%	8,138	121.1%
	本館大小劇場、文楽劇場	計画	9 回	5 日	5,770 人	70.9%	8,138	
邦楽	5 公演	実績	7 回	7 日	3,023 人	70.8%	4,271	103.9%
	本館小劇場、文楽劇場	計画	6 回	6 日	2,910 人	78.6%	3,703	
雅楽	1 公演	実績	1 回	1 日	543 人	92.0%	590	135.8%
	本館小劇場	計画	1 回	1 回	400 人	67.8%	590	
声明	2 公演	実績	2 回	2 日	2,525 人	78.4%	3,220	99.4%
	本館大劇場	計画	2 回	2 日	2,540 人	78.9%	3,220	
民俗芸能	3 公演	実績	5 回	4 日	2,812 人	85.8%	3,276	137.8%
	本館小劇場、文楽劇場	計画	5 回	4 日	2,040 人	62.3%	3,276	
特別企画	6 公演	実績	7 回	6 日	4,379 人	83.6%	5,237	118.4%
	本館大小劇場、文楽劇場	計画	7 回	6 日	3,700 人	70.7%	5,237	
合計	21 公演	実績	31 回	25 日	20,268 人	82.0%	24,732	116.8%
		計画	30 回	24 日	17,360 人	71.8%	24,164	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b) 外部専門家等の意見

- ・ 公演専門委員会を本館各ジャンル及び文楽劇場で各 2 回開催。本館 2 回目は舞踊以外書面開催。
 - ◇ 6 月 14 日、1 月 22 日 舞踊専門委員会
 - ◇ 6 月 17 日 邦楽公演専門委員会
 - ◇ 6 月 13 日 雅楽・声明公演専門委員会
 - ◇ 6 月 25 日 民俗芸能専門委員会
 - ◇ 5 月 27 日、3 月 2 日 短期公演等専門委員会(文楽劇場)

(c) アンケート調査

配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
7,551 人	4,890 人	4,393 人	4,294 人	64.8%	97.7%

※舞踊公演 1 回、邦楽公演 2 回、雅楽公演 1 回、声明公演 1 回、民俗芸能公演 1 回、文楽劇場民俗芸能公演 1 回、特別企画公演 4 回の計 11 回実施

(d) 優れた業績・評価すべき点

【本館】

《舞踊》

- ・ 8 月「花形・名作舞踊鑑賞会」は、中堅・若手舞踊家が歌舞伎舞踊の名作に挑み、その魅力を広める夏恒例の公演として定着し、今年も着実な舞台成果を得た。京阪の四流を中心に、上方舞の名手がつどう東京では貴重な機会である 8 月「舞の会ー京阪の座敷舞ー」では、久々の上演となる作品や、新たに振付を施した作品などを交えた構成を通じて、幅広い舞の世界を示すことができた。11 月「京舞」は五世家元、井上八千代を中心とする祇園甲部の京舞を特集する公演で、21 年ぶりの開催となった。60 人以上の芸妓、舞妓による「引っ越し公演」と言え、また過去 4 回の同公演では取り上げていなかった演目、井上八千代が東京では初めて上演する演目、祇園ならではの手打など、独自の美質とレパートリーを有する京舞の全貌を楽しめる内容となり、洗練された舞台と高い入場率により充実した公演とすることができた。

《邦楽》

- ・ 6月「日本音楽の流れⅢ—三味線—」では、日本の伝統楽器の一つ・三味線の歴史や特色を紹介することができた。各分野の実力者による演奏は、それぞれの魅力を十分に示す舞台となった。また、伝承者の少ないゴッタンの上演は技芸の継承に寄与し、画像や映像を用いた解説は各流派の特色を紹介するのに寄与した。三味線を用いた現代曲の委嘱初演は、邦楽の可能性を拓くことができた。
- ・ 本館10月公演では、「東海道」に関連した多彩な邦楽作品をお楽しみいただいた。幅広いジャンルを網羅するとともに、それぞれ質の高い演奏を上演した。江戸時代の浮世絵を見て、邦楽の演奏をお聴きいただくことにより、視覚と聴覚の双方から作品世界に迫ることができ、各演目への一層深い理解に寄与した。また、曲間の演劇・解説・アニメーションは、観客を江戸時代の旅に引き込むのに効果的な役割を果たした。江戸東京博物館で実施したプレ公演においても、常設展の浮世絵展示と関連した舞踊・邦楽の特色を紹介することができた。
- ・ 10月「文楽素浄瑠璃の会」、1月「邦楽鑑賞会—長唄の会・三曲の会—」においても、人間国宝をはじめ斯界の第一人者による競演で名演の数々を披露することができた。各演目とも作品の趣意を的確に捉えた演奏で、国立劇場の公演ならではの質の高い舞台であった。

《雅楽》

- ・ 11月「雅楽 アジアの響き」では、雅楽の古典曲、復曲作品をジャンルごとに紹介することによって、それぞれの特徴をわかりやすく伝えるとともに、雅楽の多様性を示した。特に、正倉院復元楽器を使用した復曲作品の再演により、演目の拡充を図ることができた。東京国立博物館での関連コンサートを実施し、また公演中に東京国立博物館研究員による解説の時間を設けたことによって、他の文化施設と連携した企画とすることができた。

《声明》

- ・ 9月声明は、「黄檗宗大本山萬福寺の梵唄」を特集し、日々唱えられる「朝課」、年間を通して最も大きい法要の「施餓鬼」と「大般若転読」の3種類を取り上げた。萬福寺の主な法要が一度に味わえる企画として、黄檗宗独特の特徴ある声明を紹介することができた。
- ・ 2月声明は、薬師寺の代表的な行事「花会式」を国立劇場では21年ぶりに紹介した。音楽的な声明と独特の作法を含む、変化に富んだ構成の「初夜行法」を取り上げ、薬師寺の法要の特徴と魅力を紹介することができた。花会式の大きな特徴である堂内を荘厳する造花を舞台美術として配置し、現地の雰囲気再現すると共に華やかな舞台効果を得られた。

《民俗芸能》

- ・ 7月公演は、新天皇陛下が御即位され、「令和」時代がおめでたく「福」に溢れるよう「祝福芸」を取り上げた。万歳、春駒、人形劇などバラエティに富んだ芸能を紹介し、令和の時代の幕開きに相応しい祝祭的な上演とすることができた。また、各演目に先立つ解説により、各地域の現状及び上演内容の理解を深めることができた。
- ・ 1月公演は、八岐大蛇退治などの神話の源流である出雲から、国指定重要無形民俗文化財の「佐陀神能」と「大土地神楽」を取り上げた。両保存会にある同じ内容の演目を比較上演することで、保存会による表現の違いや特徴を示すことができた。また物産展を開催したことで、地域活性化に協力することができた。

《特別企画》

- ・ 4月「明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」では、今後の活躍が期待される出演者が実力を発揮し、本公演らしいのびやかな舞台とすることができた。また囃子においては現代曲を取り上げ、演奏家の個性に一層深く焦点を当てるとともに、観客へのアピールにもつなげることができた。
- ・ 5月「言葉〜ひびく〜身体Ⅰ 神々の残照—伝統と創造のあわいに舞う—」は、「言葉と身体」をコンセプトに、アーツカウンシル東京との共催により実施したものである。「神」をキーワードに日本舞踊、インド古典舞踊、トルコ旋回舞踊、コンテンポラリー・ダンスを取り上げ、国内外を問わず多様な舞踊(ダンス)を楽しめる公演として他に類例のないものとなった。
- ・ 6月、鶴岡八幡宮に伝わる御神楽を上演した。鶴岡八幡宮の御神楽は、古い形を神秘的に伝えており、12月の「御鎮座記念祭」において奉奏される次第を元に、公演用に巫女舞をクローズアップさせた形で上演した。鶴岡八幡宮の幻想的で厳かな雰囲気と悠々とした時間の流れを再現することができた。
- ・ 7月「親子で楽しむ舞踊・邦楽」では、舞踊や邦楽の実技にふれる「体験」、実演とともに学びを深める「解説」、本格的な踊りを見て演奏を聴く「鑑賞」という3ステップで伝統芸能の魅力をお楽しみいただいた。お客様にははじめて伝統芸能を見る方が多く、演奏「小鍛冶」と舞踊「鶯娘」という名作二本立ては満足度の高い公演となった。
- ・ 7月「大人のための声明入門」では、伝統的な声明や、新作声明の創作過程などについて実演を交え

た解説を行い、声明について幅広く紹介することができた。鑑賞では国立劇場の委嘱作品「蛙の声明」を30年ぶりに再演し、演目の継承を図ることができた。

- ・「大人のための雅楽入門」では、体験コーナーを大稽古場に移し事前申込制をとったことにより、課題であったロビーの混雑・暑さを回避し、また昨年よりも多くの方に体験していただくことができた。公演では、雅楽の基本的な事項についての実演解説と、代表的な舞楽「還城楽」の上演により雅楽の魅力を存分に示すことができた。

【文楽劇場】

《舞踊》

- ・10月舞踊公演「東西名流舞踊鑑賞会」では、国立文楽劇場開場35周年記念と銘打って、全体に祝賀的に彩られた格調高い内容となり、第一線で活躍する舞踊家や人気曲だけでなく、流儀ならではの稀曲も織り交ぜた意義深い公演となった。

《邦楽》

- ・8月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」では、「源平の合戦」をテーマに、「熊谷陣屋」「河連法眼館」「神崎揚屋」と聞きごたえのある3曲を上演した。

《民俗芸能》

- ・9月民俗芸能公演では、平成9年度以来22年振りに「ふるさとの人形芝居」を開場35周年記念として開催し、国立文楽劇場ならではの企画として日本各地から選りすぐった人形の芸能を紹介した。7日(土)は、「諸国人形めぐり一遣い方のさまざまー」と題し、福岡・岐阜・新潟・石川・兵庫(淡路島)の5県に伝わる、人形の大きさ・形態・遣い方の異なる芸能を上演、8日(日)は「淡路人形芝居」と題し、淡路人形座による「衣裳山」「玉藻前囃袂」を上演した。

《特別企画公演》

- ・5月「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」は、舞楽で始まるなど周年記念を飾る祝賀的な雰囲気でも幕を開け、舞踊・邦楽では新進・花形の出演者が揃い、充実した内容の番組となった。

【特記事項】

- ・令和元年度(第74回)文化庁芸術祭主催公演(本館10月歌舞伎、文楽劇場10月舞踊)
- ・令和元年度(第74回)文化庁芸術祭協賛公演(本館10月邦楽(2公演)、11月歌舞伎、11月雅楽、11月舞踊)
- ・「日本博」主催・共催型プロジェクト(本館11月舞踊、6月、10月、1月邦楽、11月雅楽、7月、1月民俗芸能、7月特別企画2件)
- ・「日本博」参画プロジェクト(本館8月舞踊2件、10月邦楽、9月、2月声明、5月特別企画)
- ・関西元気文化圏共催事業(文楽劇場の全公演)
- ・上演内容に応じて、字幕表示装置により、演奏に合わせて詞章等を表示し鑑賞の助けとした。
- ・本館5月特別企画公演は、アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)との共催により実施した。
- ・本館10月邦楽公演は、江戸東京博物館の協力を得て実施した。
- ・国立文楽劇場開場35周年記念

舞 踊

《制作方針》

本館では、各公演の企画意図に即しつつ、現在鑑賞することのできる最高水準の舞台を制作することを根幹とし、古典を軸に日本舞踊界の第一線で活躍する東西の舞踊家により、流派にとらわれず国立劇場独自の企画を盛り込みながら、広範な観客層への普及を図る。東京を中心に発展・継承されてきた歌舞伎舞踊と、京阪を中心に発展・継承されてきた上方舞を両輪とする。また、公演の意図や曲の性格に適した中堅や若手舞踊家の起用を積極的に行う。

文楽劇場 10 月公演「東西名流舞踊鑑賞会」は、開場 35 周年記念に相応しい祝賀性の強い公演とする。

東西の第一線で活躍する舞踊家が、古典から新作などの人気曲だけでなく、流儀ならではの稀曲も織り交ぜた舞踊に、演奏陣も各界の代表者を揃えた構成とする。

《公演実績》

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
8 月舞踊公演 「花形・名作舞踊鑑賞会」	本館 小劇場	8 月 3 日(土)	実績	2 回	1 日	807 人	77.3%	1,044	106.2%
			計画	2 回	1 日	760 人	72.8%	1,044	
8 月舞踊公演 「舞の会—京阪の座敷舞—」	本館 小劇場	8 月 31 日(土)	実績	2 回	1 日	983 人	83.3%	1,180	98.3%
			計画	2 回	1 日	1,000 人	84.7%	1,180	
11 月舞踊公演 「京舞」	本館 大劇場	11 月 29 日(金) ~11 月 30 日(土)	実績	3 回	2 日	4,308 人	94.5%	4,560	134.6%
			計画	3 回	2 日	3,200 人	70.2%	4,560	
舞踊(本館)【小 計】 3 公演 (計画:3 公演)			実績	7 回	4 日	6,098 人	89.9%	6,784	122.9%
			計画	7 回	4 日	4,960 人	73.1%	6,784	
10 月舞踊公演 「東西名流舞踊鑑賞会」	文楽 劇場	10 月 12 日(土)	実績	2 回	1 日	888 人	65.6%	1,354	109.6%
			計画	2 回	1 日	810 人	59.8%	1,354	
舞踊(文楽劇場)【小 計】 1 公演 (計画:1 公演)			実績	2 回	1 日	888 人	65.6%	1,354	109.6%
			計画	2 回	1 日	810 人	59.8%	1,354	
舞踊【合 計】 4 公演 (計画:4 公演)			実績	9 回	5 日	6,986 人	85.8%	8,138	121.1%
			計画	9 回	5 日	5,770 人	70.9%	8,138	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

【特記事項】

- ・ 令和元年度(第 74 回)文化庁芸術祭主催公演(文楽劇場 10 月)
- ・ 令和元年度(第 74 回)文化庁芸術祭協賛公演(本館 11 月)
- ・ 関西元気文化圏共催事業(文楽劇場 10 月)
- ・ 字幕表示装置により、演奏に合わせて詞章を表示して鑑賞の助けとした(本館 3 公演)
- ・ 国立文楽劇場開場 35 周年記念

邦 楽

《制作方針》

邦楽の各ジャンルの特徴やレパートリーの多彩さを踏まえ、国立劇場ならではの高い水準の舞台を目指す。出演者には各界の第一人者や実力者をはじめ、公演の意図や曲の性格に応じた演奏家を適宜起用する。劇場音楽として発展した長唄や浄瑠璃各派、純音楽として成立した地歌や箏曲など邦楽の幅広いジャンルの中から適切な演目を選び高い舞台成果をねらう。

本館は、6月「日本音楽の流れⅢ－三味線－」では、「三味線」の歴史や特色を紹介するとともに各分野の実力者による演奏で、それぞれの魅力を十分に示す。また、伝承者の少ない木製三味線(ゴットン)や狂言謡・地歌・声楽と三味線が共演する委嘱新作を上演する。10月邦楽公演「浮世絵の音風景－歌川広重『東海道五拾三次』をたどる－」では、東海道に取材した多彩なジャンルの邦楽を実力者の演奏でお楽しみいただく。各演目間には、演劇・解説・アニメーションなどを用いてより深く作品世界の理解に資するよう図る。10月「文楽素浄瑠璃の会」並びに1月「邦楽鑑賞会－長唄の会・三曲の会－」では各ジャンルの特色を示す演目を上演する。

文楽劇場 8月公演「文楽素浄瑠璃の会」では、人形の演技に頼ることなく太夫・三味線の演奏のみで観客の想像力に働きかける浄瑠璃の魅力を引き立て、改めて曲の内容の魅力に触れていただく。今回は「源平の合戦」をテーマに、「一谷嫩軍記」熊谷陣屋の段、「義経千本桜」河連法眼館の段、「ひらかな盛衰記」神崎揚屋の段と聞きごたえのある3曲を上演する。

《公演実績》

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
6月邦楽公演 「日本音楽の流れⅢ－三味線－」	本館 小劇場	6月8日(土)	実績	1回	1日	554人	93.9%	590	110.8%
			計画	1回	1日	500人	84.7%	590	
10月邦楽公演 「浮世絵の音風景」	本館 小劇場	10月4日(金) ～10月5日(土)	実績	2回	2日	480人	41.5%	1,158	96.0%
			計画	1回	1日	500人	84.7%	590	
10月邦楽公演 「文楽素浄瑠璃の会」	本館 小劇場	10月19日(土)	実績	1回	1日	558人	94.6%	590	99.6%
			計画	1回	1日	560人	94.9%	590	
1月邦楽公演 「邦楽鑑賞会－長唄の会－、 －三曲の会－」	本館 小劇場	1月18日(土) ～1月19日(日)	実績	2回	2日	938人	79.5%	1,180	98.7%
			計画	2回	2日	950人	80.5%	1,180	
邦楽(本館)【小計】4公演 (計画:4公演)			実績	6回	6日	2,530人	71.9%	3,518	100.8%
			計画	5回	5日	2,510人	85.1%	2,950	
8月邦楽公演 「文楽素浄瑠璃の会」	文楽 劇場	8月17日(土)	実績	1回	1日	493人	65.5%	753	123.3%
			計画	1回	1日	400人	53.1%	753	
邦楽(文楽劇場)【小計】1公演 (計画:1公演)			実績	1回	1日	493人	65.5%	753	123.3%
			計画	1回	1日	400人	53.1%	753	
邦楽【合計】5公演 (計画:5公演)			実績	7回	7日	3,023人	70.8%	4,271	103.9%
			計画	6回	6日	2,910人	78.6%	3,703	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

【特記事項】

- ・令和元年度(第74回)文化庁芸術祭協賛公演(本館10月2公演)
- ・関西元気文化圏共催事業(文楽劇場8月)
- ・字幕表示装置により、演奏に合わせて詞章を表示して鑑賞の助けとした(本館4公演、文楽劇場1公演)。
- ・国立文楽劇場開場35周年記念
- ・駐日コートジボワール共和国大使館のジェローム・クロー・ウェヤ大使閣下夫妻が1月邦楽公演「長唄の会」を鑑賞(1/18)。

雅 楽

《制作方針》

日本古来の歌舞と中国や朝鮮から渡来した舞や器楽を源流にして平安時代の王朝文化の中で大成した雅楽について、代表的な古典曲、廃絶した雅楽曲の復元曲など、その多彩な魅力を伝える公演を企画する。11月公演では、様々な形式の古典曲と、海外から伝来した当初に近い姿を留める正倉院復元楽器の紹介を通し、日本とアジアの音楽文化の結びつきを想起させる公演を目指す。

《公演実績》

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
11月雅楽公演 「雅楽 アジアの響き」	本館 小劇場	11月9日(土)	実績	1回	1日	543人	92.0%	590	135.8%
			計画	1回	1日	400人	67.8%	590	
雅楽【合計】 1公演 (計画:1公演)			実績	1回	1日	543人	92.0%	590	135.8%
			計画	1回	1日	400人	67.8%	590	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

【特記事項】

- ・令和元年度(第74回)文化庁芸術祭協賛公演
- ・主催：文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会(国立劇場)
- ・「日本博」主催・共催型プロジェクト 2019年度日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業
- ・beyond2020プログラム認証事業
- ・字幕表示装置により、曲目や歌詞のほか、演奏形式についての解説文を表示し鑑賞の助けとした。
- ・東京国立博物館で関連コンサートを実施した。

声 明

《制作方針》

仏教儀式において僧侶が唱える声明について、国立劇場ではその豊かな音楽性に着目して、各宗本山で行われている代表的な法会の紹介、廃絶している法会の復活、日本の現代詩を声明によってうたう試みなど様々な取組みを行う。

9月公演では、中国明代の特徴を今なお強く残している黄檗宗萬福寺の梵唄(声明)を取り上げ、日々唱えられる「朝課」、最も大きい法要である「施餓鬼」と「大般若転読」を紹介する。2月公演では、薬師寺の代表的な法要である花会式(修二会薬師悔過法要)を取り上げ、のびやかで力強い表現に特徴がある薬師寺の声明を紹介する。

《公演実績》

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
9月声明公演 「黄檗宗大本山 萬福寺の梵唄」	本館 大劇場	9月7日(土)	実績	1回	1日	1,148人	71.3%	1,610	90.4%
			計画	1回	1日	1,270人	78.9%	1,610	
2月声明公演 「薬師寺の声明」	本館 大劇場	2月15日(土)	実績	1回	1日	1,377人	85.5%	1,610	108.4%
			計画	1回	1日	1,270人	78.9%	1,610	
声明【合計】2公演 (計画:2公演)			実績	2回	2日	2,525人	78.4%	3,220	99.4%
			計画	2回	2日	2,540人	78.9%	3,220	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

【特記事項】

- ・「日本博」参画プロジェクト(9月、2月)
- ・beyond2020 プログラム認証事業
- ・字幕表示装置により、舞台の進行に合わせて式次第と経文を表示して鑑賞の助けとした(9月、2月)。
- ・大劇場ロビーにて、京都宇治市による観光物産展と禅宗関係の書籍、CDの販売を行った(9月)。
- ・ロビーに萬福寺のシンボルともいえる魚槌(レプリカ)を飾った。他にも萬福寺で展示されている羅怛羅尊者のパネルや、魚槌の体験用楽器を持ち込み、ロビーを賑やかにした(9月)。
- ・2020年オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向け、セキュリティ対策を強化・充実させるため、来場者の手荷物検査を試行的に実施した。事前周知により観客の協力を仰ぎ、当日は開場時間を通常より早め、誘導・案内要員を増員して、混乱なく開演時間前に終了した(2月)。
- ・大劇場ロビーに特設売店を開設し、上演演目に因んで奈良県の物産及び薬師寺のグッズ・書籍を販売し、観光案内チラシを置いた(2月)。
- ・薬師寺国宝東塔大修理落慶記念公演であることにちなみ、大劇場ロビーにてパネル展示を行い、東塔の歴史や修理の様子、水煙と振興会の紋章の関係を紹介した(2月)。

民俗芸能

《制作方針》

全国各地で行われている民俗芸能の中から、伝承が確かで、しかも舞台での上演が可能な芸能を広く一般に紹介し、その理解を深める。

7月公演では、「祝福芸」のうち、三河万歳(愛知県)、阿波木偶箱まわし(徳島県)、一之瀬高橋の春駒(山梨県)の芸能を紹介する。前半に代表的な門付け芸を、後半はその門付け芸から派生した娯楽的な演目を上演する。

1月公演では、「出雲の神楽」にスポットを当て、国指定重要無形民俗文化財の「佐陀神能」と「大土地神楽」を紹介する。両保存会にある同じ内容の演目を異なる見せ方で比較鑑賞できる番組構成とする。

文楽劇場9月民俗芸能公演では、平成9年度以来22年振りに「ふるさとの人形芝居」を開場35周年記念として開催し、国立文楽劇場ならではの企画として日本各地から選りすぐった人形の芸能を紹介する。

《公演実績》

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
7月民俗芸能公演 「祝福芸」	本館 小劇場	7月27日(土)	実績	1回	1日	523人	88.6%	590	130.8%
			計画	1回	1日	400人	67.8%	590	
1月民俗芸能公演 「出雲の神楽」	本館 小劇場	1月25日(土)	実績	2回	1日	1,084人	91.9%	1,180	135.5%
			計画	2回	1日	800人	67.8%	1,180	
民俗芸能(本館)【小計】2公演(計画:2公演)			実績	3回	2日	1,607人	90.8%	1,770	133.9%
			計画	3回	2日	1,200人	67.8%	1,770	
9月民俗芸能公演 「ふるさとの人形芝居」	文楽 劇場	9月7日(土)	実績	2回	2日	1,205人	80.0%	1,506	143.5%
		～9月8日(日)	計画	2回	2日	840人	55.8%	1,506	
民俗芸能(文楽劇場)【小計】1公演(計画:1公演)			実績	2回	2日	1,205人	80.0%	1,506	143.5%
			計画	2回	2日	840人	55.8%	1,506	
民俗芸能【合計】3公演(計画:3公演)			実績	5回	4日	2,812人	85.8%	3,276	137.8%
			実績	5回	4日	2,040人	62.3%	3,276	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

【特記事項】

- ・字幕表示装置により解説等を表示し、鑑賞の助けとした。(7月、1月)
- ・ロビーにチラシコーナー等を設置し、芸能の行われる地域の観光情報等を提供した(本館7月、1月)。
- ・ロビーで島根県の特産物の販売を行った(本館1月)。
- ・関西元気文化圏共催事業(文楽劇場9月)
- ・国立文楽劇場開場35周年記念

特別企画

《制作方針》

本館においては、公演内容が複数のジャンルにまたがるもの、特定のジャンルに限定できないもの、また特に固有の芸能史的な価値に着目して企画する公演などを軸として、伝統芸能の魅力をもっと楽しんでもらうことを目指す。

本館4月「明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」は、気鋭の舞踊家・邦楽家を起用し、紹介することを目的としており、主役や難曲に挑むことで今後の飛躍を期待する構成とする。

本館5月「言葉～ひびく～身体Ⅰ 神々の残照－伝統と創造のあわいに舞う－」は、「言葉と身体」をコンセプトに、古典作品か現代作品か、日本のものか海外のものか、といった垣根を越え、広く舞踊(ダンス)の魅力を楽しんでもらえることを目指して上演する。

本館6月「鶴岡八幡宮の御神楽と巫女舞」は、鶴岡八幡宮の御鎮座記念祭の次第を元に、厳かで悠々とした時間の流れを感じる御神楽を紹介する。

本館 7 月「伝統芸能の魅力」は、〈ふれる〉〈学ぶ〉〈見る・聴く〉の 3 ステップで日本の伝統芸能である舞踊・邦楽に親しんでいただく入門公演として実施する。

雅楽・声明は昨年引き続き「大人のための」と銘打ち、子供だけでなく大人も対象に、解説と鑑賞に加え体験を通じてそれぞれの魅力を紹介する。

文楽劇場 5 月「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」は、周年記念を飾る祝賀的な雰囲気のある舞楽で幕を開け、舞踊・邦楽では新進・花形の出演者が揃う充実した内容の番組とする。

《公演実績》

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
4 月舞踊・邦楽公演 「明日をになう新進の 舞踊・邦楽鑑賞会」	本館 小劇場	4 月 20 日(土)	実績	1 回	1 日	333 人	56.4%	590	83.3%
			計画	1 回	1 日	400 人	67.8%	590	
5 月特別企画公演 「言葉～ひびく～身体 I 神々の残照」	本館 大劇場	5 月 25 日(土)	実績	1 回	1 日	1,442 人	89.6%	1,610	131.1%
			計画	1 回	1 日	1,100 人	68.3%	1,610	
6 月特別企画公演 「鶴岡八幡宮の 御神楽と巫女舞」	本館 小劇場	6 月 1 日(土)	実績	1 回	1 日	558 人	94.6%	590	139.5%
			計画	1 回	1 日	400 人	67.8%	590	
7 月第 11 回伝統芸能の魅力 「親子で楽しむ舞踊・邦楽」	本館 小劇場	7 月 6 日(土)	実績	1 回	1 日	567 人	96.1%	590	141.8%
			計画	1 回	1 日	400 人	67.8%	590	
7 月第 12 回伝統芸能の魅力 「大人のための声明入門」 「大人のための雅楽入門」	本館 小劇場	7 月 20 日(土)	実績	2 回	1 日	1,057 人	89.6%	1,180	105.7%
			計画	2 回	1 日	1,000 人	84.7%	1,180	
特別企画(本館)【小 計】 5 公演 (計画:5 公演)			実績	6 回	5 日	3,957 人	86.8%	4,560	119.9%
			計画	6 回	5 日	3,300 人	72.4%	4,560	
5 月舞踊・邦楽公演 「新進と花形による 舞踊・邦楽鑑賞会」	文楽 劇場	5 月 11 日(土)	実績	1 回	1 日	422 人	62.3%	677	105.5%
			計画	1 回	1 日	400 人	59.1%	677	
特別企画(文楽劇場) 【小 計】 1 公演 (計画:1 公演)			実績	1 回	1 日	422 人	62.3%	677	105.5%
			計画	1 回	1 日	400 人	59.1%	677	
特別企画【合 計】 6 公演 (計画:6 公演)			実績	7 回	6 日	4,379 人	83.6%	5,237	118.4%
			計画	7 回	6 日	3,700 人	70.7%	5,237	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

【特記事項】

- ・ 関西元気文化圏共催事業(文楽劇場 5 月)
- ・ 国立文楽劇場開場 35 周年記念
- ・ 字幕表示装置により、詞章等を表示し鑑賞の助けとした(本館 4 月舞踊・邦楽、5 月特別企画、6 月特別企画、7 月〈伝統芸能の魅力〉「親子で楽しむ舞踊・邦楽」「大人のための声明入門」「大人のための雅楽入門」。
- ・ 本館 5 月特別企画公演は、アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)との共催により実施した。
- ・ 本館 7 月〈伝統芸能の魅力〉では、舞踊・邦楽・雅楽・声明すべてのジャンルにおいて、開演前に大稽古場、又は劇場ロビーと舞台上で体験のワークショップを実施した。

④ 大衆芸能

《制作方針》

寄席で演じられる大衆芸能には、落語・浪曲・講談のほか、太神楽曲芸・漫才・漫談・コント・奇術・ものまね・俗曲といった多種多様な分野の芸能が含まれている。また、落語に代表されるように、江戸と上方といった地域ごとに独自の発展を遂げてきた分野の芸能もある。国立演芸場及び国立文楽劇場では、大衆芸能の多様な内容を幅広く取り入れ、地域性を加味した公演を企画・立案し、その普及・振興を図るとともに、演芸家の技芸の伝承にも配慮した公演の制作を行うこととする。

演芸場では、今年が国立演芸場開場 40 周年に当たることから、4 月から 10 月までの全自主公演を開場 40 周年記念公演として、演芸愛好者のみならず広く一般の方々に国立演芸場の公演をアピールしていく。寄席の根幹ともいべき「定席公演」では、落語協会及び落語芸術協会と協力して、様々な分野の大衆芸能を幅広く取り入れた公演を企画・立案し、その多彩な魅力を伝えながら、普及・振興を図る。また、「若手新人公演」では、若手演芸家の育成を目的に、年間で花形演芸大賞を競うことで技芸向上を目指す。出演する若手演芸家は、落語に限らず、多種多様な大衆芸能の分野から選定する。「新春国立名人会」では、落語をはじめ、各演芸の重鎮や人気者が日替りで出演するなど、初春に相応しく豪華で華やかな公演を実施する。「国立名人会」は、落語を中心に選りすぐりの出演者の十八番や普段の寄席ではなかなか演じられない珍しい演目を選定するとともに、高座時間を長めに設定するなど、大衆芸能の醍醐味をじっくりと味わえる公演を実施する。「特別企画公演」では、現代の噺家が各自の切り口で圓朝作品に挑む会や、東西のさまざまな演芸を一堂に会した公演、「親子で楽しむ演芸会」等、公演ごとにテーマや分野を設定して、他の寄席では見られない企画性の高い公演を実施する。

文楽劇場では、大阪における伝統的な演芸場のかつての賑わいを取り戻すべく、上方の大衆芸能の普及・振興を目指す。浪曲公演においては、斯界を代表する実力者を揃えた「浪曲名人会」、若手中心で技芸の向上も狙いとする「浪曲錬声会」という 2 種の公演を定期的に開催することで、関西浪曲界の発展に貢献する。「上方演芸特選会」では、落語、浪曲、漫才、マジックなど多彩な演芸種目を上演する昔ながらの寄席として、上方演芸 4 団体(上方落語協会・浪曲親友協会・関西演芸協会・関西芸能親和会)と協力して大衆芸能各分野の技芸の継承保存に努め、関西演芸界の振興に寄与していく。また開場 35 周年記念企画として、年間を通じて仲入後に出演者による対談形式のトークコーナーを企画する。

(a) 公演実績(新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除く)

区分名	公演数 劇場	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
定席	20 公演	実績	217 回	197 日	38,487 人	59.1%	65,100 席	117.7%
	演芸場	計画	219 回	199 日	32,700 人	49.8%	65,700 席	
花形演芸会	11 公演	実績	11 回	11 日	2,979 人	90.3%	3,300 席	96.2%
	演芸場	計画	11 回	11 日	3,096 人	93.8%	3,300 席	
新春 国立名人会	1 公演	実績	7 回	6 日	2,082 人	99.1%	2,100 席	103.3%
	演芸場	計画	7 回	6 日	2,016 人	96.0%	2,100 席	
国立名人会	9 公演	実績	9 回	9 日	2,550 人	94.4%	2,700 席	89.6%
	演芸場	計画	10 回	10 日	2,846 人	94.9%	3,000 席	
特別企画	10 公演	実績	15 回	15 日	3,959 人	88.0%	4,500 席	98.4%
	演芸場	計画	15 回	15 日	4,024 人	89.4%	4,500 席	
演芸場 合計	51 公演	実績	259 回	238 日	50,057 人	64.4%	77,700 席	112.0%
		計画	262 回	241 日	44,682 人	56.8%	78,600 席	
浪曲名人会	0 公演	実績						
	文楽劇場	計画						
浪曲錬声会	1 公演	実績	2 回	1 日	291 人	91.5%	318 席	100.3%
	文楽劇場小ホール	計画	2 回	1 日	290 人	91.2%	318 席	

上方 演芸特選会	5 公演	実績	20 回	20 日	3,063 人	96.3%	3,180 席	107.5%
	文楽劇場小ホール	計画	20 回	20 日	2,850 人	89.6%	3,180 席	
文楽劇場 合計	6 公演	実績	22 回	21 日	3,354 人	95.9%	3,498 席	106.8%
		計画	22 回	21 日	3,140 人	89.8%	3,498 席	
合計	57 公演	実績	281 回	259 日	53,411 人	65.8%	81,198 席	111.7%
		計画	284 回	262 日	47,822 人	58.2%	82,098 席	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※台風 19 号接近のため、右記の公演を中止。演芸場 10 月中席公演(10/12、13 公演)、第 434 回国立名人会(10/12)。

(A)中止分を計画から除いた場合の計画入場者数、(B)入場者数の対計画達成率はそれぞれ下記の通りとなる。

演芸場 定席公演：(A) 32,500 人 (B) 118.4% 花形演芸会：(A) 3,096 人 (B) 96.2% 国立名人会：(A) 2,576 人 (B) 99.0% 演芸場合計：(A) 44,212 人 (B) 113.2%

文楽劇場 上方演芸特選会：(A) 2,850 人 (B) 107.5% 文楽劇場合計：(A) 3,140 人 (B) 106.8%

大衆芸能合計：(A) 47,352 人 (B) 112.8%

※「国立劇場寄席」(国立劇場おきなわ)p.66 参照。

(a) 公演実績(年度当初の公演計画)

区分名	公演数 劇場	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
定席	20 公演	実績	217 回	197 日	38,487 人	59.1%	65,100 席	108.4%
	演芸場	計画	241 回	219 日	35,500 人	49.1%	72,300 席	
花形演芸会	11 公演	実績	11 回	11 日	2,979 人	90.3%	3,300 席	88.5%
	演芸場	計画	12 回	12 日	3,366 人	93.5%	3,600 席	
新春 国立名人会	1 公演	実績	7 回	6 日	2,082 人	99.1%	2,100 席	103.3%
	演芸場	計画	7 回	6 日	2,016 人	96.0%	2,100 席	
国立名人会	9 公演	実績	9 回	9 日	2,550 人	94.4%	2,700 席	81.4%
	演芸場	計画	11 回	11 日	3,134 人	95.0%	3,300 席	
特別企画	10 公演	実績	15 回	15 日	3,959 人	88.0%	4,500 席	98.4%
	演芸場	計画	15 回	15 日	4,024 人	89.4%	4,500 席	
演芸場 合計	51 公演	実績	259 回	238 日	50,057 人	64.4%	77,700 席	104.2%
		計画	286 回	263 日	48,040 人	56.0%	85,800 席	
浪曲名人会	0 公演	実績						
	文楽劇場	計画	1 回	1 日	670 人	89.0%	753 席	
浪曲錬声会	1 公演	実績	2 回	1 日	291 人	91.5%	318 席	100.3%
	文楽劇場小ホール	計画	2 回	1 日	290 人	91.2%	318 席	
上方 演芸特選会	5 公演	実績	20 回	20 日	3,063 人	96.3%	3,180 席	89.6%
	文楽劇場小ホール	計画	24 回	24 日	3,420 人	89.6%	3,816 席	
文楽劇場 合計	6 公演	実績	22 回	21 日	3,354 人	95.9%	3,498 席	76.6%
		計画	27 回	26 日	4,380 人	89.6%	4,887 席	
合計	57 公演	実績	281 回	259 日	53,411 人	65.8%	81,198 席	101.9%
		計画	313 回	289 日	52,420 人	57.8%	90,687 席	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b) 外部専門家等の意見

- ・公演専門委員会を演芸場・文楽劇場で各 2 回開催。(6/19、3/17・5/27、3/2)
- ・大衆芸能脚本募集専門委員会を 2 回開催。

(c) アンケート調査

配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
2,900 人	1,626 人	1,577 人	1,530 人	56.1%	97.0%

※11 公演で計 11 回実施。

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・今年には国立演芸場開場 40 周年に当たることから、4 月から 10 月までの全自主公演を開場 40 周年記念公演として、演芸愛好者のみならず広く一般の方々に国立演芸場の公演をアピールした。公演単位では実施した 51 公演中、38 公演で入場者数が目標を上回ることができた。全体でも、台風 19 号の接近及び新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため 5 公演が中止となったにもかかわらず、目標入場者数に比べて 2,000 人を超える増加を達成することができた。
- ・定席公演では、四代目三遊亭圓歌襲名披露・柳亭小痴楽真打昇進披露を行った 5 月中席・11 月中席で、目標を大きく上回る入場者数を記録するなど、実施した 20 公演中 15 公演で入場者数の目標を達成することができた。
- ・若手新人公演では、花形演芸大賞及び金賞の受賞資格を有する 14 組のレギュラーを中心に公演を企画した。花形演芸大賞の受賞歴のある OB をゲストに招き、若手の熱演とベテランの至芸を堪能できる公演として大いに人気を博した。
- ・新春国立名人会は、各分野の重鎮が一堂に会し、日替りで公演するという豪華な内容で、新年を寿ぐ寿獅子も含め、正月らしい華やかな公演を実施することができた。
- ・国立名人会は、落語を中心に、講談、浪曲、漫才等、各分野を代表する演芸家によって番組を構成した。また、一人(組)当たりの出演時間も定席より長めに設定し、得意のネタをたっぷり演じてもらうことによって、大いに客席を楽しませる公演が実施できた。
- ・また昨年度から実施した、日本演芸家連合の制作協力による特別企画公演「演芸大にぎわい～東から西から～」を 2 日間に拡大し、別会場の「演芸ワークショップはじめての演芸体験」と同日開催して多くの方がさまざまな演芸に親しむ機会を提供したほか、永年定席のトリを勤め絶大な支持を得ていた桂歌丸の追善落語会、花形演芸大賞受賞者が芸を披露する「花形演芸会スペシャル～受賞者の会～」さらに「圓朝に挑む!」「親子で楽しむ演芸会」「正蔵、正蔵を語る」「円丈の『三題噺』を聴く会」や「立川流落語会」「五代目圓楽一門会」といった、さまざまな企画性に富んだ公演を実施した。
- ・寄席や邦楽などの世界で活躍する女性に焦点を当てた、芸術祭主催公演「芸術祭寄席 - 伝統芸能に躍動する女たち -」を実施し、好評を得た。
- ・文楽劇場の浪曲名人会では開場 35 周年記念として、関西浪曲界の第一人者による口演に加え、天中軒涼月が師の前名を三代目として襲名した月子の披露口上を予定したところ、マスコミ各社の協力もあって公演当日を待たずに完売したが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため公演中止となったのは残念であった。
- ・浪曲錬声会では、初出演 2 人を含む芸歴の浅い若手とベテランが計 7 人出演するという従前とは異なる構成での上演に取り組んだ。
- ・上方演芸特選会は落語、漫才、浪曲、マジックなど多彩な顔ぶれによる文楽劇場ならではの充実した番組に加え、開場 35 周年記念としてのトークコーナーも好評を博した。特に団体・会員以外の一般個人に集客の伸びが見られるため各公演の入場者数も安定しており、本年度も、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために中止となった令和 2 年 3 月以外の 5 公演全てにおいて目標入場者数を上回った。

【特記事項】

- ・令和元年度(第 74 回)文化庁芸術祭主催公演(演芸場 10 月芸術祭寄席)
- ・令和元年度(第 74 回)文化庁芸術祭協賛公演(演芸場 10 月・11 月の 9 公演、文楽劇場 11 月上方演芸特選会)
- ・関西元気文化圏共催事業(文楽劇場全公演)
- ・若手新人公演の出演者を対象に令和元年度花形演芸大賞の審査を実施し、受賞者を公表した。
- ・国立演芸場開場 40 周年記念
- ・国立文楽劇場開場 35 周年記念

定席公演(上席・中席)

《制作方針》

一般社団法人落語協会及び公益社団法人落語芸術協会所属の演芸家を中心に出演者を選定する。落語、講談、漫才、コント、奇術、太神楽曲芸、俗曲等、様々な分野の演芸家が出演することによって大衆芸能の多彩な魅力を伝えるとともに、世代、性別を問わず幅広い観客層が楽しめるような公演を企画する。また、民間の寄席に比べ、一人(組)当たりの高座時間を長く確保することによって、内容を割愛することなく落語を一席務めることができるようにするなど、技芸の伝承にも配慮した公演制作を目指す。

《公演実績》(新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除く)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
4 月上席	演芸場	4 月 1 日(月) ～4 月 10 日(水)	実績	11 回	10 日	1,222 人	37.0%	3,300	101.8%
			計画	11 回	10 日	1,200 人	36.4%	3,300	
4 月中席	演芸場	4 月 11 日(木) ～4 月 20 日(土)	実績	11 回	10 日	2,919 人	88.5%	3,300	108.1%
			計画	11 回	10 日	2,700 人	81.8%	3,300	
5 月中席	演芸場	5 月 11 日(土) ～5 月 20 日(月)	実績	11 回	10 日	3,143 人	95.2%	3,300	165.4%
			計画	11 回	10 日	1,900 人	57.6%	3,300	
6 月上席	演芸場	6 月 1 日(土) ～6 月 10 日(月)	実績	11 回	10 日	1,219 人	36.9%	3,300	81.3%
			計画	11 回	10 日	1,500 人	45.5%	3,300	
6 月中席	演芸場	6 月 11 日(火) ～6 月 20 日(木)	実績	11 回	10 日	1,423 人	43.1%	3,300	118.6%
			計画	11 回	10 日	1,200 人	36.4%	3,300	
7 月上席	演芸場	7 月 2 日(火) ～7 月 10 日(水)	実績	10 回	9 日	1,688 人	56.3%	3,000	112.5%
			計画	10 回	9 日	1,500 人	50.0%	3,000	
7 月中席	演芸場	7 月 11 日(木) ～7 月 20 日(土)	実績	11 回	10 日	1,791 人	54.3%	3,300	149.3%
			計画	11 回	10 日	1,200 人	36.4%	3,300	
8 月上席	演芸場	8 月 1 日(木) ～8 月 10 日(土)	実績	11 回	10 日	1,448 人	43.9%	3,300	96.5%
			計画	11 回	10 日	1,500 人	45.5%	3,300	
8 月中席	演芸場	8 月 11 日(日) ～8 月 20 日(火)	実績	11 回	10 日	3,175 人	96.2%	3,300	132.3%
			計画	11 回	10 日	2,400 人	72.7%	3,300	
9 月上席	演芸場	9 月 1 日(日) ～9 月 10 日(火)	実績	11 回	10 日	1,389 人	42.1%	3,300	154.3%
			計画	11 回	10 日	900 人	27.3%	3,300	
9 月中席	演芸場	9 月 11 日(水) ～9 月 20 日(金)	実績	11 回	10 日	1,297 人	39.3%	3,300	117.9%
			計画	11 回	10 日	1,100 人	33.3%	3,300	
10 月上席	演芸場	10 月 1 日(火) ～10 月 10 日(木)	実績	11 回	10 日	1,392 人	42.2%	3,300	126.5%
			計画	11 回	10 日	1,100 人	33.3%	3,300	
10 月中席	演芸場	10 月 11 日(金) ～10 月 20 日(日)	実績	9 回	8 日	1,032 人	38.2%	2,700	93.8%
			計画	11 回	10 日	1,100 人	33.3%	3,300	
11 月上席	演芸場	11 月 1 日(金) ～11 月 10 日(日)	実績	11 回	10 日	2,592 人	78.5%	3,300	144.0%
			計画	11 回	10 日	1,800 人	54.5%	3,300	
11 月中席	演芸場	11 月 11 日(月) ～11 月 20 日(水)	実績	11 回	10 日	3,049 人	92.4%	3,300	254.1%
			計画	11 回	10 日	1,200 人	36.4%	3,300	
12 月上席	演芸場	12 月 1 日(日) ～12 月 10 日(火)	実績	11 回	10 日	1,125 人	34.1%	3,300	112.5%
			計画	11 回	10 日	1,000 人	30.3%	3,300	
12 月中席	演芸場	12 月 11 日(水) ～12 月 20 日(金)	実績	11 回	10 日	1,531 人	46.4%	3,300	109.4%
			計画	11 回	10 日	1,400 人	42.4%	3,300	
1 月中席	演芸場	1 月 11 日(土) ～1 月 20 日(月)	実績	11 回	10 日	2,586 人	78.4%	3,300	103.4%
			計画	11 回	10 日	2,500 人	75.8%	3,300	
2 月上席	演芸場	2 月 1 日(土) ～2 月 10 日(月)	実績	11 回	10 日	1,427 人	43.2%	3,300	59.5%
			計画	11 回	10 日	2,400 人	72.7%	3,300	

2 月中席	演芸場	2月11日(火) ~2月20日(木)	実績	11回	10日	3,039人	92.1%	3,300	98.0%
			計画	11回	10日	3,100人	93.9%	3,300	
3 月上席 ※公演中止	演芸場	3月1日(日) ~3月10日(火)	実績						
			計画						
3 月中席 ※公演中止	演芸場	3月11日(水) ~3月20日(金)	実績						
			計画						
定席【合計】 20 公演 (計画:22 公演)			実績	217回	197日	38,487人	59.1%	65,100	117.7%
			計画	219回	199日	32,700人	49.8%	65,700	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※台風19号接近のため、右記の公演を中止。演芸場 10月中席公演(10/12、13公演)。

(A)中止分を計画から除いた場合の計画入場者数、(B)入場者数の対計画達成率はそれぞれ下記の通りとなる。

10月中席公演(10/12、13公演) (A)900人(=1,100人×9回/11回) (B)114.7%

定席公演合計：(A)32,500人 (B)118.4%

【特記事項】

- ・ 国立演芸場開場40周年記念
- ・ 令和元年度(第74回)文化庁芸術祭協賛公演(10月・11月定席)

(a) 公演実績(年度当初の公演計画)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
4 月上席	演芸場	4月1日(月) ~4月10日(水)	実績	11回	10日	1,222人	37.0%	3,300	101.8%
			計画	11回	10日	1,200人	36.4%	3,300	
4 月中席	演芸場	4月11日(木) ~4月20日(土)	実績	11回	10日	2,919人	88.5%	3,300	108.1%
			計画	11回	10日	2,700人	81.8%	3,300	
5 月中席	演芸場	5月11日(土) ~5月20日(月)	実績	11回	10日	3,143人	95.2%	3,300	165.4%
			計画	11回	10日	1,900人	57.6%	3,300	
6 月上席	演芸場	6月1日(土) ~6月10日(月)	実績	11回	10日	1,219人	36.9%	3,300	81.3%
			計画	11回	10日	1,500人	45.5%	3,300	
6 月中席	演芸場	6月11日(火) ~6月20日(木)	実績	11回	10日	1,423人	43.1%	3,300	118.6%
			計画	11回	10日	1,200人	36.4%	3,300	
7 月上席	演芸場	7月2日(火) ~7月10日(水)	実績	10回	9日	1,688人	56.3%	3,000	112.5%
			計画	10回	9日	1,500人	50.0%	3,000	
7 月中席	演芸場	7月11日(木) ~7月20日(土)	実績	11回	10日	1,791人	54.3%	3,300	149.3%
			計画	11回	10日	1,200人	36.4%	3,300	
8 月上席	演芸場	8月1日(木) ~8月10日(土)	実績	11回	10日	1,448人	43.9%	3,300	96.5%
			計画	11回	10日	1,500人	45.5%	3,300	
8 月中席	演芸場	8月11日(日) ~8月20日(火)	実績	11回	10日	3,175人	96.2%	3,300	132.3%
			計画	11回	10日	2,400人	72.7%	3,300	
9 月上席	演芸場	9月1日(日) ~9月10日(火)	実績	11回	10日	1,389人	42.1%	3,300	154.3%
			計画	11回	10日	900人	27.3%	3,300	
9 月中席	演芸場	9月11日(水) ~9月20日(金)	実績	11回	10日	1,297人	39.3%	3,300	117.9%
			計画	11回	10日	1,100人	33.3%	3,300	
10 月上席	演芸場	10月1日(火) ~10月10日(木)	実績	11回	10日	1,392人	42.2%	3,300	126.5%
			計画	11回	10日	1,100人	33.3%	3,300	
10 月中席	演芸場	10月11日(金) ~10月20日(日)	実績	9回	8日	1,032人	38.2%	2,700	93.8%
			計画	11回	10日	1,100人	33.3%	3,300	
11 月上席	演芸場	11月1日(金) ~11月10日(日)	実績	11回	10日	2,592人	78.5%	3,300	144.0%
			計画	11回	10日	1,800人	54.5%	3,300	

11 月中席	演芸場	11月11日(月) ～11月20日(水)	実績	11回	10日	3,049人	92.4%	3,300	254.1%
			計画	11回	10日	1,200人	36.4%	3,300	
12 月上席	演芸場	12月1日(日) ～12月10日(火)	実績	11回	10日	1,125人	34.1%	3,300	112.5%
			計画	11回	10日	1,000人	30.3%	3,300	
12 月中席	演芸場	12月11日(水) ～12月20日(金)	実績	11回	10日	1,531人	46.4%	3,300	109.4%
			計画	11回	10日	1,400人	42.4%	3,300	
1 月中席	演芸場	1月11日(土) ～1月20日(月)	実績	11回	10日	2,586人	78.4%	3,300	103.4%
			計画	11回	10日	2,500人	75.8%	3,300	
2 月上席	演芸場	2月1日(土) ～2月10日(月)	実績	11回	10日	1,427人	43.2%	3,300	59.5%
			計画	11回	10日	2,400人	72.7%	3,300	
2 月中席	演芸場	2月11日(火) ～2月20日(木)	実績	11回	10日	3,039人	92.1%	3,300	98.0%
			計画	11回	10日	3,100人	93.9%	3,300	
3 月上席 ※公演中止	演芸場	3月1日(日) ～3月10日(火)	実績						
			計画	11回	10日	1,300人	39.4%	3,300	
3 月中席 ※公演中止	演芸場	3月11日(水) ～3月20日(金)	実績						
			計画	11回	10日	1,500人	45.5%	3,300	
定席【合計】 20 公演 (計画:22 公演)			実績	217回	197日	38,487人	59.1%	65,100	108.4%
			計画	241回	219日	35,500人	49.1%	72,300	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

若手新人公演(花形演芸会)

《制作方針》

各分野の若手演芸家が、年間で花形演芸大賞を競う競争性の高い公演で、優秀者に賞を授与することで、その育成と技芸向上を目指す。落語に限らず、多種多様な大衆芸能の分野からの出演者を選定する。

《公演実績》(新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除く)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
4 月花形演芸会(第 479 回)	演芸場	4月27日(土)	実績	1回	1日	297人	99.0%	300	106.1%
			計画	1回	1日	280人	93.3%	300	
5 月花形演芸会(第 480 回)	演芸場	5月11日(土)	実績	1回	1日	218人	72.7%	300	77.9%
			計画	1回	1日	280人	93.3%	300	
6 月花形演芸会(第 481 回)	演芸場	6月23日(日)	実績	1回	1日	291人	97.0%	300	103.9%
			計画	1回	1日	280人	93.3%	300	
7 月花形演芸会(第 482 回)	演芸場	7月21日(日)	実績	1回	1日	295人	98.3%	300	105.4%
			計画	1回	1日	280人	93.3%	300	
8 月花形演芸会(第 483 回)	演芸場	8月24日(土)	実績	1回	1日	295人	98.3%	300	105.4%
			計画	1回	1日	280人	93.3%	300	
9 月花形演芸会(第 484 回)	演芸場	9月23日(月)	実績	1回	1日	265人	88.3%	300	94.6%
			計画	1回	1日	280人	93.3%	300	
10 月花形演芸会(第 485 回)	演芸場	10月19日(土)	実績	1回	1日	156人	52.0%	300	55.7%
			計画	1回	1日	280人	93.3%	300	
11 月花形演芸会(第 486 回)	演芸場	11月23日(土)	実績	1回	1日	291人	97.0%	300	101.0%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
12 月花形演芸会(第 487 回)	演芸場	12月21日(土)	実績	1回	1日	291人	97.0%	300	103.9%
			計画	1回	1日	280人	93.3%	300	
1 月花形演芸会(第 488 回)	演芸場	1月18日(土)	実績	1回	1日	291人	97.0%	300	101.0%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	

2 月花形演芸会(第 489 回)	演芸場	2 月 22 日(土)	実績	1 回	1 日	289 人	96.3%	300	103.2%
			計画	1 回	1 日	280 人	93.3%	300	
3 月花形演芸会(第 490 回) ※公演中止	演芸場	3 月 7 日(土)	実績						
			計画						
花形演芸会【合計】 11 公演 (計画:12 公演)			実績	11 回	11 日	2,979 人	90.3%	3,300	96.2%
			計画	11 回	11 日	3,096 人	93.8%	3,300	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

【特記事項】

- ・令和元年度レギュラー出演者(50 音順)

入船亭小辰(落語)、桂佐ん吉(上方落語)、桂雀太(上方落語)、桂福丸(上方落語)、桂宮治(落語)、神田松之丞(講談)、菊地まどか(浪曲)、古今亭志ん五(落語)、古今亭文菊(落語)、坂本頼光(活動写真弁士)、三笑亭夢丸(落語)、三遊亭萬橘(落語)、母心(漫才)、鈴々舎馬るこ(落語)

- ・令和元年度花形演芸大賞の審査を実施し、審査結果を公表した。

大賞：古今亭文菊(落語)

金賞：菊地まどか(浪曲)、入船亭小辰(落語)、古今亭志ん五(落語)、桂佐ん吉(上方落語)

銀賞：桂小すみ(音曲)、笑福亭喬介(上方落語)、まんじゅう大帝国(漫才)、瀧川鯉八(落語)

- ・国立演芸場開場 40 周年記念

- ・令和元年度(第 74 回)文化庁芸術祭協賛公演(10 月・11 月)

(a) 公演実績(年度当初の公演計画)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
4 月花形演芸会(第 479 回)	演芸場	4 月 27 日(土)	実績	1 回	1 日	297 人	99.0%	300	106.1%
			計画	1 回	1 日	280 人	93.3%	300	
5 月花形演芸会(第 480 回)	演芸場	5 月 11 日(土)	実績	1 回	1 日	218 人	72.7%	300	77.9%
			計画	1 回	1 日	280 人	93.3%	300	
6 月花形演芸会(第 481 回)	演芸場	6 月 23 日(日)	実績	1 回	1 日	291 人	97.0%	300	103.9%
			計画	1 回	1 日	280 人	93.3%	300	
7 月花形演芸会(第 482 回)	演芸場	7 月 21 日(日)	実績	1 回	1 日	295 人	98.3%	300	105.4%
			計画	1 回	1 日	280 人	93.3%	300	
8 月花形演芸会(第 483 回)	演芸場	8 月 24 日(土)	実績	1 回	1 日	295 人	98.3%	300	105.4%
			計画	1 回	1 日	280 人	93.3%	300	
9 月花形演芸会(第 484 回)	演芸場	9 月 23 日(月)	実績	1 回	1 日	265 人	88.3%	300	94.6%
			計画	1 回	1 日	280 人	93.3%	300	
10 月花形演芸会(第 485 回)	演芸場	10 月 19 日(土)	実績	1 回	1 日	156 人	52.0%	300	55.7%
			計画	1 回	1 日	280 人	93.3%	300	
11 月花形演芸会(第 486 回)	演芸場	11 月 23 日(土)	実績	1 回	1 日	291 人	97.0%	300	101.0%
			計画	1 回	1 日	288 人	96.0%	300	
12 月花形演芸会(第 487 回)	演芸場	12 月 21 日(土)	実績	1 回	1 日	291 人	97.0%	300	103.9%
			計画	1 回	1 日	280 人	93.3%	300	
1 月花形演芸会(第 488 回)	演芸場	1 月 18 日(土)	実績	1 回	1 日	291 人	97.0%	300	101.0%
			計画	1 回	1 日	288 人	96.0%	300	
2 月花形演芸会(第 489 回)	演芸場	2 月 22 日(土)	実績	1 回	1 日	289 人	96.3%	300	103.2%
			計画	1 回	1 日	280 人	93.3%	300	
3 月花形演芸会(第 490 回) ※公演中止	演芸場	3 月 7 日(土)	実績						
			計画	1 回	1 日	270 人	90.0%	300	
花形演芸会【合計】 11 公演 (計画:12 公演)			実績	11 回	11 日	2,979 人	90.3%	3,300	88.5%
			計画	12 回	12 日	3,366 人	93.5%	3,600	

新春国立名人会／国立名人会

《制作方針》

新春国立名人会では、落語をはじめ、各演芸の重鎮や人気者が日替りで出演するなど、初春に相応しく豪華で華やかな公演を実施する。

国立名人会は、落語を中心に選りすぐりの出演者の十八番や普段の寄席ではなかなか演じられない珍しい演目を選定するとともに、高座時間を長めに設定するなど、大衆芸能の醍醐味をじっくり味わえる公演を実施する。

《公演実績》(新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除く)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
新春国立名人会	演芸場	1月2日(木) ～1月7日(火)	実績	7回	6日	2,082人	99.1%	2,100	103.3%
			計画	7回	6日	2,016人	96.0%	2,100	
【小計】1公演 (計画:1公演)			実績	7回	6日	2,082人	99.1%	2,100	103.3%
			計画	7回	6日	2,016人	96.0%	2,100	
4月国立名人会(第428回)	演芸場	4月21日(日)	実績	1回	1日	293人	97.7%	300	101.7%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
5月国立名人会(第429回)	演芸場	5月18日(土)	実績	1回	1日	246人	82.0%	300	87.9%
			計画	1回	1日	280人	93.3%	300	
6月国立名人会(第430回)	演芸場	6月22日(土)	実績	1回	1日	292人	97.3%	300	101.4%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
7月国立名人会(第431回)	演芸場	7月27日(土)	実績	1回	1日	296人	98.7%	300	102.8%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
8月国立名人会(第432回)	演芸場	8月25日(日)	実績	1回	1日	292人	97.3%	300	104.3%
			計画	1回	1日	280人	93.3%	300	
9月国立名人会(第433回)	演芸場	9月22日(日)	実績	1回	1日	258人	86.0%	300	89.6%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
10月国立名人会(第434回) ※公演中止	演芸場	10月12日(土)	実績						
			計画	1回	1日	270人	90.0%	300	
11月国立名人会(第435回)	演芸場	11月24日(日)	実績	1回	1日	291人	97.0%	300	101.0%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
12月国立名人会(第436回)	演芸場	12月22日(日)	実績	1回	1日	289人	96.3%	300	100.3%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
2月国立名人会(第437回)	演芸場	2月23日(日)	実績	1回	1日	293人	97.7%	300	101.7%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
3月国立名人会(第438回) ※公演中止	演芸場	3月21日(土)	実績						
			計画						
国立名人会【小計】9公演 (計画:11公演)			実績	9回	9日	2,550人	94.4%	2,700	89.6%
			計画	10回	10日	2,846人	94.9%	3,000	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※台風19号接近のため、右記の公演を中止。第434回国立名人会。

(A)中止分を計画から除いた場合の計画入場者数、(B)入場者数の対計画達成率はそれぞれ下記の通りとなる。

国立名人会合計：(A) 2,576人 (B) 99.0%

【特記事項】

- ・ 国立演芸場開場40周年記念
- ・ 令和元年度(第74回)文化庁芸術祭協賛公演(10月・11月)
- ・ 新春国立名人会の初日(1/2)には、吉例となった鏡開きを行い、観客に樽酒を振る舞った。

(a) 公演実績(年度当初の公演計画)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
新春国立名人会	演芸場	1月2日(木) ～1月7日(火)	実績	7回	6日	2,082人	99.1%	2,100	103.3%
			計画	7回	6日	2,016人	96.0%	2,100	
【小計】1公演 (計画:1公演)			実績	7回	6日	2,082人	99.1%	2,100	103.3%
			計画	7回	6日	2,016人	96.0%	2,100	
4月国立名人会(第428回)	演芸場	4月21日(日)	実績	1回	1日	293人	97.7%	300	101.7%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
5月国立名人会(第429回)	演芸場	5月18日(土)	実績	1回	1日	246人	82.0%	300	87.9%
			計画	1回	1日	280人	93.3%	300	
6月国立名人会(第430回)	演芸場	6月22日(土)	実績	1回	1日	292人	97.3%	300	101.4%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
7月国立名人会(第431回)	演芸場	7月27日(土)	実績	1回	1日	296人	98.7%	300	102.8%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
8月国立名人会(第432回)	演芸場	8月25日(日)	実績	1回	1日	292人	97.3%	300	104.3%
			計画	1回	1日	280人	93.3%	300	
9月国立名人会(第433回)	演芸場	9月22日(日)	実績	1回	1日	258人	86.0%	300	89.6%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
10月国立名人会(第434回) ※公演中止	演芸場	10月12日(土)	実績						
			計画	1回	1日	270人	90.0%	300	
11月国立名人会(第435回)	演芸場	11月24日(日)	実績	1回	1日	291人	97.0%	300	101.0%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
12月国立名人会(第436回)	演芸場	12月22日(日)	実績	1回	1日	289人	96.3%	300	100.3%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
2月国立名人会(第437回)	演芸場	2月23日(日)	実績	1回	1日	293人	97.7%	300	101.7%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
3月国立名人会(第438回) ※公演中止	演芸場	3月21日(土)	実績						
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
国立名人会【小計】9公演 (計画:11公演)			実績	9回	9日	2,550人	94.4%	2,700	81.4%
			計画	11回	11日	3,134人	95.0%	3,300	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

特別企画公演

《制作方針》

圓朝作品に挑む会や花形演芸大賞受賞者の会等、公演ごとに独自のテーマや分野を設定し、他の寄席では見られない企画性の高い公演を実施する。日本演芸家連合の制作協力による特別企画公演「演芸大にぎわい～東から西から～」を実施し、別会場の「演芸ワークショップはじめての演芸体験」と同日開催して多くの方がさまざまな演芸に親しむ機会を提供したほか、夏休み期間中には、寄席という場所及び寄席で上演される大衆芸能(落語、紙切り、コント等)を子供たちに知ってもらうため、解説付きの公演「親子で楽しむ演芸会」を実施する。

《公演実績》

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
4月特別企画 桂歌丸追善落語会	演芸場	4月20日(土)	実績	1回	1日	240人	80.0%	300	120.0%
			計画	1回	1日	200人	66.7%	300	
5月特別企画 立川流落語会	演芸場	5月24日(金) ～5月26日(日)	実績	3回	3日	878人	97.6%	900	104.5%
			計画	3回	3日	840人	93.3%	900	

6月特別企画 花形演芸会スペシャル ～受賞者の会～	演芸場	6月15日(土)	実績	1回	1日	286人	95.3%	300	99.3%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
6月特別企画 圓朝に挑む!	演芸場	6月30日(日)	実績	1回	1日	292人	97.3%	300	104.3%
			計画	1回	1日	280人	93.3%	300	
7月特別企画 親子で楽しむ演芸会	演芸場	7月28日(日)	実績	1回	1日	292人	97.3%	300	101.4%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
9月特別企画 正蔵 正蔵を語る	演芸場	9月21日(土)	実績	1回	1日	282人	94.0%	300	100.7%
			計画	1回	1日	280人	93.3%	300	
9月特別企画 演芸大にぎわい ～東から西から～	演芸場	9月28日(土) ～9月29日(日)	実績	2回	2日	494人	82.3%	600	91.5%
			計画	2回	2日	540人	90.0%	600	
10月特別企画 芸術祭寄席	演芸場	10月21日(月)	実績	1回	1日	282人	94.0%	300	104.4%
			計画	1回	1日	270人	90.0%	300	
10月特別企画 五代目圓楽一門会	演芸場	10月25日(金) ～10月27日(日)	実績	3回	3日	621人	69.0%	900	82.8%
			計画	3回	3日	750人	83.3%	900	
12月特別企画 円丈の『三題噺』を聴く会	演芸場	12月23日(月)	実績	1回	1日	292人	97.3%	300	101.4%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
特別企画【合計】10公演 (計画:10公演)			実績	15回	15日	3,959人	88.0%	4,500	98.4%
			計画	15回	15日	4,024人	89.4%	4,500	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※4月特別企画「桂歌丸追善落語会」は、制作上の都合により販売可能席数を制限する必要があったため、計画時の目標入場者数は他公演より低い数値となっている。

【特記事項】

- ・ 国立演芸場開場 40 周年記念
- ・ 令和元年度(第 74 回)文化庁芸術祭主催公演(10 月特別企画「芸術祭寄席」)
- ・ 令和元年度(第 74 回)文化庁芸術祭協賛公演(10 月特別企画「五代目圓楽一門会」)

浪曲名人会／浪曲錬声会／上方演芸特選会

《制作方針》

浪曲名人会は、関西浪曲界の第一人者が勢揃いし、名曲を披露する恒例の公演。今回は天中軒涼月が三代目天中軒月子を襲名した披露口上を加えた構成とする。

浪曲錬声会は、次代を担う若手浪曲師の「語りを熟達させる」ことを目的に、若手を中心とした番組構成で彼らの奮起を促す公演とする。今回は開場 35 周年記念と銘打ち、出来るだけ多くの若手浪曲師が日頃の成果を披露する機会とする。

上方演芸特選会は、上方演芸 4 団体の総力を結集し、落語・漫才・浪曲・太神楽・講談等、多彩で昔懐かしい寄席の雰囲気を実現した温かみのある寄席づくりを目指す。また開場 35 周年記念企画として年間を通じて仲入後に出演者による対談形式のトークコーナーを企画している。

《公演実績》(新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除く)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
浪曲名人会 ※公演中止	文楽劇場	2月29日(土)	実績						
			計画						
浪曲名人会【小計】 0 公演 (計画:1 公演)			実績						
			計画	1回	1日	670人	89.0%	753	
浪曲錬声会	文楽劇場 小ホール	5月25日(土)	実績	2回	1日	291人	91.5%	318	100.3%
			計画	2回	1日	290人	91.2%	318	
浪曲錬声会【小計】 1 公演 (計画:1 公演)			実績	2回	1日	291人	91.5%	318	100.3%
			計画	2回	1日	290人	91.2%	318	

5 月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	5 月 15 日(水) ~5 月 18 日(土)	実績	4 回	4 日	605 人	95.1%	636	106.1%
			計画	4 回	4 日	570 人	89.6%	636	
7 月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	7 月 24 日(水) ~7 月 27 日(土)	実績	4 回	4 日	613 人	96.4%	636	107.5%
			計画	4 回	4 日	570 人	89.6%	636	
9 月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	9 月 18 日(水) ~9 月 21 日(土)	実績	4 回	4 日	611 人	96.1%	636	107.2%
			計画	4 回	4 日	570 人	89.6%	636	
11 月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	11 月 20 日(水) ~11 月 23 日(土)	実績	4 回	4 日	615 人	96.7%	636	107.9%
			計画	4 回	4 日	570 人	89.6%	636	
1 月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	1 月 22 日(水) ~1 月 25 日(土)	実績	4 回	4 日	619 人	97.3%	636	108.6%
			計画	4 回	4 日	570 人	89.6%	636	
3 月上方演芸特選会 ※公演中止	文楽劇場 小ホール	3 月 11 日(水) ~3 月 14 日(土)	実績						
			計画						
上方演芸特選会 【小計】 5 公演 (計画:6 公演)			実績	20 回	20 日	3,063 人	96.3%	3,180	107.5%
			計画	20 回	20 日	2,850 人	89.6%	3,180	
大衆芸能(文楽劇場) 【合計】 6 公演 (計画:8 公演)			実績	22 回	21 日	3,354 人	95.9%	3,498	106.8%
			計画	22 回	21 日	3,140 人	89.8%	3,498	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

【特記事項】

- ・ 関西元気文化圏共催事業(全公演)
- ・ 国立演芸場開場 40 周年記念
- ・ 国立文楽劇場開場 35 周年記念
- ・ 令和元年度(第 74 回)文化庁芸術祭協賛公演(11 月上方演芸特選会)

(a) 公演実績(年度当初の公演計画)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
浪曲名人会 ※公演中止	文楽劇場	2 月 29 日(土)	実績						
			計画	1 回	1 日	670 人	89.0%	753	
浪曲名人会【小計】 0 公演 (計画:1 公演)			実績						
			計画	1 回	1 日	670 人	89.0%	753	
浪曲錬声会	文楽劇場 小ホール	5 月 25 日(土)	実績	2 回	1 日	291 人	91.5%	318	100.3%
			計画	2 回	1 日	290 人	91.2%	318	
浪曲錬声会【小計】 1 公演 (計画:1 公演)			実績	2 回	1 日	291 人	91.5%	318	100.3%
			計画	2 回	1 日	290 人	91.2%	318	
5 月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	5 月 15 日(水) ~5 月 18 日(土)	実績	4 回	4 日	605 人	95.1%	636	106.1%
			計画	4 回	4 日	570 人	89.6%	636	
7 月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	7 月 24 日(水) ~7 月 27 日(土)	実績	4 回	4 日	613 人	96.4%	636	107.5%
			計画	4 回	4 日	570 人	89.6%	636	
9 月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	9 月 18 日(水) ~9 月 21 日(土)	実績	4 回	4 日	611 人	96.1%	636	107.2%
			計画	4 回	4 日	570 人	89.6%	636	
11 月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	11 月 20 日(水) ~11 月 23 日(土)	実績	4 回	4 日	615 人	96.7%	636	107.9%
			計画	4 回	4 日	570 人	89.6%	636	
1 月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	1 月 22 日(水) ~1 月 25 日(土)	実績	4 回	4 日	619 人	97.3%	636	108.6%
			計画	4 回	4 日	570 人	89.6%	636	
3 月上方演芸特選会 ※公演中止	文楽劇場 小ホール	3 月 11 日(水) ~3 月 14 日(土)	実績						
			計画	4 回	4 日	570 人	89.6%	636	
上方演芸特選会 【小計】 5 公演 (計画:6 公演)			実績	20 回	20 日	3,063 人	96.3%	3,180	89.6%
			計画	24 回	24 日	3,420 人	89.6%	3,816	
大衆芸能(文楽劇場) 【合計】 6 公演 (計画:8 公演)			実績	22 回	21 日	3,354 人	95.9%	3,498	76.6%
			計画	27 回	26 日	4,380 人	89.6%	4,887	

⑤ 能 楽

《制作方針》

定例公演は、能・狂言の伝統的な演目を曲柄や季節、能と狂言のバランスを配慮しつつ、能一番・狂言一番により番組を構成し、初心者にも鑑賞しやすい公演とする。月2回のペースで公演し、年間を通して能・狂言の持つ多様な魅力を余すところなく明らかにする。

普及公演は、能一番・狂言一番に事前の解説をつけ、より分かりやすく、深く鑑賞するための公演とする。能・狂言の伝統的な演目を曲柄や季節、能と狂言のバランスを配慮しつつ月1回のペースで公演する。

企画公演は、テーマ性を持たせて能・狂言の魅力を紹介する「企画公演」のほか、上演頻度の低い演目を含めて狂言のみを3演目上演する「狂言の会」、能・狂言を存分に堪能していただく「特別公演」等、企画性をより強調した公演とする。夏季には東京オリンピック・パラリンピックを前に、「国立能楽堂ショーケース」を本格実施するほか、「親子で楽しむ能の会」「親子で楽しむ狂言の会」寄席芸とのクロスオーバーをお楽しみいただく「狂言と落語・講談」を実施し、入門的な内容の公演の拡充を図りながら新たな観客層を開拓する。さらに、秋季からは、能とそれに関連する組踊との比較上演や他の能楽堂等で制作された復曲能・復曲狂言、新作狂言の再演や、また、年度末には「特別企画公演」として、能・狂言の復曲初演を手掛ける。

鑑賞教室は、中・高校生を中心とした初心者育成のために、名作を選んで分かりやすい形で上演する。令和元年度は、狂言「文山立」、能「船弁慶」を上演し、学生が親しみを持てるよう、上演の前に体験参加型の解説を付ける。また平成30年度に引き続き、「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」を通常の能楽鑑賞教室から独立させて実施する。

(a) 公演実績(新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除く)

区分名	公演数 劇場	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
定例公演	20 公演	実績	20 回	20 日	12,472 人	99.5%	12,540	107.5%
		計画	20 回	20 日	11,600 人	92.5%	12,540	
普及公演	9 公演	実績	9 回	9 日	5,613 人	99.5%	5,643	92.0%
		計画	10 回	10 日	6,100 人	97.3%	6,270	
企画公演	13 公演	実績	13 回	13 日	8,083 人	99.2%	8,151	105.4%
		計画	13 回	13 日	7,670 人	94.1%	8,151	
鑑賞教室等	5 公演	実績	18 回	13 日	11,272 人	99.9%	11,286	121.5%
		計画	18 回	13 日	9,280 人	82.2%	11,286	
合計	47 公演	実績	60 回	55 日	37,440 人	99.5%	37,620	108.1%
		計画	61 回	56 日	34,650 人	90.6%	38,247	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※台風19号接近のため、右記の公演を中止した。普及公演1公演。

(A)中止分を計画から除いた場合の計画入場者数、(B)入場者数の対計画達成率はそれぞれ下記の通りとなる。

普及公演合計：(A) 5,490 人 (B) 102.2%

能楽合計：(A) 34,040 人 (B) 110.0%

※組踊上演30周年記念 能「翁」「羽衣」(国立劇場おきなわ)p.66 参照。

※組踊上演30周年記念 能「放下僧」「石橋」(国立劇場おきなわ)p.66 参照。

(a) 公演実績(年度当初の公演計画)

区分名	公演数 劇場	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
定例公演	20 公演	実績	20 回	20 日	12,472 人	99.5%	12,540	97.7%
		計画	22 回	22 日	12,760 人	92.5%	13,794	
普及公演	9 公演	実績	9 回	9 日	5,613 人	99.5%	5,643	83.7%
		計画	11 回	11 日	6,710 人	97.3%	6,897	

企画公演	13 公演	実績	13 回	13 日	8,083 人	99.2%	8,151	85.6%
		計画	16 回	16 日	9,440 人	94.1%	10,032	
鑑賞教室等	5 公演	実績	18 回	13 日	11,272 人	99.9%	11,286	121.5%
		計画	18 回	13 日	9,280 人	82.2%	11,286	
合計	47 公演	実績	60 回	55 日	37,440 人	99.5%	37,620	98.0%
		計画	67 回	62 日	38,190 人	90.9%	42,009	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b) 外部専門家等の意見

- ・ 公演専門委員会を2回開催。(2月7日、3月4日)
- ・ 専門家の主な意見は下記の通り。
 - ◇ 「国立能楽堂ショーケース」の際のロビー体験(楽器体験)等は大変良かった。
 - ◇ 「能楽鑑賞教室」・「Discover NOH & KYOGEN」の入場率100%は素晴らしい。

(c) アンケート調査

配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
4,580 人	2,711 人	2,391 人	2,271 人	59.2%	95.0%
《Discover NOH & KYOGEN のみのアンケート調査結果》 ※()内は外国人のみの数値					
1,211 人	470 人	411 人 (219 人)	402 人 (216 人)	38.8%	97.8% (98.6%)

※9公演で計9回実施。うち2回を「外国人のための能楽鑑賞教室」で実施。

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・ 充実した企画内容と効果的な観客勧誘によって、開催したすべての公演において目標入場者数を達成し、極めて高い入場率を達成した。
- ・ 4月企画公演〈特集・対決〉では異なる家や流儀の演者を配し、作品における登場人物の対決がより強く浮き彫りになった。復曲能の「碁」を取り上げたり、能「正尊」は観世・宝生・金剛の3流の共演を実現させたりするなど、大いに注目を集めた。
- ・ 5月定例公演「素袍落」「絵馬」は令和改元を祝し、時宜に叶った演目を選定することができた。
- ・ 5月狂言の会〈家・世代を越えて〉は3人の人間国宝に若手中堅が挑む、国立能楽堂ならではの催しである。芸の継承を強く意識させる公演内容となった。
- ・ 「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」を6月の能楽鑑賞教室から独立させ、5月と10月に実施して全席を完売、日本文化の発信に貢献した。
- ・ 6月能楽鑑賞教室では全席を完売し、鑑賞者育成に大きく貢献した。
- ・ 東京オリンピック・パラリンピック開催1年前の7・8月に、能・狂言をコンパクトな内容で上演する「国立能楽堂ショーケース」を実施した。文化の祭典でもあるオリンピック・パラリンピックに向けて、ロビー体験の拡充などいろいろ試すことができた。各公演ともほぼ満席で高い関心が示された。
- ・ 10月〈月間特集・所縁の能・狂言〉では作品と流派や家にまつわる所縁を紹介することで、多角的に能・狂言を楽しむ視点を提示した。
- ・ 11～12月〈演出の様々な形〉では、能・狂言の同一曲目を異なる流儀や家により上演し、多様な演出を比較して楽しむという国立能楽堂ならではの企画を実施し、観客数の落ち込みが危惧された秋冬期の夜公演の目標入場者数を達成した。
- ・ 11月企画公演〈能と組踊〉は組踊上演300周年を記念しての企画を立案した。組踊を創始した玉城朝薫が創作した組踊を、共通する題材を扱った能とともに上演するもので、それぞれの芸能の持つ特色をより色濃く感じられる、密度の高い内容となった。
- ・ 12月企画公演〈復曲再演の会〉では独り狂言として復曲された「蜂」と観世元雅作とされる復曲能「吉野琴」の2番を上演。他の能楽堂等で復曲された作品を広く紹介し、国立能楽堂の持つ発信力を生かした企画となった。
- ・ 8月企画公演〈狂言と落語・講談〉において寄席芸、11月企画公演〈能と組踊〉において組踊といっ

た、異種芸能との比較上演により能楽鑑賞の新たな視点を提示した。

- ・10月の〈月間特集・所縁の能・狂言〉、2月の〈月間特集・近代絵画と能〉と、効果的に「月間特集」を組むことで公演の連続性や関連性を持たせ、観客の注目を集めた。
- ・国立劇場おきなわ12月企画公演「能」において国立劇場おきなわと連携協力態勢を整え、国立能楽堂11月公演で上演された「羽衣」「放下僧」といった組踊と同じ題材を扱った演目を含む能楽公演の制作協力を行った。地方への国立能楽堂の成果の波及と能楽の普及に大きく貢献した。
- ・能「正尊」(4月企画公演)、狂言「博奕十王」(8月企画公演)、能「咸陽宮」(10月定例公演)、狂言「子の日」(10月企画公演)等の稀曲や、新作狂言「彦市ばなし」(1月狂言の会)といった新作を積極的に取り上げて、レパートリーの拡充を推進した。
- ・勤め帰りの社会人をターゲットに19時開演〈働く貴方の能楽公演〉を開催し、初心者にも楽しめる狂言「瘦松」、能「二人静」を上演するほか、実演家の立場から野村万作の「おはなし」を語っていた。
- ・国立能楽堂の委嘱作品である新作狂言「鮎」を全国各地の能楽堂、公共劇場で再演した。受託事業として5会場7ステージ(名古屋市、岐阜県関市、金沢市、愛知県豊田市、愛知県半田市)、制作協力として2会場4ステージを実現させ、東京での成果を地方に波及することができた。

【特記事項】

- ・令和元年度(第74回)文化庁芸術祭主催公演(11月企画)
- ・令和元年度(第74回)文化庁芸術祭協賛公演(10月・11月実施の7公演)
- ・「日本博」参画プロジェクト(「国立能楽堂ショーケース」、「Discover NOH & KYOGEN」、新作狂言「鮎」)
- ・10月12日普及公演は台風の影響で中止した。2月29日特別公演、3月4日定例公演、3月14日普及公演、3月19日定例公演、3月27・28日特別企画公演は、新型コロナウイルス感染症対策に係わる政府の要請を受け、感染症の拡大防止のため中止した。
- ・座席字幕表示装置を活用して、4月企画公演(蠟燭の灯りによる)及び中止公演を除く46公演で、日本語(詞章)・英語の2チャンネル方式で字幕表示を実施した。
- ・「Discover NOH & KYOGEN」では、日本語・英語に中国語(簡)・韓国語の字幕も加え、多言語化に対応した。
- ・関連イベント、ワークショップ等を以下の通り実施した。

イベント名	期間	会場	料金	出演者等	参加者数
楽しもう!能と狂言 (狂言ワークショップ)	4/10	岐阜県関市 文化会館	無料	中村修一(狂言方泉流)、第8期研修修了者 ※受託公演「新作狂言 鮎」5/6 関市公演関連のワークショップ	60人
楽しもう!能の世界 (面装束とシテ方体験)	5/10	国立能楽堂 研修能舞台	無料	水上優、川瀬隆士、金森隆晋(シテ方宝生流) ※5/17 定例公演鑑賞券とセット のイベント	18人
楽しもう!能の世界 (Noh Workshop for foreigners)	5/29	国立能楽堂研修 能舞台、大講義室	無料	大倉慶乃助(大鼓方大倉流)、澤田晃良(太鼓方観世流)、第6期、第7期研修修了者 ※5/29「外国人のための能楽鑑賞教室」来場団体対象	69人
楽しもう!能の世界 (Noh Workshop for foreigners)	10/31	能舞台広間	無料	村岡聖美(シテ方金春流)、柏崎真由子(シテ方金春流)、大倉栄太郎(大鼓方大倉流)、第5期研修修了者 ※10/31「外国人のための能楽鑑賞教室」来場者対象	約100人
届けます。体験教室(シテ方・狂言方体験)	11/18~ 19	名取市立相互台 小学校・名取市立 増田西小学校・名 取市立愛島小学 校・名取市立不二 が丘小学校	無料	坂真太郎(シテ方観世流)、松山隆之(シテ方観世流)、奥津健太郎(狂言方泉流)、野口隆行(狂言方泉流) ※昨年度上演の復曲能「名取ノ老女」名取公演に関連	356人
楽しもう!能の世界 (囃子体験)	2/7	国立能楽堂 研修能舞台	無料	大倉慶乃助(大鼓方大倉流)、第5期、第6期研修修了者 ※2/13 定例公演鑑賞券とセット のイベント	40人

定例公演

《制作方針》

定例公演は、能・狂言の伝統的な演目を曲柄や季節、能と狂言のバランスに配慮しつつ、能一番・狂言一番により番組を構成し、初心者にも鑑賞しやすい公演とする。原則として月2回のペースで上演し、年間を通して能・狂言のもつ多様な魅力を余すところなく明らかにする。

《公演実績》(新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除く)

※目標入場者数：1回当たり580人(92.5%)、劇場：国立能楽堂

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
狂言「仏師」、能「一角仙人」	4月3日(水)	実績	1回	1日	623人	99.4%	627	107.4%
狂言「鈍太郎」、能「邯鄲」	4月19日(金)	実績	1回	1日	625人	99.7%	627	107.8%
狂言「素袍落」、能「絵馬」	5月8日(水)	実績	1回	1日	623人	99.4%	627	107.4%
狂言「文荷」、能「加茂 御田」	5月17日(金)	実績	1回	1日	623人	99.4%	627	107.4%
狂言「薩摩守」、能「藤蔭」	6月5日(水)	実績	1回	1日	624人	99.5%	627	107.6%
狂言「察化」、能「梅枝 越天楽」	6月21日(金)	実績	1回	1日	622人	99.2%	627	107.2%
狂言「犬山伏」、能「班女」	7月3日(水)	実績	1回	1日	625人	99.7%	627	107.8%
狂言「左近三郎」、能「夕顔 山ノ端之出・法味之伝」	7月17日(水)	実績	1回	1日	624人	99.5%	627	107.6%
狂言「河原太郎」、能「白楽天」	9月4日(水)	実績	1回	1日	624人	99.5%	627	107.6%
狂言「吹取」、能「蟬丸」	9月20日(金)	実績	1回	1日	623人	99.4%	627	107.4%
月間特集 所縁の能・狂言 狂言「腹不立」、能「国栖 白頭」	10月2日(水)	実績	1回	1日	623人	99.4%	627	107.4%
月間特集 所縁の能・狂言 狂言「萩大名」、能「咸陽宮」	10月18日(金)	実績	1回	1日	623人	99.4%	627	107.4%
狂言「磁石」、能「野宮」	11月6日(水)	実績	1回	1日	624人	99.5%	627	107.6%
演出の様々な形 狂言「鐘の音」、能「橋弁慶 笛之巻」	11月22日(金)	実績	1回	1日	623人	99.4%	627	107.4%
狂言「業平餅」、能「恋重荷」	12月4日(水)	実績	1回	1日	622人	99.2%	627	107.2%
演出の様々な形 狂言「鐘の音」、能「橋弁慶 替装束・扇之型」	12月20日(金)	実績	1回	1日	623人	99.4%	627	107.4%
能「西王母」、狂言「財宝」	1月4日(土)	実績	1回	1日	624人	99.5%	627	107.6%
狂言「竹生鳴参」、能「海人」	1月17日(金)	実績	1回	1日	624人	99.5%	627	107.6%
月間特集 近代絵画と能 狂言「鶯」、能「草薙」	2月5日(水)	実績	1回	1日	625人	99.7%	627	107.8%
月間特集 近代絵画と能 狂言「蟹山伏」、能「井筒」	2月13日(木)	実績	1回	1日	625人	99.7%	627	107.8%
狂言「牛馬」、能「朝長」 ※公演中止	3月4日(水)	実績						
狂言「鬼瓦」、能「当麻 二段返」 ※公演中止	3月19日(木)	実績						
定例公演【合計】 20公演 (計画:22公演)	実績	20回	20日	12,472人	99.5%	12,540	107.5%	
	計画	20回	20日	11,600人	92.5%	12,540		

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

【特記事項】

- ・令和元年度(第74回)文化庁芸術祭協賛公演(10月、11月)
- ・3月定例公演は、新型コロナウイルス感染症対策に係わる政府の要請を受け、感染症の拡大防止のため中止した。

- ・座席字幕表示装置を活用して、中止公演を除く 20 公演で日本語(詞章)・英語の 2 チャンネル方式で字幕表示を実施した。

(a) 公演実績(年度当初の公演計画)

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
狂言「仏師」、能「一角仙人」	4月3日(水)	実績	1回	1日	623人	99.4%	627	107.4%
狂言「鈍太郎」、能「邯鄲」	4月19日(金)	実績	1回	1日	625人	99.7%	627	107.8%
狂言「素袍落」、能「絵馬」	5月8日(水)	実績	1回	1日	623人	99.4%	627	107.4%
狂言「文荷」、能「加茂 御田」	5月17日(金)	実績	1回	1日	623人	99.4%	627	107.4%
狂言「薩摩守」、能「藤栄」	6月5日(水)	実績	1回	1日	624人	99.5%	627	107.6%
狂言「察化」、能「梅枝 越天楽」	6月21日(金)	実績	1回	1日	622人	99.2%	627	107.2%
狂言「犬山伏」、能「班女」	7月3日(水)	実績	1回	1日	625人	99.7%	627	107.8%
狂言「左近三郎」、能「夕顔 山ノ端之出・法味之伝」	7月17日(水)	実績	1回	1日	624人	99.5%	627	107.6%
狂言「河原太郎」、能「白楽天」	9月4日(水)	実績	1回	1日	624人	99.5%	627	107.6%
狂言「吹取」、能「蟬丸」	9月20日(金)	実績	1回	1日	623人	99.4%	627	107.4%
月間特集 所縁の能・狂言 狂言「腹不立」、能「国栖 白頭」	10月2日(水)	実績	1回	1日	623人	99.4%	627	107.4%
月間特集 所縁の能・狂言 狂言「萩大名」、能「咸陽宮」	10月18日(金)	実績	1回	1日	623人	99.4%	627	107.4%
狂言「磁石」、能「野宮」	11月6日(水)	実績	1回	1日	624人	99.5%	627	107.6%
演出の様々な形 狂言「鐘の音」、能「橋弁慶 笛之巻」	11月22日(金)	実績	1回	1日	623人	99.4%	627	107.4%
狂言「業平餅」、能「恋重荷」	12月4日(水)	実績	1回	1日	622人	99.2%	627	107.2%
演出の様々な形 狂言「鐘の音」、能「橋弁慶 替装束・扇之型」	12月20日(金)	実績	1回	1日	623人	99.4%	627	107.4%
能「西王母」、狂言「財宝」	1月4日(土)	実績	1回	1日	624人	99.5%	627	107.6%
狂言「竹生嶋参」、能「海人」	1月17日(金)	実績	1回	1日	624人	99.5%	627	107.6%
月間特集 近代絵画と能 狂言「鶯」、能「草薙」	2月5日(水)	実績	1回	1日	625人	99.7%	627	107.8%
月間特集 近代絵画と能 狂言「蟹山伏」、能「井筒」	2月13日(木)	実績	1回	1日	625人	99.7%	627	107.8%
狂言「牛馬」、能「朝長」 ※公演中止	3月4日(水)	実績						
狂言「鬼瓦」、能「当麻 二段返」 ※公演中止	3月19日(木)	実績						
定例公演【合計】 20 公演 (計画:22 公演)	実績		20回	20日	12,472人	99.5%	12,540	97.7%
	計画		22回	22日	12,760人	92.5%	13,794	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

普及公演

《制作方針》

普及公演は、能一番・狂言一番に事前の解説をつけ、より分かりやすく、深く鑑賞するための公演とする。能・狂言の伝統的な演目を曲柄や季節、能と狂言のバランスを配慮しつつ月1回のペースで上演する。

《公演実績》(新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除く)

※目標入場者数：1回当たり 610 人(97.3%)、劇場：国立能楽堂

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
解説、狂言「鎌腹」、能「田村 白式」	4月13日(土)	実績	1回	1日	625人	99.7%	627	102.5%

解説、狂言「二人名」、能「浮舟」	5月11日(土)	実績	1回	1日	623人	99.4%	627	102.1%
解説、狂言「六地藏」、能「鶴飼」	6月8日(土)	実績	1回	1日	623人	99.4%	627	102.1%
解説、狂言「入間川」、能「融 遊曲」	7月13日(土)	実績	1回	1日	624人	99.5%	627	102.3%
解説、狂言「船渡聲」、能「錦木」	9月14日(土)	実績	1回	1日	622人	99.2%	627	102.0%
月間特集 所縁の能・狂言 解説、狂言「寝音曲」、能「初雪 古式」 ※公演中止	10月12日(土)	実績						
解説、狂言「鴈磔」、能「三輪」	11月9日(土)	実績	1回	1日	625人	99.7%	627	102.5%
解説、狂言「柑子」、能「葛城 大和舞」	12月14日(土)	実績	1回	1日	625人	99.7%	627	102.5%
解説、狂言「酢薑」、能「八島」	1月11日(土)	実績	1回	1日	624人	99.5%	627	102.3%
月間特集 近代絵画と能 解説、狂言「二人袴」、能「楊貴妃」	2月8日(土)	実績	1回	1日	622人	99.2%	627	102.0%
解説、狂言「繩綯」、能「箴」 ※公演中止	3月14日(土)	実績						
普及公演【合計】 9公演 (計画:9公演)		実績	9回	9日	5,613人	99.5%	5,643	92.0%
		計画	10回	10日	6,100人	97.3%	6,270	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※台風19号接近のため、右記の公演を中止した。10月普及公演「月間特集 所縁の能・狂言 解説、狂言 寝音曲、能 初雪 古式」。

(A)中止分を計画から除いた場合の計画入場者数、(B)入場者数の対計画達成率はそれぞれ下記の通りとなる。
普及公演合計：(A) 5,490人 (B) 102.2%

【特記事項】

- ・令和元年度(第74回)文化庁芸術祭協賛公演(10月、11月)
- ・10月普及公演は台風の影響のため公演中止。3月普及公演は、新型コロナウイルス感染症対策に係わる政府の要請を受け、感染症の拡大防止のため中止した。
- ・座席字幕表示装置を活用して、中止公演を除く9公演で日本語(詞章)・英語の2チャンネル方式で字幕表示を実施した。

(a) 公演実績(年度当初の公演計画)

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
解説、狂言「鎌腹」、能「田村 白式」	4月13日(土)	実績	1回	1日	625人	99.7%	627	102.5%
解説、狂言「二人名」、能「浮舟」	5月11日(土)	実績	1回	1日	623人	99.4%	627	102.1%
解説、狂言「六地藏」、能「鶴飼」	6月8日(土)	実績	1回	1日	623人	99.4%	627	102.1%
解説、狂言「入間川」、能「融 遊曲」	7月13日(土)	実績	1回	1日	624人	99.5%	627	102.3%
解説、狂言「船渡聲」、能「錦木」	9月14日(土)	実績	1回	1日	622人	99.2%	627	102.0%
月間特集 所縁の能・狂言 解説、狂言「寝音曲」、能「初雪 古式」 ※公演中止	10月12日(土)	実績						
解説、狂言「鴈磔」、能「三輪」	11月9日(土)	実績	1回	1日	625人	99.7%	627	102.5%
解説、狂言「柑子」、能「葛城 大和舞」	12月14日(土)	実績	1回	1日	625人	99.7%	627	102.5%
解説、狂言「酢薑」、能「八島」	1月11日(土)	実績	1回	1日	624人	99.5%	627	102.3%
月間特集 近代絵画と能 解説、狂言「二人袴」、能「楊貴妃」	2月8日(土)	実績	1回	1日	622人	99.2%	627	102.0%
解説、狂言「繩綯」、能「箴」 ※公演中止	3月14日(土)	実績						
普及公演【合計】 9公演 (計画:9公演)		実績	9回	9日	5,613人	99.5%	5,643	83.7%
		計画	11回	11日	6,710人	97.3%	6,897	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

企画公演、鑑賞教室

《制作方針》

企画公演は、テーマ性を持たせて能・狂言の魅力を紹介する「企画公演」のほか、上演頻度の低い演目を含めて狂言のみを3演目上演する「狂言の会」、能・狂言を存分に堪能していただく「特別公演」等、企画性をより強調した公演とする。夏季には東京オリンピック・パラリンピックを前に、「国立能楽堂ショーケース」を本格実施するほか、「親子で楽しむ能の会」「親子で楽しむ狂言の会」寄席芸とのクロスオーバーをお楽しみいただく「狂言と落語・講談」を実施し、入門的な内容の公演の拡充を図りながら新たな観客層を開拓する。さらに、秋季からは、能とそれに関連する組踊との比較上演や他の能楽堂等で制作された復曲能、復曲狂言、新作狂言の再演や、また、年度末には「特別企画公演」として、能・狂言の復曲初演を手掛ける。

鑑賞教室は、中・高校生を中心とした初心者育成のために、名作を選んで分かりやすい形で上演する。令和元年度は、狂言「文山立」、能「船弁慶」を上演し、学生が親しみを持てるよう、上演の前に体験参加型の解説を付ける。また平成30年度に引き続き、「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」を通常の能楽鑑賞教室から独立させて実施する。

《公演実績》(新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除く)

※目標入場者数：1回当たり590人(94.1%)、劇場：国立能楽堂

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
特集 対決 蠟燭の灯りによる 狂言「弓矢太郎」、復曲能「基」	4月25日(木)	実績	1回	1日	619人	98.7%	627	104.9%
特集 対決 狂言「惣八」、能「正尊」	4月27日(土)	実績	1回	1日	621人	99.0%	627	105.3%
家・世代を越えて 狂言「末広かり」、狂言「二人袴」、狂言 「蝸牛」	5月24日(金)	実績	1回	1日	623人	99.4%	627	105.6%
親子で楽しむ能の会 おはなし、能「紅葉狩」	8月3日(土)	実績	1回	1日	625人	99.7%	627	105.9%
親子で楽しむ狂言の会 おはなし、狂言「盆山」、狂言「蚊相撲」	8月24日(土)	実績	1回	1日	625人	99.7%	627	105.9%
狂言と落語・講談 講談「天保水滸伝 笹川の花会」、 落語「狸賽」、狂言「博奕十王」	8月30日(金)	実績	1回	1日	624人	99.5%	627	105.8%
仕舞、狂言「川上」、能「卒都婆小町」	9月28日(土)	実績	1回	1日	623人	99.4%	627	105.6%
所縁の能・狂言 狂言「子の日」、能「望月 古式」	10月25日(金)	実績	1回	1日	623人	99.4%	627	105.6%
組踊誕生300年 能と組踊 組踊「銘苅子」、能「羽衣 和合之舞」	11月28日(木)	実績	1回	1日	605人	96.5%	627	102.5%
組踊誕生300年 能と組踊 組踊「二童敵討」、能「放下僧」	11月29日(金)	実績	1回	1日	624人	99.5%	627	105.8%
復曲再演の会 復曲狂言「蜂」、復曲能「吉野琴」	12月25日(水)	実績	1回	1日	622人	99.2%	627	105.4%
狂言「三本柱」、狂言「法師ヶ母」、 新作狂言「彦市ばなし」	1月24日(金)	実績	1回	1日	623人	99.4%	627	105.6%
働く貴方の能楽公演 対談または実演、狂言「瘦松」、 能「二人静」	1月30日(木)	実績	1回	1日	626人	99.8%	627	106.1%
月間特集 近代絵画と能 能「忠度」、狂言「孫孫」、能「室君」 ※公演中止	2月29日(土)	実績						
能を再発見する 祝言能を見直す「岩船」 ※公演中止	3月27日(金)~ 3月28日(土)	実績						

企画公演【合計】	13 公演	実績	13 回	13 日	8,083 人	99.2%	8,151	105.4%
		計画	13 回	13 日	7,670 人	94.1%	8,151	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(a) 公演実績(年度当初の公演計画)

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
特集 対決 蠟燭の灯りによる 狂言「弓矢太郎」、復曲能「碁」	4月25日(木)	実績	1回	1日	619人	98.7%	627	104.9%
特集 対決 狂言「惣八」、能「正尊」	4月27日(土)	実績	1回	1日	621人	99.0%	627	105.3%
家・世代を越えて 狂言「末広かり」、狂言「二人袴」、狂言 「蝸牛」	5月24日(金)	実績	1回	1日	623人	99.4%	627	105.6%
親子で楽しむ能の会 おはなし、能「紅葉狩」	8月3日(土)	実績	1回	1日	625人	99.7%	627	105.9%
親子で楽しむ狂言の会 おはなし、狂言「盆山」、狂言「蚊相撲」	8月24日(土)	実績	1回	1日	625人	99.7%	627	105.9%
狂言と落語・講談 講談「天保水滸伝 笹川の花会」、 落語「狸賽」、狂言「博奕十王」	8月30日(金)	実績	1回	1日	624人	99.5%	627	105.8%
仕舞、狂言「川上」、能「卒都婆小町」	9月28日(土)	実績	1回	1日	623人	99.4%	627	105.6%
所縁の能・狂言 狂言「子の日」、能「望月 古式」	10月25日(金)	実績	1回	1日	623人	99.4%	627	105.6%
組踊誕生 300年 能と組踊 組踊「銘苺子」、能「羽衣 和合之舞」	11月28日(木)	実績	1回	1日	605人	96.5%	627	102.5%
組踊誕生 300年 能と組踊 組踊「二童敵討」、能「放下僧」	11月29日(金)	実績	1回	1日	624人	99.5%	627	105.8%
復曲再演の会 復曲狂言「蜂」、復曲能「吉野琴」	12月25日(水)	実績	1回	1日	622人	99.2%	627	105.4%
狂言「三本柱」、狂言「法師々母」、 新作狂言「彦市ばなし」	1月24日(金)	実績	1回	1日	623人	99.4%	627	105.6%
働く貴方の能楽公演 対談または実演、狂言「瘦松」、 能「二人静」	1月30日(木)	実績	1回	1日	626人	99.8%	627	106.1%
月間特集 近代絵画と能 能「忠度」、狂言「孫聳」、能「室君」 ※公演中止	2月29日(土)	実績						
能を再発見する 狂言「袴裂」、復曲能「岩船」 ※公演中止	3月27日(金)~ 3月28日(土)	実績						
企画公演【合計】	13 公演 (計画:15 公演)	実績	13 回	13 日	8,083 人	99.2%	8,151	85.6%
		計画	16 回	16 日	9,440 人	94.1%	10,032	

《公演実績 鑑賞教室等》

劇場：国立能楽堂

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
外国人のための能楽鑑賞教室 解説、狂言「附子」、能「殺生石」	5月29日(水)	実績	1回	1日	627人	100.0%	627	108.1%
		計画	1回	1日	580人	92.5%	627	
能楽鑑賞教室 解説、狂言「文山立」、能「船弁慶」	6月24日(月) ~6月28日(金)	実績	10回	5日	6,270人	100.0%	6,270	103.6%
		計画	10回	5日	6,050人	96.5%	6,270	
国立能楽堂ショーケース 解説、狂言「伯母が酒」、能「小鍛冶」	7月24日(水) ~7月26日(金)	実績	3回	3日	1,873人	99.6%	1,881	181.0%
		計画	3回	3日	1,035人	55.0%	1,881	

国立能楽堂ショーケース 解説、狂言「柿山伏」、能「安達原」	8月25日(日)	実績	3回	3日	1,875人	99.7%	1,881	181.2%
	～8月27日(火)	計画	3回	3日	1,035人	55.0%	1,881	
外国人のための能楽鑑賞教室 解説、狂言「棒縛」、能「葵上 梓之出」	10月31日(木)	実績	1回	1日	627人	100.0%	627	108.1%
		計画	1回	1日	580人	92.5%	627	
鑑賞教室【合計】 5公演 (計画:5公演)		実績	18回	13日	11,272人	99.9%	11,286	121.5%
		計画	18回	13日	9,280人	82.2%	11,286	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

【特記事項】

- ・令和元年度(第74回)文化庁芸術祭主催公演(11/28・29)
- ・令和元年度(第74回)文化庁芸術祭協賛公演(10月・11月)
- ・「日本博」参画プロジェクト(「国立能楽堂ショーケース」、「Discover NOH & KYOGEN」)
- ・2月特別公演、3月特別企画公演は、新型コロナウイルス感染症対策に係わる政府の要請を受け、感染症の拡大防止のため中止した。
- ・座席字幕表示装置を活用して、4月公演(蠟燭の灯りによる)及び中止となった公演を除く17公演で、日本語・英語の2チャンネル方式で字幕表示を実施した。また、「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」では子供向けチャンネルを追加して3チャンネル方式とした。
- ・5・10月で実施した「Discover NOH & KYOGEN」では、字幕表示を4チャンネル方式(日本語・英語・中国語(簡)・韓国語)により実施した。

⑥ 組踊等沖縄伝統芸能

《制作方針》

定期公演は、組踊、琉球舞踊、三線音楽、沖縄芝居及び民俗芸能の構成により上演する。伝承された古典の原点を尊重することを基本に、現代においても理解されやすい、観客のニーズに合った多様な演目の上演及び演出や、観客の満足度を高める公演内容の制作に努める。また、2019年は、組踊が上演されてから300年の節目を迎える年にあたる。様々な視点から組踊をはじめ琉球芸能の魅力に迫り、組踊上演300周年の機運を高めつつ、その普及・発信に努める公演を制作する。

組踊公演では、「万歳敵討」、「義臣物語」、「忠臣身替の巻」、「花売の縁」、「伏山敵討」等、レパトリーとして親しまれてきた作品と、上演機会の少ない作品や伝統組踊保存会にて復曲した作品を取り上げる。琉球舞踊公演では、定番となっている「男性舞踊家の会」「琉球舞踊特選会」や、次世代を担う中堅・若手の女性舞踊家に焦点をあてた「琉球舞踊鑑賞会」により、幅広く琉球舞踊の魅力発信する。三線音楽公演では、琉球古典音楽に焦点をあて、野村流、安富祖流と、それぞれベテランから若手までの出演で古典音楽を紹介する「古典音楽の美」、沖縄芝居公演では、「王女御嶽」を上演する。また民俗芸能公演では、竹富島に伝わる組踊を紹介する「組踊『父子忠臣』～竹富島仲筋村～」を上演する。

企画公演では、アジア・太平洋地域の芸能として「昆曲」を上演する。そのほか組踊の唱え、音楽の聴きどころを堪能いただく「語り組踊『恋し子の方星』」、「新作組踊『花の幻』『花よとこしえに』」、「能『翁』『羽衣』」、「能『放下僧』『石橋』」、「新作組踊『春時雨』」、琉球芸能の俳優祭「ゆらていく遊ば」や、毎年秋に実施し定着している「国立劇場寄席」等を上演する。

研究公演では、組踊上演300周年を記念して、御冠船舞台を使用し当時の上演スタイルを検証しつつ、様々な立場から演出を再考し実験的に試みる、「御冠船踊と組踊『執心鐘入』」、「御冠船踊と組踊『銘苺子』」を上演する。

普及公演では、親子のための組踊鑑賞教室において「女物狂」と共に新作組踊「組踊版・シンデレラ」を上演する。また、組踊鑑賞教室「二童敵討」と、主に小学生から高校生等を対象とした組踊鑑賞教室「執心鐘入」では、解説を付して上演することで、組踊の理解を深める工夫を行う。あわせて、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラムとして、引き続き外国人向けの公演「はじめての組踊～Discover KUMIODORI～」を実施する。沖縄芝居、琉球舞踊の鑑賞教室も、引き続き実施する。

なお、2019年は、組踊上演300周年を迎えることから、4月から12月までの組踊関連公演14公演は「組踊上演300周年記念実行委員会共催事業」として、上演する。日本博主催・共催事業としては、研究公演「御冠船踊と組踊『執心鐘入』」、「御冠船踊と組踊『銘苺子』」、「はじめての組踊～Discover KUMIODORI～『執心鐘入』」、企画公演「能『翁』『羽衣』」「能『放下僧』『石橋』」、琉球舞踊公演「春夏秋冬を舞う」、企画公演「新作組踊『春時雨』」を上演する。

(a) 公演実績(新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除く)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
組踊上演300周年記念 組踊「万歳敵討」「義臣物語」	国立劇場 おきなわ 大劇場	4月20日(土)	実績	1回	1日	324人	57.5%	563	95.6%
計画			1回	1日	339人	60.0%	565		
琉球舞踊「男性舞踊家の会」		4月27日(土)	実績	1回	1日	550人	88.6%	621	111.1%
計画			1回	1日	495人	80.0%	619		
組踊上演300周年記念 組踊「忠臣身替の巻」		5月15日(水)	実績	1回	1日	382人	67.9%	563	112.7%
計画			1回	1日	339人	60.0%	565		
組踊上演300周年記念 三線音楽「古典音楽の美」		5月25日(土)	実績	1回	1日	407人	65.5%	621	109.7%
計画			1回	1日	371人	59.9%	619		
組踊上演300周年記念 組踊「花売の縁」		6月29日(土)	実績	1回	1日	491人	87.2%	563	144.8%
計画			1回	1日	339人	60.0%	565		
琉球舞踊「琉球舞踊鑑賞会」		7月20日(土)	実績	1回	1日	492人	79.2%	621	106.0%
計画			1回	1日	464人	75.0%	619		

沖縄芝居「王女御嶽」 「怪猫伝・化け猫 ～山田祝女殿内～」		9月14日(土)	実績	1回	1日	425人	74.8%	568	115.5%
			計画	1回	1日	368人	65.0%	566	
琉球舞踊「琉球舞踊特選会」		9月28日(土)	実績	1回	1日	367人	59.1%	621	79.1%
			計画	1回	1日	464人	75.0%	619	
組踊上演 300周年記念 民俗芸能「組踊『父子忠臣』 ～竹富島仲筋村～」		11月24日(日)	実績	1回	1日	357人	57.5%	621	88.8%
			計画	1回	1日	402人	64.9%	619	
琉球舞踊「琉球舞踊特選会」		12月14日(土)	実績	1回	1日	484人	77.9%	621	104.3%
			計画	1回	1日	464人	75.0%	619	
琉球舞踊「春夏秋冬を舞う」		1月11日(土)	実績	1回	1日	393人	63.3%	621	84.7%
			計画	1回	1日	464人	75.0%	619	
組踊「伏山敵討」		2月22日(土)	実績	1回	1日	502人	88.5%	567	148.1%
			計画	1回	1日	339人	60.0%	565	
琉球舞踊「男性舞踊家の会」 ※公演中止		2月29日(土)	実績						
			計画						
三線音楽「島唄の響き」 ※公演中止	国立劇場 おきなわ 小劇場	3月14日(土)	実績						
			計画						
定期公演【小 計】 12公演			実績	12回	12日	5,174人	72.2%	7,171	106.7%
			計画	12回	12日	4,848人	67.7%	7,159	
組踊上演 300周年記念 語り組踊「恋し子の方星」	国立劇場 おきなわ 小劇場	6月15日(土)	実績	1回	1日	216人	86.7%	249	145.0%
			計画	1回	1日	149人	59.8%	249	
組踊上演 300周年記念 新作組踊「花の幻」 「花よ、とこしえに」		8月24日(土) ～8月25日(日)	実績	2回	2日	765人	61.1%	1,253	94.1%
			計画	2回	2日	813人	65.0%	1,251	
アジア・太平洋地域の芸能 ～昆曲～		10月27日(日)	実績	1回	1日	400人	70.5%	567	107.8%
			計画	1回	1日	371人	59.9%	619	
国立劇場寄席		11月17日(日)	実績	1回	1日	586人	94.4%	621	118.4%
			計画	1回	1日	495人	80.0%	619	
組踊上演 300周年記念 能「翁」「羽衣」	国立劇場 おきなわ 大劇場	12月21日(土)	実績	1回	1日	568人	92.1%	617	114.7%
			計画	1回	1日	495人	80.0%	619	
組踊上演 300周年記念 能「放下僧」「石橋」		12月22日(日)	実績	1回	1日	514人	83.3%	617	103.8%
			計画	1回	1日	495人	80.0%	619	
ゆらていく遊ば		1月18日(土)	実績	1回	1日	517人	91.0%	568	121.6%
			計画	1回	1日	425人	75.1%	566	
新作組踊「春時雨」		3月21日(土)	実績	1回	1日	435人	70.0%	621	108.2%
			計画	1回	1日	402人	64.9%	619	
企画公演【小 計】 8公演			実績	9回	9日	4,001人	78.3%	5,113	109.8%
			計画	9回	9日	3,645人	70.6%	5,161	
組踊上演 300周年記念 御冠船踊と組踊「執心鐘入」	組踊公園 特設御冠 船舞台	10月4日(金)	実績	1回	1日	440人	89.1%	494	111.1%
			計画	1回	1日	396人	70.1%	565	
組踊上演 300周年記念		10月5日(土)	実績	1回	1日	431人	87.2%	494	108.8%

御冠船踊と組踊「銘苺子」			計画	1回	1日	396人	70.1%	565	
研究公演【小計】 2公演			実績	2回	2日	871人	88.2%	988	110.0%
			計画	2回	2日	792人	70.1%	1,130	
組踊上演 300周年記念 組踊鑑賞教室「二童敵討」	国立劇場 おきなわ 大劇場	6月8日(土)	実績	1回	1日	386人	66.8%	578	95.3%
			計画	1回	1日	405人	70.1%	578	
組踊上演 300周年記念 親子のための組踊鑑賞教室 「女物狂」		7月27日(土)	実績	1回	1日	543人	93.9%	578	134.1%
			計画	1回	1日	405人	70.1%	578	
琉球舞踊鑑賞教室		8月10日(土)	実績	1回	1日	498人	87.7%	568	125.8%
			計画	1回	1日	396人	70.0%	566	
沖縄芝居鑑賞教室 「怪猫伝・化け猫 ～山田祝女殿内～」		9月12日(木)	実績	2回	2日	978人	85.3%	1,147	113.9%
		～9月13日(金)	計画	2回	2日	859人	75.0%	1,145	
組踊上演 300周年記念 組踊鑑賞教室「執心鐘入」		10月16日(水)	実績	6回	3日	2,127人	61.3%	3,468	81.8%
		～10月18日(金)	計画	6回	3日	2,601人	75.0%	3,468	
組踊上演 300周年記念 はじめての組踊 ～Discover KUMIODORI～ 組踊「執心鐘入」	10月19日(土)	実績	1回	1日	431人	74.6%	578	127.1%	
		計画	1回	1日	339人	60.0%	565		
普及公演【小計】 6公演			実績	12回	9日	4,963人	71.8%	6,917	99.2%
			計画	12回	9日	5,005人	72.5%	6,900	
組踊等沖縄伝統芸能 【合計】 28公演			実績	35回	32日	15,009人	74.3%	20,189	105.0%
			計画	35回	32日	14,290人	70.2%	20,350	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(a) 公演実績(年度当初の公演計画)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
組踊上演 300周年記念 組踊「万歳敵討」「義臣物語」	国立劇場 おきなわ 大劇場	4月20日(土)	実績	1回	1日	324人	57.5%	563	95.6%
			計画	1回	1日	339人	60.0%	565	
琉球舞踊「男性舞踊家の会」		4月27日(土)	実績	1回	1日	550人	88.6%	621	111.1%
			計画	1回	1日	495人	80.0%	619	
組踊上演 300周年記念 組踊「忠臣身替の巻」		5月15日(水)	実績	1回	1日	382人	67.9%	563	112.7%
			計画	1回	1日	339人	60.0%	565	
組踊上演 300周年記念 三線音楽「古典音楽の美」		5月25日(土)	実績	1回	1日	407人	65.5%	621	109.7%
			計画	1回	1日	371人	59.9%	619	
組踊上演 300周年記念 組踊「花売の縁」		6月29日(土)	実績	1回	1日	491人	87.2%	563	144.8%
			計画	1回	1日	339人	60.0%	565	
琉球舞踊「琉球舞踊鑑賞会」	7月20日(土)	実績	1回	1日	492人	79.2%	621	106.0%	
		計画	1回	1日	464人	75.0%	619		
沖縄芝居「王女御嶽」 「怪猫伝・化け猫 ～山田祝女殿内～」	9月14日(土)	実績	1回	1日	425人	74.8%	568	115.5%	
		計画	1回	1日	368人	65.0%	566		
琉球舞踊「琉球舞踊特選会」	9月28日(土)	実績	1回	1日	367人	59.1%	621	79.1%	
		計画	1回	1日	464人	75.0%	619		

組踊上演 300 周年記念 民俗芸能「組踊『父子忠臣』 ～竹富島仲筋村～」		11 月 24 日(日)	実績	1 回	1 日	357 人	57.5%	621	88.8%
			計画	1 回	1 日	402 人	64.9%	619	
琉球舞踊「琉球舞踊特選会」		12 月 14 日(土)	実績	1 回	1 日	484 人	77.9%	621	104.3%
			計画	1 回	1 日	464 人	75.0%	619	
琉球舞踊「春夏秋冬を舞う」		1 月 11 日(土)	実績	1 回	1 日	393 人	63.3%	621	84.7%
			計画	1 回	1 日	464 人	75.0%	619	
組踊「伏山敵討」		2 月 22 日(土)	実績	1 回	1 日	502 人	88.5%	567	148.1%
			計画	1 回	1 日	339 人	60.0%	565	
琉球舞踊「男性舞踊家の会」 ※公演中止		2 月 29 日(土)	実績						
			計画	1 回	1 日	495 人	80.0%	619	
三線音楽「島唄の響き」 ※公演中止	国立劇場 おきなわ 小劇場	3 月 14 日(土)	実績						
			計画	1 回	1 日	149 人	59.8%	249	
定期公演【小 計】 12 公演 (計画:14 公演)			実績	12 回	12 日	5,174 人	72.2%	7,171	94.2%
			計画	14 回	14 日	5,492 人	68.4%	8,027	
組踊上演 300 周年記念 語り組踊「恋し子の方星」	国立劇場 おきなわ 小劇場	6 月 15 日(土)	実績	1 回	1 日	216 人	86.7%	249	145.0%
			計画	1 回	1 日	149 人	59.8%	249	
組踊上演 300 周年記念 新作組踊「花の幻」 「花よ、とこしえに」		8 月 24 日(土) ～8 月 25 日(日)	実績	2 回	2 日	765 人	61.1%	1,253	94.1%
			計画	2 回	2 日	813 人	65.0%	1,251	
アジア・太平洋地域の芸能 ～昆曲～		10 月 27 日(日)	実績	1 回	1 日	400 人	70.5%	567	107.8%
			計画	1 回	1 日	371 人	59.9%	619	
国立劇場寄席		11 月 17 日(日)	実績	1 回	1 日	586 人	94.4%	621	118.4%
			計画	1 回	1 日	495 人	80.0%	619	
組踊上演 300 周年記念 能「翁」「羽衣」	国立劇場 おきなわ 大劇場	12 月 21 日(土)	実績	1 回	1 日	568 人	92.1%	617	114.7%
			計画	1 回	1 日	495 人	80.0%	619	
組踊上演 300 周年記念 能「放下僧」「石橋」		12 月 22 日(日)	実績	1 回	1 日	514 人	83.3%	617	103.8%
			計画	1 回	1 日	495 人	80.0%	619	
ゆらていく遊ば		1 月 18 日(土)	実績	1 回	1 日	517 人	91.0%	568	121.6%
			計画	1 回	1 日	425 人	75.1%	566	
新作組踊「春時雨」		3 月 21 日(土)	実績	1 回	1 日	435 人	70.0%	621	108.2%
			計画	1 回	1 日	402 人	64.9%	619	
企画公演【小 計】 8 公演 (計画:8 公演)			実績	9 回	9 日	4,001 人	78.3%	5,113	109.8%
			計画	9 回	9 日	3,645 人	70.6%	5,161	
組踊上演 300 周年記念 御冠船踊と組踊「執心鐘入」	組踊公園 特設御冠 船舞台	10 月 4 日(金)	実績	1 回	1 日	440 人	89.1%	494	111.1%
			計画	1 回	1 日	396 人	70.1%	565	
組踊上演 300 周年記念 御冠船踊と組踊「銘苺子」		10 月 5 日(土)	実績	1 回	1 日	431 人	87.2%	494	108.8%
			計画	1 回	1 日	396 人	70.1%	565	
研究公演【小 計】 2 公演 (計画:2 公演)			実績	2 回	2 日	871 人	88.2%	988	110.0%
			計画	2 回	2 日	792 人	70.1%	1,130	
組踊上演 300 周年記念		6 月 8 日(土)	実績	1 回	1 日	386 人	66.8%	578	95.3%

組踊鑑賞教室「二童敵討」	国立劇場 おきなわ 大劇場	計画	1回	1日	405人	70.1%	578	
組踊上演300周年記念 親子のための組踊鑑賞教室 「女物狂」		実績	1回	1日	543人	93.9%	578	134.1%
琉球舞踊鑑賞教室		計画	1回	1日	405人	70.1%	578	
		実績	1回	1日	498人	87.7%	568	125.8%
沖縄芝居鑑賞教室 「怪猫伝・化け猫 ～山田祝女殿内～」		計画	1回	1日	396人	70.0%	566	
		実績	2回	2日	978人	85.3%	1,147	113.9%
組踊上演300周年記念 組踊鑑賞教室「執心鐘入」		計画	2回	2日	859人	75.0%	1,145	
		実績	6回	3日	2,127人	61.3%	3,468	81.8%
組踊上演300周年記念 はじめての組踊 ～Discover KUMIODORI～ 組踊「執心鐘入」		計画	6回	3日	2,601人	75.0%	3,468	
		実績	1回	1日	431人	74.6%	578	127.1%
普及公演【小計】 6公演 (計画:6公演)		計画	1回	1日	339人	60.0%	565	
		実績	12回	9日	4,963人	71.8%	6,917	99.2%
組踊等沖縄伝統芸能 【合計】 28公演 (計画:30公演)	計画	12回	9日	5,005人	72.5%	6,900		
	実績	35回	32日	15,009人	74.3%	20,189	100.5%	
		計画	37回	34日	14,934人	70.4%	21,218	

(b) 外部専門家等の意見

- ・公演事業委員会を8月と3月に2回開催し、外部専門家等の意見を聴取して、公演制作及び公演計画に活用した。(8月22日、3月24日)

(c) アンケート調査

配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
7,776人	4,251人	3,814人	3,664人	54.7%	96.1%
《Discover KUMIODORI のみのアンケート調査結果》 ※()内は外国人のみの数値					
350人	140人	137人 (14人)	133人 (14人)	40.0%	97.1% (100%)

※28公演で計35回実施。うち1回を「はじめての組踊～Discover KUMIODORI～組踊「執心鐘入」」で実施。

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・組踊公演では、上演機会の少ない優れた演目について、5月に「忠臣身替の巻」を、2月に「伏山敵討」を上演した。「忠臣身替の巻」は、組踊の継承に尽力された先達を顕彰し、国指定を受けた記念日にあたる5月15日に、人間国宝の宮城能鳳をはじめ、重鎮から若手までの出演で上演した。分かりやすいストーリーの「伏山敵討」は、見どころ、聞かせどころも多く、観客をひきつけていた。
- ・上演回数の多い組踊についても、適材適所の配役を実現させて取り組んだほか、公演第一部の舞踊をテーマを設けて構成し、新たな切り口で琉球舞踊の魅力を発信する企画を試みるなど工夫を施した。
- ・企画公演「能『翁』『羽衣』」「能『放下僧』『石橋』」では、沖縄の伝統芸能に影響を与えた本土の芸能のひとつとして、能を上演することにより、「組踊」を多角的に捉え、組踊上演300年の節目に、より深い理解への一助となる公演を制作することができた。
- ・企画公演「ゆらていく遊ば」では、恒例となっている組踊のパロディー「其ノ後ノ噺」の元となる作品を、本年度は観客から募集した結果、リクエスト1位となった組踊「執心鐘入」を取り上げ、また、休憩中や終演後には、観客と出演者が身近にふれ合う模擬店など、日頃見ることの出来ない演者の魅

力をよりお楽しみいただけるよう、工夫を凝らし、存分に堪能して頂く公演を制作した。

- ・ 研究公演「御冠船踊と組踊『執心鐘入』」「御冠船踊と組踊『銘苺子』」では、組踊上演 300 周年の節目にあたり、今一度、王朝時代の御冠船芸能として、当時の首里城御庭での舞台スタイルや演出等、様々な視点から考察を深め、屋外舞台での再現を図る研究公演を制作した。
- ・ 沖縄県の補助事業、文化プログラム等を活用して貸切バス費用助成事業や組踊ワークショップを実施したことで、多くの団体客等を勧誘することができた。
- ・ 外国人や海外からの来沖者を誘客するにあたり、「はじめての組踊～Discover KUMIODORI～組踊「執心鐘入」」では、公演前に英語通訳付きのワークショップを開催したほか、多言語版公演チラシの作成及び外国人向け情報誌への広告掲載、県内のインターナショナルスクールや外国人関係団体への公演案内、近隣ホテルへの営業等の誘客活動に取り組んだ。

【特記事項】

- ・ 令和元年度(第 74 回)文化庁芸術祭主催公演(10 月企画公演「アジア・太平洋地域の芸能」)
- ・ 令和元年度(第 74 回)文化庁芸術祭主催公演(10 月研究公演「御冠船踊と組踊『執心鐘入』」及び「御冠船踊と組踊『銘苺子』」、10 月普及公演、11 月民俗芸能公演「父子忠臣」、11 月企画公演「国立劇場寄席」)
- ・ 「語り組踊『恋し子の方星』」、「御冠船踊と組踊『執心鐘入』」「御冠船踊と組踊『銘苺子』」、「国立劇場寄席」及び新型コロナウイルス感染防止対策により中止となった 2 公演を除く全公演に字幕で歌詞等を表示し、鑑賞の助けとした。
- ・ 関連イベント、ワークショップ等を以下の通り実施。

イベント名	期間	会場	料金	出演者等	参加者数
組踊ワークショップ	6/8	国立劇場おきなわ養成研修室	無料	金城真次、天願雄一、棚原健太	17 人
組踊ワークショップ	6/29	国立劇場おきなわ養成研修室	無料	上原崇弘、比嘉大志、仲村逸夫	13 人
組踊ワークショップ	8/24	国立劇場おきなわ養成研修室	無料	川満香多、比嘉大志、仲嶺良盛	28 人
沖縄芝居よもやま話	9/14	国立劇場おきなわ大劇場ホワイエ	無料	出演者:八木政男 聞き手:嘉数道彦	64 人
組踊ワークショップ	10/5	国立劇場おきなわ養成研修室	無料	川満香多、天願雄一、大城貴幸	22 人
外国人のための組踊ワークショップ	10/19	国立劇場おきなわ養成研修室	無料	川満香多、天願雄一、玉城和樹	26 人
昆曲ワークショップ	10/26	国立劇場おきなわ大劇場ホワイエ	無料	王芳 他	42 人
パリ公演ワークショップ 組踊レクチャー「女形ができるまで ～化粧から着付けまで」	12/7	国際交流基金パリ 日本文化会館	5 ユーロ	嘉数道彦、佐辺良和	29 人
パリ学校ワークショップ	12/5	Campus Montessori	無料	嘉数道彦、花城英樹、佐辺良和、平良大	32 人
パリ学校ワークショップ	12/5	Eveil et Moi Ecole montessori	無料	嘉数道彦、花城英樹、佐辺良和、平良大	17 人
組踊ワークショップ	2/22	国立劇場おきなわ養成研修室	無料	川満香多、佐辺良和、玉城和樹	11 人
組踊ワークショップ	3/21	国立劇場おきなわ養成研修室	無料	天願雄一、比嘉大志、徳田泰樹	7 人

イ 演目の拡充

①歌舞伎

(a) 復活等の上演に際して「国立劇場文芸研究会」において補綴、台本を作成

- ・ 国立劇場が過去に復活した作品の台本、演出の見直し。(10月「天竺徳兵衛韓噺」)
- ・ 名場面を分かりやすく鑑賞できるように通し狂言として構成するため、原作から新たに台本を補綴。(11月「孤高勇士嬢景清一日向嶋」)
- ・ 初演以来長らく上演が途絶えていた作品の復活に伴う台本の補綴。(12月「蝙蝠の安さん」、88年ぶり)
- ・ 平成30年度に作成した復活上演用準備台本「御国入曾我中村」を基に、上演の実施に伴い、原作の意図を活かして台本を補綴。(初春「菊一座令和仇討」、145年ぶり)

(b) 新作脚本募集説明会を実施

- ・ 応募脚本の充実を図るため、例年のスケジュールであれば本年度に実施する応募受付を次年度に延期し、2/25に「国立劇場歌舞伎脚本募集説明会」を実施。選考委員経験者の竹田真砂子が脚本執筆の心構えを講義し、入選(上演)経験者の岡野竹時が創作・上演の過程を紹介した。参加者：72名。

②文楽

(a) 上演が途絶えていた場面の復活・上演

- ・ 本館では5月文楽公演「妹背山婦女庭訓」で98年ぶりに「大序 大内の段」を復活。
- ・ 文楽劇場では、4月文楽公演「仮名手本忠臣蔵」で「桃井館力弥使者の段」を国立文楽劇場では初めて上演。11月文楽公演「仮名手本忠臣蔵」で十段目「天河屋の段」を原作通りに102年ぶりに復活。
- ・ 文楽劇場では、初春文楽公演で「明烏六花曙」を24年ぶりに上演。

(b) その他

- ・ 文楽劇場夏休み文楽特別公演第一部の親子劇場では、平成26年の親子劇場で人気を博した小佐田定雄による新作文楽「かみなり太鼓」を、客席宙乗りや錦影絵を使った花火の投影など新たな演出を加えて再演し、レパートリー化を図った。また、第三部サマーレイトショー「国言詢音頭」では「五人伐の段」で本水を使った演出を行った。
- ・ 文楽劇場11月文楽公演では、通常はどちらかだけを上演する十一段目「花水橋引揚の段」と「光明寺焼香の段」を、初めて両方続けて上演。

③舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等

(a) 新作委嘱作品の上演

- ・ 現代曲「隆達小歌による 夢のうき世の、うき世の夢の」(作曲＝桑原ゆう)を新作委嘱初演。(本館6月邦楽公演)

(b) 正倉院に残存する古代楽器を復元・復曲した雅楽曲の再演

- ・ 国立劇場が復元した古代楽器を用いた復曲作品「曹娘禪脱」「番假崇」(復曲＝芝祐靖)を再演。(本館11月雅楽公演「雅楽 アジアの響き」)

(c) その他

- ・ 新作声明の代表作「蛙の声明」を30年ぶりに再演。(本館7月特別企画公演 第12回伝統芸能の魅力「大人のための声明入門」)
- ・ 地唄「老松」に新たに振付し(井上八千代＝振付)、上方舞の作品として国立劇場初演となった。(本館8月舞踊公演「舞の会一京阪の座敷舞一」)

④大衆芸能

(a) 「漫才・コント」の新作脚本募集、選考及び表彰

- ・ 第21回大衆芸能脚本募集を実施。(募集部門：漫才・コント、募集期間：8/1～31、応募総数：88篇)
優 秀 作：「政治と正義」坂下泰義
佳 作：「近代的地獄」川原正憲、「モンスターになれる」古田淳
奨 励 賞：「使用上の注意をよく読んで」重田善文、「疑惑のファーストクラス」藤丸紘生

《審査の経過》

8月1日～31日	応募受付
----------	------

10月7日～11月25日	予備選考(予備選考委員4名が在宅で選考)
1月24日	選考委員会
2月17日	選考結果公表
2月21日	贈賞式

(b) 過去の入選作品も含め上演に向けた準備作業

- ・令和2年度上演を実施予定。

⑤能楽

(a) 現行曲の台本演出を大幅に見直す作品を新たに制作

- ・3月特別企画公演 復曲能「岩船」・狂言「袴裂」(感染症の拡大防止のため公演中止)

(b) 他の能楽堂等で上演された新作・復曲作品の再演

- ・4月25日企画公演 復曲能「碁」
- ・12月企画公演 復曲狂言「蜂」・復曲能「吉野琴」
- ・1月狂言の会 新作狂言「彦市ばなし」

(c) 国立能楽堂委嘱作品の他劇場での再演

- ・新作狂言「鮎」(5/5、2回、名古屋能楽堂「野村万作・野村萬斎 新作狂言『鮎』」、主催：CBCテレビほか)
- ・新作狂言「鮎」(5/6、1回、関市文化会館「第272回市民の劇場 野村万作・野村萬斎 新作狂言『鮎』」、主催：関市)
- ・新作狂言「鮎」(6/14、1回、金沢市文化ホール「金沢市文化ホールリニューアル記念公演 新作狂言『鮎』」、主催：公益財団法人金沢芸術創造財団)
- ・新作狂言「鮎」(7/18、1回、穂の国とよはし芸術劇場「野村万作・野村萬斎狂言公演2019 新作狂言『鮎』」、主催：公益財団法人豊橋文化振興財団、制作協力)
- ・新作狂言「鮎」(7/26-27、2回、大濠公園能楽堂「第23回 ふくおか「萬斎の会」」、主催：ふくおか「萬斎の会」、制作協力)
- ・新作狂言「鮎」(11/1、2回、豊田市能楽堂「狂言づくし 野村万作・野村萬斎 新作狂言『鮎』」、主催：公益財団法人豊田市文化振興財団ほか)
- ・新作狂言「鮎」(11/2、1回、半田市福祉文化会館「野村万作・野村萬斎 新作狂言『鮎』」、主催：CBCテレビほか)
- ・新作狂言「鮎」(3/21、2回、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール「野村万作・野村萬斎狂言公演」、主催：滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール、制作協力)(感染症の拡大防止のため公演中止)

(d) その他

- ・4月25日企画公演 復曲能「碁」を異流共演により上演。
- ・4月27日企画公演 能「正尊」を異流共演により上演。
- ・12月25日企画公演 復曲狂言「蜂」、復曲能「吉野琴」を上演。
- ・3月27日、28日特別企画公演 復曲能「岩船」を上演(感染症の拡大防止のため無観客で上演)。

⑥組踊等沖縄伝統芸能

(a) 書き下ろし新作組踊制作

- ・8月企画公演 新作組踊「花よ、とこしえに」
- ・1月企画公演 喜劇「鐘入鬼女其ノ後ノ嘶〜続・執心鐘入〜」
- ・3月企画公演 新作組踊「春時雨」

(b) 御冠船踊として誕生した舞踊演目と組踊の実験的上演

- ・10月研究公演 御冠船踊「入子躍」「扇子躍」組踊「執心鐘入」「銘苺子」(初の野外公演、からくり仕掛け花火の復元)

(c) 上演機会が少ない優れた演目、古典の様式を踏まえた新作組踊の上演

《上演機会が少ない優れた演目の上演》

- ・4月定期公演 組踊「義臣物語」
- ・5月定期公演 組踊「忠臣身替の巻」

- ・ 9 月沖縄芝居公演 歌劇「王女御嶽」

《新作の上演・再演》

- ・ 6 月企画公演 語り組踊「恋し子の方星」
- ・ 8 月企画公演 新作組踊「花の幻」・「花よ、とこしえに」
- ・ 12 月定期公演 創作舞踊「働き者・山の美童」「かくり涙」「あや愛しゃ」「新加那よ」
- ・ 1 月企画公演 喜劇「鐘入鬼女其ノ後ノ嘶～続・執心鐘入～」
- ・ 3 月企画公演 新作組踊「春時雨」

《新たな演出、演出の見直しによる上演》

- ・ 6 月企画公演 琉球講談「謝名親方鄭廻の最期」～史劇「国難」より～
- ・ 6 月企画公演 語り組踊「恋し子の方星」（「語り組踊」という新たな演出）
- ・ 10 月研究公演 御冠船踊「入子躍」「扇子躍」 組踊「執心鐘入」「銘苺子」（初の野外公演、からくり仕掛け花火の復元）

(d) 「第 1 回新作組踊・戯曲大賞」の創設・実施

- ・ 国立劇場おきなわでは、沖縄伝統芸能の振興及び新たな作品の創造と発信を目指し、組踊上演 300 周年、開場 15 周年となる 2019 年より「新作組踊・戯曲大賞」を創設した。入賞作品は下記の通り。（募集期間：10/1～31、応募総数：10 作品）

大 賞 「塩売(マシュウキ)」 伊良波賢弥

奨励賞 「京阿波根仁王立(チョーアファグンニヤーダチ)」 西岡敏

佳 作 「漢那の子(カンナヌシー)」 鈴木耕太

(2) 現代舞台芸術の公演	p.74
①オペラ	p.76
②バレエ	p.79
③現代舞踊	p.82
④演劇	p.84

2 - (2) 現代舞台芸術の公演

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(2) 現代舞台芸術の公演

国際的に比肩し得る高い水準の現代舞台芸術を自主制作により公演、振興、普及

ア オペラ公演：名作と呼ばれる代表的な作品の上演、新たに制作する作品や上演機会の少ない優れた作品の上演、日本の作曲家の作品の上演、それらをレパートリーとして蓄積し繰り返し上演、オペラの振興と普及

イ バレエ公演：スタンダードな作品を新国立劇場バレエ団を主体に上演、国内外の振付家による質の高い新国立劇場オリジナル作品の企画・上演、それらをレパートリーとして蓄積し繰り返し上演、バレエの振興と普及

ウ 現代舞踊公演：特徴あるスタイルを持つ振付家による斬新な企画作品、国内外で高い評価を得ている作品等の上演、現代舞踊の振興と普及

エ 演劇公演：新作上演を企画・発信、我が国で創作された作品の再評価や海外の優れた作品の紹介、芸術団体等との交流、現代演劇の振興と普及

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(2) 現代舞台芸術の公演

現代舞台芸術の振興と普及を図るため、中期計画の方針に従い、別表 2 のとおり主催公演を実施

《中期目標の指標・関連指標》

2-1 各公演における入場者数 (達成目標は年度計画で公演毎に設定する)	《公演実績》表 参照
2-2 歌舞伎、文楽、オペラ等の分野毎の入場者数 (達成目標は年度計画で分野毎に設定する)	《公演実績》表 参照
2-3 現代舞台芸術の公演の公演数 (前中期目標期間実績の維持)	28 公演 (H25-29 実績平均：30.2 公演)
2-6 現代舞台芸術の公演について、目標に従い業務を実施しているか (評議員会の評価を踏まえ判断)	

《公演実績(現代舞台芸術分野総計)》(新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除く)

分野名	公演数		区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
	劇場								
オペラ	11 公演		実績	47 回	47 日	69,565 人	82.7%	84,092 席	101.3%
	オペラ劇場		計画	48 回	48 日	68,700 人	80.0%	85,884 席	
バレエ	7 公演		実績	42 回	31 日	63,060 人	86.5%	72,864 席	107.5%
	オペラ劇場		計画	42 回	31 日	58,640 人	80.5%	72,864 席	
現代舞踊	3 公演		実績	11 回	9 日	4,137 人	89.6%	4,618 席	118.2%
	中劇場、小劇場		計画	10 回	8 日	3,500 人	81.8%	4,280 席	
演劇	7 公演		実績	126 回	113 日	46,291 人	86.3%	53,612 席	111.0%
	中劇場、小劇場		計画	124 回	115 日	41,700 人	79.7%	52,352 席	
総合計	28 公演		実績	226 回	200 日	183,053 人	85.1%	215,186 席	
			計画	224 回	202 日	172,540 人	80.1%	215,380 席	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※2月26日の総理大臣からの要請に基づき、文部科学大臣から所管する文化・スポーツ関係独立行政法人に主催事業の自粛(中止)要請が直接行われたことから、要請後の公演計画によることとする。

※台風19号接近のため、右記の公演を中止。オペラ「エウゲニ・オネーギン」(10/12公演)、演劇「どん底」(10/12、13公演)。

(A)中止分を計画から除いた場合の計画入場者数、(B)入場者数の対計画達成率はそれぞれ下記の通りとなる。

オペラ (A) 67,340 人 (B) 103.3% 演劇合計 (A)41,213 人 (B)112.3%

現代舞台芸術分野総計 (A) 170,693 人 (B) 107.2%

《公演実績(現代舞台芸術分野総計)》(年度当初の公演計画)

分野名	公演数		区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
	劇場								
オペラ	11 公演		実績	47 回	47 日	69,565 人	82.7%	84,092 席	94.6%
	オペラ劇場		計画	52 回	52 日	73,500 人	79.0%	93,052 席	
バレエ	7 公演		実績	42 回	31 日	63,060 人	86.5%	72,864 席	103.7%
	オペラ劇場		計画	44 回	33 日	60,800 人	79.5%	76,448 席	
現代舞踊	3 公演		実績	11 回	9 日	4,137 人	89.6%	4,618 席	89.9%
	中劇場、小劇場		計画	14 回	11 日	4,600 人	81.6%	5,640 席	
演劇	7 公演		実績	126 回	113 日	46,291 人	86.3%	53,612 席	111.0%
	中劇場、小劇場		計画	124 回	115 日	41,700 人	79.7%	52,352 席	
総合計	28 公演		実績	226 回	200 日	183,053 人	85.1%	215,186 席	
			計画	234 回	211 日	180,600 人	79.4%	227,492 席	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

① オペラ

《制作方針》

- 1、名作と呼ばれるような代表的な作品を上演するとともに、新たに制作する作品や上演機会の少ない優れた作品、日本の作曲家の作品の上演にも努める。
- 2、上演作品をレパートリーとして蓄積し、繰り返し上演していくことで、オペラの振興と普及を図る。

(a) 公演実績(新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除く)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
「フィレンツェの悲劇/ ジャンニ・スキッキ」(新制作)	オペラ 劇場	4月7日(日)	実績	4回	4日	5,343人	74.5%	7,168	102.8%
		~4月17日(水)	計画	4回	4日	5,200人	72.5%	7,168	
「ドン・ジョヴァンニ」		5月17日(金)	実績	5回	5日	7,976人	89.0%	8,960	109.3%
		~5月26日(日)	計画	5回	5日	7,300人	81.5%	8,960	
「蝶々夫人」		6月1日(土)	実績	4回	4日	6,696人	93.4%	7,168	113.5%
		~6月9日(日)	計画	4回	4日	5,900人	82.3%	7,168	
「トゥーランドット」(新制作)		7月18日(木)	実績	4回	4日	6,560人	91.5%	7,168	105.8%
		~7月22日(月)	計画	4回	4日	6,200人	86.5%	7,168	
「エウゲニ・オネーギン」 (新制作)		10月1日(火)	実績	4回	4日	5,614人	78.3%	7,168	82.6%
		~10月12日(土)	計画	5回	5日	6,800人	75.9%	8,960	
「ドン・パスクワレ」 (新制作)		11月9日(土)	実績	5回	5日	6,368人	71.1%	8,960	101.1%
		~11月17日(日)	計画	5回	5日	6,300人	70.3%	8,960	
「椿姫」		11月28日(木)	実績	5回	5日	7,175人	80.1%	8,960	94.4%
		~12月7日(土)	計画	5回	5日	7,600人	84.8%	8,960	
「ラ・ボエーム」	1月24日(金)	実績	5回	5日	7,275人	81.2%	8,960	103.9%	
	~2月2日(日)	計画	5回	5日	7,000人	78.1%	8,960		
「セビリアの理髪師」	2月6日(木)	実績	5回	5日	6,962人	77.7%	8,960	99.5%	
	~2月16日(日)	計画	5回	5日	7,000人	78.1%	8,960		
「コジ・ファン・トゥッテ」	3月18日(水)	実績							
	~3月24日(火)	計画							
オペラ公演【小計】9公演 (計画:10公演)			実績	41回	41日	59,969人	81.6%	73,472	95.6%
			計画	45回	45日	62,740人	77.8%	80,640	
高校生のためのオペラ鑑賞 教室 「蝶々夫人」	オペラ 劇場	7月6日(金)	実績	6回	6日	9,596人	90.4%	10,620	102.1%
		~7月14日(土)	計画	6回	6日	9,400人	88.5%	10,620	
オペラ鑑賞教室【小計】1公演 (計画:1公演)			実績	6回	6日	9,596人	90.4%	10,620	102.1%
			計画	6回	6日	9,400人	88.5%	10,620	
オペラ【合計】10公演 (計画:11公演)			実績	47回	47日	69,565人	82.7%	84,092	96.4%
			計画	51回	51日	72,140人	79.0%	91,260	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※台風19号接近のため、右記の公演を中止。オペラ「エウゲニ・オネーギン」(10/12公演)。

(A)中止分を計画から除いた場合の計画入場者数、(B)入場者数の対計画達成率はそれぞれ下記の通りとなる。

() () オペラ「エウゲニ・オネーギン」(A)5,440人(=6,800人×4回/5回)(B)103.2%

オペラ小計:(A)57,940人(B)103.5%

オペラ合計:(A)67,340人(B)103.3%

(a) 公演実績(年度当初の公演計画)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
「フィレンツェの悲劇/ ジャンニ・スキッキ」(新制作)	オペラ 劇場	4月7日(日)	実績	4回	4日	5,343人	74.5%	7,168	102.8%
		~4月17日(水)	計画	4回	4日	5,200人	72.5%	7,168	
「ドン・ジョヴァンニ」		5月17日(金)	実績	5回	5日	7,976人	89.0%	8,960	109.3%
		~5月26日(日)	計画	5回	5日	7,300人	81.5%	8,960	
「蝶々夫人」		6月1日(土)	実績	4回	4日	6,696人	93.4%	7,168	113.5%
		~6月9日(日)	計画	4回	4日	5,900人	82.3%	7,168	
「トゥーランドット」(新制作)		7月18日(木)	実績	4回	4日	6,560人	91.5%	7,168	105.8%
		~7月22日(月)	計画	4回	4日	6,200人	86.5%	7,168	
「エウゲニ・オネーギン」 (新制作)		10月1日(火)	実績	4回	4日	5,614人	78.3%	7,168	82.6%
		~10月12日(土)	計画	5回	5日	6,800人	75.9%	8,960	
「ドン・パスクワレ」 (新制作)		11月9日(土)	実績	5回	5日	6,368人	71.1%	8,960	101.1%
		~11月17日(日)	計画	5回	5日	6,300人	70.3%	8,960	
「椿姫」		11月28日(木)	実績	5回	5日	7,175人	80.1%	8,960	94.4%
		~12月7日(土)	計画	5回	5日	7,600人	84.8%	8,960	
「ラ・ボエーム」		1月24日(金)	実績	5回	5日	7,275人	81.2%	8,960	103.9%
		~2月2日(日)	計画	5回	5日	7,000人	78.1%	8,960	
「セビリアの理髪師」	2月6日(木)	実績	5回	5日	6,962人	77.7%	8,960	99.5%	
	~2月16日(日)	計画	5回	5日	7,000人	78.1%	8,960		
「コジ・ファン・トゥッテ」	3月18日(水)	実績							
	~3月24日(火)	計画	4回	4日	4,800人	67.0%	7,168		
オペラ公演【小計】9公演 (計画:10公演)			実績	41回	41日	59,969人	81.6%	73,472	93.6%
			計画	46回	46日	64,100人	77.8%	82,432	
高校生のためのオペラ鑑賞 教室 「蝶々夫人」	オペラ 劇場	7月6日(金)	実績	6回	6日	9,596人	90.4%	10,620	102.1%
		~7月14日(土)	計画	6回	6日	9,400人	88.5%	10,620	
オペラ鑑賞教室【小計】1公演 (計画:1公演)			実績	6回	6日	9,596人	90.4%	10,620	102.1%
			計画	6回	6日	9,400人	88.5%	10,620	
オペラ【合計】10公演 (計画:11公演)			実績	47回	47日	69,565人	82.7%	84,092	94.6%
			計画	52回	52日	73,500人	79.0%	93,052	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b) 外部専門家等の意見

- ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。また、総括レポートの提出を半期ごとに依頼し、自己点検評価の総括に活かした。

(c) アンケート調査

配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
20,418人	9,799人	9,486人	8,605人	48.0%	90.7%

※全10公演で計15回実施

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・台風 19 号の影響により 1 回を中止した「エウゲニ・オネーギン」及び新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため全公演を中止した「コジ・ファン・トゥッテ」を除き、本公演 8 公演、鑑賞教室 1 公演を計画通り実施した。公演数の大幅減を余儀なくされたにも関わらず、オペラ公演全体で入場者数の対計画達成率は 94.6%に達した。(中止した公演を除いた場合の達成率は 103.3%。)
- ・いずれの公演も高い水準で上演することができた。
- ・「フィレンツェの悲劇／ジャンニ・スキッキ」「トゥーランドット」「エウゲニ・オネーギン」「ドン・パスクワレ」を新制作で上演。
- ・新国立劇場と東京文化会館が初めて共同制作を行い、日本を代表する各地の劇場とも協力して 2 年に渡り展開する国際プロジェクト「オペラ夏の祭典 2019-20 Japan↔Tokyo↔World」の第一弾として「トゥーランドット」を上演、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックへ向け祝祭感を盛り上げた。
- ・1 幕物を 2 本上演(ダブル・ビル)する「フィレンツェの悲劇／ジャンニ・スキッキ」、ロシア・オペラの代表作「エウゲニ・オネーギン」、ベルカント・オペラ「ドン・パスクワレ」を新制作することで新国立劇場のレパートリーに不足していた分野を補い、今後のラインアップ充実に繋がった。
- ・「蝶々夫人」は本公演と鑑賞教室を合わせて東京で 10 回公演したのち、ロームシアター京都にて鑑賞教室として 2 回公演を行い、計 12 回の長期公演を実現、19,050 人の観客を得た。
- ・東京文化会館との共同制作作品である「トゥーランドット」は、同館と新国立劇場での上演に加えてびわ湖ホール及び札幌芸術劇場 hitaru での上演も実現し、計 11 回公演を実施、全国で 19,559 人が鑑賞した。さらに合唱には新国立劇場合唱団にびわ湖声楽アンサンブル及び藤原歌劇団合唱部が加わるなど日本各地の劇場・団体と連携した大規模プロジェクトであり、公演は国内外から高い評価を得た。
- ・平成 30 年度に引き続き「蝶々夫人」「トゥーランドット」で試行的に英語字幕を設置した後、2019/2020 シーズンから(令和元年 10 月から)全てのオペラ公演で英語字幕を設置することとした。あわせて、公演プログラムは従来のあらすじとクレジットに加えプロフィールや解説にも英文ページを増やし、インバウンド対策を更に推進した。
- ・「蝶々夫人」のタイトルロール佐藤康子、「トゥーランドット」リユー役の中村恵理、「ドン・ジョヴァンニ」ドンナ・エルヴィーラ役と「セビリアの理髪師」ロジーナ役の脇園彩、「椿姫」ジェルモン役の須藤慎吾など、日本人歌手が随所で主役級を務め活躍した。

【特記事項】

- ・令和元年度(第 74 回)文化庁芸術祭主催公演オープニング・オペラ公演(「エウゲニ・オネーギン」)
- ・文化庁芸術祭オープニング(「エウゲニ・オネーギン」初日)に秋篠宮皇嗣同妃両殿下ご臨席(10/1)
- ・令和元年度(第 74 回)文化庁芸術祭協賛公演(「ドン・パスクワレ」「椿姫」)
- ・全公演において、字幕による歌詞の日本語訳を表示した。また、2019/2020 シーズン(令和元年 10 月以降)の全ての公演で、併せて英語訳も表示した。
- ・「トゥーランドット」は NHK が東京文化会館での公演を収録し、BS プレミアムで放送された(9/9)。
- ・平成 30 年度 2 月公演「紫苑物語」が、世界のオペラの成果を表彰する International Opera Awards 2020 の Premiere 部門でファイナリストとして選出された。また、同公演の台本を手がけた佐々木幹郎氏が第 1 回大岡信賞を受賞した。

② バレエ

《制作方針》

- 1、スタンダードな演目を多彩なキャストで上演するとともに、国内外の振付家による質の高い新国立劇場のオリジナル作品の企画・上演にも努める。
- 2、上演作品をレパートリーとして蓄積し、繰り返し上演することにより、バレエの振興普及を図る。

(a) 公演実績(新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除く)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
「シンデレラ」	オペラ 劇場	4月27日(土)	実績	6回	6日	8,780人	81.7%	10,752	102.1%
		～5月5日(日・祝)	計画	6回	6日	8,600人	80.0%	10,752	
「アラジン」		6月15日(土)	実績	6回	5日	9,418人	87.6%	10,752	102.4%
		～6月23日(日)	計画	6回	5日	9,200人	85.6%	10,752	
「ロメオとジュリエット」		10月19日(土)	実績	7回	5日	10,280人	82.0%	12,544	99.8%
		～10月27日(日)	計画	7回	5日	10,300人	82.1%	12,544	
「くるみ割り人形」		12月14日(土)	実績	9回	5日	15,336人	95.1%	16,128	118.0%
		～12月22日(日)	計画	9回	5日	13,000人	80.6%	16,128	
ニューイヤー・バレエ		1月11日(土)	実績	3回	3日	4,513人	83.9%	5,376	110.1%
		～1月13日(月・祝)	計画	3回	3日	4,100人	76.3%	5,376	
「マノン」		2月22日(土)	実績	3回	3日	3,843人	71.5%	5,376	118.6%
		～3月1日(日)	計画	3回	3日	3,240人	60.3%	5,376	
バレエ公演【小 計】6公演 (計画:6公演)			実績	34回	27日	52,170人	85.6%	60,928	107.7%
			計画	34回	27日	48,440人	79.5%	60,928	
こどものためのバレエ劇場 「白鳥の湖」	オペラ 劇場	7月27日(土)	実績	8回	4日	10,890人	91.2%	11,936	106.8%
		～7月30日(火)	計画	8回	4日	10,200人	85.5%	11,936	
バレエ鑑賞教室【小 計】1公演 (計画:1公演)			実績	8回	4日	10,890人	91.2%	11,936	106.8%
			計画	8回	4日	10,200人	85.5%	11,936	
バレエ【合 計】7公演 (計画:7公演)			実績	42回	31日	63,060人	86.5%	72,864席	107.5%
			計画	42回	31日	58,640人	80.5%	72,864席	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(a) 公演実績(年度当初の公演計画)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
「シンデレラ」	オペラ 劇場	4月27日(土)	実績	6回	6日	8,780人	81.7%	10,752	102.1%
		～5月5日(日・祝)	計画	6回	6日	8,600人	80.0%	10,752	
「アラジン」		6月15日(土)	実績	6回	5日	9,418人	87.6%	10,752	102.4%
		～6月23日(日)	計画	6回	5日	9,200人	85.6%	10,752	
「ロメオとジュリエット」		10月19日(土)	実績	7回	5日	10,280人	82.0%	12,544	99.8%
		～10月27日(日)	計画	7回	5日	10,300人	82.1%	12,544	
「くるみ割り人形」		12月14日(土)	実績	9回	5日	15,336人	95.1%	16,128	118.0%
		～12月22日(日)	計画	9回	5日	13,000人	80.6%	16,128	
ニューイヤー・バレエ		1月11日(土)	実績	3回	3日	4,513人	83.9%	5,376	110.1%
		～1月13日(月・祝)	計画	3回	3日	4,100人	76.3%	5,376	

「マノン」		2月22日(土) ～3月1日(日)	実績	3回	3日	3,843人	71.5%	5,376	71.2%
			計画	5回	5日	5,400人	60.3%	8,960	
バレエ公演【小 計】6公演 (計画:6公演)			実績	34回	27日	52,170人	85.6%	60,928	103.1%
			計画	36回	29日	50,600人	78.4%	64,512	
こどものためのバレエ劇場 「白鳥の湖」	オペラ 劇場	7月27日(土) ～7月30日(火)	実績	8回	4日	10,890人	91.2%	11,936	106.8%
			計画	8回	4日	10,200人	85.5%	11,936	
バレエ鑑賞教室【小 計】1公演 (計画:1公演)			実績	8回	4日	10,890人	91.2%	11,936	106.8%
			計画	8回	4日	10,200人	85.5%	11,936	
バレエ【合 計】7公演 (計画:7公演)			実績	42回	31日	63,060人	86.5%	72,864席	103.7%
			計画	44回	33日	60,800人	79.5%	76,448席	

(b) 外部専門家等の意見

- ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。また、総括レポートの提出を半期ごとに依頼し、自己点検評価の総括に活かした。

(c) アンケート調査

配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
9,162人	2,993人	2,752人	2,604人	32.7%	94.6%

※全7公演で計7回実施

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・ 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため一部日程をやむなく中止した「マノン」を除き、6公演(本公演5公演、こどもバレエ1公演)を計画どおり実施した。「マノン」では2回の公演中止を余儀なくされたにも関わらず、バレエ公演全体で入場者数の目標を達成した。(達成率 103.7%。中止した公演を除いた場合の達成率は 107.5%)
- ・ 古典作品の「くるみ割り人形」に加えて、マクミランやアシュトンなど20世紀を代表する振付家の作品を上演し、更に新国立劇場バレエ団のためのオリジナル作品「アラジン」の再演、前年度に大成功を収めた「不思議の国のアリス」の振付家・ウィールドンの「DGV」日本初演(「ニューイヤー・バレエ」にて上演)等、新国立劇場バレエ団ならではの幅広いレパートリーを示す多彩な公演を高い水準で上演した。
- ・ 本年度下半期は大原永子芸術監督の最終シーズンにあたり、同監督の目指してきたドラマティックバレエへのアプローチの集大成として「ロメオとジュリエット」及び「マノン」を上演して、その上演成果に対して観客、外部専門家の双方から高い評価を受けた。
- ・ 新国立劇場バレエ団が主役からコール・ド・バレエまでいかに実力を発揮した。若手の抜擢やスタッフの徹底指導により、複数の主役キャストそれぞれが高いテクニック・表現力で完成度の高い舞台を作り上げ、新国立劇場バレエ団の層の厚さをアピールすることができ、観客から高い支持を得た。外部専門家等からも評価を受けてバレエ団プリンシパルが各種賞を受賞した。
- ・ 「くるみ割り人形」は昨年に続いて12月に上演し、9回という多い公演回数にもかかわらず満席に近い来場者を得た(歴代2位:15,336人)。積極的な営業活動によりクリスマスの時期に観るバレエの定番として認知が高まり、学校団体のほか家族連れ、バレエ初心者も含め国内外から多く誘致することができた。
- ・ こどものためのバレエ劇場「白鳥の湖」は現代舞踊「NINJA」と組み合わせて「こども劇場セット」としてセット割引を実施した。大人と子供が共に楽しめる作品として積極的に周知することで、普段バレエを鑑賞する機会が少ないファミリー層を多数獲得し、観客層の一層の拡大につなげることができた。
- ・ こどものためのバレエ劇場「白鳥の湖」の公演会場にて、ジュニア公演先行DM新規登録者へのプレゼントキャンペーンを実施し、1,200件以上の登録を得た。DM登録者に対して先行販売等の案内を継続的に送付することで、子供向け公演をきっかけに獲得したファミリー層の定着を図った。

- 平成30年度に上演した「不思議の国のアリス」の制作を通して築いた振付家や共同制作パートナー(オーストラリア・バレエ)との良好な関係を活かし、同振付家による「DGV」をオーストラリア・バレエの協力のもと日本初演することができた。
- SNS(Twitter、Instagram、Facebook)を活用し、リハーサル風景や公演の様子等を積極的に動画・写真で掲載したり、動画広告を出稿したりすることで、当該公演やバレエ団への興味喚起・認知度の向上に貢献した。

【特記事項】

- 令和元年度(第74回)文化庁芸術祭主催公演(「ロメオとジュリエット」)
- 新国立劇場バレエ団プリンシパルの米沢唯が令和元年度(第70回)芸術選奨の舞踊部門で文部科学大臣賞を受賞した。(「ロメオとジュリエット」ほかの成果に対して)
- 新国立劇場バレエ団ファースト・ソリストの木村優里が第26回中川鋭之助賞を受賞。
- 新国立劇場バレエ団プリンシパルの米沢唯が第40回橘秋子賞優秀賞を受賞した。
- 「ニューイヤー・バレエ」はNHKが収録を行い、BSプレミアムで放送された。(2/17)

③ 現代舞踊

《制作方針》

特徴あるスタイルを持つ振付家による斬新な企画作品や国内外で高い評価を得ている作品等を上演し、現代舞踊の振興普及を図る。

(a) 公演実績(新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除く)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
森山開次「NINJA」	小劇場	5月31日(金) ～6月9日(日)	実績	9回	7日	2,724人	89.5%	3,042	129.7%
			計画	8回	6日	2,100人	77.7%	2,704	
中村恩恵×新国立劇場バレエ団 「ベートーヴェン・ソナタ」	中劇場	11月30日(土) ～12月1日(日)	実績	2回	2日	1,413人	89.7%	1,576	100.9%
			計画	2回	2日	1,400人	88.8%	1,576	
新国立劇場バレエ団 DANCE to the Future 2020	小劇場	3月27日(金) ～3月29日(日)	実績						
			計画						
現代舞踊【合計】2公演			実績	11回	9日	4,137人	89.6%	4,618	118.2%
			計画	10回	8日	3,500人	81.8%	4,280	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(a) 公演実績(年度当初の公演計画)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
森山開次「NINJA」	小劇場	5月31日(金) ～6月9日(日)	実績	9回	7日	2,724人	89.5%	3,042	129.7%
			計画	8回	6日	2,100人	77.7%	2,704	
中村恩恵×新国立劇場バレエ団 「ベートーヴェン・ソナタ」	中劇場	11月30日(土) ～12月1日(日)	実績	2回	2日	1,413人	89.7%	1,576	100.9%
			計画	2回	2日	1,400人	88.8%	1,576	
新国立劇場バレエ団 DANCE to the Future 2020	小劇場	3月27日(金) ～3月29日(日)	実績						
			計画	4回	3日	1,100人	80.9%	1,360	
現代舞踊【合計】2公演 (計画:3公演)			実績	11回	9日	4,137人	89.6%	4,618	89.9%
			計画	14回	11日	4,600人	81.6%	5,640	

(b) 外部専門家等の意見

- ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。また、総括レポートの提出を半期ごとに依頼し、自己点検評価の総括に活かした。

(c) アンケート調査

配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
932人	369人	352人	330人	39.6%	93.8%

※全2公演で計2回実施

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・ 「DANCE to the Future 2020」は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため全公演を中止したが「NINJA」は券売好調により計画より1回追加して9回公演、「ベートーヴェン・ソナタ」は計画どおり実施した。

- ・実施した 2 公演とも 90%近い入場率を達成し高い水準で上演することができた。(2 公演合計の達成率 118.2%)
- ・平成 27 年度及び 30 年度に上演して大好評を博した「サーカス」に続き、森山開次による大人も子供も一緒に楽しめるダンス公演の第二弾として「NINJA」を上演した。好調な販売状況により追加公演が実現し、目標を大幅に上回る入場者数を達成した。(対計画達成率 129.7%)新国立劇場での公演後、全国 7 ヶ所 10 回の公演を行い、合計 19 回 5,871 人の来場者を得た。「日本博」のテーマにも叶う和のテイストを取り入れた作品が高い評価を受けた。
- ・「NINJA」と「こどものためのバレエ劇場」と組み合わせて「こども劇場セット」を企画し、子供を中心とした新たな観客層の獲得につながった。
- ・「ベートーヴェン・ソナタ」は平成 28 年度の初演時に「世界に発信できる高い水準の創作」と評された作品であり、再演によって優れた作品を新国立劇場バレエ団のレパートリーとして定着させることができた。
- ・「DANCE to the Future 2020」は公演直前で中止が決定したため非公開で最終舞台稽古まで実施し、3 月 28 日(土)に YouTube からライブ・ストリーミング配信した(著作権の関係により第 3 部・コンポジション・プロジェクトによる 2 作品のみ。終了後、4 月 3 日(金)まで継続配信)。この公演のために長期に渡り準備してきた新国立劇場バレエ団ダンサーの努力に少しでも報いるとともに、来場する筈だったほぼ完売状態の観客のみならず幅広い層に向け、同バレエ団の高水準のコンテンポラリー・ダンスをアピールした。

【特記事項】

- ・令和元年度(第 74 回)文化庁芸術祭協賛公演(「ベートーヴェン・ソナタ」)
- ・令和元年度日本博参画プロジェクト公演(「NINJA」)

④ 演劇

《制作方針》

新作上演を企画・発信するとともに、国内作品の再評価や海外の優れた作品の紹介、芸術団体等との交流に努め、現代演劇の振興普及を図る。

(a) 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率	
「かもめ」(新訳上演)	小劇場	4月11日(木)	実績	19回	17日	5,786人	93.4%	6,194	125.8%	
		～4月29日(月・祝)	計画	19回	17日	4,600人	74.3%	6,194		
5月14日(火)		実績	15回	12日	3,522人	91.0%	3,870	153.1%		
～5月26日(日)		計画	13回	12日	2,300人	67.5%	3,406			
「オresteイア」(日本初演)	中劇場	6月6日(木)	実績	22回	22日	19,202人	96.3%	19,932	106.7%	
		～6月30日(日)	計画	22回	22日	18,000人	90.3%	19,932		
「骨と十字架」(新作)	小劇場	7月6日(土)	実績	20回	18日	5,079人	71.3%	7,120	105.8%	
		～7月28日(日)	計画	20回	18日	4,800人	73.6%	6,520		
10月3日(木)		実績	14回	14日	3,027人	63.6%	4,760	77.6%		
～10月20日(日)		計画	16回	16日	3,900人	74.8%	5,216			
11月13日(水)		実績	16回	13日	3,903人	74.8%	5,216	100.1%		
～11月26日(火)		計画	16回	13日	3,900人	74.8%	5,216			
12月2日(月)		実績	20回	17日	5,772人	88.5%	6,520	137.4%		
～12月23日(月)		計画	18回	17日	4,200人	71.6%	5,868			
演劇【合計】7公演 (計画:7公演)			実績	126回	113日	46,291人	86.3%	53,612	111.0%	
			計画	124回	115日	41,700人	79.7%	52,352		

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※台風19号接近のため、演劇「どん底」(10/12、13公演)は中止した。

(A)中止分を計画から除いた場合の計画入場者数、(B)入場者数の対計画達成率はそれぞれ下記の通りとなる。

演劇「どん底」(A)3,413人(=3,900人×14回/16回) (B)88.7%

演劇合計：(A)41,213人 (B)112.3%

(b) 外部専門家等の意見

- ・専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。また、総括レポートの提出を半期ごとに依頼し、自己点検評価の総括に活かした。

(c) アンケート調査

配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
4,066人	894人	814人	747人	22.0%	91.8%

※全7公演で計14回実施

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・台風19号の影響により2回を中止した「どん底」を除き、6公演を計画どおり実施。
- ・6公演で目標入場者数を達成した(7公演合計の達成率111.0%)。
- ・日本の劇作家による書き下ろし新作や海外の優れた戯曲の日本初演、古典作品の新訳上演など、多彩

な演目を高い水準で上演した。

- ・全キャストをオーディションで選考、上演する企画の第一弾「かもめ」は作品のみならずフルオーディションという企画自体が大きな注目を集め、目標を大きく上回る観客動員を達成して90%を超える入場率を記録した。
- ・愛知県を本拠とする少年王者館を招へいしての新作上演「1001」は券売好評により2回の追加公演を実施した。新国立劇場の常連観客にとっては趣の異なる演劇を提供できたと同時に少年王者館のファンが新国立劇場を訪れる契機ともなり、観客層の醸成・拡大に繋がった。
- ・「オレスティア」はギリシア悲劇を現代的な視点で再構築した戯曲の日本初演であり、緻密なスタッフワークと理想的なキャスティングで非常に質の高い上演が実現した。
- ・「骨と十字架」はTwitterでストーリーをイラストで解説する連載企画が好評だったことに加え、公演開始後に劇評や観客の感想がSNS上で拡散され大きな盛り上がりを見せて、公演後半の券売の伸びにつながった。
- ・個人と国家、個人と社会構造、個人と集団の持つイデオロギーなどに焦点を当て、「ことぜん」シリーズとして3作品を上演した。各作品の上演成果に加え、日本だけでなく現代の世界全体の潮流をとらえた、時宜にかなった企画として評価された。また、新国立劇場初登場となる若手演出家2名を登用して活躍の機会を提供することができ、「あの出来事」の演出を手がけた瀬戸山美咲はその成果に対して芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞した。
- ・平成30年度から開始した視覚・聴覚に障害のある方々への観劇サポートに引き続き取り組み、「かもめ」及び「タージマハルの衛兵」で実施した。
- ・平成30年度にスタートした、長期的に作品を育てる企画「こつこつプロジェクトーディベロップメント」を継続して実施した。平成30年3月にリーディング公演を行った3作品について、3、4ヶ月ごとに試演を重ね、その都度、演出家と芸術監督、制作スタッフ、俳優らが意見交換を行って作品の可能性を探求した。なお、3月に小劇場で非公開の公演を行ったが新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため各作品とも予定3回のところ1回のみ実施した。
- ・新たな試みとして、英国ロイヤルコート劇場と協力し、若手劇作家が参加して1年間・3段階にわたるワークショップを通じて新作戯曲を執筆・ブラッシュアップしていく「ロイヤルコート劇場×新国立劇場 劇作家ワークショップ」を開催した。本年度は第2段階までを実施し、参加者はロイヤルコート劇場から来日したアソシエイトディレクターや劇作家や参加者同士でのディスカッション等を行いながら、令和3年度に実施予定のリーディング公演に向けて戯曲の執筆・修正に取り組んだ。

【特記事項】

- ・令和元年度(第74回)文化庁芸術祭主催公演(「どん底」)
- ・令和元年度(第74回)文化庁芸術祭協賛公演(「あの出来事」)
- ・演劇「タージマハルの衛兵」に出演した亀田佳明が同作品のバーブル役ならびに他作品の演技に対して第五十四回紀伊國屋演劇賞個人賞を受賞。
- ・演劇「あの出来事」を演出した瀬戸山美咲が同作品の演出ならびに他作品の作・演出に対して令和元年度(第70回)芸術選奨演劇部門文部科学大臣新人賞を受賞。
- ・「タージマハルの衛兵」はNHKが収録を行った。(令和2年度中に放送予定)

(3) 青少年等を対象とした公演

- (3) 青少年等を対象とした公演 ————— p.86
 - ア 青少年等、社会人や親子等を対象とした
公演・入門企画(伝統芸能分野) ————— p.87
 - イ 主に青少年を対象とした公演(現代舞台芸術分野) — p.91
 - ウ 外国人を対象とした公演・入門企画 ————— p.93

(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の 実施に際しての留意事項等

- (4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等
 - 〈1〉 伝統芸能の公開に際しての留意事項等 ————— p.96
 - 〈2〉 現代舞台芸術の公演に際しての留意事項等 — p.105

2 - (3) 青少年等を対象とした公演

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(3) 青少年等を対象とした公演

- ア 伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図るため、(1)の中で主に青少年を対象とした公演を実施するほか、社会人や親子を対象とする入門企画を実施
- イ 青少年等が現代舞台芸術に触れる機会を確保し、新たな観客層の育成と現代舞台芸術の普及を図るため、(2)の中で主に青少年を対象とした公演を実施
- ウ 2020年東京大会に向けた文化プログラム実施の中核的拠点として、外国人向けの公演や普及的な企画を充実

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(3) 青少年等を対象とした公演

- ア 伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図るため、主に青少年を対象とした公演を別表3のとおり実施するほか、社会人や親子等を対象とした公演・入門企画を別表4のとおり実施する。
- イ 青少年等が現代舞台芸術に触れる機会を確保し、新たな観客層の育成と現代舞台芸術の普及を図るため、主に青少年を対象とした公演を別表3のとおり実施し、親子でも楽しめるよう工夫する。
- ウ 2020年東京大会に向けた文化プログラムに対応し、外国人を対象とした公演・入門企画を別表5のとおり実施する。

《中期目標の指標・関連指標》

<p>2-4 青少年や社会人等を対象とした公演の入場者数 (前中期目標期間実績の維持)</p>	<p>[伝統芸能分野] 青少年：143,946人 (H25-29実績平均：162,410.2人)</p> <p>社会人・親子等：33,984人 (H26-29実績平均：43,399.8人)</p> <p>[現代舞台芸術分野] 23,210人 (H25-29実績平均：25,986.8人)</p>
<p>2-5 外国人向け公演の入場者数 (前中期目標期間実績以上)</p>	<p>[伝統芸能分野] 5,590人 (H28-29実績平均：3,397.7人)</p>

ア 青少年等、社会人や親子等を対象とした公演・入門企画(伝統芸能分野)

《制作方針》

伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図るため、中高生をはじめ青少年を対象とした入門公演を実施する。また、日頃伝統芸能に触れる機会の少ない社会人等を対象とした公演や、親子を対象とした公演を実施する。

本館では、歌舞伎鑑賞教室を実施し、6月は、義太夫狂言の名作「神霊矢口渡」を、7月は、荒事の演出を取り入れた「菅原伝授手習鑑一車引」と松羽目物の人気舞踊「棒しばり」を、解説を付して上演することにより、歌舞伎の普及振興を図る。また、文楽鑑賞教室では、「伊達娘恋緋鹿子」火の見櫓の段と近松門左衛門の名作「平家女護島」鬼界が島の段を、実演を交えた解説を付け鑑賞の一助とする。なお、各教室において開演時間を遅く設定した社会人のための公演を上演するほか、夏休み期間には、割安な親子セット料金を設定した「親子で楽しむ歌舞伎教室」を上演する。さらに、伝統芸能に親しみを感じてもらえるよう26年度から開始した〈伝統芸能の魅力〉シリーズを継続し、舞踊・邦楽・雅楽・声明の4ジャンルを上演する。舞踊・邦楽の親子向け企画では、大稽古場において舞踊や邦楽の実技を体験を実施するほか、解説、鑑賞を通じて〈ふれる〉〈学ぶ〉〈見る・聞く〉の3ステップでその魅力をアピールする。大人向けの雅楽・声明公演では、初心者を対象に発声体験、実演家による解説を通してそれぞれの特色が理解できる構成とする。

演芸場では、寄席という場所及び寄席で上演される大衆芸能(落語、紙切り、コント等)を子供たちに知ってもらうため、夏休み期間中に解説付きの公演「親子で楽しむ演芸会」を実施する。

能楽堂では、6月に能楽鑑賞教室を実施し、内容の分かりやすい狂言「文山立」、能の人気曲「船弁慶」に、学生が親しみを持てるよう体験出演する解説を付ける。8月に「親子で楽しむ能の会」「親子で楽しむ狂言の会」、寄席芸とのクロスオーバーをお楽しみいただく「狂言と落語・講談」を実施し、入門的な内容の公演の拡充を図りながら、新たな観客層を開拓する。また、勤め帰りの社会人をターゲットに19時開演〈働く貴方の能楽公演〉を開催し、初心者にも楽しめる狂言「瘦松」、能「二人静」を上演するほか、実演家の立場から野村万作の「おはなし」を語っていただく。

文楽劇場では、6月に文楽鑑賞教室を実施し、分かりやすい演目に太夫・三味線・人形等の解説を付け、親しみが持てるように配慮する。また公演中の2回を「社会人のための文楽入門」として夜公演とし、勤め帰りに気軽に文楽鑑賞を体験できるよう工夫する。7、8月の夏休み文楽特別公演の第一部「親子劇場」では、親子で楽しめる作品を上演する。昨年度に続いて資料展示室を利用し、子供向けに文楽体験コーナーを実施する。

国立劇場おきなわでは、6月には一般対象に、7月には親子、10月には主に中高生を対象とした「組踊鑑賞教室」を上演する。第一部において、案内役による解説や、解説を交えた新作組踊を上演することで、第二部の組踊の理解を深める工夫を行う。また、8月には「琉球舞踊鑑賞教室」、9月には「沖縄芝居鑑賞教室」に、引き続き取り組む。

①公演実績

(a) 主に青少年を対象とした公演(再掲)

	公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率	
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」、「神霊矢口渡」	本館 大劇場	6/2(日) ~24(月)	実績	46回	23日	49,447人	70.7%	69,920	89.9%	
				計画	46回	23日	55,000人	78.7%	69,920		
	7月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」、「菅原伝授手習鑑 一車引」「棒しばり」		7/3(水) ~24(水)	実績	44回	22日	54,796人	81.9%	66,880	87.3%	
				計画	44回	22日	62,800人	93.9%	66,880		
文楽	12月文楽鑑賞教室 解説「文楽の魅力」 「伊達娘恋緋鹿子」「平家女護島」	本館 小劇場	12/3(火) ~15(日)	実績	25回	13日	13,517人	97.8%	13,825	105.6%	
				計画	25回	13日	12,800人	96.4%	13,272		
	6月文楽鑑賞教室 「五条橋」、解説「文楽へようこそ」、 「菅原伝授手習鑑」		文楽 劇場	6/7(金) ~20(木)	実績	28回	14日	16,811人	82.1%	20,468	90.9%
					計画	28回	14日	18,500人	90.4%	20,468	

能楽	能楽鑑賞教室 解説、狂言「文山立」、能「船弁慶」	能楽堂	6/24(月) ～28(金)	実績	10回	5日	6,270人	100.0%	6,270	103.6%	
				計画	10回	5日	6,050人	96.5%	6,270		
組踊等	沖縄芝居鑑賞教室 「怪猫伝・化け猫～山田祝女殿内～」	国立劇場 おきなわ 大劇場	9/12(木) ～13(金)	実績	2回	2日	978人	85.3%	1,147	113.9%	
				計画	2回	2日	859人	75.0%	1,145		
	組踊上演 300周年記念 組踊鑑賞教室「執心鐘入」		10/6(水) ～18(金)	実績	6回	3日	2,127人	61.3%	3,468	81.8%	
				計画	6回	3日	2,601人	75.0%	3,468		
伝統芸能【合計】				7公演 (計画:7公演)	実績	161回	82日	143,946人	79.1%	181,978	90.8%
					計画	161回	82日	158,610人	87.4%	181,423	

(b) 社会人・親子等を対象とした公演・入門企画(再掲)

	公演名	劇場	期間	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
社会人	6月歌舞伎鑑賞教室 「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」	本館 大劇場	6/7(金)	1回	1日	1,066人	70.1%	1,520
	7月歌舞伎鑑賞教室 「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」		7/12(金) 7/29(金)	2回	2日	2,026人	66.6%	3,040
親子	7月歌舞伎鑑賞教室 「親子で楽しむ歌舞伎教室」		7/19(金)～ 24(水)	11回	6日	16,401人	98.1%	16,720
歌舞伎【小計】		3公演	(計画:3公演)	14回	9日	19,493人	91.6%	21,280
社会人	12月文楽鑑賞教室 「社会人のための文楽鑑賞教室」	本館 小劇場	12/4(水)～ 6(金)	2回	2日	1,092人	98.7%	1,106
	6月文楽鑑賞教室 「社会人のための文楽入門」	文楽 劇場	6/10(月) 6/18(火)	2回	2日	792人	54.2%	1,462
親子	夏休み文楽特別公演(第一部親子劇場)	文楽 劇場	7/21(日) ～8/7(水)	17回	17日	7,388人	61.1%	12,087
文楽【小計】		3公演	(計画:3公演)	21回	21日	9,272人	63.3%	14,655
親子	7月 第11回伝統芸能の魅力 「親子で楽しむ舞踊・邦楽」	本館 小劇場	7/6(土)	1回	1日	567人	96.1%	590
社会人	7月 第12回伝統芸能の魅力 「大人のための声明入門」 「大人のための雅楽入門」	本館 小劇場	7/20(土)	2回	1日	1,057人	89.6%	1,180
短期【小計】		2公演	(計画:2公演)	3回	2日	1,624人	91.8%	1,770
親子	7月特別企画 「親子で楽しむ演芸会」	演芸場	7/28(日)	1回	1日	292人	97.3%	300
大衆芸能【小計】		1公演	(計画:1公演)	1回	1日	292人	97.3%	300
親子	夏休み親子で楽しむ能の会 おはなし、能「紅葉狩」	能楽堂	8/3(土)	1回	1日	625人	99.7%	627
	夏休み親子で楽しむ狂言の会 おはなし、狂言「盆山」、狂言「蚊相撲」		8/24日(土)	1回	1日	625人	99.7%	627
社会人	働く貴方の能楽公演 対談または実演、狂言「瘦松」、能「二人静」		1/30(木)	1回	1日	626人	99.8%	627
能楽【小計】		3公演	(計画:3公演)	3回	3日	1,876人	99.7%	1,881
一般	組踊上演 300周年記念 組踊鑑賞教室「二童敵討」	国立劇場 おきなわ 大劇場	6月8日(土)	1回	1日	386人	66.8%	578
親子	組踊上演 300周年記念 親子のための組踊鑑賞教室「女物狂」		7月27日(土)	1回	1日	543人	93.9%	578

	琉球舞踊鑑賞教室		8月10日(土)	1回	1日	498人	87.7%	568
	組踊等【小計】	3公演	(計画:3公演)	3回	3日	1,427人	82.8%	1,724
	主に社会人を対象とした公演・入門企画【合計】	8公演	(計画:8公演)	11回	10日	7,044人	74.0%	9,513
	主に親子を対象とした公演・入門企画【合計】	7公演	(計画:7公演)	34回	29日	26,940人	83.9%	32,097
	【合計】	15公演	(計画:15公演)	45回	39日	33,984人	81.7%	41,610

(c) 全国各地の文化施設等における主に青少年を対象とした公演(後掲)

区分	公演名	会場	共催	期間	回数	入場者数	入場率
共催	6月歌舞伎鑑賞教室静岡公演	静岡県コンベンションアーツセンター・グランシップ	公益財団法人静岡県文化財団、静岡県	6/26	2回	1,406人	80.5%
共催	7月歌舞伎鑑賞教室神奈川公演	神奈川県立青少年センター	かながわ伝統芸能祭実行委員会	7/26～27	4回	1,533人	54.0%

②アンケート調査

分野	実施回数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
主に青少年を対象とした公演	6公演 14回	4,219人	3,186人	2,857人	2,807人	75.5%	98.2%
主に社会人を対象とした公演・入門企画	6公演 6回	2,798人	1,905人	1,728人	1,694人	68.1%	98.0%
主に親子を対象とした公演・入門企画	5公演 5回	1,393人	847人	777人	761人	60.8%	97.9%

③優れた業績・評価すべき点

- ・本年度の歌舞伎鑑賞教室は、6月は、女方の演技や廻り舞台の演出など歌舞伎の特色を多く備えた作品を、7月は、歌舞伎の様式美を堪能できる荒事の演目と楽しく分かりやすい松羽目物の舞踊を取り上げ、初心者が歌舞伎の魅力に触れる機会を提供することができた。
- ・歌舞伎では初の試みとなる体験型ワークショップ(6月)、小道具体験コーナーや特設フォトスポットの設置、アフタートーク(7月)等、来場者の満足度の向上と集客の拡大を図るため、舞台以外でも様々な趣向を企画・実施し、高い評価を得た。
- ・本館小劇場の文楽鑑賞教室では、昼の時間帯では学生向け21回、夜の時間帯に社会人向け2回、外国人向けの公演を1回実施し、有料入場者数は目標の13,100人を超える13,111人となった。また、上演の構成は「伊達娘恋緋鹿子」「解説 文楽の魅力」「平家女護島 鬼界が島の段」とした。初めて文楽に触れる青少年でも文楽特有の表現や演出を短い時間で楽しめる演目、画像を活用した解説を組み合わせることで、文楽の持つ魅力について広く提供できたと考える。
- ・「親子で楽しむ舞踊・邦楽」では、舞踊や邦楽の実技にふれる「体験」、実演とともに学びを深める「解説」、本格的な踊りを見て演奏を聴く「鑑賞」という3ステップで伝統芸能の魅力をお楽しみいただいた。演奏「小鍛冶」と舞踊「鷺娘」の二本立てで舞踊・邦楽の名作を体験していただいた。
- ・「大人のための声明入門/雅楽入門」では、開演前の体験コーナーの実施、実演を交えた解説と代表的な演目の上演により声明・雅楽について幅広く紹介することができた。「大人のための声明入門」では国立劇場の委嘱作品「蛙の声明」を30年ぶりに再演し、演目の継承を図ることができた。「大人のための雅楽入門」では、体験コーナーを大稽古場に移し事前申込制をとったことにより、課題であったロビーの混雑・暑さを回避し、また昨年よりも多くの方に体験していただくことができた。
- ・「親子で楽しむ演芸会」では、『寄席』及び寄席で演じられる『演芸(落語、講談、紙切り等)』を子供たちに知ってもらうため、高座体験や解説付きで実施し、子供も大人も楽しめる公演となった。
- ・能楽鑑賞教室では、初心者にも分かりやすい内容の狂言「文山立」と能「船弁慶」を取り上げた。全公演が完売となり、次世代の鑑賞者の育成に大きく貢献した。
- ・公演内容等の理解を促進するため、「能楽鑑賞教室」「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽

しむ狂言の会」ではイラスト入りの分かりやすいパンフレットを作成し、無料配布した。また、「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」では、座席字幕表示装置に子供向けチャンネルを追加して3チャンネル方式とし、分かりやすい解説を表示して、好評であった。

- ・「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」では、開演前・休憩・終演後にロビーに楽器(笛・小鼓・大鼓・太鼓)の体験コーナー、能面狂言面の体験コーナーを設置して、親子で能楽に親しむ機会をつくり好評であった。
- ・文楽劇場の文楽鑑賞教室について、本年度も演者を4班に分ける形で実施し、演者の経験の蓄積・技能向上に資するとして高い評価を得た。
- ・同公演の「社会人のための文楽入門」では、ナビゲーターにフリーアナウンサーの八木早希を起用して、英語での分かりやすい解説により訪日外国人等へ文楽の楽しさを伝えた。
- ・文楽劇場夏休み文楽特別公演の「親子劇場」に関して、昨年に引き続き、文楽座若手技芸員及びボランティアの「文楽応援団」の協力を得て体験ワークショップを実施した。1階資料展示室内に設けた模擬舞台及び床で、第一部開演前の時間帯に来場した子供たちが日替わりで文楽の三業を体験した。
- ・8月の組踊鑑賞教室では、例年どおり、解説の代わりに「組踊版・シンデレラ」を上演した。ストーリーの流れに合わせて組踊の見方や約束事を楽しく学ぶスタイルが元年度も好評であった。また、27年度から企画している「琉球舞踊鑑賞教室」「沖縄芝居鑑賞教室」も、それぞれ琉球舞踊、沖縄芝居の歴史や鑑賞のポイント等を分かりやすく解説する第一部と、初めての観客にも分かりやすく興味をひきつける演目の二部構成として、スムーズに鑑賞してもらうことができた。
- ・「沖縄芝居鑑賞教室」では舞台機構を生かした演出で昨年好評だった「怪猫伝・化け猫～山田祝女殿内～」を内容の充実に努めて再演した。
- ・「組踊鑑賞教室」及び「沖縄芝居鑑賞教室」では、学校行事としての参加を促すため、公演の前年度から営業活動に取り組むとともに、県の補助事業を活用した貸切バス費用助成事業を実施し、学校団体の誘客に努めた。

【特記事項】

- ・歌舞伎では初の試みとして、下記のとおり、ワークショップを開催。

イベント名	期間	会場	料金	出演者等	参加者数	満足回答率
歌舞伎ワークショップ	6/15	国立劇場大劇場舞台	鑑賞教室チケット購入者限定	中村鴈成、中村いてう、 上村折乃助ほか	33人	100.0%

- ・公演内容等の理解を促進するため、「親子で楽しむ歌舞伎教室」「能楽鑑賞教室」「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」文楽劇場の「文楽鑑賞教室」「組踊鑑賞教室」「親子のための組踊鑑賞教室」「沖縄芝居鑑賞教室」「琉球舞踊鑑賞教室」「はじめての組踊～Discover KUMIODORI～」では、イラスト・漫画や写真入りの初心者向けパンフレットを作成し、無料配布した。

イ 主に青少年を対象とした公演(現代舞台芸術分野)

《制作方針》

新国立劇場では、青少年を対象とした鑑賞教室等を実施し、新たな観客層の育成を図るとともに、現代舞台芸術の普及と理解促進を図る。

①公演実績

(a) 主に青少年を対象とした公演(再掲)

	公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率	
オペラ	高校生のためのオペラ鑑賞教室 2019「蝶々夫人」	新国立劇場 オペラ劇場	7/6(土) ～7/12(金)	実績	6回	6日	9,596人	90.4%	10,620	102.1%	
				計画	6回	6日	9,400人	88.5%	10,620		
バレエ	こどものためのバレエ劇場 2019 「白鳥の湖」	新国立劇場 オペラ劇場	7/27(土) ～7/30(火)	実績	8回	4日	10,890人	91.2%	11,936	106.8%	
				計画	8回	4日	10,200人	85.5%	11,936		
現代 舞踊	森山開次「NINJA」	新国立劇場 小劇場	5/31(金) ～6/9(日)	実績	9回	7日	2,724人	89.5%	3,042	129.7%	
				計画	8回	6日	2,100人	77.7%	2,704		
現代舞台芸術【小 計】				3公演(計画:3公演)	実績	23回	17日	23,210人	90.7%	25,598	107.0%
				計画	22回	16日	21,700人	85.9%	25,260		

(b) 全国各地の文化施設等における公演、合唱団外部出演公演(後に再掲)

《全国各地の文化施設等における公演》

分野	区分	公演名	劇場	連携協力先	期間	回数	入場者数	入場率
オペラ	共催	高校生のためのオペラ鑑賞教室 2019(ロームシアター京都公演)「蝶々夫人」	ロームシアター京都	主催:京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、新国立劇場 協賛:ローム株式会社 助成:公益財団法人ロームミュージックファンデーション	10/28 ～30	2回	2,758人	88.3%
バレエ	受託	こどものためのバレエ劇場「白鳥の湖」(大阪公演)	フェスティバルホール	主催:朝日新聞文化財団、朝日新聞社、大阪国際フェスティバル協会、フェスティバルホール	9/21	1回	2,476人	92.7%
バレエ	受託	こどものためのバレエ劇場「白鳥の湖」(長野公演)	岡谷市文化会館カノラホール	主催:公益財団法人おかや文化振興事業団	9/23	1回	774名	56.1%

《合唱団外部出演公演》

公演名	会場	主催・共催等	期間	回数
令和元年度文化芸術による子供の育成事業	大阪府・三重・奈良・和歌山県 各県の小・中学校体育館	主催:文化庁	6・11・12月	13回
港区&サントリーホール Enjoy!Music プロジェクト	サントリーホール	主催:港区、港区教育委員会、(公財)港区スポーツふれあい文化健康財団、サントリーホール	1/30	1回
ソニー音楽財団 災害復興支援プロジェクト 小・中・高校生とともに贈る「第九」チャリティー・コンサート	東京オペラシティコンサートホール	主催:(公財)ソニー音楽財団	3/1	1回※

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止

②アンケート調査

分野	公演名	実施回数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
オペラ	高校生のためのオペラ鑑賞教室 2019「蝶々夫人」	6回	9,596人	5,982人	5,982人	5,352人	62.3%	89.5%
バレエ	こどものためのバレエ劇場 2019「白鳥の湖」	1回	1,037人	139人	112人	103人	13.4%	92.0%

現代舞踊	森山開次「NINJA」	1回	252人	87人	85人	83人	34.5%	97.6%
合計			10,885人	6,208人	6,179人	5,538人	57.0%	89.6%

③優れた業績・評価すべき点

- ・ 高校生のためのオペラ鑑賞教室「蝶々夫人」は、本公演と同演目とすることにより、稽古等を効率的に進めることができた。
- ・ こどものためのバレエ劇場「白鳥の湖」は、子供にも理解しやすい短縮版でありながら外部専門家からもその構成・演出を高く評価されるプロダクションであり、新国立劇場バレエ団のダンサーによる高水準の上演で、多くの子どもたちに上質な鑑賞体験を提供することができた。
- ・ また、こどものためのバレエ劇場「白鳥の湖」のカーテンコール終了後、観客が舞台上のダンサーを撮影できる「写真タイム」を特別に設けた。観劇の記念として多くの観客に喜ばれたことに加え、撮影した写真をSNS等に掲載する観客も多く、広報宣伝効果も得ることができた。
- ・ 高校生のためのオペラ鑑賞教室・ロームシアター京都公演に合わせて、公演会場であるロームシアター京都にて、オペラ鑑賞教室の歴史や公演の舞台写真、衣裳、舞台模型等を展示（「オペラの扉 2019～KNOCKING ON THE DOOR, OPERA EXHIBITION～」）し、オペラ作品理解に寄与するとともに舞台芸術への興味を喚起できた。
- ・ 現代舞踊「NINJA」は、平成27年度及び30年度に大好評を博した「サーカス」に続き、森山開次による大人も子供も一緒に楽しめるダンス公演の第二弾として上演した。子供におもねることなく、変幻自在な「忍者」の世界をダンスで表現し、日本の自然の美や音、死生観までもも映す質の高い作品に仕上がり、来場した多くの子供たちの素直なリアクションによって和やかな雰囲気の中で上演することができた。
- ・ こどものためのバレエ劇場「白鳥の湖」は全国2か所、現代舞踊「NINJA」は全国7か所・10回の公演を実施した。特に現代舞踊「NINJA」は追加公演を加えて計9回上演の後に続けて約1か月半にわたる長期公演を実施し、新国立劇場での公演との合計で19回公演・5,871人の入場者を得た。

【特記事項】

- ・ こどものためのバレエ劇場「白鳥の湖」の公演会場にて、ジュニア公演先行DM新規登録者へのプレゼントキャンペーンを実施し、1,200件以上の登録を得た。DM登録者に対して先行販売等の案内を継続的に送付することで、子供向け公演をきっかけに獲得したファミリー層の定着を図った。
- ・ こどものためのバレエ劇場「白鳥の湖」の公演期間中、オペラ劇場ホワイエに同作品の登場人物の等身大パネルを設置した撮影スポットを設けた。また、開演前や休憩中にオペラプロムナードにおいてストリートオルガンの演奏やジャグリング等を実施したり「白鳥の湖」をモチーフにしたスイーツを販売したりするとともに、終演後には子どもの来場者に「白鳥の湖」の特製シールを配布して、子どもたちが劇場での時間を楽しめる雰囲気を演出した。
- ・ 通常は客席内での撮影は禁止としているが、こどものためのバレエ劇場「白鳥の湖」において、カーテンコール終了後に舞台上のダンサーを撮影できる「写真タイム」を特別に設け、観劇の記念として舞台の様子を撮影したいという観客の要望に応えた。
- ・ 現代舞踊「NINJA」において、演出・振付・アート・ディレクションの森山開次が手がけたイラストを使用したオリジナルグッズを劇場ホワイエにて販売した。
- ・ 高校生のためのオペラ鑑賞教室・ロームシアター京都公演開催に合わせて、以下の日程で参加校を対象とした事前レクチャーコンサートを実施した。

イベント名	会場	出演	参加校	開催日
事前レクチャーコンサート	滋賀県立石山高等学校 湖声ホール	歌手…佐藤路子、小原啓楼 ピアノ…越知晴子	滋賀県立石山高等学校 音楽科 110名	10/11

- ・ 高校生のためのオペラ鑑賞教室・ロームシアター京都公演開催に合わせて、下記の関連イベントを以下の通り実施。

公演名	会場	主催、共催、協賛等	期間
オペラの扉 2019 ～ KNOCKING ON THE DOOR, OPERA EXHIBITION ～	ロームシアター京都 「ミュージックサロン」	主催:公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション、 公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団 共催・制作:新国立劇場 協賛:ローム株式会社	9/14～ 12/5

ウ 外国人を対象とした公演・入門企画

《制作方針》

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に伴う文化プログラムの一環として、引き続き「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」をはじめ、文楽(本館及び文楽劇場)、能楽、組踊で、外国人向けの入門公演を各館で実施する。実施に際しては、解説や外国語表示、音声同時解説等に工夫を凝らし、当日の受け入れ態勢等のサービスにも留意する。

①公演実績

	公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室 「Discover KABUKI －外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」	本館 大劇場	6/17(月) ～18(火)	実績	3回	2日	2,460人	53.9%	4,560
文楽	12月文楽鑑賞教室 「Discover BUNRAKU －外国人のための文楽鑑賞教室－」	本館 小劇場	12/9(月)・ 14(土)	実績	2回	2日	930人	84.1%	1,106
	6月文楽鑑賞教室 「Discover BUNRAKU －BUNRAKU for Beginners－」	文楽 劇場	6/15(土)	実績	1回	1日	515人	70.5%	731
能楽	外国人のための能楽鑑賞教室 解説、狂言「附子」、能「殺生石」	能楽堂	5/29(水)	実績	1回	1日	627人	100.0%	627
	外国人のための能楽鑑賞教室 解説、狂言「棒縛」、能「葵上 梓之出」		10/31(木)	実績	1回	1日	627人	100.0%	627
組踊等	組踊鑑賞教室 「はじめての組踊 ～Discover KUMIODORI～組踊「執心鐘入」	国立劇場 おきなわ 大劇場	10/19(土)	実績	1回	1日	431人	74.6%	578
伝統芸能【合計】		6公演 (計画:6公演)		実績	9回	9日	5,590人	67.9%	8,229

②アンケート調査 ※()内は外国人のみの数値

分野	公演名	実施回数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
歌舞伎	歌舞伎鑑賞教室	3回	2,510人	1,890人	1,628人 (1,109人)	1,599人 (1,089人)	75.3%	98.2% (98.2%)
文楽	文楽鑑賞教室(本館)	2回	876人	617人	509人 (264人)	508人 (264人)	70.4%	99.8% (100%)
文楽	文楽鑑賞教室(文楽劇場)	1回	538人	465人	430人 (174人)	422人 (171人)	86.4%	98.1% (98.3%)
能楽	能楽鑑賞教室	2回	1,211人	470人	411人 (219人)	402人 (216人)	38.8%	97.8% (98.6%)
組踊等	組踊鑑賞教室	1回	350人	140人	137人 (14人)	133人 (14人)	40.0%	97.1% (100%)
合計		9回	5,485人	3,582人	3,115人 (1,780人)	3,064人 (1,754人)	65.3%	98.4% (98.5%)

③優れた業績・評価すべき点

- 「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」「Discover BUNRAKU－外国人のための文楽鑑賞教室－」は、英語通訳のナビゲーターを交えた解説や英語字幕の表示を工夫するとともに、多言語対応として日本語・英語・中国語・韓国語・スペイン語・フランス語という6カ国語の音声同時解説

を無料で提供した。

- ・「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」の一環として、歌舞伎では初の試みとなる体験型ワークショップ「外国人のための歌舞伎ワークショップ」を実施。14カ国 29人が参加して俳優の演技や音楽の演奏を体験し、100.0%の満足度を得た。
- ・本館「Discover BUNRAKU－外国人のための文楽鑑賞教室－」では、昨年に引き続きステュウット・ヴァーナム－アットキン氏を案内役に起用し、観客の視点から文楽という芸能の構造を詳細に解きほぐして解説した。英語字幕も実施した。
- ・「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」、「Multilingual Week」及び「Discover BUNRAKU－外国人のための文楽鑑賞教室－」の集客のため、それぞれ専用のチラシを作成して、大学留学生センター等の外国人関係団体やホテル・観光案内所に周知を行った結果、多くの外国人来場者を得ることができた。
- ・「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」は6月の能楽鑑賞教室から独立させて5月・10月の2回実施し、充実した番組によって外国人観客に能楽を強く印象付けた。座席字幕表示装置は4か国語(日本語・英語・中国語(簡)・韓国語)とし、当日無料配布した解説書は6か国語(日本語・英語・中国語(簡)・韓国語・フランス語・スペイン語)として、理解促進に大いに役立った。
- ・文楽劇場「Discover BUNRAKU－BUNRAKU for Beginners－」の解説にフリーアナウンサーの八木早希を起用し、英語と日本語を取り混ぜながら訪日外国人等へ分かりやすく文楽の楽しさを伝えた。
- ・「はじめての組踊～Discover KUMIODORI～」では、公演前に英語通訳付きのワークショップを開催したほか、多言語版公演チラシの作成及び外国人向け情報誌への広告掲載、県内のインターナショナルスクールや外国人関係団体への公演案内、近隣ホテルへの営業等の誘客活動を実施した。

【特記事項】

- ・「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」の翌日以降、多言語による音声同時解説を有料で、また多言語による解説書を無料で提供する「Multilingual Week」を実施し、外国人来場者の観劇環境の拡充を図った。
- ・各館で実施した外国人向けの入門公演では、日本語のほか多言語の特別パンフレットを作成し、無料配布した。本館では、歌舞伎・文楽紹介リーフレットの各国語版(英語・中国語(簡)・中国語(繁)・韓国語・スペイン語・フランス語・ドイツ語)を増刷し、国立劇場チケット売場に専用ラックを設置したほか、観光案内所等に配布した。また能楽堂では、外国人向け能楽入門パンフレット(NO H & KYOGEN Guide Book、英語・中国語(簡)・韓国語版)を作成し、無料配布した。文楽劇場では、外国人向け英語版(28年度作成)文楽入門パンフレット(Introduction to BUNRAKU)の中国語版(29年度作成)、韓国語版とフランス語版(30年度作成)に引き続きスペイン語版を作成し、無料配架した。
- ・「はじめての組踊～Discover KUMIODORI～」では、チケットカウンターに英語通訳者を配置したほか、前年度に引き続き4か国語(英語・中国語・韓国語・日本語)による音声同時解説を導入した。また、英語版のチケット販売WEBサイト(Confetti)の活用を開始し、外国のお客様の利便性向上を図った。
- ・関連イベント、ワークショップ等を以下の通り実施。

分野	イベント名	期間	会場	料金	出演者等	参加者数	満足回答率
歌舞伎	外国人のための歌舞伎ワークショップ	6/17	国立劇場大劇場舞台	鑑賞教室チケット購入者限定	中村鴈成、中村いてう、上村折乃助ほか	29人	100.0%
能楽	楽しもう！能の世界 (Noh Workshop for foreigners)	5/29	国立能楽堂 研修能舞台、 第1・第2稽古室、 大講義室	無料	大倉慶乃助(大鼓方大倉流)、 澤田晃良(太鼓方観世流) 第6期、第7期研修修了者	69人	99.4%
能楽	楽しもう！能の世界 (Noh Workshop for foreigners)	10/31	国立能楽堂 広間	無料	村岡聖美(シテ方金春流) 柏崎真由子(シテ方金春流) 大倉栄太郎(大鼓方大倉流) 第5期研修修了者	約100人	
組踊等	外国人のための 組踊ワークショップ	10/19	国立劇場おきなわ 養成研修室	チケット 購入者限定	川満香多、天願雄一、玉城和樹	26人	94.7%

2-(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等

- ア 新たな観客層の開拓、適切な鑑賞者数の目標設定
- イ 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施
- ウ 伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及の中核的拠点としての公演等の実施
 - ①国、地方公共団体、芸術団体、企業等との連携協力公演等
 - ②全国各地の文化施設等における公演等
 - ③国際文化交流の進展に寄与するための国等との連携協力公演等

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等

- ア 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施
- イ 伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及の中核的拠点としての公演等の実施
 - ①共催、受託などによる公演等を別表 6 のとおり実施
 - ②全国各地の文化施設等における公演等を別表 7 のとおり実施
 - ③国際文化交流の進展に寄与する公演等を別表 8 のとおり実施
 - ④伝統芸能の振興等のため、青少年、外国人等を対象としたワークショップを各分野で開催

《中期目標の指標・関連指標》

2-A 全国各地の文化施設等における公演数(共催・受託公演や地方自治体等の協賛公演等の公演数)	[伝統芸能分野] 4 公演
	[現代舞台芸術分野] 18 公演

〈1〉 伝統芸能の公開に際しての留意事項等

ア 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施

①外部専門家等の意見聴取

外部専門家等の意見聴取は、専門委員による公演ごとのレポート提出及び年2回の公演専門委員会等の開催により行った。

②アンケート調査の実施(分野ごと集計)

分野	公演数	回数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
歌舞伎	6 公演	9 回	6,937 人	4,942 人	4,323 人	4,266 人	71.2%	98.7%
文楽(本館小劇場)	4 公演	5 回	2,059 人	1,460 人	1,261 人	1,257 人	70.9%	99.7%
文楽(文楽劇場)	5 公演	6 回	3,026 人	2,021 人	1,939 人	1,908 人	66.8%	98.4%
舞踊・邦楽等	10 公演	11 回	7,551 人	4,890 人	4,393 人	4,294 人	64.8%	97.7%
大衆芸能(演芸場)	10 公演	11 回	2,900 人	1,626 人	1,577 人	1,530 人	56.1%	97.0%
大衆芸能(文楽劇場)	0 公演	0 回						
能楽	9 公演	9 回	4,580 人	2,711 人	2,391 人	2,271 人	59.2%	95.0%
組踊等沖縄伝統芸能	28 公演	35 回	7,776 人	4,251 人	3,814 人	3,664 人	54.7%	96.1%
計	72 公演	86 回	34,829 人	21,901 人	19,698 人	19,190 人	62.9%	97.4%

イ 伝統芸能の保存振興の中核的拠点としての公演等の実施

①共催、受託などによる公演等

(a) 年度計画公演

分野	区分	公演名	劇場	連携協力先	期間	回数	入場者数	入場率
短期	共催	5月特別企画公演 「言葉〜ひびく〜身体 I 神々の残照」	本館大劇場	(公財)東京都歴史文化財団	5/25	1 回	1,442 人	89.6%
能楽	受託	新作狂言 鮎 野村万作・野村萬斎	名古屋能楽堂	(株)CBC テレビ	5/5	2 回	1,260 人	100.0%
能楽	受託	第272回市民の劇場 新作狂言 鮎 野村万作・萬斎	関市文化会館	(株)CBC テレビ、関市	5/6	1 回	1,200 人	100.0%
能楽	受託	金沢市文化ホールリニューアル記念 公演 新作狂言 鮎	金沢市文化ホール	(公財)金沢芸術創造財団	6/14	1 回	899 人	100.0%
能楽	受託	豊田市能楽堂 狂言づくし 新作狂言 鮎	豊田市能楽堂	主催: CBC テレビ 共催: 公益財団法人豊田市文化振興財団、豊田市・豊田市教育委員会	11/1	2 回	916 人	100.0%
能楽	受託	野村万作・野村萬斎 新作狂言「鮎」	半田市 福祉文化会館	主催: CBC テレビ 共催: 半田市教育委員会 協力: ジーコーポレーション	11/2	1 回	1,300 人	100.0%
組踊等	受託	地域の文化芸術振興事業 組踊上演 300周年記念県内巡回公演・国立劇場おきなわおでかけ公演 組踊「執心鐘入」	沖縄県内 公立文化施設	主催: 沖縄県、組踊上演 300周年記念事業実行委員会、石垣市、公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団 後援: 石垣市教育委員会	12/1	1 回	950 人	95.0%
組踊等	共催	沖縄県伝統芸能公演かりゆし芸能公演 NPO法人尋藝能塾「賢母三遷之巻」	国立劇場おきなわ 小劇場	主催: 公益財団法人沖縄県文化振興会	7/12	1 回	67 人	26.3%

				共催: 沖縄県(組踊 300 実行委)					
組踊等	共催	沖縄県伝統芸能公演かりゆし芸能公演 知念範紺流装文化学院 「舞を結い、舞を飾る」	国立劇場おきなわ 小劇場	主催: 公益財団法人沖縄 県文化振興会 共催: 沖縄県(組踊 300 実行委)	8/2	1 回	221 人	86.7%	
組踊等	共催	沖縄県伝統芸能公演かりゆし芸能公演 阿波連本流啓扇会「華やぐ」	国立劇場おきなわ 小劇場	主催: 公益財団法人沖縄 県文化振興会 共催: 沖縄県(組踊 300 実行委)	9/13	1 回	211 人	82.7%	
組踊等	共催	沖縄県伝統芸能公演かりゆし芸能公演 玉城流翔節会「肝合わち踊ら」	国立劇場おきなわ 小劇場	主催: 公益財団法人沖縄 県文化振興会 共催: 沖縄県(組踊 300 実行委)	9/20	1 回	194 人	76.1%	
組踊等	共催	沖縄県伝統芸能公演かりゆし芸能公演 劇団花道「あむとめしちや(姥捨て山) 輝け老人パワー」	国立劇場おきなわ 小劇場	主催: 公益財団法人沖縄 県文化振興会 共催: 沖縄県(組踊 300 実行委)	9/27	1 回	237 人	92.9%	
組踊等	共催	沖縄県伝統芸能公演かりゆし芸能公演 琉球舞踊 太圭流華の会「華々の色彩」	国立劇場おきなわ 小劇場	主催: 公益財団法人沖縄 県文化振興会 共催: 沖縄県(組踊 300 実行委)	10/11	1 回	193 人	76.6%	
組踊等	共催	沖縄県伝統芸能公演かりゆし芸能公演 玉城流金城清一組踊会 組踊「護佐丸敵討」	国立劇場おきなわ 小劇場	主催: 公益財団法人沖縄 県文化振興会 共催: 沖縄県(組踊 300 実行委)	10/18	1 回	206 人	84.4%	
組踊等	共催	沖縄県伝統芸能公演かりゆし芸能公演 琉球古典音楽野村流保存会 中部 南支部「若者の芽(いぶき)」	国立劇場おきなわ 小劇場	主催: 公益財団法人沖縄 県文化振興会 共催: 沖縄県(組踊 300 実行委)	11/1	1 回	144 人	56.9%	
組踊等	共催	沖縄県伝統芸能公演かりゆし芸能公演 真境名由康組踊会『組踊の創造と継承 ～「女物狂」と「人盗人」～』	国立劇場おきなわ 小劇場	主催: 公益財団法人沖縄 県文化振興会 共催: 沖縄県(組踊 300 実行委)	11/15	1 回	122 人	49.4%	
組踊等	共催	沖縄県伝統芸能公演かりゆし芸能公演 女流組踊研究会めばな「組踊が 2 倍 楽しくなる鑑賞教室 Vol.5 組踊回遊」	国立劇場おきなわ 小劇場	主催: 公益財団法人沖縄 県文化振興会 共催: 沖縄県(組踊 300 実行委)	12/20	1 回	213 人	86.9%	
組踊等	共催	沖縄県伝統芸能公演かりゆし芸能公演 劇団綾船「冬の夜雨」	国立劇場おきなわ 小劇場	主催: 公益財団法人沖縄 県文化振興会 共催: 沖縄県(組踊 300 実行委)	1/10	1 回	180 人	71.4%	
組踊等	共催	沖縄県伝統芸能公演かりゆし芸能公演 宮城本流鳳乃會「新春に織りなす舞 模様」	国立劇場おきなわ 小劇場	主催: 公益財団法人沖縄 県文化振興会 共催: 沖縄県(組踊 300 実行委)	1/17	1 回	196 人	78.7%	
組踊等	共催	沖縄県伝統芸能公演かりゆし芸能公演 玉城流琉花の会「今宵、琉球の花咲く」	国立劇場おきなわ 小劇場	主催: 公益財団法人沖縄 県文化振興会 共催: 沖縄県(組踊 300 実行委)	1/31	1 回	211 人	83.7%	
組踊等	共催	沖縄県伝統芸能公演かりゆし芸能公演 道扇流藤代乃会 藤戸絹代琉舞道場 「麗月に舞う～揃てい舞ら～」	国立劇場おきなわ 小劇場	主催: 公益財団法人沖縄 県文化振興会 共催: 沖縄県(組踊 300 実行委)	2/21	1 回	229 人	92.0%	
組踊等	共催	新春組踊大公演	国立劇場おきなわ 大劇場	主催: (一社)伝統組踊保存会	1/4～5	2 回	388 人	35.9%	

(b) 年度計画外の公演

i. 令和元年度(第74回)文化庁芸術祭

主催公演	本館大劇場:10月歌舞伎公演 演芸場:10月特別企画 能楽堂:11月企画公演 文楽劇場:11月文楽公演、10月舞踊公演 国立劇場おきなわ:10月企画公演(アジア・太平洋地域の芸能)
協賛公演	本館大劇場:11月歌舞伎公演、11月舞踊公演 本館小劇場:10月邦楽公演(2公演)、11月雅楽公演 演芸場:10月・11月定席公演(4公演)、10月・11月国立名人会、 10月特別企画公演(1公演) 能楽堂:10月・11月定例公演(4公演)、10月・11月普及公演、10月企画公演 文楽劇場:11月上方演芸特選会 国立劇場おきなわ:10月研究公演、10月普及公演 11月企画公演(国立劇場寄席)、 11月民俗芸能公演

ii. 地方自治体、教育委員会、専修学校各種学校協会、旅行社等の後援・協力

公演名	区分	連携協力先
歌舞伎・能楽・鑑賞教室	後援	文化庁、東京都、埼玉県、千葉県、埼玉県教育委員会、千葉県教育委員会、神奈川県教育委員会、全国都道府県教育委員会連合会、公益財団法人日本修学旅行協会
	協力	公益社団法人東京都専修学校各種学校協会、一般社団法人神奈川県専修学校各種学校協会、関東高等学校演劇協議会、東京都高等学校演劇研究会、株式会社 JTB、株式会社日本旅行、株式会社近畿日本ツーリスト首都圏、公益財団法人文楽協会(文楽のみ)
親子で楽しむ歌舞伎教室(7月歌舞伎鑑賞教室期間中)	共催	東京都教育委員会
	後援	文化庁、埼玉県、千葉県、埼玉県教育委員会、千葉県教育委員会、神奈川県教育委員会、一般社団法人東京都小学校 PTA 協議会、東京都公立中学校 PTA 協議会、東京私立初等学校協会、一般財団法人東京私立中学高等学校協会
社会人のための歌舞伎鑑賞教室	後援	一般社団法人日本経済団体連合会、公益社団法人経済同友会、東京商工会議所、公益社団法人東京青年会議所
5月特別企画公演	主催	アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)
	助成協力	東京都
10月邦楽公演「浮世絵の音風景—『東海道五拾三次』」	主催	文化庁
	協力	江戸東京博物館
文楽(本館)鑑賞教室	後援	東京都、千葉県、神奈川県教育委員会、全国都道府県教育委員会連合会、公益財団法人日本修学旅行協会
	協力	公益社団法人東京都専修学校各種学校協会、一般社団法人神奈川県専修学校各種学校協会、関東高等学校演劇協議会、株式会社 JTB、株式会社近畿日本ツーリスト首都圏、公益財団法人文楽協会
第29回能楽若手研究会大阪公演	後援	大阪府、大阪市、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会
「体感!日本の伝統芸能」	主催	文化庁、東京国立博物館、文化財活用センター、読売新聞社
	協力	宮内庁、公益社団法人日本俳優協会、公益財団法人文楽協会、一般社団法人人形浄瑠璃文楽座、公益社団法人能楽協会、公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団、独立行政法人国立文化財研究機構
11月舞踊公演	主催	文化庁
	協賛	鍵善良房、公益財団法人京都伝統伎芸振興財団、株式会社資生堂、大市株式会社、株式会社に志田、株式会社緑寿庵清水、宝酒造株式会社、株式会社虎屋、株式会社大丸松坂屋百貨店、株式会社高島屋
11月歌舞伎	主催	文化庁

11月雅楽	主催	文化庁
1月邦楽	主催	文化庁
1月民俗芸能	主催	文化庁
第11回伝統芸能の魅力	協力	公益社団法人日本舞踊協会
国立能楽堂特別展「神戸女子大学古典芸能研究センター・神戸女子大学図書館所蔵 能狂言絵コレクション」	協力	神戸女子大学
文楽劇場の全公演	共催	関西元気文化圏共催事業
文楽劇場 6月文楽鑑賞教室	後援	文化庁、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、京都府教育委員会、兵庫県教育委員会、奈良県教育委員会、滋賀県教育委員会、和歌山県教育委員会、NHK大阪放送局
	協力	公益財団法人文楽協会
研究公演「御冠船踊と組踊『執心鐘入』」「御冠船踊と組踊『銘苺子』」	主催	文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会
	共催	組踊上演300周年記念事業実行委員会、浦添市、浦添市教育委員会、沖縄県立芸術大学

iii. 外部の公演等への後援・協力等

区分	公演名	会場	主催等	期間
制作 協力	新作狂言「鮎」	穂の国とよはし芸術劇場	穂の国とよはし芸術劇場	7/18
制作 協力	新作狂言「鮎」	大濠公園能楽堂	株式会社ノマ企画	7/26～27
協力	えどはく寄席スペシャル「浮世絵と邦楽—隅田川をめぐる—」	江戸東京博物館	東京都、江戸東京博物館	9/15
協力	特別展「正倉院の世界」オープニングセレモニーにおけるミニコンサート「国立劇場がおくる正倉院復元楽器の響き」	東京国立博物館	東京国立博物館、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション	10/13
協賛	キッズ伝統芸能体験	本館小劇場、国立能楽堂他	公益社団法人日本芸能実演家団体協議会	4/1～3/31
協賛	2019年度キッズ伝統芸能体験開講式	国立能楽堂	公益社団法人日本芸能実演家団体協議会	7/28
協賛	小学生のため歌舞伎体験教室	本館、伝統芸能情報館	一般社団法人伝統歌舞伎保存会	7/6～8/22
協賛	ESSENCE 能	国立能楽堂	公益社団法人能楽協会	7/31、8/4
協賛	さわってみよう能の世界	国立能楽堂研修能舞台	公益社団法人能楽協会	8/22
制作 協力	大江戸寄席と花街のおどり その九	本館大劇場	公益財団法人東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京	9/1
協力	「生誕250年記念 歌川豊国—写楽を超えた男」	太田記念美術館	太田記念美術館	9/3～9/29
協賛	組踊公演鑑賞と琉球歴史にふれる旅	国立劇場おきなわ他	公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団	10/4～10/6
協賛	第24回伝統歌舞伎保存会研修発表会	本館大劇場	一般社団法人伝統歌舞伎保存会	12/21
協賛	能楽体験教員セミナー	国立能楽堂研修能舞台	公益社団法人能楽協会	12/27
協賛	第25回伝統歌舞伎保存会研修発表会	本館大劇場	一般社団法人伝統歌舞伎保存会	1/18
協賛	第60回式能	国立能楽堂	公益社団法人能楽協会	2/16
協力	ムムム！文楽シリーズ 中之島文楽	大阪市中央公会堂	大阪市、公益財団法人文楽協会	10/4・5
協力	ムムム！文楽シリーズ 春まつり文楽 in TWIN21 公演	TWIN21 1階アトリウム 特設ステージ	大阪市、公益財団法人文楽協会	3/5・6 ※
協力	にっぽん文楽 in 万博記念公演	万博記念公園 太陽の広場	公益財団法人日本財団	3/21～24 ※

協力	うめだ文楽 2020	ナレッジシアター	毎日放送・テレビ大阪・関西テレビ放送・ナレッジキャピタル	3/27～29 ※
----	------------	----------	------------------------------	--------------

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止

iv. 大学との連携協力

- ・津田塾大学と相互協力に関する協定を締結。
- ・沖縄県教育委員会からの要請により、浦添商業高等学校(7/22～24)・那覇工業高等学校(9/25～27)・中部商業高等学校(10/16～18)・浦添高等学校(11/12～14)・那覇高等学校(11/18～19)からのインターシップを受け入れ、劇場業務について実践で学ぶ場を提供した。
- ・10月研究公演において、沖縄県立芸術大学の共催で、連携して上演した。
- ・津田塾大学・梅五輪プロジェクト主催の「梅五輪おもてなしイベント」(11/1～30まで、東京シティエターミナル2階『毎日が旅行博』会場で開催)に令和2年度「能楽鑑賞教室、国立能楽堂ショーケース及びDiscover NOH & KYOGEN 合同リーフレット」及び「能楽第11期研修生募集案内」を設置するとともに、「梅五輪おもてなしイベント」の様子を国立能楽堂HPのトピックス欄で紹介(11/19)。
- ・関西学院大学との相互協力に関する協定を継続。

② 全国各地の文化施設等における公演

分野	区分	公演名	劇場	連携協力先	期間	回数	入場者数	入場率
歌舞伎	共催	6月歌舞伎鑑賞教室 静岡公演	静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ	主催:公益財団法人静岡県文化財団、静岡県	6/26	2回	1,406人	80.5%
歌舞伎	共催	7月歌舞伎鑑賞教室 神奈川公演	神奈川県立 青少年センター	主催:かながわ伝統芸能祭実行委員会 後援:文化庁、神奈川県教育委員会、神奈川県PTA協議会、神奈川県立高等学校PTA連合会	7/26・27	4回	1,533人	54.0%
文楽	受託	文楽長門公演	ルネッサながと	主催:公益財団法人長門市文化振興財団 制作:国立文楽劇場	7/7	1回	558人	70.6%
琉球舞踊	共催	国立劇場おきなわ県外公演 琉球舞踊 男性舞踊家の会	茅ヶ崎市民文化会館	共催:(公財)茅ヶ崎市民文化・スポーツ振興財団	2/24	2回	474人	67.7%

- ・静岡・神奈川における歌舞伎鑑賞教室の共催公演に際して、本館大劇場での上演時に担当した制作・舞台技術職員及び業務委託先のスタッフを現地に派遣し、公演の仕込み・舞台稽古・本番に至るプロセスを各会場の担当者と協力して行う中で、各会場の舞台機構上の制約を踏まえつつ、可能な範囲で本館大劇場における上演時の演出を再現した。

③ 国際文化交流公演等

(a) 年度計画公演

分野	公演名	劇場	期間	回数	入場者数	入場率
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室 「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」	本館大劇場	6/17・18	3回	2,460人	53.9%
特別企画	5月特別企画公演 「言葉～ひびく～身体 I 神々の残照」	本館大劇場	5/25	1回	1,442人	89.6%
文楽	6月文楽鑑賞教室 「Discover BUNRAKUーBUNRAKU for Beginnersー」	文楽劇場	6/15	1回	515人	70.5%
文楽	12月文楽鑑賞教室 「Discover BUNRAKUー外国人のための文楽鑑賞教室ー」	本館小劇場	12/9,14	2回	930人	84.1%
能楽	外国人のための能楽鑑賞教室 解説、狂言「附子」、能「殺生石」	能楽堂	5/29	1回	627人	100.0%
能楽	外国人のための能楽鑑賞教室 解説、狂言「棒縛」、能「葵上 梓之出」	能楽堂	10/31	1回	627人	100.0%
組踊等	組踊上演 300周年記念 はじめての組踊 ～Discover KUMIODORI～組踊「執心鐘入」	国立劇場おきなわ 大劇場	10/19	1回	431人	74.6%

組踊等	アジア・太平洋地域の芸能 ～昆曲～	国立劇場おきなわ 大劇場	10/27	1回	400人	70.5%
組踊等	組踊上演 300周年記念 国立劇場おきなわ特別公演 組踊「執心鐘入」	パリ日本文化会館	12/6～7	3回	535人	64.8%

《アンケート結果》 ※0内は外国人のみのアンケート結果

分野	公演名	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室 「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」	2,510人	1,890人	1,628人 (1,109人)	1,599人 (1,089人)	75.3%	98.2% (98.2%)
文楽	12月文楽鑑賞教室 「Discover BUNRAKUー外国人のための文楽鑑賞教室ー」	876人	617人	509人 (264人)	508人 (264人)	70.4%	99.8% (100.0%)
特別企画	5月特別企画公演 「言葉～ひびく～身体 I 神々の残照」	1,312人	713人	623人	595人	54.3%	95.5%
文楽	6月文楽鑑賞教室 「Discover BUNRAKUーBUNRAKU for Beginnersー」	538人	465人	430人 (174人)	422人 (171人)	86.4%	98.1% (98.3%)
能楽	外国人のための能楽鑑賞教室 解説、狂言「附子」、能「殺生石」	608人	243人	219人 (135人)	213人 (132人)	40.0%	97.3% (97.8%)
能楽	外国人のための能楽鑑賞教室 解説、狂言「棒縛」、能「葵上 梓之出」	603人	227人	192人 (84人)	189人 (84人)	37.6%	98.4% (100.0%)
組踊等	組踊上演 300周年記念 はじめての組踊 ～Discover KUMIODORI～組踊「執心鐘入」	350人	140人	137人 (14人)	133人 (14人)	40.0%	97.1% (100%)
組踊等	アジア・太平洋地域の芸能 ～昆曲～	250人	135人	117人	102人	54.0%	87.2%

(b) 年度計画外の公演等

i. 年度計画外の公演等

企画名	期間	会場	料金	出演者等	参加者数
楽しもう！能の世界 (外国人のための体験教室)	10/31	国立能楽堂広間	無料	村岡聖美(シテ方金春流)、柏崎真由子(シテ方金春流)、大倉栄太郎(大鼓方大倉流)、第5期研修修了者	約100名
楽しもう！能の世界 (国費留学生歓迎会)	11/9	東京国際交流館 ラザ平成	無料	伶以野陽子(シテ方観世流) 井上須美子(シテ方観世流)	281名
外国人のための組踊ワーク ショップ	10/19	国立劇場おきなわ 養成研修室	無料	川満香多、天願雄一、玉城和樹	26人
パリ公演ワークショップ 組踊レクチャー「女形ができるま で～化粧から着付けまで」	12/7	国際交流基金/パリ 日本文化会館	5ユーロ	嘉数道彦、佐辺良和	29人
パリ学校ワークショップ	12/5	Campus Montessori	無料	嘉数道彦、花城英樹、佐辺良和、平良大	32人
パリ学校ワークショップ	12/5	Eveil et Moi Ecole montessori	無料	嘉数道彦、花城英樹、佐辺良和、平良大	17人

ii. 海外の芸能関係者等の来場、見学等

館	のべ国数	人数	主な来場者
本館	34か国	109人	DiscoverKABUKI 参加者、中国文聯文芸研修院、香港神託会培基書院、ウズベキスタン文化大臣、マレーシア観光芸術文化省国家芸術文化局長
能楽堂	3か国	14人	京王プラザホテル主催・イギリスメディア Fam Tour 京王プラザホテル主催・オーストラリアメディア Fam Tour 京王プラザホテル主催・イタリアメディア Fam Tour
文楽劇場	1か国	9人	大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事 ヴェルナー・ケーラー 及びドイツ連邦議会予算委員会訪日団(ドイツ連邦議会議員 オットー・フリック他)6名 総領事館職員(通訳を兼務)2名
国立劇場おきなわ	2か国	18人	日本建築家協会沖縄支部 BEYOND NOW(オランダ)、台湾文化部副大臣

iii. 在日各国大使等の公演招待

- ・5月特別企画公演をトルコ大使・インド大使が観劇(5/25)。
- ・ウズベキスタンのバフティヨル・サイフラエフ文化大臣とアクバロフ文化省部長が11月歌舞伎を観劇(11/22)。
- ・6月の「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」に在京大使等を招待、食堂における交流会を実施(日本博事務局とも連携し、文化庁長官、観光庁長官、外務省等も参加)。

④ 青少年、外国人等を対象とするワークショップ

イベント・キャンペーン名	期間	会場	料金	出演者等	参加者数	応募者数
歌舞伎ワークショップ	6/15	国立劇場大劇場	無料	中村鴈成、中村いてう、上村折乃助、中村翫政、仙波孝記、田中傳吉	33人	244人
外国人のための歌舞伎ワークショップ	6/17	国立劇場大劇場	無料	中村鴈成、中村いてう、上村折乃助、中村翫政、仙波孝記、田中傳吉	29人	65人
ワークショップ「はじめての演芸体験」	9/28～29	伝統芸能情報館 レクチャー室ほか	無料	日本演芸家連合会員団体 所属演芸家	311人	389人
楽しもう！能の世界 (外国人のための体験教室①)	5/29	国立能楽堂 研修能舞台	無料	大倉慶乃助(大鼓方大倉流)、澤田晃良(太鼓方観世流)、第6期、第7期研修修了者	69人	-
楽しもう！能の世界 (外国人のための体験教室②) ードゥルーズ/ガタリ研究 in アジアー	6/18	国立能楽堂 研修能舞台	無料	観世喜正(シテ方観世流)・大倉栄太郎(大鼓方大倉流)・澤田晃良(太鼓方観世流)・第5期研修修了者・第6期研修修了者	40人	-
楽しもう！能の世界 (外国人のための体験教室③)	10/31	国立能楽堂広間	無料	村岡聖美(シテ方金春流)、柏崎真由子(シテ方金春流)、大倉栄太郎(大鼓方大倉流)、第5期研修修了者	約100名	-
楽しもう！能の世界 (国費留学生歓迎会)	11/9	東京国際交流館 プラザ平成	無料	伶以野陽子(シテ方観世流) 井上須美子(シテ方観世流)	281名	-
届けます。体験教室 (シテ方+狂言)	11/18 ～19	宮城県名取市立 相互台小学校ほか 3校	無料	坂真太郎(シテ方観世流)、松山隆之(シテ方観世流)、奥津健太郎(狂言方和泉流)、野口隆行(狂言方和泉流)	356名	-
届けます。体験教室(囃子)	12/17	愛知県清須市立 古城小学校ほか 1校	無料	船戸昭弘(小鼓方幸清流)、河村裕一郎(大鼓方石井流)、第3期・第6期研修修了者	129名	-
届けます。体験教室(囃子)	12/21	山梨県立大学	無料	佐久間二郎(シテ方観世流)、佃良太郎(大鼓方高安流)、第5期・第6期研修修了者	約60名	-
届けます。体験教室(囃子体験)	1/23	国立市立国立第五小学校	無料	佃良太郎(大鼓方高安流)、第5期・第6期研修修了者	73名	-
楽しもう！能の世界 外国人のための体験教室(立教大学日本語教育センター)	1/23	国立能楽堂研修能舞台	無料	佃良太郎(大鼓方高安流)、第5期・第6期研修修了者	32名	-
届けます。体験教室(囃子体験)	2/3	東京都立小金井 北高等学校	無料	佐久間二郎(シテ方観世流)、佃良太郎(大鼓方高安流)、第5期・第6期研修修了者	160名	-
届けます。体験教室(囃子体験)	2/10	世田谷区立代沢 小学校	無料	佐久間二郎(シテ方観世流)、佃良太郎(大鼓方高安流)、第5期・第6期研修修了者	80名	-
組踊ワークショップ in 兵庫県立芸術文化センター リハーサル室	9/22	兵庫県立 芸術文化センター リハーサル室	無料	嘉数道彦、花城英樹、玉城匠	50人	55人
組踊ワークショップ in まつもと市民芸術館	9/23	まつもと市民 芸術館スタジオ2	無料	嘉数道彦、花城英樹、玉城匠	45人	58人
おでかけワークショップ in 浦城小学校	7/2	浦添市立浦城小 学校体育館	無料	嘉数道彦、大城貴幸、玉城匠	362人	-

おでかけワークショップ in 沖縄尚学 高校附属中学校(琉球舞踊)編	7/4	沖縄尚学高等学 校附属中学校講 堂	無料	嘉数道彦、佐辺良和、大城貴幸	310人	—
おでかけワークショップ in 高嶺小学 校	7/9	糸満市立高嶺小 学校体育館	無料	嘉数道彦、仲村逸夫、玉城匠	105人	—
おでかけワークショップ in 興南高校	8/29	興南高等学校体 育館	無料	嘉数道彦、仲村逸夫、玉城匠	350人	—
おでかけワークショップ in 沖縄尚学 高校附属中学校(組踊編)	9/11	沖縄尚学高等学 校附属中学校講 堂	無料	嘉数道彦、仲村逸夫、玉城匠	310人	—
おでかけワークショップ in 神森中学 校	10/8	浦添市立神森中 学校体育館	無料	嘉数道彦、大城貴幸、玉城匠	290人	
外国人のための組踊ワークショップ	10/19	国立劇場おきな わ養成研修室	無料	川満香多、天願雄一、玉城和樹	26人	—
パリ公演ワークショップ 組踊レクチャー「女形ができるまで～ 化粧から着付けまで」	12/7	国際交流基金パ リ日本文化会館	5 ユーロ	嘉数道彦、佐辺良和	29人	—
パリ学校ワークショップ	12/5	Campus Montessori	無料	嘉数道彦、花城英樹、佐辺良和、平 良大	32人	—
パリ学校ワークショップ	12/5	Eveil et Moi Ecole montessori	無料	嘉数道彦、花城英樹、佐辺良和、平 良大	17人	—
おでかけワークショップ in 沢岬小学 校	12/17	浦添市立沢岬小 学校体育館	無料	嘉数道彦、仲村逸夫	232人	
組踊ワークショップ in 岡山	1/14	岡山市立岡山後 楽館中学校	無料	佐辺良和、嘉数愛美、新垣俊道	86人	
おでかけワークショップ in 琉球大学 附属小学校	1/22	琉球大学附属小 学校				
組踊ワークショップ in 茅ヶ崎市民文化会館	2/8	茅ヶ崎市民文化 会館練習室1	無料	嘉数道彦、大城貴幸	24人	30人

⑤ その他の留意事項

(a) 「beyond2020 プログラム」への参加

- 令和元年度独立行政法人日本芸術文化振興会主催公演・展示等事業
2019年3月に一括で申請を行い、同月に文化庁より認証を受けた。
計224件

(国立劇場40件、国立演芸場59件、国立能楽堂74件、国立文楽劇場31件、伝統芸能情報館20件、日本博(振興会実施企画)5件)

- 令和元年度国立劇場おきなわ自主公演等
国立劇場おきなわ38件(公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団より申請)

(b) その他の連携協力

- 麹町地区環境整備協議会に協力し千代田区一斉清掃(6/6、11/6)、千代田区内一斉打ち水(8/1)に参加。
- 学生が日本の伝統芸能に触れる機会を提供する現場レベルでの協力をより発展させるために、相互協力に関する基本協定を締結した日本学生支援機構(JASSO)に対して観劇会の機会提供を行った(10月歌舞伎、12月歌舞伎、3月歌舞伎)。
- 文楽劇場11月文楽公演及び本館12月文楽公演期間中、一般社団法人人形浄瑠璃文楽座及び公益財団法人文楽協会と連携し、令和元年台風19号災害義援金の募金を文楽座技芸員と職員がロビーで観客に呼びかけた(11/2～24、12/3～15)。
- 12月歌舞伎公演「Chaplin KABUKI NIGHT」で読売新聞社の協賛を得た。
- 2月文楽公演にて演目ゆかりの地である石川県小松市と公演等の周知に関する相互協力を行った。
- 演芸場にて地域連携及び学校教育活動への協力の一環として、昨年度に引き続き本館制作部と協力し、千代田区立麹町中学校が11月に実施した「ミライ探求フィールドワーク」の中学生訪問を受け入れ、劇場施設見学と舞台芸能解説を実施した(11/22)。
- 文楽劇場にて天神祭文楽船奉賛会と連携し、天神祭の祭礼「船渡御」に「文楽船」で参加(7/25)。
- 文楽劇場にて今宮戎神社と連携し、十日戎の祭礼「宝恵駕行列」に文楽人形で参加、劇場ロビーに福娘を招いて「福笹授与式」のイベントを実施(1/10)。

- ・ 文楽劇場にて開場 35 周年記念「仮名手本忠臣蔵」の全段通し上演に因み、本作ゆかりの赤穂大石神社の絵馬と神社オリジナル義士おみくじを、劇場 2 階売店で特別販売した。願い事を記入した絵馬を掛けることができるように専用の絵馬掛け台をロビーに設置した(4 月文楽公演、夏休み文楽特別公演、11 月文楽公演)。
- ・ 文楽劇場にて開場 35 周年記念「仮名手本忠臣蔵」の全段通し上演に因み、劇場 1 階エントランスロビーにおいて、赤穂市産業観光課及び赤穂観光協会により、PR チラシとともに特産品の無料頒布を行った(4 月文楽公演千穂楽、夏休み文楽特別公演初日・千穂楽、11 月文楽公演初日・千穂楽)。
- ・ 文楽劇場では大阪市・府はもとより、Osaka Metro、JR 西日本、民放各社、京阪神エルマガジン社、阪神高速道路株式会社、大阪市立中央図書館 歴史街道推進協議会、阪急うめだ本店、株式会社ロッテ、メルセデス・ベンツ日本株式会社といった多様な連携先との協力により広報活動を充実させた。
- ・ 沖縄県の補助事業を活用して貸切バス費用助成事業を行った。

〈2〉現代舞台芸術の公演に際しての留意事項等

ア 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施

①外部専門家等の意見聴取

各部門の専門委員に各公演についてのレポート提出を依頼し、意見の聴取を行った。
また、総括レポートの提出を半期ごとに依頼し、自己点検評価の総括に活かした。

②アンケート調査の実施(分野ごと集計)

- ・全公演でアンケート調査日を設定し、入場時にアンケート用紙を配布、終演後に粗品と引換に回収する形で実施。また、オペラを除く公演においてはアンケート用紙にQRコードを掲載し、Web上でも同内容のアンケートに回答できるようにした。アンケート調査日以外においても、劇場各所にアンケート用紙を設置した。
- ・アンケート結果については、関係部署間で共有した。また、来場者アンケートに記載された観客の声のうち、掲載を許可されたコメントについて、HPに掲載した。

分野	回数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
オペラ	10公演 15回	20,418人	9,799人	9,486人	8,605人	48.0%	90.7%
バレエ	7公演 7回	9,162人	2,993人	2,752人	2,604人	32.7%	94.6%
現代舞踊	2公演 2回	932人	369人	352人	330人	39.6%	93.8%
演劇	7公演 14回	4,066人	894人	814人	747人	22.0%	91.8%
計	26公演 38回	34,578人	14,055人	13,404人	12,286人	40.6%	91.7%

イ 現代舞台芸術の振興普及の中核的拠点としての公演等の実施

①共催、受託などによる公演等

(a) 年度計画公演

分野	区分	公演名	劇場	連携協力先	期間	回数	入場者数	入場率
オペラ	共催	「ランスへの旅」	新国立劇場 オペラ劇場	主催：公益財団法人東京二期会 共催：公益財団法人日本オペラ振興会	9/5～8	4回	3,878人	54.1%
オペラ	共催	高校生のための オペラ鑑賞教室 2019 「蝶々夫人」	ロームシアター京都 メインホール	主催：京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、新国立劇場 協賛：ローム株式会社 助成：公益財団法人ロームミュージックファンデーション	10/28～30	2回	2,758人	88.3%
オペラ	提携	「トゥーランドット」	東京文化会館 大ホール	主催：東京都・東京文化会館(公益財団法人東京都歴史文化財団)	7/12～14	3回	6,100人	89.5%
オペラ	提携	「トゥーランドット」	びわ湖ホール 大ホール	主催：滋賀県・滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール	7/27～28	2回	3,231人	96.0%
オペラ	提携	「トゥーランドット」	札幌文化芸術 劇場 hitaru	主催：札幌市、公益財団法人札幌市芸術文化財団	8/3～4	2回	3,668人	86.6%

(b) 年度計画外の公演等

i. 令和元年度(第74回)文化庁芸術祭

主催公演	オペラ「エウゲニ・オネーギン」(文化庁芸術祭オープニング) バレエ「ロメオとジュリエット」 演劇「どん底」
------	---

協賛公演	オペラ「ドン・パスクワレ」「椿姫」 現代舞踊 中村恩恵×新国立劇場バレエ団「ベートーヴェン・ソナタ」 演劇「あの出来事」
------	--

ii. 大学との連携協力

- ・11 大学と連携・協力に関する協定を締結している。(東京藝術大学、学校法人武蔵野音楽学園(武蔵野音楽大学)、国立音楽大学、東京音楽大学、大阪音楽大学、桐朋学園大学、北海道教育大学、昭和音楽大学、学校法人洗足学園(洗足学園音楽大学)、東京学芸大学、東邦音楽大学)
- ・大学からのインターンシップ生の受入れを実施。
- ・連携・連携協定を締結している大学に新国立劇場職員を講師として派遣。
- ・オペラ研修所修了公演「フィガロの結婚」にて連携協力先の音楽系大学から協力を得て学生が合唱等で出演した。

②全国各地の文化施設等における公演

(a) 年度計画公演

分野	区分	公演名	劇場	連携協力先	期間	回数	入場者数	入場率
オペラ	共催	高校生のためのオペラ鑑賞教室 2019「蝶々夫人」	ロームシアター京都メインホール	主催：京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、新国立劇場 協賛：ローム株式会社 助成：公益財団法人ロームミュージックファンデーション	10/28～30	2回	2,758人	88.3%
オペラ	提携	「トゥーランドット」	東京文化会館大ホール	主催：東京都・東京文化会館(公益財団法人東京都歴史文化財団)	7/12～14	3回	6,100人	89.5%
オペラ	提携	「トゥーランドット」	びわ湖ホール大ホール	主催：滋賀県・滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール	7/27～28	2回	3,231人	96.0%
オペラ	提携	「トゥーランドット」	札幌文化芸術劇場 hitaru	主催：札幌市、公益財団法人札幌市芸術文化財団	8/3～4	2回	3,668人	86.6%
バレエ	受託	「アラジン」	富山市芸術文化ホール(オーバード・ホール)	主催：公益財団法人富山市民文化事業団、富山市	7/6	1回	984人	60.1%
バレエ	受託	こどものためのバレエ劇場2019「白鳥の湖」	フェスティバルホール	主催：朝日新聞文化財団、朝日新聞社、大阪国際フェスティバル協会、フェスティバルホール	9/21	1回	2,476人	92.7%
バレエ	受託	こどものためのバレエ劇場2019「白鳥の湖」	岡谷市文化会館カノラホール	主催：公益財団法人おかや文化振興事業団	9/23	1回	774人	56.1%
バレエ	受託	「くるみ割り人形」	札幌文化芸術劇場 hitaru	主催：札幌市、札幌文化芸術劇場 hitaru(札幌市芸術文化財団)	11/9～10	2回	3,734人	88.4%
現代舞踊	受託	「NINJA」	いわき芸術文化交流館アリオス 中劇場	主催：いわき芸術文化交流館アリオス	6/15	1回	462人	99.4%
現代舞踊	受託	「NINJA」	北上市文化交流センターさくらホール 中ホール	主催：一般財団法人北上市文化創造	6/22	1回	330人	75.5%
現代舞踊	受託	「NINJA」	水戸芸術館 ACM 劇場	主催：水戸市、公益財団法人水戸市芸術振興財団	6/29～30	3回	684人	81.6%
現代舞踊	受託	「NINJA」	滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 中ホール	主催：滋賀県、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール	7/6	1回	549人	71.7%
現代舞踊	受託	「NINJA」	鳥取市民会館大ホール	主催：公益財団法人鳥取県文化振興財団、一般財団法人鳥取市教育福祉振興会	7/9	1回	453人	50.3%
現代舞踊	受託	「NINJA」	北九州芸術劇場中劇場	主催：公益財団法人北九州市芸術文化振興財団	7/13	1回	315人	71.9%
現代舞踊	受託	「NINJA」	まつもと市民芸術館小ホール	主催：一般財団法人松本市芸術文化振興財団	7/20～21	2回	354人	93.4%
演劇	受託	「かもめ」	兵庫県立芸術文化センター阪急 中ホール	主催：兵庫県、兵庫県立芸術文化センター	5/2	1回	737人	94.4%
演劇	受託	「かもめ」	穂の国とよはし芸術劇場 PLAT 主ホール	主催：豊橋市、公益財団法人豊橋文化振興財団	5/9	1回	425人	59.9%
演劇	受託	「骨と十字架」	兵庫県立芸術文化センター阪急中ホール	主催：兵庫県、兵庫県立芸術文化センター	7/31	1回	530人	73.8%

(b) 年度計画外の公演等

i. 新国立劇場合唱団外部出演公演

公演名	劇場	連携協力先	期間	回数
芝浦工業大学入学式演奏会 芝浦工業大学校歌 「フィンランディア」他	東京国際フォーラム	主催:芝浦工業大学	4/2	1回
Fate / Grand Order Orchestra Concert Performed by 東京都交響楽団	東京芸術劇場	主催:株式会社アニプレックス	4/3 -5/4	2回
令和元年度文化芸術による子供育成総合事業	大阪府・三重県・奈良県・和歌山県	主催:文化庁	6月・ 11月・ 12月	13回
ベートーヴェン生誕 250 周年記念 ベートーヴェン:オペラ「フィデリオ」(演奏会形式)	Bunkamura オーチャードホール	主催:Bunkamura	8/29 ~9/1	2回
K-BALLET COMPANY 熊川版「カルミナ・ブラーナ」	Bunkamura オーチャードホール	主催:Bunkamura/TBS	9/4~ 5	2回
藤原歌劇団公演 ロッシーニ:オペラ「ランスへの旅」	新国立劇場オペラパレス	主催:(公財)日本オペラ振興会	9/5~ 8	4回
東京フィルハーモニー交響楽団定期演奏会 ホルスト:組曲「惑星」	サントリーホール・Bunkamura オー チャードホール	主催:(公財)東京フィルハーモ ニー交響楽団	9/13 ~22	2回
トーキョー・メット・サラダ・ミュージック・フェスティバル 2019 サラダ音楽祭	WACCA 池袋・東京芸術劇場	主催:東京都、(公財)東京都交 響楽団	8/24 ~ 9/16	9回
読売日本交響楽団定期演奏会 ショスタコヴィチ:交響曲第 13 番「バビ・ヤール」	サントリーホール	主催:読売新聞社/日本テレ ビ放送網/読売テレビ/読売 日本交響楽団	10/9	1回
NHK 音楽祭 2019 モーツァルト:「レクイエム」	NHK ホール	主催:NHK/NHK プロモーション	10/10	1回
グリーンハウス特別演奏会(東京フィルハーモニー 交響楽団)	東京オペラシティコンサートホール	主催:株式会社グリーンハウ ス	10/10	1回
東京フィルハーモニー交響楽団定期演奏会 リスト:「ファウスト交響曲」	東京オペラシティコンサートホ ール・Bunkamura オーチャードホ ール・サントリーホール	主催:(公財)東京フィルハーモ ニー交響楽団	10/17 ~21	3回
N 響定期公演 モーツァルト:ミサ曲 ハ短調 K.427	NHK ホール	主催:NHK/NHK 交響楽団	11/22 ~23	2回
読売日本交響楽団定期公演 ベートーヴェン:交響曲第 9 番	サントリーホール・東京芸術劇場・ アクトシティ浜松・フェスティバル ホール	主催:読売新聞社/日本テレ ビ放送網/読売テレビ/読売 日本交響楽団(17~22・24 日) Daiichi-TV(23 日)	12/17 ~24	7回
東京フィルハーモニー交響楽団 令和元年特別 「第九」演奏会 ベートーヴェン:交響曲第 9 番『合唱付』	東京オペラシティコンサートホ ール・Bunkamura オーチャードホ ール・サントリーホール	主催:(公財)東京フィルハーモ ニー交響楽団	12/19 ~21	3回
第 63 回 NHK ニューイヤーオペラコンサート	NHK ホール	主催:NHK/NHK プロモーション	1/3	1回
N 響定期公演 マーラー:交響曲第 2 番「復活」	NHK ホール	主催:NHK/NHK 交響楽団	1/11 ~12	2回
港区 & サントリーホール Enjoy! Music プロジェクト	サントリーホール	主催:港区/港区教育委員会 /(公財)港区スポーツふれあ い文化健康財団/サントリー ホール	1/30	1回
東京フィルハーモニー交響楽団 定期演奏会 ビゼー:歌劇「カルメン」(演奏会形式)	東京オペラシティコンサートホ ール・サントリーホール・Bunkamura オーチャードホール	主催:(公財)東京フィルハーモ ニー交響楽団	2/19 ~23	3回
東京芸術劇場シアターオペラ vol.13 全国共同制作 オペラ ヴェルディ:歌劇「ラ・トラヴィアータ」(椿姫)全幕	東京芸術劇場コンサートホール	主催:東京芸術劇場(公益財団 法人東京都歴史文化財団)	2/22	1回
ソニー音楽財団 災害復興支援プロジェクト 小・中・高校生とともに贈る「第九」チャリティー・コ ンサート	東京オペラシティコンサートホール	主催:公益財団法人ソニー音 楽財団 (Sony Music Foundation)	3/1	※1
東京都交響楽団定期演奏会 ブリテン:春の交響曲 op.44	サントリーホール	主 催:(公財)東京都交響楽団	3/4	※1
びわ湖ホールプロデュースオペラ「ニーベルング の指環」第 3 日 ワーグナー:神々の黄昏	滋賀県立芸術劇場 びわ湖ホ ール大ホール	主 催:滋賀県立芸術劇場び わ湖ホール	3/7~ 8	2回 ※2
「日本博」2020 オープニング・セレモニー	東京国立博物館 本館前庭	主 催:文化庁/(独)日本芸術 文化振興会	3/14	1回 ※2

※1 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため公演中止

※2 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため無観客で実施

iii. 全国各地の文化施設等との連携強化

- ・札幌文化芸術劇場 hitaru、東京文化会館、びわ湖ホール及び国立青少年教育振興機構と連携・協力に関する協定を締結している。
- ・富山市芸術文化ホール(公益財団法人富山市民文化事業団)と連携協力協定を締結(6/28)。
- ・ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)と連携協力協定を締結(10/30)。
- ・穂の国とよはし芸術劇場(公益財団法人豊橋文化振興財団)と連携協力協定を締結(2/14)。
- ・全国公演の際、制作及び技術職員間で情報交換を行った。
- ・「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」を踏まえ、地域の公立文化施設から技術者の実習受け入れもしくは地域の公立文化施設へ技術者を講師として派遣するなど、連携を強化した。
- ・公益社団法人日本芸能実演家団体協議会が主催して子供の日に親子で参加するイベント「芸術体験ひろば」に参画(5/5、会場：芸能花伝舎)。
- ・富山市芸術文化ホール(オーバード・ホール)での全国公演「アラジン」に関連し、新国立劇場バレエ団ダンサーによるワークショップを開催した(5/18)。
- ・隣接する新宿区及び公益社団法人日本芸能実演家団体協議会が主体となって開催している新宿区の文化イベント「新宿フィールドミュージアム」に参加(7/1～11/30)。
- ・フェスティバルホールでの全国公演・こどものためのバレエ劇場「白鳥の湖」に関連し、新国立劇場バレエ団が公演当日の朝行うクラスレッスンの見学会を実施した(9/21)。
- ・岡谷市文化会館カノラホールでの全国公演・こどものためのバレエ劇場「白鳥の湖」に関連し、新国立劇場バレエ団ダンサーによるワークショップを開催した(9/7)。
- ・札幌文化芸術劇場 hitaru での全国公演「くるみ割り人形」に関連し、新国立劇場バレエ団プリンシパルダンサーのバレエ経験者向けワークショップを開催した(8/31)。また、新国立劇場バレエ団専属ピアニストとプリンシパルダンサーが講師として参加するイベント「バレエピアニストが語る 本当は深いバレエと音楽のおはなし」を開催した(8/7)。更に新国立劇場バレエ団が公演当日の朝行うクラスレッスンの見学会を実施した(11/10)。
- ・高校生のためのオペラ鑑賞教室・ロームシアター京都公演に合わせて、公演会場であるロームシアター京都にて、オペラ鑑賞教室の歴史や公演の舞台写真、衣裳、舞台模型等を展示した(「オペラの扉 2019～ Knock the Door, Opera Exhibition～」9/14～12/5、主催：公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション、公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)。
- ・2020年4月やまぎん県民ホールでの全国公演「白鳥の湖」に関連し、新国立劇場バレエ団ダンサーによるワークショップを開催した(1/26)。(註：令和2年度4/4予定の公演は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため延期)

③国際文化交流公演等

(a) 年度計画公演

分野	公演名	劇場	期間	回数	入場者数	入場率
演劇研修	日英演劇アカデミー国際交流公演「怪物/The Monster」	新国立劇場 小劇場	8/3～5	3回	670人	81.7%

(b) 年度計画外の公演等

i. 海外劇場等との交流

- ・海外の劇場との情報交換に努め、また海外より新国立劇場訪問の際には劇場見学、質疑応答等、交流の進展を図った。
- ・AAPPAC (Association of Asia Pacific Performing Arts Centres) の会員に復帰。年次総会に参加した(9/20-22)。
- ・World Ballet Day 2019 に新国立劇場が参加し、Facebook 及び YouTube にて新国立劇場バレエ団のリハーサル風景等をライブ配信した(10/23)。
- ・世界初開催された World Opera Day に新国立劇場が参加。入場無料のオペラコンサートをオペラ劇場ホワイエで開催(10/25)。
- ・東京文化会館、ザルツブルク・イースター音楽祭(オーストリア)、ザクセン州立歌劇場(ドイツ)との共同制作作品・オペラ「ニュルンベルクのマイスタージンガー」が、ザルツブルク・イースター音楽祭(4/13～22)及びザクセン州立歌劇場(1/26～2/16)にて上演された。
- ・ロイヤルコート劇場(イギリス)と協力して、日本の若手劇作家のための長期ワークショップ「ロイヤ

ルコート劇場×新国立劇場 劇作家ワークショップ」を開催した。(5月～令和2年度まで継続予定)

- ・モンテカルロ歌劇場(モナコ公国)との共同制作作品・オペラ「ルチア」が、バレンシア・ソフィア王妃芸術宮殿(スペイン・6/22～7/6)及びモンテカルロ歌劇場(11/17～22)にて上演された。
- ・台中国立歌劇院(台湾)で開催された舞台映像上映会にて、新国立劇場のオペラ・バレエ公演の公演記録映像が上映された(1/27～28)。
- ・日本とポーランドの国交樹立100周年を記念し、ビドゴシュチ・ポーリッシュ劇場の主催により演劇「海からのてがみ」を新国立劇場にて上演することとした。(新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため公演中止)

分野	公演等名	開催場所	期間	回数	入場者数
公演	オペラ「ニュルンベルクのマイスタージンガー」	ザルトブルク・イースター音楽祭	4/13～22	2回	-
		ザクセン州立歌劇場	1/26～2/16	5回	-
ワークショップ	ロイヤルコート劇場×新国立劇場 劇作家ワークショップ	新国立劇場内	5月～ 継続中	-	-
公演	オペラ「ルチア」	バレンシア・ソフィア王妃芸術宮殿	6/22～7/6	6回	-
		モンテカルロ歌劇場	11/17～22	3回	-
コンサート	ワールド・オペラ・デー オペラコンサート	新国立劇場オペラ劇場 ホワイエ	10/25	1回	174名
上映会	台中国立歌劇院 舞台映像上映会 バレエ「くるみ割り人形」	台中国立歌劇院小劇場	1/27～28	2回	416名
上映会	台中国立歌劇院 舞台映像上映会 オペラ「蝶々夫人」	台中国立歌劇院小劇場	1/27～29	2回	354名
公演	日本・ポーランド国交樹立100周年記念企画 ポーランド劇場公演「海からのてがみ」	新国立劇場リハーサル室	2/29	2回※	-

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため公演中止

ii. 海外の芸能関係者等の来場、見学等

館	国数	人数	主な来場者
新国立劇場	11か国・ 20団体	42名	ソウル・アーツ・センター、ウェールズ劇団芸術監督、モンゴル文部教育科学省法律局長、韓国国立劇団芸術監督、マンチェスター・メトロポリタン大学、カールスルーエバレエ団ディレクター、プラハ国民劇場、フィリピン・エレウォン・センター、韓国アーツカウンシル、台中国家歌劇院総裁、タイ文化省タイセンター総支配人、ビドゴシュチ・ポーリッシュ劇場、スペイン王立劇場総裁 ほか

iii. 在日各国大使のオペラ・バレエ鑑賞プログラム

- ・「在日各国大使のオペラ・バレエ鑑賞プログラム」を実施。新国立劇場が内外で高い評価を受けるオペラ専門劇場を有しており、質の高いオペラ・バレエを制作し、上演していることを国際的に発信。また、芸術・文化面における新たな観点からの日本に対する理解の増進を図り、国際交流の振興に寄与した。
- ・実施公演と参加国(大使/大使館文化担当官・文化機関)は以下のとおり。

公演名	日程	参加国数 (大使/文化機関等)	人数	主な来場者
オペラ 「エウゲニオ・オネーギ ン」	10/9	7か国 10機関	21名	アイルランド大使、スペイン大使、スイス大使、ギリシャ大使、ベネズエラ大使、スペイン文化参事官、アメリカ大使館首席公使補佐官、国際連合首席補佐官、セルバンテス文化センター館長

- ・プログラム以外の主催公演でも出演者出身国の大使を招待した。
- ・大使館との交流を活発にし、大使館HPやSNSで公演の周知等の広報協力を得た

④その他の留意事項

(a) 「beyond2020プログラム」への参加

- ・新国立劇場2018/2019シーズン公演等
計38件(公益財団法人新国立劇場運営財団より申請)

(5) 快適な観劇環境の形成

- (5) 快適な観劇環境の形成 ————— p.110
 - ア 快適で安全な観劇環境の提供、
高年齢者・障害者・外国人等への配慮、
サービスの充実 ————— p.111
 - イ 多様な購入方法の提供 ————— p.120
 - ウ 公演内容等の理解促進のための取組 ————— p.121
 - エ 意見・要望等の把握とサービス向上への活用 — p.124

(6) 広報・営業活動の充実

- (6) 広報・営業活動の充実 ————— p.126
 - ア 効果的な広報・営業活動の展開 ————— p.127
 - イ 個人を対象とする会員向けサービスの提供・充実 — p.141

(7) 劇場施設の使用効率の向上等

- (7) 劇場施設の使用効率の向上等 ————— p.146
 - ア 劇場施設の使用効率の向上、積極的貸与 ————— p.147
 - イ 各施設の利用促進を図るための取組 ————— p.147
 - ウ 6劇場の相乗効果を発揮するための連携協力 — p.148

2 - (5) 快適な観劇環境の形成

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(5) 快適な観劇環境の形成

観客本位の快適な環境の形成のために行うサービスの向上及び観客の満足度の向上

- ア 観客の要望等及び高齢者、障害者、外国人等の利用の機会が拡充される、快適で安全な劇場施設の整備、各種サービスの充実
- イ 入場券販売における、利用者にとって利便性の高い多様な購入方法の提供
- ウ 公演内容等の理解促進のための解説書等作成、音声同時解説や字幕表示等のサービスの提供
鑑賞団体等に対する公演内容の説明会等
- エ アンケート調査等の活用による観客等の要望・利用実態等の把握、サービス向上への活用

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(5) 快適な観劇環境の形成

- ア 快適で安全な環境を提供するため、観客の要望等を踏まえた売店・レストラン等におけるサービスの充実や観劇時のマナーの呼びかけの実施
高齢者、障害者、外国人等の利用者にも配慮した劇場内外の環境整備等各種サービスの充実
- イ 入場券販売における、PC やスマートフォン等、観客の利用形態に応じた多様な購入方法の提供
- ウ 公演内容等の理解促進のための解説書等作成、音声同時解説及び字幕表示の実施
鑑賞団体等に対する公演内容の事前説明会等
- エ アンケート調査等の活用による観客等の要望・利用実態等の把握、サービス向上への活用
ホームページ、ご意見箱等を通じた意見・要望の一元的管理、対応の迅速化と職員間の情報共有の強化、内容の集計・分析結果のサービス向上への活用

ア 快適で安全な観劇環境の提供、高齢者・障害者・外国人等への配慮、サービスの充実

①観客の要望等を踏まえたサービスの充実

- ・引続き、来場者、出演者及び施設利用者等に向けた公衆無線 LAN サービス(無料 Wi-Fi)を継続。
- ・各館の初春公演では、一年の幕開けを寿ぎ、鏡開きや手拭いまき、また、ロビー・玄関の正月飾り等、各館で正月のイベントを実施。能楽堂では1/13まで能舞台に注連をはり、文楽劇場ではにらみ鯛を舞台上部に吊り上げ来場者に正月の雰囲気をお楽しみいただいた。
- ・本館大小劇場における食堂・売店では外国人客の増加を見越して、各種キャッシュレスサービスの導入を図った。

(a) 本館

- ・大劇場壁面に季節ごとの造花等の装飾を実施。(6月「若葉」、7月「七夕」、8月・9月「青葉」、10月・11月「銀杏」、12月「寒椿」)
- ・熱中症対策として大劇場正面付近に冷却ミスト機を設置。(7月歌舞伎鑑賞教室)
- ・大劇場2階ロビー下手に特設フォトスポットを、2階お休み処に小道具体験コーナーを設置。(7月歌舞伎鑑賞教室)
- ・「親子で楽しむ歌舞伎教室」で子供向けイベントとして、大劇場及び伝統芸能情報館に設置した国立劇場のマスコットキャラクター「くろごちゃん」を探すラリーを実施した。くろごちゃんのイラストパネルを、上記の小道具体験コーナーと特設フォトスポット、伝統芸能情報館にそれぞれ設置し、同時に実施している企画との相乗効果を図った。ラリーに参加した来場者へ記念品(くろごちゃんイラスト入りオリジナルクリアファイル)をプレゼントした。(7/19~24、伝統芸能情報館での記念品配布人数:3,406人)
- ・上演中以外は客席で飲食が可能であることを周知するため、その旨を案内アナウンスにてお知らせ。
- ・作品に登場する蝦蟇に因み、大劇場ロビーにおいて、筑波山ガマロ上保存会の出演により、ガマの油売り口上のパフォーマンスを実施し、筑波山ガマまつりを案内するつくばエクスプレス沿線イベントチラシに公演の広告を掲載。また、筑波山の所在地である茨城県及びつくば市とタイアップし、特設売店を設置し、観光案内や物産展を実施。(10月歌舞伎)
- ・作品に登場する蝦蟇に因み、株式会社 KADOKAWA と連携し、ロビー等で人気コミック「ケロロ軍曹」のコラボレーションを展開。(10月歌舞伎)
- ・毎週火曜日終演後の限定企画として、「「蝦蟇の妖術の秘密を探る一天竺徳兵衛韓晰の舞台裏一」と題し、本作で使用の大道具(屋体崩し)・小道具(蝦蟇の着ぐるみ)・効果音(蝦蟇の鳴き声)の秘密を紹介する特別バックステージツアーを3回開催。(10月歌舞伎、合計参加人数:119人)
- ・国立劇場の公演として初めて幕見席の販売を実施し、幕見用プログラム(日本語版、英語版)を幕見観劇者に無料配布。(11月歌舞伎、販売実績:39枚)
- ・大劇場ロビーにおいて、作品の舞台「日向嶋」に因み宮崎県とタイアップしたイベントを実施。(11月歌舞伎)
- ・大劇場ロビーに特設売店を設置し、「近江源氏先陣館一盛綱陣屋」の舞台である滋賀県(近江)の物産を販売した(12月歌舞伎)。
- ・「蝙蝠の安さん」のみを上演する「Chaplin KABUKI NIGHT」において、大劇場1階ロビー正面におけるフォトスポット用の松本幸四郎等身大パネルや2階ロビー上手における特別資料展示コーナーの設置、扮装写真を掲載した特別プログラムの作成・販売、クリスマス限定の特製しおりの無料進呈を実施。(12月歌舞伎)
- ・従来の口上看板に代わり、令和最初の初春公演に因み、平成時代の初春公演のポスターを大劇場1階ロビー下手で展示。(初春歌舞伎)
- ・歌舞伎公演応援のため石川県小松市のマスコットキャラクター「カブッキー」、岡山県井原市の「でんちゅうくん」、国立劇場の「くろごちゃん」によるロビーイベントを実施した。
- ・大劇場ロビーに特設売店を開設し、上演演目に因み、小田原市、三島市等の物産を販売した(初春歌舞伎)。
- ・上演演目に因んで石川県小松市の「カブッキー」による観光PRイベントを実施した。また、小劇場ロビーに小松市の観光パンフレットを設置した(2月文楽)。
- ・大劇場ロビーに特設売店を開設し、上演演目に因んで奈良県の物産及び薬師寺のグッズ・書籍を販売し、観光案内チラシを置いた(2月声明)。
- ・観客食堂サービス向上推進チームは、30年度に引き続き観客食堂が提供する料理の品質及び接客サービスの向上等を図るために活動。

- ・観客食堂においてアンケートを実施し、観客からの意見を踏まえ、食堂業者及び担当部署との定期的な会議を実施。観客のための円滑の運営が整うよう、綿密な打合せと指導を行った。
- ・経年劣化により破損、塗装剥がれが目立つロビーの受付机や観客用食堂カウンター等について補修・塗装を行いロビー景観の改善を行った。

(b) 演芸場

- ・「開場四十周年記念」の入った幟を新調し、演芸場のアピールに努めた。
- ・6月に2階売店が休店中、十一屋が仮店舗で営業を実施。
- ・演芸場1階ロビーにウォーターサーバーを設置。(6/28～9/21)
- ・正面玄関脇に自動販売機を設置した。(8/2～)
- ・7月特別企画公演「親子で楽しむ演芸会」において記念品として色鉛筆を配布、またロビーに風船を飾り、配布した。
- ・8月定席公演の来場者に金沢の老舗酒蔵・福光屋(寛永二年創業)提供の甘酒(ノンアルコール)を無料配布した。(8/5, 7, 16)
- ・幟、正面入口及び2Fロビー提灯を更新した。
- ・デジタルサイネージのディスプレイを更新した。
- ・演芸場2階ロビー壁面に5・6月はあやめ、7・8月は朝顔、9・10月は秋草、11月は紅葉、12月は椿、1月は繭玉、2月は梅の装飾を施し、季節を感じさせる雰囲気づくりを行った。
- ・2月上旬の節分の日には、舞台から出演者による豆撒きを行った。

(c) 能楽堂

- ・2020年オリンピック・パラリンピックに向け、訪日外国人を含む初心者向けの公演である「国立能楽堂ショーケース」において警備を強化した(警備員の立哨)(7/24-26、8/25-27)。
- ・外国人の入場が多く見込まれる公演については、「お祈りの間」として第1会議室を用意した。
- ・「国立能楽堂ショーケース」において、日本語、中国語(簡)、韓国語、英語の配役表(8月はあらすじも含む)を広間で配布した。
- ・8/30企画公演では、《特集・博奕》の「狸賽」にちなみ、入場者全員にサイコロキャラメルを配布した。
- ・9/20定例公演で、能「蟬丸」にちなんで滋賀県大津市小関町・関蟬丸神社、大津市による物品販売を実施した。
- ・職員、委託業者が参加する消防訓練を年2回実施した(9/24・2/12)。9/24は通常の自主訓練に加え渋谷消防署原宿出張所の立会のもと「煙ハウス」での避難体験を行った。
- ・「字幕表示機操作方法のご案内」チラシ(日本語・英語・中国語(簡)・韓国語)を常設した。
- ・10/25企画公演で、能「望月」上演にちなみ、滋賀県東京事務所の幹旋により守山市、同観光物産協会が来場、滋賀県、守山市の観光資料を入場者に配布するとともに、広間で特産品の販売を行った。
- ・11/9普及公演で、開場時間を30分早め、開場時に公演観覧のお客様を対象に手荷物検査を実施した。
- ・11/28・29の企画公演で、英語、中国語(簡)、韓国語の配役表を広間で配布した。
- ・国立能楽堂の見所のうち、段差のあるGB席について、歩廊よりGB席に上がる段差、及びGB席の最前列席に下る段差(2か所)、計3か所に昇降の一助となる手すりを設置した。
- ・1/24狂言の会以降、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、1/24狂言の会より玄関広間及び広間に手指消毒用アルコール及びペーパータオルを設置した。
- ・2/8普及公演以降、自主公演・貸劇場を問わず広間・見所に出入りする営業課職員、劇場案内業者、売店関係者はマスクを着用することとした。あわせて新型コロナウイルス感染の注意喚起を促す文言を場内アナウンスに追加した。
- ・2/29以降、中止となった公演(自主・貸とも)開催日には職員が常駐し、能楽堂前庭入口門前に「公演中止」の看板を掲出する等の対応にあたった。
- ・3/10以降、玄関広間、広間、広間内トイレ、楽屋口及び事務所玄関等21か所に「咳エチケット」及び「手洗い励行」の掲示物を掲出し、入場者に手指の消毒を実施するほか、中庭のガラス戸の開放、休憩時間の延長を行い、見所内の換気に努めている。また、体調の思わしくないと見受けられるお客様には積極的に声がけすることとしている。
- ・字幕表示装置を更新し(タッチパネル式、最大6か国対応とする)、2/29以降使用可能となった。
- ・字幕表示装置の更新に伴い、最大6か国語対応となったことから、操作案内チラシ「字幕表示機操作方法のご案内(日本語、英語、中国語(簡)、韓国語の4か国)」を新たに作成し、広間に設置した。
- ・8月企画公演《夏スペシャル》「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」において、字幕表示を通常日本語と英語のチャンネルに加え、子供用の現代語訳チャンネルを導入し、3チャ

ンネルで実施した。ロビーに体験コーナーを設け、楽器や狂言面に触れる機会を作った。子供向けにイラスト入りパンフレット、国立能楽堂立版古を配布した。また、記念撮影用のパネルを作成し、設置した。

(d) 文楽劇場

- ・観劇の雰囲気盛り上げ、公演演目の周知を図るため、正面玄関の柱に、演目に登場する文楽人形の写真ポスターを巻きつけた装飾を施し、2階ロビーへの大階段の周辺にも大型懸垂幕ポスターを掲出。
- ・上演演目にちなんだ観劇記念スタンプを作成。
- ・観劇機会の増加を企図し、座席等級の設定数を見直し。
- ・劇場正面の歩道タイルの破損及び浮きを補修し、来場者の安全を確保。
- ・劇場正面の植栽の補植を行い、観劇環境の美化に努めた。
- ・観客からのご意見に対応し、トイレに小物用の棚を設置。
- ・経年劣化が問題になっている劇場外壁タイルについて、昨年の南面(正面)に引き続き、東・西・北面上層部の補修工事を実施。
- ・開場35周年企画として、会員及び一般客を対象に「仮名手本忠臣蔵観劇ラリー」を実施。4月文楽、夏休み文楽、11月文楽の忠臣蔵の入場券を全て購入されたお客様に、記念品としてオリジナルデザインの手ぬぐいを贈呈。
- ・商業施設“グランフロント大阪”での「うめだ文楽×Mercedes me×国立文楽劇場コラボラッピングカー」において民放各社、メルセデス・ベンツ日本株式会社と連携協力し、4月文楽公演でラッピングカーのモデルカーを国立文楽劇場ロビーに展示。
- ・夏休み文楽特別公演第一部「親子劇場」において、株式会社ロッテの協力により「ビックリマン×文楽2019夏休みプロジェクト!」を実施。国立文楽劇場オリジナルのビックリマン×文楽コラボレーションカードを作成し、来場者に配布。
- ・夏休み文楽特別公演第一部「親子劇場」の終演時に、芸芸員が舞台上で遣った人形でお客様をお見送りし、一緒に記念撮影ができるサービスを提供。お子様には記念品を配布。
- ・初春文楽公演第一部の終演時に、今宮戎神社十日戎の福笹授与式に合わせて甘酒を配布(1/10)。
- ・初春文楽公演において、売店委託業者と協力して恒例の初春茶会を実施し、ロビーにお茶席を設営し来場のお客様に茶菓をチケットとセットで販売。
- ・初春文楽公演での手拭いまきに利用する手拭いと同デザイン色違いの手拭いを作製してお客様へ販売するなど、売店に文楽上演演目に因んだグッズ類を充実させ、観劇の雰囲気を盛り上げるように努めた。

(e) 国立劇場おきなわ

- ・ロビーベンチ4台が経年劣化により割れが生じていたため買い換えた。
- ・正面玄関の外回廊屋根赤瓦の漆喰が経年劣化により剥げ落ちていたため塗り直し修繕を行い、安全性及び美観をともに向上させた。
- ・大劇場及び小劇場に無料貸出用のクッションを設置。
- ・1月企画公演「ゆらていく遊ば」において、出演者と身近にふれ合える企画として、模擬店や写真撮影、ゲームコーナー等を設けた。また、本公演ならではのグッズ(全出演者サイン色紙、ポストカードなど計4点)を製作するなど、観客サービスに努めた。
- ・チケット購入者限定で組踊公演前に組踊ワークショップや沖縄芝居よもやま話を開催。
- ・1月定期公演「春夏秋冬を舞う」では、近隣の高校の茶道部による恒例の呈茶を実施し(来場者数：公演1日間計約100名)、幕間に抽選による観客へのお年玉プレゼント(カレンダー、劇場グッズ等の詰め合わせ)を行い、初春公演の雰囲気を盛り上げた。

(f) 新国立劇場

- ・エアウィーヴ社との共同開発によるクッションを全劇場の椅子に設置。(4/1~)
- ・オペラ劇場公演日にメインエントランスにある売店で劇場関連グッズを、プロムナードに設置の出店で公演プログラムのバックナンバー等を販売。
- ・オペラ劇場の夜公演時に、劇場内で人数限定のbuffet「パレスサロン」を行い、飲食サービスを提供。
- ・オペラ劇場における公演日に、開演の90分前より2階ブリッジにてカフェを営業。
- ・汚れが目立つオペラ劇場ホワイエの床を研磨して、リニューアルした。
- ・こどものためのバレエ劇場「白鳥の湖」の公演期間中、オペラ劇場ホワイエに同作品の登場人物の等身大パネルを設置した撮影スポットを設けた。また、開演前や休憩中にオペラプロムナードにおいて

ストリートオルガンの演奏やジャグリング等を実施したり「白鳥の湖」をモチーフにしたスイーツを販売したりするとともに、終演後には子どもの来場者に「白鳥の湖」の特製シールを配布して、子どもたちが劇場での時間を楽しめる雰囲気を演出した。

- ・通常は客席内での撮影は禁止としているが、こどものためのバレエ劇場「白鳥の湖」において、カーテンコール終了後に舞台上のダンサーを撮影できる「写真タイム」を特別に設け、観劇の記念として舞台の様子を撮影したいという観客の要望に応えた。(7/27～30 全公演)
- ・バレエ「くるみ割り人形」で公演終演後に主演ダンサーによる握手会を開催。(12/14, 15, 21, 22)
- ・バレエ「くるみ割り人形」の公演期間中、館内にクリスマスツリーを設置し、クリスマス関連の飾りで装飾するとともに、プロムナードにおいて開演前や休憩中にストリートオルガンの演奏やマジック等を行い、クリスマスらしい華やかな雰囲気を演出した。
- ・バレエ「マノン」において、チケットを購入した一般の観客に向け、新国立劇場バレエ団のクラスレッスン見学会を実施することとし、チケット販売の促進を図るとともに、通常は非公開のレッスンを見学してもらうことにより、新国立劇場バレエ団への関心と理解を深め、新たなファンの獲得を図ることとしていたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止となった。
- ・バレエ「マノン」の公演期間中、主役を務める新国立劇場バレエ団ダンサーが監修して同作品をモチーフに考案したオリジナルスイーツを、劇場ホワイエ内ビューッフェで販売した。
- ・現代舞踊「NINJA」において、演出・振付・アート・ディレクションの森山開次が手がけたイラストを使用したオリジナルグッズを劇場ホワイエにて販売した。
- ・演劇公演では、劇場ホワイエにおいて舞台装置模型を展示。
- ・演劇「オレステイア」「骨と十字架」「どん底」「あの出来事」「タージマハルの衛兵」において、オリジナルグッズを劇場ホワイエにて販売した。
- ・シリーズ「ことぜん」として上演した演劇「どん底」「あの出来事」「タージマハルの衛兵」において、シリーズ性を強調するため、小劇場ホワイエにシリーズ名の垂れ幕を設置するとともに、3作品の宣材に共通して描かれているキャラクターのパネルを展示し、シリーズ上演への期待感を醸成した。
- ・屋外の緑地に植樹の入替等を行い、屋外環境整備を行った。
- ・喫煙所の分離を図るため、屋外スペースを整備した。
- ・屋外のサインの内容を全面的に見直し、デザインを統一して見やすくするとともに不足している情報を表示した。

②観劇時のマナーに関する取組

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、各劇場では掲示等による注意喚起、消毒液の設置、職員等のマスク着用などの取組みを実施。

(a) 本館

- ・開演前の客席において、場内案内係による口頭及び視覚的なサインを用いたボードにより観劇マナーに関する注意喚起を実施。

(b) 能楽堂

- ・プラカードを用いて観劇マナーの注意喚起を行った。
- ・劇場受付に観劇マナー向上のためのチラシ「快適なご観劇のために 国立能楽堂からのごお願い・For your pleasurable theartregoining A few requestds from the National Noh Theatre」(日・英)を常設した。
- ・開演前の客席において、場内案内係により口頭で観劇マナーに関する注意喚起を行った。
- ・1/24 狂言の会以降、玄関広間及び広間に手指消毒用アルコール及びペーパータオルを設置した。
- ・2/8 普及公演以降、新型コロナウイルス感染の注意喚起を促す文言を場内アナウンスに追加した。
- ・字幕表示装置の更新に伴い、画面に咳エチケット及び手洗い励行の画像を表示できるようにした。
- ・3/10 以降、玄関広間、広間、広間内トイレ、楽屋口及び事務所玄関等 21 か所に「咳エチケット」及び「手洗い励行」の掲示物を掲出し、入場者に手指の消毒を実施するほか、中庭のガラス戸の開放、休憩時間の延長を行い、見所内の換気に努めた。また、体調の思わしくない見受けられるお客様には積極的に声がけすることとした。

(c) 文楽劇場

- ・開演前の客席において、場内案内係による口頭及び視覚的なサインを用いたボードでの観劇マナーに関する注意喚起を行った。
- ・劇場内に観劇マナーに関する日本語と英語によるチラシを配架、日本語によるポスターを掲出。

- ・新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、館内各所に注意喚起を促す掲示を行った。
- (d) **国立劇場おきなわ**
 - ・開演前の客席において、場内案内係による口頭及びプラカードでの観劇マナーに関する注意喚起を行った。
- (e) **新国立劇場**
 - ・開演前の客席において、オペラパレスでは場内アナウンス(日・英)、中・小劇場では場内案内係の口頭による観劇マナーの注意喚起を実施。
 - ・保護者・子供向けのマナーちらしをホワイエ各所に設置。必要に応じて場内案内係の口頭及び視覚的なサインを用いたボード(日・英)による観劇マナーに関する注意喚起を実施。

③高齢者・障害者等多様な観客への配慮、サービスの充実

- ・30年度に引き続き、本館・演芸場・能楽堂・文楽劇場・国立劇場おきなわ・新国立劇場の各公演について障害者割引を行った。
- (a) **本館**
 - ・6月歌舞伎鑑賞教室で聴覚障害者の観劇機会の拡大のため、株式会社イヤホンガイドとの協力により、無線ポータブル字幕機(有料)に上演台本を表示する観劇支援サービスを実施。HP・Twitter・大小劇場ロビーへのチラシ掲出により周知。
6/22(土)・23(日)、2日4回、貸出可能数：320名(各回80名)、有料
利用者数：105名(聴覚障害者の団体95名、個人10名)
 - ・イヤホンガイド用イヤホンに骨伝導タイプを一部導入し、難聴者にもご利用頂ける商品を提供した。
 - ・歌舞伎・文楽公演において託児サービスを行い、観客の利便を図った。また、その他の短期公演でも開室し、サービスを提供した。
 - ・職員、委託業者が参加する避難訓練を定期的を実施。
- (b) **演芸場**
 - ・演芸場9月上席公演において、東日本大震災被災者招待を全11ステージで実施(来場者数113名)。
- (c) **能楽堂**
 - ・車椅子2台を広間に常備した。
 - ・座席字幕表示装置を活用して、能楽堂主催の全公演(「蠟燭の灯りによる」を除く)で字幕(日本語・英語)等表示を実施した。
 - ・GB席段差部分に手摺を新設した。
 - ・1/24狂言の会以降、玄関広間及び広間に手指消毒用アルコール及びペーパータオルを設置した。
 - ・2/8普及公演以降、新型コロナウイルス感染の注意喚起を促す文言を場内アナウンスに追加した。
 - ・字幕表示装置の更新に伴い、画面に咳エチケット及び手洗い励行の画像を表示できるようにしている。
 - ・3/10以降、玄関広間、広間、広間内トイレ、楽屋口及び事務所口等21か所に「咳エチケット」及び「手洗い励行」の掲示物を掲出し、入場者に手指の消毒を実施するほか、中庭のガラス戸の開放、休憩時間の延長を行い、見所内の換気に努めた。また、体調の思わしくないと見受けられるお客様には積極的に声がけすることとした。
- (d) **文楽劇場**
 - ・1階ロビーチケット売場及び楽屋・事務所入口受付に、筆談等及び補助犬入場に対応可である標示を継続して掲出。
 - ・車椅子を2階救護室及び3階小ホール控室に常備。
- (e) **国立劇場おきなわ**
 - ・災害時の避難等に関して、文字を大きく、わかりやすい表現でロビーに掲示した。
 - ・劇場HPにバリアフリー情報を掲載し、観劇する方が事前に劇場内情報を手に入れやすいようにした。
- (f) **新国立劇場**
 - ・演劇「かもめ」で視覚・聴覚障害者向けに観劇サポートを提供。視覚障害者向けには事前に舞台装置・小道具の位置関係やあらすじ、登場人物を説明。あわせて音声で見どころなどを解説する音声プログラムを提供した(4/21)。聴覚障害者向けにはポータブル字幕機を貸出。さらに、劇場内の案内サインを強化した。聴覚障害者等がチケットを購入しやすいよう、通常は電話・窓口のみで適用している障害者割引をインターネットで利用できる特別フォームを整備した(4/20)。また、視覚障害者向け観劇サポートで使用した触れる舞台模型を、その後の公演期間中に劇場ホワイエに展示した。
 - ・演劇「あの出来事」で聴覚障害者や外国人を含む多様な観客の理解を助けるため、日本語及び英語字幕

を表示した。あわせて、聴覚障害者等がチケットを購入しやすいよう、通常は電話・窓口のみで適用している障害者割引をインターネットで利用できる特別フォームを整備した。また、聴覚障害者の来場を想定して劇場内の案内サインを強化し、視覚障害者の来場を想定してホワイエに触れる舞台模型と点字の解説ボードを展示した。

- ・演劇「タージマハルの衛兵」で視覚・聴覚障害者向けに観劇サポートを提供。視覚障害者向けには事前に舞台装置・小道具の位置関係やあらすじ、登場人物を説明。あわせて音声で見どころなどを解説する音声プログラムを提供した(12/21、22)。聴覚障害者向けにはポータブル字幕機を貸出。さらに、劇場内の案内サインを強化した。聴覚障害者等がチケットを購入しやすいよう、通常は電話・窓口のみで適用している障害者割引をインターネットで利用できる特別フォームを整備した(12/15)。また、公演全期間にわたって、ホワイエにて触れる舞台模型と点字の解説ボードを展示した。
- ・演劇「かもめ」「タージマハルの衛兵」において、稽古場風景を撮影した動画を手話通訳付きで作成し、ホームページ等で公開した。
- ・引き続き、高齢者割引を行った。車椅子での来場にも対応した。
- ・視覚障害者がより安全に来場できるよう、小劇場前のサンクンガーデンに視覚障害者用点字ブロックを敷設した。
- ・メインエントランス等の照明を見直し、照度を上げて安全の確保を図った。

④外国人利用者への配慮、サービスの充実

《Discover 公演 多言語化対応状況》 ※下線部は今年度新規追加言語。

	解説書等	字幕	音声同時解説	アナウンス・案内業務
歌舞伎	7言語 (日・英・中(簡)・中(繁)・韓・西・仏)	1言語 (英)	6言語 (日・英・中・韓・西・仏)	6言語 (日・英・中・韓・西・仏) ・ロビー内にコンシェルジュカウンター設置。外国語対応のできるスタッフを配置。 ・観劇マナーについて、視覚的なサインを用いたボードにより呼びかけ。
能&狂言	6言語 (日・英・中(簡)・韓・西・仏) 芸能紹介リーフレット(能楽入門) 4言語 (日・英・中(簡)・韓)	パーソナル字幕 4言語 (日・英・中(簡)・韓)	-	2言語 (日・英)
文楽(文楽劇場)	7言語 (日・英・中(簡)・中(繁)・韓・西・仏) 入門パンフレット:6言語 (日・英・中(簡)・韓・西・仏)	1言語 (英)	1言語 (英)	アナウンス:2言語 (日・英) 案内業務:4言語 (日・英・中・韓)
文楽(本館)	7言語 (日・英・中(簡)・中(繁)・韓・西・仏)	1言語 (英)	6言語 (日・英・中・韓・西・仏)	6言語 (日・英・中・韓・西・仏) ・ロビー内にコンシェルジュカウンター設置。外国語対応のできるスタッフを配置。 ・観劇マナーについて、視覚的なサインを用いたボードにより呼びかけ。
組踊	5言語 (日・英・中(簡)・中(繁)・韓)	-	4言語 (日・英・中・韓)	2言語 (日・英)

(a) 本館

- ・歌舞伎・文楽公演の解説書(有料)及び5月特別企画公演の解説書(無料)に英文あらすじを掲載し、舞踊や邦楽等の短期公演では英文リーフレット(無料)を配布。
- ・「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」、「Discover BUNRAKUー外国人のための文楽

鑑賞教室」で7言語(日本語・英語・中国語(簡体字・繁体字)・韓国語・スペイン語・フランス語)の歌舞伎、文楽の概要説明・演目解説・あらすじをまとめたプログラム(無料)を配布

- ・旅行代理店・ホテル等との連携強化を一層進め、引き続き外国人から好評なデザインの英文スケジュールチラシを劇場内のほか、空港・観光案内所・主要ホテル等に配布。
- ・歌舞伎・文楽紹介リーフレットの各国語版(英語・中国語簡体字・中国語繁体字・韓国語・スペイン語・フランス語・ドイツ語)を増刷し、国立劇場チケット売場に専用ラックを設置。

■10月歌舞伎

- ・多言語対応(英語・中国語(簡体字・繁体字)・韓国語)の別冊解説書をイヤホンガイドのポータブル字幕機利用者に無料配布

■12月文楽・文楽鑑賞教室

- ・「Discover BUNRAKU－外国人のための文楽鑑賞教室－」において、多くの外国人観客に対応するため、特別な体制を整えた。
 - i. 英語・中国語(簡体字・繁体字)・韓国語・スペイン語・フランス語・日本語の文楽の概要説明・演目解説・あらすじを1冊にまとめたリーフレットを作成(無料配布)
 - ii. 6か国語(日本語・英語・中国語・韓国語・スペイン語・フランス語)による音声同時解説、場内アナウンス及びロビー内コンシェルジュカウンター設置、外国語対応のできるスタッフの配置を実施
- ・6月歌舞伎鑑賞教室で19～24日まで、Multilingual Weekとして、6か国語(日本語・英語・中国語・韓国語・スペイン語・フランス語)による音声同時解説(有料)、ロビー内コンシェルジュカウンター設置を実施。

(b) 演芸場

- ・英語版の寄席の紹介パンフレットを配布し、外国人の利用環境の充実を図った。

(c) 能楽堂

- ・英語版「主催公演予定表」(冊子)、演目を解説した英文リーフレット、英語による場内アナウンス等により、外国人の観劇環境を充実した。
- ・外国人の入場が多く見込まれる公演については、「お祈りの間」として第1会議室を用意した。
- ・「国立能楽堂ショーケース」において、日本語、中国語(簡)、韓国語、英語の配役表(8月はあらすじも含む)を広間で配布した。
- ・11/28・29企画公演で、英語・中国語(簡)・韓国語のリーフレットを作成・配布し、公演当日には左記の三カ国語の配役とあらすじを広間に設置・配布した。
- ・英語によるマナーチラシを作成し、外国人の観客に注意喚起した。
- ・英語による演目解説リーフレット、「主催公演予定表」(冊子)、施設紹介パンフレットの作成・配布、英語による案内表示、場内アナウンス等のサービスを提供した。
- ・能楽堂の英語版HPに年間主催公演予定(スケジュール)を掲載した。
- ・「NOH & KYOGEN Guide Book」ほか、中国語(簡)・韓国語による能楽解説書を作成し、無料配布した。
- ・座席字幕表示装置を活用して、能楽堂主催の全公演(「蠟燭の灯りによる」を除く)で字幕(日本語・英語)等表示を実施した。
- ・「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」において、あらすじ等を記載した6か国語(日本語・英語・中国語(簡)・韓国語・スペイン語・フランス語)による解説書を作成し、無料配布した。また、4か国語(日本語・英語・中国語(簡)・韓国語)による字幕表示を実施した。

(d) 文楽劇場

- ・「Discover BUNRAKU－BUNRAKU for Beginners－」において、外国人向け文楽入門パンフレット「Introduction to BUNRAKU」(英語版)を当日無料配布。
- ・「Discover BUNRAKU－BUNRAKU for Beginners－」において、あらすじ等を掲載した6か国語(英語、フランス語、スペイン語、中国語(簡)、中国語(繁)、韓国語)によるリーフレット「BUNRAKU Performance for Beginners」を作成し、無料配布。
- ・「Discover BUNRAKU－BUNRAKU for Beginners－」において、資料展示室で文楽の普及映像「文楽を楽しむ」の英語版「Enjoying Bunraku」を上映。(6/15)
- ・平成30年度の韓国語版とフランス語版に引き続き、「Introduction to BUNRAKU」のスペイン語版を作成、ロビー及び資料展示室に英語・中国語(簡)・韓国語・フランス語版とともに配架。
- ・「Discover BUNRAKU－BUNRAKU for Beginners－」において、2か国語(日本語・英語)による公演紹介リーフレットを作成し、観光案内所に配布。
- ・4月・夏休み・11月・初春の各文楽公演では、3か国語(英語・中国語(簡)・韓国語)によるあらすじパ

ンフレットを作成し、劇場内に配架。

(e) 国立劇場おきなわ

- ・英語版のチケット販売 WEB サイト(Confetti)の活用を開始し、外国のお客様の利便性向上を図った。
- ・10/19「はじめての組踊～Discover KUMIODORI～『執心鐘入』」の際に、オーディオガイド(4カ国語：英語、中国語、韓国語、日本語)を無料で貸出(多言語での操作説明ができる人員も配置)したほか、公演前には英語通訳のある組踊ワークショップを実施し、受付案内で外国人のお問合せにスムーズに対応できるようにロビーに英語通訳1名を配置した。
- ・外国人観客の来場時や電話での問合せに対応するため、多言語対応の電話通訳サービスを実施。
- ・3カ国語4言語(英語・中国語簡体字・中国語繁体字・韓国語)による自主公演の年間計画リーフレットを作成し、劇場内ほか、空港及び観光案内所等に配布した。
- ・「はじめての組踊～Discover KUMIODORI～」では、3カ国語(英語・中国語・韓国語)表記のチラシを作成・配布した。
- ・「はじめての組踊～Discover KUMIODORI～」では、前年度に引き続き、4カ国語(英語・中国語・韓国語・日本語)の多言語オーディオガイド機器を導入するとともに、4カ国語による音声同時解説及び英語通訳のある組踊ワークショップを実施、チケットカウンターには英語通訳者を配置した。
- ・日本語・英語の2言語版、日本語・中国語簡体字・中国語繁体字・韓国語の3言語版の2種類がある多言語パンフレット「琉球芸能と組踊」を館内展示室に常時設置した。また、展示期間中に「外国人のための組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI」の実施期間中に、第3回企画展「朝薫の五番」において、日本語・英語・中国語繁体字・韓国語の4言語の展示解説リーフレットを展示室に設置した。

(f) 新国立劇場

- ・2019/2020 シーズンより、全てのオペラ公演で英語の字幕表示を実施することとした。あわせて、プログラムを増頁して英語による作品解説・出演者プロフィールを掲載。(オペラ「蝶々夫人」「トゥーランドット」でも試行的に実施)
- ・演劇「あの出来事」で英語の字幕表示を実施した。
- ・演劇研修所の日英演劇アカデミー国際交流公演「怪物/The Monster」で英語の字幕表示を実施した。
- ・すべての主催公演で、海外からチケットを購入できる英語版 Web ボックスオフィスのサービス等を引き続き提供した。
- ・外国人利用者からの要望に応え、英語版 Web ボックスオフィスにおいて、12月よりオペラパレスでの公演を対象に座席選択機能の提供を開始。
- ・英語での対応ができる劇場案内スタッフを配置。
- ・公開空地展示「初台アート・ロフト」において、展示作品の解説文及び無料音声ガイドの英語での表記・提供を開始。
- ・2019/2020 シーズンより、オペラ、バレエ、ダンスの英語版ラインアップチラシを作成した。

⑤災害等への対応

- ・G20 開催(6/28～29)に合わせて警備を強化。(警備員の立哨)
- ・6館全館に令和元年台風第19号災害義援金募金箱を設置。
- ・文楽劇場11月文楽公演及び本館12月文楽公演期間中、一般社団法人人形浄瑠璃文楽座及び公益財団法人文楽協会と連携し、令和元年台風19号災害義援金の募金を文楽座技芸員と職員がロビーで観客に呼びかけた(11/2～24、12/3～15)。
- ・能楽堂の11月企画公演「組踊上演300周年記念 能と組踊」(11/28-29)、国立劇場おきなわに首里城火災復旧支援寄附金募金箱を設置。

■台風19号への対応

- ・台風19号接近のため、下記の公演を中止し、代金の払い戻しを行った。
10月歌舞伎公演(10/12、13公演)、10月中席公演(10/12、13公演)、
第434回国立名人会(10/12)、能楽堂普及公演(10/12)オペラ「エウゲニ・オネーギン」(10/12公演)、
演劇「どん底」(10/12、13公演)

■新型コロナウイルスへの対応

- ・2/28～3/31まで国立劇場、国立演芸場、国立能楽堂、国立文楽劇場、新国立劇場の主催公演は中止とし、伝統芸能情報館を閉館した。また、チケット代金の払い戻しを行った。
 - ◇3月歌舞伎公演(国立劇場小劇場、3/3～26)
 - ◇3月上席公演(国立演芸場、3/1～10)

- ◇ 3月花形演芸会(国立演芸場、3/7)
- ◇ 3月中席公演(国立演芸場、3/11～20)
- ◇ 3月国立名人会(国立演芸場、3/21)
- ◇ 企画展示「歌舞伎の四季」(伝統芸能情報館、2/28～3/31)
- ◇ 演芸資料展「落語の四季」(演芸場資料展示室伝統芸能情報館、2/28～3/31)
- ◇ 2月特別公演(国立能楽堂、2/29)
- ◇ 3月定例公演(国立能楽堂、3/4・3/19)
- ◇ 「第21回青翔会」<「第9期能楽研修修了発表会」部分のみ無観客で実施>(国立能楽堂、3/10)
- ◇ 3月普及公演(国立能楽堂、3/14)
- ◇ 3月特別企画公演<無観客で実施>(国立能楽堂、3/27～28)
- ◇ 収蔵資料展(能楽堂資料展示室、2/28～3/28)
- ◇ 浪曲名人会(国立文楽劇場小ホール、2/29)
- ◇ 3月上方演芸特選会(国立文楽劇場小ホール、3/11～14)
- ◇ 常設展示「文楽入門」(文楽劇場資料展示室、2/28～3/16)
- ◇ 琉球舞踊公演「男性舞踊家の会」(国立劇場おきなわ大劇場、2/29)
- ◇ 三線音楽公演「島唄の響き」(国立劇場おきなわ小劇場、3/14)
- ◇ バレエ「マノン」(新国立劇場オペラ劇場、2/29,3/1)
- ◇ オペラ「コジ・ファン・トゥッテ」(オペラ劇場、3/18,20,22,24)
- ◇ 現代舞踊「DANCE to the Future 2020」(新国立劇場小劇場、3/27～29)
- ◇ オペラ研修所修了公演「フィガロの結婚」<非公開の高度な舞台稽古を実施>(新国立劇場中劇場、2/28～3/1)
- ◇ バレエ研修所修了公演「エトワールへの道程 2020」<非公開の高度な舞台稽古を実施>(新国立劇場中劇場、3/7～8)
- ◇ 企画展「伝統花火-琉球・中国・近世日本-」(2/28～3/19)
- ◇ 伝統芸能情報館図書閲覧室・視聴室・国立演芸場資料展示室休室(2/28～3/31)
- ◇ 能楽堂資料展示室・図書閲覧室休室(2/28～3/31)
- ◇ 文楽劇場資料展示室・図書閲覧室休室(2/28～3/31)
- ◇ 国立劇場おきなわレファレンスルーム閉室(2/28～3/23,3/29～3/31)
- ◇ 公演記録鑑賞会(研究公演『『執心鐘入』と花火』)・第4回研究講座「琉球の花火を探る」(3/18)
- ◇ 新国立劇場 公演関連展示(情報センター、2/28～3/31)
- ◇ 新国立劇場情報センター休室(2/28～3/31)
- ◇ 新国立劇場舞台美術センター資料館休室(2/28～3/31)
- ・ 主催公演以外に下記のイベントも中止とした。
 - ◇ キャンパスメンバーズイベント(小劇場・伝統芸能情報館、3/7,16)
 - ◇ 日本学生支援機構観劇会(小劇場、3/4,20)
 - ◇ あぜくらの集い 三遊亭金時を迎えて(伝統芸能情報館、3/15)
 - ◇ 公演記録鑑賞会(伝統芸能情報館、3/14)
 - ◇ 能楽鑑賞講座(能楽堂大講義室、3/19)
 - ◇ 公演記録鑑賞会(国立文楽劇場小ホール、3/2)
 - ◇ 伝統芸能講座(文楽劇場小ホール、3/25)
 - ◇ 公演記録鑑賞会(国立劇場おきなわ大劇場、延期)
 - ◇ 公演記録映像上映会(新国立劇場舞台美術センター資料館、2/26,3/4,14,22)
 - ◇ 公演記録映像上映会(新国立劇場情報センター、3/15)
 - ◇ 大野和士 オペラ芸術監督による 2020/2021 シーズン演目説明会(2/26、ライブ映像配信に変更)
 - ◇ 吉田都 次期舞踊芸術監督による 2020/2021 シーズン演目説明会(2/29、後日映像配信に変更)
 - ◇ バレエ「マノン」クラスレッスン見学会(2/29,3/1)
 - ◇ 新国立劇場会社説明会(3/19)
- ・ 貸劇場公演の開催の可否は主催者の判断とした。
- ・ 1月末～2月の公演中止決定前は館内の消毒・換気、消毒液の設置、職員等のマスク着用を実施。
- ・ 3月21日企画公演「春時雨」(国立劇場おきなわ)は、上記の対策に加え、サーモグラフィー等で検温を実施するなどの措置を講じて開催した。

(a) 本館

- ・ 大劇場にて総務企画部、営業部、舞台技術部合同で、火災発報・非常放送鳴動テスト及び説明会を実施。

装置発動時の対応について、実地に発動させて装置及び IC 錠、エレベーターの連動について確認し検討。(5/29)

- ・舞台技術、劇場案内、入場券関係の職員、委託業者が参加する避難誘導訓練を大劇場で実施した。(7/11)
- ・大劇場の声明公演において、2020年オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向け、セキュリティ対策を強化・充実させるため、来場者の手荷物検査を試行的に実施した。事前周知により観客の協力を仰ぎ、当日は開場時間を通常より早め、誘導・案内要員を増員して、混乱なく開演時間前に終了した(2/15)。

(b) 演芸場

- ・花形演芸会において、2020年オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向け、セキュリティ対策を強化・充実させるため、来場者の手荷物検査を試行的に実施した。事前周知により観客の協力を仰ぎ、当日は開場時間を通常より早め、誘導・案内要員を増員して、混乱なく開演時間前に終了した(10/19)。

(c) 能楽堂

- ・自衛消防訓練を2回(9月・2月)実施し、職員、委託業者等、全職域が参加した。避難誘導等の実地訓練及び模擬消火器による消火訓練を行ったほか、9月には渋谷消防署原宿出張所隊員指導の下、「煙ハウス」を使用した体験訓練を実施し、職員等の防災の意識を高めることができた。
- ・2月には消防訓練に引き続き舞台安全会議を開催し、職員、委託業者等、全職域が参加して、公演中の火災事故緊急時の対応について、劇場火災を体験した舞台関係者から講話してもらい、舞台運営上の防火・防災・安全対策について確認・検討した。
- ・原宿警察署による「原宿パートナーシップテロ対策合同訓練」(原宿駅におけるテロの未然防止と協働対処体制についての合同訓練)を実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止となった。(3/12)

(d) 文楽劇場

- ・団体観劇の高校生と教職員(計288人)の参加協力を得て避難誘導訓練を行った。併せて職員、委託業者社員及び出演中の文楽座芸員で消火器・AED使用訓練を実施。(6/11)
- ・職員及び委託業者社員が消防署提供のビデオを鑑賞し消防活動について学んだあと、避難誘導訓練を行うとともに、非常用備蓄品の保管場所と保管状況を実地で確認した。(2/27)

(e) 国立劇場おきなわ

- ・職員や委託業者等、全職域が参加する自衛消防訓練を実施し、避難や消火器の取扱い等について実地訓練を実施。(6/17、12/10)
- ・浦添警察署と連携し不審者対策訓練を実施。警察音楽隊の公演中に不審者がホワイエで暴れる想定で、地域自治会員約50人が観客として参加。通報訓練、不審者対処訓練、避難誘導訓練を行った。(9/18)

(f) 新国立劇場

- ・観客参加型の避難訓練「第4回避難体験オペラコンサート」を、小劇場に会場を移して開催した(9/18、参加者約350人)。
- ・老朽化した火災報知設備、非常放送設備、泡消火設備等の更新を行った。
- ・避難路を確保する非常照明用の直流電源盤及び蓄電池の更新を行った。
- ・老朽化した誘導灯の更新を行い、LED化を進めた。
- ・稽古場エリアで、外部の関係者を想定した防災訓練を行った。

イ 多様な購入方法の提供

- ・チケットセンターHP内に各館の親子企画を紹介する特設サイトを設置し、振興会トップページに目立つバナーを掲載して誘導した。
- ・親子を対象とする公演のインターネット販売では、本館・演芸場・能楽堂の各公演は、会員及び一般発売に先行して発売。
- ・国立劇場では、9月文楽公演で「嬢景清八嶋日記」の「花菱屋」「日向嶋」を上演し、文楽・歌舞伎で同作品を上演するという国立劇場ならではの特色を生かし、「日向嶋」ダブル観劇キャンペーンを実施し、美濃和紙の一筆箋をプレゼント。(9月文楽、11月歌舞伎)
- ・国立劇場の公演として初めて幕見席の販売を実施した。(11月歌舞伎)
- ・文楽劇場の夏休み文楽特別公演第一部「親子劇場」では、親子セット券を一般発売に先行して発売。
- ・文楽劇場の各文楽公演では幕見席を販売(夏休み文楽特別公演第一部を除く)。
- ・国立劇場おきなわでは多言語電話通訳サービスを提供。(通年)

《親子を対象とする公演の販売に関するデータ》

公演名	公演期間	購入方法	先行発売日	予約件数	販売枚数	総入場者数
親子で楽しむ歌舞伎教室	7/19～24	インターネット	5/25	4,504 件	13,356 枚	16,401 人
		電話	5/26	806 件	2,303 枚	
親子で楽しむ舞踊・邦楽	7/6	インターネット	4/28	141 件	366 枚	567 人
		電話	4/29	18 件	40 枚	
親子で楽しむ演芸会	7/28	インターネット	5/27	70 件	204 枚	292 人
		電話	5/28	21 件	80 枚	
夏休み親子のための能の会	8/3	インターネット	5/28	199 件	543 枚	625 人
		電話	5/29	23 件	66 枚	
夏休み親子のための狂言の会	8/24	インターネット	5/28	193 件	524 枚	625 人
		電話	5/29	26 件	64 枚	
文楽親子劇場	7/20～8/5	インターネット	6/2	359 件	1,126 枚	7,388 人
		電話	6/3	87 件	252 枚	
親子のための組踊鑑賞教室	7/27	親子先行なし	-	-	-	543 人

《新国立劇場の取組》

- ・若年層向けの特別優待制度である U25 優待メンバーズ、U39 オペラ優待メンバーズに対し、適時「フレンズキャンペーン」を実施し、U25 優待メンバーズ等の登録者が未登録の友人等を勧誘し未登録の友人等も優待価格で購入できる機会を提供。
- ・U15 ファミリー優待メンバーズに向け、先行販売を実施していない公演に関しては、直前に特別優待料金での販売を行った。
- ・すべての主催公演について、過去に、一般・会員問わず Web 購入登録を行い、かつ新国立劇場からの DM 送付を許可している顧客に対し、先行販売を実施。
- ・オペラ、バレエ、現代舞踊のシーズンセット券及び演劇の 2～3 作品通し券を販売した。また、シーズンセット券において他ジャンルのおすすめ公演のオプション販売を行い、顧客に対して幅広いジャンルの鑑賞を提案し、販売促進に努めた。
- ・「夏のこども劇場セット」として、こどものためのバレエ劇場「白鳥の湖」及び現代舞踊「NINJA」の 2 作品を子ども連れが割引購入できるセット販売を行った。チラシ及び特設サイトを作成して親子で楽しめる内容であることをアピールするとともに、子ども連れが購入しやすいセット料金を設定することで、多数の申込みを得た。

ウ 公演内容等の理解促進のための取組

①解説書等の作成

(a) 本館

- ・各公演において、公演内容に応じた解説書を作成。
- ・歌舞伎鑑賞教室、文楽鑑賞教室において、来場者全員に解説書及び読本（初心者向けガイドブック）を無料配布。
- ・歌舞伎・文楽公演の解説書（有料）及び 5 月特別企画公演の解説書（無料）に英文あらすじを掲載し、舞踊や邦楽等の短期公演では英文リーフレット（無料）を配布。
- ・「Discover KABUKI—外国人のための歌舞伎鑑賞教室—」、「Multilingual Week」及び「Discover BUNRAKU—外国人のための文楽鑑賞教室—」において、あらすじ等を記載した 7 言語（日本語・英語・中国語（簡体字・繁体字）・韓国語・スペイン語・フランス語）によるプログラムを無料配布。
- ・10 月歌舞伎公演において、多言語ポータブル字幕機利用者には歌舞伎の概要及び演目を紹介する 4 言語のプログラム（英語・中国語（簡体字・繁体字）・韓国語）を無料配布。
- ・11 月歌舞伎公演における幕見席の利用者向けに、演目全体のみどころ・すじがきを記載したリーフレットを日本語・英語の 2 種類作成し、無料配布。
- ・12 月歌舞伎公演において、「蝙蝠の安さん」のみを上演する「Chaplin KABUKI NIGHT」に、写真を通常版よりも多く掲載した特別プログラムを作成・販売。

(b) 演芸場

- ・出演者の顔写真や略歴を掲載した公演ガイドを毎月作成し無料配布。
- ・11月特別企画「正蔵 正蔵を語る」及び「芸術祭寄席」において別途解説パンフレットを作成し、いずれも無料配布した。

(c) 能楽堂

- ・公演内容に応じて特集を組み、カラー写真や図版を挿入するなど、工夫を凝らした解説書を毎月作成した。5月29日・10月31日の「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」において、日本語に加え、英語・中国語(簡)・韓国語・フランス語・スペイン語に翻訳した解説書を作成し、無料配布した。6月24日から同月28日まで開催した「能楽鑑賞教室」において、解説書に漫画によるあらすじ解説を掲載し、公演内容の理解促進を図った。

(d) 文楽劇場

- ・「上方演芸特選会」を除く各公演において解説書を作成。うち、6月文楽鑑賞教室、5月舞踊・邦楽鑑賞会、5月浪曲錬声会、2月浪曲名人会は無料配布とし広く公演内容を周知した。(2月浪曲名人会は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため公演中止)
- ・文楽鑑賞教室において、来場者全員に写真を多く用いたカラー版の「文楽入門」を無料配布。
- ・「Discover BUNRAKU—BUNRAKU for Beginners—」において、あらすじ等を掲載した6か国語(英語、フランス語、スペイン語、中国語(簡)、中国語(繁)、韓国語)によるリーフレット「BUNRAKU Performance for Beginners」を作成し、無料配布。
- ・「Discover BUNRAKU—BUNRAKU for Beginners—」において、資料展示室で文楽の普及映像「文楽を楽しむ」の英語版「Enjoying Bunraku」を上映。(6/15)
- ・平成30年度の韓国語版とフランス語版に引き続き、「Introduction to BUNRAKU」のスペイン語版を作成、ロビー及び資料展示室に英語・中国語(簡)・韓国語・フランス語版とともに配架。

(e) 国立劇場おきなわ

- ・公演解説書ステージガイド「華風」(月刊)を作成。
- ・「社会人のための組踊鑑賞教室」「親子のための組踊鑑賞教室」「組踊鑑賞教室」「沖縄芝居鑑賞教室」「琉球舞踊鑑賞教室」でイラスト入りの初心者向けのパンフレットを作成し、無料配布。
- ・企画公演「アジア・太平洋地域の芸能『昆曲』」で、特別リーフレットを配布。
- ・日本博事業を活用した琉球舞踊公演「春夏秋冬を舞う」、企画公演「新作組踊『春時雨』」の2公演で、英字解説リーフレットを配布。

(f) 新国立劇場

- ・すべての主催公演について公演解説書(プログラム)を作成。うちバレエ・現代舞踊公演は無料配布とした。
- ・普及公演においては、対象とする年齢層にあわせて、ビジュアルを多用して作品のあらすじや鑑賞のポイント等を分かりやすく解説した公演解説書を無料配布した。
- ・公演プログラムに英文に公演クレジットとよるあらすじ解説を掲載。オペラ公演では2019/2020シーズンより増頁にて全てのプログラムに英語による作品解説・出演者プロフィールを掲載した。
- ・新国立劇場バレエ団シーズンプログラム(有料)を別途作成、ラインアップ演目に関連する解説のみならずダンサー情報を充実させて観客の要望に応えた。

②音声同時解説・字幕表示

(a) 音声同時解説サービスの実施

- ・歌舞伎の全公演で、2か国語(日本語・英語)による音声同時解説サービスを実施。
- ・歌舞伎鑑賞教室では、6月は、全日2か国語(日本語・英語)。Discover KABUKI(17・18日)では、6か国語(日本語・英語・中国語・韓国語・スペイン語・フランス語)の音声同時解説(無料)。19~24日は、Multilingual Weekとして、6か国語(日本語・英語・中国語・韓国語・スペイン語・フランス語)の音声同時解説(有料)を実施。
- ・文楽の全公演で、2か国語(日本語・英語)による音声同時解説サービスを実施した(文楽鑑賞教室は日本語版のみ。本館社会人では日本語・英語実施)。
- ・文楽鑑賞教室「Discover BUNRAKU—BUNRAKU for Beginners—」において、2言語による音声同時解説

を提供した。

- ・ はじめての組踊～Discover KUMIODORI～では、4言語(英語・中国語・韓国語・日本語)による音声ガイドを提供した。

(b) 字幕表示の実施

ジャンル	実施公演数	内 訳
歌舞伎公演(鑑賞教室含む)	2公演	6月鑑賞教室、7月鑑賞教室
文楽公演(鑑賞教室含む)	10公演	全公演
舞踊・邦楽・声明・民俗芸能・特別企画公演	17公演	8月舞踊公演(2公演)、11月舞踊公演
		6月邦楽公演、10月邦楽公演(2公演)、1月邦楽公演
		11月雅楽公演
		9月声明公演、2月声明公演
		7月民俗芸能公演、1月民俗芸能公演
		4月舞踊・邦楽公演、5月特別企画公演、6月特別企画公演、7月〈伝統芸能の魅力〉公演(2公演)、
能楽公演(鑑賞教室含む)	50公演	蠟燭能を除く全公演
組踊等沖縄伝統芸能公演(鑑賞教室含む)	24公演	6月企画公演「語り組踊『恋し子の方星』」、10月研究公演「御冠船踊と組踊『執心鐘入』」「御冠船踊と組踊『銘苺子』」、11月企画公演「国立劇場寄席」及び新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止となった2公演を除く全公演
オペラ公演	10公演	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止となった1公演を除く全公演
演劇公演	1公演	「あの出来事」
研修公演	1公演	日英演劇アカデミー国際交流公演「怪物/The Monster」

- ・ 「Discover KABUKI」「Discover BUNRAKU」で英語字幕を実施した。
- ・ 歌舞伎公演(ポータブル字幕)1公演、10月歌舞伎(多言語ポータブル字幕による多言語対応を実施。英語、中国語(簡体字・繁体字)、韓国語4言語)
- ・ オペラ公演(「蝶々夫人」「トゥーランドット」及び2019/2020シーズン以降)、演劇公演、研修公演では英語の字幕も表示した。

③公演内容の事前説明会等の実施

(a) 公演説明会等の実施

	公演説明会		施設見学		バックステージツアー	
	件数	参加人数	件数	参加人数	件数	参加人数
本館・演芸場	112件	5,452人	4件	85人	52件	1,615人
能楽堂	14件	635人	8件	78人	32件	867人
文楽劇場	57件	1,497人	3件	97人	-	-
国立劇場おきなわ	7件	136人	30件	858人	2件	121人
新国立劇場	8件	2,866人	34件	528人	17件	865人
合計	198件	10,586人	79件	1,646人	103件	3,468人

(国立劇場おきなわ)

- ・ 7月親子のための組踊鑑賞教室「女物狂」及び8月琉球舞踊鑑賞教室において、チケット購入者限定で参加できる劇場バックステージツアーを実施。(参加者：8/3 75人、8/4 46人)
- ・ 6月組踊鑑賞教室「二童敵討」、組踊「花売の縁」及び8月新作組踊「花の幻」「花よ、とこしえに」、10月御冠船踊と組踊「銘苺子」、2月組踊「伏山敵討」において、旅行会社と連携して組踊鑑賞ツアーを実施(参加者：79人)。
(新国立劇場)
- ・ バレエ「シンデレラ」において、中学生以下の子供連れを対象とした「こどもバックステージツアー」を実施した。子供連れが参加しやすいよう通常のバックステージツアーよりも短時間に設定して子供は参加費を無料とすることで計120名の参加を得て、子どもたちの舞台芸術への興味関心を喚起する

ことができた。(5/3、4)

- ・大野オペラ芸術監督がピアノを弾きカヴァー歌手の歌唱を交えながら「トゥーランドット」の魅力を解説する「大野和士のオペラ玉手箱 with Singers Vol.2『トゥーランドット』」を開催(6/29、オペラ劇場、851名、有料)。休憩込み2時間近い長尺でじっくり解説して好評を博し、後日Youtubeにダイジェスト版を配信して多くの視聴を得た。
- ・オペラ「エウゲニ・オネーギン」演出家(ドミトリー・ベルトマン)をゲストにオペラトークを開催。演出家自身による作品コンセプトの解説やカヴァー歌手による歌唱等、充実した内容で観客の理解促進と公演に対する期待感醸成を図った。また、後日YouTubeにダイジェスト版を配信した。(9/23、オペラ劇場ホワイエ、215名、有料)
- ・世界初開催されたWorld Opera Dayに新国立劇場も参加し、オペラ研修所修了生を中心としたオペラユニット“SOTTAKU(そったく)”によるオペラ・コンサートを開催した。世界各国のオペラハウスと協調してオペラの素晴らしさを称えるとともに、社会におけるオペラの力、価値をアピールした。(10/25、オペラ劇場ホワイエ、174名、無料)
- ・オペラ部門及び舞踊部門において、芸術監督がラインアップの見どころを解説する「2020/2021 シーズン演目説明会」を企画した。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、やむを得ずいずれも開催を取りやめたが、代わりに映像で配信することとした。
- ・引き続き、演劇公演でシアタートークを開催した(台風19号の影響により中止した「どん底」を除く6演目)。演出家や主な出演者が制作過程の逸話等を紹介し、舞台への興味関心を喚起した。
- ・引き続き、演劇公演で公演ガイドツアーを開催した(全7演目)。各公演の制作担当プロデューサーが公演中の劇場にて舞台美術の説明や開幕に至るまでの足跡等を解説した。
- ・上記施設見学のほか、新国立劇場では11か国20団体42名の外国からの訪問者受入れを行った。
- ・オペラ及びバレエの一部演目において、カード会社やプレイガイド、一般団体に対して初心者向けレクチャーと組み合わせたチケット販売を提案し、公演スタッフ等が開演前に鑑賞のポイント等を解説することで、新たな観客層の獲得と公演内容の理解促進を図った。

(b) 劇場外での公演説明会等の実施

i. 伝統芸能分野

- ・本館では、歌舞伎鑑賞教室静岡公演の事前レクチャーを、県内の小中学校2か所(4回、参加者数315人)と公演の会場である静岡県コンベンションセンター・グランシップ(主に大学生向け)で実施し、制作担当職員を講師として派遣した。
- ・国立劇場おきなわでは、「組踊ワークショップ」を兵庫県(西宮市)、長野県(松本市)、岡山県(岡山市)、神奈川県(茅ヶ崎市)で実施した。普段、組踊に触れる機会が少ない県外の方を対象に、沖縄の伝統芸能の知識を得る機会を提供した(4カ所、参加者数205人)。県内の小中高等学校においても、伝統芸能の魅力を親しみやすく感じていただけるよう、入門編のワークショップを実施した(8回、参加者人数2,057人)。また、12月パリ公演時には、国際交流基金パリ日本文化会館や学校においてワークショップを実施し、海外の方へも沖縄の伝統芸能を発信することができた。(3回、参加者数合計78名)

ii. 現代舞台芸術分野

- ・子供の日に親子で参加するイベント「芸術体験ひろば」(5/5、主催：日本芸能実演家団体協議会、会場：芸能花伝舎)に参画。演劇研修所第13期生と子供たちが体を動かしながら演劇の魅力をさぐる体験教室を開催した(2回、51名)。
- ・チケット購入団体に対して職員によるオペラ・バレエ公演の事前レクチャーを実施した。
- ・国内外から多数の観光客が訪れる観光スポットである「東京スカイツリー ソラマチ」にて、「新国立劇場 舞台美術展で巡るオペラ・バレエの世界 ~Opera&Ballet Stage Set&Design Exhibition~」を開催した。舞台装置模型及び衣裳を展示するとともに、オペラ研修所修了生を中心としたオペラユニット“SOTTAKU(そったく)”によるミニ・コンサートを開催した。解説を日英2ヶ国語で記載し、インバウンド観光客にも対応した。(2/22~24、1,840名)
- ・芸術鑑賞を行う学校団体等(オペラ鑑賞教室含む)のニーズに対応して、鑑賞の事前学習として複数の学校を訪問し、職員によるレクチャーを実施。またバレエ「ロメオとジュリエット」では希望のあった高校を主役ダンサーが訪問し、実演付きレクチャーを行った。

エ 意見・要望等の把握とサービス向上への活用

①意見・要望等への対応体制

(a) 振興会

- 各館に寄せられた観客の意見・感想・要望については、より迅速な対応を図るとともに、対応状況の把握と、職員や案内業務委託業者への周知のほか、各館で情報共有し、サービスの向上・改善に活用するよう努めている。

(b) 国立劇場おきなわ

- 観客の意見・感想・要望については、関係部署間で情報共有し、サービスの向上・改善に活用するよう努めている。

(c) 新国立劇場

- アンケート結果については、関係部署間で共有した。また、来場者アンケートに記載された観客の声のうち、掲載を許可されたコメントについて、HPに掲載した。
- 意見・要望については、委託業者も交えて必要な対応を行い、提供するサービスの質の向上に努めた。
- 主催公演において、公演会場に職員が劇場支配人として立ち会い、委託業者・観客と直接コミュニケーションを図るとともに、不測の事態に常に備えた。

②意見・要望等への対応状況

	劇場内ご意見箱		メールによるご意見	
	受付件数	回答件数	受付件数	回答件数
本館	50件	45件	362件	154件
演芸場	19件	10件		
能楽堂	42件	4件		
文楽劇場	50件	21件		
国立劇場おきなわ	11件	1件	2件	0件
新国立劇場			362件	154件
合計	172件	81件	558件	271件

《主な対応・改善例》

- 国立能楽堂では、お客様からのご意見に対応し、能楽初心者および海外からのお客様に声がけし、演能中のマナーについて周知するよう努めた。
- 国立文楽劇場では、観客からのご意見に対応し、トイレに小物用の棚を設置。
- 国立劇場おきなわでは、開演前の待機・休憩スペースが少ないとの要望を受け、カフェ閉店時にテーブル・椅子のあるエリアを開放した。
- 新国立劇場では、外国のお客様から、「チケット購入の際に席を選択できるようにしてほしい」という要望が多く寄せられたため、ぴあ株式会社に依頼し、インターネット上の英語版チケット発売サイトに、座席選択機能を追加した。
- 新国立劇場では、演劇「骨と十字架」上演時に、「情報センターで、台本の閲覧希望者が込み合って、読むことができない」という意見が寄せられたため、複数冊を配架するようになった。

2 - (6) 広報・営業活動の充実

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(6) 広報・営業活動の充実

幅広く多くの人が鑑賞することを目標とする、一層効果的な広報・営業活動、

ア 公演内容に応じた効果的な宣伝活動

振興会各種事業に関する広報の充実、ホームページ等を活用した最新情報の随時提供

イ シーズンシートの拡充、会員に向けた各種サービスの提供、外国人向けの広報・営業、潜在的なニーズの把握、関係機関との連携等、観客の需要を的確に捉えた営業活動の展開

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(6) 広報・営業活動の充実

ア 効果的な広報・営業活動の展開

①公演内容に応じて、記者会見・取材等によるマスメディアを通じた広報や、インターネット広告等の多様な媒体を活用し、広報活動を効果的に実施

②振興会各種事業に関する広報の充実、ホームページ等を活用した最新情報の随時提供

(a)ホームページについて、各種情報の早期掲載及び内容の充実、アクセス動向等の分析

(b)SNS やメールマガジンによる公演等の情報の随時配信

(c)外国語版のホームページやパンフレット等の充実を図り、外国人に対する情報発信を効果的に実施

(d) beyond2020 プログラム等へ参加し、国内外に向け振興会各種事業の情報発信及び周知を実施

③振興会各種事業に関する広報誌を次のとおり発行

・日本芸術文化振興会ニュース(毎月発行)

・国立劇場おきなわ情報誌「華風」(毎月発行)

・新国立劇場情報誌「ジ・アトレ」(毎月発行)

④シーズンシートやセット券等の企画・販売、各種キャンペーンの企画・実施

⑤団体観劇促進のため、公演内容に応じた営業活動を展開、旅行代理店・ホテル等との連携強化

⑥若年層の観客増を図るため、大学等を対象とする会員制度「国立劇場キャンパスメンバーズ」を運営、サービスの提供、会員校の増加及びサービスの拡充に努める

⑦全職員が積極的に団体観劇を勧誘する「おすすめキャンペーン」を引き続き実施

イ 個人を対象とする会員組織の会員に対し、会報等による情報提供を定期的実施

入場券の会員先行販売や会員向けイベント等の各種サービスを提供

アンケート調査の結果等を、会員向けサービスの充実に活用

①あぜくら会(本館・演芸場・能楽堂)

・会報「あぜくら」(毎月発行)

・会員向けイベント(年 8 回程度)

②国立文楽劇場友の会

・「国立文楽劇場友の会会報」(年 6 回発行)

・会員向けイベント(年 4 回程度)

③国立劇場おきなわ友の会

・「国立劇場おきなわ友の会会報」(年 4 回発行)

・会員向けイベント(年 3 回程度)

④クラブ・ジ・アトレ(新国立劇場)

・会報「ジ・アトレ」(毎月発行)

・会員向けイベント(年 12 回程度)

ア 効果的な広報・営業活動の展開

①多様な媒体を活用した効果的な広報活動

- ・ポスター、チラシ、HP、メール、SNS(Twitter、Instagram、Facebook、YouTube)、会報誌・広報誌での広報、新聞・雑誌等への公演情報掲載等で公演情報の周知拡大を図り、一般の集客に努めた。
- ・マスコミ各社を招いて、出演者・関係者の取材会(記者会見)、舞台稽古の取材、ゆかりの地での取材会等を実施。
- ・文化庁HP内の令和元年度(第74回)文化庁芸術祭専用ページに6劇場すべての文化庁芸術祭主催公演、協賛公演の公演情報を掲載。

(a) 本館

- ・「親子で楽しむ歌舞伎教室」専用チラシを作成。東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県の小中学校及び教育委員会に送付等(1,115,000枚)
- ・出演者による取材会(記者会見)を実施し、公演の趣旨や出演者の意気込み等について取材する機会を設けた。
- ・取材会の様子をまとめた動画や、出演者のメッセージ動画、過去の公演記録を活用した演目の紹介動画などを振興会ホームページのトピックスに掲載するとともにYouTubeにも掲載し、訴求を図った。
- ・歌舞伎公演、文楽公演(鑑賞教室、12月文楽を除く)について、売出日の前日ごろに、一般紙6紙(朝日、読売、毎日、日経、産経、東京)に半2段の新聞広告を出稿した。また、歌舞伎公演(10月、11月、12月、初春)について、初日の1週間程度前の時期に新聞広告を出稿した(10月：朝日朝刊全15段、11月：読売朝刊全5段、12月：毎日朝刊全15段、初春：朝日朝刊全5段)。
- ・歌舞伎公演、文楽公演について、演劇関係雑誌「演劇界」に各公演前月に広告を出稿した。
- ・歌舞伎公演(10月、11月、12月、初春、3月)、文楽公演(5月、9月、2月)について、特設Webサイトを作成し、インターネット上での訴求を図った。また、当該サイトに誘引するWeb広告(DSP広告)を展開した。
- ・6月歌舞伎鑑賞教室 Discover KABUKI、12月文楽鑑賞教室 Discover BUNRAKU では、振興会ホームページ内に英語による特設ページを作成し、外国人向けの情報発信を行った。
- ・歌舞伎公演、文楽公演を中心に、Twitter、Instagram、YouTube に投稿を行い、SNSによる広報に努めた。
- ・他劇場で行われる公演でのチラシの折り込み配布を、代理店を通して適宜適時に行った。
- ・6月歌舞伎鑑賞教室の Discover KABUKI、12月文楽鑑賞教室の Discover BUNRAKU、10月歌舞伎公演で、ラジオ AFN(American Forces Network Pacific：在日米軍を対象とした横田軍基地内でのラジオ放送)で公演案内が放送された。
- ・近松半二を題材とした小説「渦」(大島真寿美作)を出版する株式会社文藝春秋と連携し、広告の掲出(雑誌「オール讀物」3月号に5月文楽・9月号に9月文楽の広告を掲出、5月・9月文楽公演解説書に小説「渦」の広告を掲出)、特設サイトへのバナー掲出、Twitterへの投稿など、相互展開を行った。
- ・9月文楽公演第2部『嬢景清八嶋日記』と11月歌舞伎公演『孤高勇士嬢景清』の両方をご観劇のお客様に、美濃和紙の一筆箋をプレゼントする「日向嶋」ダブル観劇キャンペーンを実施した(配布数：1,009組)。
- ・12月歌舞伎公演で、12/11、チャールズ・チャップリン四男のユージーン・チャップリン氏が、「近江源氏先陣館」と「蝙蝠の安さん」を観劇。終演後、舞台上で松本幸四郎と対面し、「蝙蝠の安さん」の囲み取材を実施した。
- ・平成31年国立劇場さくらまつりを実施(2019/3/20~4/7、国立劇場前庭、無料。舞台衣裳体験コーナーを設置、開場以来初の夜間ライトアップを実施、集客効果の高い企画を新たに実施することにより、来場者は例年に比べ大幅に増加、来場者数：48,003人)。
- ・令和2年国立劇場さくらまつり(2020/3/20~4/6、国立劇場前庭)は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止(3/11にホームページで告知)。
- ・エフエム江戸川、中央エフエムなど地域コミュニティーFMラジオ局の番組で、定期的に国立劇場の公演情報を発信。

(b) 演芸場

- ・国立演芸場以外の公演で、チラシを配布し公演の周知を行った。(4/27 渋谷に福来る、4/14・17 渋谷らくご、4/14 柳亭市馬独演会、4/20 練馬区民寄席、4/28・10/5 大手町落語会、4/27・8/23 下丸子らくご倶楽部、5/6 鯉昇・馬石二人会、5/18・11/21 三越落語会、5/18・6/17・7/16・11/25 紀伊國屋寄席、

5/21・8/15・11/21 南大塚落語会、5/20 道楽亭出張寄席、7/13～14 円朝祭、7/18 聴きたい三人会、8/1 文治・喬太郎・桃太郎三人会、8/15 新作お盆寄席、8/31 圓橘の会、9/9 江戸川落語会、9/13 なかのらくご長屋、9/27 にほんばし落語会)

- ・新聞等の取材(4/2 読売新聞、4/11 日本テレビ、4/19 東京かわら版、4/21 読売新聞、6/17 新潮社、6/22BS11、8/11 囲み会見(一般紙・スポーツ紙・TV 各局)、8/14 報知新聞、8/15 時事通信、8/20 スポーツニッポン、9/9 テレビ朝日、9/28 演芸ワークショップ取材(共同通信・東京新聞・BS-TBS)、11/11 読売新聞、11/11 日本テレビ、11/23 読売新聞、1/20 東京かわら版、2/18 東京かわら版)
- ・演芸場 2 階ロビーに「平成 30 年度国立演芸場花形演芸大賞受賞者」の看板を掲示し、来場者に各受賞者及び花形演芸大賞制度を周知。(4 月～)
- ・国立劇場さくらまつり期間中において、上席公演の購入来場者到手ぬぐいプレゼントを実施。
- ・林家正蔵 1 日消防署長において 4 月上席ポスターパネルを作成、掲示。
- ・4 月中席は「桂歌丸追善」。ロビーで歌丸師思い出のパネル展を行い、ゆかりの品々も展示。
- ・7 月上席真打昇進披露興行について、落語芸術協会と連携し各席亭との合同チラシを配布(4,000 枚)
- ・11 月上席・中席とも真打披露公演のため、昇進者が出演する他の 5 座との共同制作チラシ・ポスターを作製。
- ・3 月中席は落語芸術協会真打昇進襲名披露公演のため、昇進襲名者が出演する他の 5 座との共同制作チラシ・ポスターを作製。(国立演芸場は公演中止となった。)
- ・令和 2 年 1 月「新春国立名人会」よりチラシ・ポスターに公演名英語表記記載。
- ・新聞や「東京かわら版」等へ広告掲載。
- ・定席公演ではスタンプラリーを引き続き実施し、粗品の種類を増やし、リピーターによる継続的な鑑賞が行われるよう努めた(1 回の鑑賞でスタンプを 1 回押し、スタンプ 5 回で粗品進呈)。また夜公演の鑑賞者にはスタンプを 2 回押しして販売促進に努めた。
- ・6・7 月定席公演において「スタンプラリー 夏のスタンププラス 1 特別キャンペーン!」を開催した。
- ・12 月上席において(12/7)キャンパスメンバー参加大学の学生に向け落語入門レクチャーを行った。

(c) 能楽堂

- ・チラシ・ポスターの作成・配布、千駄ヶ谷駅(12/16 まで、以降は東京メトロ「北参道駅」、都営地下鉄「国立競技場駅」)へのポスター掲出、新聞・雑誌等への公演情報掲載、取材対応等の通常の広報に加え、振興会 HP にトピックス情報を随時掲載した。
- ・「外国人のための能楽鑑賞教室」(5 月・10 月)、「能楽鑑賞教室」(6 月)において、特別チラシを作成し、首都圏の中学・高校・大学や観劇団体に送付した。
- ・毎月のチラシ・ポスターに加え、特別チラシ・ポスターを作成・配布し公演の宣伝につとめた。(11/22 定例公演、12/20 定例公演、11/28・29 企画公演、3/27・28 特別企画公演)
- ・8/30 企画公演の特集・博奕に因み、講談・落語の上演があることから、「東京かわら版」(7 月号)に本公演の広告を掲載した。月間特集・近代絵画と能に因み「芸術新潮」(2020 年 1 月号 12/25 発売)に 2 月公演(2/5 定例公演、2/8 普及公演、2/13 定例公演及び 2/29 特別公演)の広告を掲載した。
- ・12/25 企画公演<復曲再演の会>団体特別チラシ 3,000 枚を作成し、団体及び一般客の集客の為に配布・掲出した。
- ・上記チラシ作成のため、氷川まりこ氏が片山九郎右衛門氏(シテ方観世流)に京都観世会館でインタビューした模様を国立能楽堂 HP に掲載した。(9/24)
- ・新聞等の取材(13 件、デジタル毎日 9/5、10/15、1/1(前編)、1/1(後編)、読売新聞 8/13 夕刊、9/24 夕刊、2/25、東京新聞 4/26 夕刊、6/28 夕刊、9/27 夕刊、1/24 夕刊、徳島新聞(共同通信配信)9/30、朝日新聞 11/9 夕刊)を行った。
- ・8/3、8/24 の子供向け企画公演では、新宿区内の児童館等に特別チラシを配布した。また、親子に関する情報サイト「ココフル(Cocoful)」に公演情報を掲載したほか、「夏休みは親子で伝統芸能」(朝日おおかさん新聞 6/20)及び系列の朝日こども新聞の LINE にも公演情報を掲載した。婦人向け雑誌ミセス 8 月号のホットニュース欄に公演情報を掲載した。国立能楽堂ホームページでは「親子で楽しむ能の会/狂言の会と国立能楽堂ショーケースでの、お子様向けプレゼント!」(7/6 にアップ)というトピックスを作成し、広報に努めた。
- ・8/30 企画公演で、道南食品株式会社の協力を得て、入場者全員に〈特集・博奕「狸賽」〉に因んだ、「北海道サイコロ®キャラメル」を配布した。関利也社長も来場し、同社の Facebook にも公演情報が掲載された。

- ・9/20 定例公演で、能「蟬丸」上演に因み滋賀県東京事務所の幹旋により大津市、同観光協会が来場、所縁の関蟬丸神社橋本匡弘宮司らとともに滋賀県、大津市の観光資料を入場者に配布しながら、広間で特産品の販売を行った。
- ・10/25 企画公演で、能「望月」上演に因み滋賀県東京事務所の幹旋により守山市、同観光物産協会が来場、滋賀県、守山市の観光資料を入場者に配布しながら、広間で特産品の販売を行った。
- ・8/25 国立能楽堂ショーケース、8/30 企画公演、1/30 企画公演及び2/5 定例公演について、小田急まなたび(小田急ポイントカード会員組織)による委託販売を昨年を引き続いて行い、夏季及び冬季に小田急電鉄の駅でポスター100枚、延べ3,000両の車内に中吊り広告を無料掲出し集客に努めた。
- ・津田塾大学・梅五輪プロジェクト主催の「梅五輪おもてなしイベント」(11/1~30 まで、東京シティアターミナル2階『毎日が旅行博』会場で開催)に令和2年度「能楽鑑賞教室、国立能楽堂ショーケース及びDiscover NOH & KYOGEN 合同リーフレット」及び「能楽第11期研修生募集案内」を設置するとともに、「梅五輪おもてなしイベント」の様子を国立能楽堂HPのトピックス欄で紹介(11/19)した。

(d) 文楽劇場

- ・国立文楽劇場開場35周年プレイベント「文楽と落語で楽しむ忠臣蔵」を開催(4/5)。出演の落語家により毎日放送テレビの情報番組で紹介。
- ・国立文楽劇場開場35周年記念公演キャンペーンとして、「仮名手本忠臣蔵 観劇ラリー」を実施。4月、夏休み、11月の3公演にわたって上演する開場35周年記念公演「通し狂言 仮名手本忠臣蔵」を全て購入されたお客様に記念品を贈呈。
- ・記念公演にあたり振興会ホームページに動画、まんが、文化デジタルライブラリーの舞台芸術教材等により「通し狂言 仮名手本忠臣蔵」の内容を紹介する特集ページを作成。
- ・「仮名手本忠臣蔵」のゆかりの地である赤穂市と広報で連携。
- ・商業施設「グランフロント大阪」での「うめだ文楽×Mercedes me×国立文楽劇場コラボラッピングカー」の企画展示において、民放各社、メルセデス・ベンツ日本株式会社と連携協力し、除幕式に参加。また、4月文楽公演でラッピングカーのモデルカーを国立文楽劇場ロビーに展示。
- ・上演演目ゆかりの地の自治体、教育委員会、文化施設、商工会議所等関係団体に対し、DM発送等の団体勧誘の実施及びチラシ・ポスターの配架・掲示を依頼。
- ・公益財団法人文楽協会やOsaka Metro、JR西日本、在阪私鉄各社の協力を得て、タイアップポスター、壁面広告、車内中吊り広告等の交通広告を利用して、一般の集客に努めた。
- ・夏休み文楽特別公演第三部「国言詢音頭」の舞台に因み、大川で運行されている大阪水上バスに全面広告を掲出し、乗船場で同演目の宣伝用うちわを配布。
- ・JRみどりの窓口で文楽公演の入場券を販売し、車内中吊り広告の優遇掲出を行った。
- ・外部団体が主催するイベント等への芸芸員の参加、食玩キャラクターとのコラボレーションにより様々な顧客層への興味喚起を図った。
 - ◇ 大阪市と公益財団法人文楽協会が主催する文楽普及事業「ムムム！文楽シリーズ 中之島文楽」、一般社団法人ナレッジキャピタルが主催する「ナレッジキャピタルワークショップ」、天神祭船渡御の「文楽船」、「法善寺横丁まつり」、「道頓堀リバーフェスティバル」、今宮戎神社十日戎の宝恵駕行列、繁昌亭の「文楽応援の落語会 Part6『忠臣蔵プレリユード』」、声優養成所のワークショップに芸芸員が出演・参加して文楽や公演の周知を図った。(大阪市と公益財団法人文楽協会が主催する文楽普及シリーズイベント「春まつり文楽」、在阪民放テレビ局が主催する「うめだ文楽」も予定されていたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止となった。)
 - ◇ 食玩キャラクター「ビックリマン」とコラボレーションした広報活動により、伝統芸能に馴染みの低い方々への興味喚起を図った。
- ・大阪市立中央図書館の協力により、図書館所蔵の文楽公演に因む一枚番付等の展示や文楽書籍コーナー等での公演周知、市内24区の各図書館へのポスター・チラシの配布などを行った。
- ・外部イベント等への協力・連携により公演周知を図るほか、フリーペーパー等への記事広告掲出、販促グッズの作成・配布等、幅広い客層に対して興味を持ってもらえるよう工夫を行った。
 - ◇ 阪神高速道路株式会社の協力により、心斎橋の繁華街にあるミナミ交流プラザ「LOOP-A」において、若者、外国人向けに文楽の展示。
 - ◇ 阪急うめだ本店の協力により、店内にチラシ等を配架。
 - ◇ 大阪市及び京阪神エルマガジン社の協力を得て、関西のニュース情報サイト「エルマガジン」のWEB特設サイトで文楽の特集ページ「ハロー！文楽」を設置、公開し、特別割引券掲載。

- ◇ 歴史街道推進協議会とタイアップし、「朝日・五私鉄リレーウォーク 第 5 回 古市古墳群を巡る～秋風の中、歴史ロマンを感じて～」の参加者に特別割引チラシ配布(10/6)、また「紀伊山地三霊場フォーラム 未来につなぐ熊野の魅力」開催パンフレットに特別割引チラシを挟込。(10/24)
- ◇ 大阪府等が主催する「大阪文化芸術フェス 2019」の HP やチラシへ公演情報を掲載。
- ◇ 大阪市とタイアップし、旅行に関する展示・商談会「ツーリズム EXPO ジャパン 2019 大阪・関西」(インテックス大阪)にて、国内、諸外国の観光関係者、一般来場者に特別割引チラシ配布(10/25、26)。
- ・ 夏休み文楽特別公演「親子劇場」では、大阪市と連携し市内公立学校の全児童・生徒に対し「夏休み親子ペア文楽鑑賞優待事業」(大阪市の一部費用負担)を実施。
- ・ 大阪私立中学校高等学校連合会、大阪府私学総連合会、大阪府私立小学校連合会の協力により、各学校に公演チラシを送付。また、各市(奈良市、生駒市、尼崎市、西宮市、守口市、東大阪市)教育委員会の協力を得て、各小中学校の児童・生徒へチラシを配布するなどし、学校関係への公演周知・観客勧誘に努めた。
- ・ 大阪市内の小学生全員に配布される Osaka Metro の「おでかけ KID'S サマーPass」のパンフレットに夏休み文楽特別公演の情報を掲載、提示特典に協力。
- ・ 開場 35 周年記念の記者発表、竹本綴太夫襲名披露公演の取材会や初春公演の「にらみ鯛」吊り上げの公開取材など多様な取材をセッティングし、マスコミに積極的に働きかけることで、マスコミ各社を通じて広く情報の提供を図った。
 - ◇ 初春文楽公演の襲名披露公演においては毎日放送テレビの情報番組「ちちんぷいぷい」に芸員が出演。
- ・ ラジオ CM を実施するとともに、在阪ラジオ局への働きかけにより、ラジオ番組への芸員の出演や、番組内で定期的に公演紹介を行うコーナー等で公演 PR に努めるなどラジオを通じて情報の周知を図った。
 - ◇ ラジオ大阪『高岡美樹のべっぴんラジオ』にて公演周知。
 - ◇ MBS ラジオの「ラジオ秋まつり 2019」にて生 CM、チラシ配布等
 - ◇ NHK ラジオの「関西ラジオワイド」に芸員が出演して公演周知。
- ・ 通天閣で行われた「干支の引継ぎ式」に芸員が参加して公演周知。
- ・ 振興会ホームページの「文楽かんげき日誌」に著名人の観劇日誌を掲載。
- ・ 公演情報、出演者のインタビュー動画、公演記録映像を活用した演目を紹介するダイジェスト動画を振興会 HP に掲載、メールや SNS での情報発信を行い web 上での情報提供に努めた。
- ・ 読売新聞大阪本社の協力を得て「仮名手本忠臣蔵」七段目「祇園一力茶屋の段」、九段目「山科閑居の段」のハイライト動画を読売新聞公式 HP「読売新聞オンライン」上で公開。

(e) 国立劇場おきなわ

- ・ 公演案内の送付
 - ◇ 県内の全自治会(645 ヶ所)へ公演案内を送付。
 - ◇ 県内 8 か所の観光施設への当劇場専用ラック設置し公演チラシを配布。
 - ◇ 県内自治会、児童館、県内小中学校等(7 月親子のための組踊鑑賞教室、8 月琉球舞踊鑑賞教室)
 - ◇ 共催の一般社団法人伝統組踊保存会と協力して関係者へ公演案内を送付。(5 月「忠臣身替の巻」)
 - ◇ 県内小中高校・大学・専門学校への一斉募集を 3 回実施するとともに、県内自治会に案内文書を送付。(9 月沖縄芝居鑑賞教室、10/16～18 組踊鑑賞教室)
- ・ イベント等との連携など
 - ◇ おきなわ県民カレッジと美ら島沖縄学講座「組踊への誘い」を共催(6 月「花売の縁」)。
 - ◇ 県立図書館での組踊紙芝居読み聞かせの際、参加者に 7 月親子のための組踊鑑賞教室「女物狂」のチラシを配布。(7/6、13)
 - ◇ チケット購入者限定の公演前の組踊ワークショップ(7 回実施)、沖縄芝居よもやま話(9 月沖縄芝居公演)、バックステージツアー(7、8 月の普及公演対象)を開催。
 - ◇ 11/24 組踊「父子忠臣」～竹富島仲筋村～において、出演地域の関係団体や演目ゆかりの地域への公演案内文書を送付。また、一般社団法人りっか浦添が主催する浦添市への誘客イベント「りっか！浦添」に参加し、公演の PR を行った。
- ・ 制作発表
 - ◇ 8 月新作組踊「花の幻」「花よ、とこしえに」の制作発表を実施し公演内容を PR した。(6/21)

- ◇ 10 月研究公演御冠船踊と組踊「執心鐘入」「銘苺子」の制作発表を実施し公演内容を PR した。(9/3)
- ・ TV・ラジオ等による広報
 - ◇ 伝統芸能伝承者養成研修講師・宮城能鳳へのインタビュー放映。(5/4 沖縄テレビ放送「おきなわモンドウォーカー」)
 - ◇ 琉球朝日放送のテレビ番組「十時茶まで待てない！」(5/14、7/16、8/14、10/9、1/8、3/24)。
 - ◇ 国立劇場おきなわの紹介、嘉数芸術監督出演。(NHK『愛されて 300 年“琉球歌舞劇”組踊の世界』九州・沖縄 12/7、全国放送 12/12)
 - ◇ 5 月「忠臣身替の巻」の宣伝のため、嘉数道彦芸術監督・出演者の佐辺良和(組踊研修修了者)が生出演。(5/9 FM 沖縄「ハッピーアイランド」)
 - ◇ 組踊の魅力や終了した公演、予定している公演について紹介した(FM 沖縄のラジオ番組「オリオンぴあふれいく」11 月の毎週木曜・4 回放送)。
 - ◇ 11 月～1 月にかけて、ラジオ沖縄にて 20 秒 CM を複数回放送。
 - ◇ ラジオ沖縄「ティーンサージパラダイス」ラジオカーによる告知、嘉数芸術監督出演(12/18、1/8)。
 - ◇ JTA(日本トランスオーシャン航空)の機内誌「Coralway」真南風号にて、組踊公演等への取材・撮影に協力した組踊特集記事が掲載。
 - ◇ ファン感謝デーの紹介。(NHK『沖縄の歌と踊り』ゆらていく遊ば～喜劇 鐘入鬼女其ノ後ノ嘶～沖縄 3/6)
 - ◇ 「モモト VOL. 41」にて、組踊の紹介、茂木仁史調査養成課長への取材記事が掲載。
- ・ 外国関係団体、近隣ホテル、芸能団体、三線販売店、児童館等、公演演目にゆかりのある地域の公民館や関係団体、自治会、老人会等に対し、各公演の特性にあわせた誘客活動を展開した。
- ・ 7 月親子のための組踊鑑賞教室「女物狂」及び 8 月琉球舞踊鑑賞教室において、県内自治会、県内小中学校、近隣の児童館等に案内文書を送付。
- ・ チケット購入者限定で公演前の組踊ワークショップやバックステージツアーを開催。
- ・ 県内約 800 か所の教育機関、主要企業等、県内約 690 か所の公民館等、県内約 230 か所の老人会等へのチラシ配布、県内 8 か所の観光施設への当劇場専用ラックの設置等により公演情報等を周知。
- ・ 共通ロビーに公演案内パネルを特設し、公演周知に努めた。
- ・ 雑誌「+ a c t」に三浦春馬への取材記事が掲載。
- ・ 朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、琉球新報、沖縄タイムスに組踊 300 周年関連記事、野外での研究公演関連記事が掲載。
- ・ 旅行に関する展示・商談会「ツーリズム EXPO ジャパン 2019 大阪・関西」(インテックス大阪)にて、ツーリスト関係者、一般来場者にチラシ配布(10/25、26)。
- ・ 組踊上演 300 周年記念事業実行委員会のホームページにおいて組踊を周知。
- ・ 県外公演、海外公演において組踊を周知。

(f) 新国立劇場

- ・ 羽田空港国内線第 2 ターミナルビルでアドビジョン特別広告を実施。(5/1～)
- ・ 2019/2020 シーズン開幕にあたり、京王新線新宿駅改札前にポスターを設置。(9/30～10/6)
- ・ 2019/2020 シーズン開幕にあたり、東京メトロ銀座線上野駅にドン・パスクワレ、椿姫、ラ・ボエーム、セビリアの理髪師、ロメオとジュリエット、マノンの大型電飾広告を出稿した。(10/1～31)
- ・ 演目別の広報については、プレスリリース、個別インタビュー、稽古場取材の実施等、きめ細かいマスコミ対応により、記事掲載の促進を図った。
- ・ 公演を取り扱う各種プレイガイドに働きかけることで、稽古場取材の斡旋や各社の SNS・メルマガ等を通じた幅広い顧客への公演情報の周知を行うことができた。
- ・ SNS(Facebook、Twitter、Instagram)を効果的に活用し、稽古場風景やインタビュー等を動画で積極的に発信したり、公演直前や当日の残席状況を細やかに発信したりすることで、公演への期待感醸成とチケットの販売促進を図った。
- ・ オペラ「トゥーランドット」プレスツアーを実施した。外国雑誌記者 11 誌 9 名を公演に招待し、個別取材及び合同プレスミーティング(7/19)を行って海外プレスに向け積極的に宣伝することで劇評の流通を促進し、新制作オペラの国際的な周知を図った。(海外での掲載: Web7 件、2 紙 2 件、4 誌 4 件、ラジオ 1 件)
- ・ 演劇「オレスティア」フォトコール・囲み取材を実施。(6/6)

- ・ オープンスペースでの舞台美術・衣裳展「初台アート・ロフト」のマスコミ・関係者向け内覧会を行い、記事掲載の促進を図った(7/3)。
- ・ 「World Ballet Day 2019」に新国立劇場が参加し、Facebook 及び YouTube にて新国立劇場バレエ団のリハーサル風景等をライブ配信した。(10/23)
- ・ 大野オペラ芸術監督が出演し、オペラ「紫苑物語」リハーサル現場等が紹介されたNHK Eテレ「SWITCHインタビュー」再放送(6/1)。
- ・ オペラ芸術監督の大野和士がテレビ東京「東京交差点」に出演。(11/12)
- ・ 新国立劇場バレエ団 小野絢子・福岡雄大がVTR出演したNHK「美の壺」が地上波再放送(NHK Eテレ 6/16)
- ・ 新国立劇場バレエ団の公演映像が使用されたNHK Eテレ「ららら♪クラシック」放送(1/24 放送・1/30 再放送)
- ・ 舞踊次期芸術監督の吉田都の引退公演で、新国立劇場バレエ団ダンサーが出演した「『NHK バレエの饗宴』特別企画 吉田都引退公演 Last Dance」放送(11/18 放送、12/21 再放送 NHK BS プレミアム)。あわせてドキュメンタリー「LAST DANCE ～バレリーナ吉田都 引退までの闘いの日々～」放送(11/24 放送、11/30・12/2 再放送 NHK BS1。12/14 放送NHK 総合。12/29 放送NHK BS4K。)
- ・ オペラ、舞踊、演劇の各芸術監督による2020/2021 シーズンラインアップ記者発表を行った(1/8)。
- ・ 大野オペラ芸術監督による次シーズンのラインアップ説明会をYouTube にてライブ配信した。(2/26)
- ・ 吉田次期舞踊芸術監督による次シーズンのラインアップ説明動画をYouTube にて配信した。(3/20～)
- ・ オペラ「エウゲニ・オネーギン」の稽古場映像を作成し、公演の期待感を醸成した。(9/26)
- ・ オペラ「ドン・パスクワレ」の主要歌手4名のインタビュー映像を作成し、公演への期待感醸成とチケットの販売促進を図った。(10/29～11/5)
- ・ オペラ「ドン・パスクワレ」において、特別支援企業であるTBSの協力を得て、TBSラジオにてスポットCMを放送したほか、番組「エンタメExpress」内で公演の紹介を行った。
- ・ オペラ「セビリアの理髪師」ではオペラ研究者2名に出演を依頼し「ベルカント大使」と称して作品の見どころや今回のキャストの前評判などを語り合う動画シリーズを作成、初心者にも分かりやすい解説で公演への期待感を醸成した。(1/14～)
- ・ バレエ「シンデレラ」「アラジン」「ニューイヤール・バレエ」「マノン」では都内近郊バレエ、ダンス教室に公演のポスターを送付し、掲出をお願いすることで、バレエやダンスを習っている若年層を中心とした顧客層に公演の周知を図った。
- ・ 夏のこども劇場セットでは、渋谷区教育委員会、東京私立初等学校協会及び東京都公立小学校長会の後援名義を取得し、対象となる小学校へのチラシ配布を行った。
- ・ こどものためのバレエ劇場「白鳥の湖」公演期間中、子供向け公演のDMメンバーに登録した来場者に新国立劇場オリジナルグッズ(学習ノート)を特典としてプレゼントし、登録を得た。
- ・ こどものためのバレエ劇場「白鳥の湖」において、関東近郊のバレエ教室へのDM送付や、来場者に対して12月バレエ公演「くるみ割り人形」の販売を行うなど、子供向けバレエ公演をステップにシーズンの主催公演へと繋げる営業を展開。
- ・ バレエ「くるみ割り人形」ではTOKYO FMの後援を得て、定期的なスポットのオンエアや、TOKYO FMの番組タイムテーブル・Webでの公演情報掲載、ラジオ番組内での主役ダンサーのコメントのオンエアを実施し、新たな層へアプローチすることができた。
- ・ バレエ「マノン」への期待感を醸成するため、Twitterへの期待コメントの投稿を促す「『#マノン楽しみ』キャンペーン」を実施。(10/19～11/10)
- ・ バレエ「マノン」において、平日夜公演の楽しみ方を提案する「ウィークデーソワレを楽しもう！Twitterキャンペーン」を実施した。(2/12～18)
- ・ バレエ「マノン」でクラスレッスン見学会を実施することとした(2/29、3/1 実施予定だったが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止)。一般・会員への告知の他に都内近郊のバレエ・ダンス教室に向けてDMを送付し、チケットの販売及びバレエ団のクラスレッスン見学の参加を募集し、チケットの販売促進を行うとともに、バレエ団のプロの舞台上での稽古を見学してもらうことで、新国立劇場バレエ団ファンへの醸成を企図していた。
- ・ 演劇「タージマハルの衛兵」で来日した作家ラジヴ・ジョセフ氏のインタビュー映像やロイヤルコート劇場とのコラボレーションで継続実施されている「劇作家ワークショップ」のため来日したファシリテーターと前川知大氏の対談映像など、演劇と海外とのつながりの一端を目に見える形で示すことができた。
- ・ 演劇公演会場において、新国立演劇先行メンバーズにご登録いただいたお客様にオリジナルトートバッグ

ク(演劇先行メンバーズ用に作成)をプレゼントし、登録促進を行った。

- ・京王線の初台駅列車接近メロディーは、新国立劇場のオペラ・バレエにちなんで「アイダ」及び「眠れる森の美女」の音楽が使用されているが、京王電鉄の協力により、バレエ「くるみ割り人形」の上演にあわせて期間限定で同作品の音楽に変更された。
- ・公演会場ホワイエ内で、会報誌「ジ・アトレ」の記事やポスター等を利用して、今後の主催公演に関する情報のパネル掲示を行ったほか、レポーター公演のダイジェスト映像やスタッフ・キャストのインタビュー映像を上映し、観客の興味を喚起した。

②振興会各種事業に関する広報の充実、ホームページ等の活用

(a) ホームページ

- 日本芸術文化振興会 HP(令和元年度年間アクセス件数：3,691,585件、前年度実績：3,137,685件)**
 - ・HPへの公演情報、出演者のインタビュー動画、公演記録映像を活用した演目を紹介するダイジェスト動画を掲載、公演関係トピックスの更新、メールやSNSでの情報発信を行いweb上での情報提供に努めた。
 - ・本館、演芸場、能楽堂、文楽劇場4館の親子企画をまとめた「2019年夏休み親子企画」HPを公開。(4/23)
 - ・文楽劇場開場35周年記念公演にあたり、振興会HPに動画、まんが、文化デジタルライブラリーの舞台芸術教材等により、3公演にわたって上演する「通し狂言 仮名手本忠臣蔵」の内容を紹介する特集ページを作成。
 - ・文楽劇場の6月文楽鑑賞教室における「Discover BUNRAKU」の開催にあたって、公演を紹介する英文サイトを作成し、動画、あらすじ掲載等で演目の内容を紹介。
 - ・国立劇場での舞踊公演を中心に、実演家、研究者、評論家等の方々が多彩な視点から舞踊(ダンス)について語る対談「舞踊を語る」を振興会HPで掲載開始。
 - ・文楽劇場では、振興会ホームページの「文楽かんげき日誌」に著名人の観劇日誌を掲載。
 - ・歌舞伎公演(10月、11月、12月、初春、3月)、文楽公演(5月、9月、2月)について、特設Webサイトを作成し、インターネット上での訴求を図った。また、当該サイトに誘引するWeb広告(DSP広告)を展開した。
 - ・6月歌舞伎鑑賞教室 Discover KABUKI、12月文楽鑑賞教室 Discover BUNRAKUでは、振興会HP内に英語による特設ページを作成し、外国人向けの情報発信を行った。
 - ・能楽堂では、令和2年1月に令和2年度の全主催公演のラインナップをHPに掲載。併せて英語版も掲載した。
 - ・演芸場定席公演初日の前日に、HPの公演情報で全ステージの休演・代演情報を提供。
- 国立劇場おきなわ HP(令和元年度年間アクセス件数：615,592件、前年度実績：448,269件)**
 - ・各種事業に関する広報の充実に努め、各種情報の早期掲載及び内容の充実に努め、随時最新の情報を提供した。
 - ・国立劇場おきなわ公式 Facebook ページを活用して、公演案内をはじめとする沖縄伝統芸能等に関する情報を提供し、ファンとのコミュニケーションを図った。
- 新国立劇場 HP(令和元年度年間アクセス件数：5,746,365件、前年度実績：5,811,087件)**
 - ・新国立劇場共催の企画展「オペラの扉 2019」特設サイトを開設。(9/4)
 - ・新国立劇場ウェブサイトのトップページ及び情報センターページをリニューアル。(10/1、2/3)
 - ・オペラ「エウゲニ・オネーギン」、バレエ「シンデレラ」「アラジン」「ロメオとジュリエット」「くるみ割り人形」「マノン」、演劇「オレスティア」、「夏のこども劇場セット」で特設サイトを開設した。画像や動画の掲載をさらに充実させるとともに、コラムの連載等、より多くの情報発信を行い、一層の興味喚起を図った。
 - ・演目発表後、早い段階から特設サイト等に舞台写真や動画等を掲載し、公演開始後はすみやかに初日の舞台映像を掲出するなどして観劇意欲の促進を図った。
 - ・海外向けの劇場紹介動画をリニューアルし、英語版 Web サイトのトップページに掲載するとともに、広報・営業活動に活用した。
 - ・オペラ芸術監督による次シーズンの説明動画を作成、ネット配信すると同時に劇場各所で放映して公演周知と期待感の醸成に努めた。
 - ・次期舞踊芸術監督による次シーズンの説明動画を作成、ネット配信により新芸術監督の基本的方針及び公演の説明を通じて期待感の醸成に努めた。
 - ・各公演のトークイベントなど公演説明会は終了後に概要やダイジェスト映像をホームページに掲出

し、当日参加できなかった観客への情報周知・拡散に努めた。

(b) SNS やメールマガジンによる情報の随時発信

SNS/メールマガジン	更新頻度等
国立劇場、国立文楽劇場 SNS (Twitter, Instagram, YouTube)	随時情報を配信。
インターネット発売情報メール (国立劇場メールマガジン)	毎月 28 日に定期的に発信しているメールのほか、販売促進のための臨時メールを配信。
文楽劇場 Trip Adviser ページ	ページのオーナーとして各公演チラシ・タイムテーブル画像を掲載。
国立劇場おきなわ SNS(Facebook)	随時情報を配信。
国立劇場おきなわメールマガジン	毎月 1 回、主催公演や貸劇場公演に関する情報を配信。
新国立劇場、研修所 SNS (Twitter, Facebook(日英), Instagram(日英), Tumblr YouTube)	情報発信を継続実施。公演ごとに画像、動画、文章を用いて、過去の公演、リハーサル風景、出演者のインタビューを随時発信。公演前には過去の公演・リハーサル風景・出演者のインタビューを、公演開始後には舞台写真・動画、当日の残席状況等を掲載し、興味を喚起した。反応の状況を逐一精査することで観客の嗜好を把握し、ジャンルによって SNS の使い分けも考慮しつつニュース内容を組み立て、発信した。
新国立劇場 e メール Club (メールマガジン)	販売促進のためのメールを随時発信。発売直前に発売情報と見どころ等、公演直前にキャストインタビューやリハーサルの映像等を、HP や SNS(Facebook、Twitter)と連動させつつ発信。
スマートフォン用アプリ 「劇場コンシェルジュ」	首都圏のクラシック公演について、公演チラシ画像をキービジュアルとした公演情報を引き続き配信した。新国立劇場内で案内チラシを配布し普及に努めた。

- 国立劇場の歌舞伎・文楽鑑賞教室の団体予約開始日にあわせて、団体鑑賞の申込方法を HP 及び Twitter に掲載。
- World Ballet Day 2019 に新国立劇場が参加し、Facebook 及び YouTube にて新国立劇場バレエ団のリハーサル風景等をライブ配信した。(10/23)
- World Opera Day に新国立劇場の地域への取り組みを紹介する映像を SNS で配信した。(10/25)
- 新国立劇場バレエ団 Twitter では、リツイートや指定のハッシュタグの使用を促すプレゼント付きキャンペーンを実施。
- 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため公演中止となった新国立劇場ダンス公演「DANCE to the Future 2020」の第 3 部を YouTube 及び Facebook でライブストリーミング配信した。(3/28)

(c) 外国人に対する情報発信の効果的な実施

i. 伝統芸能分野

- 海外からの旅行者の観劇を増やすため、旅行代理店・ホテル等との連携強化を一層進め、引き続き外国人から好評なデザイン of 英文スケジュールチラシを、国立劇場、羽田空港・成田空港・東京シティエターミナル・東京都庁各観光案内所(東京観光財団運営)、有楽町 TIC(日本政府観光局運営)、東京駅前 TIC TOKYO(森ビル運営)、東京駅前 KITTE 内観光案内所(日本郵便・JTB 運営)、東急渋谷駅構内観光案内所 WANDER COMPASS SHIBUYA、都内主要ホテルに配布。
- 海外からの旅行者の観劇を増やすため、外国人向けにチケット販売を行っている代理店等との連携強化を図り、チケット販売とあわせて公演情報を TKTS、StubHub、FunNow に掲出。
- 主に外国人旅行者を対象としている成田空港内観光案内所、東京駅前 KITTE 内観光案内所、東京駅前の観光案内所 TIC TOKYO 及び東急渋谷駅構内観光案内所 WANDER COMPASS SHIBUYA において、英文の歌舞伎イメージポスターを掲示。
- 歌舞伎・文楽紹介リーフレットの各国語版(英語・中国語簡体字・中国語繁体字・韓国語・スペイン語・フランス語・ドイツ語)を増刷し、国立劇場チケット売場に専用ラックを設置したほか、観光案内所等に配布。
- 文楽劇場では、Trip Adviser にページオーナーとして各公演のチラシ画像等公演情報を掲載。
- 文楽劇場では、訪日外国人旅行者向け関西統一交通パス「KANSAI ONE PASS」とタイアップして、同パスの HP にて公演を PR し、パス利用者に対するプレゼント企画を実施。
- 独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)等外部機関との連携
 - ◇「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」においてイベントを開催。(参加者実績:

17名)

- ◇ JASSO の兵庫国際交流会館「国費外国人留学生歓迎会 2019 in 兵庫」に参加し、英語による能の解説・謡の体験を実施。(6/22、参加者:70人)
- ◇ 国際交流の拠点として JASSO が運営する東京国際交流館に居住中の留学生・研究者とその家族を対象とした鑑賞会を実施。(10/18:18名、12/24:10名)
- ◇ 国費外国人留学生歓迎会 2019(主催:文部科学省、JASSO)に参加。各館の Discover 公演等のチラシ・能楽入門冊子(英・韓・中)等を配布、能楽のワークショップも行った(11/9、東京国際交流館)。
- ◇ 東京大学国際化教育支援室駒場支部(10/23)・立教大学国際センター(10/28)にて能楽ワークショップ開催に協力し、「Discover NOH & KYOGEN」等のチラシを留学生等に配布。
- ◇ 東京都教育委員会主催事業・東京都留学生東京体験スクールに協力し、都立高校への留学生を対象に国立能楽堂研修能舞台で能楽体験ツアーを実施。(12/12、参加者:83名)
- ◇ 東京都江戸東京博物館との連携イベント「浮世絵と邦楽一隅田川をめぐって」の来場者に歌舞伎・文楽・邦楽公演のチラシを配布。(9/15)
- ・ Discover 公演の情報発信
 - ◇ 公演を紹介する英文サイトを作成し、動画、あらすじ掲載等で演目の内容を紹介。
 - ◇ 旅行代理店の訪日外国人観光客部門及びホテル・観光案内所の担当者の特別招待を実施。(参加者実績:のべ261名)
 - ◇ 大学留学生センター・留学生支援団体・日本語学校・国際交流協会等の外国人関係団体・ホテル・観光案内所を個別訪問。(Discover KABUKI、Discover BUNRAKU)
 - ◇ 1都3県の旅行代理店・観光案内所・ホテルにDMを送付。(Discover KABUKI、Discover BUNRAKU)
 - ◇ 近畿2府4県の国際交流活動を行う大学へDM発送を実施。(Discover BUNRAKU)
 - ◇ 英字新聞、英文ニュースサイトに広告を掲出。(Discover BUNRAKU)
 - ◇ 大阪市立中央図書館に外国人資料コーナーの設置を依頼してチラシを配架。また同館の協力を得て市内全区の各図書館に教室公演のポスター・チラシ及び「Discover BUNRAKU」のチラシを配布。(Discover BUNRAKU)
 - ◇ 連携協力に関する協定書を締結している関西学院大学を通じ、大学コンソーシアムひょうご神戸の協力を得て、兵庫県内の大学へ公演のチラシを配布。(Discover BUNRAKU)
 - ◇ 大阪国際交流センター、韓国文化院、奈良文化財研究所、大阪所在の各インフォメーションセンターへチラシを配布し、公演周知・観劇勧誘を実施。(Discover BUNRAKU)
 - ◇ 大阪市文化課と協力し、在関西各国総領事館(19か国)へ市の定期便等を利用してチラシを配布。(Discover BUNRAKU)
 - ◇ 今後の公演制作に資するよう様々な観点からの意見を募るとともに、海外への発信強化につなげるため、留学生や教員による観劇モニター制度を導入した。(Discover BUNRAKU)
 - ◇ 英字新聞「サムライゲイト」に広告を5回掲載した他、多言語チラシ(英語・中国語・韓国語)を10,000枚作成した。(Discover KUMIODORI)
 - ◇ 外国人関係団体に案内文書の送付、近隣ホテルへ営業、外国語オーディオガイド機器の無料貸出し、及び英語通訳のある外国人のための組踊ワークショップ(チケット購入者限定)を実施。(Discover KUMIODORI)
- ・ 旅行社の訪日外国人観光客部門及びホテルの担当者の特別招待を実施して、アフター6KABUKI・多言語ポータブル字幕サービス・英語イヤホンガイドサービス及び Discover 公演等の利用案内を行った。(のべ参加者89名)
- ・ 劇場近隣ホテルへ幕見席等の案内を行った。(11月歌舞伎公演、文楽劇場公演)

ii. 現代舞台芸術分野

- ・ 大使鑑賞プログラムを実施したほか、同プログラム以外の主催公演でも出演者出身国の大使等を招待し、HP等に掲載した。また、大使館のHPやSNSでも周知するなど広報協力を得た。
- ・ 日本政府観光局主催のインバウンドの大規模商談会「VISIT JAPAN トラベル&MICE マート2019」に参加、海外の訪日旅行取扱旅行会社や海外メディアに新国立劇場の情報提供を行って誘致に努めた。(10/24~26)
- ・ 公益財団法人東京観光財団主催のUAE・オランダ・ロシア有力旅行会社との商談会に参加し、招聘された現地旅行会社に新国立劇場の情報提供を行って誘致に努めた。(11/28)
- ・ 英語版 SNS(Facebook、Instagram)の投稿頻度を増やし、よりきめ細かな情報発信を行った。

- ・英語版のプレスリリースを作成し、世界各国のマスコミへの周知に努めた。
- ・シーズンガイドの英語版及びシーズン4か月ごとの英文公演ガイドを作成して、各国大使館並びに文化機関、ホテル、観光案内所、外国人記者協会、世界各地の国際交流基金事務所等に配布し、公演概要を広く外国人に周知。
- ・英字新聞、外国人向けフリーペーパー、海外のオペラ専門誌、在日英国商業会議所発行誌等に劇場及び公演の情報を掲載し、周知に努めた。
- ・オペラ「トゥーランドット」プレスツアーを実施した。外国雑誌記者11誌9名を公演に招待し、個別取材及び合同プレスミーティング(7/19)を行って海外プレスに向け積極的に宣伝することで劇評の流通を促進し、新制作オペラの国際的な周知を図った。(海外での掲載:Web7件、2紙2件、4誌4件、ラジオ1件)
- ・国内外から多数の観光客が訪れる観光スポットである「東京スカイツリー ソラマチ」にて、「新国立劇場 舞台美術展で巡るオペラ・バレエの世界 ~Opera&Ballet Stage Set&Design Exhibition~」を開催した。舞台装置模型及び衣裳を展示するとともに、オペラ研修所修了生を中心としたオペラユニット“SOTTAKU(そったく)”によるミニ・コンサートを開催した。解説を日英2ヶ国語で記載し、インバウンド観光客にも対応した。(2/22~24、1,840名)

③振興会各種事業に関する広報誌の発行

年度計画に従い、以下の広報誌を作成・発行した。

- ・「日本芸術文化振興会ニュース」(毎月発行)
- ・国立劇場おきなわ情報誌「華風」(毎月発行)
- ・新国立劇場情報誌「ジ・アトレ」(毎月発行)

その他、下記の刊行物を作成・発行した。

- ・「独立行政法人日本芸術文化振興会概要(日本語)」(2019年10月発行)
- ・「独立行政法人日本芸術文化振興会概要(英語)」(2020年3月発行)
- ・「独立行政法人日本芸術文化振興会要覧 令和元年度」(2019年10月発行)
- ・「国立演芸場公演ガイド」(月刊)
- ・「新国立劇場2019/2020シーズンガイド」(2019年7月発行)
- ・「新国立劇場2019/2020シーズンガイド(英語版)」(2018年9月発行)
- ・「新国立劇場What's On(英語版リーフレット)」(2019年9月、12月、2020年3月発行)
- ・「新国立劇場 平成30年度年報」(2019年9月発行、2か国語(日本語・英語)表記)

④シーズンシートやセット券、各種キャンペーン等

i. 伝統芸能分野

- ・11月歌舞伎公演において幕見席を販売。(購入実績:39枚)
- ・文楽劇場開場35周年記念公演キャンペーンとして、「仮名手本忠臣蔵 観劇ラリー」を実施。4月、夏休み、11月の忠臣蔵を全て観劇されたお客様に記念品を贈呈。
- ・文楽劇場10月舞踊公演「東西名流舞踊鑑賞会」において、第一部・第二部のセット券を販売。(セット購入実績:25組50枚)
- ・国立劇場おきなわ9月琉球舞踊公演「琉球舞踊特選会」と12月の琉球舞踊公演「琉球舞踊特選会」において「琉球舞踊特選会」セット券を販売。(購入実績:77件)
- ・2月文楽公演第三部において、長幕休憩後から入場して終演まで観劇できる特別当日券「アフター7 BUNRAKU」を販売。(購入実績:186枚)
- ・入場券のセット購入者に対する割引を公演形態に合わせて実施した。舞踊等の短期の公演でも、内容の異なる2回公演の場合は同時に購入すると割引となる、セット割引を行った(10月舞踊公演(文楽劇場)50枚、1月民俗芸能公演156枚)。
- ・前年に引き続き「寄席の日」(6月の第1月曜日)に当日券を1,540円で提供。(6/3、16枚)
- ・6・7月定席公演において「スタンプラリー 夏のスタンププラス1特別キャンペーン」を開催。
- ・文楽劇場では、文楽本公演において、一幕限定で短時間・低価格で楽しめる幕見席を販売。(購入実績:4月文楽公演1,081枚、夏休み文楽特別公演757枚、11月文楽公演701枚、初春文楽公演873枚)
- ・国立劇場おきなわ6月の3公演において「組踊」セット券を販売。(実績:2公演セット47件、3公演セット18件)

- ・国立劇場おきなわ友の会会員限定企画として、平成31年4月から令和元年11月まで「国立劇場おきなわ自主公演組踊上演300周年記念観劇ラリー」を実施。観劇公演数に応じて割引券を進呈。

ii. 現代舞台芸術分野

- ・オペラ、バレエ、現代舞踊の2019/2020シーズンセット券の販売を30年度より継続して行い(2019/1/21～9/20)、2020/2021シーズンセット券の販売を開始した(2020/1/20～)。また、シーズンセット券において他ジャンルのおすすめ公演のオプション販売を行い、顧客に対して幅広いジャンルの鑑賞を提案し、販売促進に努めた。
- ・オペラ及びバレエ・現代舞踊の2020/2021シーズンセット券の発売に合わせ、オペラ劇場のロビー内にてセット券の案内カウンターを設け、担当者が申込方法等の問合せに対応するなど販売促進にあたった。
- ・演劇公演において、芸術監督が企画するテーマに沿った演目をセットにし、春の小劇場2作品通し券(演劇「かもめ」A席、少年王者館「1001」A席、2/16販売開始、販売実績644件、729セット)、シリーズ「ことぜん」3作品通し券(「どん底」A席、「あの出来事」A席、「タージマハルの衛兵」A席、7/14販売開始、販売実績725件814セット)を販売。
- ・ジャンルの異なる上演時期の近い公演を組み合わせる家族で楽しめるセット券「夏のこども劇場セット」(現代舞踊「NINJA」A席、こどものためのバレエ劇場「白鳥の湖」全席指定、3/24販売開始)を企画し、こども同伴の保護者セットの購入に際しては割引料金を適用して販売した。
- ・プレイガイド会員、新国立劇場Webボックスオフィス登録者及びDM先行登録者に対し、一般発売に先駆けた先行発売を実施した。
- ・若年層向け特別優待制度「U25優待メンバーズ」、「U39オペラ優待メンバーズ」、「U15ファミリー優待メンバーズ」を実施し、学生及び若年層の誘致を行った。

⑤団体観劇促進のための営業活動、旅行代理店・ホテル等との連携強化

(a) 団体観劇の促進

i. 伝統芸能分野

■本館

- ・営業担当者が受注見込団体への個別訪問等を実施。
- ・演目ゆかりの地の団体を重点的に訪問してチラシ・ポスターの掲出による周知の依頼と観劇の勧誘を行った。
- ・団体向け観劇プランの発売(舞台見学付きプラン、公演プログラム付きプラン、イヤホンガイド付きプラン、季節のお弁当付きプラン、アフタヌーンティープラン、スイーツ付きプラン、忘年会プラン)(販売実績：10月歌舞伎 100件1,008枚、12月歌舞伎 3件37枚)
- ・歌舞伎公演及び文楽公演の公演内容の周知と団体客の集客のため、過去10年間に観劇履歴のある団体及び新規見込み団体に向けて、定期的に最新の公演情報等のDMを送付。(11回、のべ15,362通)
- ・団体販売を行っているシアター情報誌「カンフェティ」に広告を掲載。
- ・歌舞伎・文楽鑑賞教室の公演内容の周知と団体客の集客のため、関東甲信越地方・東海地方・南東北地方(今年度から送付先に東海地方・南東北地方を追加)にある中学校・高等学校及び首都圏専門学校・公民館等に最新の公演情報をお知らせするDMを定期的に送付して、広く観劇の勧誘を行った。(2回：15,579件)
- ・歌舞伎・文楽鑑賞教室の団体予約開始日にあわせて、団体鑑賞の申込方法をWebサイト及びTwitterに掲載。
- ・学校向け修学旅行情報誌(月刊「教育旅行10月号」、季刊「パピルス9月発行号」)に団体鑑賞の案内を掲載。
- ・30年6月・7月歌舞伎鑑賞教室において、学校関係者向けに「鑑賞教室体験会」を実施(6回、企画及び施設説明・観劇)。首都圏の過去3年間観劇履歴のない中学校・高等学校・専門学校等の担当者宛に案内(DMによる案内数4,689件)。参加者実績：83校142名(鑑賞教室体験会参加校のうち、7月歌舞伎鑑賞教室申込：6校)
- ・2年度鑑賞教室利用促進のため、6月・7月歌舞伎鑑賞教室において、学校関係者向けに「鑑賞教室体験会」を実施(6月3回、7月3回。企画及び施設説明・観劇)。首都圏の過去3年間観劇履歴のない中学校・高等学校・専門学校等の担当者宛に案内(DMによる案内数4,646件)。参加者：58校94名
- ・「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」、「Multilingual Week」及び「Discover BUNRAKUー外国人のための文楽鑑賞教室ー」の集客のため、大学留学生センター・留学生支援団体・日本語学

校・国際交流協会等の外国人関係団体・ホテル・観光案内所を個別訪問した。

- ・2年度歌舞伎鑑賞教室、文楽鑑賞教室(本館)の団体鑑賞申し込み受付を11月から開始。
- ・主要なホテル、旅行代理店等に向けて、定期的に最新の公演情報や団体観劇プランのご案内等の内容のDMを送付。(のべ2,242通)
- ・30年10月歌舞伎公演・31年3月歌舞伎公演・6月歌舞伎教室公演・7月歌舞伎教室公演・10月歌舞伎公演において、旅行代理店の訪日外国人観光客部門及びホテル・観光案内所の担当者の特別招待を実施して、「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」、「Multilingual Week」及び「Discover BUNRAKUー外国人のための文楽鑑賞教室ー」の利用案内を行った。(参加者のべ261名)
- ・法人を対象とする事前登録制の団体チケット販売システム「法人利用サービス」を提供。福利厚生メニューの充実と福利厚生業務担当者の事務軽減を図ることができる「法人利用サービス企業様向け」と、ホテル宿泊客等へのコンシェルジュサービスをサポートする「法人利用サービスホテル・観光案内所様向け」の2種類のプランを設定し、既存団体及び新規見込み団体への営業活動を行った。(加入実績：27団体)

■演芸場

- ・地域連携及び学校教育活動への協力の一環として、昨年度に引き続き本館制作部と協力し、千代田区立麹町中学校が11月に実施した「ミライ探求フィールドワーク」の中学生訪問を受け入れ、劇場施設見学と舞台芸能解説を実施した。
- ・勤労者層へ演芸を普及させることを目的として、エコツツエリア協会(一般社団法人 大丸有環境共生型まちづくり推進協会)・イベント学会と連携し、定席公演夜の部を毎月団体鑑賞する取組を昨年度に引き続き実施した。併せて、同協会が運営する丸の内地区の「3×3Lab Future」に、定席公演のチラシを常設した。

■能楽堂

- ・「外国人のための能楽鑑賞教室」(5月)、「能楽鑑賞教室」(6月)において特別チラシを作成し、首都圏の中学・高校・大学や観劇団体に送付した。
- ・過去3年間に観劇履歴のある団体及び新規見込み団体に令和2年度能楽鑑賞教室公演・国立能楽堂ショーケース公演チラシと令和2年度国立能楽堂主催公演予定表を送付した。
- ・早稲田大学エクステンション講座の能楽講座で国立能楽堂9月公演チラシを配布し公演を周知した。
- ・様々な機会を利用して団体観劇を誘致する活動を行い、また観劇当日に国立能楽堂内の施設を利用したレクチャーやワークショップ等の実施により、入場者数の増加に貢献した。
- ・小田急まなたび(小田急ポイントカード会員組織)にて委託販売を行った。その委託販売にあたり、小田急電鉄の各駅で100枚分、3,000両の車内にて同公演紹介ポスター無料掲出し集客を図った。(8/25国立能楽堂ショーケース公演・8/30国立能楽堂企画公演)
- ・チケット委託販売団体向け鑑賞プランとして能楽師等が開演前に国立能楽堂大講義室で当日演目の解説を行う「能楽鑑賞レクチャー」を実施した(10/18、12/25実施・販売実績152枚)。
- ・令和2年度能楽鑑賞教室の団体鑑賞申し込み受付を12月から開始した。
- ・団体客に対して、研修能舞台を使用し能楽師による演目解説や謡体験・能面体験などのサービスを提供し、団体客の増加に努めるとともに、能楽への理解を深めることで顧客の定着を図った。
- ・観客動員のため募集系の観劇団体を対象に、チケット購入特典として能楽師による能楽鑑賞の手引きとなるレクチャーを実施し集客を図った(年2回)。
- ・チケット付き体験講座「楽しもう！能の世界」(有料)を実施して、販売促進を図った(年2回)。

■文楽劇場

- ・団体客に対して、芸員による文楽人形の実演解説や専門家による演目説明等の付帯サービスを提供し、団体客の増加に努めるとともに、作品の理解を深めることで顧客の定着を図った。
- ・公演の公演内容の周知と団体客の集客のため、過去に文楽劇場で観劇履歴のある団体、主要なホテル等にDMを送付。
- ・上演演目ゆかりの地の自治体、教育委員会、文化施設、商工会議所等関係団体に対し、DM発送等の団体勧誘の実施及びチラシ・ポスターの配架・掲示を依頼。
- ・6月鑑賞教室では大阪市経済戦略局と「青少年のための文楽鑑賞教室」事業について覚書を取り交わし、大阪市立の高校、中学校、小学校に公演周知を図った。
- ・学校団体客への周知のため、6月鑑賞教室では、近畿2府4県の大学、短期大学、高校、専門学校、中学校へDMを発送し、先行予約を行った。
- ・学校団体観劇勧誘、父兄への公演周知のため、大阪私立中学校高等学校連合会、大阪府私学総連合会、大阪府私立小学校連合会の協力を得て、各私立学校へ公演のチラシを配布。

- ・大阪市とのタイアップにより、「ツーリズム EXPO ジャパン 2019 大阪・関西」会場にて、日本及び諸外国の観光関係者、一般来場者に特別割引チラシを配布、公演の周知。
- ・6月鑑賞教室利用促進のため、観劇申込校、申込を検討中の学校等の教員向けに、文楽についてレクチャーする事前学習会を3回実施した。

■国立劇場おきなわ

- ・沖縄県の助成による団体客に対する貸切バス費用助成事業を令和元年5月公演から開始。30名以上の団体(チケット購入)を対象として助成。(10月組踊鑑賞教室、ほか)
- ・7月親子のための組踊鑑賞教室「女物狂」及び8月琉球舞踊鑑賞教室において、県内自治会、児童館、県内小中学校等に案内文書を送付。
- ・9月沖縄芝居鑑賞教室、10/16～18組踊鑑賞教室において、県内小中高校・大学・専門学校への一斉募集を3回実施。
- ・各公演演目にゆかりのある地域の公民館や関係団体、自治会老人会、法人賛助会員等に訪問・団体観劇やバスの助成制度についての案内文書送付等を実施。
- ・「ツーリズム EXPO ジャパン 2019 大阪・関西」会場にて、観光関係者、一般来場者にチラシを配布、公演の周知。

ii. 現代舞台芸術分野

- ・劇場職員によるオペラ・バレエ公演の事前解説レクチャー付き観劇プランや食事付き観劇プランを実施し、団体誘致を行った。
- ・オペラの初心者を中心とした対象として、カード会社・プレイガイド等の各団体取引先から誘客を行い、音楽スタッフ等のレクチャーと鑑賞を組み合わせた企画チケットを販売して、観客の裾野を広げる営業活動を実施した。
- ・公演に関する協会、団体や出演者のファンクラブ会員などへ公演情報を周知するとともに、チケットの申込みを受け付けた。
- ・団体鑑賞の取引実績のある団体へ、ラインアップ発表後に演目の資料をDM送付し、団体営業活動の促進に資した。
- ・団体鑑賞の取引実績がある旅行代理店へ、ラインアップ発表後に演目の資料をDM送付した。
- ・首都圏近郊の見込み法人顧客を対象に、団体観劇ご案内のDMを送付した
- ・各学校の入学式に向けて、「U25 優待メンバーズ」のチラシを関東近郊の大学及び専門学校に送付した。
- ・バレエ「マノン」において、都内近郊バレエ・ダンス教室に向けてDMを送付し、チケットの販売及びバレエ団のクラスレッスン見学の参加を募集し、チケットの販売促進を行うとともに、バレエ団のプロの舞台上での稽古を見学していただくことにより、新国立劇場バレエ団ファンの増加を図った。(クラスレッスン見学会は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止)
- ・一般財団法人東京私立中学高等学校協会の協力を経て、都内の私立各校の芸術・音楽系教科を担当する先生方約30名を招待し、バレエ「ロメオとジュリエット」舞台稽古見学会を実施した。当日は舞台稽古開始前に作品の見どころについてレクチャーを実施し、またアンケートを通じて今後の団体誘致につなげるための情報収集を行った。

(b) 旅行代理店・ホテル等との連携強化

i. 伝統芸能分野

- ・主要なホテル、旅行代理店等に向けて、定期的に最新の公演情報や団体観劇プランのご案内等の内容のDMを送付。(のべ2,242通)
- ・海外からの旅行者の観劇を増やすため、旅行代理店・ホテル等との連携強化を一層進め、引き続き外国人から好評なデザインの英文スケジュールチラシを、国立劇場、羽田空港・成田空港・東京シティアターミナル・東京都庁各観光案内所(東京観光財団運営)、有楽町 TIC(日本政府観光局運営)、東京駅前 TIC TOKYO(森ビル運営)、東京駅前 KITTE 内観光案内所(日本郵便・JTB 運営)、都内主要ホテルに配布。
- ・主に外国人旅行者を対象としている成田空港内観光案内所、東京駅前 KITTE 内観光案内所、東京駅前の観光案内所 TIC TOKYO 及び東急渋谷駅構内観光案内所 WANDER COMPASS SHIBUYA において、英文の歌舞伎イメージポスターを掲示。
- ・歌舞伎・文楽紹介リーフレットの各国語版(英語・中国語簡体字・中国語繁体字・韓国語・スペイン語・フランス語・ドイツ語)を増刷し、国立劇場チケット売場に専用ラックを設置したほか、観光案内所等

に配布。

- ・旅行社の訪日外国人観光客部門及びホテルの担当者の特別招待を実施して、アフター6 KABUKI・多言語ポータブル字幕サービス・英語イヤホンガイドサービス及びDiscover公演等の利用案内を行った。(6月・7月歌舞伎鑑賞教室、10月・12月歌舞伎公演、のべ参加者：202名)
- ・JTBとの連携により、学校向け修学旅行情報誌(月刊「教育旅行10月号」)に団体鑑賞の案内を掲載。
- ・KNT-CTホールディングスとの連携により、学校向け修学旅行情報誌(季刊「パピルス第3号」)に団体鑑賞の案内を掲載。
- ・劇場近隣ホテルへ幕見席を案内。(11月歌舞伎公演、文楽劇場公演)
- ・2020東京オリンピックパラリンピック競技大会期間中の訪日外国人の団体観劇を促進するため、国立劇場の外国人向け公演のチケットを購入する予定としているインバウンド団体に対して本館食堂をラウンジとして使用させる契約を旅行代理店1社と締結した。
- ・ホテルメトロポリタン池袋協力の下、ホテル公式HP・Twitterやメールマガジン等で国立能楽堂観劇付き宿泊プランを案内。(4月2公演、5月1公演、8月1公演、9月1公演)
- ・京王プラザホテル主催のイギリスメディア Fam Tourに協力し国立能楽堂にて能楽体験講座を実施した。(5/31開催・参加者5名)
- ・京王プラザホテルで開催されたイベント「ホテルで楽しむ日本文化～能・雅を継ぐもの～」(9/27～11/27)において特別展示及びロビーでの実演と解説「能にふれる」(10/15、28実施)で協力し、「Discover NOH & KYOGEN」等のチラシを配布した。
- ・法人を対象とする事前登録制の団体チケット販売システム「法人利用サービス」として、ホテル宿泊客等へのコンシェルジュサービスをサポートする「法人利用サービスホテル・観光案内所様向け」のプランを設定し、既存団体及び新規見込み団体への営業活動を行った。(加入実績：8団体)
- ・地方や海外からの旅行者の観劇を増やすため、ホテルとの連携強化を一層進めた。シェラトン都ホテル大阪では、宿泊と文楽劇場公演観劇をセットにした宿泊パックを販売し、リーガロイヤルホテル(大阪)ではコンシェルジュデスクを経由して入場券の割引販売を実施。
- ・旅行会社と連携して、公演鑑賞と合わせて開演前に組踊ワークショップを体験できる組踊鑑賞ツアーを実施。(参加者：8月新作組踊「花の幻」「花よ、とこしえに」28名、6/8組踊鑑賞教室「二童敵討」17名、6/29組踊「花売の縁」13名、10/5御冠船踊と組踊「銘苺子」10名、2/22組踊「伏山敵討」11名、3/21新作組踊「春時雨」7名)
- ・沖縄修学旅行誘致を目的とした「沖縄修学旅行フェア2019 in 東京」(8/8(木)、MICE誘致を目的とした「沖縄MICEセミナー&商談会 IN 東京」2/18(火)場所：東京交通会館、主催：沖縄県・(一財)沖縄観光コンベンションビューロー)において、旅行代理店等に国立劇場おきなわの修学旅行向けコンテンツを紹介。
- ・10/19はじめての組踊～Discover KUMIODORI～「執心鐘入」及び10/27アジア・太平洋地域の芸能「昆曲」のチラシを近隣ホテルへ持参し、観光客等への公演の紹介を依頼。
- ・大阪で開催された「ツーリズムEXPO ジャパン2019」(主催：公益社団法人日本観光振興協会、一般社団法人日本旅行業協会、日本政府観光局)に国立劇場おきなわが参加し、劇場PRブースを設置するとともに、沖縄音楽体験ワークショップ、イベントブースでの公演を行った。
- ・近畿日本ツーリスト首都圏及びクラブツーリズム株式会社と連携し、10/5御冠船踊と組踊「銘苺子」、2/22組踊「伏山敵討」、3/21新作組踊「春時雨」にて東京(羽田)発着の組踊公演鑑賞付きのツアーを造成。参加人数が集まらず実施には至らなかったが、旅行商品を通じて公演PRを行った。
- ・沖縄県の補助金を活用した貸切バス費用助成事業を旅行代理店等にPRすることで、団体観劇を促進した。

ii. 現代舞台芸術分野

- ・都内ホテル、百貨店、高級呉服店、自動車のオーナーズクラブ、社交クラブ、不動産オーナー及び外部Webサイトの会員組織等と連携した観劇プランを実施した。
- ・日本政府観光局主催のインバウンドの大規模商談会「VISIT JAPAN トラベル&MICE マート2019」に参加、海外の訪日旅行取扱旅行会社や海外メディアに新国立劇場の情報提供を行って誘致に努めた。(10/24-26)
- ・公益財団法人東京観光財団主催のUAE・オランダ・ロシア有力旅行会社との商談会に参加し、招聘された現地旅行会社に新国立劇場の情報提供を行って誘致に努めた。(11/28)
- ・修学旅行誘致及びラインアップ発表情報のDMを全国の旅行代理店各支店宛に送付した。

⑥「国立劇場キャンパスメンバーズ」等

(a) 「国立劇場キャンパスメンバーズ」

会員数：25校

(30年度より継続加入：24校)

大妻女子大学文学部・短期大学国文科/英文科、お茶の水女子大学、学習院女子大学、鎌倉女子大学・鎌倉女子大学短期大学部、共立女子大学文芸学部、国士舘大学文学部文芸科日本文学・文化専攻、学校法人上智学院、昭和女子大学日本語日本文学科/歴史文化学科、女子美術大学アート・デザイン表現学科アートプロデュース領域、白百合女子大学、清泉女子大学、中央大学国文学部、津田塾大学、東京海洋大学、東京学芸大学、東京藝術大学音楽学部、学校法人東京国際大学、獨協大学、二松学舎大学、日本大学芸術学部、フェリス学院大学文学部日本語日本文学科、法政大学文学部日本文学科、明治大学文学部、明治学院大学

(元年度より新規加入：1校)

東京工芸大学芸術学部

利用枚数：2,256枚

イベント：6回実施(参加者数：356名)

歌舞伎デビュー応援！歌舞伎観劇(解説付き)+バックステージツアー(6月)、Multilingual Week 外国語イヤホンガイド無料キャンペーン(6月歌舞伎鑑賞教室)、会員限定！歌舞伎観劇おためしキャンペーン(6月・7月歌舞伎鑑賞教室)、歌舞伎を満喫！観劇&バックステージツアー+PLUS(10月歌舞伎)、落語の魅力体験！ワークショップ&観劇(12月上旬)、観劇付き交流会 in 国立劇場(12月)、キャンパスメンバーズ会員のための観劇付き歌舞伎講座(3月)

※キャンパスメンバーズ会員のための観劇付き歌舞伎講座(3月)は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止

サービスの拡充：元年度より加入期間に応じて割引となる継続年会費を導入

(b) 新国立劇場大学連携協力協定

協定締結校：11校

東京藝術大学、学校法人武蔵野音楽学園(武蔵野音楽大学)、国立音楽大学、東京音楽大学、大阪音楽大学、桐朋学園大学、北海道教育大学、昭和音楽大学、学校法人洗足学園(洗足学園音楽大学)、東京学芸大学、東邦音楽大学

⑦おすすめキャンペーン

・職員のコミュニティー等を活用した「ご観劇おすすめキャンペーン」を引き続き実施(827枚)。

イ 個人を対象とする会員向けサービスの提供・充実

①あぜくら会(会員数：19,069人/対前年度-72人)

(a) 会報誌(計画：毎月発行)

「あぜくら」を毎月25日に発行した(計12回)。

(b) 会員向けイベント(計画：年8回程度)

イベント名	期間	会場	料金	出演者等	参加者数	当選者数	応募者数	満足回答率
あぜくらの集い あぜくら会会員特別バックステージツアー	4/24	国立劇場大劇場	200円		97人	110人	371人	100.0%
あぜくらの集い 三味線の響き—古態楽器の聴き比べ—	5/31	伝統芸能情報館 レクチャー室	無料	杵屋佐吉・梅辻理恵・長谷川慎	104人	125人	256人	98.5%
あぜくらのタベ 能の身体・狂言の身体	7/16	国立能楽堂	無料	(講師)横山太郎 (ゲスト)大島輝久・山本則重 ほか	276人	337人	337人	99.0%
あぜくらの集い 天竺徳兵衛と鶴屋南北	9/26	伝統芸能情報館 レクチャー室	無料	古井戸秀夫	110人	130人	263人	96.5%

あぜくらの集い チャップリンと歌舞伎	11/17	伝統芸能情報館 レクチャー室	無料	大野裕之	100人	130人	198人	98.7%
あぜくらの集い 初芝居と晴れ着	1/8	伝統芸能情報館 レクチャー室	無料	(講師)中川俊宏 (ゲスト)大久保信子	96人	132人	139人	86.8%
あぜくらのタベ 竹本鑑太夫を迎えて	2/5	伝統芸能情報館 レクチャー室	無料	(ゲスト)竹本鑑太夫 (ご案内役)金丸和子	107人	130人	267人	97.6%
あぜくらの集い 三遊亭金時を迎えて	3/15※	伝統芸能情報館 レクチャー室	無料	三遊亭金時				

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止

(c) 会員向けサービスの充実

- ・あぜくら会新規入会キャンペーンを実施。(10/1～12/27)
- ・あぜくら会員限定「10月・11月・12月(Aプロ限定)歌舞伎公演観劇キャンペーン」を実施。
- ・あぜくら会会員に対して、各歌舞伎公演の初日から三日目の入場券をセットにした「三日目の会」の入場券の販売を行った(10月～1月の4公演分1,976枚)。
- ・毎年好評を得ているバックステージツアーや出演者による対談等を実施し、好評を得た。

(d) アンケート調査等

- ・「あぜくらの集い」について毎回アンケート調査を行った。好評で満足度も高かった。

②国立文楽劇場友の会 (会員数:8,638人/対前年度+124人)

(a) 会報誌 (計画:年6回発行)

文楽本公演に合わせて「友の会会報」を年6回発行した。

(b) 会員向けイベント (計画:年4回程度)

イベント名	期間	会場	料金	出演者等	参加者数	当選者数	応募者数	満足回答率
第120回「文楽のつどい」 国立文楽劇場開場35周年イベント「文楽と落語で楽しむ忠臣蔵」	4/5	文楽劇場	無料	落語「蔵丁稚」 桂南光 対談「忠臣蔵よもやま話」 豊竹咲太夫、鶴澤燕三、吉田和生、吉田玉男 (ご案内)桂 南光	450人	454人	1,058人	—
第121回「文楽のつどい」	7/10	小ホール	無料	お話「近松門左衛門のみた赤穂事件と忠臣蔵」 井上勝志(神戸女子大学教授) 映像 文楽「碁盤太平記 山科閑居の段」 対談「忠臣蔵をめぐって」 豊竹呂太夫・亀岡典子(産経新聞文化部編集委員)	157人	170人	256人	—
第122回「文楽のつどい」 11月文楽公演「仮名手本忠臣蔵」 ゆかりの地バスツアー	10/16	京都市山科区 大石神社・岩屋寺ほか	6,000円	広瀬依子(追手門学院大学講師) 大石神社宮司、岩屋寺庵主	40人	42人	71人	97.2%
第123回「文楽のつどい」 バックステージツアー 第4弾!	1/15	文楽劇場	無料	舞台技術課舞台係・照明係 吉田勘市、吉田玉勢ほか	63人	70人	233人	—
第124回「文楽のつどい」 茶話会、お楽しみ抽選会	3/19※	1階観客食堂	800円	文楽技芸員によるお話 豊竹希太夫、鶴澤友之助、 吉田玉翔	—	—	133人	—

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止

(c) 会員向けサービスの充実

- ・例年実施している既存会員へ記念品贈呈の「文楽公演観劇ラリー」については、今年度は開場35周年企画として「仮名手本忠臣蔵 観劇ラリー」を一般客も含めた形で実施し、会報等で会員に周知し

た。

- ・ 振興会 HP 内に会員専用ページを作成し、会員イベントレポートや会報を掲載した。
- ・ 国立文楽劇場友の会入会時のサービスとして、新規入会者に公演プログラム引換券(1冊分)と文楽劇場オリジナルグッズ引換券をプレゼント。
- ・ 大阪市と公益財団法人文楽協会が主催する文楽普及事業「ムムム！文楽シリーズ」のイベント等において、文楽劇場友の会入会勧誘チラシを配布、文楽劇場友の会の新規入会勧誘コーナーを設けるなどして新規会員の獲得に努めた。
- ・ 阪神高速道路株式会社の協力を得て、心齋橋の繁華街にあるミナミ交流プラザ「LOOP-A」において、若者、外国人に向けた公演と文楽の紹介展示と併せて会員勧誘のポスター等を掲出。

(d) アンケート調査等

- ・ 「第122回 文楽のつどい 11月文楽公演「仮名手本忠臣蔵」ゆかりの地バスツアー」でアンケート調査を行った(配布数40枚、回答数38枚)。好評であり満足度、興味喚起度も高かった。

③国立劇場おきなわ友の会(会員数:1,648人/対前年度-22人)

(a) 会報誌(計画:年4回発行)

「国立劇場おきなわ友の会会報」を6、9、12、3月に発行した(計4回)。

(b) 会員向けイベント(計画:年3回程度、実施:4回)

イベント名	期間	会場	料金	出演者等	参加者数	当選者数	応募者数	満足回答率
組踊「花売の縁」公開稽古見学会	6/12	国立劇場おきなわ大稽古室	無料	地謡指導:西江喜春 立方指導:金城清一 東江裕吉、神谷武史 ほか	16人	16人	16人	100.0%
新作組踊「花よ、とこしえに」公開稽古見学会 第1回	7/21	国立劇場おきなわ大稽古室	無料	神谷武史、伊良波さゆき、大湾三瑠	18人	18人	18人	100.0%
新作組踊「花よ、とこしえに」公開稽古見学会 第2回	8/6	国立劇場おきなわ大稽古室	無料	神谷武史、伊良波さゆき、大湾三瑠	12人	12人	12人	100.0%
組踊「伏山敵討」公開稽古見学会	2/5	国立劇場おきなわ大稽古室	無料	平田智之、宮城茂雄、玉城正治、花城英樹	31人	31人	31人	100.0%
2020 友の会新春講演会	2/22	国立劇場おきなわ小劇場	無料	中村一雄、嘉数道彦	140人	140人	140人	100.0%

(c) 会員向けサービスの充実

- ・ 国立劇場おきなわ友の会新規会員の入会を促すことを目的として、次の「友の会新規入会キャンペーン」を実施。
 - ◇ 令和元年6月から10月までに上演される普及公演のチケット購入者に限り、公演当日までの入会で入会金が0円となる「友の会入会金0円キャンペーン」を実施した。(新規入会者:106人)
 - ◇ ご家族・ご友人ご紹介キャンペーン(R2.1~3):既存会員から紹介を受けて新規入会した場合、入会者及び紹介者へ特典として自主公演50%割引券を進呈。(新規入会者:20人)
 - ◇ Web 新規入会促進キャンペーン(R2.1~3):Web チケット販売サービスから入会した場合、特典として自主公演50%割引券を進呈。(新規入会者:11人)
- ・ 国立劇場おきなわ友の会会員限定企画として、平成31年4月から令和元年11月まで「国立劇場おきなわ自主公演組踊上演300周年記念観劇ラリー」を実施。観劇公演数に応じて割引券を進呈。(期間中の対象公演のうち、3公演購入した会員には「自主公演50%割引券」を、6公演以上購入した会員には「自主公演50%割引券」1枚・「自主公演ご招待券」1枚を、8公演すべて購入した会員には「自主公演50%割引券」1枚・「自主公演ご招待券」2枚を期間終了後に進呈。)
- 【実績】3公演購入:39人、4公演購入:23人、5公演購入:13人、6公演購入:5人、7公演購入:4人、8公演購入:3人
 - ◇ 会報誌の発行・送付、チケット購入時に押されるスタンプをためて割引券等がもらえるポイントカード制度、キャンセル待ちサービス、チケットの無料郵送、公演チラシ送付サービス、公開稽古見学会(6/12、7/21、8/6、2/5) 会員対象の講演会(2/22)を実施した。

(d) アンケート調査等

- ・ 国立劇場おきなわでは、新春講演会・公開稽古見学会で実施。

④新国立劇場クラブ・ジ・アトレ（会員数:11,500人／対前年度+570人）

(a) 会報誌（計画：毎月発行）

「ジ・アトレ」を毎月発行した(計12回)。

(b) 会員向けイベント（計画：年12回程度、実施：15回）

イベント名	期間	会場	料金	参加者数
オペラ「フィレンツェの悲劇/ジャンニ・スキッキ」 舞台稽古見学会	4/5	新国立劇場 オペラ劇場	無料	31人
オペラ「フィレンツェの悲劇/ジャンニ・スキッキ」 休演日バックステージツアー	4/13	新国立劇場 オペラ劇場	無料	20人
バレエ「シンデレラ」稽古場リハーサル見学会	4/10	新国立劇場 リハーサル室	無料	20人
バレエ「シンデレラ」舞台稽古見学会	4/26	新国立劇場 オペラ劇場	無料	20人
バレエ「アラジン」舞台稽古見学会	6/14	新国立劇場 オペラ劇場	無料	38人
バレエ「アラジン」休演日バックステージツアー	6/17	新国立劇場 オペラ劇場	無料	20人
バレエ 2018/2019 シーズンエンディングパーティー	6/23	レストラン・マエストロ	6,480円	98人
オペラ 2018/2019 シーズンエンディングパーティー	7/22	新国立劇場 オペラ劇場ホワイエ	6,480円	133人
オペラ「エウゲニ・オネーギン」舞台稽古見学会	9/29	新国立劇場 オペラ劇場	無料	28人
バレエ「ロメオとジュリエット」舞台稽古見学会	10/18	新国立劇場 オペラ劇場	無料	39人
オペラ「ドン・パスクワレ」舞台稽古見学会	11/7	新国立劇場 オペラ劇場	無料	37人
オペラ「ドン・パスクワレ」休演日バックステージツアー	11/14	新国立劇場 オペラ劇場	無料	22人
バレエ「くるみ割り人形」稽古場リハーサル見学会	12/6	新国立劇場 リハーサル室	無料	21人
バレエ「ニューイヤー・バレエ」舞台稽古見学会	1/10	新国立劇場 オペラ劇場	無料	31人
バレエ「マノン」舞台稽古見学会	2/21	新国立劇場 オペラ劇場	無料	32人
「マノン」クラスレッスン見学	2/29※	新国立劇場 オペラ劇場	無料	403人
「マノン」クラスレッスン見学	3/1※	新国立劇場 オペラ劇場	無料	542人
こつこつプロジェクトディベロップメント「リチャード三世」	3/6※	新国立劇場 小劇場	無料	50人
こつこつプロジェクトディベロップメント「リチャード三世」	3/7※	新国立劇場 小劇場	無料	43人
こつこつプロジェクトディベロップメント「リチャード三世」	3/8※	新国立劇場 小劇場	無料	35人
こつこつプロジェクトディベロップメント「スペインの戯曲」	3/13※	新国立劇場 小劇場	無料	38人
こつこつプロジェクトディベロップメント「スペインの戯曲」	3/14※	新国立劇場 小劇場	無料	39人
こつこつプロジェクトディベロップメント「スペインの戯曲」	3/15※	新国立劇場 小劇場	無料	38人
こつこつプロジェクトディベロップメント「あーぶくたつた、に いたつた」	3/20※	新国立劇場 小劇場	無料	32人
こつこつプロジェクトディベロップメント「あーぶくたつた、に いたつた」	3/21※	新国立劇場 小劇場	無料	35人
こつこつプロジェクトディベロップメント「あーぶくたつた、に いたつた」	3/22※	新国立劇場 小劇場	無料	34人

現代舞踊「Dance to the Future 2020」舞台稽古見学会	3/26※	新国立劇場 小劇場	無料	13人
---------------------------------------	-------	--------------	----	-----

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止

(c) 会員向けサービスの充実

- ・ 10%割引価格にて先行販売(郵送申込及びインターネット申込による「会員抽選受付」並びに電話、窓口及びインターネット申込による「先行受付」)を行った。一般発売後は5%割引を実施。
- ・ シーズンセット券を10%から最大25%の割引価格にて優先的に販売した。またバレエセット券で、購入後も会員抽選受付期間中に日程変更が可能な、会員限定の「キャストセレクトサービス」を引き続き実施した。また、オペラセット券では、全公演購入者限定のサービスとして、一定の回数まで日程変更が可能な「エクスチェンジサービス」を引き続き実施。
- ・ 購入金額に応じて加算されるポイント数に応じて、ポイントアップサービスを実施した。具体的には、チケット購入時の優待サービス、各種クーポン、グッズの提供、ゲネプロ見学や公演への招待を実施。
- ・ 入会・カード利用促進キャンペーン(ゲネプロ見学会、バックステージツアー等各種イベントへの招待)を12月から2月にかけて実施し、会員募集に努めた。前年度に引き続き三井住友VISAカード及びゴールドカードのみならずクレジット機能のないハウスカードもキャンペーン対象とし、オペラ劇場公演にて入会促進カウンターを設けるなど、より積極的な宣伝展開を図った。
- ・ 昨年度に引き続き、会員サイト上で、会報誌を講読できるサービスを提供している。

(d) アンケート調査等

- ・ 今後の運営に活用するため、公演会場でのアンケートやポイントアップサービス等を通じて、各種サービスに対する会員の興味・関心の把握に努めた。

2 - (7) 劇場施設の使用効率の向上等

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(7) 劇場施設の使用効率の向上等

ア 各種事業の日程をより効率的に設定するなど劇場施設の使用効率の向上

国民の鑑賞機会の増加を図る観点から、主催公演等の実施のほか、伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及等を目的とする事業に対し、劇場施設を積極的に貸与

イ 利用方法、空き日情報等をホームページ等により提供

利用者に対するアンケート調査等を活用したサービスの向上に努め、一層の利用促進を図る

ウ 振興会が有する6劇場の相乗効果を最大限に発揮するため、各劇場及び各公演の連携協力を強化、効果的な運営の実施

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(7) 劇場施設の使用効率の向上等

ア 劇場施設の使用効率の向上を図るとともに、伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及等を目的とする事業に対し、劇場施設を積極的に貸与

イ 各施設の利用促進を図るため、次の取組を実施

①各施設の設備等の概要、利用方法及び空き日等の情報をホームページへ掲載

②パンフレットやダイレクトメールによる広報

③利用希望者に対する説明・見学等の機会を設け、劇場利用者の増加に取り組む

④利用者に対しアンケート調査を実施、その調査結果を踏まえたサービスの充実

⑤他の劇場施設等の利用方法、利用料金等の調査、調査結果の検討・活用

ウ 振興会が有する 6 劇場の相乗効果を最大限に発揮するため、各劇場及び各公演の連携協力を効果的に実施

ア 劇場施設の使用効率の向上、積極的貸与

劇場	主催公演等使用日 養成研修使用日	貸劇場使用日 (左記使用日との重複除く)	使用可能日	劇場稼働率	前年度 劇場稼働率
本館大劇場	191日	89日	296日	94.6%	90.9%
本館小劇場	152日	119日	300日	90.3%	92.9%
演芸場	251日	32日	303日	93.4%	96.7%
能楽堂	119日	146日	298日	88.9%	86.1%
文楽劇場	150日	52日	304日	66.4%	77.1%
文楽劇場小ホール	70日	106日	245日	71.8%	74.8%
国立劇場おきなわ大劇場	133日	57日	270日	70.4%	81.8%
国立劇場おきなわ小劇場	27日	125日	243日	62.6%	73.8%
伝統芸能分野 合計	1,093日	726日	2,259日	80.5%	85.1%
新国立劇場オペラ劇場	237日	22日	259日	100.0%	100.0%
新国立劇場中劇場	64日	258日	324日	99.4%	99.4%
新国立劇場小劇場	218日	90日	310日	99.4%	98.4%
現代舞台芸術分野 合計	519日	370日	893日	99.6%	99.3%
総 合 計	1,612日	1,096日	3,152日	85.9%	89.2%

※劇場稼働率＝稼働日数／使用可能日

稼働日数：主催公演等使用日＋養成研修使用日＋貸劇場使用日(自主重複除く)

主催公演等使用日・養成研修使用日は、稽古・仕込・業務使用等を含む。

使用可能日：366日－(休館日＋保守日＋調整日)

※主催公演等での使用と貸与とが重複する日は、劇場稼働率の算出において1日と計上されるため、重複日が多い施設は、実際の貸与日数(重複を除く)が増加した場合でも劇場稼働率が低下する場合がある。

※台風19号による主催公演中止日は調整日、貸劇場公演中止日は貸劇場使用日とした。

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止による公演中止日は調整日とした。

イ 各施設の利用促進を図るための取組

①ホームページへの掲載

- ・HPに利用案内及び使用可能日を随時掲出するなど、広報の充実を図った。
- ・(本館・演芸場)施設、設備等の概要及び利用手続き方法、空き日情報、貸劇場公演情報等、「劇場使用のご案内」パンフレットPDF版、使用申込要項及び使用申込書をHPに掲載した。
- ・(能楽堂)利用希望者には随時、申込手続きについての説明及び施設・設備の見学会を開催し、劇場利用者の増加に努めた。
- ・(能楽堂)施設、設備等の概要及び利用手続き方法、空き日情報、貸劇場公演情報等、「劇場使用のご案内」パンフレットPDF版、使用申込要項及び使用申込書をHPに掲載した。
- ・(本館・演芸場)ホームページに利用案内及び使用可能日を掲出・更新し広報の充実を図るとともに、新規利用希望者には、「劇場使用のご案内」パンフレットを配布、随時相談や施設見学に応じるなど利用促進に努めた。
- ・(能楽堂)ホームページに利用案内及び使用可能日を掲出・更新し広報の充実を図るとともに、新規利用希望者には、「劇場使用のご案内パンフレット(消費税率改定に伴う使用料改定後は「国立能楽堂料金表」)を配布、随時相談や施設見学に応じるなど利用促進に努めた。
- ・(文楽劇場)ホームページに施設案内及び座席案内、使用可能日を掲出・更新し広報の充実を図った。
- ・(新国立劇場)HPの貸劇場公演ページから劇場使用についての情報がすぐ開くように改修したほか、募集期間中はトップ画面にニュースを掲載し情報発信した。
- ・(おきなわ)前年同様、「施設・設備の概要」及び「施設のご利用案内」をはじめ、劇場の空き状況等について定期的に更新し、施設利用の情報発信を行った。

②パンフレットやダイレクトメールによる広報

- ・「劇場使用のご案内」パンフレットを利用団体・関係団体等に配布・送付した。
- ・「劇場使用のご案内」パンフレット及び施設申込受付期間の案内のDMを過去の劇場利用者へ送付。
- ・会報誌や専門誌に貸劇場利用に関する情報を掲載した。
- ・劇場利用に関するチラシ・ポスターを劇場内ロビー・楽屋・稽古場等に掲示して周知を図った。
- ・(能楽堂)楽屋周辺及び劇場利用係執務室等に能楽堂施設利用に関する案内を設置した。令和元年10月1日の消費税率改定に伴い「国立能楽堂料金表」を作成、過去3年間能楽堂を利用した主催者に能楽堂予約申込書とともにDMで送付した(91件)。

- ・(文楽劇場)劇場施設申込受付の案内を DM にて過去の劇場利用者へ送付した。
- ・(文楽劇場)劇場内(ロビー・楽屋等)に劇場利用に関するチラシ・ポスターを配架・掲出した。
- ・(おきなわ)沖縄観光コンベンションビューローが主催する MICE 及び修学旅行の商談会並びにツーリズム EXPO ジャパンに参加し、劇場利用の PR を行った。

③利用希望者に対する説明・見学等

- ・(本館・演芸場)利用希望者には随時、申込手続き、利用日までの流れ等について、個別に説明及び施設・設備の見学に応じ、劇場利用者の増加に努めた。
- ・(能楽堂)初めての利用者や利用を検討している方からの希望に応じて、随時申込手続き、利用日までの流れ等について個別に説明や劇場見学等の案内を行うなど利用促進に努めた。
- ・(文楽劇場)初めての利用者や利用を検討している方からの希望に応じて、随時申込手続き、利用日までの流れ等について説明や劇場見学等の案内を行うなど利用促進に努めた。
- ・(おきなわ)利用希望者からの問い合わせには随時対応し、希望があれば劇場見学の案内を行うことで新規の利用者獲得に努めた。

④利用者に対するアンケート調査、調査結果を踏まえたサービスの充実

- ・台風 19 号の影響の懸念された 10/13 の能舞台及び研修能舞台での貸劇場公演について、万全の対策を講じて実施した。
- ・舞台の保守点検日や施設整備期間の設定について、関係部署と調整しながら貸与希望者の使用希望日に沿うように調整した。
- ・(能楽堂)申合せ(=稽古)の利用については、引き続き時間単位できめ細かい調整を行い、1日に複数の主催者の申合せを実施するなど、施設利用件数の増加と効率的な施設の運営に努めた。
- ・(文楽劇場)新しく開館した劇場など他劇場の施設利用業務の状況を調査した。
- ・(新国立劇場)施設利用者にはアンケート用紙を渡し、意見を集めた。施設・スタッフの対応いずれも良好との回答であった。

《アンケート結果》

イベント名	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
本館・演芸場	153 件		52 件		34.0%	100.0%
能楽堂	78 件		19 件	17 件	24.3%	94.4%
文楽劇場	104 件	51 件	51 件	50 件	49.0%	98.0%
国立劇場おきなわ	116 件		42 件		36.2%	94.8%

ウ 6劇場の相乗効果を発揮するための連携協力

- ・本館、演芸場、能楽堂、文楽劇場 4 館の親子企画をまとめた「2019 年夏休み親子企画」HP を公開した。(4/23)
- ・国立劇場おきなわにおける新国立劇場演劇研修所の朗読劇「ひめゆり」の公演実施のため準備を進めた。また、上演に先立って 5 月に行われた演劇研修生の沖縄での事前研修において、劇場への見学を受け入れた。
- ・新国立劇場演劇研修所 朗読劇「ひめゆり」の沖縄公演を国立劇場おきなわにて行った。(8/21)
- ・国立能楽堂が国立劇場おきなわ企画公演 能「翁・羽衣」、能「放下僧・石橋」(12/21~22)に制作協力した。
- ・文化庁 HP 内の令和元年度(第 74 回)文化庁芸術祭専用ページに 6 劇場すべての文化庁芸術祭主催公演、協賛公演の公演情報を掲載した。
- ・伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした第 12 回五館合同特別講義を実施した。(12/12)
- ・公演記録鑑賞会(伝統芸能情報館、文楽劇場、国立劇場おきなわ)を定期的に開催し、国立劇場、演芸場、文楽劇場、国立劇場おきなわで過去に上演された公演記録映像を相互に活用した。
- ・日本博の「特別公演」(3 月 14 日。当初はオープニングセレモニーにおける記念公演)の制作は、日本博事務局と新国、おきなわを含む振興会各館の制作陣が連携協力して実現した(無観客で映像収録)。また、「体感! 日本の伝統芸能」展は、日本博事務局と振興会各館の調査資料部門が連携協力して企画実施した(3 月 10 日から開催予定であったが、現時点で未開催。映像収録を実施)。

(8) 日本博の運営・実施

(8) 日本博の運営・実施 -----p.149

2 - (8) 日本博の運営・実施

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(8) 日本博の運営・実施

日本の文化芸術の魅力を国内外に発信する「日本博」について、縄文から現代までの美術・文化財の展覧会、伝統芸能、現代舞台等の舞台芸術公演、文化芸術祭等に関する企画・実施等と、国内外にわたり、訪日外国人等に対して戦略的なプロモーションに関する企画・実施等における、中心的な役割を担う事務局を運営する。

ア 「日本博」の総合テーマ及びコンセプトの下で主催・共催事業を体系的に実施する。

- ① 「日本博」の中核となる主催・共催型プロジェクトについて、企画原案の提案を受け付ける。受け付けた企画原案については、日本芸術文化振興会審査・評価委員会の評価、および文化庁企画委員会の助言等を得て採択する。(別表 12※令和元年度実施分)
- ② 主催・共催型プロジェクトの実施に当たって、採択された団体等との契約・支払等に関する業務を行う。併せて、団体等との連絡・調整に関する業務も行う。
- ③ 主催・共催型プロジェクトの終了後、団体等から提出される報告書等の取りまとめを行う。

イ 各地域や団体の特色ある企画について参画プロジェクトとして認証する。

- ① 認証申請に関する相談への対応、申請者との調整を行う。参画プロジェクトへの認証申請は随時受け付ける。
- ② 参画プロジェクトの認証手続きを随時実施する。
- ③ 認証した参画プロジェクトの終了後、団体等から提出される報告書等の取りまとめを行う。

ウ 「日本博」のプロジェクト全体について、戦略的なプロモーションを一体的に企画・実施する。

- ① 「日本博」の戦略的なプロモーションに関する方針を検討し、策定する。
- ② 「日本博」のプロジェクト全体について、多様な媒体を活用し、国内外に向けた情報発信を効果的に行う。
- ③ プロモーション業務の終了後、事業者等から提出される報告書等の取りまとめを行う。

エ 「日本博」の開催に際し実施される、文化芸術活動およびそれらのプロモーション活動を通じた国家ブランディング・インバウンド拡充等、文化的・社会的・経済的效果等を検証する。

ア 主催・共催型プロジェクトの実施

- ・ 主催・共催型プロジェクトの提案受付・採択状況

	一次提案受付	二次提案受付	三次提案受付
提案件数	23 件	46 件	49 件
採択件数	19 件	31 件	19 件
採択額合計	345,632 千円	1,104,472 千円	334,198 千円

《振興会から提案した事業》

- ・ 一次提案受付分

プロジェクト名	組織・団体名	開催時期
Discover KABUKI-外国人のための歌舞伎鑑賞教室 『解説歌舞伎のみかた』『神霊矢口渡』	(独)日本芸術文化振興会	6 月
2019 年度国立劇場邦楽公演	(独)日本芸術文化振興会	6 月～1 月
Discover BUNRAKU-BUNRAKU for Beginners-	(独)日本芸術文化振興会	6 月

- ・ 二次提案受付分

プロジェクト名	組織・団体名	開催時期
「日本博」2020 オープニング・セレモニー 記念公演 『月雪花にあそぶ -日本の音と声と舞-』	(独)日本芸術文化振興会	3 月
ユネスコ無形文化遺産 「体感! 日本の伝統芸能 -歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界-」	(独)日本芸術文化振興会	3 月～
国立劇場 11 月舞踊公演『京舞』～舞から感じる京都の四季～	(独)日本芸術文化振興会	11 月
2019 年度国立劇場「雅楽・声明」公演～日本の音と声～	(独)日本芸術文化振興会	7 月～11 月
2019 年度国立劇場民俗芸能公演～祝福と神話 自然を背景に～	(独)日本芸術文化振興会	7 月～1 月
子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ 「Super Angels スーパーエンジェル」	公益財団法人 新国立劇場運営財団	令和 2 年 8 月 22 日・23 日
沖縄の伝統芸能・ユネスコ無形文化遺産「組踊」～300 周年の誇りを世界に～琉球王朝の美～組踊と琉球舞踊、その継承と発信～	公益財団法人 国立劇場おきなわ運営財団	10 月～3 月

- ・ 三次提案受付分

プロジェクト名	組織・団体名	開催時期
国立劇場歌舞伎公演『通し狂言 孤高勇士嬢景清一日向嶋』	(独)日本芸術文化振興会	11 月
Discover BUNRAKU -外国人のための文楽鑑賞教室- 『解説 文楽の魅力』『平家女護島』	(独)日本芸術文化振興会	12 月

《振興会が文化庁と協議の上、提案した事業》

- ・ 二次提案受付分

プロジェクト名	組織・団体名	開催時期
特別展「工藝 2020-日本の工藝と自然-」及び「工藝と食」プログラム	(独)日本芸術文化振興会	11 月
特別展「京の国宝-守り伝える日本のたから-」	(独)日本芸術文化振興会	令和 2 年 4 月～6 月
我が国の美術工芸品等修理の技と自然の原材料を活かした伝承と活用 -国宝重要文化財(美術工芸品)保存修理成果の現地公開-	(独)日本芸術文化振興会	2 月～

イ 参画プロジェクトの認証

- ・ 3 月 31 日までの認証件数 289 件

《振興会の認証事業》

- ・ 国立劇場 3 月歌舞伎「元禄忠臣蔵」「積恋雪関扉」

- ・国立劇場 高精細レプリカ「おぼろ」「風神雷神図屏風」展示
- ・国立劇場 5月文楽「通し狂言 妹背山婦女庭訓」
- ・国立劇場 5月特別企画「神々の残照—伝統と創造のあわいに舞う—」
- ・文楽劇場 4・7・11月文楽公演「仮名手本忠臣蔵」-日本人の心と四季-三公演連続上演
- ・国立能楽堂 新作狂言「鮎」—豊かな自然—
- ・新国立劇場 ダンス「NINJA」
- ・東京シシマイコレクション2020プレ ～東日本大震災から復活したシシマイ～
- ・国立劇場 6月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」『神霊矢口渡』
- ・国立能楽堂 外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH&KYOGEN
- ・国立能楽堂ショーケース
- ・国立劇場 7月歌舞伎鑑賞教室「菅原伝授手習鑑—車引—」「棒しばり」
- ・国立劇場 8月舞踊公演 花形・名作舞踊鑑賞会
- ・国立劇場 8月舞踊公演「舞の会—京阪の座敷舞—」
- ・国立劇場 9月文楽公演 第一部「心中天網島」／第二部「嬢景清八嶋日記」「艶容女舞衣」
- ・国立演芸場 ワークショップ「はじめての演芸体験」・特別企画公演「演芸大にぎわい～東から西から～」
- ・新国立劇場 こどものためのバレエ劇場 2020『竜宮 りゅうぐう』～亀の姫と季の庭～
- ・国立能楽堂 11月企画公演「組踊上演300周年記念 能と組踊」
- ・国立劇場 10月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」
- ・国立劇場 10月歌舞伎公演「通し狂言 天竺徳兵衛韓嘶」
- ・国立劇場 9月声明公演「黄檗宗大本山 萬福寺の梵唄」
- ・国立劇場 12月歌舞伎公演Aプロ『近江源氏先陣館—盛綱陣屋—』／チャールズ・チャップリン生誕130年『蝙蝠の安さん』Bプロ Chaplin KABUKI NIGHT『蝙蝠の安さん』
- ・国立劇場 12月文楽公演「一谷嫩軍記」
- ・国立劇場 12月文楽鑑賞教室「伊達娘恋緋鹿子」「解説 文楽の魅力」「平家女護島」
- ・落語の四季
- ・国立劇場 2月声明公演『薬師寺の花会式 修二会薬師悔過法要』
- ・国立劇場 2月文楽公演第一部「菅原伝授手習鑑」／第二部「新版歌祭文」「傾城反魂香」／第三部「傾城恋飛脚」「鳴響安宅新関」
- ・国立劇場 初春歌舞伎公演『通し狂言 菊一座令和仇討』
- ・国立能楽堂 外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN
- ・国立能楽堂 国立能楽堂ショーケース
- ・国立能楽堂 手話狂言
- ・国立劇場 国立劇場3月歌舞伎公演 『通し狂言 義経千本桜』
- ・国立文楽劇場 第158回4月文楽公演「通し狂言義経千本桜」
- ・国立劇場おきなわ 琉球王朝の美～組踊と琉球舞踊、その継承と発信～
- ・国立能楽堂 月間特集 日本人と自然
- ・国立能楽堂 国立能楽堂 3月企画公演 復興と文化
- ・歌舞伎の四季
- ・国立能楽堂 企画展「日本人と自然 能楽と日本美術」
- ・国立能楽堂 入門展「能楽入門」
- ・国立文楽劇場 第36回舞踊・邦楽公演 新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会
- ・国立文楽劇場 第37回文楽鑑賞教室 「二人三番叟」「解説文楽へようこそ」「夏祭浪花鑑」
- ・国立文楽劇場 第23回文楽素浄瑠璃の会
- ・国立劇場 国立劇場5月文楽公演 「通し狂言 義経千本桜」 第一部・第二部
- ・令和2年国立劇場さくらまつり
- ・国立劇場 国立劇場4月舞踊・邦楽公演 「明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」
- ・国立劇場 国立劇場5月特別企画公演 「言葉～ひびく～身体II 今を生きる —現前する舞と生—」
- ・国立文楽劇場 企画展示「文楽の四季」 同時開催「文楽入門」

ウ 日本博全体の戦略的プロモーションの実施

①戦略的プロモーションに関する方針の検討、策定

- ・日本博の戦略的プロモーションの方針について事務局で検討
- ・日本博の戦略的プロモーションに関する方針について、海外情報発信を行う有識者やJNTO(日本政府観光局)に意見を伺い、日本博の国内外に対する戦略的プロモーションに関する方針の検討・策定を行った。

②多様な媒体を活用し、国内外に向けた情報発信

- ・日本博事業のラインナップリーフレット作成に着手。(作成部数：5,000部)
- ・日本博HPへ日本博事業の情報掲載等を随時実施。一部プロジェクトについては、観光庁・JNTO紹介の英語ライター・エディター等と相談しつつ、英語で発信。3月末までの掲載件数(日本語)：342件(英語)：232件
- ・事業詳細ページに検索機能を追加し、開催場所と開催期間で事業を抽出できるようにした。(9/20)
- ・7月社会人のための歌舞伎鑑賞教室において、「棒しばり」がお酒に関した演目であることから、休憩時間に、国税庁及び日本酒造組合中央会ご協力の下、日本酒を提供する場を設け、日本の伝統的な食文化の一つである日本酒のPRを実施した。(7/12、7/19)
- ・ICOM京都大会にて「日本博」ブースを設置し、3/14日本博オープニング・セレモニー記念公演 予告映像の放映と日本博紹介冊子、各事業企画チラシ等の配布を実施。(9/2～9/4)
- ・外務省連携外交団視察ツアーとして、駐日外交官を対象に日本博の概要を説明し、歌舞伎公演の視察を実施した。(10/4、参加者：24か国39名(大使11名含む))
- ・「日本博」主催・共催型プロジェクトとして採択されている「日本博 in 日本橋」の開会を記念した式典を開催し、日本博のPRを実施した。(宝生和英、大倉源次郎、松本幸四郎各氏参加)(10/25)
- ・東京国立博物館で開催された文部科学大臣が主催するラグビーワールドカップ2019のレセプションに協力し、日本博共催事業として、屋外特設舞台でラグビーワールドカップのマスコットに因んだ『連獅子』を上演した。(中村又五郎、歌昇ほか各氏参加)(10/28)
- ・第27回公明党文化プログラム推進委員会にて、日本博の取組について、現状と今後予定されている事業や戦略的プロモーション等について説明した。(10/28)
- ・2019年10月、VISIT JAPAN大阪、JNTOブースでコンセプトブックを配布した。また、G20観光大臣会合、JNTOブースでオープニング動画を放映した。
- ・2019年11月、ユネスコ総会関係会議でパンフレットを配布した。
- ・「日本博」主催・共催型プロジェクトとして「Kogei Dining」を実施した。東京では漆芸家・重要無形文化財「蒔絵」保持者の室瀬和美氏の作品で、「日本料理 龍吟」代表取締役オーナーシェフの山本征治氏の料理を提供し、国立能楽堂のプロデュースによる能楽囃子(栗林祐輔師、田邊恭資師、大倉慶乃助師、大川典良師)による演奏を行った。京都では、陶芸家・重要無形文化財「白磁」保持者の前田昭博氏の作品で、「板前割烹 浜作」三代目主人の森川裕之氏と「cenci(チェンチ)」オーナーシェフの坂本健氏の料理を提供し、井上八千代師による地唄舞を行った(11/6、11/21)
- ・「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」展の開催を記念して、十二単のファッションショーを実施した。(11/9)
- ・自由民主党文化立国調査会にて、日本博の取組について、現状と今後予定されている事業や戦略的プロモーション等について説明した。(11/19)
- ・「日本博」参画プロジェクトとして認証されている、11月企画公演「組踊上演 300周年記念 能と組踊」の上演に先立ち、紡ぐプロジェクトの協賛企業を招待した会合を行った。会合では特別公演として大倉源次郎師による能楽の公演の後、「能と組踊」を鑑賞していただいた。(11/28)
- ・日本博公式のTwitter、Facebook(日・英)アカウントを開設した。(12/25)
- ・「日本博」に関する文化庁及び国立文化施設等関係者連絡会において、今後の主な日程及び2020オープニング・セレモニー等を説明し、各法人と意見交換を行った。(12/26)
- ・2019年12月、UNWTO・UNESCO主催国連観光・文化 京都会議2019にて、パンフレットを配布した。
- ・FPCJにて日本博のプレス・ブリーフィングを行った。(1/15)
- ・2020年1月、世界経済フォーラム年次総会(ダボス会議) 関連企画のセッション(ダボス(スイス))、またRemix Summit(ロンドン)にてセッション、メディア向け説明会(ロンドン)を実施した。
- ・日本博記者発表会を実施し、黒柳徹子氏を日本博広報大使として任命、日本博概要・オープニング・セレモニーの説明をおこなった。(1/15) 露出件数：TV 4件、新聞 60件、WEB 328件(2020年1月27日時点)
- ・2020年2月、ITBベルリンにてコンセプトブックを配布した。
- ・日本博HPをリニューアルし、検索機能の強化と多言語対応ページ(英語、フランス語、韓国語、中国語

繁体字、中国語簡体字)を追加した。(3/14)

- ・第2回日本博総合推進会議にて、最初に宮田文化庁長官から日本博について2019年度事業をまとめた映像(3分20秒)と資料で説明があり、その後、小林委員、小松委員、島谷委員、高階委員から発言。次に、萩生田文部科学大臣、橋本オリパラ大臣、竹本内閣府特命担当大臣、尾身外務大臣政務官、赤羽国土交通大臣、安倍総理から発言があり、今後の事業の継続的な展開に期待が述べられた。(3/12)
- ・日本博オープニング・セレモニー事前番組(まもなく開幕！日本博オープニング・セレモニー～日本の音・声・舞の魅力に迫る！～)を放送した。(3/7)
- ・『日本博オープニング・セレモニー』については、『日本博特別公演』に変更となったが、新国、おきなわを含む振興会の国立劇場グループ制作陣が連携し、総力を発揮した画期的な取組となった。
- ・日本博オープニング・セレモニー(3/14)に際して、舞台技術職員から業務委託先に対し、伝統芸能の上演に関する技術的なアドバイスを行った。
- ・日本博オープニング・セレモニーについては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止とし、第一部・第二部で上演を予定していた公演について、映像収録を行い、後日改めてテレビ等で発信することとなった。(3/14)
- ・東京国立博物館は、政府の要請により、新型コロナウイルス感染症防止のため2月27日(木)から3月16日(月)まで臨時休館としていたが、政府から継続するよう、あらためて要請があり、3月17日(火)以降も当面は臨時休館を延長することとなり、これにともない、特別展「体感！ 日本の伝統芸能—歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界—」の開幕日も延期とした。
- ・3月10日に開幕予定であった「体感！ 日本の伝統芸能—歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界—」展は、各劇場の調査資料部門が連携し、宮内庁、新聞社等の協力を得た史上初めての無形文化遺産5分野同時紹介の大規模展示である(令和2年5月15日現在開催延期中)。
- ・オープニング・セレモニー概要、出演者紹介、主なラインナップ等を紹介したリーフレットを、上野周辺鉄道駅をはじめJR山手線主要駅、ホテル、レストラン・カフェ、全国ホテル、主要空港、道の駅(267か所)、国立博物館、美術館及び主要事業開催施設などで配布した。(3/5～)
- ・2月から3月にかけて、交通機関へのポスター(成田空港・上野駅等8か所)や動画(JAL・ANA国際線機内・JR山手線等7か所)の掲出、新聞(朝日新聞、読売新聞、日経新聞、Japan Times)や雑誌(家庭画報等7誌)への広告の掲出、雑誌等のメディア(12メディア)とのタイアップなどの広報を行った。

③プロモーション終了後の報告書等の取りまとめ

- ・3月27日、文化庁に対して広報活動の報告会実施を実施し、フィードバックを受け、意見交換した。参加者数13名。なお、当初は外部にも向けて開催予定だったが新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため規模を縮小しての開催となった。

エ 日本博の文化的・社会的・経済的効果等の検証

- ・委託業者と契約を結び、効果検証の方針について検討
- ・各事業者に対し、事業の目的及び効果について、アンケート及びヒアリングを実施。
- ・有識者に対し、今後の効果検証の方針等の参考にするためのヒアリングを実施。

3 伝統芸能の伝承者の養成及び 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

- (1) 伝統芸能の伝承者の養成———p.160
 - ア 養成の計画的な実施———p.163
 - イ 既成者研修の実施———p.167
 - ウ 実施に当たっての留意事項———p.168

- (2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修———p.175
 - ア 安定的、継続的な実演家の育成———p.177
 - イ 実施に当たっての留意事項———p.180

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

自己評定	B
<p>自己評定の根拠</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・数値目標である研修発表会・既成者研修発表会について、概ね計画通り実施できた。(一部の公演については新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、非公開開催とした。) ・研修生の募集広報を積極的に行い、今年度開講できなかった竹本、鳴物も含め、募集した全4コースに応募があり、令和2年度に開講できることとなった。なお、歌舞伎俳優研修については、近年の応募者減少に鑑み、関係団体等と協議のうえ、これまで隔年の募集であったところ毎年募集に見直し、今年度に第25期研修生を募集した。 ・全日本空輸株式会社の協賛により、オペラ及びバレエ研修所の「ANAスカラシップ」による海外研修に加え、新国立劇場若手俳優育成のための国内研修事業支援(演劇研修所の国内研修に関わる航空券のサポート)が開始された。それぞれ充実した在外研修を行い、研修公演で成果を披露することができた。 ・講習会・オープンスクールや説明会を開催し研修の内容を具体的に理解してもらうことで将来の優秀な研修生獲得に努めた。演劇研修所では東京以外に兵庫・仙台でも説明会を開催した。
<p>数値目標の達成状況 実績/目標(達成率)</p>	<p>(1) 伝統芸能の伝承者の養成 研修発表会の実施状況：8公演/8公演(100.0%) 既成者研修発表会の実施状況：11公演/11公演(100.0%)</p> <p>(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修 研修発表会の実施状況：11公演/11公演(100.0%)</p>
<p>主要な業務実績</p>	<p>(1) 伝統芸能の伝承者の養成</p> <p>ア 養成の計画的な実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画通り研修を実施。 <p>イ 既成者研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画通り既成者研修発表会を実施。 ・能楽研究課程を引き続き開講(受講者30名、実施回数279回)。 <p>ウ 伝統芸能の伝承者の養成の実施に当たっての留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養成事業についての国民の関心を喚起するため、ホームページ等を活用し、事業の周知を促進。 ・外部の施設及び公演・イベント会場、各種媒体等で養成研修事業を周知。 ・能楽研修修了者を中心とした若手能楽師の巡回ワークショップ等を16件実施。 ・組踊研修修了者を中心とした若手組踊伝承者の巡回ワークショップ等を25件実施。 <p>(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修</p> <p>ア 安定的、継続的な実演家の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画通り研修を実施。 ・オペラ及びバレエ研修所において、ANAスカラシップによる海外研修を実施。 ・演劇研修所において、全日本空輸株式会社による「新国立劇場若手俳優育成のための国内研修事業支援」を開始、航空券のサポートを受け国内研修を実施。 ・バレエ研修所の稽古場を増設し男性クラス・予科生クラスを設置。 ・3年連続の文化プログラム「研修主管国際交流プロジェクト」第2弾として、演劇研修所で日英演劇アカデミー国際交流公演「怪物/The Monster」を上演。 ・演劇研修所が国立劇場おきなわとの初めての連携により朗読劇を上演。 ・研修事業委員会を開催、30年度の成果検証と元年度計画を確認。 <p>イ 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HPやSNSを活用し、研修の実施状況、修了生の活動状況等の詳細な情報を各研修所が随時発信。 ・講習会、オープンスクールを開催し事業の周知と将来の研修生確保に努める。

	<ul style="list-style-type: none"> ・五館合同特別講義、研修生交流会を開催し、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流を実施。 ・舞台技術者、インターン等の受入れを行うとともに、芸術団体や公立文化施設、提携大学と連携して新国立劇場の人材及び施設を活用。
<p>課題と対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統芸能分野では、近年応募者が減少傾向にある中、傳承者を安定的に確保するために、募集広報を強化するとともに、研修生の精神的なケアや経済的支援について必要な措置を講じる。 ・現代舞台芸術の研修施設の充実については、関係各所と相談し、引き続き検討していきたい。

(1) 伝統芸能の伝承者の養成

自己評定	B
<p>自己評定の根拠</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統芸能を長期的な視点に立って保存振興し、各分野の伝承者を安定的に確保するため、伝承者の充足状況等の調査、関係団体との協議、外部専門家の意見聴取を行いながら令和元年度の事業を進めた。 《歌舞伎俳優・音楽、大衆芸能》 ・養成研修及び既成者研修等について、計画どおり実施した。 ・寄席囃子研修2名については、今年度研修期間中辞退者もなく無事研修を修了し、それぞれの所属先が決定した。 ・「稚魚の会・歌舞伎会合同公演」「音の会」は、舞台成果においてともに高い評価を得た。 ・研修生の募集広報を積極的に行い、今年度開講できなかった竹本、鳴物も含め、募集した全4コースに応募があり、令和2年度に開講できることとなった。なお、歌舞伎俳優研修については、近年の応募者減少に鑑み、関係団体等と協議のうえ、これまで隔年の募集であったところ毎年募集に見直し、今年度に第25期研修生を募集した。 《文楽》 ・太夫の技芸員が不足している状況下で、適性審査により太夫専攻の研修生2名が合格した。 ・適性審査までは文楽三業の基本についての研修を、適性審査後は太夫専攻に特化した研修を順調に実施できた。 ・通常の実技研修や講義に加え、各種芸能の公演見学も積極的に行い、伝統芸能に関する理解を深めさせることができた。また、舞台袖での公演見学を積極的に行い、就業後のイメージを具体的に持たせることで、日常の研修においてより緊張感を持って取り組ませることができた。 ・既成者研修発表会及び研修発表会時にロビーでの文楽研修紹介映像の活用、外部団体等と連携した研修紹介チラシの配布など、幅広い層に対し事業を周知することができた。 《能楽》 ・第9期の6年目、第10期の3年目の研修を、計画通り実施した。 ・3/10「第21回青翔会」は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止とし、合同開催の第9期能楽(三役)研修修了発表会の部分のみ、一般非公開で上演した。 ・第11期研修生の募集を行い、選考試験を行った。3名の合格者を得て、令和2年度開講の運びとなった。 《組踊》 ・第5期3年目研修を計画通り実施。 ・研修発表会2回(銘苺子・花売の縁)、及び既成者研修発表会1回(二童敵討、貞孝婦人)の実施。 ・第6期組踊研修生を募集した。募集分野：立方、地方(歌三線)。募集期間：令和元年8月1日～令和元年9月30日。選考試験日：令和元年11月9日・10日。応募者数：18名(1名辞退) 合格者数：10名(内訳；立方6名、地方(歌三線)4名) 《舞台技術》 ・各地の文化施設における歌舞伎鑑賞教室の共催公演に際して、舞台技術職員等を派遣し、歌舞伎の上演に係る国立劇場の技術やノウハウを提供した。 ・外部研修等の際に、伝統芸能の上演に係る舞台技術を紹介するためのテキスト「国立劇場の舞台技術—伝統芸能の上演のために—」を刊行した。
<p>数値目標の達成状況 実績/目標(達成率)</p>	<p>研修発表会の実施状況：8公演/8公演(100.0%) 既成者研修発表会の実施状況：11公演/11公演(100.0%)</p>
<p>主要な業務実績</p>	<p>ア 養成の計画的な実施 ・計画どおり研修を実施。 イ 既成者研修の実施</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・計画どおり既成者研修発表会を実施。 ・能楽研究課程を引き続き開講(受講者 30 名、実施回数 279 回)。 <p>ウ 伝統芸能の伝承者の養成の実施に当たっての留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養成事業についての国民の関心を喚起するため、ホームページ等を活用し、事業の周知を促進。 ・外部の施設及び公演・イベント会場、各種媒体等で養成研修事業を周知。 ・能楽研修修了者を中心とした若手能楽師の巡回ワークショップ等を 16 件実施。 ・組踊研修修了者を中心とした若手組踊伝承者の巡回ワークショップ等を 25 件実施。
<p>課題と対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・近年応募者が減少傾向にある中、伝承者を安定的に確保するために、募集広報を強化するとともに、研修生の精神的なケアや経済的支援について必要な措置を講じる。 ・能楽研修は複数の役方流儀の調整を行った上で、より多くの人材を確保できるよう効率的な研修制度の在り方を検討する。 ・組踊研修修了者において、芸能活動を継続的に行っていくための出演機会の創出について、各関係団体・関係機関と調整し、協力、連携していく必要がある。 ・組踊既成者研修発表会では演者自身の営業意識を高めるため、企画、宣伝、日程調整など自主的な運営を行っていく。

(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

自己評定	B
<p>自己評定の根拠</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年度計画に基づき研修を実施し、オペラ研修生5名、バレエ研修生6名、演劇研修生9名が修了した。 ・研修発表会等について、計画どおり実施した。 ・全日本空輸株式会社の協賛により、オペラ及びバレエ研修所の「ANAスカラシップ」による海外研修に加え、新国立劇場若手俳優育成のための国内研修事業支援(演劇研修所の国内研修に関わる航空券のサポート)が開始された。それぞれ充実した在外研修を行い、研修公演で成果を披露することができた。 ・オペラ研修所では従来の授業に加え、1年に1本を目安としてオペラの1つの役を習得することを目指したレパトリーレッスンを取り入れた。また修了生のみならず研修生のコンクール受賞が相次いだ。 ・バレエ研修所では稽古場を花伝舎のほか新宿村スタジオにも増設。男性クラス・予科生クラスを新たに設置して各研修生のニーズに対応できるようにした。 ・バレエ研修所は10回記念公演となる「バレエ・アステラス2019」で初の2回公演を実施。海外で活躍する日本人ダンサー及びカナダ国立バレエ学校の生徒との交流を深めた。 ・演劇研修所では、3年連続で企画される文化プログラム「研修主管国際交流プロジェクト」の第2弾として、日英演劇アカデミー国際交流公演「怪物/The Monster」を上演。英国マンチェスター・メトロポリタン大学演劇学校と協力し、同校の学生と共に一つの作品を創り上げた。 ・演劇研修所は、国立劇場おきなわとの初めての連携により同館小劇場にて朗読劇「ひめゆり」を上演した。また東京都立葛飾盲学校でのお話鑑賞会、芸団協主催の子供たち向け体験イベント等、アウトリーチに積極的に参加し、様々な機会を経験を積んだ。 ・研修事業について、HPやSNS (Facebook, Twitter, tumblr) を活用して各研修所が専用のSNSを通じて継続的に情報を発信した。併せて国内外での修了生の活躍を積極的に発信し、研修事業の意義やそのレベルの高さを広く知らしめることができた。 ・講習会・オープンスクールや説明会を開催し研修の内容を具体的に理解してもらうことで将来の優秀な研修生獲得に努めた。演劇研修所では東京以外に兵庫・仙台でも説明会を開催した。 ・五館合同特別講義、研修生交流会等を通じ、伝統芸能分野との相互交流を進めることができた。 ・舞台技術者等の研修については、関係諸団体と協力し、地方の劇場への技術指導や連携大学への講義など新国立劇場の人材及び施設を活かして積極的に実施した。
<p>数値目標の達成状況 実績/目標 (達成率)</p>	<p>研修発表会の実施状況：11公演/11公演 (100.0%)</p>
<p>主要な業務実績</p>	<p>ア 安定的、継続的な実演家の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画通り研修を実施。 ・オペラ及びバレエ研修所において、ANA スカラシップによる海外研修を実施。 ・演劇研修所において、全日本空輸株式会社による「新国立劇場若手俳優育成のための国内研修事業支援」を開始、航空券のサポートを受け国内研修を実施 ・バレエ研修所の稽古場を増設し男性クラス・予科生クラスを設置。 ・3年連続の文化プログラム「研修主管国際交流プロジェクト」第2弾として、演劇研修所で日英演劇アカデミー国際交流公演「怪物/The Monster」を上演。 ・演劇研修所が国立劇場おきなわとの初めての連携により朗読劇を上演。 ・研修事業委員会を開催、29年度の成果検証と30年度計画を確認。 <p>イ 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HP や SNS を活用し、研修の実施状況、修了生の活動状況等の詳細な情報を各研修所が随時発信。

	<ul style="list-style-type: none"> ・講習会、オープンスクールを開催し事業の周知と将来の研修生確保に努める。 ・五館合同特別講義、研修生交流会を開催し、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流を実施。 ・舞台技術者、インターン等の受入れを行うとともに、芸術団体や公立文化施設、提携大学と連携して新国立劇場の人材及び施設を活用。
課題と対応	<ul style="list-style-type: none"> ・研修施設の充実については、関係各所と相談し、引き続き検討していきたい。

3 - (1) 伝統芸能の伝承者の養成

《中期計画の概要》

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

伝統芸能の保存振興、現代舞台芸術の振興普及を図るため、長期的な視点に立ち効果的かつ効率的に以下の養成・研修を実施

(1) 伝統芸能の伝承者の養成

伝統芸能を長期的な視点に立って保存振興し、各分野の伝承者を安定的に確保するため、伝承者の養成を次のとおり実施

ア 民間での養成が難しいため振興会として実施すべき分野に限定し、外部専門家等から、我が国の伝統芸能を保持するために引き続き伝承者を養成する必要があるとの意見が示された、歌舞伎、大衆芸能、能楽、文楽、組踊の各分野について実施

実施に当たっては、各分野の充足状況等を把握するとともに、関係団体等との協議、外部専門家等の意見等を踏まえ、養成すべき分野、人数、研修期間等を定めた上で計画的に実施

研修修了生の動向把握等により成果の検証を行い、対象とする分野、人数等の不断の見直しを実施

イ 重要無形文化財保持者等を講師として、実技研修・研修発表会等を中心とする実践的・体系的なカリキュラムにより、次の養成研修を実施

- ① 歌舞伎俳優、歌舞伎音楽伝承者養成(研修期間 2 年間又は 3 年間)
- ② 大衆芸能伝承者養成(研修期間 2 年間又は 3 年間)
- ③ 能楽伝承者養成(研修期間:基礎研修課程 3 年間、専門研修課程 3 年間)
- ④ 文楽伝承者養成(研修期間 2 年間)
- ⑤ 組踊伝承者養成(研修期間 3 年間)

ウ 研修修了者を中心に伝承者の技芸の向上を図るため、次の既成者研修を実施

- ① 既成者研修発表会(歌舞伎俳優・歌舞伎音楽・能楽・文楽・組踊)
- ② 能楽研究課程(1 年間)

(2) 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項

ア 養成・研修事業に関する国民の関心の喚起、理解促進のための、研修修了者の活動状況等を分かりやすく示すなどの広報活動の充実

イ 学校等との連携による養成・研修成果の活用や、研修生・研修修了者等が実演経験を積む機会の充実のための児童・生徒等の体験学習や劇場外における様々な文化普及活動への積極的参画

ウ 効果的かつ効率的な募集活動、研修見学会等について検討

エ 幅広い分野で養成・研修事業を実施している振興会の特長を活かした、合同研修の実施等、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流の実施

オ 国立劇場、新国立劇場等の人材や施設を活用した公演制作者や舞台技術者等の実地研修等の受入れ、協力

《年度計画の概要》

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家等その他の関係者の研修

(1) 伝統芸能の伝承者の養成

ア 各分野の充足状況及び年齢構成等を把握、研修修了後の就業機会確保のための関係団体等との協議、外部専門家等からの伝統芸能の伝承状況等の意見等を踏まえ、養成すべき分野、人数、研修期間等を定めた上で計画的に実施

研修修了者の動向把握等により成果の検証を行い、次年度以降に対象とする分野、人数等について不断の見直しを実施

- ① 歌舞伎俳優・歌舞伎音楽
(歌舞伎俳優)

- (a) 第24期生(研修期間2年、6名)の1年目の養成研修
(歌舞伎音楽)
- (b) 長唄第8期生(研修期間3年、2名)の1年目の養成研修
- ② 大衆芸能
 - (a) 寄席囃子第15期生(研修期間2年、2名)の2年目の養成研修(修了)
- ③ 能楽(ワキ・囃子・狂言:研修期間6年)
 - (a) 第9期生(2名)の6年目の養成研修(修了)
 - (b) 第10期生(2名)の3年目の養成研修
- ④ 文楽(太夫、三味線、人形:研修期間2年)
 - (a) 第29期生(3名)の1年目の養成研修
- ⑤ 組踊(立方・地方:研修期間3年)
 - (a) 第5期生(10名)の3年目の養成研修(修了)
- ⑥ 研修生の技芸の習得及び向上の成果を測るため、研修発表会を別表9のとおり実施
- ⑦ 下記の研修生について、次年度の養成研修を実施する場合、募集人員及び応募資格等について検討・募集
 - (a) 第24期歌舞伎音楽(竹本)
 - (b) 第17期歌舞伎音楽(鳴物)
 - (c) 第16期大衆芸能(寄席囃子)
 - (d) 第11期能楽(三役)
 - (e) 第6期組踊

イ 研修修了者を中心に伝承者の技芸の向上を図るため、次のとおり既成者研修を実施

- ① 既成者研修発表会を別表9のとおり実施する。
- ② 能楽について、研究課程を開講し、研修機会の拡大と伝承者間の交流を促進

ウ 伝統芸能の伝承者の養成の実施に当たっての留意事項

- ① 養成事業についての国民の関心を喚起し、理解の促進を図るため、研修修了者の活動状況等をホームページ等で紹介するなど、事業の周知に努める
- ② 養成成果の活用及び研修修了者等が実演経験を積む機会の充実を図るため、研修修了者等によるワークショップ等を全国の文化施設、学校等と協力して実施
- ③ 研修生募集について、ホームページでの告知、パンフレットや研修紹介映像の活用、研修説明会・見学会の実施等により周知し、応募者の確保に努める
- ④ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義を実施し両分野の相互交流を図る
- ⑤ 国の文化芸術に関する施策との連携に留意しつつ、国立劇場等の人材や施設を活用し、公演制作者や舞台技術者等に対する実地研修の受入れや、外部研修への協力等に努める

《中期目標の指標・関連指標》

3-1 研修発表会の開催回数 (前中期目標期間実績の維持)	8公演 (H25-29 実績平均：8.0公演)
3-2 既成者研修発表会の開催回数 (前中期目標期間実績の維持)	11公演 (H25-29 実績平均：10.8公演)
3-3 事業の周知、研修志望者の研修内容への理解や応募者の増加に関する取組の実施状況(研修見学会や広報活動の内容等)	P.173に掲載

<p>3-4 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修について、目標に従い業務を実施しているか(評議員会の評価を踏まえ判断)</p>	
<p>3-A 公演制作及び舞台技術等に関する人材養成の取組状況(公演制作者や舞台技術者等の実地研修の受入れ状況等)</p>	<p>P.179 に掲載</p>

ア 養成の計画的な実施

《研修方針》

歌舞伎俳優、歌舞伎音楽(竹本)、歌舞伎音楽(鳴物)、大衆芸能(寄席囃子)研修においては、1年目に基礎研修、2年目には、専門研修と並行して、実践の場において役立つ実技研修を実施する。歌舞伎音楽(長唄)においては、1年目に基礎研修、2年目に専門研修を行い、3年目に実践の場において役立つ実技研修を実施する。

能楽(三役)研修は、三役(ワキ方・囃子方・狂言方)について、基礎課程3年、専門課程3年、計6年の研修を実施する。

文楽研修においては、太夫・三味線・人形の後継者を養成するため、2年間の基礎的な研修を実施する。

組踊研修は、組踊の保存振興に寄与することを目的とし、将来にわたって継続的に組踊を支えうる、質の高い優れた立方・地方を養成するため、組踊実技を中心にして、琉球舞踊等の副実技、発声訓練等の基礎実技、芸能史等の講義等バランスのとれたカリキュラムを実施する。

①養成の概要

区分		年度計画				研修実績	
		期	研修期間	年次	人数	人数	うち修了者
歌舞伎俳優 歌舞伎音楽	俳優	24期	2年	1年次	4名	5名	
	竹本						
	鳴物						
	長唄	8期	3年	1年次	1名	2名	
大衆芸能	太神楽	休止中					
	寄席囃子	15期	2年	2年次	2名	2名	2名
能楽		9期	専門課程3年	6年次	2名	2名	2名
		10期	基礎課程3年	3年次	2名	2名	
文楽		29期	2年	1年次	2名	3名	
組踊		5期	3年	3年次	10名	10名	10名

②主な授業等の概要

区分			回数	授業内容
歌舞伎俳優 歌舞伎音楽	俳優 計716回	実技	608回	歌舞伎実技、立廻り・とんぼ、化粧・衣裳、日本舞踊、義太夫、長唄、鳴物、箏曲
		その他	108回	作法・講義、五館合同特別講義、体操、公演・稽古見学、部外研修、発表会、あげざらいほか
	長唄 計557回	実技	408回	長唄、五線譜、鳴物
		その他	149回	講義、習字、五館合同特別講義、体操、公演・稽古見学、部外研修、発表会、あげざらいほか
大衆芸能	寄席囃子 計448回	実技	318回	寄席囃子、長唄、五線譜、清元、端唄、囃子(太鼓・小鼓等)、住吉踊り
		その他	130回	講義、五館合同特別講義、体操、公演・稽古見学、楽屋実習、部外研修、発表会、あげざらいほか
能楽 計879回		実技	694回	ワキ、シテ謡、笛、小鼓、大鼓、太鼓、狂言
		その他	185回	講義、五館合同特別講義、公演・稽古見学、舞台・楽屋実習、部外研修、発表会ほか
文楽 計495回		実技	253回	義太夫、義太夫(三味線入り)、三味線、人形実技
		その他	242回	箏曲・胡弓、謡・狂言、日本舞踊、作法・講義、五館合同特別講義、体操、実習(舞台実習含む)、公演・稽古見学、その他(発表会等)
組踊 計473回		実技	435回	組踊実技、副実技(琉球舞踊・箏等)、基礎実技
		その他	38回	講義、五館合同特別講義、鑑賞・見学研修等、その他(発表会等)

- ・第29期文楽研修生3名・第24期歌舞伎俳優研修生5名・第8期歌舞伎音楽(長唄)研修生2名の合同開講式を開催。(4/10、伝統芸能情報館3階レクチャー室)

- ・歌舞伎俳優、歌舞伎音楽(長唄)及び大衆芸能(寄席囃子)研修では、11/27に上野・根津・谷中界隈の史跡を巡る部外研修を実施した。事前に江戸の歴史文化に関する講義を受けた後、講師の案内により実際に史跡を訪れることで、現代の東京に残る江戸の面影を肌で感じ、歌舞伎や落語作品のイメージを深めることができた。
- ・大衆芸能(寄席囃子)研修では、国立演芸場、鈴木演芸場、新宿末廣亭、浅草演芸ホール、池袋演芸場の5席亭で実習を行った。寄席の職場環境や定席における寄席囃子の仕事を実地に経験でき、修了後に向けての貴重な機会となった。
- ・能楽(三役)研修生は、10月の部外研修で講師の山階彌右衛門師(シテ方観世流)と共に、能楽ゆかりの地である佐渡島を訪れ、世阿弥に縁の深い寺院や史跡を廻り能楽に対する理解を深めた。また、現地の国民文化祭の企画である「二十六世観世宗家来島特別公演」を鑑賞することができた。
- ・第九期研修生は、3月で6年間の研修が修了となり研修修了発表会で狂言語「奈須与市語」半能「石橋」を抜くことができた。(但し、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため「研修修了発表会」部分のみ一般非公開で開催し、合同開催の「青翔会」は中止した)
- ・第11期能楽(三役)研修生の募集を実施した。
- ・各分野とも、振興会主催公演をはじめとする公演見学等を積極的に行い、研鑽を深めた。
- ・文楽研修生は、部外研修として6/4に国立文楽劇場周辺の文楽関係史跡見学を実施、研修講師が同行した。
- ・組踊研修生は、12月に行われた五館合同研修に参加し、他芸能の研修生と交流して大きな刺激を受けた。また、沖縄で見る機会の少ない歌舞伎、文楽、ミュージカルの舞台を鑑賞したことは、広い視野で芸能と向き合う良いきっかけになった。

《外部専門家等の意見》

- ・養成事業委員会を開催(2回:うち1回は書面開催)。主な意見は以下のとおり。
 - ◇養成事業が果たしてきた50年の役割は非常に大きい。その在り方検討にあたっては「見直し」ではなく、引き続き「堅持」の立場で、研修生の応募者確保に効果的な方法を検討する必要がある。
 - ◇平成30年度の評価に即応し、「養成事業の在り方に関する3部検討会議」を開催し、広報の強化、応募者・研修生への支援、研修制度見直しを実施したことは、非常に適切な対応であった。
 - ◇研修生募集の広報活動について、一層、効率的に展開されるよう、常に検討と工夫が必要だと思う。
 - ◇新型コロナウイルスの影響の中、各研修修了発表会を中止することなく、感染防止に配慮して開催したことは英断であったと思う。
 - ◇「音の会」の有料入場率が半分強と、かなり低い数字であるのが気になった。原因を分析・把握して、対策を練ることが大事。
 - ◇能楽既成者研修発表会は、6月京都公演、1月大阪公演が100%を超える有料入場率で喜ばしい。2月の東京公演は新型コロナウイルスの影響が出始めた時期とも考えられるが、やや低調なのが気になる。
 - ◇文楽既成研修は4公演ともにほぼ9割前後の有料入場率で、安定した結果が出ているように感じられる。
 - ◇文楽若手会のさらなる充実(機会増)にむけて尽力をいただきたい。
 - ◇能楽研修修了者による、学校や団体に向けてのワークショップは、修了者自身の勉強にもなり、非常に有益。
 - ◇第25期歌舞伎俳優研修生が2名というのは厳しい人数である。一人も脱落することのないように、大事に育成して行ってほしい。
 - ◇総じて、すべての分野において研修生たちの力量は高水準であると感じる。
- ・国立劇場おきなわにおいて、養成事業委員会を開催(3/23)。副実技、講義の内容について意見交換がなされた。主な意見は以下のとおり。
 - ◇修了生が、巡回ワークショップ等でのイベントに出演することによって自分自身の芸の上達になる。
 - ◇来場者は年配の方が多い印象だが、若手の演者が増えることで若い層の客の増加に繋がり、研修事業の意義は大きい。

《適性審査の実施等》

区分		試験日	受験者数	合格者数	備考
歌舞伎俳優	俳優	9/25	5名	4名	1名不合格
歌舞伎音楽	長唄	9/30	1名	1名	
文楽		10/30	3名	2名	1名不合格

③研修発表会の実施

(a) 発表会

区分	公演名	会場	期間	回数	入場者数 (入場率)	入場料	内容
歌舞伎俳優 歌舞伎音楽 大衆芸能	第15期大衆芸能(寄席囃子)研修修了発表会、第24期歌舞伎俳優・第8期歌舞伎音楽(長唄)研修発表会(合同)	本館 大劇場	3/14	1回	68人 ※ (7.5%)	無料	歌舞伎俳優研修生:日本舞踊「越後獅子」、長唄「小鍛冶」、歌舞伎「番町皿屋敷」番町青山家の場、立廻り「基本の型」 長唄研修生:長唄「五郎時致」、長唄「供奴」 寄席囃子研修生:長唄「末広狩」、端唄「梅にも春」「六段くずし」「長崎ぶらぶら節」「二上り角力甚句」「初出見よとて」「茄子と南瓜」、落語「稽古屋」(住吉踊り「奴さん 姐さん」「深川」「かつぼれ」)、清元「鳥羽絵」
能楽	第19回青翔会	能楽堂	6/11	1回	534人 (90.4%)	正面 1,500円 脇正面 1,000円 中正面 700円	舞囃子「葛城」(喜多流)、舞囃子「融」(宝生流)、舞囃子「舍利」(金春流)、狂言「萩大名」(和泉流)、能「吉野天人」(観世流) 指導者:野村萬・観世鏡之丞・三島元太郎・亀井忠雄ほか 出演者:第9・10期研修生、第8期修了者、平成31年度研究生、研修講師ほか
能楽	第20回青翔会	能楽堂	10/8	1回	549人 (92.9%)	学生 脇正面 700円 中正面 500円	舞囃子「経政」(金春流)、舞囃子「三輪」(喜多流)、舞囃子「熊野」(宝生流)、舞囃子「船弁慶(後)」(観世流)、狂言「仏師」(和泉流)、能「乱」(観世流) 指導者:野村萬・観世鏡之丞・三島元太郎・亀井忠雄ほか 出演者:第9・10期研修生、第6・7・8期修了者、令和元年度研究生、研修講師ほか
能楽	第九期研修修了発表会(合同開催を予定した第21回青翔会は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止となった)	能楽堂	3/10	1回	—	一般非公開	狂言「奈須与市語」(和泉流)、半能「石橋」(宝生流) 指導者:野村萬・三島元太郎 出演者:第9期研修生、第5期修了者、研修講師ほか
能楽	第50回東西合同研究発表会	京都 観世会館	8/27	1回	236人 (52.2%)	無料	舞囃子「高砂」(金剛流)、舞囃子「芦刈」(宝生流)、能「花月」(観世流)、舞囃子「邯鄲」(観世流)、舞囃子「野守」(喜多流)、舞囃子「経正」(観世流)、狂言「口真似」(大蔵流)、舞囃子「百万」(金春流)、舞囃子「雲雀山」(観世流)、能「車僧」(金剛流)
文楽	第29期文楽研修発表会	文楽劇場 小ホール	1/28	1回	155人 (97.5%)	無料	「二人三番叟」、素浄瑠璃「菅原伝授手習鑑」寺入りの段、素浄瑠璃「仮名手本忠臣蔵」裏門の段

組踊	第5期組踊研修生 第5回研修発表会	おきなわ 大劇場	10/10	1回	507人 (87.7%)	無料(整理券事 前配布)	組踊「銘苺子」
組踊	第5期組踊研修生 修了発表会	おきなわ 大劇場	3/5	1回	※	無料(整理券事 前配布)	組踊「花売の縁」

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、非公開開催とした。

- ・歌舞伎俳優研修では、平均年齢17歳と今までの期に比べて低年齢ではあるが、研修発表会において歌舞伎実技・立廻り・日本舞踊・長唄で研修1年間の技芸向上の成果を示した。
- ・長唄研修では、研修生1名が1年間の唄と三味線両方の研修成果を、研修発表会における2演目の中でそれぞれ披露することができた。
- ・寄席囃子研修では、研修修了発表会において、はめもの入りの音曲「稽古屋」のお囃子を演奏し、続く「住吉踊り」では囃家の踊りに合わせ賑やかに演奏し、出囃子以外の研修成果も披露することができた。また、研修生2名が無事研修を修了するとともに、それぞれの所属先が決定し、就業の機会を確保することができた。
- ・第21回青翔会・第9期能楽(三役)研修修了発表会は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため「青翔会」部分を中止し、「研修修了発表会」部分のみ一般非公開で開催した。関係者(指導者・修了生親族・養成事業委員)のみの観覧ではあったが、研修の成果を披露することができた。
- ・組踊研修は、10月及び3月の発表会において時間の長い演目を発表するため、組踊のみに集中した。地方は組踊中独唱する場面もあり、安定した声を披露した。立方は研修3年目の最終の年ということもあり、余裕を持って組踊を演じた。
- ・文楽研修では、研修発表会において若手技芸員とともに日頃の研修の成果を披露し、今後の成長を期待させた。

(b) 年度計画外の発表会等

区分	公演名	会場	期間	入場料	内容
歌舞伎	第24期 歌舞伎俳優研修生 あげざらい	国立劇場 大稽古場	11/20	(非公開)	○歌舞伎「三人吉三巴白浪」大川端庚申塚の場 指導者:中村時蔵、出演者:第24期歌舞伎俳優研修生、助演者:(三味線:杵屋巳千雄、鳴物:田中傳八郎・田中傳三郎) ○日本舞踊「雨の五郎」 指導者:花柳寿楽・花柳錦吾、出演者:第24期歌舞伎俳優研修生
寄席囃子	第15期 寄席囃子研修生 あげざらい	第2研修室	7/23	(非公開)	「情熱大陸」「カルメン」 指導者:杵屋巳織 演奏者:第15期寄席囃子研修生
寄席囃子 長唄	第15期 寄席囃子研修生 第8期長唄研修生 あげざらい	第1演芸研 修室	1/28	(非公開)	三絃二重奏曲「太鼓の曲」 「オブラディ・オブラダ」「銀河鉄道999」 指導者:杵屋巳織、演奏者:第15期寄席囃子研修生 「森のくまさん」、指導者:杵屋巳織 演奏者:第8期長唄研修生
能楽	平成31年度 第1回稽古会	研修能舞台	4/22	一般非公開	狂言「口真似」(和泉流)、舞囃子「養老」(喜多流)、舞囃子「清経」(宝生流)、舞囃子「小督」(観世流)、袴能「半部」(金春流) 指導者:野村萬・観世清和・三島元太郎・幸正昭・鹿取希世ほか 出演者:第9・10期研修生、第6・8期修了者、平成31年度研究生、研修講師ほか
能楽	令和元年度 第2回稽古会	研修能舞台	7/8	一般非公開	狂言「仏師」(和泉流)、舞囃子「敦盛」(金春流)、舞囃子「小袖曾我」(観世流)、舞囃子「東北」(宝生流)、舞囃子「船弁慶(後)」(喜多流)、袴能「乱」(観世流) 指導者:野村萬・観世清和・三島元太郎・幸正昭・鹿取希世ほか 出演者:第9・10期研修生、第6・8期修了者、令和元年度研究生、研修講師ほか

能楽	令和元年度 第3回稽古会	研修能舞台	1/27	一般非公開	狂言「舎弟」(和泉流)、舞囃子「邯鄲」(金春流)、舞囃子「井筒」(観世流)、舞囃子「雲雀山」(喜多流)、狂言語「奈須与市語」(和泉流)、袴能「石橋」(宝生流) 指導者:野村萬・観世清和・三島元太郎・幸正昭・鹿取希世ほか 出演者:第9・10期研修生、第5・8期修了者、令和元年度研究生、研修講師ほか
----	-----------------	-------	------	-------	--

④次年度の検討、募集

- (a) 第24期歌舞伎音楽(竹本)
- (b) 第17期歌舞伎音楽(鳴物)
- (c) 第16期大衆芸能(寄席囃子)
- (d) 第11期能楽(三役)
- (e) 第6期組踊
 - ＜年度計画外＞
 - ・第25期歌舞伎俳優

区分	選考日	応募者数	受験者数	合格者数	備考
歌舞伎俳優 第25期	2/22	2名	2名	2名	
歌舞伎音楽	竹本 第24期	2/22	2名	2名	2名
	鳴物 第17期	2/21	3名	2名	1名
大衆芸能(寄席囃子)第16期	2/21	11名	9名	5名	
能楽(三役)第11期	3/2	3名	3名	3名	
組踊(立方・地方)第6期	11/9～10	18名	17名	10名	

- ・歌舞伎俳優研修については、近年応募者数の減少傾向が続くなど、伝承者の安定的輩出に懸念が生じているため、これまで隔年の募集であったところ、毎年募集とした。
- ・第11期能楽(三役)研修生について、大学3年生在学中に選考試験を受けて合格した者が1名いた。芸への熱意が強く、大学残り1年で取得すべき単位数も少ないため、講師陣と相談しながら研修を進めていくことになった。

イ 既成者研修の実施

《研修方針》

研修修了者の技芸の一層の向上を図るとともに、就業者としての意識の向上を促すため、既成者研修発表会等の公演を行う。さらに、既成者の技芸の向上のため、必要に応じて各種研修を適宜実施する。

能楽の既成者研修として、研修修了者と能楽師子弟を対象に研究課程を開講し、研修機会の拡充と伝承者間の交流を図る。

①既成者研修発表会の実施

区分	公演名	会場	期間	回数	入場者数	入場率	入場料	内容
歌舞伎俳優 既成者	第25回稚魚の会・ 歌舞伎会合同公演	本館小劇場	8/15～ 19	5回	2,439 人	93.4%	一般:4,100円 学生:2,900円	「一條大蔵譚」大蔵館奥殿の場、「棒しぼり」、「三社祭」、「関三奴」、「与話情 浮名横櫓」源氏店妾宅堀外の場・源氏店妾宅の場
歌舞伎俳優 既成者	第29回上方歌舞伎会	文楽劇場	8/24～ 25	4回	2,422 人	89.4%	一般:4,100円 学生:2,900円	「寿式三番叟」、「熊谷陣屋」、「近頃河原の達引」堀川猿廻しの場
歌舞伎音楽 既成者	第21回音の会	本館小劇場	8/10～ 11	2回	575人	55.1%	一般:2,600円 学生:1,800円	鳴物・長唄「高砂丹前」、長唄・鳴物・義太夫「素襖落」、長唄「三曲糸の調」、義太夫・舞踊「道行恋学環」
能楽既成者	第29回 能楽若手研究会 京都公演 若手能	京都 観世会館	6/22	1回	479人	106.0%	前売:2,600円 当日:3,100円 学生:1,500円	舞囃子「高砂」(観世流)、能「屋島」(観世流)、舞囃子「安宅」(金剛流)、舞囃子「野宮」(観世流)、狂言「狐塚」(大蔵流)、能「黒塚」(金剛流)

								指導者:片山九郎右衛門・金剛永謹・杉市和・河村大ほか 出演者:松野浩行、山田伊純、成田寛人(第5期修了者)ほか
能楽既成者	第29回 能楽若手研究会 大阪公演 若手能	大槻能楽堂	1/18	1回	493人	110.0%	前売:2,900円 当日:3,200円 学生:1,500円	能「敦盛」(観世流)、狂言「地蔵舞」(大蔵流)、能「殺生石」(観世流)
能楽既成者	第29回 能楽若手研究会 東京公演 若手能	能楽堂	2/1	1回	547人	87.2%	正面 3,200円 脇正面 2,700円 (学生 1,900円) 中正面 2,100円 (学生 1,500円)	能「巻絹」(観世流)、狂言「清水」(和泉流)、能「鶴」(喜多流)
文楽既成者	第19回 文楽若手会	文楽劇場	6/22~ 23	2回	1,329人	90.9%	一般:2,100円 学生:1,500円	「義経千本桜」椎の木の段、小金吾討死の段、すしやの段 「妹背山婦女庭訓」道行恋苧環
文楽既成者	第7回 文楽若手会	本館小劇場	6/28~ 29	2回	1,084人	98.0%	一般:2,800円 学生:2,000円	出演:豊竹芳穂太夫、鶴澤清道、桐竹紋臣 ほか
文楽既成者	若手素浄瑠璃の会	文楽劇場 小ホール	8/29	1回	149人	93.7%	一般:1,000円 学生:700円	「奥州安達原」袖萩祭文の段、「義経千本桜」すしやの段
文楽既成者	若手素浄瑠璃の会	文楽劇場 小ホール	2/27	1回	139人	87.4%	一般:1,000円 学生:700円	「妹背山婦女庭訓」太宰館花渡しの段、「心中天網島」北新地河庄の段
組踊既成者 研修発表会	第9回若手伝承者公演	国立劇場 おきなわ 大劇場	12/7	1回	310人	53.6%	一般:2,100円 学生:1,000円	第1部:組踊「二童敵討」 第2部:組踊「貞孝婦人」

- ・「稚魚の会・歌舞伎会合同公演」は、例年よりも若い出演者が多いながらも観客動員に努力し、多くの観客に若い世代の日頃の修練の成果を示すことができた。
- ・「音の会」は時間的にも無理がなく、バランスの良い演出立てとなった。『素襖落』は立方なしの演奏のみでの珍しい上演で興味深く、演目選定が良いとの評価を得た。他の公演との関係から、出演者、指導者の調整が難しく、俳優が参加した上演が少なく、入場者数は575人(入場率55.1%)と、前年度697人(66.8%)を下回った。
- ・上方歌舞伎会は、日頃舞台を脇で支える俳優達が普段演じることのない大役を勤めることで、演目に対する理解が深まり、芸芸向上が図られるなど、俳優に大きく貢献する有意義な会となった。
- ・文楽既成者研修発表会は、いずれも若手芸員が今後勤めるだろう大役を演じることで、芸芸の向上に大きく貢献するだけでなく、自覚を促す有意義な公演となった。
- ・組踊既成者発表会は、組踊上演300周年という節目の年で、馴染みの深い「二童敵討」と上演頻度の低い「貞孝婦人」の2本立てで行った。立方、地方共に貴重な経験となった。

②能楽研究課程の開講

能楽の既成者研修として、研修修了者と能楽師子弟を対象に研究課程を開講し、研究生30名が受講した(実施回数:279回)。研究課程では、若手能楽師が専門以外の副科(シテ謡・笛・小鼓・大鼓・太鼓)を受講し、稽古会や青翔会の出演機会においては、他役・他流儀との交流を通じて研鑽を積んだ。

③その他の既成者研修の取組

大衆芸能(太神楽)について、歌舞伎の基本動作や笛の実習等、研修修了者の芸芸向上を図るための研修を実施(実施回数45回、受講者延べ172名)。

ウ 伝統芸能の伝承者の養成の実施に当たっての留意事項

①修了者の活動状況等、養成事業の周知

(a) 歌舞伎俳優・音楽、大衆芸能

- ・「第21回音の会」「第25回稚魚の会・歌舞伎会合同公演」の出演者メッセージを「あぜくら」会報誌に掲載(6/25)
- ・「音の会」の公演情報希望者にDMを送付(6/28)
- ・「第21回音の会」出演者(竹本)のメッセージ動画を振興会HPに掲載。併せてYouTubeに配信(8/2)
- ・「第21回音の会」「第25回稚魚の会・歌舞伎会合同公演」の公演情報をTwitterで配信(7/24)

- ・「第 21 回音の会」「第 25 回稚魚の会・歌舞伎会合同公演」の公演チラシを半蔵門駅改札内チラシラックに設置(7/1～8/20)
- ・「第 21 回音の会」「第 25 回稚魚の会・歌舞伎会合同公演」の公演情報を「演劇界」8月号(7/5)に掲載
- ・「第 25 回稚魚の会・歌舞伎会合同公演」の出演者インタビュー記事が東京新聞に掲載(8/16 朝刊)
- ・歌舞伎鑑賞教室、「音の会」、「稚魚の会・歌舞伎会合同公演」、「研修発表会」の会場ロビーで養成研修を紹介する DVD を映写し、事業の周知に努めた。
- ・研修事業の説明と実際の研修状況を見学してもらう「研修見学会」を実施(参加者数 歌舞伎 11/10 : 21名、12/7 : 24名、1/19 : 28名 寄席囃子 12/7 : 18名、1/19 : 24名)。

(b) 能楽

- ・国立能楽堂主催のワークショップに講師として参加した(能楽(三役)研修修了者)。
- ・能楽の振興・普及事業(ワークショップ等)で小・中・高校を回る際に、能楽全般及び研修制度についての広報を行い、養成研修事業の周知に努めた。
- ・研修生募集に際し、雑誌「観世」や新聞各紙への広告の掲載や、募集サイトを立上げて本館と合同でリスティング広告を実施、ディスプレイ広告の掲載、セクターエイティエイトの運営する能狂言ホームページへのバナーの設置、また、振興会ホームページへの募集に関連した動画の掲載など、規模を拡大した広報活動を行った。
- ・研修修了者、若手能楽師のデモンストレーション、お話及び養成係員による説明を内容とした研修見学会を実施した(12/18 : 10名、1/15 : 9名 研修能舞台)。

(c) 文楽

- ・文楽研修事業を紹介するポスター・チラシ・パンフレットを劇場内に掲出・配架。
- ・文楽劇場外での各種公演やイベント等でポスター・チラシ・パンフレット等を配布。
- ・近畿圏を中心とした学校への DM 送付。
- ・文楽鑑賞教室、各文楽既成者研修発表会、研修発表会の際に劇場ロビーで、文楽研修紹介映像の上映。
- ・振興会発行物等で養成事業を紹介。
- ・文楽研修を中心に振興会の養成事業に関するレクチャーを実施。
- ・学校団体へ文楽研修用具を貸出。

(d) 組踊

- ・琉球放送創立 65 周年記念特別番組「組踊 1719-2019」(11/20・11/27 放送)の一部で、第五期組踊研修生の第 5 回発表会に向けた稽古の様子や、インタビュー等の密着取材が放送された。
- ・国立劇場おきなわ HP、Facebook に、研修生発表会、既成者研修発表会稽古の活動状況を掲載して広く活動を周知した。
- ・新聞、雑誌取材を受け入れ、広く研修制度、発表会の宣伝周知を行った。
- ・「華風」12月号に第 9 回若手伝承者公演について、稽古風景や「子の会」の活動にも触れた内容が掲載された。

②全国の文化施設、学校等と協力した研修修了者によるワークショップ等

- ・研修修了者を講師に起用し、振興・普及活動を 36 件実施。

区分	イベント名	日程	会場	料金	出演者等	参加者数	満足回答率
能楽	楽しもう！能と狂言 (狂言ワークショップ)	4/10	岐阜県関市文化会館	無料	中村修一(狂言方泉流)、第 8 期研修修了者	60 人	-
能楽	楽しもう！能の世界 (Noh Workshop for foreigners)	5/29	国立能楽堂研修能舞台、大講義室	無料	大倉慶乃助(大鼓方大倉流)、澤田晃良(太鼓方観世流)、第 6 期、第 7 期研修修了者	69 人	98.4%
能楽	楽しもう！能の世界 外国人のための 体験教室 ドゥルーズ/ガタリ研究 in アジア	6/18	国立能楽堂 研修能舞台・第 2 稽古室・大講義室	無料	観世喜正(シテ方観世流)・大倉栄太郎(大鼓方大倉流)・澤田晃良(太鼓方観世流)・第 5 期研修修了者・第 6 期研修修了者	40 人	-
能楽	楽しもう！能と狂言 (囃子体験)	7/19	千駄ヶ谷鳩森八幡神社能舞台	無料	佃良太郎(大鼓方高安流)、澤田晃良(太鼓方観世流)、第 5 期研修修了者	約 100 人	-

能楽	楽しもう！能と狂言 (囃子体験)	7/23	小金井市社会福祉協 議会	無料	佐久間二郎(シテ方観世流)、 佃良太郎(大鼓方高安流)、徳 田宗久(太鼓方観世流)、第5 期研修修了者	40人	-
能楽	届けます。体験教室(シテ方・狂言方体 験)	11/18 ~19	名取市立相互台小学 校・名取市立増田西 小学校・名取市立愛 島小学校・名取市立 不二が丘小学校	無料	坂真太郎(シテ方観世流)、松 山隆之(シテ方観世流)、奥津 健太郎(狂言方和泉流)、野口 隆行(狂言方和泉流)	356人	-
能楽	届けます。体験教室(囃子体験)	12/17	清須市立古城小学 校・清須市立新川小 学校	無料	船戸昭弘(小鼓方幸清流)、河 村裕一郎(大鼓方石井流)、第 3期研修修了者・第6期研修 修了者	129人	-
能楽	届けます。体験教室(能楽体験)	12/21	山梨県立大学	無料	佐久間二郎(シテ方観世流)、 佃良太郎(大鼓方高安流)、第 5期研修修了者、第6期研修 修了者	約60 人	-
能楽	届けます。体験教室(囃子体験)	1/23	国立市立国立第五小 学校	無料	佃良太郎(大鼓方高安流)、第 5期研修修了者・第6期研修 修了者	73人	-
能楽	楽しもう！能の世界 外国人のための 体験教室 立教大学日本語教育セン ター	1/23	国立能楽堂 研修能舞台	無料	佃良太郎(大鼓方高安流)、第 5期研修修了者・第6期研修 修了者	32名	-
能楽	届けます。体験教室(囃子体験)	2/3	都立小金井北高等学 校	無料	佐久間二郎(シテ方観世流)、 佃良太郎(大鼓方高安流)、澤 田晃良(太鼓方観世流)、第5 期研修修了者、第6期研修修 了者	160名	-
能楽	届けます。体験教室(囃子体験)	2/10	世田谷区立代沢小学 校	無料	佐久間二郎(シテ方観世流)、 佃良太郎(大鼓方高安流)、澤 田晃良(太鼓方観世流)、第5 期研修修了者、第6期研修修 了者	80名	-
組踊	組踊ワークショップ	6/8	国立劇場おきなわ 養成研修室	無料	金城真次、天願雄一、棚原健 太	17人	100.0%
組踊	組踊ワークショップ	6/29	国立劇場おきなわ 養成研修室	無料	上原崇弘、比嘉大志、仲村逸 夫	13人	100.0%
組踊	見て、聞いて、親しむ！やさしい組踊 入門	6/9	サンエー那覇 メインプレイス	無料	川満香多、大城貴幸、上原崇 弘、嘉数道彦	-	-
組踊	組踊紙芝居の読み聞かせ	7/6	県立図書館	無料	玉城匠、仲嶺良盛	-	-
組踊	組踊紙芝居の読み聞かせ	7/13	県立図書館	無料	知花小百合、仲嶺良盛	-	-
組踊	組踊ワークショップ	8/24	国立劇場おきなわ養 成研修室	無料	川満香多、比嘉大志、仲嶺良 盛	28人	81.8%
組踊	組踊ワークショップ in 兵庫県立芸術文化センター	9/22	兵庫県立芸術文化セ ンターリハーサル室	無料	嘉数道彦、花城英樹、玉城匠	50人	100.0%
組踊	組踊ワークショップ in まつもと市民芸術館	9/23	まつもと市民芸術館 スタジオ2	無料	嘉数道彦、花城英樹、玉城匠	45人	100.0%
組踊	おでかけワークショップ in 浦城小学校	7/2	浦添市立浦城小学校 体育館	無料	嘉数道彦、大城貴幸、玉城匠	362人	-
組踊	おでかけワークショップ in 沖縄尚学高 校附属中学校(琉球舞踊編)	7/4	沖縄尚学高等学校附 属中学校講堂	無料	嘉数道彦、佐辺良和、大城貴 幸	310人	-
組踊	おでかけワークショップ in 高嶺小学校	7/9	糸満市立高嶺 小学校体育館	無料	嘉数道彦、仲村逸夫、玉城匠	105人	-
組踊	おでかけワークショップ in 興南高校	8/29	興南高等学校体育館	無料	嘉数道彦、仲村逸夫、玉城匠	350人	-
組踊	おでかけワークショップ in 沖縄尚学高校附属中学校(組踊編)	9/11	沖縄尚学高等学校附 属中学校講堂	無料	嘉数道彦、仲村逸夫、玉城匠	310人	-

組踊	組踊ワークショップ	10/5	国立劇場おきなわ養成研修室	無料	川満香多、天願雄一、大城貴幸	22人	100.0%
組踊	おでかけワークショップ in 神森中学校	10/8	浦添市立神森中学校体育館	無料	嘉数道彦、大城貴幸、玉城匠	290人	-
組踊	外国人のための組踊ワークショップ	10/19	国立劇場おきなわ養成研修室	無料	川満香多、天願雄一、玉城和樹	26人	94.7%
組踊	おでかけワークショップ in 沢岷小学校	12/17	浦添市立沢岷小学校体育館	無料	嘉数道彦、仲村逸夫	232人	-
組踊	パリ公演ワークショップ 組踊レクチャー「女形ができるまで～化粧から着付けまで」	12/7	国際交流基金パリ日本文化会館	5ユーロ	嘉数道彦、佐辺良和	29人	-
組踊	パリ学校ワークショップ	12/5	Campus Montessori	無料	嘉数道彦、花城英樹、佐辺良和、平良大	32人	-
組踊	パリ学校ワークショップ	12/5	Eveil et Moi Ecole montessori	無料	嘉数道彦、花城英樹、佐辺良和、平良大	17人	-
組踊	組踊ワークショップ in 岡山	1/14	岡山市立岡山後楽館中学校	無料	佐辺良和、嘉数愛美、新垣俊道	86人	80.2%
組踊	組踊ワークショップ in 茅ヶ崎市民文化会館	2/8	茅ヶ崎市民文化会館練習室1	無料	嘉数道彦、大城貴幸	24人	100.0%
組踊	組踊ワークショップ	2/22	国立劇場おきなわ養成研修室	無料	川満香多、佐辺良和、玉城和樹	11人	100.0%
組踊	組踊ワークショップ	3/21	国立劇場おきなわ養成研修室	無料	天願雄一、比嘉大志、仲嶺良盛	7人	100.0%

- ・ 国立劇場おきなわでは、研修修了者を中心に起用して組踊ワークショップを県内で16回、県外で7回実施した。また、組踊紙芝居の読み聞かせを沖縄県立図書館で2回実施した。
- ・ 「子の会」では文化庁の補助事業として、県外小学校・支援学校(8校)で組踊ワークショップ及び本公演を実施した。沖縄県の補助事業として本島内の中学校・高等学校(9校)及び離島6校(小・中学校)で、組踊公演を行った。

③応募者の確保

区分	イベント名	日程	会場	料金	内容	参加者数	当選者数	応募者数	満足回答率
歌舞伎	令和元年度第1回歌舞伎(俳優・音楽)研修見学会	11/10 11:30～	国立劇場研修室	無料	研修風景見学、研修制度についての説明、質疑応答	21人	23人	26人	100.0%
歌舞伎	令和元年度第2回歌舞伎(俳優・音楽)研修見学会	12/7 13:00～	国立劇場研修室	無料	研修風景見学、研修制度についての説明、質疑応答	24人	23人	23人	100.0%
歌舞伎	令和元年度第3回歌舞伎(俳優・音楽)研修見学会	1/19 13:00～	国立劇場研修室	無料	研修風景見学、研修制度についての説明、質疑応答	28人	32人	44人	100.0%
大衆芸能	令和元年度第1回寄席囃子研修見学会	12/7 10:30～	国立劇場研修室	無料	研修風景見学、研修制度についての説明、質疑応答	18人	18人	18人	100.0%
大衆芸能	令和元年度第2回寄席囃子研修見学会	1/19 10:30～	国立劇場研修室	無料	研修風景見学、研修制度についての説明、質疑応答	24人	25人	33人	100.0%
能楽	第11期能楽(三役)研修第1回研修見学会	12/18	研修能舞台	無料	研修修了者(笛方森田流)、若手能楽師(大鼓方葛野流)のデモンstrーション及びお話と、養成係員による研修についての説明。	10人	12人	12人	100%
能楽	第11期能楽(三役)研修第2回研修見学会	1/15	研修能舞台	無料	研修修了者(ワキ方宝生流・太鼓方観世流)、研修講師(狂言方大蔵流)のデモンstrーション及びお話と、養成係員による研修についての説明。	9人	10人	10人	100%
文楽	伝統芸能伝承者養成事業の概要 一文楽研修制度を中心に	6/19	大阪府立東住吉高等学校	無料	大阪府立東住吉高等学校芸能文化科3年生36名を対象に、企画制作課養成係職員により実施。	36人	-	-	-

■第 25 期歌舞伎俳優、歌舞伎音楽(第 24 期竹本・第 17 期鳴物)、大衆芸能(第 16 期寄席囃子)研修生募集

- ・公演プログラム等における募集案内
 - ◇6・7月歌舞伎鑑賞教室、10～初春歌舞伎公演 ※歌舞伎俳優は11月公演から
 - ◇8月「第21回音の会」「第25回稚魚の会・歌舞伎会合同公演」
 - ◇振興会ニュース8～1月号(10～1月号はHP掲載の修了者インタビューを抜粋・転載)
 - ◇あぜくら会報10月号
- ・公演チラシにおける募集案内
 - ◇8月「第21回音の会」「第25回稚魚の会・歌舞伎会合同公演」
 - ◇9月、10月、12月、正月演芸場定席公演(大衆芸能)
- ・公演中ロビー等での募集案内
 - ◇6月歌舞伎鑑賞教室…字幕モニターにて募集案内。ロビーにおいて養成事業紹介DVDを放映
 - ◇7月歌舞伎鑑賞教室…字幕モニターにて募集案内。ロビーにおいて養成事業紹介DVDを放映
 - ◇8月「第21回音の会」「第25回稚魚の会・歌舞伎会合同公演」…休憩時間に場内放送。ロビーにおいて養成事業紹介DVDを放映
 - ◇8月全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演…ロビーにおいて養成事業紹介DVDを放映(8/24・25)
 - ◇12月文楽鑑賞教室…ロビーにおいて養成事業紹介DVDを放映
- ・ちらし送付
 - ◇全国の高等学校、文化施設、図書館、マスコミ、楽器店等
 - ◇全日本郷土芸能協会会報誌にチラシ同封
 - ◇地歌舞伎保存会へのチラシ送付
 - ◇歌舞伎座、明治座、御園座、博多座、松竹座等
 - ◇第43回全国高等学校総合文化祭(2019 さが総文)(7/27～8/1)
 - ◇芸術系教科等担当教員等研修会(12/13～14 京都市立芸術大学、12/26 熊本会場宇土市民会館、1/25 徳島文理大学)
 - ◇全国高校生伝統文化フェスティバル(12/15 京都コンサートホール)
- ・ネットでの情報発信
 - ◇振興会HP・メールマガジン・Twitter・You Tube・Instagram
 - ◇関係団体等の団体ホームページに掲載(「歌舞伎美人」「歌舞伎 on the Web」「落語協会」「落語芸術協会」「四季の美」等)
 - ◇研修生募集HPの内容を充実。講師及び修了者インタビュー、研修風景の動画、時間割等を掲載。
- ・テレビ、新聞等の露出
 - ◇NHK前橋放送(10/2)
 - ◇BSフジ「人間宝談」(1/4)竹本葵太夫師の対談番組の中で、国立劇場での指導の様子を紹介
 - ◇デーリー東北(1/16)、陸奥新報・京都新聞・徳島新聞(1/17)、岩手日日(1/21)
※いずれも時事通信社配信記事
 - ◇読売新聞(1/22)
- ・研修生募集広告の掲載
 - ◇インターネット広告(Google、Yahooのリスティング広告・ディスプレイネットワーク広告)
 - ◇「KENSYO」秋号(9/26)(歌舞伎音楽)
 - ◇新聞広告(朝日、読売、産経)
 - ◇雑誌広告(演劇界、日本舞踊、邦楽の友、邦楽ジャーナル、東京かわら版)
 - ◇フリーペーパー「メトロガイド」
 - ◇歌舞伎座初春大歌舞伎、新橋演舞場初春歌舞伎、浅草公会堂新春浅草歌舞伎 筋骨広告
 - ◇駅貼りポスター(10月～1月、新宿、渋谷、池袋、上野他)
- ・文部科学省、文化庁の広報部門と連携し、省庁ホームページ、SNS、プレスリリース等で募集告知
- ・伝統芸能情報館企画展示「かぶき入門」において、歌舞伎音楽研修生募集の告知コーナーを設置。竹本、鳴物で使用する楽器等を展示して興味を喚起し、併せてポスター・チラシを掲出・配架した。
- ・演芸資料展「寄席で見る・聴く一紙切りと寄席囃子」において募集案内コーナーを設置(大衆芸能)

■第 11 期能楽(三役)研修生募集

- ・公演プログラム等における募集案内
 - ◇振興会ニュース7～1月号、国立能楽堂プログラム7～1月号、振興会メールマガジン10月3日号

(本館と合同)振興会ニュース 10～12月号、国立能楽堂プログラム 10～12月号、あぜくら会報 12月号、振興会メールマガジン 12月3日号・12月10日臨時号(本館と合同)

- ・公演中ロビー等での募集案内
 - ◇ 能楽鑑賞教室の開催にあわせて能楽堂内に配架
- ・DM送付
 - ◇ 武蔵野大学能楽資料センター
 - ◇ 文楽劇場文楽鑑賞教室案内に同封
 - ◇ 全国祭資料館・祭囃子保存会
 - ◇ 全国能楽堂・大学能楽サークル・ホール・美術館・博物館
 - ◇ 全国の高等学校、文化施設、図書館、マスコミ、楽器店等(本館と合同)
- ・ネットでの情報発信
 - ◇ 振興会HPに研修生募集特設ページをオープン、応募要項掲載・修了者や若手能楽師のインタビュー掲載
 - ◇ 振興会メールマガジン 12月3日号・12月11日臨時号・1月3日号・1月10日臨時号(本館と合同)
 - ◇ YouTubeに修了者インタビュー動画配信
 - ◇ 振興会Twitterに研修見学会の広告投稿(12/18、1/15)
 - ◇ 文部科学省メールマガジン(12/3日号)
- ・研修生募集広告の掲載
 - ◇ 俳優・声優なるサイトエデュパ
 - ◇ 雑誌「観世」9月
 - ◇ 「能狂言ホームページ」バナー設置
 - ◇ インターネット広告(Google、Yahooのリスティング広告・ディスプレイネットワーク広告)
 - ◇ 新聞広告(朝日、読売、産経)(本館と合同)
 - ◇ 駅貼りポスター(JR千駄ヶ谷駅・都営地下鉄国立競技場駅・東京メトロ北参道駅)
 - ◇ ラジオ(狛江エフエム)「日本の文化のそのあした」(MC 中村昌弘)に養成係職員が出演し募集を告知

■第30期文楽研修生募集に向けた研修事業の紹介(募集年度は令和2年度)

- ・文楽研修案内ポスターとチラシを劇場内に掲出・配架して研修事業を紹介。
- ・6月文楽鑑賞教室、6月文楽若手会(大阪)、第29期文楽研修発表会、8月・2月若手素浄瑠璃の会の公演期間中に、劇場ロビー内に研修事業紹介ブースを設け、チラシ・パンフレットを置き、研修風景映像を放映。
- ・文楽研修案内チラシを配布。
 - ◇ 「the nextage 2019 『アンティゴネ』『うちの子は』」(5/16～19、インディペンデントシアター 2nd)
 - ◇ 「中之島文楽公演」(10/4～5、大阪府中央公会堂)
 - ◇ 京都造形芸術大学通信教育部スクーリング(11/17)
 - ◇ 令和2年度6月文楽鑑賞教室案内DM(11/5)に同封(2,827件)
- ・学校団体へ文楽研修用具「文楽体験(太夫・三味線)セット」を貸付。(5月下旬～)
- ・特別授業「独立行政法人日本芸術文化振興会の業務と意義」において、研修事業内容を紹介
6/19、大阪府立東住吉高等学校
講師：企画制作課養成係職員 参加者 36名(同校芸能文化科3年)

■第6期組踊研修生募集

- ・振興会が発行する会報誌に募集記事掲載(振興会ニュース9月号)
- ・チラシ配布
 - ◇ 8月～9月の募集期間中、国立劇場おきなわ大劇場ロビー、楽屋口、楽屋内、大稽古室前広場へチラシを設置。エントランスへポスターを掲示。
 - ◇ 8月友の会会報へチラシを同封。
- ・7月県内の中・高等学校、大学、各自治体、文化施設、図書館、マスコミ、伝統芸能研究所、県外沖縄県人会等、計約750件宛に研修生募集案内のチラシ・ポスターを送付。
- ・7月9日国立劇場おきなわホームページに「研修生募集中」を掲載。

- ・ 7月16日県内テレビ情報番組にて研修生募集を告知
- ・ 沖縄県広報誌にて研修生募集を掲載(8月号)
- ・ 8月29日県内ラジオ番組にて研修生募集を告知。
- ・ 9月25日組踊上演300周年記念事業実行委員会のフェイスブックに研修生募集案内を掲載。
- ・ 9月30日募集締め切り。応募者数18名 内訳：立方11名、地方7名。

④伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義

- ・ 五館合同特別講義、研修生交流会(12/12)
 - 講 師：牧阿佐美(新国立劇場バレエ研修所長)
 - 講義内容：「良き舞台人になるために」
 - 会 場：新国立劇場オペラ劇場(劇場見学)、地下2階オーケストラリハーサル室(講義)、レストラン マエストロ(交流会)
 - 参 加 者：研修生49名(歌舞伎俳優4名、長唄1名、寄席囃子2名、能楽3名、文楽2名、組踊10名、オペラ研修所第22期生5名、バレエ研修所第16期生7名、演劇研修所第15期生15名)

⑤公演制作者・舞台技術者等に対する研修の受入れ、外部研修への協力等

- ・ 沖縄県教育委員会からの要請により、浦添商業高等学校(7/22～24)、那覇工業高等学校(9/25～27)、中部商業高校(10/16～18)、浦添高校(11/12～14)、那覇高校(11/18～19)からのインターンシップを受け入れ、劇場業務について実践で学ぶ場を提供した。
- ・ 静岡・神奈川における歌舞伎鑑賞教室の共催公演に際して、本館大劇場での上演時に担当した舞台技術職員及び業務委託先のスタッフを現地に派遣し、公演の仕込み・舞台稽古・本番に至るプロセスを各会場の担当者と協力して行うことで、歌舞伎の上演に係る国立劇場の技術やノウハウを提供した。
- ・ 国立劇場本館において継承されてきた伝統芸能の上演に係る舞台技術を、外部研修等で紹介するためのテキストとして、舞台・照明・音響・舞台監督・舞台美術の各章から成る冊子「国立劇場の舞台技術—伝統芸能の上演のために—」を刊行した。

3 - (2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

《中期計画の概要》

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

高い技術と豊かな芸術性を備えた実演家等を育成するため、実演家等の研修を次のとおり実施

ア 民間団体の役割を踏まえつつ、グローバルな視点に立った体系的なカリキュラム等により、安定的、継続的に実演家の育成を行うよう留意

外部専門家等の意見を聴取し、成果の検証を行い、長期的視点を踏まえて対象とする分野、人数等について不断の見直しを実施

イ オペラ研修及びバレエ研修については、国際的な活躍が期待できる水準の実演家を育成することを目標とし、演劇研修については、確かな演技力等を備えた次代の演劇を担う実演家を育成することを目標として、第一線で活躍する各分野の専門家等を講師とし、実践的・体系的なカリキュラムにより、次の研修を実施

① オペラ研修(研修期間3年間)

② バレエ研修(研修期間2年間)

③ 演劇研修(研修期間3年間)

(3) 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項

ア 養成・研修事業に関する国民の関心の喚起、理解促進のための、研修修了者の活動状況等を分かりやすく示すなどの広報活動の充実

イ 学校等との連携による養成・研修成果の活用や、研修生・研修修了者等が実演経験を積む機会の充実のための児童・生徒等の体験学習や劇場外における様々な文化普及活動への積極的参画

ウ 効果的かつ効率的な募集活動、研修見学会等について検討

エ 幅広い分野で養成・研修事業を実施している振興会の特長を活かした、合同研修の実施等、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流の実施

オ 国立劇場、新国立劇場等の人材や施設を活用した公演制作者や舞台技術者等の実地研修等の受入れ、協力

《年度計画の概要》

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

ア 民間団体の役割を踏まえつつ、グローバルな視点に立った体系的なカリキュラム等により、安定的、継続的に実演家の育成を行うよう留意

外部専門家等の意見を聴取し、成果の検証を行い、長期的視点を踏まえて対象とする分野、人数等について不断の見直しを実施

研修発表会等のうち、国際文化交流の進展に寄与する公演等を別表 8 のとおり実施

① オペラ研修(研修期間3年)

(a) 第20期生(5名)の3年目の研修(修了)

(b) 第21期生(5名)の2年目の研修

(c) 第22期生(5名)の1年目の研修

(d) 第23期生(5名程度)の募集

(e) 研修発表会等を別表9のとおり実施

(f) 修了後の国際的なキャリア形成を目標とし、9月～10月と3月に海外研修を行う

② バレエ研修(研修期間2年)

(a) 第15期生(6名)の2年目の研修(修了)

(b) 第16期生(7名)の1年目の研修

- (c) 第17期生(6名程度)の募集
- (d) バレエ予科生について、次のとおり研修及び募集を行う。
 - ・ 第10期生(3名)の2年目の研修
 - ・ 第11期生(1名)の1年目の研修
 - ・ 第12期生(若干名)の募集
- (e) 研修発表会等を別表9のとおり実施
- (f) 修了後の国際的なキャリア形成を目標とし、海外研修を行う
- ③ 演劇研修(研修期間3年)
 - (a) 第13期生(10名)の3年目の研修(修了)
 - (b) 第14期生(12名)の2年目の研修
 - (c) 第15期生(16名)の1年目の研修
 - (d) 第16期生(16名程度)の募集
 - (e) 研修発表会等を別表9のとおり実施

イ 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項

- ① 研修事業についての国民の関心を喚起し、理解の促進を図るため、ホームページ等で事業の周知に努める
- ② 学校等との連携による研修成果の活用及び研修生等が実演経験を積む機会の充実を図るため、様々な文化普及活動への参画に努める
- ③ 研修生募集について、ホームページでの告知、研修紹介映像の活用、研修説明会・見学会の実施等により周知し、応募者の確保に努める
- ④ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義を実施して、両分野の相互交流を図る
- ⑤ 国の文化芸術に関する施策との連携に留意しつつ、新国立劇場等の人材や施設を活用し、公演制作者や舞台技術者等に対する実地研修の受入れや、外部研修への協力等に努める

《中期目標の指標・関連指標》

3-1 研修発表会の開催回数 (前中期目標期間実績の維持)	11 公演 (H25-29 実績平均：9.8 公演)
3-3 事業の周知、研修志望者の研修内容への理解や応募者の増加に関する取組の実施状況(研修見学会や広報活動の内容等)	P. 185 に掲載
3-4 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修について、目標に従い業務を実施しているか(評議員会の評価を踏まえ判断)	
3-A 公演制作及び舞台技術等に関する人材養成の取組状況(公演制作者や舞台技術者等の実地研修の受入れ状況等)	P. 186 に掲載

ア 安定的、継続的な実演家の育成

《研修方針》

オペラ研修所では、プロのオペラ歌手としての舞台活動を目指している人のために、国際的なレベルの研修を行うことを目的として3年制の研修を行う。各種音楽レッスンを行うほか、語学、演技、発声法等、オペラ歌手として必要な技能を総合的に研修する。また、コンサート、試演会、修了公演等聴衆を意識した演奏や舞台経験を積み、新国立劇場主催公演への出演をはじめ、海外歌劇場の舞台に立てる人材育成を目指す。

バレエ研修所ではプロのダンサーを目指す者のために、ダンサーとして必要な技能の研鑽、知識と教養の付与及び舞台実習を行うことを目的として、2年制の研修を行う。また、予科生を募集し、資質や将来性ある若年層に、心身の柔軟な時期に古典バレエの基礎的技術を徹底して習得する機会を提供する。

演劇研修所は、明晰な日本語を使いこなし、柔軟で強度のある精神と身体を備えた次世代の演劇界を担える人材の育成を目的として、3年制の研修を行う。1、2年次は基礎的俳優訓練とともに、第一線の演出家や俳優指導の専門家を軸とする講師陣によるシーンスタディを展開し、3年次には修了公演に向けて数本の舞台実習公演を行う。

①研修の概要

	区分	研修期間	年度計画	研修実績	うち修了者
オペラ	20期(3年次)	3年	5名	5名	5名
	21期(2年次)		5名	5名	—
	22期(1年次)		5名	5名	—
バレエ	15期(2年次)	2年	6名	5名	5名
	16期(1年次)		7名	7名	—
バレエ 予科	10期(2年次)	2年	3名	3名	3名
	11期(1年次)		1名	1名	—
演劇	13期(3年次)	3年	10名	9名	9名
	14期(2年次)		12名	12名	—
	15期(1年次)		16名	15名	—

②主な授業等の概要

区分	授業内容			
オペラ	実技	第20期 第21期 第22期	476回 424回 504回	オペラ実習、身体表現
	座学	第20期 第21期 第22期	142回 157回 161回	特別講義(サロン)、五館合同特別講義、語学(英語、イタリア語、ドイツ語、ロシア語)
	その他	第20期 第21期 第22期	41回 41回 41回	舞台実習、舞台鑑賞、見学
バレエ	実技	第15期 第16期	438回 478回	クラシック・バレエ、キャラクター、コンテンポラリー・ダンス、身体表現
	座学	第15期 第16期	48回 63回	講義、特別講義(サロン)、五館合同特別講義、語学(英語)
	その他	第15期 第16期	24回 8回	舞台実習、舞台鑑賞、見学
バレエ 予科	実技	第10期 第11期	460回 442回	クラシック・バレエ、身体表現ほか
	座学	第10期 第11期	50回 51回	特別講義(サロン)、語学(英語)ほか

	その他	第 10 期 第 11 期	6 回 8 回	舞台実習ほか
演劇	実技	第 13 期 第 14 期 第 15 期	152 回 319 回 299 回	演劇実習、演技/シーンスタディ、歌唱、ダンス、声とことば、所作、トレーニング、日本舞踊、三味線、狂言ほか
	座学	第 13 期 第 14 期 第 15 期	10 回 18 回 43 回	講義、特別講義(サロン)、五館合同特別講義、戯曲をよむ、戯曲研究、日本演劇史、西洋演劇史
	その他	第 13 期 第 14 期 第 15 期	77 回 93 回 100 回	国内研修、特別活動(アウトリーチ)、観劇、美術、見学、公演スタッフ研修、ほか

- ・第一線で活躍する講師陣のもと、実践的・体系的なカリキュラムによって研修を実施した。その成果は、発表会、試演会、修了公演等で広く示され、観客及び専門家から高い評価を得ることができた。(オペラ及びバレエの修了公演は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止、関係者以外は非公開の高度な舞台稽古へ切替となった。)

《オペラ研修》

- ・個々の研修生のアリアや歌曲の技量向上を目指すだけではなく、1年に1本を目安としてオペラの1つの役を習得することを目指したレパトリーレッスンを取り入れたことにより成果が見られた。
- ・オペラの舞台で必須となるアンサンブル稽古の充実や、シーンスタディの授業により、身体表現をより充実させることができた。

《バレエ研修》

- ・稽古場を花伝舎のほか新宿村スタジオにも増設。クラスレッスンの男性クラス・予科生クラスを新たに設置。男性特有のテクニックの習得、また年齢による進捗状況の違いにも対応できるようになった。
- ・五館合同講義では牧所長が講師を務められ、大変貴重な講話を伺うことが出来た。
- ・演劇基礎研修では昨年引き続き演劇研修所生との合同授業実施。表現面での成果の向上に繋がった。

《演劇研修》

- ・全日本空輸株式会社は、海外研修サポート等を行う「ANA スカラシップ」制度に加えて、4月より新国立劇場若手俳優育成のための国内研修事業支援(演劇研修所の国内研修に関わる航空券のサポート)を開始。
- ・演劇研修所第 13 期生が「新国立劇場若手俳優育成のための国内研修事業支援」にて、国内研修を実施。(5/13~17、沖縄県那覇市内ほか)
- ・演劇研修所第 13 期生が東京都立葛飾盲学校を訪問し、お話鑑賞会を行ったほか、芸団協主催の文化体験プログラムに参加し、子どもたちに演劇の楽しさを広めるとともに演劇研修所の存在を周知し、アウトリーチ活動を行った。修了生が出演しての平和祈念展示資料館でのリーディング公演も実施した。

《海外研修》

- ・「ANA スカラシップ」制度により、オペラ研修所第 21 期生が海外研修を実施。(9/13~10/7、ミラノ・スカラ座アカデミー)
- ・「ANA スカラシップ」制度により、バレエ研修所第 15 期生が海外研修を実施。(11/11~30、A.Y. ワガノワ記念ロシア・バレエ・アカデミー)
- ・「ANA スカラシップ」制度により、オペラ研修所第 20 期生が海外研修を実施(ミュンヘン・バイエルン州立歌劇場付属オペラ研修所にて 3/7~23 予定のところ、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため 3/15 で切り上げ帰国)
- ・いずれも現地講師による熱心な指導を受け、研修生にプロとしての自覚、将来の目標、世界の舞台を意識させる貴重な機会となった。

《国際交流》

- ・中劇場を使用したガラ・コンサート「NNTT Young Opera Singers of Tomorrow 2019」を実施した(10/29)。直前まで行われた海外招聘講師によるレッスンに加え、21 期生にとってはミラノ研修の成果発表の場となった。
- ・「バレエ・アステラス 2019」では、10 回記念公演ということでオペラ劇場では初の 2 回公演を実施。海外で活躍する日本人ダンサー及びカナダ国立バレエ学校の生徒との交流を深め、同じ舞台に立ったことは、研修生にとって貴重な機会となった。

- ・演劇研修では、昨年度のオペラ研修に続く文化プログラム「研修主管国際交流プロジェクト」の一環である日英演劇アカデミー国際交流公演「怪物/The Monster」で、英国マンチェスター・メトロポリタン大学演劇学校と協力し、第14期生と同校の学生が共に一つの作品を創り上げた。講師、研修生同士の交流も、今後、発展することができる関係性を築けた。(8/3～5)

《受賞等》

- ・第23回松方ホール音楽賞声楽部門において、オペラ研修所第21期生 増田貴寛が松方ホール音楽賞を受賞。
- ・日本トスティ歌曲コンクール2019において、オペラ研修所第20期生 濱松孝行が1位入賞及びトスティ・日本歌曲賞(日本歌曲部門)他を、第21期生 井上大聞が4位入賞およびトスティ・特別賞を受賞した。
- ・第88回日本音楽コンクールの声楽部門において、第15期修了生 小堀勇介が第1位を受賞した。
- ・オペラ研修所第18期修了生 砂田愛梨が令和2年度(第31回)五島記念文化賞オペラ新人賞を受賞した。
- ・第26回中川鋭之助賞をバレエ研修所10期修了の木村優里(新国立劇場バレエ団ファーストソリスト)が受賞した。

③研修発表会等の実施

(a) 研修公演(一部再掲)

区分	公演名	会場	期間	回数	入場者数	入場率
オペラ研修	オペラ試演会「イオランタ」	新国立劇場 小劇場	6/28～30	3回	684人	74.5%
オペラ研修	「NNTT Young Opera Singers of Tomorrow 2019」～歌曲とオペラアリアの夕べ～	新国立劇場 中劇場	10/29	1回	231人	38.4%
オペラ研修	修了公演「フィガロの結婚」	新国立劇場 中劇場	2/28～3/1	3回	※	
バレエ研修	「バレエ・アステラス2019」	新国立劇場 オペラ劇場	8/3～4	2回	1,590人	44.4%
バレエ研修	「バレエ・オータムコンサート2019」	新国立劇場 中劇場	11/2～3	2回	1,156人	57.9%
バレエ研修	修了公演「エトワールへの道程2020」 新国立劇場バレエ研修所の成果	新国立劇場 中劇場	3/7～8	2回	※	
演劇研修	日英演劇アカデミー国際交流公演 「怪物/The Monster」	新国立劇場 小劇場	8/3～5	3回	670人	81.7%
演劇研修	朗読劇「ひめゆり」	新国立劇場 小劇場	8/9～12	4回	807人	82.7%
演劇研修	朗読劇「ひめゆり」	国立劇場おきなわ 小劇場	8/21	1回	160人	62.7%
演劇研修	試演会「会議」	新国立劇場 小劇場	10/25～30	6回	817人	52.0%
演劇研修	修了公演「社会の柱」	新国立劇場 小劇場	2/21～26	6回	1,126人	74.5%

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、非公開開催とした。

- ・オペラ研修所の試演会「イオランタ」ではオペラ研修所では初となるロシアオペラに取り組んだ。また修了公演では連携協定大学から役付き及び合唱の賛助出演者を募り、協力して舞台を創り上げた。研修生はそれぞれ日頃の研修成果を大いに発揮してレベルの高い公演ができた。アンケート調査においても非常に高い満足度を得ることができた。
- ・バレエ研修公演においては、クラシカル・バレエでは古典作品からの抜粋やパ・ド・ドゥを取り上げ、研修生がそれぞれの持ち味を活かした役を演じ、日々の研修の成果を発揮することができた。また6年ぶりの上演となるスパニッシュ・ダンスやビントレー前舞踊芸術監督から直接指導を受けたセミクラシック作品にも挑戦し、表現の幅を広げることができた。
- ・演劇研修所第13期生の朗読劇、試演会、修了公演とも多くの観客に研修の成果を披露することができた。朗読劇では東京公演に続き戯曲の舞台となる沖縄での公演を実施。公演に先立ち、全日本空輸株式会社による新国立劇場若手俳優育成のための国内研修事業支援を受けて沖縄での研修を行った。国立

劇場おきなわとの初めての連携により同館小劇場にて行われた公演は、国内研修の成果を発揮して、密度の濃い舞台となった。研修所初めての別役実戯曲に挑戦した試演会「会議」では、不条理演劇という異なる作品群への取り組み方を学んだ。修了公演「社会の柱」では、イプセンの大作に挑み、骨太の台詞劇を懸命に演じた。各公演の成果はマネジメント事務所からも高い評価を得て、修了後の進路選定に奏功した。

- ・演劇研修所の2年次生である第14期生が英国マンチェスター・メトロポリタン大学演劇学校の学生とともに「怪物/The Monster」の舞台を創り上げるという貴重な機会を得た。また第15期生は研修公演において舞台裏や表周りのスタッフとして参加し、公演創作に関わる多くのことを学んだ。

(b) その他出演

- ・観客参加型の避難訓練を兼ねた「第4回避難体験オペラコンサート」(9/18、小劇場)にオペラ研修所研修生が出演した。

④次年度の検討、募集

区分	選考日	応募者数	受験者数	合格者数	備考
オペラ	10/4～9	40名	38名	4名	願書受付(8/5～26)
バレエ	12/8～23	42名	40名	6名	願書受付(10/1～21)
バレエ予科	12/7～23	35名	35名	5名	願書受付(10/1～21)
演劇	1/22～26	85名	66名	16名	願書受付(12/2～19)

⑤外部専門家等の意見聴取、成果の検証、対象分野・人数等の不断の見直し

- ・研修事業委員会を開催し、30年度の成果検証に基づき今後の方向性の検討を行った(6/12)。外部専門家である研修事業委員と各研修所所長が研修所の現状を確認し、研修所の環境、研修内容の改善について意見を交わした。
- ・研修事業委員に授業、公演の視察を依頼し、レポートにて意見を聴取した。
- ・各研修所において定期的に講師会等を開催し、研修内容や今後の方向性について話し合いを行った。

イ 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項

①ホームページ等での事業の周知

- ・ホームページやSNS(Facebook, Twitter, tumblr)を活用し、研修の実施状況、研修公演の稽古、公演の様子等を随時発信した。各研修所が専用のSNSを開設していることで連続性のある効果的な発信が可能となり、きめ細かな情報発信に奏功した。
- ・ANA国内線の機内にて、バレエ研修所の海外研修の様子を紹介する映像を放映。(4/1～30)
- ・ANA国内線機内にて、「ANAスカラシップ」により9～10月に行われたオペラ研修生の海外研修の研修風景、及びその成果発表として10月29日に開催したガラ・コンサート「Young Opera Singers of Tomorrow 2019」の紹介映像を放映(2月、1ヶ月間)。
- ・ANA国内線機内にて、「新国立劇場若手俳優育成のための国内研修事業支援」のサポートにより実施した、沖縄国内研修および朗読劇「ひめゆり」の様子を紹介する動画を放映。(令和2年・4/1～30)
- ・修了生の活動状況を定期的に把握し、その成果をHPに掲載するとともに研修公演会場におけるパネル展示等で紹介。
- ・研修所の存在及び研修内容を広く周知し、将来的に優秀な研修生の確保に資することを目的として、バレエ研修所では8月に夏期特別講習会を実施した。演劇研修所では8月と11月にオープンスクールを実施したほか、10～12月に説明会を開催した。東京での2回に加え、兵庫県(尼崎市)と宮城県(仙台市)でも開催した。

②学校等との連携による研修成果の活用、様々な文化普及活動への参画

区分	イベント名	期間	会場	料金	出演者・内容・備考等	参加者数
演劇研修	芸術体験ひろば「あそぶんぶんとわくわくの森」	5/5	芸能花伝舎内演劇研修所	無料	演劇研修所第13期研修生、飯原道代講師	51人
演劇研修	演劇研修所 お話鑑賞会	6/24	東京都立葛飾盲学校	無料	演劇研修所第13期研修生、飯原道代講師	39人
演劇研修	平和祈念展示資料館 秋の特別イベント	11/3	平和祈念展示資料館	無料	演劇研修所修了生、宮田慶子演劇研修所長	77人

③応募者の確保

区分	イベント名	日程	会場	料金	内容	参加者数	応募者数	満足回答率
バレエ研修	バレエ研修所 夏期特別講習会	8/23	新国立劇場 バレエリハーサル室 ほか	7,560 円	次年度入所希望者を対象 にクラスレッスン等を実施	72 人	72 人	97.0%
演劇研修	演劇研修所 オープンスクール	8/24	新国立劇場 A リハーサル室	2,500 円	カリキュラムの一部を体験	37 人	37 人	89.0%
演劇研修	演劇研修所 説明会	10/26	新国立劇場 小劇場クローク前	無料	研修所概要説明(カリキュ ラム・研修内容)、選考試験 の説明	32 人	35 人	100.0 %
演劇研修	演劇研修所 オープンスクール	11/16	新国立劇場 D リハーサル室	2,000 円	カリキュラムの一部を体験	27 人	31 人	100.0 %
演劇研修	演劇研修所 説明会	11/17	ピッコロシアター (兵庫)	無料	研修所概要説明(カリキュ ラム・研修内容)、選考試験 の説明、ミニワークショップ	21 人	22 人	95.0%
演劇研修	演劇研修所 説明会	11/23	せんだい演劇工房 10-BOX	無料	研修所概要説明(カリキュ ラム・研修内容)、選考試験 の説明、ミニワークショップ	4 人	5 人	100.0 %
演劇研修	演劇研修所 説明会	12/7	芸能花伝舎内 新国立劇場 演劇研修所	無料	研修所概要説明(カリキュ ラム・研修内容)、選考試験 の説明	22 人	35 人	100.0 %

④伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義

- ・五館合同特別講義、研修生交流会(12/12)

講 師：牧阿佐美(新国立劇場バレエ研修所長)

講義内容：「良き舞台人になるために」

会 場：新国立劇場オペラ劇場(劇場見学)、地下2階オーケストラリハーサル室(講義)、レスト
ラン マエストロ(交流会)

参 加 者：研修生 49 名(歌舞伎俳優 4 名、長唄 1 名、寄席囃子 2 名、能楽 3 名、文楽 2 名、組踊
10 名、オペラ研修所第 22 期生 5 名、バレエ研修所第 16 期生 7 名、演劇研修所第 15 期
生 15 名)

⑤公演制作者・舞台技術者等に対する研修の受入れ、外部研修への協力

- ・舞台技術者、インターン等の受入れを行うとともに、公共劇場舞台芸術者連絡会、劇場・音楽堂等職員
舞台技術研修会、公共劇場技術者連絡会への職員の派遣、3月29日に開館を予定していた(新型コロナ
ウイルス感染症の拡大防止のため延期)山形県総合文化芸術館への協力、連携協定大学の学生に向けた
講義等、新国立劇場の人材及び施設を活用した取組を行った。

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する 調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施

並びに資料の収集及び活用	p.187
└ ア 伝統芸能に関する調査研究	p.190
└ イ 伝統芸能に関する資料の収集・活用	p.192
└ ウ 伝統芸能に関する公演記録の作成・活用、 普及活動の実施	p.199

(2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施

並びに資料の収集及び活用	p.203
└ ア 主催公演の上演作品等についての資料調査	p.205
└ イ 現代舞台芸術の図書・資料の収集・活用	p.205
└ ウ 資料等の展示公開	p.206
└ エ 現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、 普及活動の実施	p.207

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

自己評定	A
<p>自己評定の根拠</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歌舞伎・文楽の上演年表をPDFでweb公開し、初演から現在に至る上演記録を外題名、場名・段名、役名、出演者等、PDFで検索できるようにすることで、研究者のみならず、一般の愛好家まで研究成果の幅広い活用を図った。 ・国立能楽堂特別展「神戸女子大学古典芸能研究センター・神戸女子大学図書館所蔵 能狂言絵コレクション」の図録を刊行し、新知見の含まれた学術的に意義ある論考を掲載し好評を得た。 ・国立文楽劇場の開場35周年記念特別企画展示「紋下の家ー竹本津太夫家に伝わる名品ー」では、文楽劇場としては24年ぶりに図録を刊行した。 ・新国立劇場では主催公演の上演演目に関する調査研究の一環として、演劇部門で講座等を開催、オペラ部門でも新制作演目に関する講座を実施し、新しい切り口で作品内容への関心と理解を促した。 ・新国立劇場内オープンスペースに、舞台美術模型や衣裳、小道具などを展示する「初台アート・ロフト」を開設した。舞台美術家、衣裳デザイナーと協力して多彩な展示を行い、公演の有無にかかわらず劇場内で気軽に舞台芸術に親しめる環境を整えた。
<p>数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）</p>	<p>各ジャンル《公演実績》参照</p>
<p>主要な業務実績</p>	<p>(1) 伝統芸能分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査研究を計画どおり実施し、上演資料集、近代歌舞伎年表、演芸資料選書、未翻刻戯曲集、正本写合巻集、義太夫年表、冊封琉球全図、火花方日記を刊行したほか、歌舞伎俳優名跡便覧は、新たな調査で解明した100件の名跡を加えた第五次修訂版を8年ぶりに刊行した。 ・伝統芸能全般の文献(図書・解説書・台本・雑誌等)、図画(錦絵・番付・絵画等)、写真、映像・音声資料、舞台装置等の資料について、収集、分類整理を各館で実施。 <p>(2) 現代舞台芸術分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・劇場内オープンスペース、情報センター及び各劇場にて相互に連動した展示・イベントを実施。 ・台湾の台中国立歌劇院の舞台映像上映会にて、新国立劇場の舞台映像を上映。
<p>課題と対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究成果の活用・普及のため、歌舞伎・文楽上演資料集のうち、上演年表のweb公開を開始した。今後演目を増やしていく予定。 ・他館との連携を引き続き実現していくための方策を検討する。 ・デジタルコンテンツについて、現在のインターネット環境に適合しない内容のものが残っており、コンテンツのリニューアルを多言語化を含めて引き続き実施していく。 ・舞台美術センター資料館については、施設の有効利用の観点から各フロアの機能の見直しに着手したところであり、今後、その在り方について引き続き検討を行い、現中期計画期間内に結論を出すこととしたい。 ・現代舞台芸術の公演記録映像を一層活用し、国内外への発信、若年層への普及を図るために、権利処理や活用の方法について検討を続けたい。

〈1〉 伝統芸能分野

自己評定	A
<p>自己評定の根拠</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調査研究を計画どおり実施し、上演資料集、近代歌舞伎年表、演芸資料選書、未翻刻戯曲集、正本写合巻集を刊行したほか、歌舞伎俳優名跡便覧は、新たな調査で解明した100件の名跡を加えた第五次修訂版を8年ぶりに刊行した。 ・刊行した歌舞伎・文楽の上演資料集のうち、上演年表のPDFをweb公開し、初演から現在に至る上演記録を外題名、場名・段名、役名、出演者等、PDFを検索できるようにすることで、研究成果の幅広い活用を図った。 ・伝統芸能情報館では、太田記念美術館と連携して歌川豊国をテーマとした展覧会を開催し、両館の所蔵資料の交互借用、講座開催等の相互協力を行った。 ・資料の収集及び活用においては、錦絵、ブromaイド等の文化デジタルライブラリーへの登録を積極的に行った結果、計画に沿った成果を達成することができた。 ・伝統芸能情報館の企画展示の都度、シアタースペースで展示内容に因んだ公演記録映像や入門映像コンテンツの有効活用を図った。また、各館において展示と関連した講座を実施したことにより、伝統芸能とその関係資料に対する理解と興味を促した結果、高い満足度を得た。 ・国立能楽堂では新型コロナウイルス感染拡大のリスクを低減する観点により、2月28日から3月31日までの期間、資料展示室(収蔵資料展後期)と図書閲覧室を休業した。収蔵資料展以外の展示については来場者数が目標を超えた(達成度平均107.7%)。 ・国立能楽堂特別展「神戸女子大学古典芸能研究センター・神戸女子大学図書館所蔵 能狂言絵コレクション」の図録を刊行し、新知見の含まれた学術的に意義ある論考を掲載し好評を得た。 ・国立能楽堂のすべての展示では、外国人来場者を想定し、看板・バナー・キャプション・無料配布の出品目録を、日本語・英語・中国語(簡)・韓国語の多言語表記とした。 ・能楽初心者及び外国人の来場者を対象とした「外国人のための能楽鑑賞教室」「能楽鑑賞教室」「国立能楽堂ショーケース」「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」にあわせて、入門展「能楽入門」及び企画展「能のいでたち」の開催期間を設定し、能楽の普及に努めた。 ・国立能楽堂では初めて有料で、一般公募によるサロン形式の、「国立能楽堂サロン(特別講座・特別展内覧会)」「神戸女子大学古典芸能研究センター・神戸女子大学図書館所蔵能狂言絵コレクション」を試行した。特別展開催に先駆けて、特別展を監修した小林健二氏と樹下文隆氏を招き、対談を交えつつ本展のみどころを解説し、展示室でのギャラリートークも実施し好評であった。(特別展図録、茶菓付き) ・国立文楽劇場の開場35周年記念特別企画展示「紋下の家ー竹本津太夫家に伝わる名品ー」では文楽座の代表者である「紋下」を長く勤めた三代竹本津太夫とその長男で人間国宝に認定された四代竹本津太夫の家に伝わる名品の数々と関連資料を展示し、併せて文楽劇場としては24年ぶりに図録を刊行した。 ・国立劇場おきなわでは、組踊上演300周年を記念した展示、公演記録鑑賞会に加え、「執心鐘入をめぐって」と題した特別講座を5回、「1719年朝薫の舞台」と題した特別講座を3回実施した。また、野外公演で実演したからくり仕掛け花火等についての刊行本「火花方日記」を発刊した。
<p>数値目標の達成状況 実績/目標 (達成率)</p>	<p>文化デジタルライブラリーアクセス件数：741,046件/520,000件 (142.5%) 展示公開の実施回数：19回/19回 (100.0%) 展示公開の来場者数 228,990人/216,399人 (105.8%) 228,990人/198,565人 (115.3%) (災害等による中止分を除いた場合) 講座等の実施回数：54回/56回 (96.4%) (災害等による中止または延期：5回 これを勘案した場合の達成率は105.9%)</p>
<p>主要な業務実績</p>	<p>(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用</p>

- ・調査研究を計画どおり実施し、その成果を刊行した。歌舞伎俳優名跡便覧は、第四次修訂版の後の調査で判明した100件の名跡を加えた第五次修訂版を刊行した。表組も名跡ごとに襲名期間が見やすいように変更し、襲名、改名の典拠資料も可能な限り掲載し、利便性と資料としての正確性に一層配慮した。
- ・刊行した歌舞伎・文楽の上演資料集のうち、上演年表のweb公開を開始し、初演から現在に至る上演記録を外題名、場名・段名、役名、出演者等、PDFで検索できるようにすることで、研究者のみならず、一般の愛好家まで研究成果の幅広い活用を図った。
- ・伝統芸能全般の文献(図書・解説書・台本・雑誌等)、図画(錦絵・番付・絵画等)、写真、映像・音声資料、舞台装置等の資料について、収集、分類整理を各館で実施。
- ・外部展示への資料の貸出(18件)。
- ・錦絵150点、ブロマイド260点ほかのデータベース化、文化デジタルライブラリーへの登録、公開。
- ・令和2年末で技術的なサポートが終了する「歌舞伎編その1～3」に替えるため、小学生以上を対象に歌舞伎の基礎的な知識を日本語及び英語で解説する、PC、スマートフォン及びタブレットで視聴可能なコンテンツを制作した。
- ・各展示室において、利用者の利便性向上のため、展示解説文の多言語化を実施。
- ・国立能楽堂特別展「神戸女子大学古典芸能研究センター・神戸女子大学図書館所蔵 能狂言絵コレクション」の図録を刊行し、新発見の含まれた学術的に意義ある論考を掲載し好評を得た。
- ・国立能楽堂では新型コロナウイルス感染拡大のリスクを低減する観点により、2月28日から3月31日までの期間、資料展示室(収蔵資料展後期)と図書閲覧室を休室した。収蔵資料展以外の展示公開は計画どおり実施し、目標来場者数を達成。国立能楽堂では達成度平均107.7%であった。
- ・オリンピック前年の文化プログラムの一環として、国立能楽堂のすべての展示では、外国人来場者を想定し、看板・バナー・キャプション・無料配布の出品目録を、日本語・英語・中国語(簡)・韓国語の多言語表記とした。
- ・能楽初心者及び外国人の来場者を対象とした「外国人のための能楽鑑賞教室」「能楽鑑賞教室」「国立能楽堂ショーケース」「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」にあわせて、入門展「能楽入門」及び企画展「能のいでたち」の開催期間を設定し、能楽の普及に努めた。
- ・国立文楽劇場では文化プログラム事業の一環として外国人向け小冊子「Introduction To BUNRAKU」のスペイン語版を英語版、中国語(簡体)版、韓国語版、フランス語版に引き続き作成し、文楽劇場資料展示室にて配架した。
- ・国立文楽劇場では新型コロナウイルス感染拡大のリスクを低減する観点により、2月28日から3月31日までの期間、図書閲覧室を休室した。資料展示室の常設展示「文楽入門」(1/3～3/16)も2月28日以降の展示を中止した。この休室期間以外の展示公開は計画どおり実施し、目標来場者数を達成。国立文楽劇場では達成率平均112.1%であった。

(2) 伝統芸能に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

- ・各館で主催公演について、映像・写真等による記録を作成。
- ・各館図書閲覧室・視聴室において、公演記録写真・公演記録映像を出演者及び公演関係者と一般来場者の閲覧・視聴に供するとともに、出演者、教科書等の出版社及び放送局等の依頼に応じて複製物を作成・提供した。
- ・各館で公開講座等を実施。
- ・国立能楽堂では新型コロナウイルス感染拡大のリスクを低減する観点により、3月19日の公開講座の開催を取りやめた。それ以外は計画どおり実施。
- ・国立能楽堂では、主催公演に因むテーマを取り上げ、毎月1回無料で公開講座を開催した。中でも6月は鑑賞教室の演目解説として、開場時からの「船弁慶」の公演記録映像を多数活用し、講座内容の理解を深める役割を果たした。
- ・国立能楽堂では初めて有料で、一般公募によるサロン形式の、「国立能楽堂サロン(特別講座・特別展内覧会)」「神戸女子大学古典芸能研究センター・神戸女

	<p>子大学図書館所蔵能狂言絵コレクション」を試行した。特別展開催に先駆けて、特別展を監修した小林健二氏と樹下文隆氏を招き、対談を交えつつ本展のみどころを解説し、展示室でのギャラリートークも実施し好評であった。(特別展図録、茶菓付き)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立文楽劇場では企画展示の都度、展示室内において展示内容に因んだ過去の公演記録映像を10分～20分程度に編集して上映した。 ・国立文楽劇場では開場35周年記念企画として、「文楽の世界」(4/6～5/26)では開場30周年から35周年までの公演記録映像を主な出来事と共に編集して展示室内モニターで紹介し、「紋下の家ー竹本津太夫家に伝わる名品ー」(9/28～11/24)では、SPレコード音声や公演記録映像を編集して三代・四代津太夫の至芸を紹介し、それぞれ好評を得た。 ・国立文楽劇場では第8回伝統芸能講座「文楽の太夫」(11/6)を企画したが、講師の豊竹呂勢太夫病気のため、令和2年度以降に延期となった。この講座の代わりに、人形浄瑠璃文楽座人形遣い桐竹勘十郎を講師として「文楽の人形～人形展示のうら話～」(3/25)を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止とした。
<p>課題と対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究成果の活用・普及のため、歌舞伎・文楽上演資料集のうち、上演年表のweb公開を開始した。今後演目を増やしていく予定。 ・他館との連携を引き続き実現していくための方策を検討する。 ・デジタルコンテンツについて、現在のインターネット環境に適合しない内容のものが残っており、コンテンツのリニューアルを多言語化を含めて引き続き実施していく。

〈2〉現代舞台芸術分野

自己評定	B
<p>自己評定の根拠</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主催公演の上演演目に関する調査研究の一環として、演劇部門でギャラリー・プロジェクトを実施、講座等を開催した。 ・オペラ部門でも新制作演目に関する講座を実施し、新しい切り口で作品内容への関心と理解を促した。 ・特別展示「日本の現代舞台芸術」を継続し、タブレット端末から掲載項目の詳しい内容が検索できるようにした。 ・情報センターでは主催公演にあわせて関連書籍等を閲覧室の開架とし、広く利用に供した。劇場内ギャラリー等の展示と連動し訪れやすい環境を整えた。 ・劇場内オープンスペースに、舞台美術模型や衣裳、小道具などを展示する「初台アート・ロフト」を開設した。舞台美術家、衣裳デザイナーと協力して多彩な展示を行い、公演の有無にかかわらず劇場内で気軽に舞台芸術に親しめる環境を整えた。 ・オペラ鑑賞教室京都公演に合わせた展示のために公演写真、舞台装置や模型、衣裳などを貸し出した。 ・都内観光施設を利用した展示イベントを今年度は東京スカイツリー ソラマチにて開催、舞台装置模型・衣裳を展示のほかにミニ・オペラコンサートも行った。 ・舞台美術センター及び情報センターでの公演映像上映会を月例で実施するなど現代舞台芸術の普及に努めた。 ・民間出版社から演劇3作品の戯曲が刊行。 ・台湾の台中国立歌劇院で開催された舞台映像上映会にて新国立劇場の公演映像が上映された
<p>数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）</p>	<p>展示公開の実施回数：6回/6回（100.0%） 展示公開の来場者数：28,928人/20,000人（144.6%） 講座等の実施回数：83回/73回（113.7%）</p>
<p>主要な業務実績</p>	<p>(3) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主催公演の演目内容を調査研究した成果を講座として開催。 ・海外の演劇都市及び国内劇場の現状等についての調査研究の成果を公演プログラムに掲載。 ・特別展示「日本の現代舞台芸術」を引き続き実施。 ・情報センターの利用促進のため各劇場及び公開空地と連動した展示・イベントを実施。 ・劇場内のオープンスペースを有効活用して舞台装置模型や衣裳を展示する「初台アート・ロフト」を開設。 ・高校生のためのオペラ鑑賞教室・京都公演に合わせ、オペラ鑑賞教室の歴史や公演の舞台写真、衣裳、舞台模型等を展示。 ・都内観光施設における展示イベントを引き続き開催。 ・舞台美術センター資料館の在り方について継続して検討。 <p>(4) 現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主催公演の公演記録データベース作成を引き続き実施。 ・情報センター及び舞台美術センター資料館において公演記録映像を活用した上映会を月例で上映、「夏休みシアター」等も実施。 ・主催公演の実施に合わせた関連講座、展示等を実施。適宜ホームページに情報掲出。 ・台湾の台中国立歌劇院の舞台映像上映会にて、新国立劇場の舞台映像を上映。
<p>課題と対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台美術センター資料館については、施設の有効利用の観点から各フロアの機能の見直しに着手したところであり、今後、その在り方について引き続き検討を行い、現中期計画期間内に結論を出すこととしたい。 ・公演記録映像を一層活用し、国内外への発信、若年層への普及を図るために、権利処理や活用の方法について検討を続けたい。

4 - (1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

《中期計画の概要》

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

伝統芸能の公開の充実等に資するため、以下に掲げる調査研究並びに資料の収集及び活用を行う
関係機関等と連携した取組を進めるなど効果的に活用

(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 伝統芸能に関する調査研究を次のとおり実施

- ① 公演の実施に当たり、過去の公演記録、演出等を調査した上演資料集を作成
- ② 日本各地の歌舞伎・文楽を主とした演劇興行に関する記録、日本各地に伝わる能楽資料及び組踊等沖縄伝統芸能の上演に関する記録について、調査研究を実施
- ③ 伝統芸能に関する古文献等について調査研究するとともに、復刻・刊行等を実施
- ④ 作成する刊行物の提供方法等については引き続き検討し、一層の効果的な活用を図る

イ 伝統芸能に関する資料の収集及び活用を次のとおり実施

- ① 伝統芸能関係図書、歌舞伎錦絵等博物資料等の収集及び分類整理を行い、閲覧に供するとともに、図録等の作成、博物館施設等への貸与等を実施
- ② 収集した資料のデータベース化やデジタルコンテンツの充実を図り、文化デジタルライブラリー等により公開

収集した資料等を活用した展示を企画し、各展示施設等において公開

公開に際しては、関係機関等と連携した取組、多言語化等利便性の向上及び広報活動の強化に努める

(3) 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存、閲覧・視聴に供する

イ 伝統芸能及び現代舞台芸術の理解促進と普及を図るため、公開講座、公演記録の鑑賞会等を実施

広報活動を十分に実施、参加者へのアンケート調査を行い、内容の充実を図る

公演記録映像については、必要な著作権処理を行った上で一層の有効活用を努める

《年度計画の概要》

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 伝統芸能に関する調査研究を次のとおり実施

- ① 歌舞伎、文楽及び組踊等沖縄伝統芸能公演の実施に当たり、過去の公演記録、演出等を調査した上演資料集を作成し、演技・演出の参考及び上演内容の理解促進等に活用
- ② 日本各地の歌舞伎・文楽を主とした演劇興行に関する記録、能楽に関する資料及び組踊等沖縄伝統芸能の上演に関する記録について調査研究
その成果については次のとおり刊行等を実施
研究者及び研究機関等に広く頒布して、伝統芸能の保存及び振興のため活用
 - (a) 「近代歌舞伎年表」名古屋篇第十四巻
 - (b) 特別展「神戸女子大学古典芸能研究センター・神戸女子大学図書館所蔵 能狂言絵コレクション」図録
 - (c) 「義太夫年表」昭和篇第五巻
 - (d) 「琉球・沖縄芸能史年表」(2020年度刊行予定)の刊行準備
- ③ 伝統芸能に関する古文献等について調査研究を実施
その成果については次のとおり刊行等を行い、研究者及び研究機関等に広く頒布
 - (a) 演芸資料選書・12「御屋舗番組控」第三冊

- (b) 未翻刻戯曲集第二十六巻
- (c) 正本写合巻集25・26
- (d) 「歌舞伎俳優名跡便覧」第五次修訂版
- (e) 「冊封琉球図説」

④ 調査研究の成果について、データによる提供や文化デジタルライブラリー等による公開を含め、効果的な活用方法を検討

- (a) 芝居版画等図録第17巻の発行(web図録 第5巻)
- (b) 歌舞伎・文楽公演の演目ごとの上演年表等をwebで公開することを検討

イ 伝統芸能に関する資料の収集及び活用を次のとおり実施

① 各館で公開する分野に関する図書・資料を中心に収集及び分類整理

公演関係者、研究者及び一般の閲覧に供し、図録等の作成、博物館施設等への貸与等を実施

図書については開架図書の整備、レファレンス、ホームページにおける蔵書検索機能の提供等、利便性に配慮し利用促進に努める

博物資料等については適切な保存管理に努めるとともに、関係機関等との連携等により、一層の活用を努める

② 収集した資料のデータベース化、デジタルコンテンツの充実及び各展示施設等における資料等の展示公開を次のとおり実施

(a) 図書、錦絵、プロマイド、公演記録情報(上演情報、公演記録写真、扮装図鑑)のデータベース化

i. 芝居版画等図録第17巻の発行(web図録 第5巻)(再掲)

(b) デジタルコンテンツの充実

i. 文化デジタルライブラリー舞台芸術教材「歌舞伎編その1～3」のリニューアル版の製作

ii. 文化デジタルライブラリー目標アクセス件数:520,000件

(c) 収集した資料等の展示公開(別表10)

実施に当たっては、多言語化等来場者の利便性の向上及び広報活動の強化を図る。

(d) 展示図録の刊行

i. 特別展「神戸女子大学古典芸能研究センター・神戸女子大学図書館所蔵 能狂言絵コレクション」図録(能楽堂・再掲)

ii. 国立文楽劇場開場35周年記念特別企画展示「紋下の家ー竹本津太夫家に伝わる名品ー」図録(文楽劇場)

(2) 伝統芸能に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存、公演関係者・研究者及び一般の視聴・閲覧に供して、再演及び他劇場の公演並びに伝統芸能の研究等に活用

イ 伝統芸能の理解促進と普及を図るため、次のとおり普及活動を実施

① 伝統芸能に関する公開講座等を別表11のとおり実施

広報活動を十分に実施、参加者へのアンケート調査を行い内容等の充実に努める

② 公演の実施にあわせた関連講座、展示等を適宜実施、内容に応じてホームページ等で公開

③ 教員免許更新制における免許状更新講習を、文部科学大臣の認定を受けて実施

④ 公演記録映像については、必要な著作権処理を行った上で一層の有効活用を努める

⑤ 組踊等沖縄伝統芸能への理解促進のため、全国の文化施設や学校等における普及活動の充実を図る

《中期目標の指標・関連指標》

4-1 展示公開の来場者数
(前中期目標期間実績以上)

228,990人
(H25-29 実績平均:220,130.0人)

4-2 文化デジタルライブラリーアクセス件数 (前中期目標期間実績以上)	741,046 件 (H25-29 実績平均 : 820,713.0 件)
4-3 調査研究の実施並びに資料の収集及び活用について、目標に従い業務を実施しているか (評議員会の評価を踏まえ判断)	
4-A 公演記録の作成状況(公演記録の作成件数等)	P. 204 に掲載

ア 伝統芸能に関する調査研究

①上演資料集

区分	演目名	刊行数
歌舞伎	国立劇場上演資料集<640>第 95 回歌舞伎鑑賞教室公演「神霊矢口渡」、<641>第 96 回歌舞伎鑑賞教室公演「菅原伝授手習鑑—車引—」「棒しばり」、<643>第 314 回歌舞伎公演「天竺徳兵衛韓嘶」、<644>第 315 回歌舞伎公演「孤高勇士嬢景清」、<646>第 316 回歌舞伎公演「近江源氏先陣館—盛綱陣屋—」「蝙蝠の安さん」、<647>第 317 回歌舞伎公演「菊一座令和仇討」、<649>第 318 回歌舞伎公演「義経千本桜」	7 冊
文楽	国立劇場上演資料集<639>第 207 回文楽公演「妹背山婦女庭訓」、<642>第 208 回文楽公演「心中天網島」「嬢景清八嶋日記」「艶容女舞衣」、<645>第 51 回文楽鑑賞教室公演「伊達娘恋緋鹿子」「平家女護島」・第 209 回文楽公演「一谷嫩軍記」、<648>第 210 回文楽公演「菅原伝授手習鑑」「新版歌祭文」「傾城反魂香」「傾城恋飛脚」「鳴響安宅新関」	4 冊
組踊	国立劇場おきなわ芸能資料集 講座「執心鐘入をめぐって」	1 冊
合計		12 冊

《アンケート結果》

冊子名	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
<647>第 317 回歌舞伎公演「菊一座令和仇討」	106 人	53 人	-	52 人	50.0%	98.1%
<648>第 210 回文楽公演「菅原伝授手習鑑」「新版歌祭文」「傾城反魂香」「傾城恋飛脚」「鳴響安宅新関」	98 人	45 人	-	44 人	45.9%	97.8%
国立劇場おきなわ芸能資料集 講座「執心鐘入をめぐって」	96 人	42 人	-	36 人	43.8%	85.7%

《調査事業委員会等における外部専門家からの主な意見》

- ＜ 調査事業委員からの意見 ＞
- ・ 予算上の制約があるであろうと推察される中で、上演資料集、図録、年表(歌舞伎・義太夫)など刊行物が引き続いて充実していることは、非常に喜ばしい。これが持続されることを期待する。
 - ・ 上演資料集の上演年表の公開は冊子を閲覧できない人でも容易に活用できるため継続を希望する。
- ＜その他外部専門家からの意見＞
- ・ 第 317 回歌舞伎公演「菊一座令和仇討」のように、近代に上演が少ない広義の復活上演については、研究者の論文、鑑賞の手引、番付の影印を収めた上演資料集はとくに有意義である。

②興行、上演に関する記録の調査研究、刊行

区分	刊行物	刊行年月
刊行	「近代歌舞伎年表」名古屋篇第十四巻	2020 年 3 月
	特別展「神戸女子大学古典芸能研究センター・神戸女子大学図書館所蔵 能狂言絵コレクション」図録	2019 年 11 月
	「義太夫年表 昭和篇」第五巻	2019 年 10 月
刊行準備	「琉球・沖縄芸能史年表」(2020 年度刊行予定)の刊行準備	—

- ・ 国立能楽堂特別展「神戸女子大学古典芸能研究センター・神戸女子大学図書館所蔵 能狂言絵コレクション」では、神戸女子大学が所蔵する資料の中から能狂言絵の優品を選び、学外で初めて紹介した。展示図録には、展示監修者である神戸女子大学教授の樹下文隆氏の論考「堀池宗叱識語本の表紙絵」と展示監修者である国文学研究資料館名誉教授の小林健二氏の論考「神戸女子大学古典芸能研究センター蔵・神戸女子大学図書館蔵の能狂言の絵巻と図帖」を掲載し、新知見の含まれる学術的に価値のある図録を刊行することができた。
- ・ 「義太夫年表 昭和篇」第五巻では、昭和 35 年から 45 年までの公演プログラム、チラシのほか、出版物及び新聞記事や個人所有の記録類等の調査により、文楽座の二派分裂時期から昭和 38 年の財団法人文楽協会発足以降の興行記録を詳細に収録した。文楽協会発足の経緯については、当時の新聞各紙を参考に時系列にまとめた記事を掲載した。

《アンケート結果》

冊子名	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
「近代歌舞伎年表 名古屋篇」第十四巻※	—	—	—	—	—	—
「義太夫年表 昭和篇」第五巻	71人	47人	40人	38人	66.2%	95.0%

※新型コロナウイルス感染症の影響により、研究者及び研究機関等へ発送を4月下旬に延期

《調査事業委員会等における外部専門家からの主な意見》

＜調査事業委員からの意見＞

- ・ 予算上の制約があるであろうと推察される中で、上演資料集、図録、年表(歌舞伎・義太夫)など刊行物が引き続いて充実していることは、非常に喜ばしい。これが持続されることを期待する。
- ・ 国立能楽堂の刊行物などから、調査研究の成果と活用が十分なされていることが理解できる。
- ・ 国立能楽堂は例年、充実した図録を作成。

③古文献等の調査研究、刊行

区分	刊行物	刊行年月
刊行	演芸資料選書 12「御屋舗番組控」第三冊	2019年9月
	未翻刻戯曲集第二十六巻「染分紅地江戸棲」そめわけてもみじのえどづま	2020年3月
	正本写合巻集 25「新累女千種花嫁」しんかさねちぐさのはなよめ	2020年1月
	正本写合巻集 26「英勇茲頼政」えいゆうここにによりまさ	2020年3月
	「歌舞伎俳優名跡便覧」第五次修訂版	2020年3月
	「冊封琉球全図」	2020年3月
	「火花方日記」の研究	2020年3月
刊行準備	未翻刻戯曲集第二十七巻	—
	正本写合巻集 27・28	—

- ・ 歌舞伎俳優名跡便覧は、第四次修訂版の後の調査で判明した100件の名跡を加えた第五次修訂版を刊行した。表組も名跡毎に襲名期間が見やすいように変更し、襲名、改名の典拠資料も可能な限り掲載し利便性と資料としての正確性に一層配慮した。
- ・ 下記のとおり、刊行告知を行った。

演芸資料選書 12「御屋舗番組控」第三冊

◇ 振興会 HP・公演解説書(10月歌舞伎・1月邦楽)

◇ 東洋音楽学会第70回大会プログラム(11月16・17日。於：京都市立芸術大学。表2広告)

「歌舞伎俳優名跡便覧」第五次修訂版

◇ 振興会 HP

◇ 東京都立図書館 Facebook

《調査事業委員会等における外部専門家からの主な意見》

＜調査事業委員からの意見＞

- ・ いろいろな予算上の制約があるであろうと推察される中で、上演資料集、図録、年表(歌舞伎・義太夫)など刊行物が引き続いて充実していることは、非常に喜ばしい。これが持続されることを期待する。

④調査研究の成果の活用

- ・ 過去に歌舞伎・文楽上演資料集に掲載した上演年表を振興会 HP に web 掲載を開始し、初演から現在に至る上演記録を外題名、場名、段名、役名、出演者等、PDF で検索できるようにし、研究成果の幅広い活用を図った。

歌舞伎1演目「天竺徳兵衛韓嘶」

文 楽 1 演目「艶容女舞衣」

- ・都立中央図書館 Facebook の「司書が選ぶ調べものに使える本」に、『歌舞伎俳優名跡便覧』第四次修訂版が紹介され、役者絵等の資料に携わる仕事にどのように活用されているかが掲載された。併せて第五次修訂版の刊行告知も行った。
- ・調査研究成果の積極的な発信のため、パリディドロ大学(仏)、コレージュドフランス(仏)、トリア大学(独)の研究機関等へ刊行物を寄贈した。

イ 伝統芸能に関する資料の収集・活用 《方針》

伝統芸能全般に関する基本的な新旧の図書、雑誌、博物資料の収集を主軸に実施する。歌舞伎については、錦絵・番付・ブロマイド写真・上演台本を、大衆芸能については、落語・講談の速記本、見世物・曲芸の絵画資料と映像・音声資料(ビデオ・CD)等の収集を行う。また、図書情報のデータベース化を進め、研究者及び一般の利用に供する。

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラムの一環として、今後増加が見込まれる海外からの観光客や観劇客の理解と興味を深めるため、デジタルコンテンツの多言語化を進める。

能楽堂では主として能楽に関する研究書、実演資料、図録、一般図書等の芸能図書及び能楽の普及・伝承・研究の上で、特に意義があると認められる資料の収集を行う。

文楽劇場では、一般及び関係者の文楽に対する理解促進につながる文楽関連の芸能図書や博物資料等を中心に収集を行う。

国立劇場おきなわでは、組踊等沖縄伝統芸能を主とし、伝統芸能全般に関する図書・資料、博物資料等の収集及び分類整理を行い、閲覧に供する。

①図書・資料の収集整理、公開、活用

(a) 収集・公開実績

区分	収 集		公 開				
	図書	資料	閲覧室 利用者数※	開室日	写真複製 使用	博物資料 閲覧	視聴利用
伝統芸能情報館	2,553 冊	1,674 点	3,625 人	249 日	392 件	9 件	2,789 件
能楽堂	792 冊	1,002 点	3,555 人	241 日	74 件	3 件	2,193 件
文楽劇場	777 冊	309 点	1,042 人	239 日	44 件	1 件	605 件
国立劇場おきなわ	463 冊	227 点	2,304 人	245 日	19 件	0 件	1,305 件

※国立劇場おきなわはレファレンスルームの利用者数。

- ・伝統芸能情報館図書閲覧室にて、毎月の公演・展示に関するコーナーを設け、関連文献を配架。
- ・伝統芸能情報館情報展示室は、社会人のための歌舞伎鑑賞教室・文楽鑑賞教室の公演日において、来場者の利用に配慮して開演時間(6月歌舞伎鑑賞教室は18時30分、7月歌舞伎鑑賞教室及び12月文楽鑑賞教室は19時)まで開室時間を延長。
- ・国立能楽堂図書閲覧室にて、毎月の公演・展示等に関するコーナー「〇月のこの1冊」を設け、関連文献を展示配架。
- ・国立能楽堂資料展示室は、夜公演時には来場者の利用に配慮して、開場から休憩(19時)まで開室時間を延長。
- ・国立文楽劇場資料展示室は、来場者の利用に配慮して、4月文楽公演第二部においては長幕休憩終了時間(18時15分)まで、6月「社会人のための文楽入門」公演及び夏休み文楽特別公演第三部においては開演時間(18時30分)まで開室時間を延長。

《アンケート結果》

冊子名	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
伝統芸能資料館図書閲覧室(2/5～2/27)	85 人	84 人	80 人	76 人	98.8%	95.0%
能楽堂図書閲覧室(1/28～2/8)	50 人	49 人	46 人	45 人	98.0%	97.8%

文楽劇場図書閲覧室(7/3～11/28)	54人	54人	53人	50人	100.0%	94.3%
国立劇場おきなわレファレンス室(4/1～3/31)	21人	21人	21人	18人	100%	85.7%

《調査事業委員会等における外部専門家からの主な意見》

- ・ 国立劇場・能楽堂・文楽劇場は立派な専門図書館を運営しているのだから、それをもっとアピールするべきと思う。

(b) 活用実績

分野	活動名	会場	主催等	活用内容	期間
伝統芸能情報館	「初台アート・ロフト」	新国立劇場	新国立劇場	舞台模型貸出	7/4～令和2年7月(予定) ※1
伝統芸能情報館	「執心鐘入をめぐって」	国立劇場おきなわ	国立劇場おきなわ	衣裳、小道具、舞台写真等貸出	7/4～9/15
伝統芸能情報館	「THE KUMIODORI300」	沖縄県立博物館・美術館	沖縄県立博物館・美術館	絵画貸出	7/11～8/25
伝統芸能情報館	「歌川豊国・写楽を越えた男」	太田記念美術館	太田記念美術館	錦絵貸出	9/3～9/29
伝統芸能情報館	「隅田川に育まれた文化 浮世絵に見る名所と美人」	たばこと塩の博物館	たばこと塩の博物館	錦絵貸出	2/29～4/12 ※2
能楽堂	特別展「狂言面・狂言装束の粋と山科理絵が描く狂言画」	金沢能楽美術館	金沢能楽美術館	狂言面、狂言装束、絵画貸出	4/20～6/23
能楽堂	第2回企画展「執心鐘入をめぐって」	国立劇場おきなわ	国立劇場おきなわ運営財団	能面、能装束、小道具を貸出	7/4～9/15
能楽堂	企画展「能面と作り物一型を受け継ぐー」	金沢能楽美術館	金沢能楽美術館	絵画貸出	9/6～11/24
能楽堂	「調布能楽 odyssey 破 守破離」	調布文化会館たづくり	公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団	文献絵画貸出	9/14～11/4
能楽堂	「ホテルで楽しむ日本文化～能・雅をつぐもの～』『平家物語から読み解く男の悲哀』展	京王プラザホテル 3階アートロビー	株式会社京王プラザホテル	能面、能装束、絵画等貸出	9/27～11/27
文楽劇場	企画展「執心鐘入をめぐって」	国立劇場おきなわ	公益財団法人 国立劇場おきなわ	衣裳、床本、絵看板(写真データ)、公演記録映像等貸出	6/21～9/30
文楽劇場	G20大阪サミットにおける「大阪・関西魅力発信スペース」への展示協力	インテックス大阪	公益財団法人大阪観光局	文楽人形、文楽紹介用DVD(英語版)の展示	6/27～30
文楽劇場	国立文楽劇場 夏休み文楽特別公演のご案内	阪神高速ミナミ交流プラザ(LoopA)	阪神高速道路株式会社	ツメ人形、文楽解説パネル等文楽関連資料貸出	6/27～7/15
文楽劇場	「図書館で観る“文楽”2019」展	大阪市立中央図書館	大阪市立中央図書館	過去の文楽公演ポスター、文楽人形かしの製作工程、舞台下駄の貸出	7/2～8/2
文楽劇場	「手のかたち・手のちから」展	武蔵野美術大学 美術館・図書館	武蔵野美術大学 美術館・図書館	文楽人形、かしろ、胴、手貸出	8/6～9/25
文楽劇場	「ツーリズム EXPO ジャパン 2019 大阪・関西」	インテックス大阪	大阪市経済戦略局	文楽紹介用 DVD の貸出	10/11～28
国立劇場おきなわ	浦添市立図書館ミニ展示「組踊ってなあに？」	浦添市立図書館	浦添市立図書館	朝薫の五番の写真等貸出	7/12～9/6
国立劇場おきなわ	ユネスコ無形文化遺産 特別展「体感！日本の伝統芸能-歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界-」	東京国立博物館表慶館	文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会等	公演記録写真・映像、衣装の貸出	3/10～5/24 ※1

※1 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため一部期間休止。

※2 新型コロナウイルス感染症の影響により開催期間未定

《調査事業委員会等における外部専門家からの主な意見》

- ・ 所蔵資料の貸出は、現物を見てもらえるよい機会でもあるので企画を精査する必要はあるが今後とも続けてほしい。
- ・ 文楽が大阪ゆかりの芸能であることは案外認識されていないので、大阪観光局や大阪市経済戦略局、大阪市立中央図書館との連携は大変有益だと感じた。今後も続けて欲しい。

②資料のデータベース化、デジタルコンテンツの充実、展示公開

(a) データベース化

区分	実施点数	詳細
図書	4,000 件	本館所蔵の貸劇場の公演プログラム 983 件と演芸関係番組 3,017 件の計 4,000 件を図書管理システムのデータベースに登録。
資料	410 点	錦絵 150 点、プロマイド 260 点 新たに考証・整理が終了した錦絵(芝居版画等)150 点、プロマイド写真(戦前の歌舞伎俳優)260 点を、文化デジタルライブラリーに登録。
上演情報	168 公演	歌舞伎 10 公演、文楽 17 公演、舞踊・邦楽 12 公演、民俗芸能 4 公演、特別企画 7 公演、能・狂言 69 公演、大衆芸能 49 公演の公演情報を文化デジタルライブラリーに登録。
公演記録写真	28,683 点	国立劇場、国立演芸場、国立能楽堂、国立文楽劇場で令和元年 10 月までに撮影した全ジャンルの公演記録写真を文化デジタルライブラリーに登録。
扮装図鑑	6 公演	国立劇場で平成 30 年 2 月から平成 30 年 12 月に上演された歌舞伎公演(鑑賞教室含む)・文楽公演の「扮装図鑑」を文化デジタルライブラリーに登録。

(b) デジタルコンテンツの充実

i. 文化デジタルライブラリー舞台芸術教材「歌舞伎編その 1～3」のリニューアル版の製作

- ・ 令和 2 年末で技術的なサポートが終了する「歌舞伎編その 1～3」に替えるため、小学生以上を対象に歌舞伎の基礎的な知識を日本語及び英語で解説する、PC、スマートフォン及びタブレットで視聴可能なコンテンツを制作した。

ii. 文化デジタルライブラリーアクセス件数

741,046 件 (計画: 520,000 件/達成率: 142.5%)

《調査事業委員会等における外部専門家からの主な意見》

- ・ 在宅で調査研究できる環境がさらに求められるようになるであろう。デジタルコンテンツの充実は求められるところと考えられる。
- ・ デジタルコンテンツについては、着実に更新がされているようであるが、十分にアピールされていないのではないか。

(c) 資料の展示公開

(新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除く)

展示室	企画内容	期間	日数	来場者数(実績)	来場者数(計画)
伝統芸能情報館 資料展示室	企画展示「役者絵の世界Ⅱ -幕末の名優たち-	4/1～5/27	57	9,507 人	7,224 人
	企画展示「かぶき入門」	6/1～9/23	121	26,786 人	23,837 人
	企画展示「生誕 250 年記念 歌川豊国-歌川派の役者絵-	10/2～1/27	111	23,075 人	18,306 人
	企画展示「歌舞伎の四季」	2/8～3/31※	20	4,846 人	3,880 人
	合 計		309 日	64,214 人	53,247 人
演芸場 資料展示室	演芸資料展 「国立演芸場 40 年の歩み」	4/1～7/21	96 日	15,578 人	14,132 人
	演芸資料展「寄席で見る・聴く-紙切りと寄席囃子-	7/27～11/23	98 日	17,189 人	14,000 人
	演芸資料展「落語の四季」	12/1～3/21※	63 日	9,442 人	9,765 人
	合 計		257 日	42,209 人	37,897 人

能楽堂 資料展示室	入門展「能楽入門」	4/25～8/4	89日	13,860人	12,460人
	企画展「能のいでたち」	8/24～10/31	59日	8,917人	8,100人
	特別展「神戸女子大学古典芸能研究センター・神戸女子大学図書館所蔵 能狂言絵コレクション」	11/6～1/17	57日	8,664人	8,627人
	収蔵資料展	1/24～3/28※	21日	3,487人	2,898人
	合計		226日	34,928人	32,085人
文楽劇場 資料展示室	開場 35 周年記念特別企画展示 「文楽の世界」	4/6～5/26	51日	16,835人	14,700人
	常設展示「文楽入門」	6/7～9/8	81日	27,872人	23,890人
	開場 35 周年記念特別企画展示 「紋下の家-竹本津太夫家に伝わる名品-」	9/28～11/24	58日	16,618人	12,480人
	常設展示「文楽入門」	1/3～3/16※	56日	14,637人	12,824人
	合計		246日	75,962人	63,894人
国立劇場 おきなわ 資料展示室	企画展「現代に生きる玉城朝薫」	4/13～6/23	72日	2,554人	2,990人
	企画展「執心鐘入をめぐって」	7/4～9/15	74日	2,879人	2,990人
	企画展「朝薫の五番」	10/4～12/22	80日	4,156人	3,320人
	企画展「伝統花火-琉球・中国・近世日本-」	1/11～3/22※	51日	2,088人	2,142人
	合計		277日	11,677人	11,442人
伝統芸能分野 合計		19回	1,315日	228,990人	198,565人

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため 2/28 以降休室。ただし、国立劇場おきなわ資料展示室 企画展「伝統花火-琉球・中国・近世日本-」は 3/19～22 開室。

※2月26日の総理大臣からの要請に基づき、文部科学大臣から所管する文化・スポーツ関係独立行政法人に主催事業の自粛(中止)要請が直接行われたことから、要請後の公演計画によることとする。

(年度当初の計画)

展示室	企画内容	期間	日数	来場者数(実績)	来場者数(計画)
伝統芸能情報館 資料展示室	企画展示「役者絵の世界Ⅱ -幕末の名優たち-」	4/1～5/27	57日	9,507人	7,224人
	企画展示「かぶき入門」	6/1～9/23	121日	26,786人	23,837人
	企画展示「生誕 250 年記念 歌川豊国-歌川派の役者絵-」	10/2～1/27	111日	23,075人	18,306人
	企画展示「歌舞伎の四季」	2/8～3/31※	20日	4,846人	10,282人
	合計		309日	64,214人	59,649人
演芸場 資料展示室	演芸資料展 「国立演芸場 40 年の歩み」	4/1～7/21	96日	15,578人	14,132人
	演芸資料展「寄席で見る・聴く-紙切りと寄席囃子-」	7/27～11/23	98日	17,189人	14,000人
	演芸資料展「落語の四季」	12/1～3/21※	63日	9,442人	13,175人
	合計		257日	42,209人	41,307人
能楽堂 資料展示室	入門展「能楽入門」	4/25～8/4	89日	13,860人	12,460人
	企画展「能のいでたち」	8/24～10/31	59日	8,917人	8,100人
	特別展「神戸女子大学古典芸能研究センター・神戸女子大学図書館所蔵 能狂言絵コレクション」	11/6～1/17	57日	8,664人	8,627人
	収蔵資料展	1/24～3/28※	21日	3,487人	6,486人
	合計		226日	34,928人	35,673人

文楽劇場 資料展示室	開場 35 周年記念特別企画展示 「文楽の世界」	4/6～5/26	51 日	16,835 人	14,700 人
	常設展示「文楽入門」	6/7～9/8	81 日	27,872 人	23,890 人
	開場 35 周年記念特別企画展示 「紋下の家-竹本津太夫家に伝わる名品-」	9/28～11/24	58 日	16,618 人	12,480 人
	常設展示「文楽入門」	1/3～3/16※	56 日	14,637 人	16,700 人
	合 計		246 日	75,962 人	67,770 人
国立劇場 おきなわ 資料展示室	企画展「現代に生きる玉城朝薫」	4/13～6/23	72 日	2,554 人	2,990 人
	企画展「執心鐘入をめぐって」	7/4～9/15	74 日	2,879 人	2,990 人
	企画展「朝薫の五番」	10/4～12/22	80 日	4,156 人	3,320 人
	企画展「伝統花火-琉球・中国・近世日本-」	1/11～3/22※	51 日	2,088 人	2,700 人
	合 計		277 日	11,677 人	12,000 人
伝統芸能分野 合計		19 回	1,315 日	228,990 人	216,399 人

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため 2/28 以降休室。ただし、国立劇場おきなわ資料展示室 企画展「伝統花火-琉球・中国・近世日本-」は 3/19～22 開室。

i. 伝統芸能情報館

- ・ 閲覧室に毎月の公演・展示に関するコーナーを設け、関連文献を配架。
- ・ 半蔵門駅構内のポスターボードに開催中の展示のポスターを掲出するなど、広報の充実を図った。
- ・ 企画展示「かぶき入門」(6/1～9/23)では、錦絵・押隈などの所蔵資料に加えて、衣裳・小道具・大道具等、視覚的に訴える資料を中心に初心者向けに歌舞伎の魅力を伝える資料を展示。
- ・ 企画展示「歌川豊国 - 歌川派の役者絵 - 」(10/2～1/27)では、初代歌川豊国生誕 250 年を記念して、太田記念美術館と連携し、2 館で歌川豊国をテーマとした展覧会を開催した。伝統芸能情報館では、役者絵の分野で多くの作品を残し、江戸後期に浮世絵の最大流派となる歌川派の礎を築いた歌川豊国とその弟子たちの錦絵を展示し、江戸後期から明治に至る役者絵の魅力を紹介。太田記念美術館とは、両館の所蔵資料の交互借用、講座開催等の相互協力を行った。
- ・ 企画展示「歌舞伎の四季」(2/8～2/27 ※2/28～3/31 は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため臨時休室)では、歌舞伎の舞台に見られる四季それぞれの美しさを、錦絵や公演記録写真、舞台上で用いられる衣裳や小道具等の資料で紹介。「日本博」参画プロジェクトとして申請し、初心者や訪日客向けにも歌舞伎の魅力を伝える展示とした。

ii. 演芸場

- ・ 演芸資料展「国立演芸場 40 年の歩み」(4/1～7/21)では、国立演芸場開場 40 年を記念して国立演芸場の高座を彩った名人たちゆかりの資料や当時の記録写真から、これまでの 40 年の歩みを振り返った。
- ・ 演芸資料展「寄席で見る・聴く - 紙切りと寄席囃子 - 」(7/27～11/23)では、寄席芸として欠かせない「紙切り」と、高座を支える「寄席囃子」の魅力を、新作をふくめた紙切り作品や過去の名人たちが使用したはさみ、寄席囃子の演奏風景やきっかけ帳などの資料により紹介した。
- ・ 演芸資料展「落語の四季」(12/1～2/27 ※2/28～3/21 は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため臨時休室)では、落語の中の日本の四季に因んだ代表的な噺を取り上げ、錦絵や演者が残した直筆物などの所蔵の資料を中心に、落語で描かれる四季の風景を紹介。「日本博」参画プロジェクトとして申請し、初心者や訪日客向けにも落語の魅力を伝える展示とした

iii. 能楽堂

- ・ 外国人来場者を想定し、すべての展示で看板・バナー・キャプション・無料配布の出品目録を、日本語・英語・中国語(簡)・韓国語の多言語表記とした。
- ・ 入門展「能楽入門」は、5 月外国人のための能楽鑑賞教室(5/29)、6 月能楽鑑賞教室(6/24-28)、7 月国立能楽堂ショーケース(7/24-26)、8 月夏休み親子で楽しむ能の会(8/3)にあわせて開催期間を延長し、能楽の普及に努めた。
- ・ 入門展「能楽入門」では、日本語、英語、中国語(簡)、韓国語による解説を付したパンフレットを作成して無料配布した。
- ・ 国立能楽堂資料展示室では、企画展「能のいでたち」(8/24～10/31)を開催した。能のいでたち(出立＝

扮装)に注目し、能の五番立に従って主な登場人物を面、装束、小道具等によって展示した。8月国立能楽堂ショーケース(8/25-27)、10月外国人のための能楽鑑賞教室(10/31)の開催による外国人来場者を想定した内容とした。

- ・特別展「神戸女子大学古典芸能研究センター・神戸女子大学図書館所蔵 能狂言絵コレクション」(11/6～1/17)では、平成13年に開設され、古典芸能に関する総合的な研究拠点として活動してきた神戸女子大学古典芸能研究センターと神戸女子大学図書館が所蔵する資料の中から、能狂言絵の優品を選び、学外で初めて展示紹介した。
- ・特別展「神戸女子大学古典芸能研究センター・神戸女子大学図書館所蔵 能狂言絵コレクション」では「監修者会議」を開催した。その結果をふまえて、最新の調査・研究成果を展示と特別展図録によって公開した。
- ・特別展「神戸女子大学古典芸能研究センター・神戸女子大学図書館所蔵 能狂言絵コレクション」は、神戸新聞に取材されたほか、朝日新聞夕刊アート情報に掲載され、能楽堂の周知及び集客に貢献した。

iv. 文楽劇場

- ・開場35周年記念特別企画展示「文楽の世界」(4/6～5/26)では、文楽関連の書籍や年表をはじめ、太夫・三味線・人形の三業に関する資料を用いた大型入門展示を実施。マネキンを使用して三業を立体的に表現するなど、文楽の世界を視覚的にわかりやすく紹介した。展示室内モニターでは開場30周年から35周年までの主な出来事について当時の公演記録映像と共に紹介した。
- ・常設展示「文楽入門」前期(6/7～7/7)では、鑑賞教室で上演する「菅原伝授手習鑑」に関連する資料を展示。展示室内モニターでは文楽普及用映像「文楽を楽しむ」を上映し、「Discover BUNRAKU」開催日には、同映像英語版「Enjoying Bunraku」を上映した。また、外国人向け小冊子「文楽鑑賞の手引」の英語版・中国語(簡体)版・韓国語版・フランス語版に続き、スペイン語版を作成し、展示室にて配布した。後期(7/20～9/8)では、夏休み文楽特別公演第二部で上演する「仮名手本忠臣蔵」を中心に解説。同公演期間中は、文楽座若手技芸員及びボランティアグループ「文楽応援団」の協力のもと、親子劇場来場のお子様が目替わりで三業の体験ができる「体験ステージ」(太夫・三味線・人形)を実施した。
- ・開場35周年記念特別企画展示「紋下の家ー竹本津太夫家に伝わる名品ー」(9/28～11/24)では、大正から昭和にかけて文楽座の代表者である紋下(槽下)を勤めた三代竹本津太夫の家に伝わる名品の数々と関連資料を展示した。展示室内モニターではSPレコード音声や公演記録映像を編集し、三代・四代津太夫の至芸を紹介した。また、展示開催にあわせ国立文楽劇場の資料展示としては24年ぶりに図録を刊行した。
- ・常設展示「文楽入門」(1/3～3/16 ※2/28～3/16まで休室)の企画コーナー「初春文楽公演の演目にちなんで」では、初春文楽公演の演目に関連した人形のかしらや衣裳、錦絵等を展示した。展示室内モニターでは六代竹本鋳太夫襲名にちなみ、先代(五代鋳太夫)のSPレコードの音源を中心に写真と共に紹介した。
- ・文楽公演期間中は、ボランティアグループ「文楽応援団」が展示室内にて展示の解説やツメ人形の操作体験の補助を行い、来場者から「実際に人形に触れ、説明を聞かせて頂いてとてもよかった」等、好評を得た。

v. 国立劇場おきなわ

- ・第1回企画展「現代に生きる玉城朝薫」(4/13～6/23)と関連して、6/12(水)に第56回公演記録鑑賞会喜劇「鶴亀二児其ノ後ノ嘶～続・二童敵討～」を実施。(企画展の来場者数:2,554名、公演記録鑑賞会の参加者数:180名)
- ・国立劇場おきなわ第2回企画展「執心鐘入をめぐって」(7/4～9/15)と関連して、特別講座(5回)及び公演記録鑑賞会「さかさま執心鐘入」(8/7)を実施。(企画展の来場者数:2,879名、特別講座の参加者数:804名、公演記録鑑賞会の参加者数:193名)
- ・企画展「朝薫の五番」(10/4～12/22)では、組踊上演300周年記念シリーズの締めくくりとして、玉城朝薫の五番に関わる衣装、小道具を展示するとともに、ゆかりの音源を流すことで、朝薫の魅力と功績を分かりやすく紹介した。(企画展の来場者数:4,156名)
- ・企画展「伝統花火-琉球・中国・近世日本-」(1/11～3/22)では、10/4,5に実施した野外研究公演の花火の映像及び資料の他、中国及び日本の伝統花火に関わる資料を展示した。(企画展の来場者数:2,088名)
- ・茅ヶ崎公演(2/24)では、紅型衣装(紺地霞松垂桜鳳凰流水芭蕉文様;絹)、緋(桃色地くずれ格子柄壁上下;絹)、芭蕉布(棒縞;男物)の衣装3点を展示した。

《アンケート結果》

冊子名	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
企画展示「かぶき入門」(6/1～9/23)		121 人		104 人		86.7%
企画展示「歌川豊国-歌川派の役者絵-」(10/2～1/27)		71 人		66 人		93.0%
企画展示「歌舞伎の四季」		7 人		7 人		100%
演芸資料展「国立演芸場 40 年の歩み」(4/1～7/21)		35 人		31 人		91.2%
演芸資料展「寄席で見る・聴く-紙切りと寄席囃子-」(7/27～11/23)		57 人		57 人		100%
演芸資料展「落語の四季」		23 人		20 人		87.0%
特別展「神戸女子大学古典芸能研究センター・神戸女子大学図書館所蔵 能狂言絵コレクション」(11/6～1/17)	40 人	40 人	37 人	37 人	100%	100%
国立文楽劇場開場 35 周年記念特別企画展示「紋下の家ー竹本津太夫家に伝わる名品ー」	269 人	89 人	87 人	84 人	33.1%	96.6%
国立劇場おきなわ全展示期間中		72 人		62 人		86.1%

《調査事業委員会等における外部専門家からの主な意見》

- ・国立劇場・文楽劇場・能楽堂の展示いずれも充実していた。
- ・新型コロナのために、様々な計画が無になりそうで非常に心配である。中止になる(なった)企画は、事態が落ち着いたらあらためて行われることを希望する。
- ・国立劇場が所蔵する錦絵を活用した展示は絵も美しく解説も充実していてよかった。関連の講座もあり、より深く興味が持てた。
- ・太田記念美術館のような外部の民間機関との連携を進めると、当会活動が更に認知されて、効果が高まると考えられる。更に阪急デパートの前例があったような私立・民間機関との連携強化が望まれる。
- ・国立能楽堂はメリハリのある展示を意図されていて、他館からの借用もあり、例年、充実した図録を作成している。これは、展覧会を主要な事業としているからだと思われる。
- ・国立能楽堂の企画展「能のいでたち」は展示物に本物の迫力があつた。また多言語対応ができていた点がよかった。特別展「神戸女子大学古典芸能研究センター・神戸女子大学図書館所蔵 能狂言絵コレクション」も図録などでしか見たことのなかった神戸女子大学の資料を、他の能狂言絵と比較しながら見ることができ、たいへん有意義であつた。
- ・文楽劇場の「紋下の家」展、往年の文楽ファンにはうれしい企画だった。東京でもやってほしい。
- ・文楽劇場は「紋下の家」展は図録も充実していて見応えがあつた。他の展示も常設展示と上演演目に因んだ企画コーナーに分かれている意図はわかりやすい。企画コーナーは「鑑賞の手助けになるもの」なので、そういう視点で今後も充実させていただきたい。
- ・文楽劇場の「紋下の家」展は久しぶりに図録が出る展示で、構成も面白く見応えがあつた。
- ・文楽劇場で夏休み期間に実施された展示「文楽入門」を見たが、体験コーナーに子どもたちの列ができており、良い企画だったと思う。技芸員、ボランティアとの協力体制がよくできていた。

(d) 展示図録の刊行

- i. 特別展「神戸女子大学古典芸能研究センター・神戸女子大学図書館所蔵 能狂言絵コレクション」図録(能楽堂・再掲)
- ii. 国立文楽劇場開場 35 周年記念特別企画展示「紋下の家ー竹本津太夫家に伝わる名品ー」図録(文楽劇場)

区分	刊行物	刊行年月
刊行	国立文楽劇場開場 35 周年記念特別企画展示「紋下の家ー竹本津太夫家に伝わる名品ー」図録	2019 年 9 月

(2) 伝統芸能に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 公演記録の作成・活用

①作成実績

区分	記録件数・内容
本館・演芸場	映像・音声・写真 59 公演(中止 3 回)、扮装図鑑 6 公演、文楽人形等 3 公演
能楽堂	映像・音声・写真 48 公演(中止 4 回)
文楽劇場	音声 12 公演、写真 14 公演、映像 12 公演、文楽人形等 5 公演
国立劇場おきなわ	映像・音声・写真 30 公演、小道具写真 4 公演

・公演内容に応じて、扮装図鑑・下座の附帳・文楽人形・小道具等の写真による記録を作成した。

②活用実績

(a) 視聴(映像資料及び音声資料)

区分	一般	関係者(出演者等)	合計
本館	1,866 件(1,248 時間)	923 件(460 時間)	2,789 件(1,707 時間)
能楽堂	1,461 件(2,815 時間)	732 件(972 時間)	2,193 件(3,787 時間)
文楽劇場	138 件(265 時間)	467 件(534 時間)	605 件(799 時間)
国立劇場おきなわ	1,173 件(1,273 時間)	132 件(155 時間)	1,305 件(1,428 時間)

(b) 複製(映像資料及び音声資料)

区分	関係者(出演者等)
本館	172 件(232 時間)
能楽堂	224 件(242 時間)
文楽劇場	198 件(603 時間)
国立劇場おきなわ	48 件(65 時間)

※時間は項目ごとに切上げまたは切捨てして表記しているため、合計と合わない場合がある。

- ・出演者・演出家等に、公演記録映像・音声を複製・提供し、他劇場を含めて公演制作等に資するとともに、出版社・放送局等に複製物を提供し、伝統芸能の普及に努めた。
- ・伝統芸能情報館では企画展示の都度、シアタースペースにおいて展示内容に因んだ過去の公演記録映像や入門的な映像等 10 分～30 分程度のを数編用意し、来場者の選択により上映。
- ・文楽劇場では企画展示の都度、展示室内において展示内容に因んだ過去の公演記録映像を 10 分～20 分程度に編集して上映。
- ・国立劇場おきなわでは、企画展示の都度、展示室内において展示内容に因んだ過去の公演記録映像を 10 分程度に編集して上映した。

イ 普及活動

①伝統芸能に関する公開講座等

会場	名称	回数	目標回数	アンケート 有意義回答の割合
伝統芸能情報館	伝統芸能講座	4 回	4 回	93.7%
	公演記録鑑賞会	11 回※	12 回	97.4%
能楽堂	能楽鑑賞講座	11 回※	12 回	97.3%
	能楽特別講座	1 回	1 回	96.0%
文楽劇場	公演記録鑑賞会	11 回※	12 回	97.3%
	伝統芸能講座	0 回※	1 回	0%
国立劇場おきなわ	公演記録鑑賞会	3 回※	4 回	77.2%
	沖縄伝統芸能公開講座	9 回※	10 回	77.7%
合計		54 回	56 回	89.5%

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため 2/28 以降は中止または延期。

伝統芸能情報館：公演記録鑑賞会 1 回中止、能楽堂：能楽鑑賞講座 1 回中止、文楽劇場：公演記録鑑

賞会 1回中止、伝統芸能講座 1回中止、国立劇場おきなわ:公演記録鑑賞会 1回延期、伝統芸能公開講座 1回中止

(a) 伝統芸能情報館

- ・第74回伝統芸能講座「中村歌右衛門に師事して」(7/31)は、中村歌女之丞丈を講師に迎えて昭和から平成を代表する六代目中村歌右衛門の思い出について公演記録映像を交えて講演を行った。
- ・第75回伝統芸能講座「歌川豊国 - その画業と作品の魅力 - 」(9/6)は、初代歌川豊国生誕250年を記念して、同じ豊国をテーマとして連携して展覧会を開催する太田記念美術館の主幹学芸員の渡邊晃氏を講師に迎えて開催。
- ・第467回公演記録鑑賞会(9/14)は、上映前に中川俊宏氏(武蔵野音楽大学教授)が解説を行う特別公演記録鑑賞会として開催。
- ・本館で令和元年度教員免許状更新講習を実施。2日間13時間にわたり、各種芸能に関する講義、公演見学(文楽)、舞台見学等を受講し、最後に修了認定試験を実施。(10名、有料、12/14~15)
- ・第76回伝統芸能講座「歌川豊国 - 江戸の役者に会いにいこう - 」(10/14)は、企画展示「歌川豊国 - 歌川派の役者絵 - 」の関連講座として、藤澤浮世絵館学芸員の兼松藍子氏を講師に迎えて歌川派の歴史と役者の魅力についての講座を開催。
- ・第77回伝統芸能講座「寄席の至芸 - 紙切り林家正楽の世界 - 」(11/5)は、演芸資料展「寄席で見る・聴く - 紙切りと寄席囃子 - 」の関連講座として、三代目林家正楽師を講師に迎え、初代・二代目正楽の思い出や紙切りの魅力について実演を交えて講演した。

(b) 能楽堂

- ・国立能楽堂では初の試みとして、一般公募によるサロン形式の「国立能楽堂サロン(特別講座・特別展内覧会)神戸女子大学古典芸能研究センター・神戸女子大学図書館所蔵 能狂言絵コレクション」(有料)を開催した。特別展を監修した小林健二氏と樹下文隆氏を招き、対談を交えつつ本展のみどころを解説した(特別展図録、茶菓付き)。また、特別展開催に先駆けて、展示室でのギャラリートークを実施した。
- ・国立能楽堂公開講座は、主催公演の曲目と関連したテーマにより毎月1回実施した。

(c) 文楽劇場

- ・公演記録鑑賞会は、国立文楽劇場開場35周年記念企画である「仮名手本忠臣蔵」の3公演連続による全段上演に因み、忠臣蔵に関連する演目を年間を通して選定した。
- ・第8回伝統芸能講座「文楽の太夫」(11/6)を企画したが、講師の豊竹呂勢太夫病気休演のため、令和2年度以降に延期となった。
- ・上記講座の代わりに、人形浄瑠璃文楽座人形遣い桐竹勘十郎を講師として「文楽の人形～人形展示のうら話～」(3/25)を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止とした。

(d) 国立劇場おきなわ

- ・組踊上演300周年を記念して、7月に「執心鐘入をめぐって(全5回)」、9月に「1719年 朝薫の舞台(全3回)」と題した連続講座を開催した。7月の講座の開催期間中は、同名の展示を開催することで、執心鐘入の様々な魅力を紹介した。9月の講座では、10月研究公演にて野外で実施する「からくり仕掛け花火」や「入子躍」などの演目を紹介し、同公演の理解を深める契機となった。
- ・公演記録鑑賞会は、朝薫の五番に関連する作品「鶴亀二児其ノ後ノ嘶～続・二童敵討～」 「さかさま執心鐘入」 「無念大蛇其ノ後ノ嘶～続・孝行の巻～」を上映した。上映後は、作品の出演者、制作者等による座談会を実施した。座談会では、作品の背景や裏話等を紹介すると共に、観客からの質問にも対応し、好評だった。

(e) その他

- ・本館で令和元年度教員免許状更新講習を実施。2日間13時間にわたり、各種芸能に関する講義、公演見学(文楽)、舞台見学等を受講し、最後に修了認定試験を実施。(10名、有料、12/14~15)

《調査事業委員会における外部専門家からの主な意見》

- ・公演記録鑑賞会や公開講座などは、大変充実していると思う。今後の継続を望む。
- ・新型コロナのために、様々な計画が無になりそうで非常に心配である。中止になる(なった)企画は、事態が落ち着いたらあらためて行われることを希望する。
- ・国立能楽堂特別展にあわせた形で実施された「国立能楽堂サロン」は、神戸女子大学の樹下センター長と国文学研究資料館の小林健二氏が講師となり、豊富なスライドを用いながら、能狂言絵の解説が対談形式で行われた。解説自体はたいへん面白く満足だった。

- ・能楽堂サロン(有料：凶録茶菓子付き)に参加してみました。壇上の演者のお話興味深く楽しい内容でした。むしろ無料の映像配信でも楽しめると思います。
- ・国立能楽堂特別展「能狂言絵コレクション」で開催されたサロンはふつうの講座とちがって、研究者のお話を身近に聞けてよかった。また、展示室に移動して先生方のギャラリートークで展示物を見ることができ、より理解が深まった。

②公演の実施にあわせた関連講座・展示等

イベント名	期間	会場	料金	出演者等	参加者数	満足回答率
10月歌舞伎公演 蝦蟇の妖術の秘密に迫る！！ —『天竺徳兵衛韓嘶』の舞台裏—	10/8・ 15・22	国立劇場大劇場舞 台	無料	中村芝翫・中村翫延	8日： 35名 15日： 35名 22日： 49名	-
東博コンサート「国立劇場がおくる 正 倉院復元楽器の響き」	10/13	東京国立博物館 平成館 大講堂	無料	伶楽舎	380人	-
12月歌舞伎公演 『Chaplin KABUKI NIGHT』 特別資料展示	12/6・ 13・ 20・ 24・25	国立劇場大劇場 ロビー二階	無料	-	-	-
12月歌舞伎公演 『Chaplin KABUKI NIGHT』 クリスマストークショー	12/24 ・25	国立劇場大劇場	無料	松本幸四郎・大野裕之・大 和田理事	-	-
ワークショップ 「はじめての演芸体験」	9/28・ 29	伝統芸能情報館レ クチャー室ほか	無料	日本演芸家連合	311人	86.6%
楽しもう！能と狂言 (狂言ワークショップ)	4/10	岐阜県関市 文化会館	無料	中村修一(狂言方和泉流)、 第8期研修修了者	60人	-
楽しもう！能の世界 (面装束とシテ方体験)	5/10	国立能楽堂 研修能舞台	無料	水上優、川瀬隆士、金森隆 晋(シテ方宝生流)	18人	100.0%
楽しもう！能の世界 (Noh Workshop for foreigners)	5/29	国立能楽堂研修能 舞台、大講義室	無料	大倉慶乃助(大鼓方大倉 流)、澤田晃良(太鼓方観世 流)、第6期、第7期研修 修了者	69人	98.4%
楽しもう！能と狂言 (囃子体験)	7/19	千駄ヶ谷鳩森 八幡神社能舞台	無料	佃良太郎(大鼓方高安流)、 澤田晃良(太鼓方観世流)、 第5期研修修了者	約100 人	-
楽しもう！能と狂言 (囃子体験)	7/23	小金井市 社会福祉協議会	無料	佐久間二郎(シテ方観世 流)、佃良太郎(大鼓方高安 流)、徳田宗久(太鼓方観世 流)、第5期研修修了者	40人	-
楽しもう！能の世界 (Noh Workshop for foreigners)	10/31	能舞台大広間	無料	村岡聖美(シテ方金春流)、 柏崎真由子(シテ方金春 流)、大倉栄太郎(大鼓方大 倉流)、第5期研修修了者	約100 人	-
届けます。体験教室(シテ方・狂言方体 験)	11/18 ～19	名取市立相互台小 学校・名取市立増 田西小学校・名取 市立愛島小学校・ 名取市立不二が丘 小学校	無料	坂真太郎(シテ方観世流)、 松山隆之(シテ方観世流)、 奥津健太郎(狂言方和泉 流)、野口隆行(狂言方和泉 流)	356人	-
楽しもう！能の世界 (囃子体験)	2/7	国立能楽堂研修能 舞台	無料	大倉慶乃助(大鼓方大倉 流)、第5期、第6期研修 修了者	40人	100.0%
第120回「文楽のつどい」 国立文楽劇場開場 35周年イベント 「文楽と落語で楽しむ忠臣蔵」	4/5	文楽劇場	無料	落語「蔵丁稚」桂南光 対談「忠臣蔵よもやま話」 豊竹咲太夫、鶴澤燕三、吉 田和生、吉田玉男 (ご案内)桂 南光	233人	-
9月民俗芸能公演関連プレ講座 「淡路人形芝居の世界」	8/27	文楽劇場 小ホール	無料	坂東千秋(淡路人形座支配 人)	83人	-
組踊ワークショップ	6/8	国立劇場おきなわ 養成研修室	無料	金城真次、天願雄一、棚原 健太	17人	100.0%
組踊ワークショップ	6/29	国立劇場おきなわ 養成研修室	無料	上原崇弘、比嘉大志、仲村 逸夫	13人	100.0%
組踊ワークショップ	8/24	国立劇場おきなわ 養成研修室	無料	川満香多、比嘉大志、仲嶺 良盛	28人	81.8%

沖縄芝居よもやま話 (9月沖縄芝居公演「王女御殿」「怪猫 伝・化け猫」開演前に開催。(チケット購 入者限定))	9/14	国立劇場おきなわ 大劇場ホワイエ	無料	出演者:八木政男 聞き手:嘉数道彦	64人	-
組踊ワークショップ	10/5	国立劇場おきなわ 養成研修室	無料	川満香多、天願雄一、大城 貴幸	22人	100.0%
外国人のための組踊ワークショップ	10/19	国立劇場おきなわ 養成研修室	無料	川満香多、天願雄一、玉城 和樹	26人	94.7%
昆曲ワークショップ (10/27 アジア・太平洋地域の芸能にお いて、公演前日に昆曲ワークショップ(参 加無料)を開催し、昆曲を紹介。)	10/26	国立劇場おきなわ 大劇場ホワイエ	無料	王芳 他	42人	-
パリ公演ワークショップ 組踊レクチャー「女形ができるまで～化 粧から着付けまで」	12/7	国際交流基金パリ 日本文化会館	5ユーロ	嘉数道彦、佐辺良和	29人	-
パリ学校ワークショップ	12/5	Campus Montessori	無料	嘉数道彦、花城英樹、佐辺 良和、平良大	32人	-
パリ学校ワークショップ	12/5	Eveil et Moi Ecole montessori	無料	嘉数道彦、花城英樹、佐辺 良和、平良大	17人	-
組踊ワークショップ	2/22	国立劇場おきなわ 養成研修室	無料	川満香多、佐辺良和、玉城 和樹	11人	100.0%

③教員免許更新制における免許状更新講習

日 程：12/14～15

講 師：振興会職員等

講義内容：講義、公演見学、舞台見学、実演体験(全 13.2 時間)

参 加 者：免許の更新期限を迎える現職教員 10 名

④公演記録映像の有効活用

- ・ 公演記録鑑賞会(伝統芸能情報館、文楽劇場、国立劇場おきなわ)を定期的に開催し、国立劇場、演芸場、文楽劇場、国立劇場おきなわで過去に上演された公演記録映像を相互に活用した。
- ・ 伝統芸能情報館では企画展示の都度、シアタースペースにおいて展示内容に因んだ過去の公演記録映像や入門的な映像等 10 分～30 分程度のものを数編用意し、来場者の選択により上映。
- ・ 能楽堂公開講座(6/11「『船弁慶』を読み解く」講師：小田幸子)において、開場時からの公演記録映像を使用した。それにより講義内容の理解が深まり、6 月能楽鑑賞教室の鑑賞の一助となった。
- ・ 文楽劇場開場 35 周年記念特別企画展示「文楽の世界」(4/6～5/26)において、開場 30 周年から 35 周年までの主な出来事について当時の公演記録映像と共に紹介。
- ・ 文楽劇場開場 35 周年記念特別企画展示「紋下の家-竹本津太夫家に伝わる名品-」(9/28～11/24)において、SP レコード音源や公演記録映像を編集し、三代・四代津太夫の至芸を紹介。
- ・ 文楽劇場常設展示「文楽入門」(1/3～3/16、2/28～3/16 まで休室)において、六代竹本鍛太夫襲名にちなみ、先代(五代鍛太夫)の SP レコードの音源を中心に写真と共に紹介。
- ・ 琉球放送創立 65 周年記念特別番組「組踊 1719-2019」(11/20、27 放送)において、研究公演 御冠船踊と組踊「執心鐘入」「銘苺子」の公演記録映像が放映された。
- ・ 国立劇場おきなわでは、企画展示の都度、展示室内において展示内容に因んだ過去の公演記録映像を 10 分程度に編集して上映した。

⑤組踊等沖縄伝統芸能の普及活動の充実

- ・ 小学校～高等学校に実演家が赴いて、学生に琉球芸能の魅力を伝えるおでかけワークショップを引き続き実施したほか、組踊 300 周年を記念して実施された全国公演やパリ公演に伴って、県外・国外でも多数ワークショップ等のイベントを行った。その他新しい試みとして、サンエー那覇メインプレイスや県立図書館でも組踊普及のためのイベントを開催した。

4 - (2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

《中期計画の概要》

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

現代舞台芸術の公演の充実等に資するため、以下に掲げる調査研究並びに資料の収集及び活用を行う関係機関等と連携した取組を進めるなど効果的に活用

(2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 新国立劇場で上演する現代舞台芸術に関し、上演作品等についての資料調査を実施

イ 現代舞台芸術に関する図書、資料等の収集及び分類整理を行い、閲覧に供する

他の劇場施設等への貸与を実施

ウ 収集した資料等を新国立劇場その他の施設において展示し、インターネット等を有効利用して公開

エ 舞台美術センター資料館については、現状分析を行い、活用方法等、施設の在り方を現行中期目標期間中に検討

(3) 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存、閲覧・視聴に供する

イ 伝統芸能及び現代舞台芸術の理解促進と普及を図るため、公開講座、公演記録の鑑賞会等を実施

広報活動を十分に実施、参加者へのアンケート調査を行い、内容の充実を図る

公演記録映像については、必要な著作権処理を行った上で一層の有効活用に努める

《年度計画の概要》

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

(3) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 新国立劇場で上演する現代舞台芸術の主催公演等に関し、上演作品等についての資料調査を実施

① 現代舞台芸術に関する調査を行い、新国立劇場での上演に活用、調査結果を活用して講演会等を実施

② 他劇場等の情報を収集して公演の充実等に活用、公演プログラム等において公開

③ 主催公演の公演記録映像、写真、舞台演出・美術資料等について整理・保存、他の劇場施設等への貸与

④ 明治元年から現代までの日本の現代舞台芸術に関する年表をパネル展示等で引き続き紹介

イ 現代舞台芸術に関する図書、資料等の収集及び分類整理、公演関係者、研究者及び一般の閲覧に供する他の劇場施設等への貸与を実施

① 情報センターについて、開架図書の整備、ホームページにおける所蔵資料検索サービスの提供等、利便性に配慮し利用促進に努める

② 図書資料管理システムについて、図書等の情報のデータベース化を実施

③ 所蔵品管理システムについて、寄贈資料や公演関連資料のデータベース化を実施

ウ 収集した資料等の展示公開を、別表 10 のとおり実施

舞台美術センター資料館の現状分析を行い、活用方法等、施設の在り方について、引き続き検討

ホームページで公開している「主催公演記録データベース」の充実を努める

(4) 現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存、公演関係者・研究者及び一般の視聴・閲覧に供して、再演及び他劇場の公演、現代舞台芸術の研究等に活用

イ 現代舞台芸術の理解促進と普及を図るため、次のとおり普及活動を実施

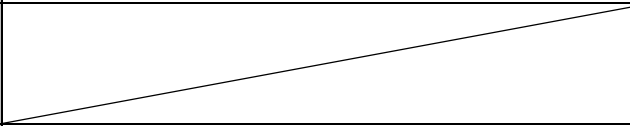
① 現代舞台芸術に関する公開講座等を別表 11 のとおり実施

広報活動を十分に実施、参加者へのアンケート調査を行い内容等の充実を努める

② 公演の実施にあわせた関連講座、展示等を適宜実施、内容に応じてホームページ等で公開

③ 公演記録映像については、必要な著作権処理を行った上で一層の有効活用に努める

《中期目標の指標・関連指標》

<p>4-1 展示公開の来場者数 (前中期目標期間実績以上)</p>	<p>759 人 (H25-29 実績平均 : 801.4 人)</p>
<p>4-3 調査研究の実施並びに資料の収集及び活用について、目標に従い業務を実施しているか (評議員会の評価を踏まえ判断)</p>	
<p>4-A 公演記録の作成状況(公演記録の作成件数等)</p>	<p>P. 212 に掲載</p>

ア 主催公演の上演作品等についての資料調査

①現代舞台芸術に関する調査研究・調査結果の活用

- ・小川絵梨子演劇芸術監督及び3名の委員による「演劇研究会」を定期的に開催し、その成果として演劇制作の現場や舞台の周辺など様々な切り口で掘り下げる「ギャラリー・プロジェクト」を開催。
- ・演劇公演において、公演終了後に演出家・出演者が登壇し演出の狙いや制作過程等について語り合う「シアタートーク」を開催。(台風19号接近のため中止した「どん底」を除く6演目)
- ・新制作オペラ「トゥーランドット」について、大野オペラ芸術監督がピアノを弾きカヴァー歌手の歌唱を交えながら作品の魅力を解説する「大野和士のオペラ玉手箱 with Singers Vol.2『トゥーランドット』」(6/29)を開催。
- ・新制作オペラ「エウゲニ・オネーギン」について、演出家(ドミトリー・ベルトマン)の解説にカヴァー歌手による歌唱を交えたオペラトーク(9/23)を開催。
- ・民間出版社と連携して下記戯曲を刊行。
 - ◇6月演劇「オレステイア」新訳戯曲刊行。(「悲劇喜劇」2019年7月号掲載)
 - ◇10月演劇「どん底」新訳戯曲刊行。(群像社2019年10月発行)
 - ◇12月演劇「タージマハルの衛兵」新訳戯曲刊行。(「悲劇喜劇」2020年1月号掲載)
- ・現代舞台芸術に関する調査研究の成果を記事として下記公演プログラムに掲載。
 - ◇オペラ：10冊
 - ◇演劇：7冊
- ・かつて刊行した「〈要点〉日本演劇史」の本文と年表の戦後を加筆し(本文は近代以降にしぼって掲載)、ホームページ(WEB資料集)に掲出した。

②他劇場等の情報収集・活用

- ・「演劇研究会」により日本の劇場(穂の国とよはし芸術劇場、三重県文化会館、いわき芸術文化交流館、三股町立文化会館、富士見市民文化会館、水戸芸術館、静岡県舞台芸術センター)を調査研究し、成果を演劇公演プログラム(7冊)に掲載した。
- ・国内外の劇場について、劇場のホームページや年報等の情報を基に資料収集・調査を実施。

③公演記録の整理・保存・他劇場等への貸与

- ・主催公演のプログラム、上演台本、ポスター等の主催公演資料を管理システムに登録、公開。
- ・主催公演の出演者やスタッフ等の情報について、公演記録データベースの作成作業を進めた。
- ・公演記録写真を雑誌社、放送局等へ貸出した(7件)。
- ・高校生のためのオペラ鑑賞教室・ロームシアター京都公演に合わせて、公演会場であるロームシアター京都にて、オペラ鑑賞教室の歴史や公演の舞台写真、衣裳、舞台模型等を展示した。(「オペラの扉 2019～Knock the Door, Opera Exhibition～」、9/14～12/5、ロームシアター京都「ミュージックサロン」)

④「日本の現代舞台芸術」年表

- ・文化プログラムの一環として作成した明治元年から新国立劇場開場(1997年)までの年表を、特別展示「日本の現代舞台芸術」として引き続き劇場3階ギャラリーにパネル展示。併せてタブレット端末で年表中の人物・団体について詳細が見られるようにした。ホームページ(WEB資料集)には日本語に加え英語版の年表を新しく掲載した。

イ 現代舞台芸術の図書・資料の収集・活用

①情報センターの利用促進

(a) 収集・公開実績

区分	収集		公開					
	図書	資料	利用者数	開室日	ビデオブース利用*	タブレット利用	ビデオシアター利用	図書貸出
情報センター閲覧室	469冊	64点	28,169人	209日	1,593人	256人	2,619人	690件
舞台美術センター資料館			759人	187日	373人			

※舞台美術センター資料館はAVコーナーの利用者数。

- ・情報センターでは、こどものためのバレエ劇場「白鳥の湖」の上演に合わせて「夏休みシアター」を実施し、閲覧室にもモニターを設置して劇場紹介動画や「初台アート・ロフト」展示と絡めた公演映像を上映した。(7/25～30)
- ・上演される公演にあわせて、関連書籍、過去の公演のプログラム等を閲覧室の開架とし、広く利用に供した。
- ・閲覧室に「調査研究関連コーナー」を設置(11/15～)、情報センターが収蔵する資料から舞台芸術に関する調査、研究報告書をピックアップして開架し、ホームページでも紹介した。
- ・オペラ「蝶々夫人」の上演に関連して、同作の初演時の衣裳・小道具デザイン原画を新国立劇場情報センター所蔵品展として開催。(6/6～3/31、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため2/27以降中止)
- ・展示内容を劇場公開空地等の展示と連動させ案内ちらしを作成する等、情報センターへ訪れやすい環境を整えた。
- ・ホームページの情報センターページをリニューアルし、調べたい項目へのアクセスしやすく工夫した。
- ・舞台美術センター資料館の活用方法、施設の在り方について検討するため、来館者アンケートを引き続き実施した。
- ・情報センター閲覧室、舞台美術センター資料館ともに、予定の休室日に加え以下を休室とした
台風19号接近のため 10/12,13
新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため 2/28～3/31

(b) 活用実績

区分	活動名	会場	主催等	活用内容	期間
全ジャンル	「初台アート・ロフト」	新国立劇場内 1～3階 オープンスペース	主催:新国立劇場 監修:妹尾河童 展示プラン:伊藤雅子、清野佳苗、針生 康 衣裳展示:桜井久美	舞台装置模型・ 衣裳 小道具等を使用	7/4～
オペラ	「オペラの扉 2019 KNOCKING ON THE DOOR OPERA EXHIBITION」	ロームシアター 京都	主催:公益財団法人ローム ミュージック ファンデーション、公益財団法人 京都市音楽芸術文化振興財団 共催:新国立劇場 協賛:ローム株式会社	舞台装置模型・ 衣裳貸出	9/14～12/5
オペラ・ バレエ	「新国立劇場 舞台美術展で 巡るオペラ・バレエの世界 ～ Opera&Ballet Stage Set&Design Exhibition～」	東京スカイツリー ソラマチ	主催:新国立劇場	舞台装置模型・ 衣裳を使用	2/22～24

②図書等の情報のデータベース化(図書資料管理システム)

- ・単行本、台本、公演プログラム等の図書資料や映像資料等を登録し、収蔵情報をホームページで公開した。

③寄贈資料・公演関連資料のデータベース化(所蔵品管理システム)

- ・公演ポスター(主催公演・貸劇場公演等)を新たに登録し、公演の充実に資するとともに、所蔵情報をホームページで公開した。

ウ 資料等の展示公開

(新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除く)

展示室	企画内容	期間	日数	来場者数	目標来場者数
舞台美術センター 資料館※	「オペラ・バレエ衣裳展示」	通年	のべ 187 日	759 人	617 人
	企画展(途中入替)	通年			

新国立劇場内	公演関係展示(劇場ホワイエ)	随時	のべ 77 日	76,033 人	
	公演関連展示(情報センター)※	随時	209 日	28,169 人	15,876 人
	公演関連展示(劇場内公開空地)	随時	359 日	205,577 人	
	「日本の現代舞台芸術」(3F ギャラリー)	随時	359 日	39,948 人	

※台風 19 号接近のため 10/12, 13 休室

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため 2/28 以降休室

(年度当初の計画)

展示室	企画内容	期間	日数	来場者数	目標来場者数
舞台美術センター 資料館※	「オペラ・バレエ衣裳展示」	通年	187 日	759 人	700 人
	企画展(途中入替)	通年			
新国立劇場内	公演関係展示(劇場ホワイエ)	随時	のべ 77 日	76,033 人	
	公演関連展示(情報センター) ※	随時	209 日	28,169 人	19,300 人
	公演関連展示(劇場内公開空地)	随時	359 日	205,577 人	
	「日本の現代舞台芸術」(3F ギャラリー)	随時	359 日	39,948 人	

※台風 19 号接近のため 10/12, 13 休室

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため 2/28 以降休室

- ・新国立劇場内の 3 階ギャラリーで、特別展示「日本の現代舞台芸術」を引き続きパネル展示すると同時に、舞台衣裳・公演ポスター展示を行った。(～7/3)
- ・新国立劇場内のオープンスペースに、主に舞台美術模型や衣裳、大道具等の舞台関連の品々を展示する「初台アート・ロフト」を開設。日本における舞台美術界の第一人者である妹尾河童氏を監修に迎え、舞台美術、衣裳デザインの専門家に協力を仰いで展示プランを構築した。新国立劇場の所蔵品のみならず日本の舞台芸術史において重要な作品の装置模型なども展示した。舞台裏の様子を体験できるバックステージコーナーも併設した。公演がない日でも劇場を訪れ、オープンスペース内を散策しながら無料で気軽に舞台芸術に親しめる環境を創出する。展示品は随時入れ替え。手持ちのスマートフォンから QR コードを読み込んで利用できる音声ガイドのサービスを整備した。(7/4)
- ・新国立劇場内の 1 階待ち合わせコーナーでは、公演記録映像のダイジェスト版や劇場紹介動画などを上映し、待ち合わせコーナーの利用者に供した。
- ・オペラ「蝶々夫人」の上演に関連して、同作の初演時の衣裳・小道具デザイン原画を新国立劇場情報センター所蔵品展として開催。(6/6～2/26、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため以降休室)
- ・そのほか情報センターでは、主催公演に合わせて関連図書を集め展示したほか、「初台アート・ロフト」に関連した資料も揃え来場者が自由に手に取って閲覧できるようにした。
- ・高校生のためのオペラ鑑賞教室・ロームシアター京都公演に合わせて、公演会場であるロームシアター京都にて、オペラ鑑賞教室の歴史や公演の舞台写真、衣裳、舞台模型等を展示した。(「オペラの扉 2019～Knock the Door, Opera Exhibition～」、9/14～12/5、ロームシアター京都「ミュージックサロン」)
- ・国内外から多数の観光客が訪れる観光スポットである「東京スカイツリー ソラマチ」にて、「新国立劇場 舞台美術展で巡るオペラ・バレエの世界～Opera&Ballet Stage Set&Design Exhibition～」を開催し、舞台装置模型及び衣裳を展示した。あわせてミニ・コンサートも実施し、劇場の紹介と舞台芸術の普及に努めた。(2/22～24)

(4) 現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 公演記録の作成・活用

①作成実績

区分	記録件数・内容
新国立劇場	映像・音声・写真 27 公演

②活用実績

媒体	公開
記録写真	27公演
記録映像	10件

- 記録写真をHPの「舞台写真・公演記録」ページで、記録映像を情報センターで公開した。
- 新国立劇場1階の待ち合わせコーナーで公演記録映像のダイジェスト版等を上映した。
- 公演記録写真を雑誌社、放送局等へ貸出(7件)。
- 高校生のためのオペラ鑑賞教室・ロームシアター京都公演に合わせて、公演会場であるロームシアター京都にて、オペラ鑑賞教室の歴史や公演の舞台写真を衣裳、舞台模型等とともに展示した。(「オペラの扉2019～Knock the Door, Opera Exhibition～」、9/14～12/5、ロームシアター京都「ミュージックサロン」)
- 国内外から多数の観光客が訪れる観光スポットである「東京スカイツリー ソラマチ」にて、「新国立劇場 舞台美術展で巡るオペラ・バレエの世界～Opera&Ballet Stage Set&Design Exhibition～」を開催し、公演の舞台写真を舞台装置模型及び衣裳とともに展示した。(2/22～24)

イ 普及活動

①現代舞台芸術に関する公開講座等

会場	名称	回数	目標回数	アンケート 有意義回答の割合
舞台美術センター 資料館	現代舞台芸術公開講座	2回	2回	84.5%
	公演記録映像上映会	28回※	32回	-
新国立劇場内	現代舞台芸術講座 (ギャラリー・プロジェクト他)	17回	7回	95.7%
	情報センター 公演記録映像上映会	36回※	32回	92.1%
合計		83回	73回	93.1%

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため2/28以降は中止

舞台美術センター資料館 公演記録映像上映会 4回中止(2/26, 3/4, 14, 22)

新国立劇場内 公演記録映像上映会 2回中止(3/15:1日2回上映)

(a) 舞台美術センター資料館

現代舞台芸術の理解の促進と普及を図るため、公演記録映像の上映会(月例で毎月3回、8・9月は1回)に加えて現代舞台芸術講座としてオペラコンサート(2回)を実施。

名称	会場	日程	開演時間	参加者数	アンケート 有意義回答の割合
舞台美術センター オペラコンサート 「銚子!?のいい仲間たち」	舞台美術センター資料館 1F 展示ホール	10/3	11:30(一般) 14:15(学校貸切)	240人	84.5%

(b) 新国立劇場内

i. 現代舞台芸術講座(ギャラリー・プロジェクト他)

小川絵梨子演劇芸術監督及び3名の委員による「演劇研究会」を定期的で開催。その成果として、下表の通り、演劇制作の現場や舞台の周辺など様々な切り口で掘り下げる「ギャラリー・プロジェクト」を開催。

《ギャラリー・プロジェクト開催実績》 15講座(15回)

内容	会場	日程	参加者数	アンケート 有意義回答 割合
トークセッション「演劇術」Vol.2「フルオーディションの可能性」	小劇場	4/14	139人	100.0%
『かもめ』公演ガイドツアー	小劇場	4/28	27人	100.0%
トークセッション「演劇のおしごと」Vol.3～舞台監督とは?～	小劇場	5/19	169人	78.9%

少年王者館『1001』公演ガイドツアー	小劇場	5/23	15人	100.0%
トークセッション「演劇のおしごと」Vol.4～演出家とは？～	中劇場	6/16	293人	97.2%
『オレステイア』公演ガイドツアー	中劇場	6/26	30人	100.0%
トークセッション「演劇のおしごと」Vol.5～舞台美術家とは？～	小劇場	7/14	234人	100.0%
『骨と十字架』公演ガイドツアー	小劇場	7/25	20人	100.0%
《演劇イベント ギャラリー・プロジェクト》中高生のための、夏休みどっぷり演劇3Days	稽古場等	8/5～8/7	40人	82.5%
トークセッション「演劇のおしごと」Vol.6～音響家とは？～	小劇場	10/10	135人	95.5%
『どん底』公演ガイドツアー	小劇場	10/19	14人	100.0%
トークセッション「演劇のおしごと」Vol.7～照明家とは？～	小劇場	11/15	140人	100.0%
『あの出来事』公演ガイドツアー	小劇場	11/24	14人	100.0%
トークセッション「演劇おしごと」Vol.3『ことぜん』を語る	小劇場	12/11	140人	96.7%
『タージマハルの衛兵』公演ガイドツアー	小劇場	12/21	32人	100.0%
合計			1,442人	95.7%

新制作オペラの作品理解を深めるために、カバー歌手の歌唱を交えた音楽解説、演出家等のスタッフによる講座などを下表の通り開催した。(2回)

内容	会場	日程	参加者数
大野和土のオペラ玉手箱 with Singers Vol.2「トゥーランドット」	オペラ劇場	6/29	851人
オペラ「エウゲニ・オネーギン」オペラトーク	オペラ劇場ホワイエ	9/23	215人
合計			1,066人

ii. 公演記録映像上映会

情報センターの上映会は月例(原則毎月1回、1日2回上映)で実施した。

こどものためのバレエ劇場「白鳥の湖」公演期間中には「夏休みシアター」(7/25～30、1日2回、計12回)を実施。こどもに特化せずこどもも大人も楽しめる作品を選び、「初台アート・ロフト」と関連づけて多数の来場を得た。

また、9月は「秋のオペラスペシャル」と題してニーベルングの指環4部作を上映、長時間作品のため閲覧室モニターで同時上映しオペラ初級者でも気軽に映像に触れる機会を提供した。

(9/8, 15, 22, 29)

名称	会場	日程	上映内容	参加者数	アンケート 有意義回答の割合
情報センター 「夏休みシアター」	情報センター ビデオシアター	7/25～30	オペラ「アイーダ」「ジークフリートの冒険」「パルジファルと不思議な聖杯」「ルサルカ」 バレエ「白鳥の湖」「コッペリア」「アラジン」「パゴダの王子」 現代舞踊「サーカス」 演劇「夏の夜の夢」	368人	-

②公演の実施にあわせた関連講座・展示等

イベント名	期間	会場	料金	出演者等	参加者数
新国立劇場バレエ団「アラジン」 関連ワークショップ 【はじめてのバレエ・踊るって楽しい！】	5/18	オーバード・ホール リハーサル室	1,000円(「アラジン」 富山公演チケット購入者は無料)	柴山紗帆、池田理沙子、木村優子(新国立劇場バレエ団ダンサー)、圓井晶子(ピアニスト)	34人
バレエピアニストが語る本当は深いバレエと音楽のおはなし	8/7	札幌市民交流プラザ クリエイティブスタジオ	一般:2,500円、 U25:1,500円	滝澤志野(ウィーン国立バレエ団専属ピアニスト)、本島美和(新国立劇場バレエ団プリンシパル)	260人

新国立劇場バレエ団ダンサーのバレエ経験者向けワークショップ	8/31	札幌市民交流プラザ クリエイティブスタジオ	4,000 円	菅野英男(新国立劇場バレエ団プリンシパル)、圓井晶子(ピアニスト)	40 人
こどものためのバレエ劇場 2019「白鳥の湖」バレエ・ワークショップ	9/7	カノラホール 大ホール	無料	柴山紗帆、池田理沙子、木村優子(新国立劇場バレエ団ダンサー)、圓井晶子(ピアニスト)	28 人
こどものためのバレエ劇場 2019「白鳥の湖」クラスレッスン見学会	9/21	フェスティバルホール	1,000 円	新国立劇場制作部スタッフ、新国立劇場バレエダンサー、板橋綾子(バレエミストレス)、蛭崎あゆみ(ピアニスト)	257 人
「くるみ割り人形」クラスレッスン見学会	11/10	札幌文化芸術劇場 hitaru	500 円		181 人
バレエ「くるみ割り人形」握手会	12/14, 15, 21, 22	オペラ劇場ホワイエ	無料	小野絢子、福岡雄大、米沢唯、井澤駿、池田理沙子、奥村康祐、木村優里、渡邊峻郁	1,442 人
バレエ「白鳥の湖」(山形公演)ワークショップ	1/26	やまぎん県民ホール スタジオ 2	小学生 500 円 中学生以上 1,000 円	細田千晶、柴山紗帆、朝枝尚子、圓井晶子(ピアニスト)	54 人
「マノン」クラスレッスン見学	2/29 ※	新国立劇場 オペラ劇場	無料		403 人
「マノン」クラスレッスン見学	3/1 ※	新国立劇場 オペラ劇場	無料		542 人

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止

③公演記録映像等の有効活用

- ・ 5/31 オペラ「紫苑物語」(2019年2月公演)ラジオ放送(NHK-FM「オペラ・ファンタスティカ」)
- ・ 9/9 オペラ「トゥーランドット」(2019年7月東京文化会館公演)テレビ放送(NHK BS プレミアム「プレミアムシアター」)
- ・ 12/13 オペラ「トゥーランドット」(2019年7月東京文化会館公演)ラジオ放送(NHK-FM「オペラ・ファンタスティカ」)
- ・ 12/31 オペラ「紫苑物語」抜粋(2019年2月公演)及び「トゥーランドット」抜粋(2019年7月東京文化会館公演)テレビ放送(NHK E テレ「クラシック名演・名舞台 2019」)
- ・ 1/10 オペラ「エウゲニ・オネーギン」(2019年10月公演)ラジオ放送(NHK-FM「オペラ・ファンタスティカ」)
- ・ 2/17 バレエ「ニューイヤー・バレエ」(2020年1月公演)テレビ放送(NHK BS プレミアム「プレミアムシアター」)
- ・ 3/2 演劇「マリアの首」(2017年5月公演)テレビ再放送(NHK BS プレミアム「プレミアムシアター」)
- ・ 「World Ballet Day 2019」に新国立劇場が参加し、Facebook 及び YouTube にて新国立劇場バレエ団のリハーサル風景等をライブ配信した。(10/23)
- ・ 新国立劇場バレエ団の公演映像が使用された NHK E テレ「ららら♪クラシック」が放送(1/24 放送・1/30 再放送)。
- ・ オペラ及び舞踊芸術監督による 2019/2020 シーズン紹介動画や各公演の宣伝動画等に公演記録映像を使用。インターネット配信や劇場ホワイエ等で上映し、周知に努めた。
- ・
- ・ 台湾の台中国立歌劇院が春節の時期である 1 月末に開催する舞台映像上映会にて、新国立劇場の公演記録映像が上映された。

上映会名	会場	期間	回数	参加者数
台中国立歌劇院 舞台映像上映会 バレエ「くるみ割り人形」	台中国立歌劇院小劇場	1/27、28	2 回	416 人
台中国立歌劇院 舞台映像上映会 オペラ「蝶々夫人」	台中国立歌劇院小劇場	1/27、29	2 回	354 人

Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するために とるべき措置

1 業務運営の効率化

1 業務運営の効率化	p.214
(1) 組織体制の整備・強化	p.214
(2) 給与水準の適正化	p.216
(3) 契約の適正化	p.216
(4) 共同調達等の取組の推進	p.217
(5) 情報システムの活用	p.218
(6) 予算執行の効率化	p.218

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

《中期計画の概要》

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

劇場利用者等へのサービスその他の業務の質の向上を考慮しつつ、次の取組を行い、事務及び事業の改善を図る

1 業務運営の効率化に関する取組

平成29年度予算を基準として中期目標の期間中、一般管理費については15%以上、事業費についても毎事業年度につき1%以上の効率化を図る。ただし、特殊要因経費はその対象としない

また、人件費については3項に基づき取り組むこととし、本項の対象としない

2 組織体制の整備・強化

劇場間の連携強化を図るとともに、業務・組織体制について検討を行い、必要な措置を講ずる

3 給与水準の適正化等

国家公務員の給与水準等とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については適正な水準を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表

4 契約の適正化

契約については、「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」(平成27年5月25日総務大臣決定)に基づく取組を着実に実施することにより、契約の適正化を推進する。毎年度「調達等合理化計画」を策定し、点検、見直しを実施

5 共同調達等の取組の推進

(1) 共同調達

各施設の業務内容や地域性を考慮しつつ、他法人や周辺の機関と連携し、コピー用紙等の消耗品や役務について、共同して調達する取組を年度計画に具体的な対象品目を定めた上で進める

(2) 省エネルギー、リサイクルの推進

省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクル、ペーパーレス化等を推進し、使用資源の縮減を図り、環境に配慮した業務運営に努める

6 情報システムの活用

効率的な情報システムの整備により、各事業の効果的・効率的な運営を支援

7 予算執行の効率化

運営費交付金の会計処理として、収益化単位の業務ごとに予算と実績を適切に管理

《年度計画の概要》

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務運営の効率化を進めるため、次の措置を講ずる

(1) 組織体制の整備・強化

2020年東京大会を契機とする文化プログラムの中核的事業として実施する「日本博」において、我が国の文化芸術の魅力を国内外に戦略的に発信するため、日本博事務局を設置し、企画立案・広報機能の強化を図る

(2) 給与水準の適正化

国家公務員の給与水準等とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については適正な水準を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表

(3) 契約の適正化

ア 「調達等合理化計画」に基づき契約の適正化を図り、原則として一般競争入札によることとする

また、その取組状況をホームページで公表

イ 契約監視委員会において、定期的に契約の点検を行い、その結果を踏まえた見直しを実施

ウ 入札事務の効率化と競争参加者の利便性向上のため、電子入札を一部の案件で実施

(4) 共同調達等の取組の推進

ア 共同調達等の取組の推進

法人間又は周辺他機関と連携し、次の品目について共同調達を推進

この他の品目の共同調達の実施については費用対効果に配慮しつつ検討

①コピー用紙

②トイレトーパー及びペーパータオル

イ 省エネルギー、リサイクルの推進

① 特定地球温暖化対策事業所として、地球温暖化対策計画書等を作成し二酸化炭素(CO2)の削減を推進

② 夏季軽装等の推進による、事務所部分を中心とした光熱水量の節減を図る

③ 廃棄物の減量化を図るため、両面コピー及び分別収集を徹底

④ 情報システムの利用促進により、ペーパーレス化を進める

⑤ グリーン購入法に基づく環境配慮物品等の調達を行い省エネルギー、リサイクルを促進

(5) 情報システムの活用

業務システムの安定稼働を引き続き図ることにより、各業務の効率的な運用を行う

ICカード認証コピーの導入やWEB会議システムの活用により業務や経費の効率化を図る

(6) 予算執行の効率化

運営費交付金の会計処理として、引き続き、収益化単位の業務ごとに予算と実績を適切に管理

自己評定	B
自己評定の根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の進捗に合わせ、適切な事業名称及び組織名称に変更した。 ・各項目につき、計画通り必要な措置を講じた。 ・セキュリティ強化やシステムの更改等、課題に適切に対応し、改善を図ることができた。
数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）	数値目標なし
主要な業務実績	<p>(1) 組織体制の整備・強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大型文化催事準備チームを廃止し、日本博事務局を新設。(4/1) ・国立劇場等大規模改修政策提言プロジェクトチームを新設。(6/6) <p>(2) 給与水準の適正化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家公務員の給与改定に倣い初任給を引き上げ、若年層についても俸給表の水準を引き上げた(平均改定率約0.1%)。 ・前年度の給与水準について、検証結果や取組状況を公表した。 <p>(3) 契約の適正化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・契約の適正化に係る制度に基づき、調達等合理化計画を策定し、公表した。また、契約監視委員会を開催して契約の点検を行った。 <p>(4) 共同調達等の取組の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続きコピー用紙の調達については独立行政法人日本スポーツ振興センター及び独立行政法人国立美術館と、トイレトペーパー及びペーパータオルについては公益財団法人新国立劇場運営財団と、共同調達を実施。 ・光熱水量の削減について、観劇環境や業務に支障のない範囲で節電対策を実施 ・廃棄物について、引き続き減量化を図るとともに種別分別を徹底。 ・ペーパーレス化促進のため、両面コピー、グループウェアの活用等を実施。 <p>(5) 情報システムの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報館監視カメラシステムの更改。 ・各種システムの元号対応及び消費税対応の実施。 <p>(6) 予算執行の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各課室の予算執行見込について調査し、不用・不足を調整、予算の効率的な執行に努めた。
課題と対応	

1 業務運営の効率化

一般管理費：以下の数式により効率化の達成状況を計っている。

$$\text{増減比率} = (B-A) \div A$$

A：平成 29 年度の一般管理費予算額(特殊要因及び人件費を除く)
※運営費交付金算定の基礎となった額

B：当該年度の一般管理費予算額(特殊要因及び人件費を除く)

事業費：以下の数式により効率化の達成状況を計っている。

$$\text{増減比率} = (B-A) \div A$$

A：前年度の事業費予算額(特殊要因及び人件費を除く)
※運営費交付金算定の基礎となった額

B：当該年度の事業費予算額(特殊要因及び人件費を除く)

《一般管理費》(単位：百万円、%)

区分	金額
平成 30 年度予算(A)	444
令和元年度予算(B)	420
増減比率	△5%

令和元年度予算額は、消費税影響額 3 百万円を除けば 417 百万円で、△6%を達成している。

《事業費》(単位：百万円、%)

区分	金額
平成 30 年度予算(A)	6,721
令和元年度予算(B)	6,708
増減比率	△0.2%

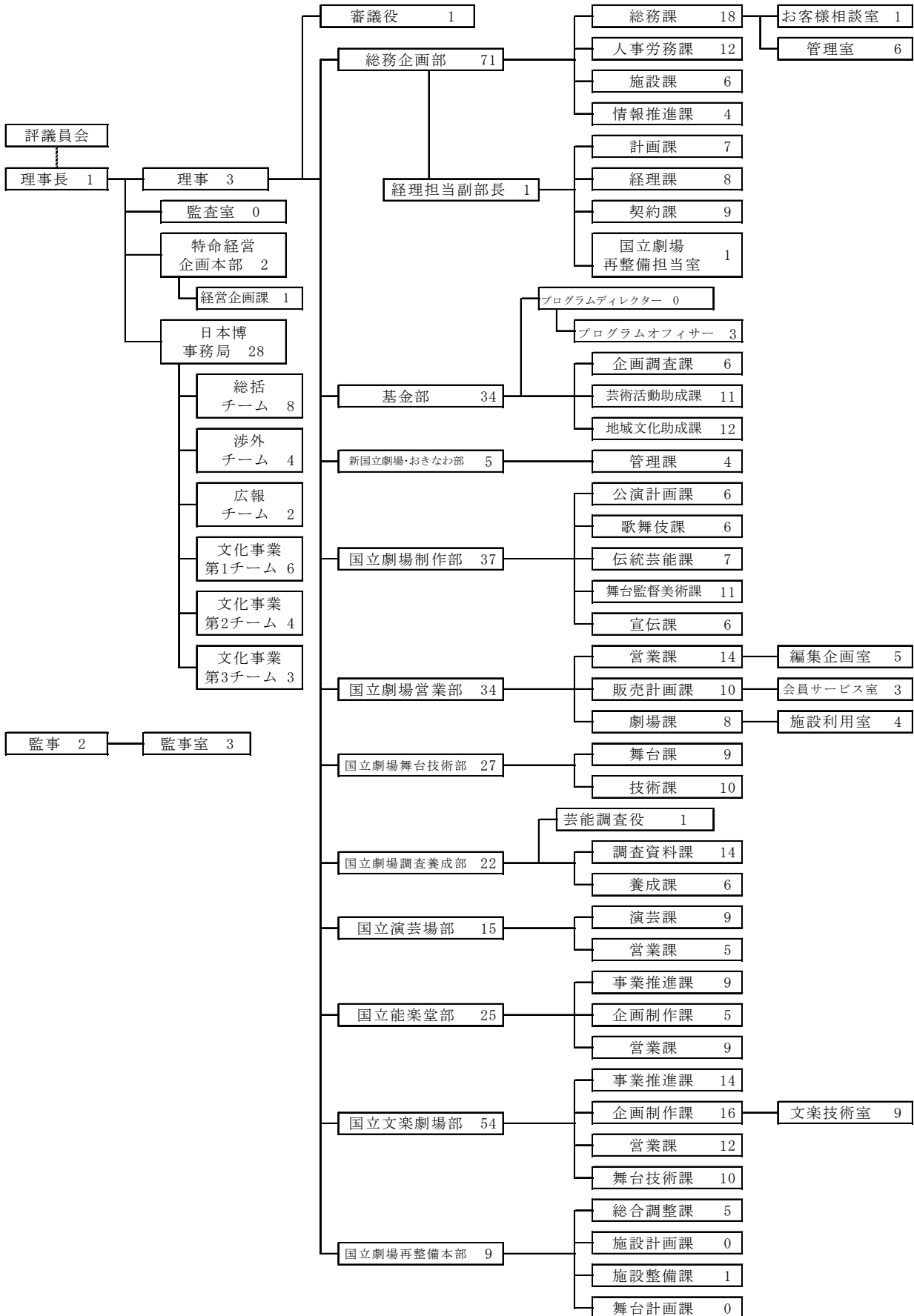
令和元年度予算額は、消費税影響額 54 百万円を除けば 6,654 百万円で、△1%を達成している。

(1) 組織体制の整備・強化

- 大型文化催事準備チームを廃止し、日本博事務局を新設。(4/1)
国際文化交流の祭典の実施の推進に関する法律(平成 30 年法律第 48 号)に基づき定められた「国際文化交流の祭典の実施の推進に関する基本計画」(平成 31 年 3 月 29 日閣議決定)において、振興会が日本の文化芸術の魅力を国内外に発信する「日本博」の事務局を担うことが明記されたことに伴い、日本博事務局を新設した。
- 国立劇場等大規模改修政策提言プロジェクトチームを新設。(6/6)
大規模改修に向けた企画立案及び実施体制の強化を図るため、大規模改修推進本部職員及び部横断的に若手職員が参画する、国立劇場等大規模改修政策提言プロジェクトチームを新設した。
- 国立劇場等大規模改修について、現在の進捗及び整備方針検討の方向性に鑑み、事業の名称を「国立劇場再整備」に変更し、合わせて組織名称も「国立劇場再整備本部」とした。(10/7)
※「大規模改修」は、令和元年度中に「再整備」に名称を変更している。

《組織図》

※ 数字は役員及び常勤職員数(令和2年4月1日現在)



(2) 給与水準の適正化

ア 对国家公務員指数への適正な水準の維持

- ・ 国家公務員の給与改定に倣い初任給を引き上げ、若年層についても俸給表の水準を引き上げた(平均改定率約 0.1%)。
- ・ 賞与の支給月数を引き上げた(年間支給月数：4.39 か月→4.44 か月)。引き上げ分は、勤務実績に応じた評価による給与支給の推進のため、勤勉手当に配分した。
- ・ ラスパイレス指数[※]は、106.6 (地域・学歴勘案=93.5)であり、地域・学歴を勘案した指数では国家公務員の水準未満であった。
また、全独立行政法人のラスパイレス指数は、102.4 (地域・学歴勘案=100.8)であり、当振興会の水準は、地域・学歴を勘案した指数では全独立行政法人の水準未満であった。

※ラスパイレス指数=国の一般職俸給表適用者の給与を 100 としたときの給与水準の指数
<国からの財政支出>

支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 79.7%

(国からの財政支出額 17,156 百万円/支出予算の総額 21,523 百万円(30 年度予算))

イ 給与水準の適正化に関する検証結果・取組状況の公表

- ・ 引き続き国家公務員との給与の比較を行い、HP に「独立行政法人日本芸術文化振興会の役職員の報酬・給与等について」を掲載し、給与水準に係る適正化に関する検証結果及び取組状況を公表した(30 年度ベース)。

(3) 契約の適正化

ア 「調達等合理化計画」に基づく契約の適正化

- ・ 公正性・透明性を確保しつつ、自律的かつ継続的に調達等の合理化に取り組むことを目的として、令和元年度の「調達等合理化計画」を策定し、公表した。
- ・ 「調達等合理化計画」に基づき、随意契約の検収に際し調達原課以外の職員による立会いを行うなど、相互牽制の体制を整備した。
- ・ 「調達等合理化計画」に基づき、調達に関するガバナンスの徹底のため、少額随意契約を除く随意契約を締結することとなる案件について、経理担当副部長及び契約担当部署が調達原課の報告に対し点検を行い、随意契約に関する内部統制の確立に努めた。
- ・ 「調達等合理化計画」に基づき、適正な調達手続きの周知、理解を徹底し、不祥事の発生の未然防止を図るため、経理関係業務研修会及び施設担当職員研修会を開催した。

イ 契約監視委員会における契約の点検

- ・ 第 21 回契約監視委員会(6/19)
議事：連統一者応札・応募等事案フォローアップ(平成 30 年度分)、平成 30 年度契約に関する点検・見直し、調達等合理化計画の自己評価の実施及び策定。
- ・ 第 22 回契約監視委員会(12/4)
議事：令和元年度調達等合理化計画における進捗状況の報告、連統一者応札・応募等事案フォローアップ(令和元年度分)
- ・ 外部有識者を含めた委員による「日本芸術文化振興会契約監視委員会」(第 21 回、第 22 回)において、定期的な契約の点検を実施し、報告書を理事長に提出した。
- ・ 第 21 回契約監視委員会を開催し、競争性のある契約(一般競争・企画競争)及び競争性のない随意契約について、契約変更の適正性や契約金額の妥当性等を点検審議した(6/7)。
- ・ 第 22 回契約監視委員会を開催し、連統一者応札・応募等事案について点検を行い、競争性の確保等を審議した(12/11)。

《改善内容》

- ・ 「令和 2～3 年度国立劇場構内で使用するガスの調達」(仕様を見直し、1 年間の契約から 2 年間の複数年契約として一般競争入札(政府調達)を実施することにより、業務の効率化を図った。)
- ・ 「令和 2～3 年度公演記録写真のリサイズ及びディスク製作作業等(本館・演芸場)」(仕様を見直し、1 年間の契約から 2 年間の複数年契約として一般競争入札を実施することにより、業務の効率化を図った。)

ウ 電子入札の実施

- ・ 入札事務の効率化を図るほか、入札参加者の利便性向上のため、工事及び設計・コンサルティング業務につ

いて電子入札を導入している。

(4) 共同調達等の取組の推進

ア 共同調達等の取組の推進

①コピー用紙

- ・ 振興会と独立行政法人日本スポーツ振興センター及び独立行政法人国立美術館との間の共同調達に関する協定に基づき、コピー用紙の共同調達を実施。

②トイレトペーパー及びペーパータオル

- ・ 振興会と公益財団法人新国立劇場運営財団との間の共同調達に関する協定に基づき、トイレトペーパー及びペーパータオルの共同調達を実施。

イ 省エネルギー、リサイクルの推進

①地球温暖化対策計画書等の作成、二酸化炭素(CO2)の削減推進

- ・ 令和1年11月に「地球温暖化対策計画書」を提出。
地球温暖化対策を推進するために、自らの温室効果ガスの排出量の把握に努め、東京都の削減目標に従い、組織一体で排出量の計画的削減に努めた。

②光熱水量の節減

- ・ 引き続き各館において、観劇環境や業務に支障のない範囲で以下の節電対策を行った。
 - ◇ 執務室、会議室、通路等の照明を業務に支障のない範囲で間引き・減灯した。
 - ◇ 事務所部分を中心に夏季の軽装を奨励するとともに、冷暖房の抑制(夏季ピーク時の制限、設定温度の制限)を実施。

事 項	区 分	使用量	対前年度増減
電 気	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	4,933,196kwh	0.8%
	能楽堂	792,218kwh	△ 3.8%
	文楽劇場	1,199,176kwh	△ 1.8%
	合 計	6,924,590kwh	△ 0.2%
ガ ス	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	160,875 m ³	3.1%
	能楽堂	71,373 m ³	△ 3.8%
	文楽劇場	94,698 m ³	0.5%
	合 計	326,946 m ³	0.7%
水 道	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	33,837 m ³	△ 2.9%
	能楽堂	6,371 m ³	2.5%
	文楽劇場	10,446 m ³	△ 9.6%
	合 計	50,654 m ³	△ 3.7%

③廃棄物の減量化

- ・ 引き続き廃棄物の減量化に努めた。
- ・ リサイクル意識の向上に努めたため、本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館では再利用廃棄物が減少した。
- ・ 本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館では、年度末に食堂業者の撤退に伴う廃材の廃棄及び舞台技術関係では、大道具及び照明器具の更新、解体に伴う釘や金具等廃材の廃棄により産業廃棄物が増加した。
- ・ 文楽劇場では開場 35 周年による観客の増及び倉庫整理、大掃除等を行ったことにより一般廃棄物が一時的に増加した。

事 項	区 分	処理量	対前年度増減
一般廃棄物	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	48,699kg	5.4%
	能楽堂	4,670kg	4.4%
	文楽劇場	12,024kg	19.5%
	合 計	65,393 kg	7.7%

再利用廃棄物	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	40,848kg	2.1%
	能楽堂	7,803kg	△ 0.8%
	文楽劇場	14,970 kg	△ 7.6%
	合計	63,621 kg	△ 0.7%
産業廃棄物	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	8,896kg	25.1%
	能楽堂	1,104kg	△ 0.3%
	文楽劇場	7,934kg	△ 9.2%
	合計	17,934kg	5.8%

④ペーパーレス化

- ・ 伝統芸能情報館では日本博事務局の新設によりコピー用紙使用量が増加した。
- ・ 引き続き、両面コピー、グループウェアの活用等によりペーパーレス化促進に努める。

事項	区分	使用量	対前年度増減	購入枚数	対前年度増減
コピー用紙	本館・演芸場	1,171,774 枚	△ 1.5%	3,500,000 枚	△ 6.1%
	事務棟	2,215,961 枚	8.8%		
	伝統芸能情報館	1,185,160 枚	152.8%		
	能楽堂	317,748 枚	5.0%	417,500 枚	△ 15.9%
	文楽劇場	285,052 枚	0.8%	426,500 枚	△ 1.7%
	合計	5,175,695 枚	20.9%	4,277,500 枚	△ 6.5%
	うち管理部門	1,281,004 枚	10.2%		

⑤グリーン購入法に基づく調達

事務用消耗品を中心に、環境物品等の調達の推進を図るための方針に基づいた物品購入等を行い、可能な限り環境への負荷の少ない物品等の調達に努めた。

(5) 情報システムの活用

ア 業務システムの整備

- ・ 各システムの元号対応改修
- ・ 各システムの消費税改定対応
- ・ 新入退システム運用開始
- ・ WEB 会議システムの導入(能楽堂)
- ・ 伝統芸能情報館監視カメラシステムの更改(11/27)

イ クラウドサービスの活用

- ・ ASP を活用したインターネットチケット販売運用開始(4/1)
- ・ クラウドストレージサービス利用開始(11/1)

ウ 情報セキュリティへの対応

- ・ ポリシーの理解増進及び意識向上を目的に管理者等を対象とした集合研修の実施に加え、外部の e-Learning システムを活用した情報セキュリティ教育を全職員対象に実施。
- ・ 標的型メール攻撃に関する教育・意識啓発を目的に、訓練用の標的型攻撃メールの受信体験を通じて同攻撃への適切な対処を職員に身につけさせることを意図した「標的型メール攻撃に対する訓練」を実施。
- ・ 各職員が情報セキュリティ対策を適切に実施しているかを確認するために自己点検を実施。
- ・ 内閣サイバーセキュリティセンター又は情報システム管理運用委託業者等から提供されるぜい弱性情報、ウイルス情報、不審メール情報等を振興会内電子掲示板に掲載し、重要性又は緊急性の高い情報については適宜全職員向けにメールで注意喚起を行うとともに、公表された脆弱性情報に対して随時対策を行い、情報セキュリティを確保。

(6) 予算執行の効率化

- ・ 各課室の予算執行見込について調査し、不用・不足を調整、予算の効率的な執行に努めた。

Ⅲ 予算、収支計画及び資金計画

Ⅲ 予算、収支計画及び資金計画	p.219
1 予算	p.221
2 収支計画	p.229
3 資金計画	p.230
4 保有資産の処分	p.230

Ⅲ 予算、収支計画及び資金計画

《中期計画の概要》

Ⅲ 予算(人件費の見積もりを含む)、収支計画及び資金計画

収入面に関しては実績を勘案しつつ、国民の鑑賞機会の確保と芸術活動の独創性等に十分留意した上で劇場入場料等自己収入の増加を図ることや税制措置を活用した寄附金の確保等により、計画的な収支計画による運営を図る

管理業務の効率化を進める観点から、各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算による運営に努める

1 予算(中期計画の予算) 別紙1のとおり

2 収支計画 別紙2のとおり

3 資金計画 別紙3のとおり

4 保有資産の処分

保有資産の見直し等については、「独立行政法人の保有資産の不要認定に係る基本的視点について」(平成26年9月2日付け総管査第263号総務省行政管理局通知)に基づき、保有の必要性を不断に見直し、保有の必要性が認められないものについては、不要財産として国庫納付等を行う。

Ⅳ 短期借入金の限度額

短期借入金の限度額は、10億円。

短期借入金が想定される理由は、運営費交付金の受入の遅延が生じた場合である。

Ⅴ 不要財産又は不要財産となることが見込まれる財産の処分等に関する計画

すでに廃止を決定した目黒職員宿舎、船橋第三職員宿舎、習志野職員宿舎について、独立行政法人通則法第46条の2の規定に基づき、中期目標期間中に当該不要財産を国庫納付する。

Ⅵ 重要な財産の処分等に関する計画

重要な財産を譲渡、処分する計画はない。

Ⅶ 剰余金の使途

決算において剰余金が発生したときは、次の経費等に充てる。

1 助成事業の充実

2 公演事業の充実

3 伝統芸能伝承者養成事業・現代舞台芸術実演家等研修事業の充実

4 調査研究・資料の収集活用・公演記録の作成活用等事業の充実

5 研修器具、芸能資料等の購入・修理

6 観劇者サービス、情報提供の質的向上、老朽化対応等のための施設・設備の充実

《年度計画の概要》

Ⅲ 予算、収支計画及び資金計画

1 予算 別紙1のとおり

2 収支計画 別紙2のとおり

3 資金計画 別紙3のとおり

4 保有資産の処分

保有資産については保有の必要性を不断に見直し、保有の必要性が認められないものについては不要財産として国庫納付等を行う

自己評定	B
自己評定の根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の効率化の実現のため、効率的な業務運営を見込んだ予算の策定及び執行管理を行った。 ・公演事業において、国立劇場公演の劇場入場料の減少等により、年度計画予算に対し収入額が減少した。一方で、公演費等の節減により、年度計画予算に対し支出額が減少した。 ・公演事業において、新型コロナウイルス感染症の影響による公演の中止により、劇場入場料収入に大きな減が生じることとなったが、国の公演開催自粛要請に従い、適切な対応を行った。 ・運営費交付金を適切かつ効率的に使用するため、第3四半期に交付金財源の予算について見直しを行った。 ・一般管理費において、人件費の支出額が年度計画予算に対して増加したが、予備費を有効活用することにより、年度計画予算に対し支出額が減少した。 ・日本博に係る委託費については、初めて執行する膨大な予算額であるが、結果として予算額の88%について執行することができた。
数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）	<p>年度計画 別紙1～3 予算、収支計画、資金計画参照</p>
主要な業務実績	<p>1 予算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本博事業については、運営費交付金及び公演受託事業費で、例年にはない多額の予算を執行することとなったが、法人全体で適確に執行に取り組み、事業に一定の成果を出した。 <p>2 収支計画 3 資金計画 4 保有資産の処分</p>
課題と対応	<ul style="list-style-type: none"> ・入場料収入の安定や施設使用料収入のより一層の増収を図るとともに、引き続き外部資金の獲得に努める。

《方針》

収入面に関しては、実績を勘案しつつ、外部資金等を積極的に導入することにより、計画的な収支計画による運営を図る。

※ 以下、計数は、それぞれ四捨五入により単位未満を処理しているため、合計において一致しない場合がある。

1 予算

(単位:千円)

区 分	平成 30 年度 決算額	令和元年度		
		予算額	決算額	増△減
収 入				
運営費交付金	10,089,414	10,449,388	10,449,388	0
雑収入	57,483	77,994	73,431	△ 4,563
文化芸術振興費補助金	6,424,718	6,872,694	6,865,292	△ 7,402
施設整備費補助金	411,796	237,052	364,078	127,026
基金運用収入	1,115,651	1,114,034	1,113,464	△ 570
寄附金収入	187,436	201,000	72,008	△ 128,992
その他の助成事業収入	14,708	11,642	27,629	15,987
公演事業収入	2,792,151	3,021,461	2,846,326	△ 175,135
公演受託事業収入	—	2,621,648	2,463,631	△ 158,017
計	21,093,357	24,606,913	24,275,247	△ 331,666
支 出				
一般管理費	1,292,060	1,173,149	1,253,894	80,745
うち人件費	1,040,132	890,586	978,339	87,753
うち物件費	251,928	282,563	275,555	△ 7,008
事業費	8,830,874	9,354,233	9,234,548	△ 119,685
うち人件費	2,111,048	2,199,827	2,169,396	△ 30,431
うち助成情報提供等事業費	171,769	180,843	177,291	△ 3,552
うち国立劇場事業費	1,962,258	2,416,776	2,331,143	△ 85,633
うち国立劇場おきなわ事業費	704,423	691,959	691,948	△ 11
うち新国立劇場事業費	3,881,375	3,864,828	3,864,770	△ 58
文化芸術振興費	6,251,444	6,872,694	6,634,611	△ 238,083
施設整備費	160,699	237,052	607,388	370,336
基金助成事業費	1,318,143	1,326,676	1,222,965	△ 103,711
うち人件費	187,385	199,515	201,827	2,312
うち物件費	1,130,757	1,127,161	1,021,138	△ 106,023
公演事業費	2,869,482	3,021,461	2,983,428	△ 38,034
公演受託事業費	—	2,621,648	2,299,183	△ 322,465
計	20,722,700	24,606,913	24,236,016	△ 370,897

《主な増減理由》※対予算額増減分析

(1)収入

- ・ 運営費交付金については、予算額と同額を収納した。
- ・ 雑収入（運営費交付金見合いの自己収入）については、計画予算に具体的な収入額を見込むことができなかった額が 4,740 千円あったこと等により、予算額に対して 4,563 千円の減となった。政府の内示を受けた雑収入予算額の収入を見込むためには、新たな収入源や収入単価の増額による収入増のための具体策を進める必要がある。
- ・ 文化芸術振興費補助金については、①映画製作への支援の収入額が予算額（425,791 千円）に比して 5,000 千円減少したこと、②舞台芸術創造活動活性化事業の収入額が予算額（3,287,046 千円）に比して 1,634 千円減少したこと等により、令和元年度予算額に対して 7,402 千円の減となった。

- ・施設整備費補助金については、令和元年度予算額には、令和元年度補正予算事業の「国立劇場おきなわ防災関連設備等更新工事（54,776千円）」「国立文楽劇場外回り等改修工事（164,610千円）」「新国立劇場電源制御部等更新工事（17,666千円）」の3つの事業について予算額を計上したのに対し、令和元年度決算額には、平成30年度補正予算事業の「国立文楽劇場館内監視設備等整備（46,112千円）」「国立文楽劇場外壁補修等（39,710千円）」「新国立劇場防災設備等更新（278,256千円）」の3つの事業について補助金を収納しており、結果として令和元年度予算額に対して127,026千円の増となった。
- ・基金運用収入については、満期を迎えた一部の有価証券の償還額を再運用することで生じる運用利率の変動等により、運用収入額に見込との差が生じたため、令和元年度予算額に対して570千円の減となった。
- ・寄附金収入については、寄附金を財源として支出した基金助成事業費の支出額と同額を収入決算額として計上した。寄付金を財源とした支出の予算額は201,000千円計上したが、寄附金を財源として実施する文化芸術活動への助成に関する調査研究委託事業の支出が予算に比して少なかったこと等により72,008千円の支出となったため、令和元年度予算額に対して128,992千円の減となった。
- ・その他の助成事業収入については、令和元年度予算額には、前年度助成金の精算金を11,642千円見込んだが、結果として前年度助成金の精算金を10,946千円、助成金の返還金を16,432千円収納したこと等により、令和元年度予算額に対して15,987千円の増となった。
- ・公演事業収入については、①劇場入場料収入の収入額が予算額（2,079,040千円）に比して279,005千円減少したこと、②解説書収入の収入額が予算額（84,617千円）に比して19,761千円減少したこと、③還付消費税の収入が133,777千円発生したこと等により、令和元年度予算額に対して175,135千円の減となった。
- ・令和元年度は、劇場入場料収入について、秋～冬において厳しい結果となった公演が続いた。消費増税後の環境の中で、顧客とのつながりの維持、劇場に足を運んでいただける観客の確保に向けて、上演の内容や時間帯に加え、早い時期から多様な形態での発信ができるような工夫が不可欠となっており、制作・営業方針、広報全般にわたり、早急な検討を迫られている。
- ・さらに、2月末からは新型コロナウイルス感染症の影響により12公演が中止となった。その結果、予算額（100,335千円）に比して100,335千円の減少となった。公演の中止は4月以降も続いており、再開後も一定の制約下での業務が予測される。上記の対応の強化と合わせ、多様な収入の方途についても探求が必要と認識する。
- ・公演受託事業収入については、①国立能楽堂が実施する新作狂言「鮎」の受託公演の収入額が予算額（20,069千円）に比して225千円減少したこと、②国立文楽劇場が実施するルネッサながと長門文楽の受託公演の収入額が予算額（7,353千円）に比して1,953千円減少したこと、③「日本博」開催に係る運営業務委託の収入額が予算額（2,594,226千円）に比して155,839千円減少したことにより、令和元年度予算額に対して158,017千円の減となった。

(2)支出

- ・一般管理費及び事業費の人件費は、令和元年度予算額が3,090,413千円、令和元年度決算額が3,147,735千円となった。決算額は、①退職手当・超過勤務手当以外の本給・手当等の支出額が予算額（2,725,096千円）に比して62,976千円増加したこと、②超過勤務手当の支出額が予算額（156,432千円）に比して4,446千円減少したこと等により、令和元年度予算額に対して57,322千円の増となった。
- ・一般管理費のうち物件費については、令和元年度予算額（282,563千円）のうち、11,062千円を予備費として計上したが、そのうち4,054千円を使用し、7,008千円の未使用額が生じたため、令和元年度予算額に対して7,008千円の減となった。
- ・事業費のうち物件費（助成情報提供等事業費、国立劇場事業費、国立劇場おきなわ事業費、新国立劇場事業

費)については、①令和元年度予算額(7,154,406千円)のうち、76,637千円を予備費として計上したが、結果として予備費使用に至らなかったこと、②日本博事務局経費の支出額が予算額(211,986千円)に比して6,851千円減少したこと、③芸能記録作成費の支出額が予算額(159,714千円)に比して6,558千円減少したこと等により、令和元年度予算額に対して89,254千円の減となった。

- 以上、運営費交付金財源の支出については、人件費支出額が予算を上回る結果となったが、計画予算で運営費交付金予算額の1%程度を予備費として確保していたため、その額の一部を使用することにより、全体として執行額を調整することができた。また、第3四半期には、法人の収益化単位ごとの予算の施行状況を調査し、適宜予算の配分を見直しが出来たため、限りある予算を有効に活用することができた。ただし、法人の運営を進めるにあたり、例えば、老朽化した館内施設の補修経費など、現状の予算額では執行に至らない需要も存在するため、今後の予算要求において更なる予算の必要性を訴えていく努力が必要である。
- 文化芸術振興費については、①劇場・音楽堂等機能強化推進事業の支出額が予算額(2,529,372千円)に比して120,436千円減少したこと、②舞台芸術創造活動活性化事業の支出額が予算額(3,284,121千円)に比して57,487千円減少したこと、③映画製作への支援の支出額が予算額(425,791千円)に比して36,320千円減少したこと等により、令和元年度予算額に対して238,083千円の減となった。
- 施設整備費については、令和元年度予算額には、令和元年度補正予算事業の「国立劇場おきなわ防災関連設備等更新工事(54,776千円)」「国立文楽劇場外回り等改修工事(164,610千円)」「新国立劇場電源制御部等更新工事(17,666千円)」の3事業について予算額を計上したのに対し、令和元年度決算額には、平成30年度当初予算事業の「国立劇場等大規模改修工事関連調査等(57,806千円)」、平成30年度補正予算事業の「国立文楽劇場館内監視設備等整備(46,112千円)」「国立文楽劇場外壁補修等(39,710千円)」「新国立劇場防災設備等更新(463,760千円)」の4事業について支出しており、結果として令和元年度予算額に対して370,336千円の増となった。
- 施設整備費は、令和元年度についても当初予算での予算措置が無く、老朽化等により必要としている整備のごく一部の執行に留まっている状況が継続しているため、政府に対して整備予算の必要性を説明し、予算を獲得する努力を続ける必要がある。
- 基金助成事業費(人件費)については、①超過勤務手当の支出額が予算額(8,220千円)に比して1,889千円増加したこと、②退職手当の支出額が予算額(0千円)に比して388千円増加したこと、③退職手当・超過勤務手当以外の本給・手当等の支出額が予算額(191,295千円)に比して35千円増加したことにより、令和元年度予算額に対して2,312千円の増となった。
- 基金助成事業費(物件費)については、①寄附金を財源として実施する文化芸術活動への助成に関する調査研究委託事業の支出額が予算額(128,648千円)に比して123,251千円減少したこと、②助成金の支出が予算額(951,887千円)に比して26,762千円増加したこと等により、令和元年度予算額に対して106,023千円の減となった。
- 公演事業費については、公演費(個別の公演毎に紐づいて支出する文芸費・出演費・舞台費・宣伝費)の支出額が予算額(1,930,954千円)に比して42,144千円減少したこと等により、令和元年度予算額に対して38,034千円の減となった。
- 令和元年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により12公演について公演中止となったが、公演費については、予算額(140,706千円)に比して17,034千円の増加*となった。そして、この12公演を除く全ての公演の公演費の支出額は、予算額(1,790,248千円)に比して59,178千円の減少となった。
※中止した12公演のうちの1公演(3月歌舞伎公演)については公演回数を26回から42回に増加し、予算額(115,465千円)を実施予算額(174,539千円)に組み直した上で執行した結果、決算額が140,034千円(予算に比して24,569千円の増加)となっている。

- ・公演事業（自己財源）は、入場料収入等の公演事業収入を財源として、公演費等の公演事業費を捻出することで事業運営を進めており、公演事業費の大部分を占める公演費の支出額が予算を上回ることは、法人の財務状況の悪化に大きく影響する。令和元年度は公演費の支出額が予算額を下回ったが、公演事業収入の大部分を占める劇場入場料収入の収入額が予算を大幅に下回っている状況を考えれば、効率化、経費削減の努力を進める必要がある。
- ・公演受託事業費については、①国立能楽堂が実施する新作狂言「鮎」の受託公演の支出額が予算額（20,069千円）に比して3,921千円減少したこと、②国立文楽劇場が実施するルネッサながと長門文楽の受託公演の支出額が予算額（7,353千円）に比して3,363千円減少したこと、③「日本博」開催に係る運営業務委託の支出額が予算額（2,594,226千円）に比して315,181千円減少したことにより、令和元年度予算額に対して322,465千円の減となった。
- ・公演受託事業費のうち、「日本博」開催に係る運営業務委託費については、予算額2,594,226千円に対し、88%の執行率となった。執行しなかった12%分については、一部事業の繰越により次年度に使用するものもあるが、令和2年度以降は、予算の執行方法を更に工夫し、予算を効率的に使用する必要がある。

《主な増減理由》※対前年度決算額増減分析

(1) 運営費交付金・雑収入・一般管理費・事業費

区 分	平成 30 年度 決算額	令和元年度 決算額	増△減
収 入			
運営費交付金	10,089,414	10,449,388	359,974
雑収入	57,483	73,431	15,948
計 (A)	10,146,897	10,522,819	375,922
支 出			
一般管理費	1,292,060	1,253,894	△ 38,166
うち人件費	1,040,132	978,339	△ 61,793
うち物件費	251,928	275,555	23,627
事業費	8,830,874	9,234,548	403,675
うち人件費	2,111,048	2,169,396	58,347
うち助成情報提供等事業費	171,769	177,291	5,522
うち国立劇場事業費	1,962,258	2,331,143	368,885
うち国立劇場おきなわ事業費	704,423	691,948	△ 12,474
うち新国立劇場事業費	3,881,375	3,864,770	△ 16,605
計 (B)	10,122,933	10,488,442	365,509
収支 (A)-(B)	23,964	34,377	10,413

- ・運営費交付金については、日本博事務局経費（3.9億円）が令和元年度に新たに予算措置されたこと等により、前年度決算額より359,974千円の増となった。
- ・雑収入（運営費交付金見合いの自己収入）については、①平成30年度の新国立劇場運営財団への運営委託費の精算金の収入（13,217千円）が発生したこと、②令和元年度に文化プログラムとして新たに実施した「能楽堂ショーケース」の事業収入（5,302千円）を収納したこと、③調査研究事業で作製した文献の販売収入額が前年度収入額（4,738千円）より1,194千円減となったこと等により、前年度決算額に対して15,948千円の増となった。
- ・一般管理費及び事業費の人件費は、平成30年度決算額が3,151,180千円、令和元年度決算額が3,147,735千円となった。令和元年度は、①退職手当の支出額が前年度（284,352千円）に比して76,675千円減少したこと、②超過勤務手当の支出額が前年度（121,327千円）に比して30,659千円増加したこと、③退職手当・

超過勤務手当以外の本給・手当等の支出額が前年度（2,745,501千円）に比して42,570千円増加したことにより、前年度決算額に対して3,445千円の減となった。なお、②③の増加の最大の要因は、日本博事務局の人件費が職員の増員等により前年度（34,233千円）に比して126,901千円増加したことである。

- ・一般管理費のうち物件費については、①管理業務システム・施設管理システムの改元対応・軽減税率対応のための改修費用（7,868千円）、監視カメラのリプレース費用（3,980千円）、第二GSOC不正監視サービスにかかる支出（2,251千円）、新たに導入した入退館システムのリース料（1,483千円）、管理業務システムのライセンスの追加費用（1,318千円）などの新規の支出等により、情報基盤整備費の支出額が前年度（108,953千円）に比して20,854千円増加し、また、②国際業務研修経費（3,333千円）の新たな支出などにより教育研修費が前年度（4,045千円）に比して3,823千円増加したこと等により、前年度決算額（251,928千円）に対して23,627千円の増となった。
- ・事業費のうち物件費（助成情報提供等事業費、国立劇場事業費、国立劇場おきなわ事業費、新国立劇場事業費）は、平成30年度決算額が6,719,825千円、令和元年度決算額が7,065,152千円となった。令和元年度は、①日本博の国内向けプロモーション業務等を本格化したことにより日本博事務局経費の支出額が前年度決算額（30,614千円）に比して174,521千円増加したこと、②国立能楽堂座席字幕表示の更新（100,794千円）等により施設維持管理費（日本博事務局経費を除く）の支出額が前年度決算額（1,081,176千円）に比して146,369千円増加したこと等により、前年度決算額に対して345,327千円の増となった。
- ・以上、運営費交付金財源の収支については、34,377千円の収入超過となった。収入超過額については、令和元年度予備費の未使用額を含むため、その金額の一部を繰り越して令和2年度の執行に有効活用することとなる。前年度と比較すると、収支差はいずれも黒字になっている点は同様であるが、令和元年度は、予備費を予算の1%程度計上する工夫を行ったことにより、結果として収支差で発生した金額の一部を次年度に活用できる点で、前年度に比べて執行方法を改善したといえる。

(2)文化芸術振興費補助金・文化芸術振興費

区 分	平成30年度 決算額	令和元年度 決算額	増△減
収 入			
文化芸術振興費補助金（A）	6,424,718	6,865,292	440,574
支 出			
文化芸術振興費（B）	6,251,444	6,634,611	383,167
収支（A）-（B）	173,274	230,681	57,407

- ・文化芸術振興費補助金については、①平成元年度より文化庁から国際芸術交流支援事業が事業移管されたことにより新たに629,038千円を収納したこと、②劇場・音楽堂等機能強化推進事業について収入額が前年度決算額（2,726,584千円）に比して196,533千円減少したこと等により、前年度決算額に対して440,574千円の増となった。
- ・文化芸術振興費については、①平成元年度より文化庁から国際芸術交流支援事業が事業移管されたことにより新たに603,265千円を支出したこと、②劇場・音楽堂等機能強化推進事業について支出額が前年度決算額（2,637,580千円）に比して228,644千円減少したこと等により、前年度決算額に対して383,167千円の増となった。

(3)施設整備費補助金・施設整備費

区 分	平成 30 年度 決算額	令和元年度 決算額	増△減
収 入			
施設整備費補助金	411,796	364,078	△ 47,718
支 出			
施設整備費	160,699	607,388	△ 446,689
収支 (A)-(B)	251,097	△ 243,310	△ 494,407

- 施設整備費補助金については、平成 30 年度には、平成 29 年度補正予算事業の「国立能楽堂空調等設備更新工事第 3 期 (45,360 千円)」「国立文楽劇場舞台吊物機構更新工事第 5 期 (85,396 千円)」「新国立劇場 (オペラ劇場) 舞台機構設備整備工事 (28,944 千円)」、平成 30 年度当初予算事業の「国立劇場等大規模改修工事関連調査等 (66,592 千円)」、平成 30 年度補正予算事業の「新国立劇場防災設備等更新 (185,504 千円)」の 5 事業について補助金を収納したのに対し、令和元年度には、平成 30 年度補正予算事業の「国立文楽劇場館内監視設備等整備 (46,112 千円)」「国立文楽劇場外壁補修等 (39,710 千円)」「新国立劇場防災設備等更新 (278,256 千円)」の 3 事業について補助金を収納しており、結果として前年度決算額に対して 47,718 千円の減となった。
- 施設整備費については、平成 30 年度には、平成 29 年度補正予算事業の「国立能楽堂空調等設備更新工事第 3 期 (45,360 千円)」「国立文楽劇場舞台吊物機構更新工事第 5 期 (85,396 千円)」「新国立劇場 (オペラ劇場) 舞台機構設備整備工事 (28,944 千円)」、平成 30 年度当初予算事業の「国立劇場等大規模改修工事関連調査等 (999 千円)」の 4 事業について支出したのに対し、令和元年度には、平成 30 年度当初予算事業の「国立劇場等大規模改修工事関連調査等 (57,806 千円)」、平成 30 年度補正予算事業の「国立文楽劇場館内監視設備等整備 (46,112 千円)」「国立文楽劇場外壁補修等 (39,710 千円)」「新国立劇場防災設備等更新 (463,760 千円)」の 4 事業について支出しており、結果として前年度決算額に対して 446,689 千円の増となった。

(4)基金運用収入・寄附金収入・その他の助成事業収入・基金助成事業費

区 分	平成 30 年度 決算額	令和元年度 決算額	増△減
収 入			
基金運用収入	1,115,651	1,113,464	△ 2,187
寄附金収入	187,436	72,008	△ 115,428
その他の助成事業収入	14,708	27,629	12,921
計 (A)	1,317,795	1,213,101	△ 104,694
支 出			
基金助成事業費	1,318,143	1,222,965	△ 95,178
うち人件費	187,385	201,827	14,441
うち物件費	1,130,757	1,021,138	△ 109,619
計 (B)	1,318,143	1,222,965	△ 95,178
収支 (A)-(B)	△ 348	△ 9,863	△ 9,516

- 基金運用収入については、満期を迎えた一部の有価証券の償還額を再運用することで生じる運用利率の変動等により、令和元年度決算額は、平成 30 年度決算額に対して 2,187 千円減少した。
- 寄附金収入については、寄附金を財源として支出した基金助成事業費の支出額と同額を収入決算額として計上した。平成 30 年度は、寄附金を財源として海外の文化芸術活動に関する委託調査などを実施したことにより 187,436 千円支出したが、令和元年度は、72,008 千円の支出となったため、平成 30 年度決算額に対して 115,428 千円の減となった。

- ・その他の助成事業収入については、平成30年度は前年度助成金の精算金を14,647千円、助成金の返還金を61千円収納したが、令和元年度は前年度助成金の精算金を10,946千円、助成金の返還金を16,432千円収納したこと等により、平成30年度決算額に対して12,920千円の増となった。
- ・基金助成事業費（人件費）については、①退職手当・超過勤務手当以外の本給・手当等の支出額が前年度（174,428千円）に比して16,902千円増加したこと、②超過勤務手当の支出額が前年度（12,197千円）に比して2,088千円減少したこと、③退職手当の支出額が前年度（761千円）に比して372千円減少したことにより、前年度決算額に対して14,441千円の増となった。
- ・基金助成事業費（物件費）については、①寄附金を財源として実施する文化芸術活動への助成に関する調査研究委託事業の支出額が前年度（134,720千円）に比して129,323千円減少したこと、②助成金の支出が前年度（951,039千円）に比して27,610千円増加したこと等により、前年度決算額に対して109,619千円の減となった。

(5)公演事業収入・公演事業費

区 分	平成30年度 決算額	令和元年度 決算額	増△減
収 入			
公演事業収入 (A)	2,792,151	2,846,326	54,174
支 出			
公演事業費 (B)	2,869,482	2,983,428	113,946
収支 (A)-(B)	△ 77,331	△ 137,102	△ 59,772

- ・公演事業収入については、①還付消費税の収入額が前年度（20,547千円）に比して113,230千円増加したこと、②劇場入場料収入の収入額が前年度（1,863,014千円）に比して62,979千円減少したこと等により、平成30年度決算額に対して54,174千円の増となった。
- ・令和元年度は、劇場入場料収入について、秋～冬において厳しい結果となった公演が続いた。消費増税後の環境の中で、顧客とのつながりの維持、劇場に足を運んでいただける観客の確保に向けて、上演の内容や時間帯に加え、早い時期から多様な形態での発信ができるような工夫が不可欠となっており、制作・営業方針、広報全般にわたり、早急な検討を迫られている。
- ・さらに、2月末からは新型コロナウイルス感染症の影響により12公演が中止となった。その結果、劇場入場料収入についてこの12公演と前年度実施した同種の12公演との比較で増減を分析すると、前年度（98,704千円）に比して98,704千円の減少となった。公演の中止は4月以降も続いており、再開後も一定の制約下での業務が予測される。上記の対応の強化と合わせ、多様な収入の方途についても探求が必要と認識する。
- ・公演事業費については、①公演費（個別の公演毎に紐づいて支出する文芸費・出演費・舞台費・宣伝費）の支出額が前年度（1,815,161千円）に比して73,649千円増加したこと、②観客勧誘事務費（劇場受付・案内業務等の業務委託費等の経費）の支出額が前年度（235,471千円）に比して31,768千円増加したこと等により、平成30年度決算額に対して113,946千円の増となった。
- ・令和元年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により12公演について公演中止となったが、公演費についてこの12公演と前年度実施した同種の12公演との比較で分析すると、前年度（122,527千円）に比して35,213千円の増加となった。そして、この12公演を除く全ての公演の公演費の支出額の比較で、前年度（1,692,634千円）に比して38,436千円の増加となった。
- ・公演事業（自己財源）は、入場料収入等の公演事業収入を財源として、公演費等の公演事業費を捻出することで事業運営を進めており、公演事業費の大部分を占める公演費の支出額が前年度実績額を上回することは、法人の財務状況の悪化に大きく影響する。令和元年度は公演費の支出額が前年度と比較して大きく上回った状

況を考えれば、効率化、経費削減の努力を進める必要がある。

- ・ 公演事業の収支については、前年度に支出額が収入額を大きく上回った（収支差△77,330千円）のに対し、令和元年度は支出額が収入額をさらに大きく上回る結果（収支差△137,102千円）となった。①令和元年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により12公演について公演中止となったが、この12公演の劇場入場料収入と公演費との差額（公演収支差）は、△157,740千円となった。②また、令和元年度は、消費税還付の収入額が前年度（20,547千円）に比して113,230千円増加した。この2つの影響額が無かったと仮定すると令和元年度の収支差は△113,138千円となり、前年度の収支差（△74,054千円）より更に悪化している。
- ・ 公演事業については、上述した収入・支出の両面での経営改善努力により収支の改善を図る必要がある。

(6)公演受託事業収入・公演受託事業費

区 分	平成 30 年度 決算額	令和元年度 決算額	増△減
収 入			
公演受託事業収入 (A)	—	2,463,631	2,463,631
支 出			
公演受託事業費 (B)	—	2,299,183	2,299,183
収支 (A)-(B)	—	164,448	164,448

- ・ 公演受託事業収入については、平成 30 年度には収入が無かったが、令和元年度には、①国立能楽堂が実施する新作狂言「鮎」の受託公演（19,844千円）、②国立文楽劇場が実施するルネッサながと長門文楽の受託公演（5,400千円）、③「日本博」開催に係る運営業務委託（2,438,387千円）の収入があった。
- ・ 公演受託事業費については、平成 30 年度には支出が無かったが、令和元年度には、①国立能楽堂が実施する新作狂言「鮎」の受託公演（16,148千円）、②国立文楽劇場が実施するルネッサながと長門文楽の受託公演（3,990千円）、③「日本博」開催に係る運営業務委託（2,279,045千円）の支出があった。

2 収支計画

(単位：千円)

区 分	計画額	実績額	増△減
費用の部			
国立劇場公演等事業費 ^(※1)	10,728,932	8,874,605	△ 1,854,327
新国立劇場公演等事業費	4,186,805	4,225,086	38,281
基金助成事業費 ^(※2)	8,492,799	8,186,249	△ 306,550
一般管理費	1,015,958	1,126,693	110,735
財務費用	5,858	10,977	5,119
雑損失	0	1,913	1,913
臨時損失	3,932,184	3,797,501	△ 134,683
計	28,362,536	26,223,025	△ 2,139,511
収益の部			
運営費交付金収益	9,082,197	9,319,692	237,495
事業収入 ^(※3)	3,981,344	3,646,695	△ 334,649
受託事業収入 ^(※1)	2,621,648	768,958	△ 1,852,690
財産利用収入	49,432	48,086	△ 1,346
資産見返負債戻入	685,481	753,112	67,631
文化芸術振興費補助金収益 ^(※4)	6,872,694	6,634,611	△ 238,083
施設整備費補助金収益	0	81,008	81,008
寄附金収益	201,000	72,008	△ 128,992
賞与引当金見返に係る収益 ^(※5)	720,389	238,589	△ 481,800
退職給付引当金見返に係る収益	21,812	226,998	205,186
財務収益	147,146	139,876	△ 7,270
雑益	47,209	220,625	173,416
臨時利益	3,932,184	3,797,555	△ 134,629
計	28,362,536	25,947,811	△ 2,414,725
純利益	0	△ 275,213	△ 275,213
積立金取崩額	0	-	-
総利益	0	△ 275,213	△ 275,213

《主な増減理由》

- ※1 日本博事業の繰越による減
- ※2 文化芸術振興費の減、寄附金による調査研究委託事業の減
- ※3 劇場入場料収入等の減
- ※4 文化芸術振興費の減に伴う収益の減
- ※5 賞与引当金繰入額の減に伴う収益の減

3 資金計画

(単位：千円)

区 分	計画額	実績額	増△減
資金支出	35,689,424	36,252,910	563,486
業務活動による支出 ^(※1)	26,791,498	24,221,803	△ 2,569,695
投資活動による支出	1,720,948	1,525,001	△ 195,947
財務活動による支出	194,467	236,069	41,602
翌年度への繰越金	6,982,511	10,270,037	3,287,526
資金収入	35,689,424	36,252,910	563,486
業務活動による収入	26,869,861	25,991,171	△ 878,690
運営費交付金による収入	10,449,388	10,449,388	0
文化芸術振興費補助金による収入	6,872,694	6,865,292	△ 7,402
公演事業による収入 ^(※2)	3,021,461	2,674,790	△ 346,671
公演受託事業による収入 ^(※3)	2,621,648	1,994,547	△ 627,101
養成事業による収入	31,034	29,765	△ 1,269
基金運用による収入	1,114,034	1,113,464	△ 570
その他の収入	2,759,602	2,863,925	104,323
投資活動による収入	1,237,052	1,000,040	△ 237,012
施設整備費補助金による収入 ^(※4)	237,052	0	△ 237,052
その他の収入	1,000,000	1,000,040	40
財務活動による収入	600,000	600,540	540
民間出えん金受入れによる収入	600,000	600,540	540
前年度よりの繰越金	6,982,511	8,661,159	1,678,648

《主な増減理由》

- ※1 未払金の増加による支出減
- ※2 劇場入場料収入等の減
- ※3 受託事業収入の減、未収金の増による収入減
- ※4 未収金による収入減

4 保有資産の処分

(1) 実物資産の保有状況等

施設名	数	所在地	用途	保有目的及び利用状況
国立劇場(本館・演芸場)	1	東京都 千代田区	劇場施設	伝統芸能の保存・振興を図るための拠点施設として設置され、伝統芸能の公開、伝承者の養成等の事業を安定的、継続的に実施するために必要な施設である。 令和元年度の稼働率の実績:P. 147 参照
国立能楽堂	1	東京都渋谷区		
国立文楽劇場	1	大阪府 大阪市中央区		
国立劇場おきなわ	1	沖縄県浦添市		
新国立劇場	1	東京都渋谷区	劇場施設	現代舞台芸術の振興・普及を図るための拠点施設として設置されたものであり、現代舞台芸術の公演、実演家の研修等の事業を安定的、継続的に実施するために必要な施設である。 令和元年度の稼働率の実績:P. 147 参照
新国立劇場 舞台美術センター	1	千葉県銚子市	保管施設	現代舞台芸術の公演に必要な舞台装置・衣装等を保管し、新国立劇場におけるレパートリー公演を安定的、継続的に実施するために必要な施設であり有効に活用されている。
職員宿舎	6	東京地区(5) 大阪地区(1)	職員宿舎	東京・大阪に事業所を保有しており、円滑な人事異動など業務上、安定的かつ継続的に職員宿舎を確保する必要がある、研修生の利用も含めた適切な管理運営を図っている。 保有宿舎全 39 戸(うち入居戸数 27 戸(入居予定含む)、廃止

				宿舎・廃止予定宿舎を除く)、入居率 69.2% (R2 年 3 月末現在)。
--	--	--	--	--

(2) 金融資産の保有状況

ア 金融資産の名称と内容、規模

定期預金： 100,000 千円
 有価証券： 1,000,000 千円
 投資有価証券： 78,184,404 千円

イ 保有の必要性(事業目的を遂行する手段としての有用性・有効性)

芸術文化振興基金については、芸術文化振興基金の運用の基本的考え方を踏まえ、毎年度芸術文化振興基金運用計画を策定し、長期的・安定的な運用を行っている。(運用状況は I-1-(3) 基金の管理運用 を参照)

政府出資金見合いの資金については、「政府出資金見合いの資金及びその運用に関する基準」に従い、伝統芸能の公開事業及び現代舞台芸術の公演事業を安定的に継続するため、可能な限り長期的な運用を行うこととしている。

ウ 資産の売却や国庫納付等を行うものとなった金融資産の有無、取組状況

該当する金融資産なし。

《参 考》

1. 剰余金

損益計算の結果、令和元事業年度の当期総損失は 275,213 千円である。

《損失が生じた主な理由》

[収入支出決算]

- (1) 雑収入について、運営費交付金見合い収入(研修発表会収入、文献販売収入など)が、年度計画予算に対し 4,563 千円減少した。
- (2) 公演事業収入が、年度計画予算に対し 175,135 千円減少した。その主な内容は次のとおり。
 - ・ 劇場入場料収入の減 279,005 千円
 - ・ 解説書収入の減 19,761 千円
 - ・ 食堂使用料収入の減 7,330 千円
- (3) 一般管理費が、年度計画予算に対し 80,745 千円増加した。その主な内容は次のとおり。
 - ・ 人件費の増 87,753 千円
- (4) 事業費が、年度計画予算に対し 119,685 千円減少した。その主な内容は次のとおり。
 - ・ 保守修繕費の減 67,486 千円
 - ・ 印刷製本費の減 31,380 千円
 - ・ 人件費の減 30,431 千円
- (5) 公演事業費が、年度計画予算に対し 38,034 千円減少した。その主な内容は次のとおり。
 - ・ 大劇場公演費の減 27,128 千円
 - ・ 小劇場公演費の減 11,681 千円
 - ・ 能楽堂公演費の減 7,287 千円
 - ・ 鑑賞会事務費の減 6,632 千円
 - ・ 演芸場公演費の減 6,195 千円

[損益計算]

- (6) 自己財源で取得した固定資産の減価償却により、10,639 千円の費用増が生じた。
- (7) 自己財源で人件費をまかなっている職員の退職給付に備えるため、60,770 千円の費用増が生じた。

2. 運営費交付金債務

令和 2 年 3 月 31 日現在における運営費交付金債務残高は 104,493 千円である。

(単位：千円)

期首残高 / 当期交付額	当期振替額				引当金見返との 相殺額	期末残高
	運営費交付金 収益	資産見返 運営費交付金	建設仮勘定見返 運営費交付金	資本剰余金		

10,454,736	9,319,692	503,977	0	279	526,295	104,493
------------	-----------	---------	---	-----	---------	---------

3. 外部資金の獲得状況

23件 851,284千円

- ・文化庁芸術祭主催公演等における負担金による収入(7件、40,947千円)
- ・助成調査研究への寄附(1件、200,000千円)
- ・芸術文化振興基金に対する民間出せん金(7件、600,540千円)
- ・公演事業に対する協賛金による収入(4件、8,570千円)
- ・振興会事業全体に対する寄附(4件、1,227千円)

4. 目的積立金等の状況

(単位：百万円、%)

	平成30年度末	令和元年度末	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末
前期中期目標期間繰越積立金	570	570			
目的積立金	0	0			
積立金	0	0			
うち経営努力認定相当額					
その他の積立金等	0	0			
運営費交付金債務	5	104			
当期の運営費交付金交付額 (a)	10,089	10,449			
うち年度末残高 (b)	5	104			
当期運営費交付金残存率 (b÷a)	0.05%	1.00%			

IVその他業務運営に関する重要事項

IVその他業務運営に関する重要事項	p.233
— 1 その他業務の運営に関する取組	p.236
— 2 施設及び設備に関する計画	p.238
— 3 人事に関する計画	p.239
— 4 その他振興会の業務運営に関し必要な事項	p.241

IV その他業務運営に関する重要事項

《中期計画の概要》

Ⅷ その他業務運営に関する重要事項

1 内部統制

(1) 外部の有識者、各分野の専門家等で構成する評価委員会において、振興会の目標等を踏まえ、組織、運営、事業などについて評価

振興会が行う自己点検評価、事業の実施結果に対する当該分野の外部専門家からの意見聴取等を踏まえ実施
評価結果の公表、評価結果の組織の改善・事業の見直し・事務の改善等への反映
業務運営の効率化・国民に対するサービスの向上等に努める

(2) 運営費交付金等を有効に活用、理事長のマネジメントの強化や監査機能の充実について検討、その結果を逐次運営管理に反映させるなど内部統制の充実・強化

(3) 国民の理解が得られるよう、分かりやすく説明する意識を徹底
ホームページにおける情報アクセスを容易にするなど、情報開示を推進

2 情報セキュリティ対策

法令等に基づき適切に情報の開示を行う

政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準群を踏まえた適切な情報セキュリティ対策を推進

3 施設及び設備に関する計画

施設・設備の老朽化への対応、劇場利用者の安全確保及び利便性の向上、バリアフリー化等のため、各劇場等施設について長期的な視野に立った整備計画を策定し、施設・設備に関する計画に沿った整備を推進

国立劇場本館が開場以来50年を経過したことに鑑み、国立劇場本館における事業の安定的、継続的实施のため、整備の実施計画を策定し、改修事業に着手

4 人事に関する計画

(1) 方針

ア 職員の計画的、適正な配置を図るとともに、効果的な人事交流を実施

イ 次の取組により、事務能率の維持、増進を図る

① 職員に対する実務研修等の充実により、各職員の能力開発、専門性の確保及び意識改革を行い、より効率的な業務運営を図る

② 適切な労務管理の実施

③ 多様な働き方の検討

(2) 人員に係る指標

給与水準の適正化を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進

(参考)

中期目標の期間中の人件費見込み 9,937百万円

但し、上記の額は、役員報酬並びに職員基本給、職員諸手当及び超過勤務手当に相当する範囲の費用

5 中期目標の期間を超える債務負担

中期目標期間を超える債務負担については、振興会の業務運営に係る契約の期間が中期目標期間を超える場合で、当該債務負担行為の必要性及び資金計画の影響を勘案し、合理的と判断されるものについて実施

6 積立金の使途

前期中期目標の期間の最終年度において、独立行政法人通則法第44条の処理を行ってなお積立金があるときは、その額に相当する金額のうち文部科学大臣の承認を受けた金額について、次の必要な費用に充てる

(1) やむを得ない事由により前中期目標期間中に完了しなかった業務

(2) 芸術文化振興基金の運用収入を充てるべき業務

(3) 次期へ繰り越した経過勘定損益影響額等に係る会計処理

(4) 自己財源により取得した固定資産の未償却残高相当額に係る会計処理

7 その他振興会の業務の運営に関し必要な事項

国立劇場おきなわの管理運営については、沖縄芸能・文化の独自性とその伝統を活かし、地方自治体等地元の協力を得るため、公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団に委託して行う

新国立劇場の管理運営については、芸術家、芸術団体等の創意、工夫を取り入れるとともに民間等の協力を得るため、公益財団法人新国立劇場運営財団に委託して行う

なお、委託に当たっては、経費の見直しや自己収入の確保等の方策により収支構造の改善等に計画的に取り組むと

ともに、契約内容の検証を行い、更に効率化を図る

《年度計画の概要》

IV その他業務運営に関する重要事項

1 その他業務の運営に関する取組

(1) 内部統制の充実・強化

ア 平成30年度の事業の実施結果について、担当各々が自己点検評価を行うとともに、各分野の外部専門家からの意見聴取を実施

自己点検評価をもとに、評議員会に置かれた、外部の有識者、各分野の専門家等で構成する評価委員会において、業務の実績に関する評価を実施。評価結果は公表し、組織の改善、事業の見直し、事務の改善等に反映

イ 理事長のリーダーシップの下に業務の適正を確保するための体制(内部統制システム)を充実するとともに、内部監査、監事監査に係る機能の充実・強化を図る

ウ 国民が最新の情報を円滑に得られるよう、ホームページにおける情報アクセスを容易にし、情報開示を推進する。情報開示に当たっては、国民の理解が得られるよう、分かりやすく説明する意識を徹底

(2) 情報セキュリティ対策

ア 情報システム更新に際し、情報セキュリティの確保を前提に、業務効率の一層の向上と運用経費の削減を図るため、外部サービスの活用を推進

イ 各職員の自己点検の実施、専門家による研修等を実施

ア 政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準群の改正に伴い、振興会情報セキュリティポリシーを改正、実施手順等の関係文書を策定

イ 脆弱性情報を的確に把握し、遅滞なく対応。ウイルスや不正アクセス等の情報を収集し、その傾向や対策等とともに、役職員に対して積極的に情報提供を実施

ウ 引き続き、研修等により情報セキュリティの意識の高揚に努め、各職員の自己点検、情報システム監査等を実施し、情報セキュリティ対策の評価と改善を実施

2 施設及び設備に関する計画

(1) 施設・設備の老朽化への対応、劇場利用者の安全確保及び利便性の向上等のため、長期的な視野に立った整備計画を策定し、別紙4のとおり施設・設備に関する計画に沿った整備を推進

併せて28年度策定した「日本芸術文化振興会インフラ長寿命化計画(行動計画)」に基づき「日本芸術文化振興会インフラ長寿命化計画(個別施設計画)(案)」を策定、施設・設備及び舞台設備等の機能維持に必要なメンテナンスを実施

国立劇場本館・演芸場等準町地区の施設・設備(以下「国立劇場等」という。)の改修については、文化庁等関係機関との協議結果に基づく整備方針を踏まえ、引き続きこれまでの国立劇場等大規模改修基本計画等を見直し、新たに基本計画を策定。また、整備手法の検討のためにPFI導入可能性調査を実施

なお、国立劇場等大規模改修に向けた検討及び調査研究については、評議員会、国立劇場等大規模改修懇談会等の意見を踏まえながら、国立劇場等大規模改修推進委員会が中心となって実施

(2) 快適で安全な観劇環境を提供するため、劇場利用者及び外部専門家の意見等を踏まえ、整備内容の検討を行い、可能なものは速やかに実施。その際、国立劇場等については、今後の改修計画との関連に留意

3 人事に関する計画

(1) 方針

ア 職員の計画的、適正な配置を図るとともに、外部機関との人事交流を適切に進め、多様な人材を確保・育成

イ 事務能率の維持、増進を図るため、各種研修を行い、各職員の能力開発、専門性の確保及び意識改革を行うとともに、適切な労務管理を実施

ウ 国際力を養う海外研修を含め、外部の研修に職員を積極的に派遣し、その資質の向上を図る

エ 多様な働き方を推進するための制度導入を検討

(2) 人員に係る指標

給与水準の適正化等を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進

4 その他振興会の業務の運営に関し必要な事項

国立劇場おきなわの管理運営については、沖縄芸能・文化の独自性とその伝統を活かし、地方自治体等地域の協力を得るため、公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団に委託して行う

また、新国立劇場の管理運営についても、芸術家、芸術団体等の創意、工夫を取り入れるとともに民間等の協力を得るため、公益財団法人新国立劇場運営財団に委託して行う

自己評定	B
自己評定の根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・国立劇場等の再整備について、文科省、文化庁、日本芸術文化振興会、国交省、内閣官房により構成される「国立劇場再整備に関するプロジェクトチーム」(以下、再整備PTという。)により「国立劇場の再整備の方向性について(中間報告)」が示され、必要な機能及び施設、PFIの実現可能性等の整備手法、今後の進め方等についてまとめた国立劇場再整備基本計画を策定した。 ・国立劇場おきなわ及び新国立劇場の運営委託について、継続的に事務・経費の効率化を図りつつ、適切に運営した。 ・両財団の運営状況の検証、振興会との連絡体制の強化に引き続き努めた。
数値目標の達成状況 実績/目標(達成率)	<p>国立劇場再整備工事関連調査等：58 百万円/百万円</p> <p>国立文楽劇場外壁補修等：40 百万円/40 百万円 (100.0%)</p> <p>国立文楽劇場館内監視設備等整備：46 百万円/46 百万円 (100.0%)</p> <p>新国立劇場防災設備等更新：464 百万円/464 百万円 (100.0%)</p>
主要な業務実績	<p>1 その他業務の運営に関する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内部統制の充実・強化を図り、評議員会、公演専門委員会ほか外部専門家等の意見を事業に反映。 <p>2 施設及び設備に関する計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模改修に向けた企画立案及び実施体制の強化を図るため、大規模改修推進本部職員及び部横断的に若手職員が参画する政策提言プロジェクトチーム(11名)を設置し、会議を9回開催して提言を取りまとめた。 ・文部科学副大臣(文化担当)主宰、関係府省等により組織される「国立劇場再整備に関するプロジェクトチーム」(以下「再整備PT」)の設置(10/7)を踏まえて振興会の検討体制を強化するとともに、同PT会議(10/7、11/16、12/10、3/30)に積極的に参画して検討を行った。 ・第3回再整備PT開催(12/10)において報告された「国立劇場の再整備の方向性について(中間報告)」に基づき、振興会において「国立劇場再整備基本計画」を策定(3/30)した。 ・「国立劇場再整備基本計画」及び再整備PTにおいて策定された「国立劇場の再整備に係る整備計画策定に向けた基本方針」を評議員、懇談会委員へ報告した(3/30～)。 <p>3 人事に関する計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人員配置については、各部長から要望を広く聞き、適切な人事異動を行うとともに、任期を定めた採用の強化等、人件費の抑制を踏まえた採用を実施。 <p>4 その他振興会の業務運営に関し必要な事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立劇場おきなわ及び新国立劇場の運営委託について、継続的に事務・経費の効率化を図りつつ、適切に運営。
課題と対応	<ul style="list-style-type: none"> ・国立劇場再整備事業に係る整備計画(令和2年6月予定)決定後、PFI事業実施に向けた手続きを進める必要がある。 ・令和元年度に実施したストレスチェックの結果を、次年度以降の労務管理に活用するとともに、研修内容や産業医との面談、専門のカウンセラーとの面談について検討を行い、より効果的なメンタル不全対策の実施を図る。

1 その他業務の運営に関する取組

(1) 内部統制の充実・強化

ア 自己点検評価、外部専門家等からの意見聴取

①自己点検評価について

《30年度自己点検評価の経過》

2019年2月～3月	各公演専門委員会、事業委員会において事業に対する意見聴取を実施
2019年3月	各部において自己点検評価を実施
2019年3月末～5月	総務企画部計画課を中心に自己点検評価を取りまとめ
2019年5月9日	理事長により自己点検評価を決定
2019年6月27日	評議員会において、30年度の業務の実績に関する評価を審議・決定

《30年度自己点検評価の改善点》

- ・ 第4期中期目標に合わせ、報告書の様式を見直した。
- ・ 四半期ごとに業務実施状況の情報を収集し、自己点検報告書作成業務の効率化と内容の充実を図った。

②外部専門家等からの意見聴取

名称	区分	日程	議題等
評議員会	第50回	6/27	30年度評価及び30年度決算についての審議、30年度評価結果についての報告、平成31年度計画実施状況の報告、令和2年度計画についての審議、国立劇場再整備事業に係る審議等 *第52回は書面開催
	第51回	10/29	
	第52回	3/25*	
評価委員会	平成30年度第2回	5/17	平成30年度評価の実施
	第3回	6/7	
	第4回	6/21	
	令和元年度第1回	10/25	令和元年度評価についての審議等
公演専門委員会	歌舞伎公演専門委員会	6/13	令和元年度公演計画の説明・意見聴取等、令和元年度公演状況の報告、令和2年度公演計画の説明・意見聴取等 歌舞伎、文楽、邦楽、雅楽・声明、民俗芸能の第2回は、書面開催
	文楽公演専門委員会(本館)	6/21	
	舞踊公演専門委員会	6/14・1/22	
	邦楽公演専門委員会	6/17	
	雅楽・声明公演専門委員会	6/13	
	民俗芸能公演専門委員会	6/25	
	大衆芸能公演専門委員会	6/19・3/17	
	能楽公演専門委員会	2/7・3/4	
	文楽公演専門委員会(文楽劇場)	5/27・3/6	
短期公演等専門委員会(文楽劇場)	5/27・3/2		
事業委員会	養成事業委員会	6/26	平成30年度評価結果の報告、令和元年度の事業実施状況、令和2年度事業計画についての意見聴取等 養成事業委員会の第2回は書面開催
	調査事業委員会	7/2・3/23	
	公演事業委員会(おきなわ)	8/22・3/24	
芸術文化振興基金 運営委員会	第51回	9/27	30年度評価の決定、令和2年度審査基準・助成対象活動募集案内の決定、令和2年度助成金の分野別配分予算案の決定、令和2年度助成対象活動及び助成金交付予定額の決定等*第53回は書面開催
	第52回	1/24	
	第53回	3/27*	

イ 内部統制システムの充実、内部監査・監事監査に係る機能の充実・強化

①内部統制システムの充実

(a) 役員会の開催

- ・ 役員会を毎月2回開催し、業務に係る重要事項を審議。(開催回数：23回)。
- ・ 中期計画、年度計画の遂行に関わる、目標達成状況、収支状況、予算執行状況等を定期的に理事長に報告
- ・ 状況把握に基づき、理事長より各部署に改善等を指示
- ・ 各部署は対策を案出し、措置状況を役員会で報告

(b) 情報伝達

- ・状況に応じた基本的な方針を理事長・理事による「理事懇」において随時協議し、①役員会、②担当役員から関係部署、③又は総務・人事労務担当課等からの連絡により、周知と意思疎通を図ってきた。
- ・全役員及び総務企画部長による会合を役員会の前に実施し、情報共有を行った。
- ・部長・副部長による部長会を開催し、各部相互における情報共有を行った(開催回数：11回)。
- ・事故等発生時の際は、定められた方法により関係者間の情報共有、理事長への報告を行った。

(c) 内部統制委員会等の定期開催

- ・理事長、理事、内部統制推進総括責任者で構成する内部統制委員会を四半期ごとに開催し、内部統制の整備に係る取組等を審議。(第1回：6/20 第2回：9/19 第3回：12/9 第4回：開催中止)
 - ◇ 業務方法書第5章の規定に係る内部統制システム整備計画について進捗状況を確認。
 - ◇ 内部統制研修：全役職員を対象としたビデオ教材の視聴による研修(12/23～2/28 参加者：164名)及び各部係長クラスを対象とした個別事例に係る研修(1/27～3/25 参加者：76名)を実施。
 - ◇ 内部統制推進部門：監査室に窓口を設け、業務の効率化について意見を募集し、対応を検討、委員長(理事長)へ報告。
- ・リスク管理委員会を開催(第1回：7/4 第2回：9/5 第3回：2/6)
 - ◇ リスク管理対応計画に基づきリスク管理表を作成、重点対応リスクについては同委員会でも対応、その他のリスクについては各部門において対応することを決定した。また、各部門において平成25年度以降に問題が発生した業務を洗い出し、順次業務フローを作成することを決定。
 - ◇ リスク顕在時の広報方針の整備に係る措置及び事故、災害等の緊急事態に対応するための措置について進捗状況を確認。
 - ◇ 新型コロナウイルス感染症対策については、別途、理事長をトップとする「日本芸術文化振興会新型コロナウイルス感染症対策室」が設置され、当該室で情報の収集・共有の上、具体的な対応策について機動的に検討・決定・実施した。

②監査

(a) 監事監査

定期監査、重要書類の回付等により業務の執行状況及び会計経理事務の処理状況を監査した。

《定期監査(平成30事業年度決算監査及び令和元事業年度業務監査)の経過》

4/24	令和元事業年度監査計画 理事長へ提出
6/14、12/10	監事と会計監査人とのディスカッション
6/20	平成30事業年度監査報告 理事長へ提出
7/8、7/19	監事と理事長、理事とのディスカッション
2/20	監事と理事長とのディスカッション(懸案事項について)

(b) 内部監査

内部監査要綱に基づき内部監査を実施した。

10/1	内部監査計画の作成(同日監事に通知)
10～3月	監査実施
3/13	監査報告書 提出(監事に写しを送付) ※改善を要すると認められた点については、報告書各項目の意見欄に記載 ※次年度において所管の部長宛に必要な措置を講じるよう指示

《監査事項》

- ・平成30年度内部監査指摘事項に係る改善状況フォローアップ
 - ◇ 理事長の見解、指示等の伝達状況
 - ◇ 自衛消防隊組織の状況
 - ◇ 振替休日の取得状況
 - ◇ 入札不調の状況
 - ◇ 長期に亘って更新、継続されている契約案件の状況
 - ◇ 公演記録媒体の管理・更新の状況
- ・法人の意思決定に係る原議決裁の状況
- ・法人文書の管理状況

- ・ 各種会議、委員会の状況
- ・ 各種刊行物の状況
- ・ 情報共有の状況(内部ホームページの運用等)
- ・ 情報化の指針及び計画の状況
- ・ その他必要な事項

ウ 情報開示の推進

- ・ 公文書等の管理に関する法律（平成 21 年法律第 66 号）及び内規に基づいた適正な法人文書管理のため、各課における文書管理担当者の任命、標準文書保存期間基準の設定及び見直し、文書管理状況の点検を実施した。また、文書の廃棄や文書の保存期間の延長について、法律及び内規に則した適切かつ慎重な実施がなされるよう周知徹底を行った。

(2) 情報セキュリティ対策

ア 脆弱性・ウイルス・不正アクセスへの対応・情報提供

- ・ 内閣サイバーセキュリティセンターや JVN から公表されるソフトウェアの脆弱性情報を受け、振興会内の全情報システムを調査し、脆弱性対策を随時行った。
- ・ 全職員に対しウイルス情報、不審メール情報等を電子掲示板やメール等で周知した。

イ 情報セキュリティ意識の高揚、自己点検、情報システム監査

- ・ 全職員に対し自己点検、セキュリティ研修(e-Learning)、標的型メール攻撃訓練を実施し、情報セキュリティに関する普及啓発を行った。
- ・ チケット販売システム(ASP)についてセキュリティ監査を行った。

2 施設及び設備に関する計画

(1) 年度計画に沿った整備の推進

ア 施設・設備に関する計画に沿った整備の推進、メンテナンスの実施

- ・ 本館等の施設・設備は、経年により老朽化が進んでおり、大規模改修までの期間、劇場運営において安全性を確保するため、予防保全を目指して計画的に保守・点検等を行うこととしている。

《施設整備費補助金による施設・設備の整備等》

国立劇場等再整備関連調査等 基本計画策定支援等業務	57,806 千円
国立文楽劇場外壁補修等	39,710 千円
国立文楽劇場館内監視設備等整備	46,112 千円
新国立劇場防災設備等更新	463,760 千円

《運営費交付金による施設・設備の整備等》

国立能楽堂座席字幕表示更新	98,494 千円
令和元年度国立劇場大劇場舞台床張替工事	23,166 千円
新国立劇場(オペラ劇場・小劇場)電源制御部更新工事	17,766 千円
新国立劇場特高受変電設備直流電源盤改修工事	10,780 千円

イ 「日本芸術文化振興会インフラ長寿命化計画(個別施設計画)(案)」の策定

- ・ 施設・設備の維持管理及び整備等については、長寿命化に向け「文部科学省インフラ長寿命化計画(行動計画)」及び「日本芸術文化振興会インフラ長寿命化計画(行動計画)」を踏まえ、「同(個別施設計画)(案)」を策定するとともに、中長期保全計画改修費の概算金額を算定し、年度別に平準化した概算改修費を計上した。

ウ 国立劇場等大規模改修に向けた検討、調査研究

- ・ 大規模改修に向けた企画立案及び実施体制の強化を図るため、大規模改修推進本部職員及び部横断的に若手職員が参画する政策提言プロジェクトチーム(11 名)を設置し、会議を開催した(6/12、6/19、6/28、7/8、7/18、7/25、7/31、8/6、8/22)。
- ・ 「国立劇場再整備基本計画」の策定を進めるにあたり、民間事業者の創意工夫やノウハウの活用及び民間収

益施設併設の可能性について必要な調査や検討を行うため、PwC アドバイザリー合同会社に総合的なアドバイザリー業務を委託した(8/30 契約、履行期間は R2. 3/31 まで)。また、「国立劇場再整備基本計画」を策定するにあたり、その技術的支援を得るため、香山壽夫建築研究所に業務を委託した(11/13 日契約、履行期間は R2 年 3/31 まで)。

- 国立劇場の再整備に向け、文部科学省を中心に関係府省の知見を活かした検討体制(PT)の構築を図るため、関係府省担当者等によるミーティングを実施した(9/4、9/18、9/25)。
- 文部科学副大臣主宰、関係府省により組織される「国立劇場再整備に関するプロジェクトチーム」(以下「再整備 PT」)の設置を踏まえて振興会の検討体制を強化するとともに、再整備 PT に積極的に参画して「国立劇場として備えるべき機能とその規模の明確化、再整備に関わる法令上等の課題とそれへの検討、民間ノウハウも活用した適切な整備手法に関する調査とその評価及び整備計画の策定・進捗」について検討を行った(10/7、11/16、12/10、3/30)。振興会が参画した再整備 PT においては、12/10 に「国立劇場の再整備の方向性について(中間報告)」、3/30 に「国立劇場の再整備にかかる整備計画の策定に向けた基本方針」を策定し、公表した。
- 「文化芸術振興議員連盟勉強会」において国立劇場の再整備に係る現状と課題等について説明を行った(10/16)。
- 「第 35 回観光戦略実行推進会議」(内閣官房)において、国立劇場については「伝統芸能の発信拠点として再整備するため改築の方向で検討」と資料で説明した(12/10)。
- 宮内庁、東京都、千代田区等関係機関へ都市計画、景観等に関する協議を実施。
- 再整備 PT がとりまとめた「国立劇場の再整備の方向性について(中間報告)」に基づき、振興会において「国立劇場再整備基本計画」を策定(3/30)した。同計画は再整備にあたっての基本的な方針、敷地・施設における基本的な考え方、都市計画上及び景観に関する課題の整理及び事業手法等についてまとめたものである。特に、基本的な方針においては、建替えを基本とすることや国立の劇場であることを前提としつつ、民間事業者からの提案やノウハウに基づく要素を取り入れることを検討することなどが記載された。
- 国立劇場再整備基本計画案を評議員、懇談会委員へ報告した(3/30～)。

3 人事に関する計画

(1) 方針

ア 職員の計画的・適正な配置、適切な人事交流の実施

- 令和元年度は、新規採用の事務職員及び舞台技術職並びに 58 歳以上を対象とした高齢者雇用制度による職員及び任期付きの職員を採用した。
- 国の機関、国立大学法人及び地方自治体等との人事交流を実施し、多様な人材の確保によって組織の活性化を図った。
- 国立劇場おきなわ運営財団及び新国立劇場運営財団の要請により振興会職員を派遣し、両財団における円滑な委託業務の実施に資することができた。

受入		派遣	
国の機関及び国立大学法人からの出向者	13 人	国の機関への実務研修者	1 人
出雲市からの出向者	1 人	国の機関への職員の出向	2 人
独立行政法人国立文化財機構からの出向者	2 人	国立劇場おきなわ運営財団への職員派遣	2 人
公益財団法人千葉県文化振興財団からの出向者	1 人	新国立劇場運営財団への職員派遣	6 人
公益財団法人さいたま市文化振興事業団からの出向者	1 人		
公益財団法人札幌市芸術文化財団からの出向者	1 人		
公益財団法人可児市文化芸術振興財団からの出向者	1 人		
北九州市からの実務研修者	1 人		

イ 各種研修の実施、適切な労務管理

令和元年度から内部研修として、新規に国際業務研修を企画・実施し、職員の資質向上及び学力の向上を図るとともに、振興会の国際力の強化を図った。令和元年度は、米国ニューヨークのジャパンソサエティにおいて実務研修を約 3 か月間実施した。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、時差出勤、臨時休校の影響を受ける職員のための特例、

サイボウズセキュアアクセスの利用対象者拡大等の対策を実施した。

①内部研修

- ・ 新入職員研修 4/1～4/19(参加者：12名)
- ・ 公演研修(1・2年次事務職員、1年次舞台技術職員)令和元年5月～令和2年3月(参加者：15名)
- ・ 営業研修(1・2年次事務職員、1年次舞台技術職員)令和元年5月～令和2年3月(参加者：15名)
- ・ 文楽技術室職員スキルアップ研修 5/7～10(参加者：1名)、5/26～28(参加者：1名)、9/22～24(参加者：1名)
- ・ 展示業務研修(3～10年次職員)令和元年7月～令和2年2月(参加者：5名)
- ・ 各課業務研修(2年次事務職員)7/12, 9/12, 10/23, 11/28, 12/18(参加者：3名)
- ・ 各課業務研修(3年次事務職員)7/19, 9/18, 11/28(参加者：6名)
- ・ 国立劇場おきなわ研修(2・3年次事務職員、3年次舞台技術職員)10/17～19(参加者：11名)
- ・ 国際業務研修 10/28～1/29(参加者：1名)
- ・ 管理職研修(部長～課長級職員)1/28, 29(参加者：40名)
- ・ リーダーシップ研修(14～16年次職員)2/14, 18(参加者：11名)
- ・ パソコン研修 11/14, 15(参加者：のべ152名)
- ・ 施設担当職員研修会 11/25, 26(参加者：のべ28名)
- ・ 内部統制研修 ①12/23～2/28ビデオ教材の視聴による研修(参加者：164名)②1/27～3/25係長クラスを対象とした研修(参加者：76名)
- ・ 情報セキュリティ研修(e-ラーニング)(参加者：受講者345名)

②メンタル不全対策の実施

- ・ 新卒採用職員が振興会に支障なく定着できるようにサポートすることを目的として、若手先輩職員をメンターとするメンター制度を実施した。メンターである職員は、メンター研修により、メンタリングの基本となる傾聴や質問といったスキルを習得した。
- ・ 引き続き、メンタルヘルスに関する相談窓口業務を外部専門業者に委託し、連携を密にとりながら電話・メール・面談等により、プライバシーの保護に配慮しつつ、職員が気軽に相談できる環境を整えた。
- ・ 産業医であるメンタルヘルスの専門医と連携し、メンタル不全者の復職支援、長時間労働者と産業医との面談等の相談業務を実施した。
- ・ 職員のストレスチェックを実施するとともに、入職1年目、5年目、10年目及び20年目の職員に対して専門のカウンセラーによる個別面談を実施し、若年層職員のメンタルヘルスの維持・向上を図った。
- ・ ストレスチェック 10/15～31(参加者：330名)
- ・ メンター研修 10/24(参加者：26名)
- ・ 階層別の各研修(新入職員研修、リーダーシップ研修、管理職研修)において、メンタルヘルスに関する内容の研修を実施した。

ウ 外部研修への職員の派遣

- ・ 独立行政法人等決算留意事項セミナー 4/16(参加者：3名)
- ・ 平成31年度情報公開・個人情報保護制度の運用に関する研修会 4/25(参加者1名)
- ・ 第48回会計事務職員契約管理研修 5/17～6/21(参加者：1名)
- ・ 平成31年度公文書管理研修I(独法等向け第1回)5/31(参加者：2名)
- ・ 世界劇場会議名古屋フォーラム2019 6/2(参加者：1名)
- ・ 公文書管理セミナー 6/10(参加者：1名)
- ・ NISC勉強会 6/14(参加者2名)
- ・ 2019年度証券基礎講座(公共公益法人編)6/17～6/18(参加者：1名)
- ・ (公財)助成財団センター7月定例研修懇談会 7/3, 10, 17, 24(参加者：のべ12名)
- ・ 令和元年度知的財産権研修(初級)7/8～10(参加者：2名)
- ・ 令和元年度公文書管理研修I(独法向け第2回)7/9(参加者：2名)
- ・ 俵法律事務所研修会 7/12(参加者：1名)
- ・ 第10回実演芸術連携フォーラム 7/16(参加者：1名)
- ・ マイナンバー実務セミナー 7/22(参加者：1名)
- ・ 給与実務研修会(諸手当関係)7/22(参加者：1名)
- ・ PACフルハーネス型墜落制止用器具特別教育 7/31(参加者：4名)

- ・ 給与実務研修会(人事院勧告説明会) 8/29, 30 (参加者:各1名)
- ・ 2019年度図書館等著作権実務講習会 9/10~9/11 (参加者:1名)
- ・ 舞台芸術鑑賞サービス ショーケース&フォーラム 2019 9/11 (参加者:3名)
- ・ 令和元年度文部科学省文教団体共同職員研修会 9/18~20 (参加者:4名)
- ・ 非常勤職員雇用の人事実務研修会 9/27 (参加者:1名)
- ・ 労働政策フォーラム 労働時間・働き方の日独比較 9/30(参加者:2名)
- ・ 第57回政府関係法人会計事務職員研修会 10/1~11/18 (参加者:2名)
- ・ 短時間で学べる電話対応の基礎 10/3 (参加者:7名)
- ・ 令和元年度行政管理・評価セミナー 10/8 (参加者:1名)
- ・ (公財)助成財団センター10月定例研修会 10/19, 16, 23 (参加者:のべ3名)
- ・ 給与実務研修会(俸給関係及び給与の支給関係) 10/10 (参加者:1名)
- ・ 社会保険の基礎知識事務講習会 1 10/16 (参加者:2名)
- ・ 社会保険の基礎知識事務講習会 2 10/17 (参加者:1名)
- ・ 2019年度保全業務マネジメントセミナー(大阪会場) 10/18 (参加者:2名)
- ・ 2019年度保全業務マネジメントセミナー(東京会場) 10/23 (参加者:1名)
- ・ 苦情相談実務研修会 10/25 (参加者:1名)
- ・ 実践的サイバー防御演習 CYDER A コース初級 10/25 (参加者:3名)
- ・ 独立行政法人の事業報告に関するガイドラインの設定及び独立行政法人会計基準の改定に関する説明会 10/31(参加者:4名)
- ・ 2019年度官公庁向けリース研修会 11/8 (参加者:2名)
- ・ 第30回消費税中央セミナー 11/27 (参加者:1名)
- ・ 分限処分・懲戒処分実務研修会 12/2 (参加者:1名)
- ・ 労働者派遣事業及び請負事業の適正な運営に係る講習会 12/10 (参加者:2名)
- ・ 足場組み立て等業務に係る特別教育 12/12 (参加者:5名)
- ・ フルハーネス型安全帯仕様作業特別教育 12/13 (参加者:4名)
- ・ 給与実務の実例研修会 2/27 (参加者:1名)
- ・ 令和元年度エネルギー管理講習(資質向上講習) 2/27 (参加者:2名)
- ・ オフィス防災セミナー&ワークショップ 2/13 (参加者:1名)
- ・ 世界劇場会議国際フォーラム 2020in さいたま 2/4 (参加者:4名)
- ・ 公益財団法人(助成財団)の会計セミナー【実務編】-東京- 2/19 (参加者:2名)
- ・ 【開催中止】令和元年度評価・監査中央セミナー 2/26、27(参加者:2名)

エ 多様な働き方を推進する制度導入の検討

- ・ 27年度から実施している「ゆう活」を引き続き実施した。
- ・ 業務の特殊性を十分考慮した多様な働き方の在り方について、引き続き検討を進めた。
- ・ 働き方改革関連法の施行に伴い、職員の就業規程の改正を実施し、年休5日取得義務化を実施するなど多様化する働き方に則した環境整備に努めた。

(2) 人員に係る指標

- ・ 引き続き国家公務員との給与の比較を行い、HPに「独立行政法人日本芸術文化振興会の役職員の報酬・給与等について」を掲載し、給与水準に係る適正化に関する検証結果及び取組状況を公表した(30年度ベース)。
- ・ 人員配置については、各部長から要望を広く聞き、適切な人事異動を行うとともに、任期を定めた採用の強化等、人件費の抑制を踏まえた採用を実施した。

4 その他振興会の業務運営に関し必要な事項

(1) 国立劇場おきなわ運営委託(公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団)

ア 委託契約の状況

31年3月29日付けで、31年4月1日から32年3月31日までの組踊等沖縄伝統芸能に係る業務及び劇場の管理運営に関する業務委託契約について663,527,000円を限度として締結。その後、業務委託契約の限度額を、令和2年2月14日付けで690,828,000円に変更した。委託費の確定額は689,947,720円である。

イ 委託内容

- ①組踊等沖縄伝統芸能の公演
- ②組踊(立方・地方)伝承者の養成
- ③組踊等沖縄伝統芸能に関して調査研究を行い、また資料を収集し、利用に供すること
- ④劇場施設を組踊等沖縄伝統芸能の保存又は振興を目的とする事業その他のための利用に供すること
- ⑤劇場施設の管理運営
- ⑥前各号の業務に附帯する業務

ウ 運営に関する協議及び報告の状況

- ①業務委託に関係する規程の改正等を協議
- ②各四半期終了後に受託業務状況報告書を受領
- ③委託期間終了後に受託業務実績報告書を受領
- ④固定資産取得報告書及び不用通知書を受領

エ 運営委託の方針・連絡体制の整備等

運営財団の業務が業務委託契約書に定める事業計画書及び収支計画書に沿った形で実施されていることについて、随時公演等の視察を行い、その際の意見交換や定期的な提出を受ける受託業務状況報告書により、検証を行っている。また、財団の理事会、評議員会には常に振興会職員が出席するなど、連絡体制の強化に努めている。

オ 情報開示の推進

公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団の業務及び財務等に関する情報を開示するため、ホームページにより以下の情報を公開している。

定款、役員名簿、事業報告書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録、事業計画書、収支予算書、委託に係る事業概要、組織図、事務分掌

カ 効率化状況等

①委託費の推移

(単位:千円)

年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
金額	598,521	652,203	656,320	664,059	690,828
前年度比	99.7%	109.0%	100.6%	101.2%	104.0%

②自己収入の確保等の方策による収支構造の改善

入場料収入については、公演回数や開演時間などを適切に設定し、計画に沿った収入の確保に努めている。また、劇場施設の利用について積極的な広報やサービス向上に努め、利用料の増収による収支構造の改善を図っている。

③効率化に関する取組

(a) 外部委託の推進

入札公告等は劇場敷地内に掲示するとともに、ホームページで競争入札参加に必要な公示(入札参加資格等入札情報を含む入札公告等)を掲載し、入札機会の拡大を図った。

(b) 省エネルギー、リサイクルの推進

ペーパーレス化について、会議資料等の電子データ配布や紙配布の際の両面コピー及び両面印刷を実施している。

事項	区分	使用量/処理量	対前年度増減
光熱水量	電気使用量	2,094,377kwh	△ 4.1%
	ガス使用量	36,460 m ³	3.7%
	水道使用量	2,648 m ³	△ 32.3%
廃棄物	一般廃棄物	5,510 kg	224.1%
	産業廃棄物	1,280 kg	84.7%
ペーパーレス化	コピー用紙使用量	635,585 枚	8.0%
	用紙購入枚数	460,000 枚	4.5%

※水道使用量は、昨年度と比べ雨がも多く雑用水への雨水補給が増加したこと、また、植栽への散水も減らしたことに

よる減。

※一般廃棄物は、舞台大道具製作の廃材が増加したことによる増。

※産業廃棄物は、倉庫等の清掃を行ったことによる増。

(c) 情報システムの活用

財団内のネットワークシステムを活用し、関係者への迅速な連絡、スケジュール管理及び供用施設の予約状況の確認を行うことで、財団全体の情報共有化を図り、業務効率を向上させる工夫を行った。

(2) 新国立劇場運営委託(公益財団法人新国立劇場運営財団)

ア 委託契約の状況

31年4月1日付けで31年4月1日から32年3月31日までの現代舞台芸術の公演等及び劇場の管理運営に関する業務委託契約について4,020,888,000円を限度として締結。その後、業務委託契約の限度額を、元年9月10日付けで4,045,938,000円に、2年2月20日付けで4,059,155,000円に、2年2月27日付けで4,061,155,000円に変更した。委託費の確定額は4,061,155,000円である。

イ 委託内容

- ①現代舞台芸術の公演
- ②現代舞台芸術の実演家その他関係者の研修
- ③現代舞台芸術に関して調査研究を行い、資料を収集し、利用に供すること
- ④劇場施設を現代舞台芸術の振興又は普及を目的とする事業その他のための利用に供すること
- ⑤劇場施設の管理運営
- ⑥附帯する業務

ウ 運営に関する協議及び報告の状況

- ①業務委託契約に関する規程の改正を協議
- ②各四半期終了後に受託業務状況報告書を受領
- ③委託期間終了後に受託業務実績報告書を受領
- ④固定資産取得報告書及び不用通知書を受領

エ 運営委託の方針・連絡体制の整備等

運営財団の業務が業務委託契約書に定める事業計画書及び収支計画書に沿った形で実施されていることについて、随時公演等の視察を行い、その際の意見交換や、定期的に提出を受ける受託業務状況報告書により、検証を行っている。また、財団の主要な会議には常に振興会職員が出席するなど、連絡体制の強化に努めている。

オ 給与水準の適正化等

- ・新国立劇場運営財団の職員給与については、振興会職員給与規程に準拠した規程を整備し、適正に執行している。
- ・人事院勧告に基づく振興会の措置に準じ、給与及び手当の改定を行った。

カ 情報開示の推進

- ・公益財団法人新国立劇場運営財団の業務及び財務等に関する情報を開示するため、ホームページにより以下の情報を公開している。
定款、役員名簿、事業報告、収支計算書、正味財産増減計算書、キャッシュ・フロー計算書、貸借対照表、財産目録、事業計画書、収支予算書、目的・事業、組織、調達情報、年報、一般事業主行動計画

キ 効率化状況等

① 委託費の推移

(単位:千円)

年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
金額	3,735,077	3,996,273	4,228,851	4,107,897	4,061,155
前年度比	97.6%	107.0%	105.8%	97.1%	99.2%

② 自己収入の確保等の方策による収支構造の改善

公演事業にかかる支出は入場料収入、寄附金・協賛金収入等で賄っているところであり、それぞれ計画に沿った収入の確保に努めている。入場料収入については公演回数、曜日、開演時間などを適切に設定し、公演内容の充実と効果的な広報宣伝のもと増収を図っている。また賛助会員や協賛企業の獲得に努め、オンライン寄附など多角的な資金獲得に力を入れている。

③ 効率化に関する取組

(a) 随意契約の見直し及び外部委託の推進

令和元年度の外部委託契約 52 件のうち、委託業務 38 件(うち複数年契約 30 件)、物品の製造販売工事等 6 件の合計 44 件について一般競争入札を行っている。このうち、業務の効率化を目的として日本芸術文化振興会と共同で入札を行った契約が 2 件ある。

令和元年度に行った入札及び公募は 19 件(うち複数年契約 7 件)であり、このうち翌年度以降の契約のものが 17 件となっている。なおこの他に日本芸術文化振興会との共同での入札 1 件が振興会の担当により行われた。

(b) 省エネルギー、リサイクルの推進

事項	区分	使用量/処理量	対前年度増減
光熱水量	電気使用量	6,216,491kwh	△ 3.4%
	ガス使用量	6,038 m ³	△ 3.1%
	水道使用量	9,895 m ³	△ 13.4%
廃棄物	一般廃棄物	29,443 kg	△ 18.8%
	再利用廃棄物	28,840 kg	△ 14.8%
	産業廃棄物	25,009 kg	58.9%
ペーパーレス化	コピー用紙使用量	2,555,674 枚	151.0%
	用紙購入枚数	2,523,500 枚	2.0%

※光熱水量は食堂・売店等テナントの使用量を除く。

※水道使用量は、台風等により雨水処理水・中水等が十分に貯留されたことによる減。

※一般廃棄物処理量は、削減努力の成果及び厨芥の水切りを入念に行うよう、レストラン運営事業者に呼びかけていることによる減。

※再利用廃棄物処理量は、事務棟内で模様替えを行った昨年度に比し紙類の排出削減努力をしたことによる減。

※産業廃棄物は、大規模廃棄を行ったことによる増。

※コピー用紙使用量は、複合機を導入したことにより、コピーした枚数に加え、プリントアウトした枚数を含めることとしたことによる増。

※地球温暖化対策においても、省エネルギー対策を実施し、光熱水量については、大きなウェイトを占める地域冷熱(冷水、蒸気)を含め、使用量の節減に努めている。

(c) 情報システムの活用

- 導入済みのクラウドサービスの利用促進により、財団内部における同時編集、ファイル共有、意見収集等の効率化を図った。会議資料としても活用するなど利用が進み、業務の効率化・紙使用量の縮減にも繋がっている。

令和元事業年度評価報告書

第17期（平成31年4月1日から令和2年3月31日まで）

令和2年7月

独立行政法人日本芸術文化振興会

本報告書は、独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会要項第 1 条及び評議員会規則第 1 条第 2 項に基づき、令和 2 年 7 月 28 日に開催された第 53 回評議員会に報告され、審議の結果、適切であると認められ、承認されたものである。

独立行政法人日本芸術文化振興会

独立行政法人日本芸術文化振興会
令和元事業年度評価報告書

令和2年7月

独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会

はじめに

本評価委員会は、独立行政法人日本芸術文化振興会評議員会規則第 8 条の規定に基づき、振興会の業務の運営に関する評価を行うため設置されたものである。

このたび、理事長の諮問を受け、令和元事業年度の業務の実績に関して、厳正かつ客観的な評価を行った。

評価は、前年度に引き続き、振興会が実施した当該年度に係る自己点検評価報告書をもとに、まず各委員が評価意見書の提出を行い、次に振興会からの説明を聴取しながら、合議により最終的な評価を行った。

本評価委員会は、評価結果について、原則として年度計画に定められた項目ごとに取りまとめ、評価報告書として提出するものである。

評価においては、振興会の業務運営をより良いものとするための意見を付しており、次年度以降の各事業の充実及び発展に活用されることを期待する。

評価実施の経緯

第 1 回評価委員会	令和元年 10 月 25 日
第 2 回評価委員会	令和 2 年 5 月 19 日（書面開催）
第 3 回評価委員会	令和 2 年 7 月 3 日
第 4 回評価委員会	令和 2 年 7 月 17 日

令和元事業年度評価報告書 (日本芸術文化振興会評価委員会)

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成 するためにとるべき措置

1 文化芸術活動に対する援助

(1) 概観

- ・助成制度については、3年間の活動を継続して助成する複数年計画支援や実績要件を緩和したことに加え、法人設立から期間の短い団体のみが応募できるステップアップ枠の創設を行い、助成の対象を拡充できたことを評価する。こうした事業の見直しを通して令和2年度の概算要求が認められ、助成金額が増額されたことは評価できる。
- ・助成によって行われた公演等の調査の実施件数は計画値の540件を大きく上回った。また、文化庁から移管された「国際芸術交流支援事業」の国内実施活動について、全件の公演調査を行っており、助成事業評価の向上が図られている。
- ・助成事業の事後評価方法の見直しで助成の適正化が図られており、事業内容に対応した助成事業の更なる充実を図る取組として評価したい。
- ・新たにネットワークミーティングが開催され、日本各地のアーツカウンシル機能を持った組織との連携によるカウンシルの質的向上を図る機会が設けられたことを評価したい。
- ・新型コロナウイルス感染症のため、イベントを中止せざるを得なくなった助成対象団体に対し、臨機応変な救済措置がとられたことは、その団体の負担軽減と文化芸術活動継続にもつながり、高く評価する。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

- ・新型コロナウイルス感染症への対応として、文化芸術団体の活動が速やかに再開できるよう支援体制を整えてもらいたい。
- ・海外のアーツカウンシルについて現地で視察する期間を、「国際芸術交流支援事業」の海外公演が行われる期間に合わせて公演の調査をするなど工夫したい。
- ・アーツカウンシルの存在について、国民的理解は進んでおらず、ネットワークミーティングの内容の公開などを積極的に行うことで、その存在の周知を図るとともに、地域におけるアーツカウンシルとの関係を強化し、文化庁と連携して地域の文化芸術施策推進体制の整備・強化を目指す必要がある。

(3) 自己点検評価に対する意見

・助成制度についての複数年計画支援やステップアップ枠の創設など画期的な進展は A 評価に値する部分もある。助成に関する情報収集や提供、全国 6 会場での相談会の実施、またコロナ禍の救済措置などきめ細かい配慮が着実に実施されており、全体の評定としては B が適切と判断できる。

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

2-〈1〉 伝統芸能の公開

(1) 概観

《全般》

・国立演芸場開場 40 周年、国立文楽劇場開場 35 周年、組踊上演 300 周年の節目を迎え、それぞれ工夫を凝らした企画、公演を実施し、伝統芸能の継承と質の向上を図る振興会の役割が、各部門で着実に果たされ、成果を上げていると評価できる。

・2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け各分野において、精神的に日本の伝統文化の公開に取り組んできた姿勢が見え、舞台内容も充実していた。

《歌舞伎》

・全般的に入場者の達成率が計画値に届かなかったとはいえ、通し狂言での上演は振興会(国立劇場)ならでのことで、単年度だけでの判断で評価はできない。11 月歌舞伎公演での幕見席の実施は、日本博に限定せず、今後の歌舞伎公演につながる新たな観客層確保への試みともいえる。

・成果と評価に高下はあるが総体的には一定以上の成績であったといえる。全体的に入場率が低いことについては、短絡的な自己評価に陥らぬよう、高い見識を持った明察が必要であろう。

・国立劇場が昭和 47 年に通し狂言として復活した『天竺徳兵衛韓噺』を 20 年ぶりに上演したのは、レパートリーの拡充という点で評価できる。

・11 月歌舞伎公演『孤高勇士嬢景清』は、9 月文楽公演『嬢景清八嶋日記』と連携して、同じ演目を歌舞伎と文楽で鑑賞できる国立劇場ならでの企画公演となった。

・公演中止になった 3 月公演の無観客による上演映像を YouTube で 4 月に無料配信し、40 万を超える再生回数になった。これは適切な処置という以上に「英

断」といってもよい対応であった。

《文楽》

- ・全体としては太夫・三味線・人形それぞれの技芸員の努力によって技量の充実・向上が図られ、それが入場者数の達成率に反映されていると評価できる。
- ・国立文楽劇場開場 35 周年記念公演として、大序を復活させた『妹背山婦女庭訓』を通し上演(国立劇場)、復曲や普段上演されない場面も含めて、4月、7月、11月と3公演続けて『仮名手本忠臣蔵』を通し上演(文楽劇場)するなど、国立の劇場として、観客にわかりやすい公演内容の工夫をした。特に『仮名手本忠臣蔵』は、集中的な通し上演と異なり、同人物を別の演じ手が遣い、人形遣いの個性や工夫が際立つ妙味があり、技芸員の多彩な起用を実現できた。
- ・『心中天網島』、『艶容女舞衣』などの世話物と『加賀見山旧錦絵』、『祇園祭礼信仰記』、『菅原伝授手習鑑』などの時代物とをバランスよく配置し、文楽の幅広い見どころや聞きどころを多くの観客に伝えることができた点が評価できる。
- ・9月の『嬢景清八嶋日記』は、11月の歌舞伎上演とタイアップ企画で、これも振興会ならではのことである。
- ・「鍛太夫襲名披露」も地道な努力を続けてきた太夫に光を当て若手・中堅技芸員の励みにつながったことを高く評価する。

《舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能ほか》

- ・特別企画公演「神々の残照」は、舞踊を通して、古典とコンテンポラリー、国境を越えた文化を表現する画期的な公演であった。
- ・舞踊8月「舞の会—京阪の座敷舞」と11月「京舞」は、京・大阪の芸能を連続させた公演で、その真髄の一端を示す優れた企画であった。民俗芸能の7月「祝福芸」、9月「ふるさとの人形芝居」(文楽劇場)は振興会が持つ全国の民俗芸能情報の的確な把握と企画力の高さを示す公演で、民俗芸能の理解に寄与したといえる。
- ・「ふるさとの人形芝居」は国立文楽劇場開場 35 周年記念公演にふさわしい企画であり、「諸国人形めぐり」では人形操りの多様性をわかりやすく示した。「淡路人形芝居」の『衣裳山』も組み込んだ特色のある企画で入場率の計画値を大きく上回った点は評価できる。
- ・10月公演「浮世絵の音風景」はスクリーンを使うなど多彩な趣向を凝らし、観客に東海道の旅情を感じさせ、江戸東京博物館の展示とも連携した独自の企画となった。

《大衆芸能》

- ・定席公演の入場率はほぼ順調に伸び、59.1%にまでなった。
- ・国立演芸場開場 40 周年にあたり、落語・漫才など例年以上のラインナップであったといえる。多くの自主公演で入場率の計画値を上回り、襲名披露や真打昇進披露の公演、演者の持ち時間の長さの工夫などによって成果が出たといえる。
- ・「演芸大にぎわい～東から西から～」 「演芸ワークショップはじめての演芸体験」 「花形演芸会スペシャル～受賞者の会～」 など多彩な企画によって、演芸のおもしろさを伝えることができた点も見逃すことはできない。
- ・「芸術祭寄席～伝統芸能に躍動する女たち～」 は、芸術祭の名にふさわしい質の高い寄席であり、東西の優れた女性演者を要所に登場させ、その存在を紹介する、意義ある公演であった。

《能楽》

- ・国立能楽堂での能・狂言公演の入場率は、全公演ほぼ 100%といえるほどで、企画力と営業力の高さを評価したい。特に毎回のテーマ性、小書の違いによる演出の比較、共通の題材を扱った能と組踊の同時上演、演目と関連した展示、字幕の多言語化などもよく配慮されていた。「ショーケース」も興味深い公演であった。
- ・「親子で楽しむ能」、「親子で楽しむ狂言」、「能楽鑑賞教室」などで将来の観客を養成していく企画を多彩に展開している点も、国立の劇場ならではの企画として評価できる。
- ・国立劇場おきなわとの共催事業、委嘱新作狂言『鮎』の全国展開など地方機関との協力、連携による発信は積極的な姿勢であり、定例公演、鑑賞教室での入場者数の多さとともに高く評価したい。

《組踊等沖縄伝統芸能》

- ・組踊上演 300 周年にあたり、組踊公演の入場者数は全体的に計画値を達成している。その理由として県内自治会などへの積極的な広報、沖縄県の補助事業による団体見学もあり、広報・営業活動が評価できる。
- ・「御冠船踊と組踊『執心鐘入』」、「御冠船踊と組踊『銘苅子』」 は、300 周年の節目に、王朝時代の首里城御庭での舞台や演出の再現を研究公演として劇場の屋外舞台で試みた。古文書「火花方日記」をもとに仕掛け花火の復元を行うことができたことは、組踊を改めて様々な視点から考察する絶好の機会となった。総力をあげて取り組んだ好企画であった。

・企画公演として実施した「アジア・太平洋地域の芸能～昆曲～」のほか、落語や能は、沖縄の人達が平素見ることの少ない芸能で、それに接する機会を設けた試みを評価したい。

《演目の拡充》

・歌舞伎や文楽の珍しい場面の公演は上演時間の制約があるが、令和元年度は上演方法の工夫により、それらを見ることができた。

・沖縄伝統芸能では上演機会の少ない演目への積極的取組、組踊・舞踊などの新作公演が演目拡充を実現しているが、「新作組踊・戯曲大賞」の創設は今後の沖縄伝統芸能の活力向上を図る企画として期待したい。

《青少年等を対象とした公演》

・学生のための鑑賞教室から始まり、青少年にとどまらず社会人、教師、親子、外国人と年を追うごとに対象を広げ、観客層を広げる努力を継続してきた。日本の伝統芸能、理解促進への貢献は高く評価できる。

・能楽の岐阜県関市や宮城県名取市でのワークショップ、フランスでの組踊のワークショップは積極的な取組として評価できる。

《伝統芸能の公開の実施に際しての留意事項(連携協力等)》

・共催や受託による公演、地方自治体等の伝統芸能公演の後援や協力、青少年や外国人を対象とするワークショップはいずれも前年度より実施回数が増加している。特に国立劇場おきなわでの沖縄県・公益財団法人沖縄県文化振興会などとの共催事業は大幅に増えており、こうした地元と連携した企画は、伝統芸能振興だけでなく地域振興を促進する取組としても評価できる。

・各地の文化施設との連携協力も様々な形で行われ、単なる委託ではなく人材交流やイベント開催など工夫を凝らして振興会公演の全国発信が順調に行われている。沖縄の高校生による劇場業務インターンシップも有効である。

《快適な観劇環境の形成》

・各劇場ともロビーなどで季節にあわせた装飾、公演内容に対応した展示など、観客にとっては観劇という特別な場・時に臨む雰囲気づくりが適切に行われている。

・公演内容の理解促進のために、各劇場で工夫を凝らした解説書を作成・販売し、無料の多言語版解説書も配布しているのは、観劇のガイドとして効果的である。

《広報・営業活動の充実》

・団体観劇の促進を図るための営業活動が旅行代理店・ホテル・学校・各種団体などに対し多角的に行われていることは伝統芸能振興への取組として高く評価したい。各劇場の会員向けイベントも数多く開催されており、顧客確保の方策が功を奏している。

・多様なメディアを活用した広報・営業活動の戦略的な取組は高く評価できる。とりわけHPアクセス数は55万件増え、369万件に達した。ウェブサイト、SNS、メールマガジン、インターネット広告などのメディアによるきめ細かな情報発信ができています。

《劇場施設の使用効率の向上等》

・前年度比マイナス5%となっているが、全体としては80%を超えており、使用効率は現状維持が目標となると思われる。アンケート調査を実施することで、外部使用者に対する検証も行われており、適切な措置が講じられている。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

・計画値に達しなかった公演については、企画・立案段階から総合的な広報・営業の戦略を見直し、新たに広告代理店や情報発信メディアの専門家の知恵を借りるなど、別の模索も必要になってきたといえるであろう。

(3) 自己点検評価に対する意見

・各劇場の公演計画と公演結果を中心に振興会の事業を詳細に検証することで適切な自己点検評価が行われており、また国立演芸場開場40周年、国立文楽劇場開場35周年、国立劇場おきなわ組踊上演300周年の節目を迎え、それぞれ工夫を凝らした企画公演を実施することができた点を評価する。評定としてはBが適切と判断できる。

2-〈2〉 現代舞台芸術の公演

(1) 概観

《全般》

・オペラ、バレエ、現代舞踊、演劇の4分野いずれにおいても、5年連続で入場率の実績が計画値を上回った。また、入場率そのものも前年度の89.3%よりは低かったものの85.1%(平成29年度82.9%)と、十分に高い実績を上げた。

・大小三つの空間を生かして、華やかで豪華なオペラやバレエ、新機軸のダンス、

考えさせる演劇とバラエティーに富んだプログラムでいつも賑わいを見せ、日本の現代舞台芸術のレベルを高い水準に引き上げている功績は高く評価する。

- ・青少年にわかりやすい演目でそれぞれのジャンルの魅力を発信し、多彩なイベントや案内書・解説書を作成・配布し、将来の観客を育成する目標を達成できている点を評価する。

《オペラ》

- ・人気作だけではなく、新制作で二本立てや珍しい作品を取り上げるなどレパートリーを増やす試みと、東京文化会館との共同制作、他館との協力連携、藤原歌劇団の参加、地方公演での新国立劇場の存在意義をイメージアップして、積極的に評価する。具体的には、大野和士芸術監督のもと、演出力のある新制作オペラを相次いで発表、優れた若手日本人歌手の出現、新国立劇場合唱団の健闘、新解釈『トゥーランドット』の全国公演、『ドン・パスクワレ』の制作による新国立劇場のレパートリー化、『蝶々夫人』のタイトルロールをはじめとする主要な役への日本人歌手の起用などが挙げられる。

《バレエ》

- ・入場者数目標の達成率がほぼ100%を超えており、公演企画はバレエ愛好者の支持を得ていると判断できる。海外の著名振付家による作品だけではなく、大原永子芸術監督の取組で、日本人による現代舞台芸術の向上が図られている。

- ・「ニューイヤーバレエ」の『DGV』日本初演や、新国立劇場バレエ団の『マノン』など、大原監督の目指すドラマチックバレエを象徴する上質な公演であった。

- ・『くるみ割り人形』のクリスマスシーズン上演は親子観劇にもふさわしく、是非継続させたい。バレエ団の力量も上がっている。

- ・こどものためのバレエ劇場『白鳥の湖』は、バレエ観客としてのファミリー層を定着させることに十分な実績を上げた。

《現代舞踊》

- ・入場率が前年度の84.2%から89.6%へ伸び、4年連続80%を上回った。これは日本にコンテンポラリー・ダンスが定着した証である。

- ・『NINJA』は昨年の『サーカス』に続く好企画で、全国7か所での公演展開もダンスブームの中、多くの若者に「本物」を体感してもらう良い取組であった。

- ・『ベートーヴェン・ソナタ』を新国立劇場バレエ団によって再演することでレパートリーとしての定着を図っていることは、バレエ団の実力向上に寄与する

企画として評価したい。

《演劇》

・7作品全て新作、日本初演、新訳のいずれかであり、清新な舞台を創ろうとする意欲を感じる。計画達成率も111.0%と好成績を記録した。『オレスティア』は、海外で上演されたばかりの大作を、昨年の『1984』に続き、いち早く取り上げた。また、いわゆる小劇場演劇の少年王者館を新国立劇場に招いた『1001』は91.0%の高入場率となり、現代日本演劇の芸術性を多くの観客に知らしめる意義があった。シリーズ「ことぜん・個と全」が出色で、二人芝居『タージマハルの衛兵』が国際演劇評論家協会日本支部のアンケートで2019年第10位(『シアターアーツ』64, 2020春)となり、『あの出来事』を演出した瀬戸山美咲が芸術選奨新人賞を受けた。

・初の試みであるフルオーディションのチェーホフ『かもめ』、新作『骨と十字架』、『どん底』の新訳など何れも小川絵梨子芸術監督の個性を感じる作品群であった。

《青少年等を対象とした公演》

・オペラ・バレエは青少年にもよく知られた作品を採用し、また、現代舞踊は定評のある作品を上演することで、着実に青少年への現代舞台芸術の普及が図られていると評価できる。また、オペラ・バレエは共催あるいは受託公演として京都、大阪、長野での公演も行われ、新国立劇場に来場が難しい地方の観客への普及・理解促進が図られている。

・こどものためのバレエ劇場『白鳥の湖』は、時間を縮小し、ナレーションを入れ、音楽も録音ではあるが、一流のバレエダンサーによる「こどもに本物を見せる」趣旨に叶った公演であった。現代舞踊『NINJA』もこどもたちに舞踊の多様性を伝える公演になった。

《現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項(連携協力等)》

・芸術系の大学との連携・協力に関する協定締結、観劇機会の幅広い提供、全国各地の文化施設における積極的な公演実施は、現代舞台芸術に対する興味や関心を喚起する機会となっており、評価したい。

・オペラ、演劇ともに、海外の際立った芸術団体と連携し、創作活動を実行できたことを高く評価したい。「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」により、地域の公立文化施設との技術的交流が実施されたことも評価したい。

《快適な観劇環境の形成》

- ・オペラでは全ての作品に字幕がつくようになり、初心者がオペラになじみやすい環境が作られた。演劇では、『かもめ』『タージマハルの衛兵』『あの出来事』で視覚・聴覚障害者への観劇サポートを行ったことは、全ての国民を観客として受け入れるという姿勢と捉えて特筆したい。
- ・観劇の記念となるイベントを開催するなど、一般の観客が親しみやすい演劇環境を作るための工夫を行っている点を評価したい。

《広報・営業活動の充実》

- ・多彩なマスコミ、メディアと連携・協力して、メディアミックス的な広報に尽力している点は評価できる。
- ・SNS での情報発信や、ウェブサイトの充実など、21 世紀の広報営業活動はネット社会を中心にまわっているが、やはり、口コミの力も大きく、クラブ・ジ・アトレ会員を含め、劇場を訪れる観客との交流も重要な要素である。
- ・新国立劇場の劇場紹介動画・英語版のリニューアルは、日本の伝統芸能ばかりではなく、現代舞台芸術にも海外客を誘致するための一助となるであろう。

《劇場施設の使用効率の向上等》

- ・新国立劇場の劇場稼働率が極めて高く、利用促進を図るための取組を評価する。
- ・国立劇場おきなわと新国立劇場研修所との連携準備が行われたことは、今後の劇場間連携を進める振興会ならではの取組で、実現が期待される。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

- ・現代舞踊やコンテンポラリー・ダンスで新国立劇場オリジナル作品の公演が全国に展開できることを期待したい。
- ・高校生など青少年等を対象とした事業に、演劇作品がなかった。現代演劇へ中高生を導き入れる方策も検討したい。

(3) 自己点検評価に対する意見

- ・現代舞台芸術の各分野でそれぞれの特性を生かしながら、その振興への取組が着実に進んでおり、また、台風 19 号や新型コロナウイルス感染症等による公演中止という状況の中でも、分野ごとの計画値を上回ることができ、それぞれの公演において高い評価を得ることができた。評定としては B が適切と判断できる。

2-〈3〉 日本博の運営・実施

(1) 概観

・「日本博」を通して日本の文化・芸術の魅力を国内外に発信していく取組の事務局として、多岐にわたる団体・施設・企業等と連携・協力し戦略的なプロモーションを遂行した。主催・共催型プロジェクトの実施、参画型プロジェクトの認証など、推進できたことを評価する。

・振興会の提案事業についても、三度にわたる提案受付と採択により、日本博の多面的な発信が実現できていると評価できる。また、認証件数も多くなっており、全国各地の多くの文化事業との連携が進んでいる。

・有識者や文化庁などの他機関と協働し、日本文化紹介のためのプラットフォームを構成しようとする努力を評価したい。

・ポスターやメディアを利用したの広報に力を入れていたと感じる。市中でも日本博イメージを広く伝えようとしていた。主催・共催型プロジェクト採択も順調で評価できる。

・2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けて、日本の芸術文化を紹介する良い機会になっている。伝統芸能、現代舞台芸術に加え、21世紀の「日本の美」を世界に発信する機会としてほしい。

・主催・共催型プロジェクト「KogeiDining」は、工芸と自然・食のコラボレーションを実現し、ジャンルを横断して日本文化の魅力をアピールする好企画となった。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

・前例もなく、急な取組であったため、既存の企画の組み合わせとなることは当然だが、日本文化の特質を分かりやすく見せるため、軸となる観点や概念を立てれば、さらに素晴らしい。文化史や美学の研究者などの協力がほしい。

・日本博事業は時限的事業であり、その成果が今後どのように継承できるかなどの展望が必要である。

(3) 自己点検評価に対する意見

・通常公演のなかに埋没してしまう感もあり「日本博」と一般の人が認識できない面もあったが、各地からの多くの提案を適切に採択するなど日本博事務局として、膨大な事業を短期間のうちに計画・実施することできたことを高く評価する。実験的な企画やイベントを実施することができた点も評価できる。評定としてはAが適切と判断できる。

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家等その他の関係者の研修

3-(1) 伝統芸能の伝承者の養成

(1) 概観

- ・我が国の伝統芸能の維持発展のために欠かせないのが後継者の確保と人材育成。半世紀にわたる振興会の努力は、大きく実を結んでいるが、少子化が進む中で、養成制度の維持はますます難しい。そのような状況でも募集方法に工夫をこらし、人材確保と養成に努力し続けている姿勢を高く評価したい。
- ・研修生を募集した4コース全てに応募があり、令和2年度に開講できることになったのは、研修生の募集に関する広報の成果として評価できる。
- ・伝統芸能各分野で研修生としての合格者があり、養成事業についても例年どおり多くの実技指導・講義が行われ、振興会ならではの伝承者養成が着実に進んでいる。なかでも組踊については定員の2倍に近い応募者があり、国立劇場おきなわでの研修が、演技者としてステータスとなっている。歌舞伎俳優の研修生については、隔年募集を毎年募集にして研修生確保にあたったのは適切であった。
- ・研修生の発表会が一般公開で行われるとともに、技量のステップアップを図る「稚魚の会」など、発表会は好評を博しており、振興会の役割の周知も進んでいる。また、能楽と組踊については研修修了者による全国各地でのワークショップが積極的に行われていて、これが実力向上にも役立っていると判断できる。
- ・伝統芸能の世界では、成長してから研修所で芸を学び、プロを目指す人は、貴重な存在で、大切にしなければならない人材である。振興会が長年、伝承者の育成と安定的輩出の導き手であることは特筆すべきで、今後も期待したい。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

- ・若者たちの懸念は、未知の世界での自己能力への不安と、修了後の生活維持ができるかということに尽きる。才能の広げ方のノウハウや成功例、都会での生活へのサポート内容など、きめ細かいガイドを含めた説明会、見学会を希望したい。
- ・能楽や組踊で実施されている研修修了者を中心としたワークショップを他の分野でも開催し、研修生募集の機会とすることも検討すべきであろう。

(3) 自己点検評価に対する意見

- ・歌舞伎俳優コースの毎年の募集や、竹本、鳴物などの研修生確保等、研修制度を維持できていることからA評価に値する部分もある。研修生への実技指導・講義など着実に進められ、既成者も含めた発表会が開催され、また、研修修了者による積極的なワークショップ開催があり、全体の評定としてはBが適切と判断

できる。

3-(2) 現代舞台芸術の実演家等の研修

(1) 概観

・研修者数は、ほぼ年度計画どおりであり、授業内容も実技を中心に充実した内容で、振興会ならではの取組が着実に進んでいる。演劇研修所では兵庫県や宮城県でも説明会、選考試験が行われており、募集活動も積極的である。

・当年度も引き続き、オペラ研修所及びバレエ研修所で ANA スカラシップによる海外研修を実施できたことは、外部資金の活用という点で評価したい。また、演劇研修所が日英演劇アカデミー国際交流プログラムで、マンチェスター・メトロポリタン演劇学校と『怪物/The Monster』を共同創作し上演できたのは、若い俳優たちにとって将来の財産となるであろう。

・バレエ、オペラ、演劇の各分野において振興会ならではの充実した研修が評価できる。その成果で、修了生の活躍はもとより、現役研修生も頭角を現すなど、大いに存在価値を高め、その成果を上げていることを評価したい。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

・演劇研修説明会を兵庫、宮城で実施できたように、地方公演の機会に、現代舞台芸術全般の研修制度の魅力を PR できるよう、門戸をますます広げてもらいたい。

・公演制作者、舞台技術者の研修受け入れ、外部研修協力も行われているが、これは劇場等の運営や舞台技術にとり重要で、今後の制度化に向けた検討が必要である。

(3) 自己点検評価に対する意見

・盲学校での「お話鑑賞会」(演劇研修生)など、地道な活動も含め、それぞれの研修が実り多く A 評価とも思われる部分もある。研修生の受入と組織的な実技指導・講義などとともに、成果発表会も開催され、振興会ならではの現代舞台芸術の継承者育成が着実に進んでいる。全体の評定としては B が適切と判断できる。

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

4-(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

(1) 概観

・伝統芸能の継承と振興には、伝統芸能に関する過去・現在の調査研究、資料収集とその刊行は必須なことで、振興会ならではの業務として高く評価できる。

・各劇場の図書室利用、ウェブでのデジタルコンテンツの利用数も多く、伝統芸能情報館や資料展示室での展示、他の施設での展覧会への協力も活発に行われ、資料も十分に活用されている。

・公演にまつわる資料だけでなく、散逸する史料・文献など諸資料の収集や調査、研究を重ね、出版、ウェブ公開など、これまでの蓄積に加え、改訂版の取組も積極的で、「緻密な」「役に立つ」「生きた」形での事業成果は高く評価される。

・上演資料集については、上演年表をPDFでウェブ公開し、事項別に検索できるようにしたことも注目できる。また、「演芸資料選書」、「未翻刻戯曲集」、「冊封琉球全図」、「『火花方日記』の研究」を刊行するなど、継続的な調査活動の成果を公開し、伝統芸能の研究と普及のために広く活用されている点を高く評価できる。

・国立能楽堂特別展「能狂言絵コレクション」は、ギャラリートークも含め貴重な図録刊行であった。国立文楽劇場開場35周年特別企画展示図録として刊行された「紋下の家」も高く評価する。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

・上演資料集や古文献のデジタルアーカイブ化と公開を進めてほしい。古文献・古典籍のデジタル公開は、日本は遅れており、海外からの要望は高い。

(3) 自己点検評価に対する意見

・資料収集、調査研究、記録・資料刊行は着実に進められており、「歌舞伎俳優名跡便覧」や「紋下の家」図録など、専門家だけでなく伝統芸能を愛好する一般の人々にも喜ばれる刊行である。各館での資料展示、ウェブ利用の資料公開と利用促進など、他の機関では行い得ない振興会ならではの幅広い事業展開となっており、評定としてはAが適切と判断できる。

4-(2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

(1) 概観

- ・演劇、オペラの講座などで、調査研究成果を観客のために役立てる動きが進んでいる。札幌、富山の地方公演、関連講座、ロームシアター京都や東京スカイツリーでの展示も公演の充実につながった事業である。
- ・民間出版社と連携した戯曲出版、劇場での27公演の映像・音声・写真の記録が行われており、独自の公演資料の集積が進んでいることは評価できる。公開講座、ギャラリー・プロジェクト、シアタートーク、新制作オペラについての講座といった現代舞台芸術に関する情報、知識提供も活発に行われている。
- ・「初台アート・ロフト」は、衣裳や歌劇『アイダ』の舞台美術の一部を展示し、興味を惹かれる内容であった。公演記録のデータベース作成など、記録写真をウェブサイトで公開し、展示でも活用している。公演記録映像もメディアでの放映に提供し、台中国立歌劇院小劇場で上映するなど、公開・上映の機会を作っている点も評価できる。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

- ・新国立劇場は、現代舞台芸術の大きな拠点であることからいえば、日本における現代舞台芸術に関する情報・資料収集が適切に行われているかが気に掛かる。自館だけでなく、国内の他の現代舞台芸術に関する調査研究、幅広い情報・資料収集とその刊行・公開を行う体制を整えてほしい。
- ・舞台美術センターは、大いに地域貢献してきたが、普及活動は限界が来ているので、見直しの時期ではないか。

(3) 自己点検評価に対する意見

- ・バレエの基礎練習を学べるクラスレッスン見学会やワークショップなど、興味を喚起させる試みの継続も順調で、現代舞台芸術に関する情報、知識、魅力提供が積極的に行われていることから、評定としてはBが適切と判断できる。

Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

(1) 概観

- ・給与水準に関しては、職員の学歴や専門性を考慮し、100以上のラスパイレス指数を維持することが優れた人材の確保につながる。若年層を対象に0.1%の俸給表水準の引き上げを行ったことは、人事院勧告に基づいた民間給与との格差

是正を目的としたものであり、適切な措置として評価したい。

- ・外部有識者を含めた日本芸術文化振興会契約監視委員会による定期的な点検と報告は契約業務等の適正化を図る措置として評価できる。
- ・新元号への対応、消費税率引き上げ、食堂業者の撤退など、変更事案が多く、多難な年度であったが、日本博や再整備事業への組織づくり、省エネ対策、リサイクル、廃棄物減量化など積極的に取り組んでいる。
- ・職員への情報セキュリティ教育の徹底なども含め順当な成果を遂げている。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止なども目的として、情報化を推進し、本格的なペーパーレス化を検討する時期に至っている。
- ・一般管理費については前年度比 3%の削減が図られているが、業務運営の効率化は、一般管理費削減だけでは限界があるので、従前に行ってきた基金・補助金の採択期間の短縮化などのような、業務手続きの簡略化を進めることを検討すべきと思われる。

(3) 自己点検評価に対する意見

- ・公平性を保つ組織づくりを万全にし、業務運営の効率化を図るために具体的な計画値を設定して、全館で取り組んでいる。評定としては B が適切と判断できる。

Ⅲ 予算、収支計画及び資金計画

(1) 概観

- ・予算額に対し公演事業収入、公演受託事業収入に 3 億 3000 万円ほどの減少が生じたが、消費税率引き上げの影響と新型コロナウイルス感染症の対策措置を斟酌して決算見込値を見れば、当初予算額は概ね妥当であったと評価できる。
- ・公演事業における入場料収入の落ち込みは打撃であるが、経営努力によって、令和元年度は収支のさらなる悪化を防いだ。消費税率引き上げや新型コロナウイルス感染症によって、今後の悪化が予想される中で、対応できる組織力と収入源を確保し、危機を克服してほしい。
- ・基金の管理運用については、これまでの利率を保持していた有価証券の満期によって、ごくわずかに下がったものの、低金利時代にもかかわらず、前年度とほぼ同額の 11 億円超を確保した。資金の規模を生かし、安定した運用の継続を期待したい。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

- ・今年度の一般管理費増の主な要因は人件費の退職手当であるが、業務内容の見直しなどを行って、一般管理費の削減対策を講じるべきであろう。
- ・今後、入場料収入の増加や寄附金の上積みなどが、より困難な情勢になっている。具体的な公演内容や予算上の工夫によって、質を落とすことのない公演経費の見直しが必要であろう。
- ・消費税率引き上げ後の営業見直しのなかで、顧客とのつながりの維持や、早めの案内など、コミュニケーションの大切さが再認識されたが、国立劇場の主な顧客年齢を考えると、SNS 世代とは違う従来の営業スタイルの維持も重要である。

(3) 自己点検評価に対する意見

- ・様々な工夫で経費削減を模索し、健全な財政状態を維持できている。消費税率引き上げ、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための公演中止措置があったが、予算、決算の額は大きな差を生ずることなく、予算・収支計画に関しては妥当であったと判断でき、評定としてはBが適切と判断できる。

IV その他業務運営に関する重要事項

(1) 概観

- ・災害時の緊急事態に備えてのリスク管理委員会、内部統制に係る取組などを審議する内部統制委員会、また「日本芸術文化振興会新型コロナウイルス感染症対策室」の設置など、様々な業務の運営に関する取組が実施されたことを評価する。
- ・国立劇場再整備についてプロジェクトチームで方向性を決定し、国立劇場再整備基本計画を策定できたことは評価できる。特に部局を横断する形の、若手職員による提言プロジェクトで議論したことは振興会の未来を展望する上で効果的であったと考える。
- ・職場環境について、メンター研修を継続して実施していることは、働きやすい職場環境の構築やパワーハラスメントの防止に有益であると思われる。
- ・国立劇場おきなわ運営委託、新国立劇場運営委託については、それぞれの運営に関する協議、報告が行われており、振興会との一体化が図られていると評価できる。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

- ・情報セキュリティ対策は講じられているが、事業活動に必須なものとして、その位置づけをさらに明確にする必要がある。

・老朽化が心配される国立劇場、国立演芸場などの施設の整備計画が、安心安全、快適な劇場環境維持のためにも、重要な案件として国の施策に速やかに組み込まれるよう期待する。また、人事に関しては適材適所の配置と同時に、職員のメンタル不全対策も怠らないよう願う。

(3) 自己点検評価に対する意見

・外部意見も採用しながら堅実に振興会の幅広い業務運営を全うしている。また、内部統制の充実・強化と外部有識者による各段階での点検評価が行われ、計画的な施設・設備整備も進むなど、評定としてはBが適切と判断できる。

令和元年度独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会 委員名簿
(任期：令和元年7月1日～令和2年7月31日)

委員長 葛西聖司 (古典芸能解説者)

委員長代理 太田耕人 (京都教育大学長)

委員 尾内正道 (公認会計士)

委員 小川直之 (國學院大學教授)

委員 上村以和於 (演劇評論家)

委員 山田和人 (同志社大学教授)

委員 山田美也子 (文化ジャーナリスト・エッセイスト)

独立行政法人日本芸術文化振興会評議員会規則

平成15年10月31日

改正 平成21年 3月27日

評議員会決定

第1章 審議事項

第1条 評議員会は独立行政法人日本芸術文化振興会法第12条の規定に基づき理事長の諮問に応じ、独立行政法人日本芸術文化振興会（以下「振興会」という。）の業務の運営に関する重要事項を審議する。

2 前項の審議事項には、振興会の業務の運営に関する評価を含むものとする。

第2章 議事

第2条 評議員会に議長を置き、評議員の互選で定める。

第3条 議長は、会議の議事を整理する。

第4条 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名した評議員が議長の職務を代理する。

第5条 評議員会は、評議員の過半数の出席がなければ会議を開き、議決することができない。

第6条 評議員会の議事は、出席評議員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

第7条 評議員会に出席することのできない評議員は、書面をもって票決をなし、又は他の評議員に票決を委任することができる。この場合は、出席とみなす。

第3章 評価委員会

第8条 第1条第2項に定める評価を行うため、評議員会に評価委員会を置く。

2 評価委員会の人数及び任期等は理事長が定める。

第4章 規則の改正

第9条 この規則を改正等しようとするときは、評議員会において評議員の3分の2以上の同意を得なければならない。

第10条 評議員会の事務は、総務企画部総務課において処理する。

附 則

この規則は、平成15年10月31日から施行する。

附 則（平成21年3月27日評議員会決定）

この規則は、平成21年3月27日から施行し、平成21年4月1日から適用する。

独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会要項

平成15年10月31日

改正 平成16年 4月 1日

改正 平成17年 3月16日

改正 平成20年 6月19日

改正 平成21年 4月 1日

独立行政法人日本芸術文化振興会理事長裁定

第1条 評議員会に置かれる評価委員会（以下「評価委員会」という。）は、独立行政法人日本芸術文化振興会（以下「振興会」という。）の業務の運営に関する評価を行い、その結果を評議員会に報告する。

第2条 評価委員会は、9人以内の評価委員（以下「委員」という。）で組織する。

第3条 委員は、振興会の業務の運営に関する評価に必要な学識経験を有する者のうちから、理事長が任命する。

第4条 委員の任期は、1年とし、7月1日に委嘱することを常例とする。ただし、欠員の補充による委員の任期は、現任者の残任期間とする。

2 委員は再任を妨げない。

第5条 評価委員会に委員長を置き、委員の互選で定める。

第6条 委員長は、会議の議事を整理する。

第7条 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員が委員長の職務を代理する。

第8条 評価委員会は、委員の過半数の出席がなければ会議を開き、議決することができない。

第9条 評価委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

第10条 評価委員会に出席することのできない委員は、書面をもって票決をなし、又は他の委員に票決を委任することができる。この場合は、出席とみなす。

第11条 評価委員会の事務は、総務企画部計画課において処理する。

附 則

1 この要項は、平成15年10月31日から施行する。

2 この要項の施行後最初に任命された委員の任期は、第4条の規定にかかわらず、平成17年9月30日までとする。

附 則

この要項は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成17年3月31日から施行する。

附 則

1 この要項は、平成20年7月1日から施行する。

2 この要項による改正後最初に再任される委員の任期は、第4条の規定にかかわらず、平成21年6月30日までとする。

附 則

この要項は、平成21年4月1日から施行する。

独立行政法人日本芸術文化振興会

令和元事業年度 業務実績報告書

令和2年7月28日発行

発行：独立行政法人日本芸術文化振興会（Japan Arts Council）

編集：総務企画部 計画課

〒102-8656 東京都千代田区隼町4番1号

TEL：03-3265-7411（代表） / FAX：03-3265-8782

<http://www.ntj.jac.go.jp/>